

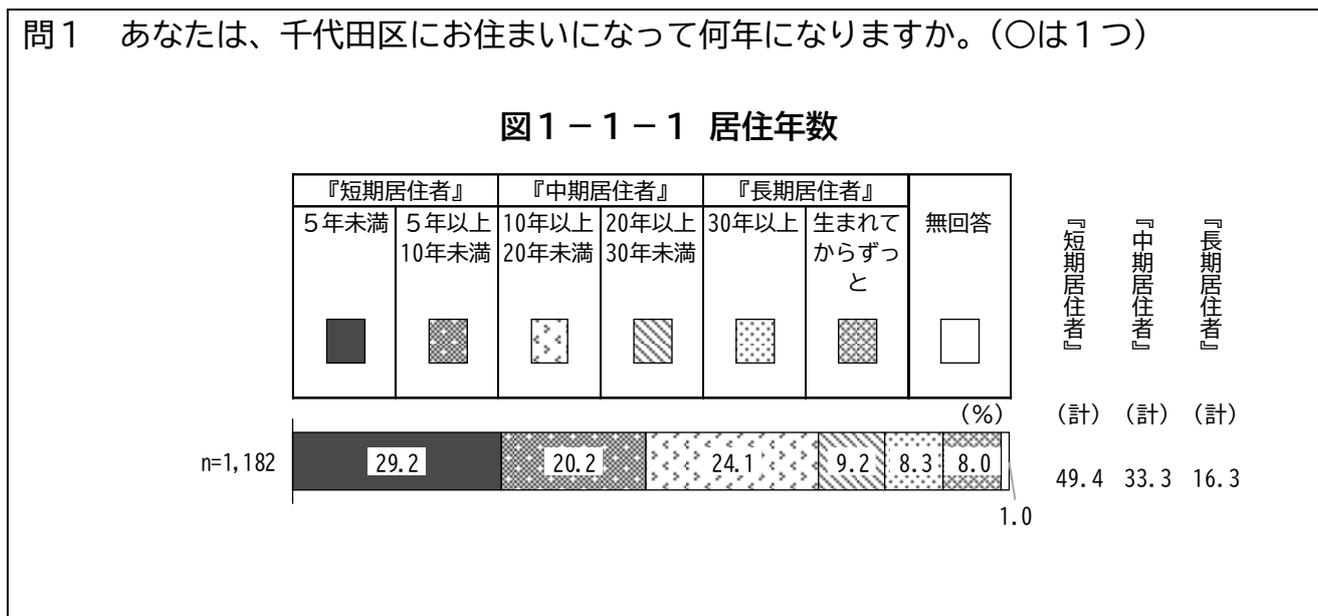
Ⅲ 調査結果の分析

III 調査結果の分析

1. 区民の定住性

(1) 居住年数

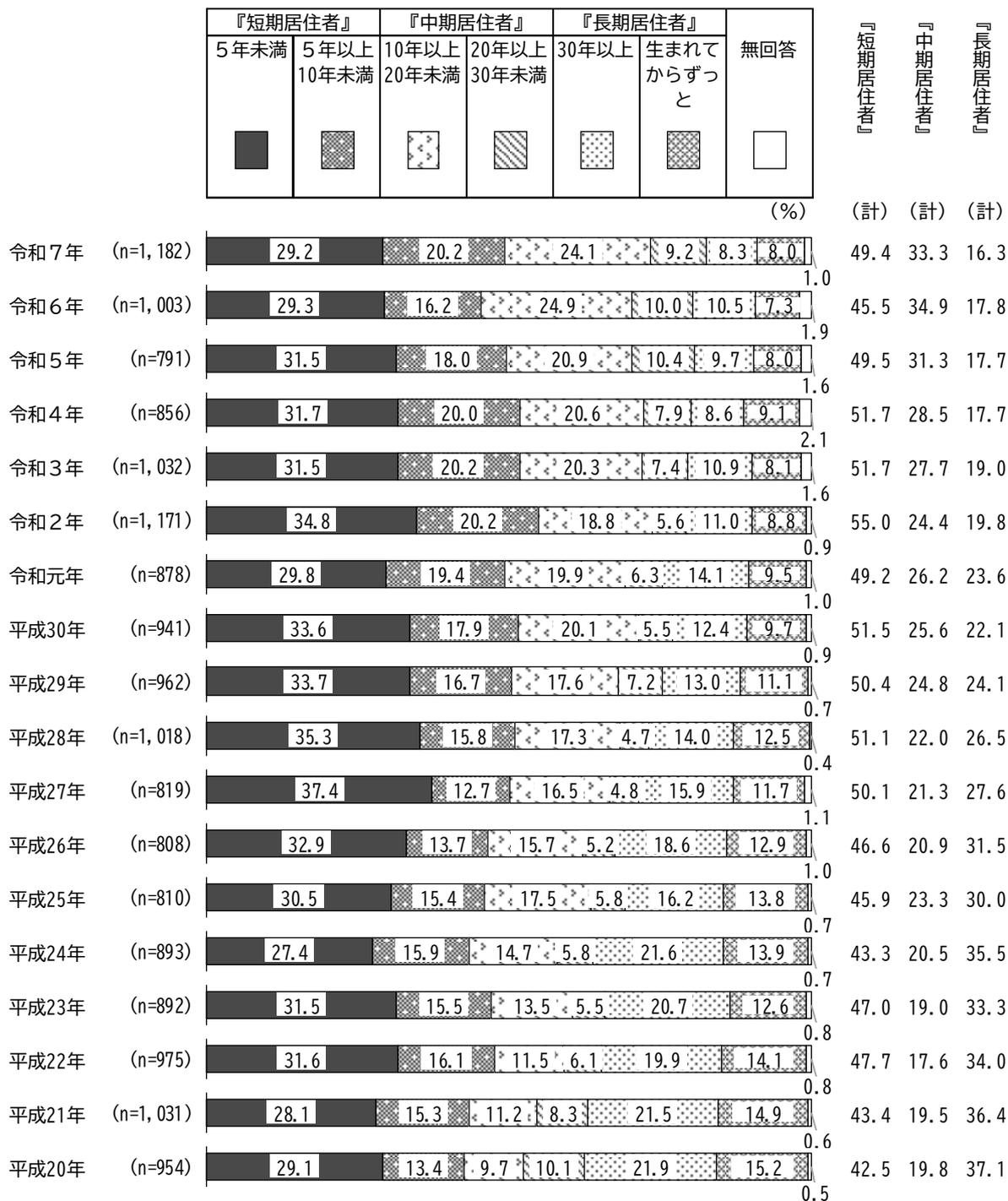
◇「5年未満」が3割弱



居住年数について聞いたところ、「5年未満」(29.2%)が3割弱と最も高く、これに「5年以上10年未満」(20.2%)を合わせた『短期居住者』(49.4%)は5割弱となっている。次いで「10年以上20年未満」(24.1%)が2割台半ば近くと高くなっている。また、「30年以上」(8.3%)と「生まれてからずっと」(8.0%)を合わせた『長期居住者』(16.3%)は1割台半ばを超えている。(図1-1-1)

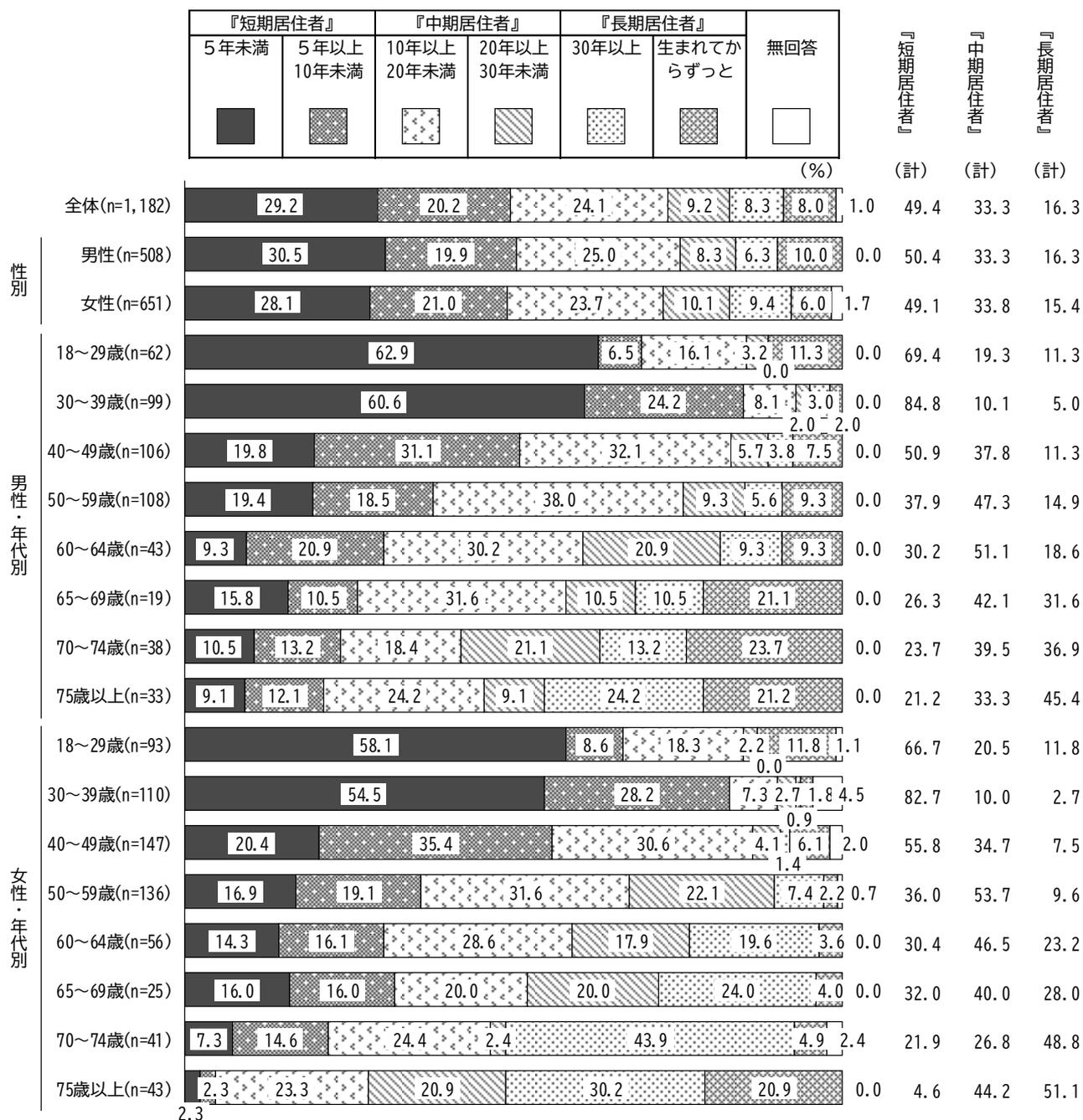
経年比較でみると、『中期居住者』は令和2年度から増加傾向がみられたが、令和7年度は僅かに減少している。(図1-1-2)

図1-1-2 居住年数（経年比較）



性・年代別にみると、『短期居住者』は男性30～39歳(84.8%)が8割台半ば近くと最も高く、次いで女性30～39歳(82.7%)が8割強、男性18～29歳(69.4%)が7割弱の順となっている。『中期居住者』は女性50～59歳(53.7%)が5割台半ば近くと最も高く、男性60～64歳(51.1%)も5割強となっている。『長期居住者』は女性75歳以上(51.1%)が5割強と最も高く、女性70～74歳(48.8%)で5割近く、男性75歳以上(45.4%)が4割台半ばと高くなっている。(図1-1-3)

図1-1-3 居住年数(性・年代別)



I 調査の概要

II 調査結果の要約

III 調査結果の分析

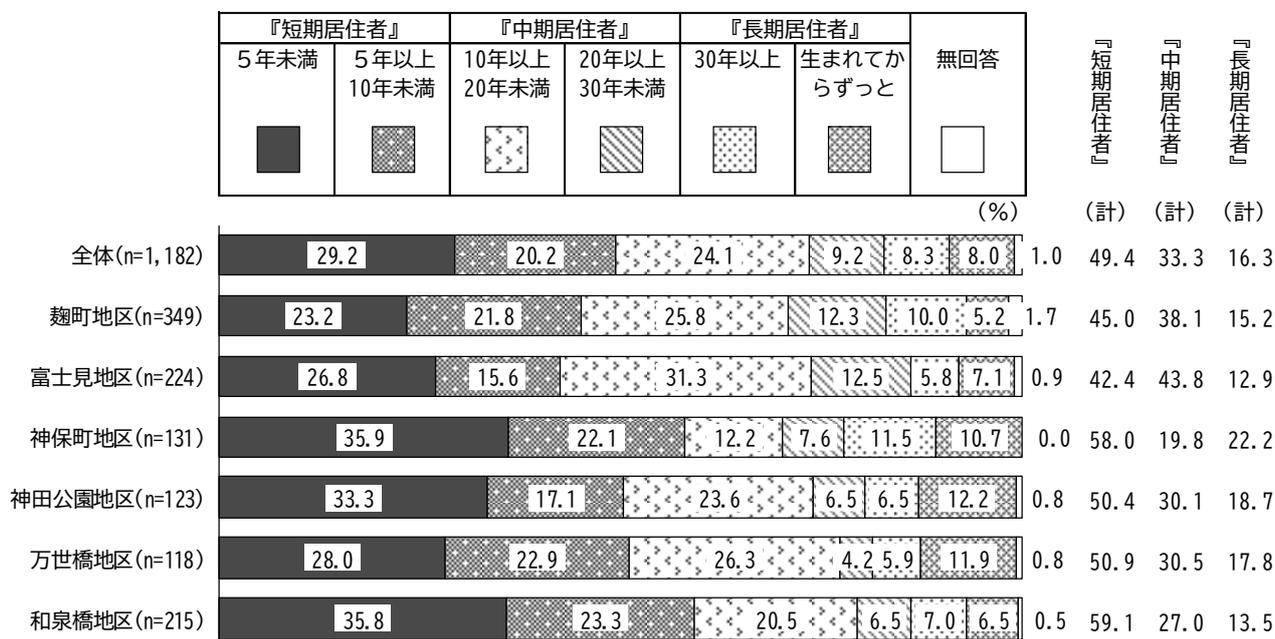
IV 調査結果の数表

V 調査票

地区別にみると、『短期居住者』は和泉橋地区(59.1%)、『中期居住者』は富士見地区(43.8%)、『長期居住者』は神保町地区(22.2%)で、それぞれ高い割合となっている。

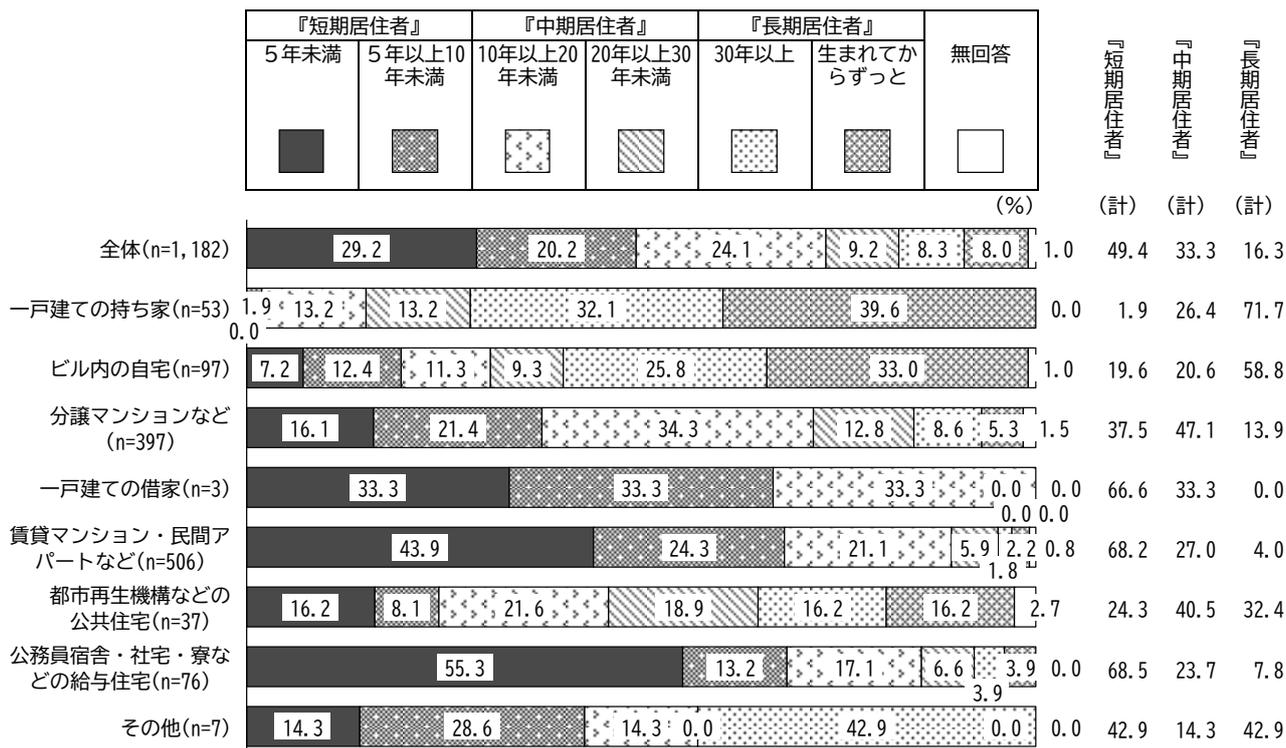
(図1-1-4)

図1-1-4 居住年数(地区別)



住居形態別にみると、『短期居住者』は公務員宿舎・社宅・寮などの給与住宅(68.5%)と賃貸マンション・民間アパートなど(68.2%)が7割近くと高くなっている。一方、『長期居住者』は一戸建ての持ち家(71.7%)が7割強、ビル内の自宅(ビルの所有者)(58.8%)が6割近くと高くなっている。(図1-1-5)

図1-1-5 居住年数(住居形態別)

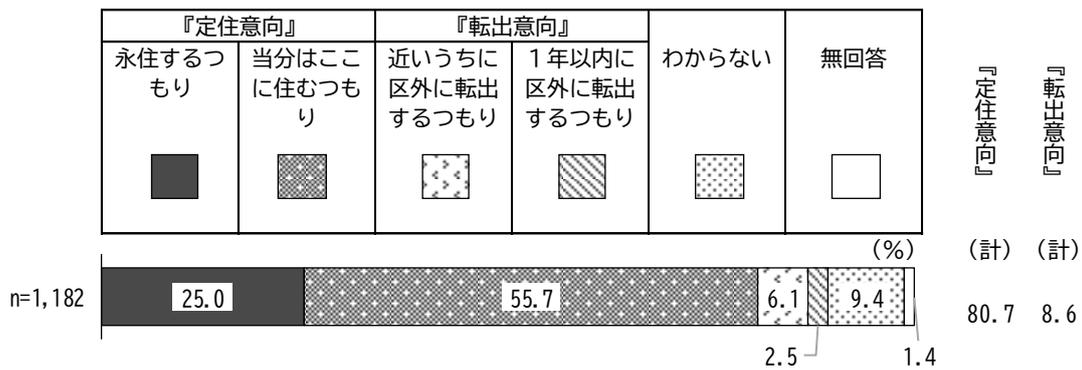


(2) 定住意向

◇「当分はここに住むつもり」が5割台半ば

問2 あなたは、これからも千代田区にお住まいになりますか。(○は1つ)

図1-2-1 定住意向



定住意向について聞いたところ、「当分はここに住むつもり」(55.7%)が5割台半ばと最も高く、これに「永住するつもり」(25.0%)を合わせた『定住意向』(80.7%)は約8割となっている。一方で、「近いうちに区外に転出するつもり」(6.1%)と「1年以内に区外に転出するつもり」(2.5%)を合わせた『転出意向』(8.6%)は1割未満となっている。

(図1-2-1)

経年比較でみると、『定住意向』は平成20年以降、僅かに減少傾向にある。『定住意向』のうち「永住するつもり」は概ね減少傾向で、一方「当分はここに住むつもり」は概ね増加傾向にある。(図1-2-2、図1-2-3)

I 調査の概要

II 調査結果の要約

III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

V 調査票

図1-2-2 定住意向 (経年比較)

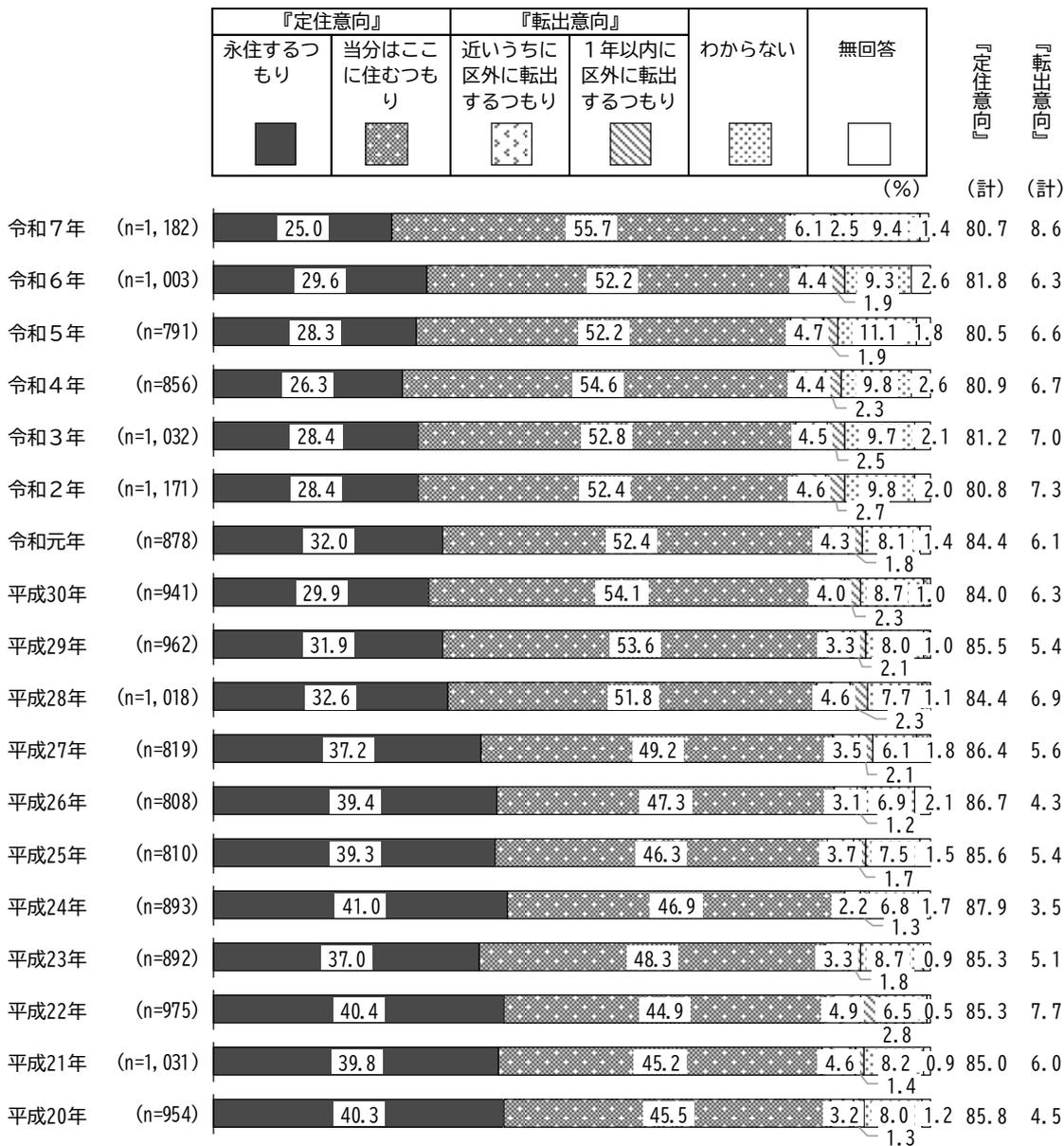
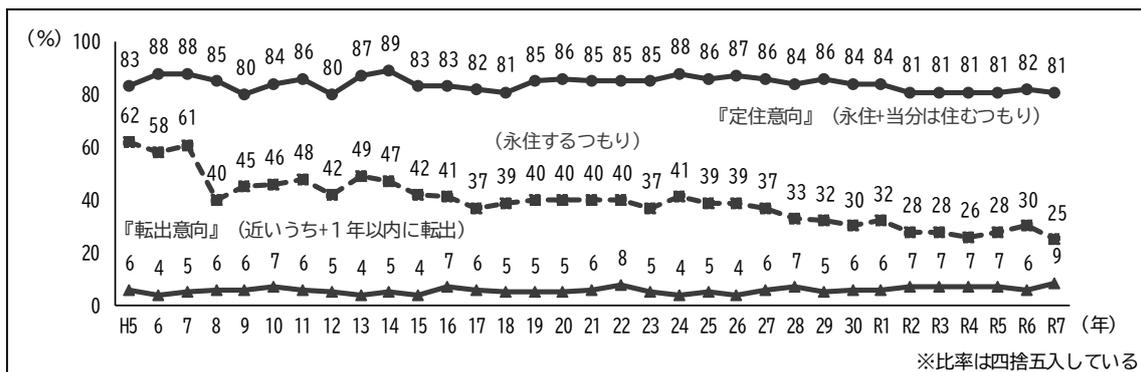
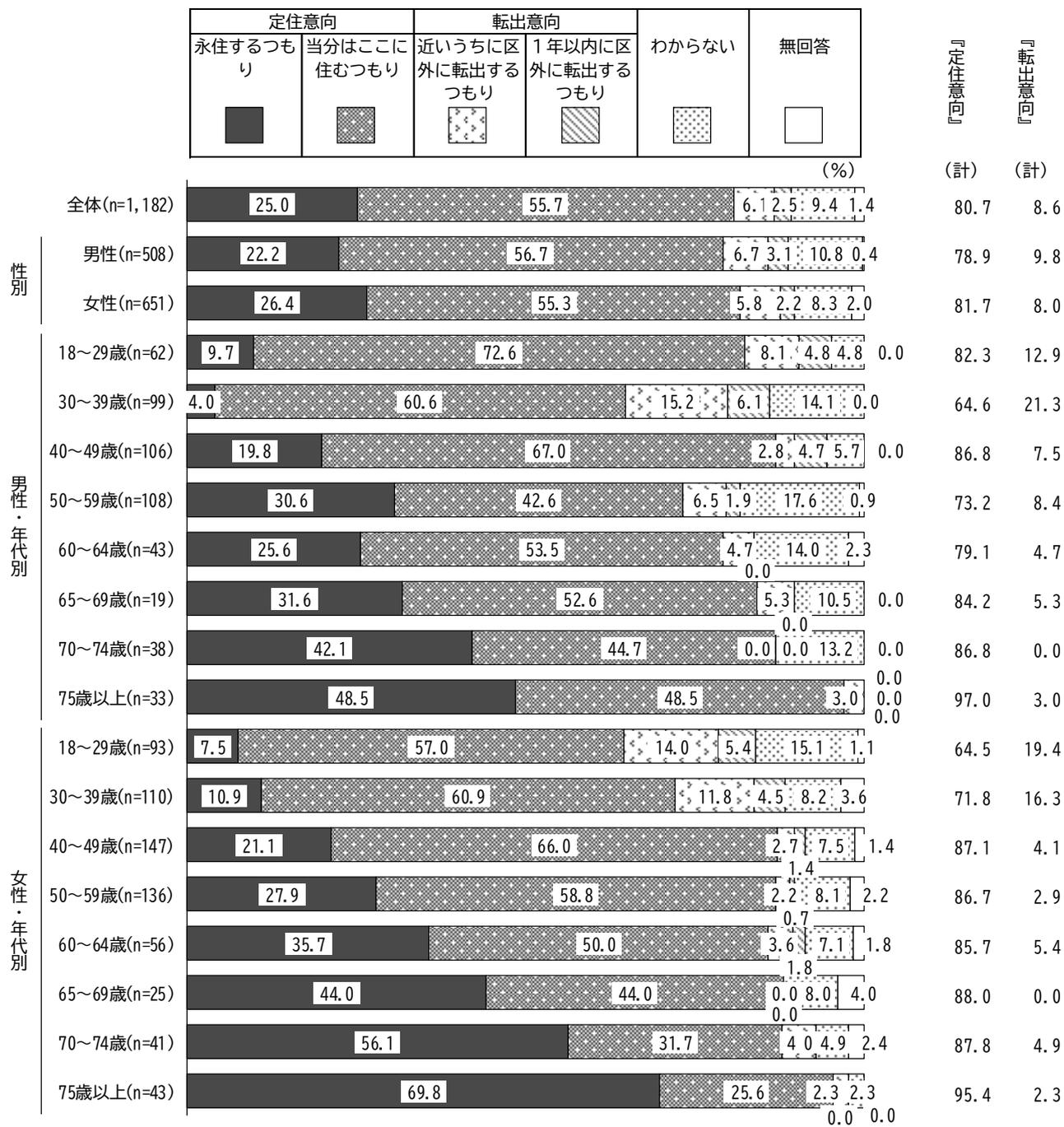


図1-2-3 定住意向 (経年比較)



性・年代別にみると、男性・女性いずれの年代でも『定住意向』が『転出意向』を上回っている。(図1-2-4)

図1-2-4 定住意向(性・年代別)



I 調査の概要

II 調査結果の要約

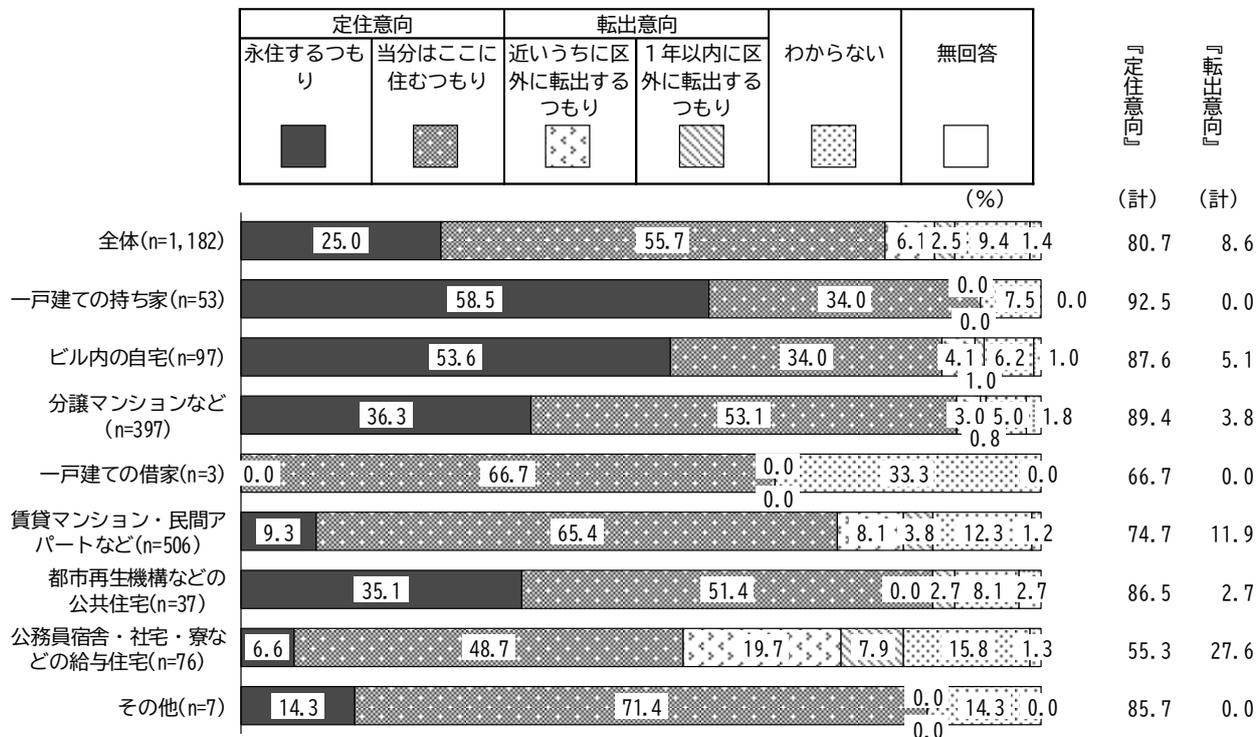
III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

V 調査票

住居形態別にみると、「永住するつもり」は一戸建ての持ち家(58.5%)が6割近くと最も高く、その他にもビル内の自宅(ビルの所有者)(53.6%)が5割台半ば近くと高くなっている。(図1-2-5)

図1-2-5 定住意向(住居形態別)



I 調査の概要

II 調査結果の要約

III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

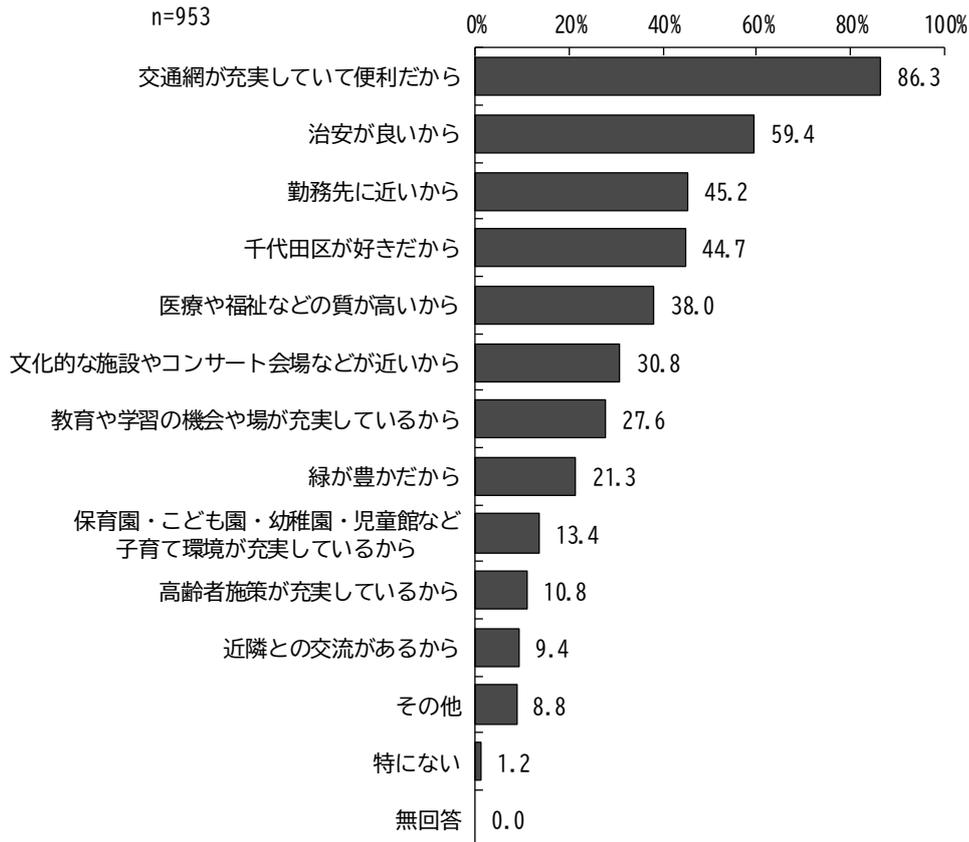
V 調査票

(2-1) 定住意向の理由

◇「交通網が充実していて便利だから」が8割台半ば超え

問2-1 (問2で「1.永住するつもり」「2.当分はここに住むつもり」と回答した方)
あなたが、そう思う理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図1-2-6 定住意向の理由



定住意向の理由について聞いたところ、「交通網が充実していて便利だから」(86.3%)が8割台半ば超えと最も高く、次いで「治安が良いから」(59.4%)、「勤務先に近いから」(45.2%)、「千代田区が好きだから」(44.7%)となっている。(図1-2-6)

I

調査の概要

II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

IV

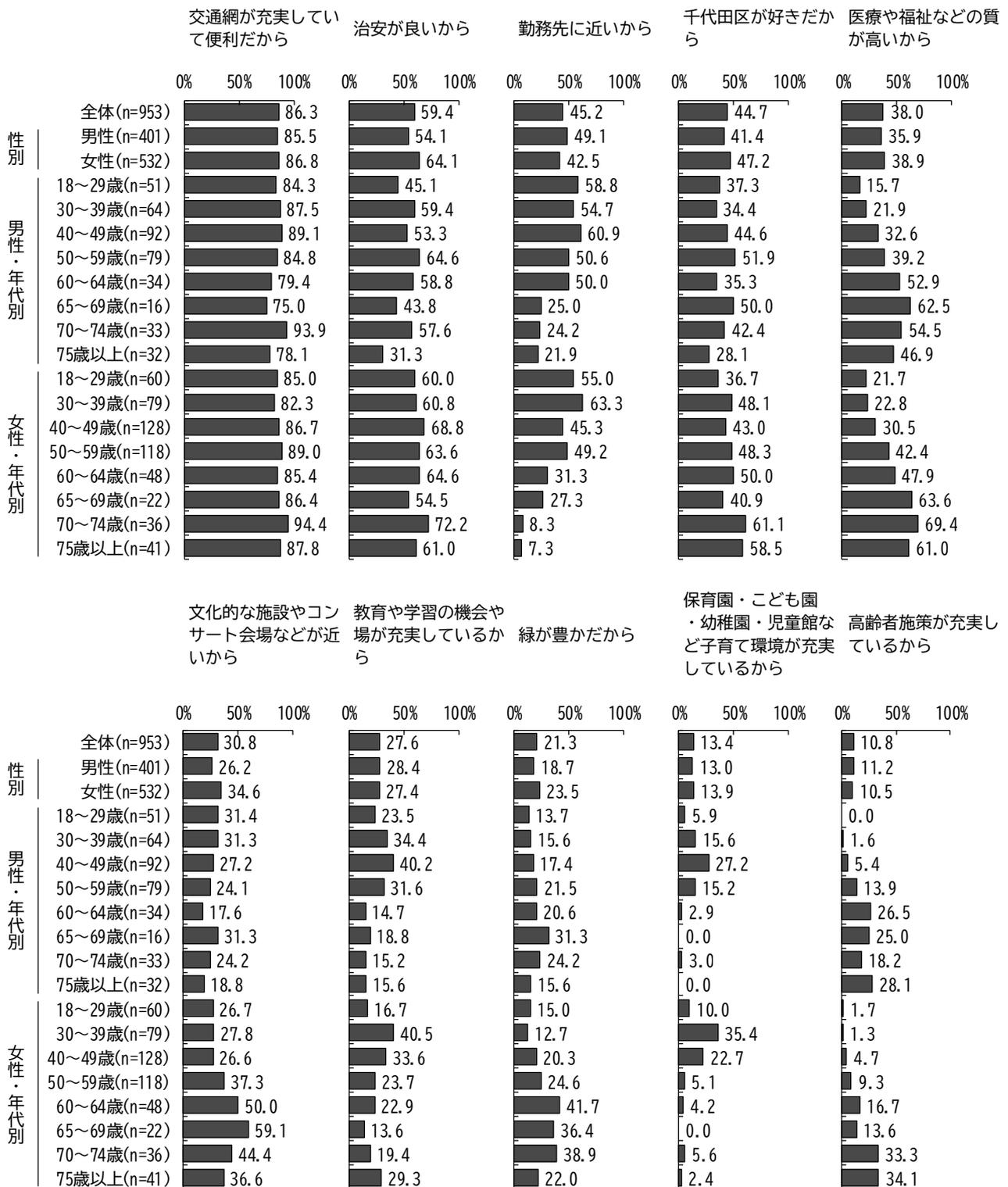
調査結果の数表

V

調査票

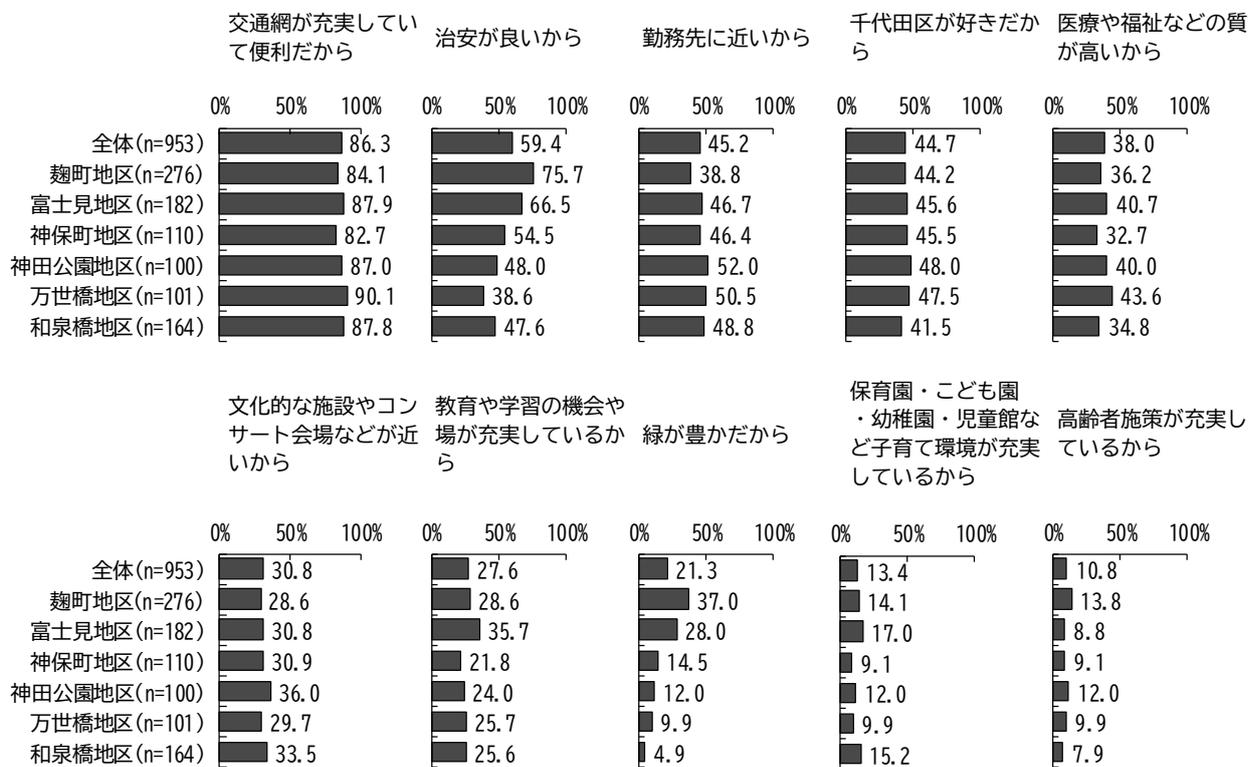
性・年代別にみると、「勤務先に近いから」は女性30～39歳(63.3%)が6割台半ば近くと最も高くなっている。「医療や福祉などの質が高いから」は女性70～74歳(69.4%)が7割弱と最も高く、女性65～69歳(63.6%)が6割台半ば近く、男性65～69歳(62.5%)が6割強と高くなっている。「文化的な施設やコンサート会場などが近いから」は女性65～69歳(59.1%)が6割弱、女性60～64歳(50.0%)が5割となっている。(図1-2-7)

図1-2-7 定住意向の理由(性・年代別) -上位10項目-



地区別にみると、「治安が良いから」は麴町地区(75.7%)が7割台半ばと最も高くなって
いる。「千代田区が好きだから」は神田公園地区(48.0%)が5割近くと最も高くなって
いる。「緑が豊かだから」は麴町地区(37.0%)で3割台半ばを超えと最も高く、次いで富士見地
区(28.0%)が3割近くと高くなっている。(図1-2-8)

図1-2-8 定住意向の理由(地区別) - 上位10項目 -



I 調査の概要

II 調査結果の要約

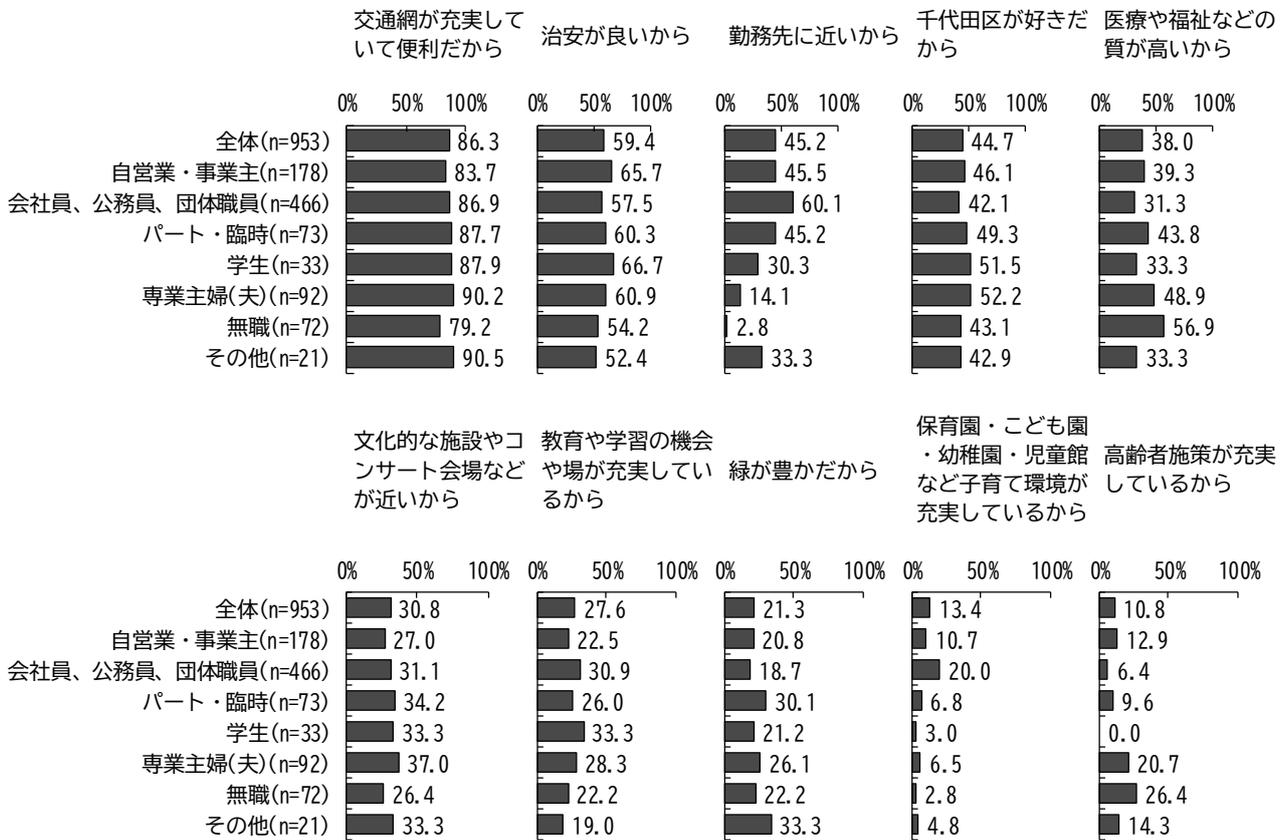
III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

V 調査票

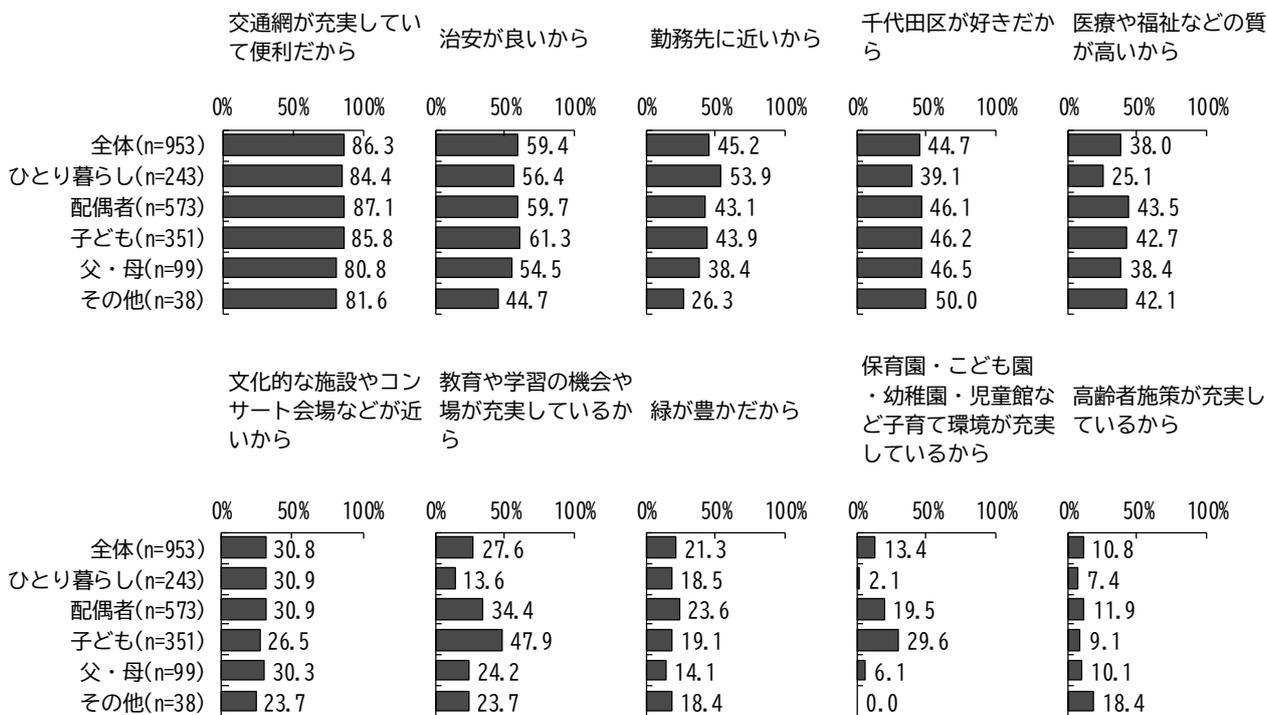
職業別にみると、「勤務先に近いから」は会社員、公務員、団体職員(60.1%)が約6割と最も高くなっている。「医療や福祉などの質が高いから」は無職(56.9%)が5割台半ば超えと最も高く、次いで専業主婦(夫)(48.9%)で5割近くと高くなっている。(図1-2-9)

図1-2-9 定住意向の理由(職業別) - 上位10項目 -



世帯構成別にみると、「教育や学習の機会や場が充実しているから」は子どもがいる世帯(47.9%)が4割台半ばを超えと最も高くなっている。「保育園・こども園・幼稚園・児童館など子育て環境が充実しているから」は子どもがいる世帯(29.6%)が3割弱と最も高くなっている。(図1-2-10)

図1-2-10 定住意向の理由(世帯構成別) - 上位10項目 -



I 調査の概要

II 調査結果の要約

III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

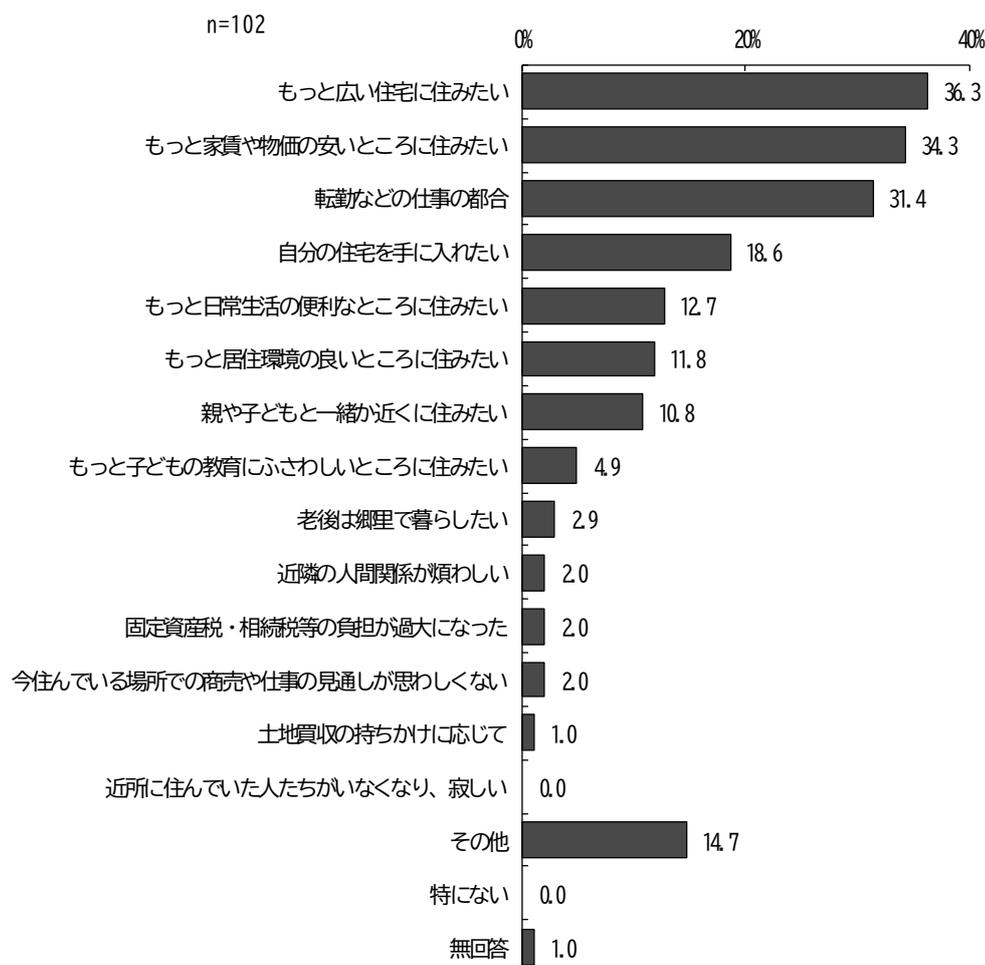
V 調査票

(2-2) 転出意向の理由

◇「もっと広い住宅に住みたい」が3割台半ば越え

問2-2（問2で「3. 近いうちに区外に転出するつもり」「4. 1年以内に区外に転出するつもり」と回答の方）
 あなたが、そう思う理由は何ですか。（〇はいくつでも）

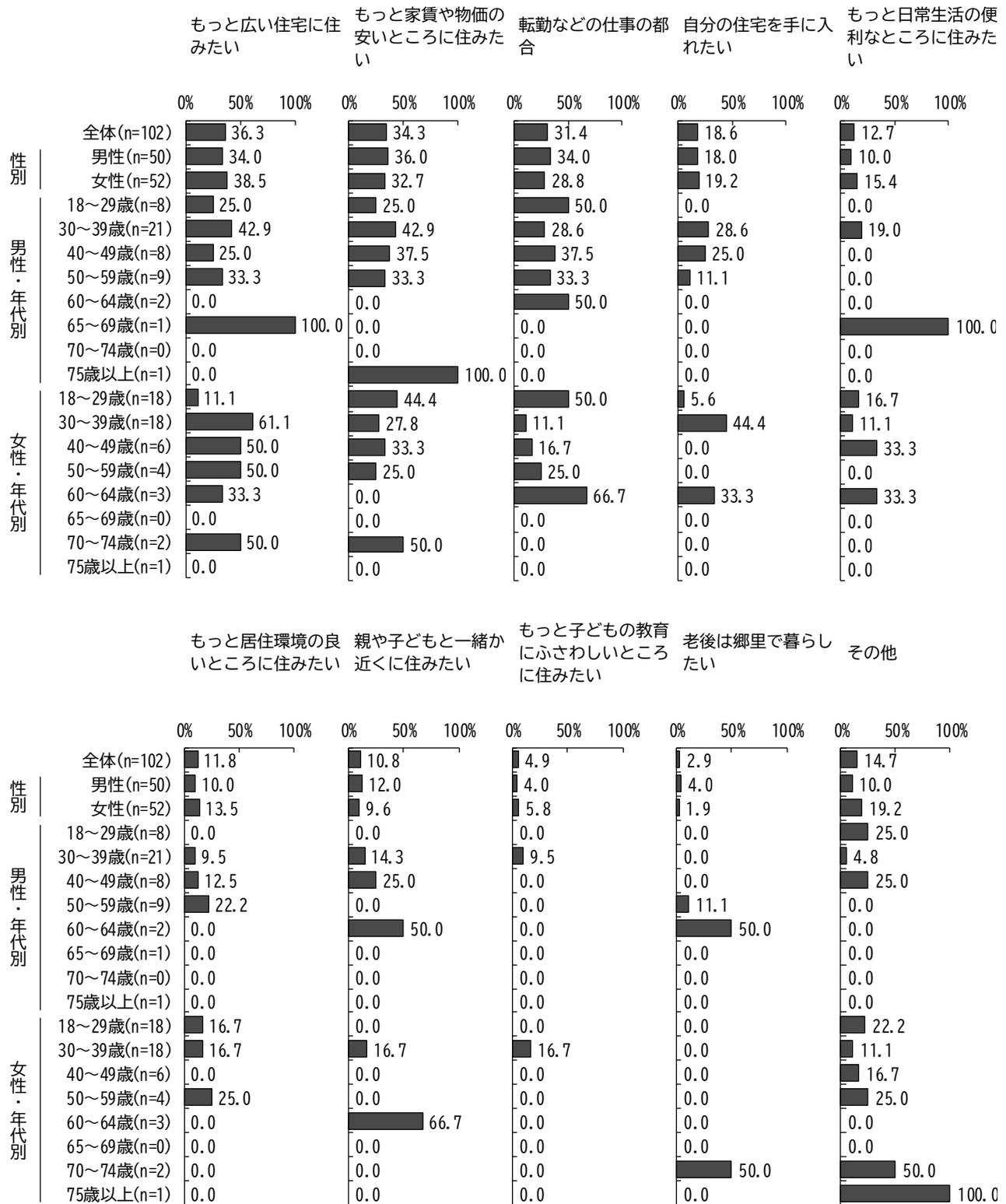
図1-2-11 転出意向の理由



転出意向の理由について聞いたところ、「もっと広い住宅に住みたい」(36.3%)が3割台半ば超えと最も高く、次いで「もっと家賃や物価の安いところに住みたい」(34.3%)が3割台半ば近くと高くなっている。(図1-2-11)

性・年代別にみると、「自分の住宅を手に入れたい」は女性30～39歳(44.4%)が4割台半ば近くと高くなっている。(図1-2-12)

図1-2-12 転出意向の理由(性・年代別) - 上位10項目 -



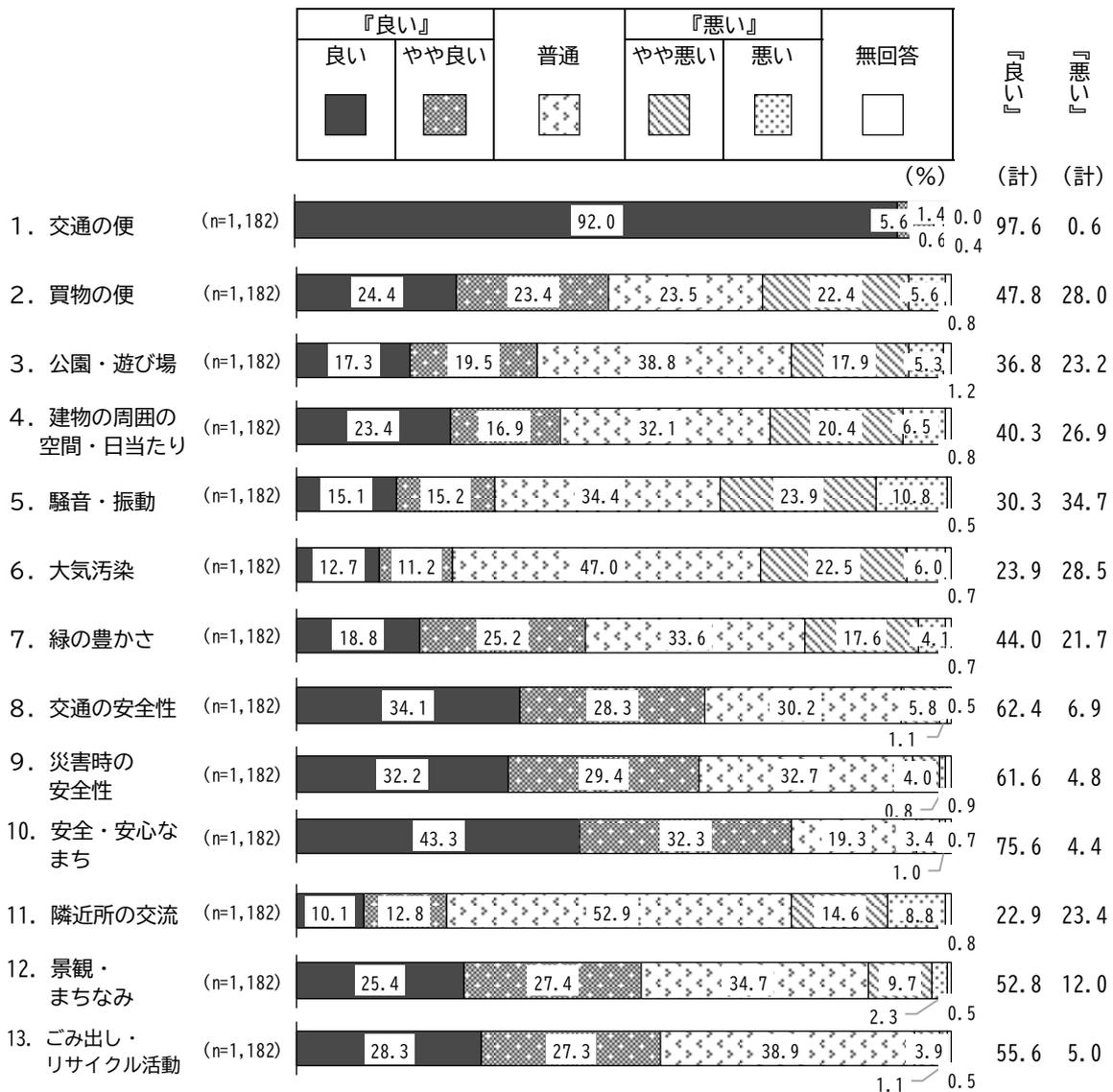
2. 居住環境評価

(1) 周辺の生活環境評価

◇『良い』は“交通の便”が9割台半ば超え、『悪い』は“騒音・振動”が3割台半ば近く

問3 あなたは、ご自宅の周辺の生活環境についてどう思いますか。項目ごとに5段階で評価してください。(〇はそれぞれに1つ)

図2-1-1 周辺の生活環境評価



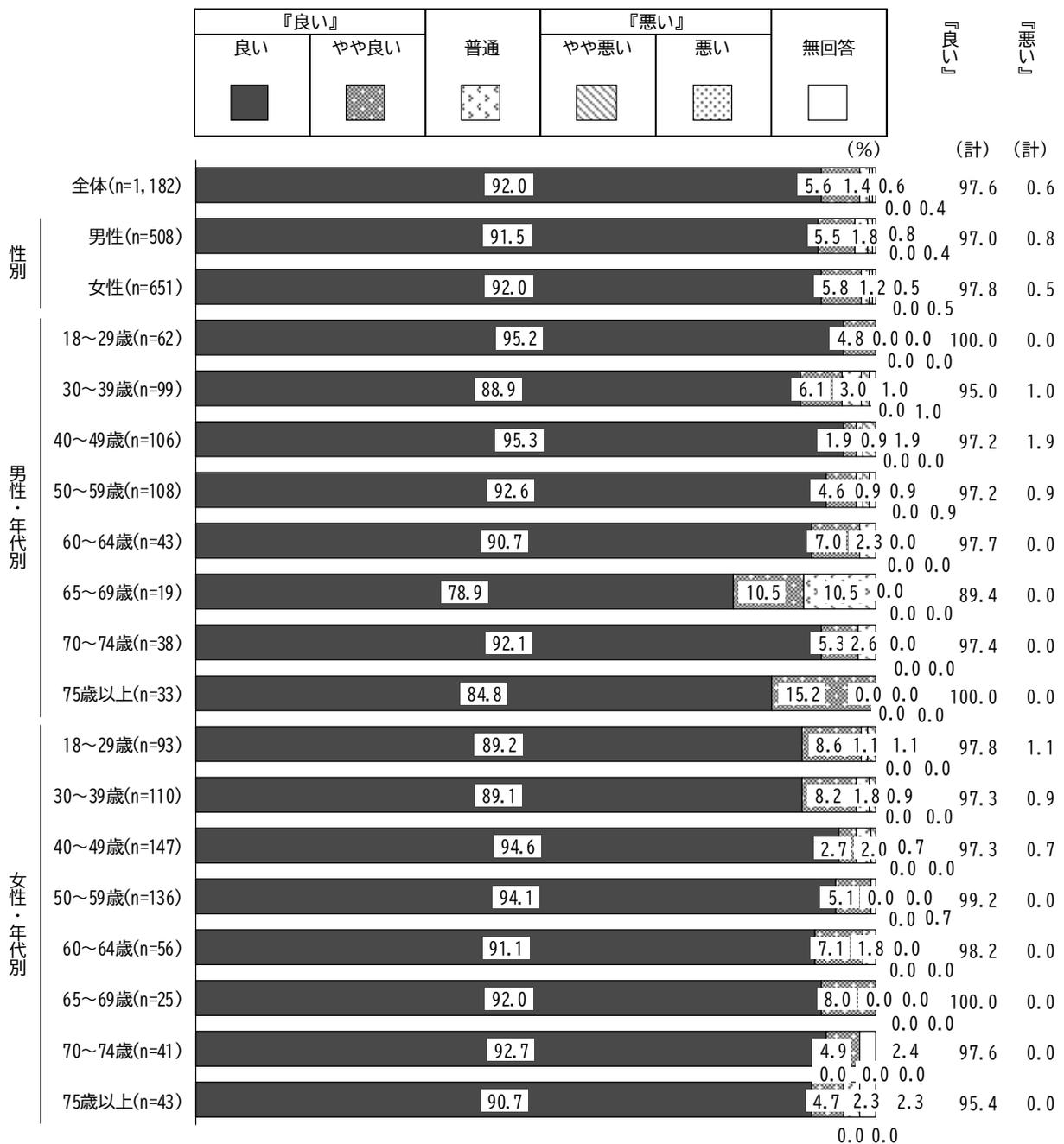
周辺の生活環境評価について聞いたところ、「良い」と「やや良い」を合わせた『良い』が最も多い項目は“交通の便”(97.6%)が9割台半ば超え、「やや悪い」と「悪い」を合わせた『悪い』は“騒音・振動”(34.7%)が3割台半ば近くとなっている。(図2-1-1)

「良い」と「やや良い」を合わせた『良い』と、「やや悪い」と「悪い」を合わせた『悪い』の上位5項目を下表に示した。

『良い』上位5項目			『悪い』上位5項目		
1	交通の便	97.6%	1	騒音・振動	34.7%
2	安全・安心なまち	75.6%	2	大気汚染	28.5%
3	交通の安全性	62.4%	3	買物の便	28.0%
4	災害時の安全性	61.6%	4	建物の周囲の空間・日当たり	26.9%
5	ごみ出し・リサイクル	55.6%	5	隣近所の交流	23.4%

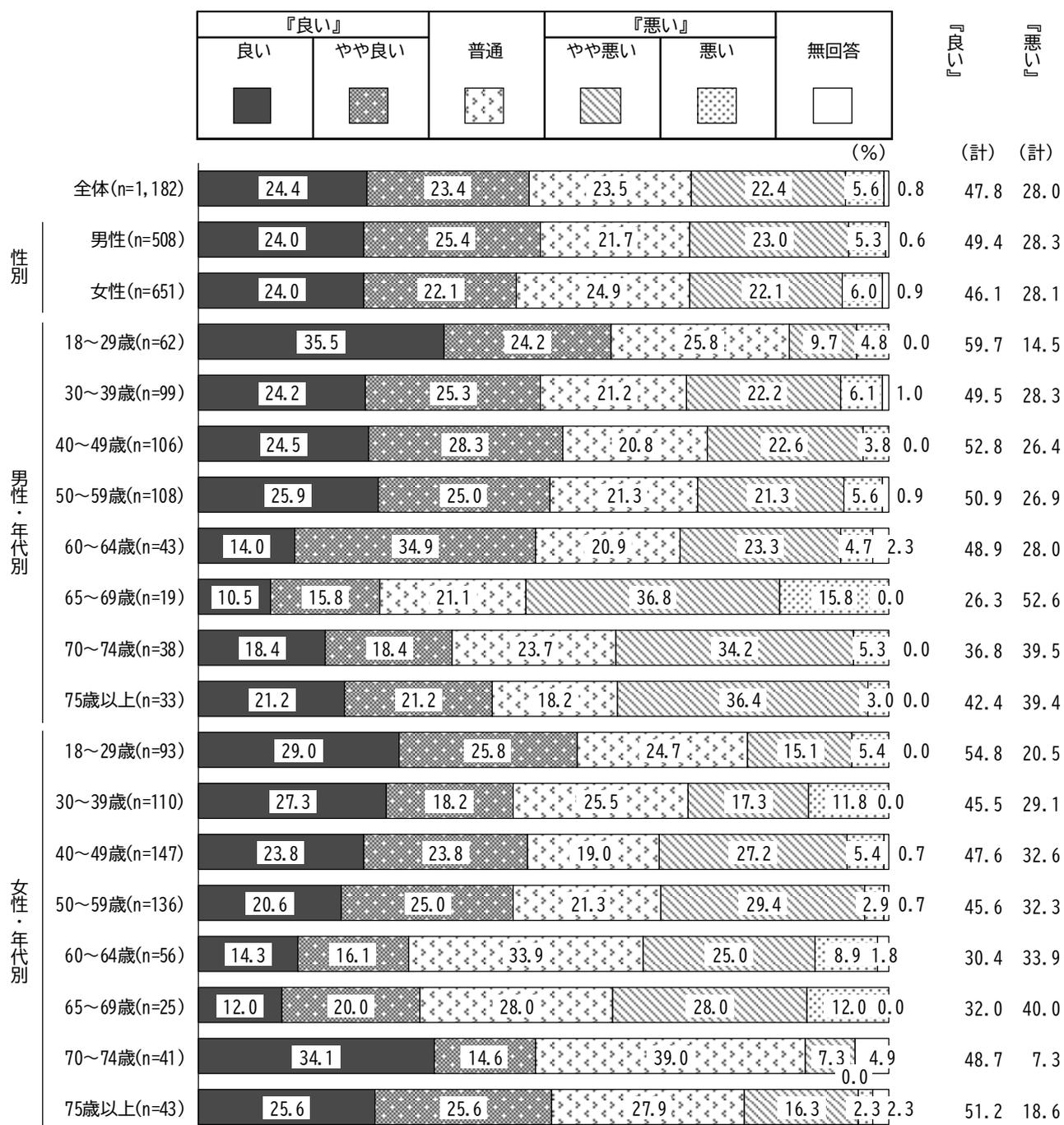
“交通の便”について性・年代別にみると、『良い』は男性18～29歳、男性75歳以上、女性65～69歳が(100.0%)と最も高くなっている。(図2-1-2)

図2-1-2 周辺の生活環境評価 交通の便 (性・年代別)



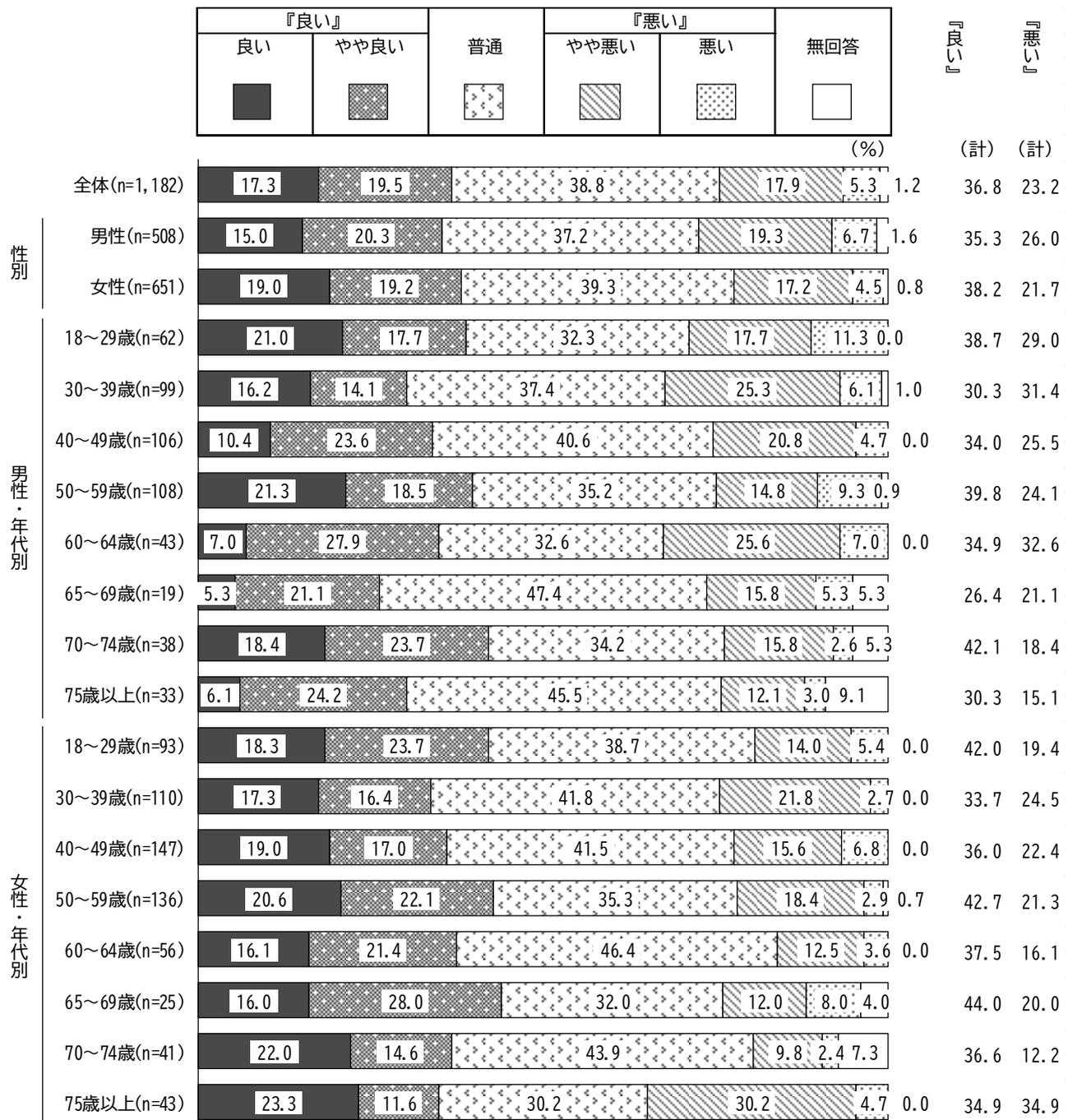
“買物の便”について性・年代別にみると、『良い』は、女性では18～29歳(54.8%)が5割台半ば近くと最も高く、男性では18～29歳(59.7%)が6割弱と高くなっている。一方で、『悪い』は男性では65～69歳(52.6%)が5割強、女性では65～69歳(40.0%)が4割と最も高く、次いで60～64歳(33.9%)が3割台半ば近くと高くなっている。(図2-1-3)

図2-1-3 周辺の生活環境評価 買物の便 (性・年代別)



“公園・遊び場”について性・年代別にみると、『良い』は、男性では70～74歳(42.1%)が4割強と最も高く、次いで50～59歳(39.8%)が4割弱と高くなっている。女性では65～69歳(44.0%)が4割台半ば近くと最も高くなっている。一方で、『悪い』は、男性では60～64歳(32.6%)が3割強と最も高く、女性では75歳以上(34.9%)が3割台半ば近くと最も高くなっている。(図2-1-4)

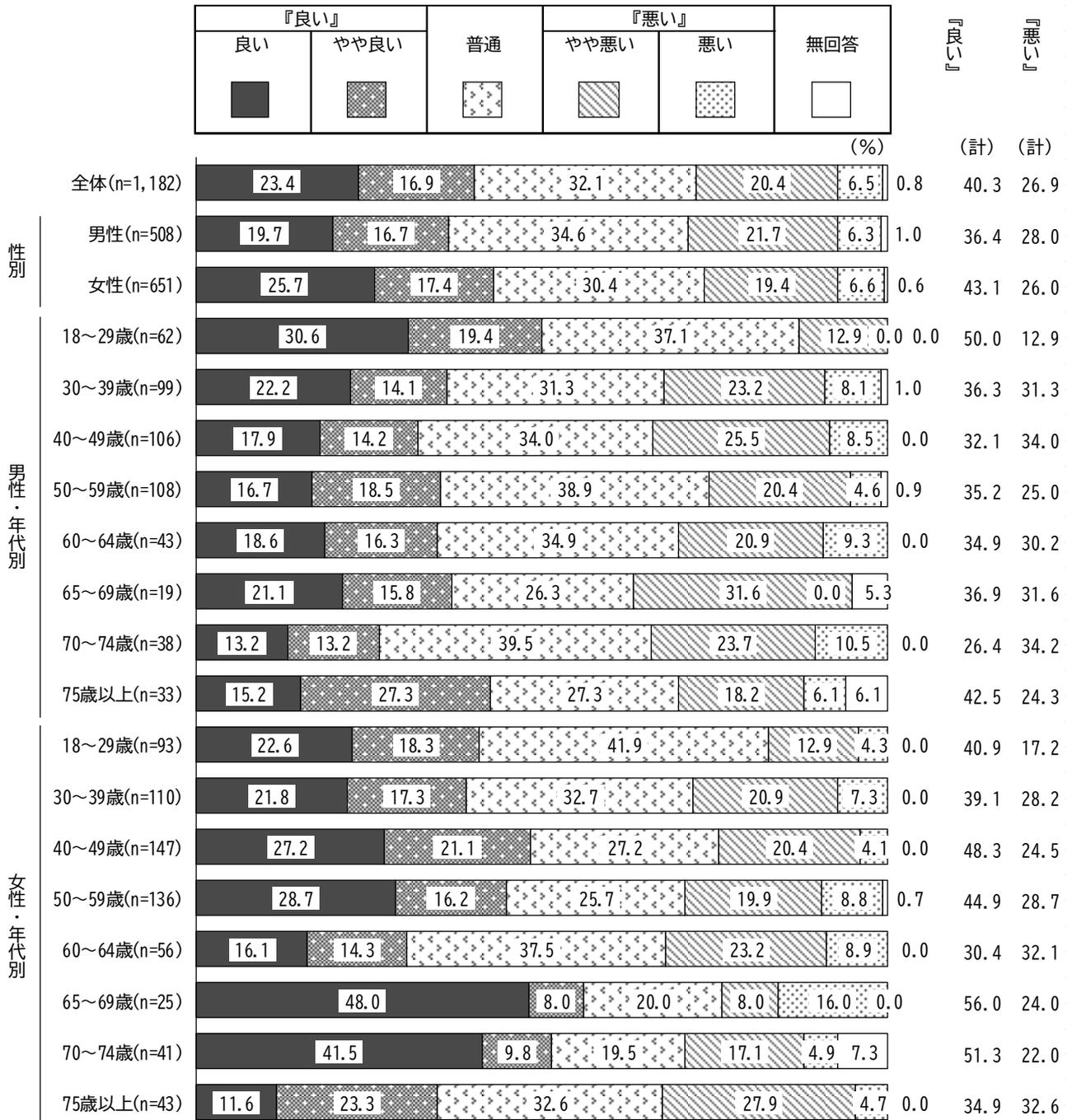
図2-1-4 周辺の生活環境評価 公園・遊び場 (性・年代別)



I 調査の概要
II 調査結果の要約
III 調査結果の分析
IV 調査結果の数表
V 調査票

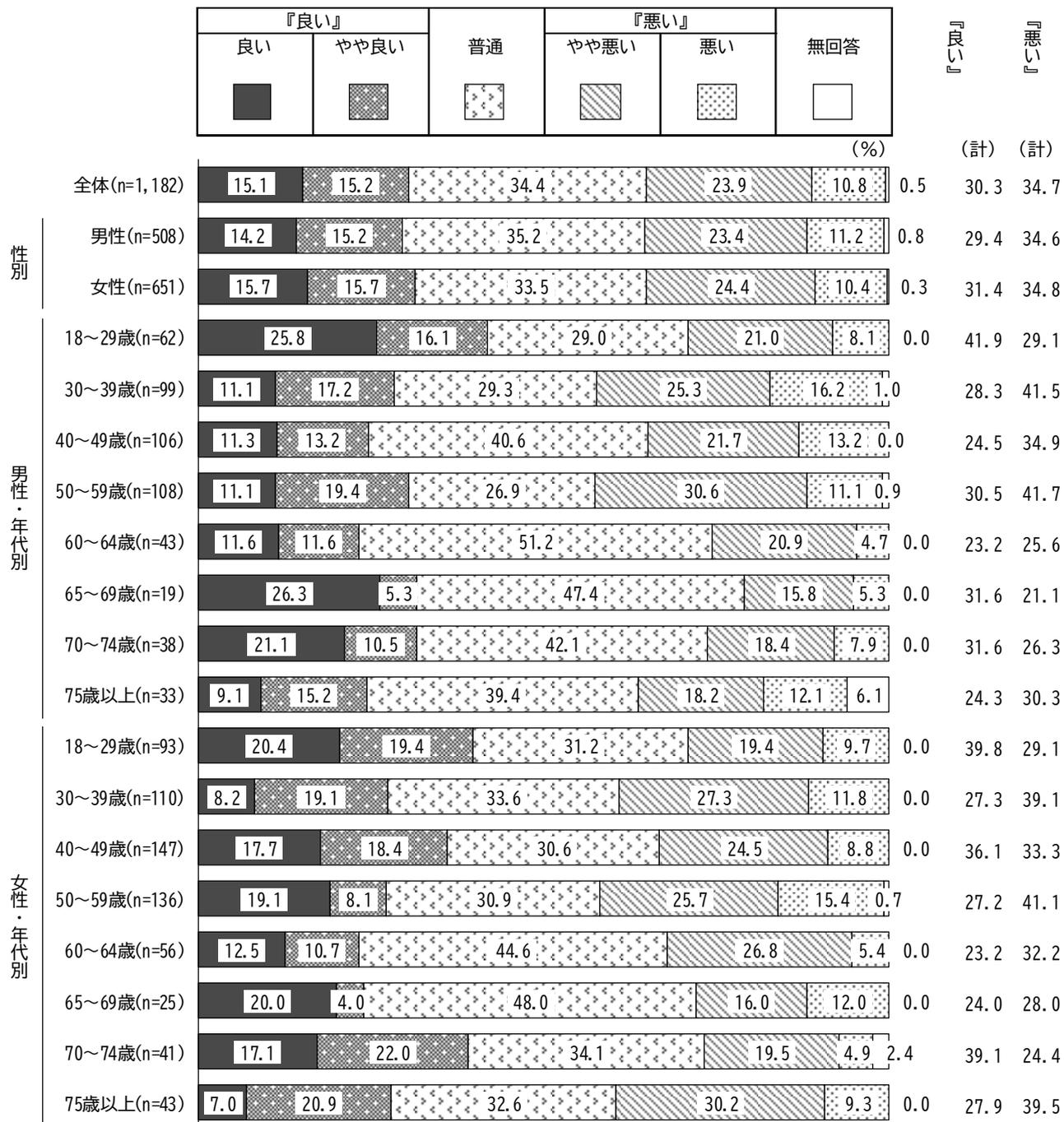
“建物の周囲の空間・日当たり”について性・年代別にみると、『良い』は、男性では18～29歳(50.0%)が5割と最も高く、女性では65～69歳(56.0%)が5割台半ばを超えと最も高くなっている。一方で、『悪い』は、男性では70～74歳(34.2%)が3割台半ば近くと最も高く、女性では75歳以上(32.6%)が3割強と最も高くなっている。(図2-1-5)

図2-1-5 周辺の生活環境評価 建物の周囲の空間・日当たり (性・年代別)



“騒音・振動”について性・年代別にみると、『良い』は男性では18～29歳(41.9%)が4割強と最も高く、女性では18～29歳(39.8%)が4割弱と最も高くなっている。一方で、『悪い』は男性では50～59歳(41.7%)が4割強と最も高く、女性では50～59歳(41.1%)が4割強と最も高くなっている。(図2-1-6)

図2-1-6 周辺の生活環境評価 騒音・振動 (性・年代別)



I 調査の概要

II 調査結果の要約

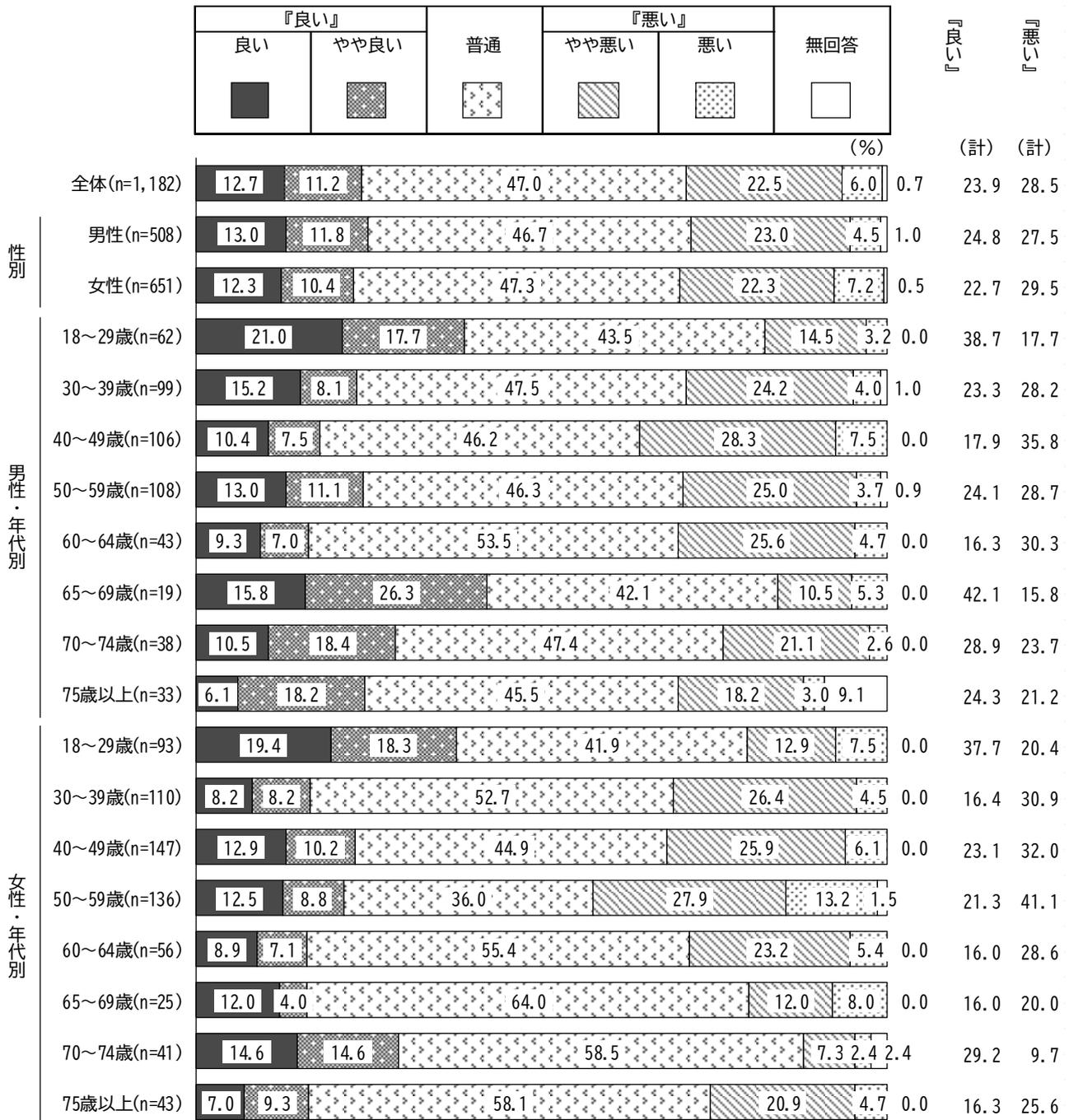
III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

V 調査票

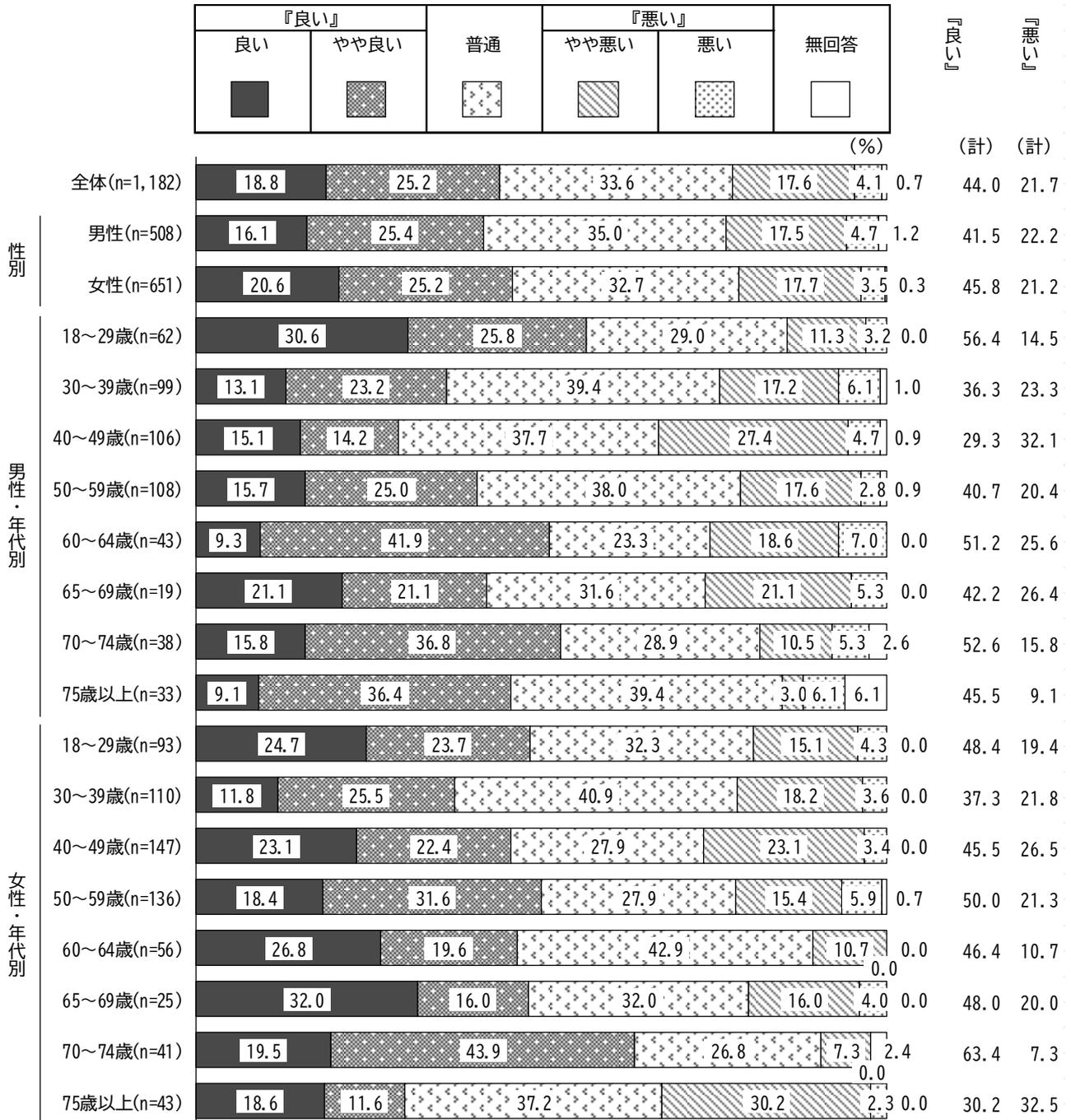
“大気汚染”について性・年代別にみると、「普通」は女性では65～69歳(64.0%)が6割台半ば近くと最も高く、男性では60～64歳(53.5%)が5割台半ば近くと最も高い。一方で、『悪い』は女性では50～59歳(41.1%)が4割強と最も高く、男性は40～49歳(35.8%)が3割台半ばと高くなっている。(図2-1-7)

図2-1-7 周辺の生活環境評価 大気汚染 (性・年代別)



“緑の豊かさ”について性・年代別にみると、『良い』は女性70～74歳(63.4%)が6割台半ば近くと最も高くなっている。(図2-1-8)

図2-1-8 周辺の生活環境評価 緑の豊かさ (性・年代別)



I

調査の概要

II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

IV

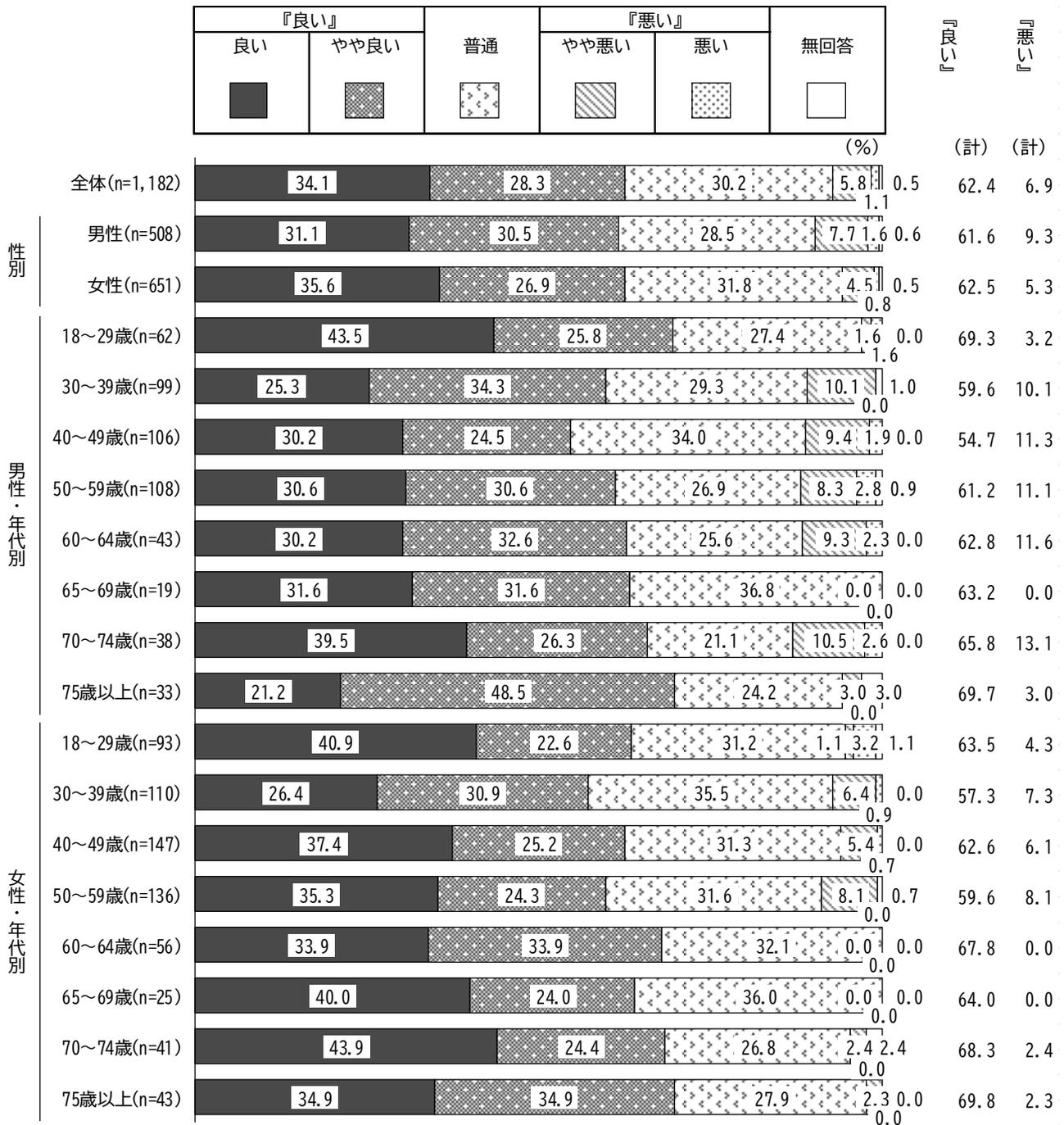
調査結果の数表

V

調査票

“交通の安全性”について性・年代別にみると、『良い』は女性75歳以上(69.8%)が7割弱と最も高くなっている。(図2-1-9)

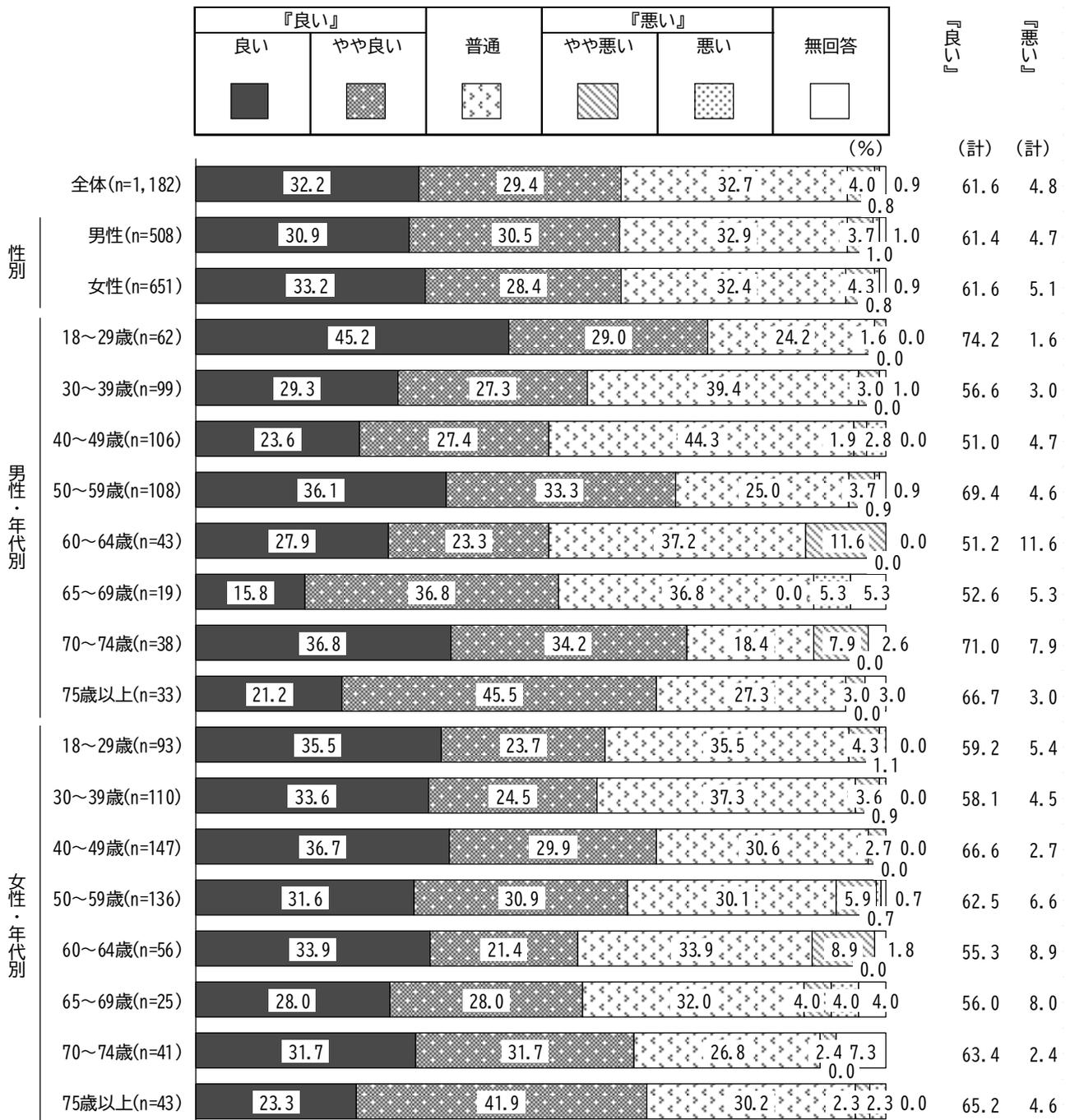
図2-1-9 周辺の生活環境評価 交通の安全性 (性・年代別)



“災害時の安全性”について性・年代別にみると、『良い』は男性18～29歳(74.2%)が7割台半ば近く、女性40～49歳(66.6%)が6割台半ばを超えと高くなっている。

(図2-1-10)

図2-1-10 周辺の生活環境評価 災害時の安全性 (性・年代別)



I 調査の概要

II 調査結果の要約

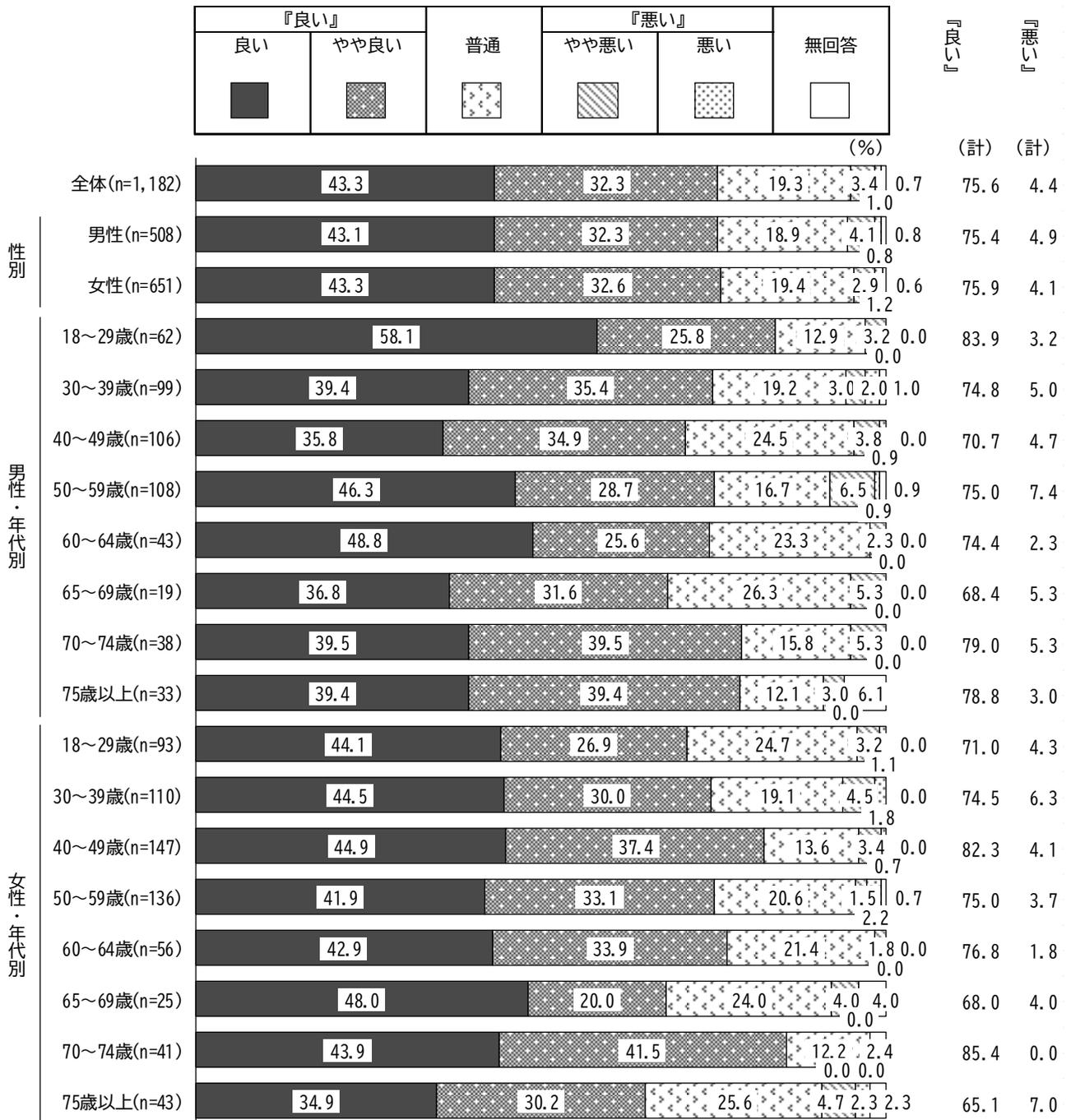
III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

V 調査票

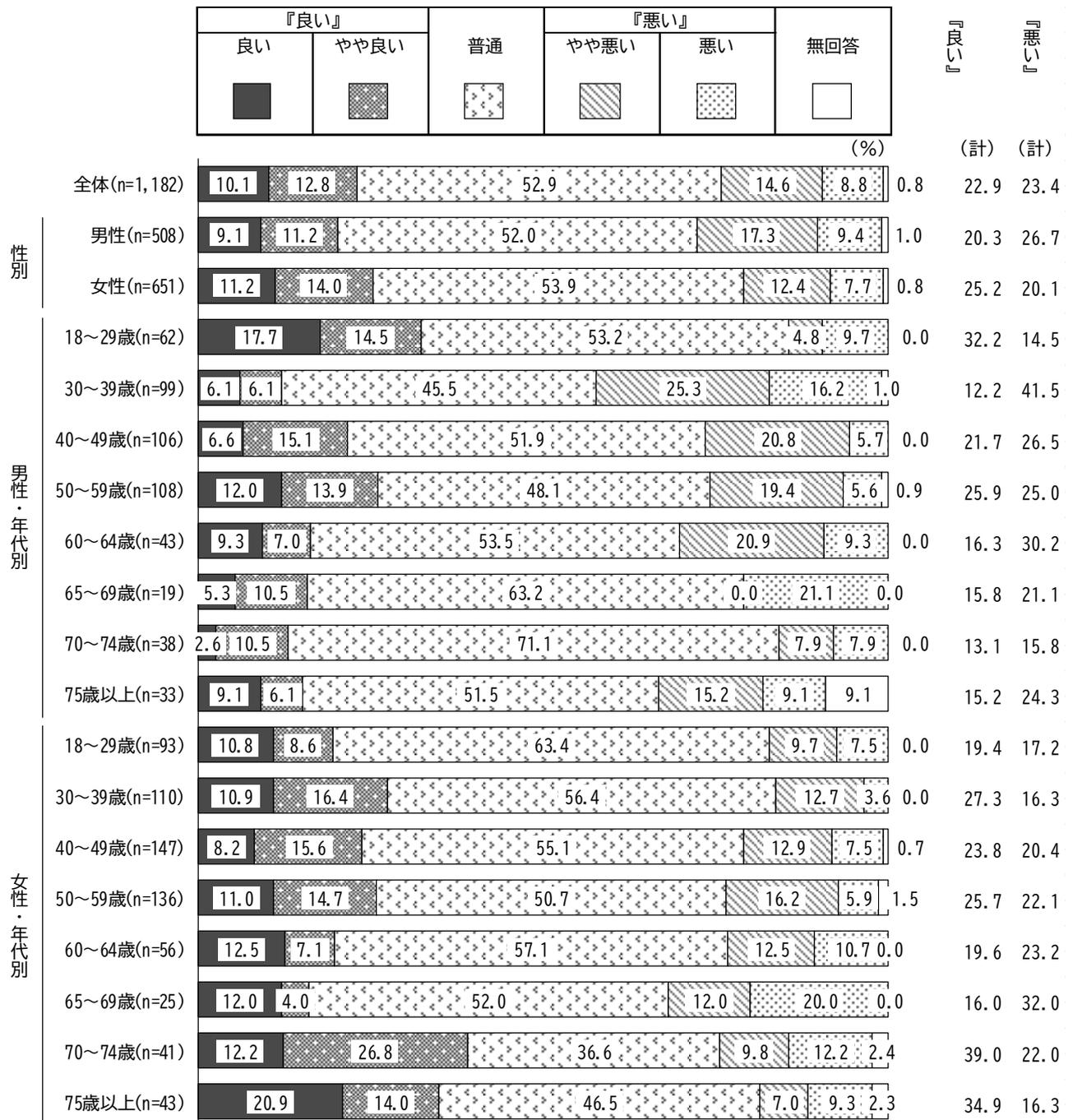
“安全・安心なまち”について性・年代別にみると、『良い』は女性70～74歳(85.4%)が8割台半ばと最も高くなっている。(図2-1-11)

図2-1-11 周辺の生活環境評価 安全・安心なまち (性・年代別)



“隣近所の交流”について性・年代別にみると、『良い』は女性70～74歳(39.0%)が4割弱と最も高くなっている。一方で、『悪い』は男性30～39歳(41.5%)が4割強と最も高くなっている。(図2-1-12)

図2-1-12 周辺の生活環境評価 隣近所の交流 (性・年代別)



I 調査の概要

II 調査結果の要約

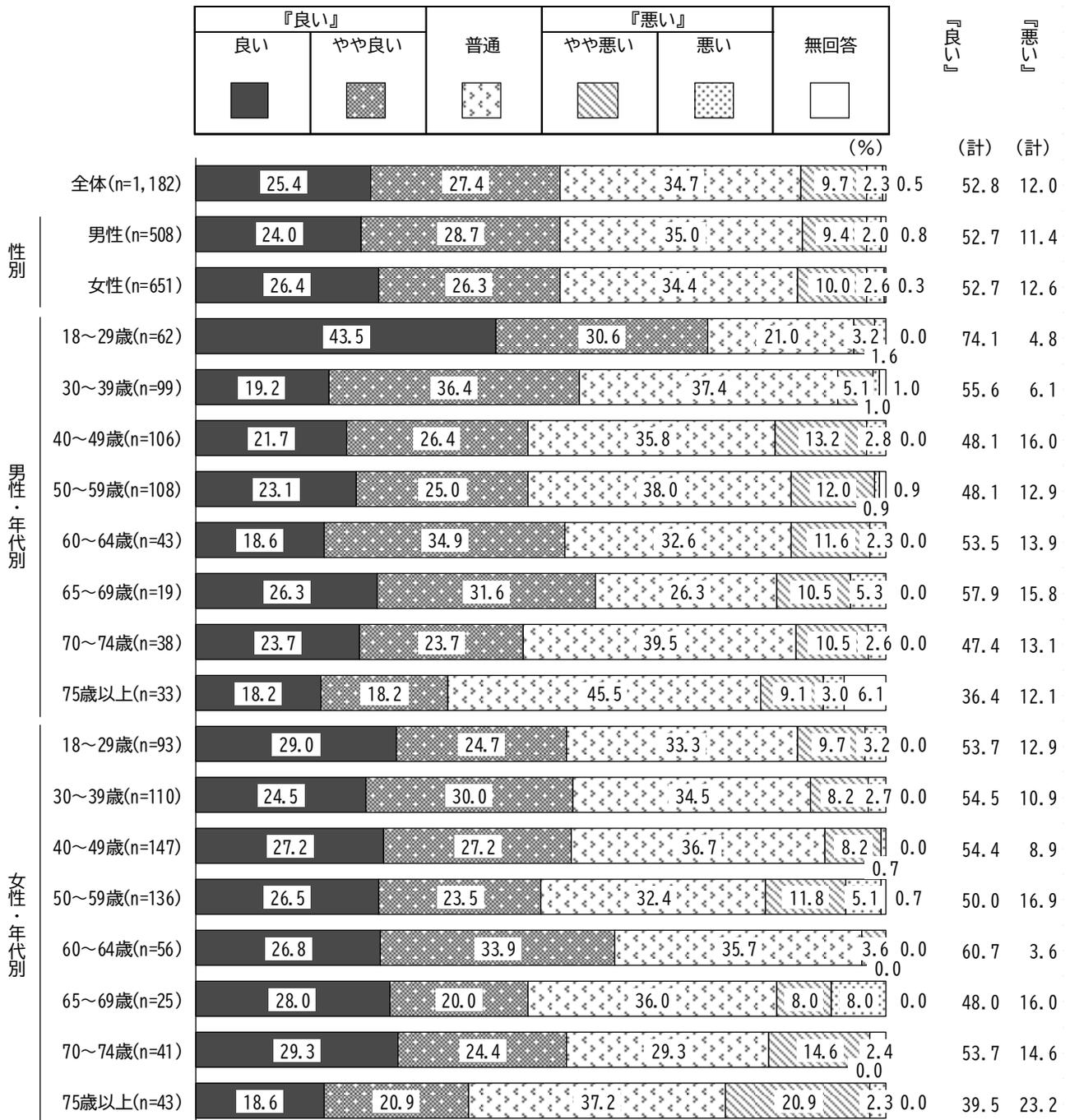
III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

V 調査票

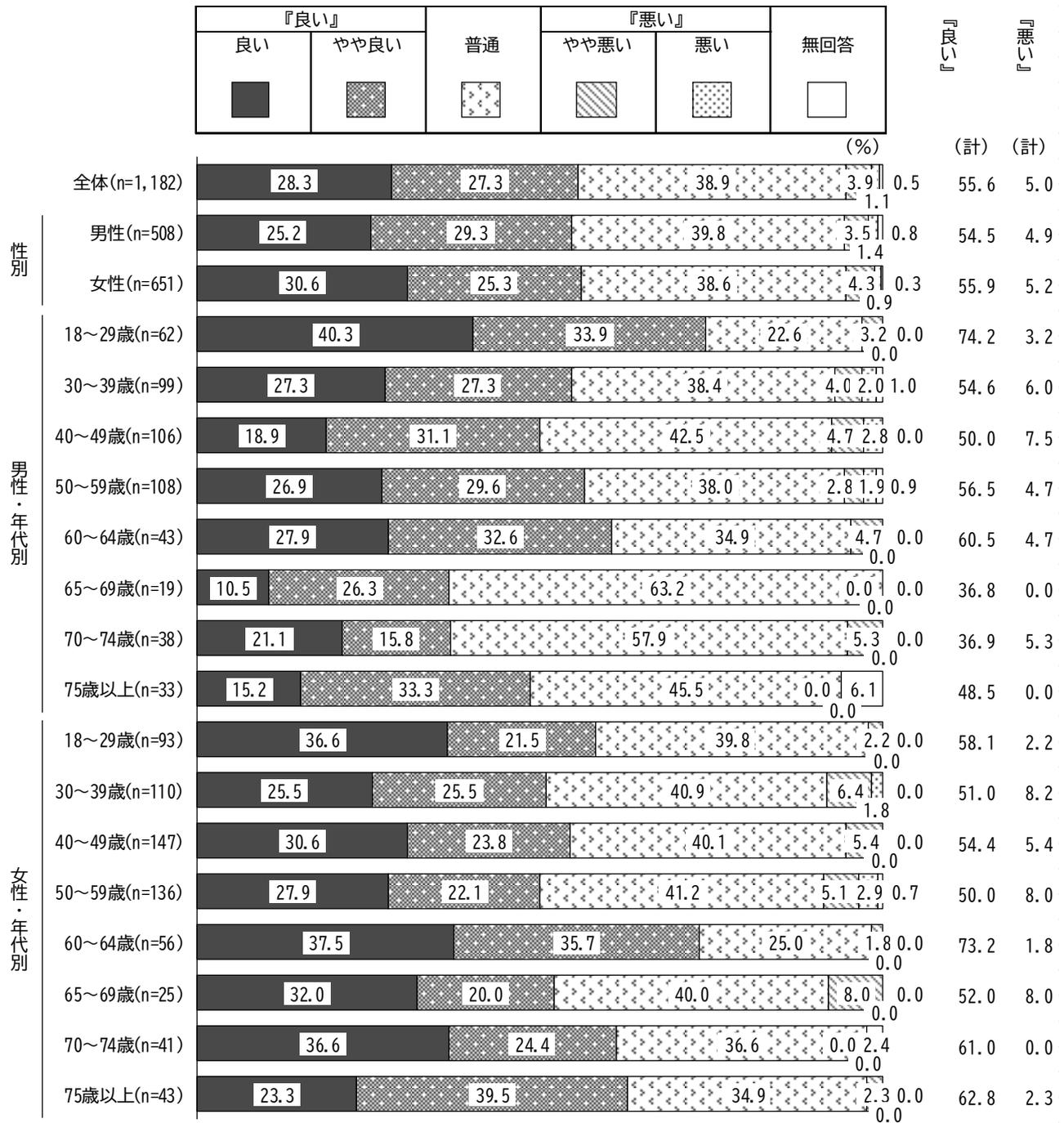
“景観・まちなみ”について性・年代別にみると、『良い』は男性18～29歳(74.1%)が7割台半ば近くと最も高くなっている。(図2-1-13)

図2-1-13 周辺の生活環境評価 景観・まちなみ (性・年代別)



“ごみ出し・リサイクル活動”について性・年代別にみると、『良い』は男性18～29歳(74.2%)が7割台半ば近くと最も高くなっている。(図2-1-14)

図2-1-14 周辺の生活環境評価 ごみ出し・リサイクル活動(性・年代別)



I 調査の概要

II 調査結果の要約

III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

V 調査票

◇加重平均値

満足度を比率でみるのとは別に、比較をより明確にするため、加重平均による数量化を行った。下記の計算式のように、5段階の各評価にそれぞれ点数を与え、評価点を算出した。「普通」については0点として扱った。

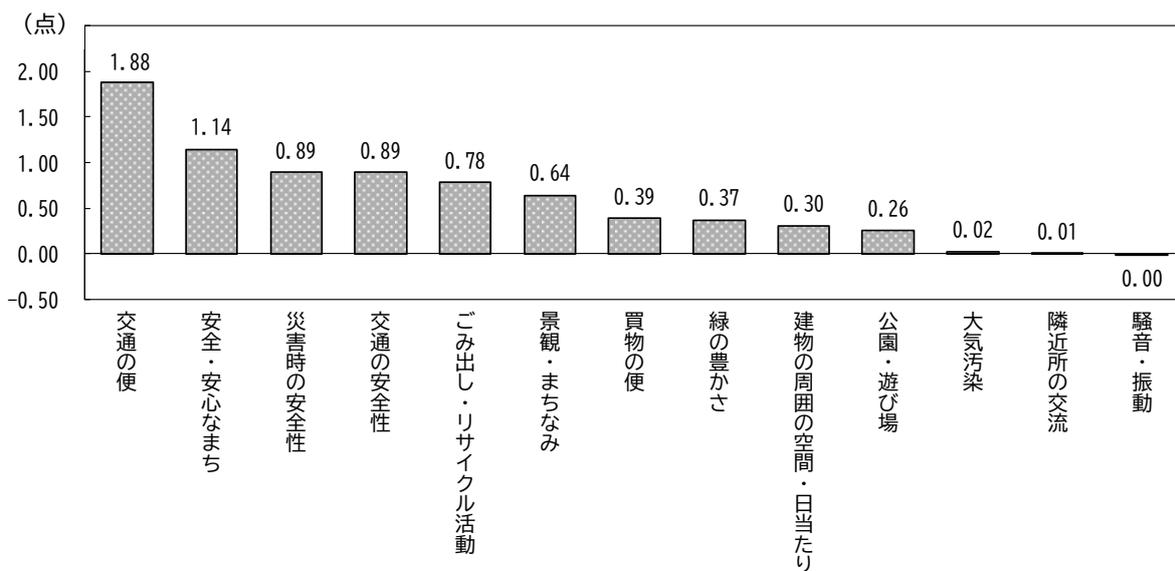
$$\text{評価点} = \frac{\text{「良い」の回答者数} \times 2 \text{点} + \text{「やや良い」の回答者数} \times 1 \text{点} + \text{「やや悪い」の回答者数} \times -1 \text{点} + \text{「悪い」の回答者数} \times -2 \text{点}}{\text{回答者数}}$$

注) 回答者数は、無回答を除く。

この算出方法では、評価点はプラス2点からマイナス2点の間に分布し、中点の0点を境に、プラスの値が大きいほど満足度が高くなり、マイナスの値が大きいほど不満度が高くなる。

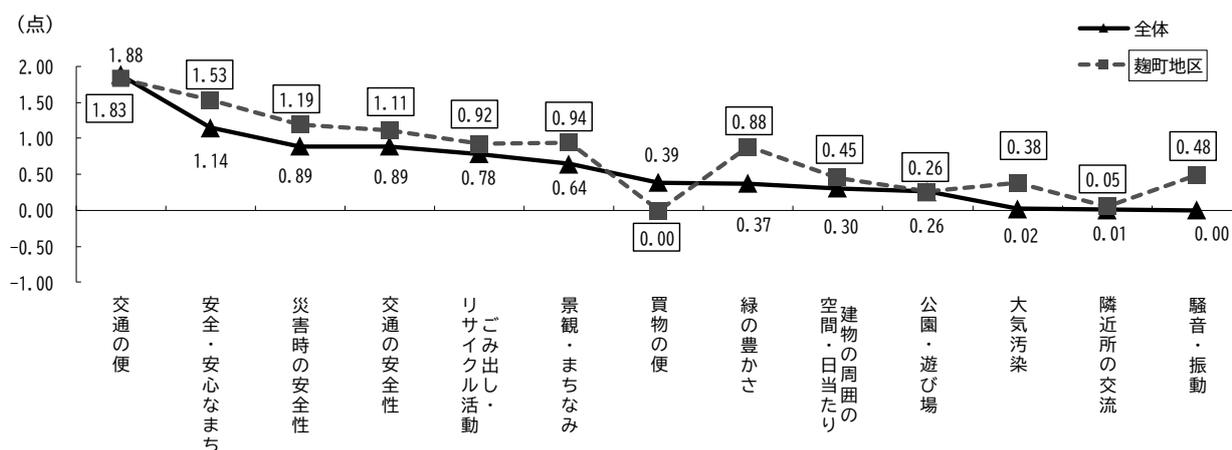
結果をみると、最もプラス評価が高いのは“交通の便”(1.88)で、際立って高くなっている。その他に満足度がプラス評価になっているのは、“安全・安心なまち”(1.14)、“災害時の安全性”(0.89)、“交通の安全性”(0.89)、“ごみ出し・リサイクル活動”(0.78)、“景観・まちなみ”(0.64)、“買物の便”(0.39)、“緑の豊かさ”(0.37)、“建物の周囲の空間・日当たり”(0.30)、“公園・遊び場”(0.26)、“大気汚染”(0.02)、“隣近所の交流”(0.01)の計12項目である。0評価は“騒音・振動”(0.00)である。一方で、マイナス評価となった項目はなかった。(図2-1-15)

図2-1-15 周辺の生活環境評価 加重平均



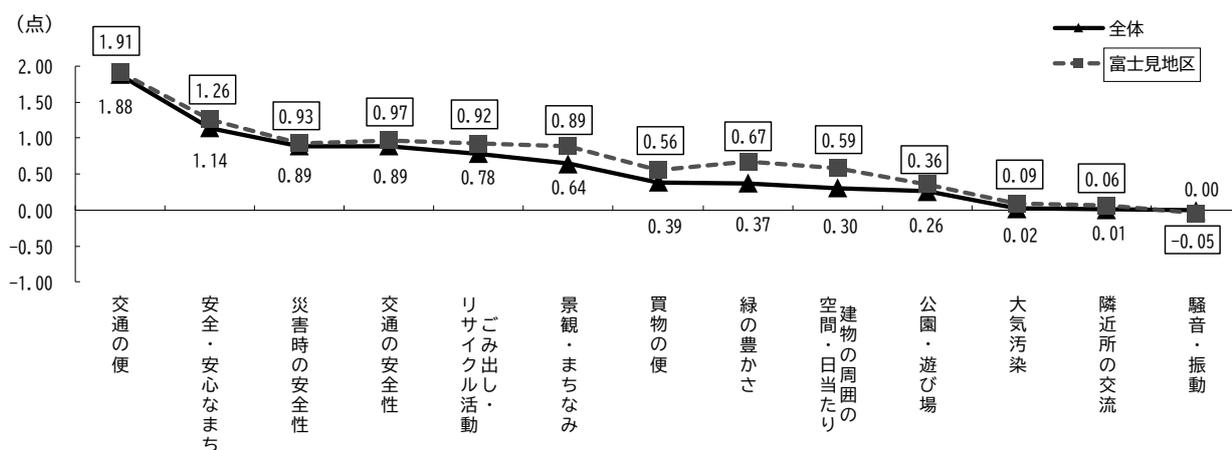
麴町地区の評価点と区全体の平均を比較すると、全体より評価が高い項目は10項目となっており、特に“緑の豊かさ”(0.51点差)、“騒音・振動”(0.48点差)、“安全・安心なまち”(0.39点差)、“大気汚染”(0.36点差)、“災害時の安全性”(0.3点差)、“景観・まちなみ”(0.3点差)が高くなっている。一方で、全体よりも低い項目は“買物の便”(-0.39点差)、“交通の便”(-0.05点差)の2項目となっている。(図2-1-16)

図2-1-16 周辺の生活環境評価 加重平均 (麴町地区)



富士見地区の評価点と区全体の平均を比較すると、全体より評価が高い項目は12項目となっており、特に“緑の豊かさ”(0.30点差)、“建物の周囲の空間・日当たり”(0.29点差)が高くなっている。一方で、全体よりも低い項目は“騒音・振動”(-0.05点差)となっている。(図2-1-17)

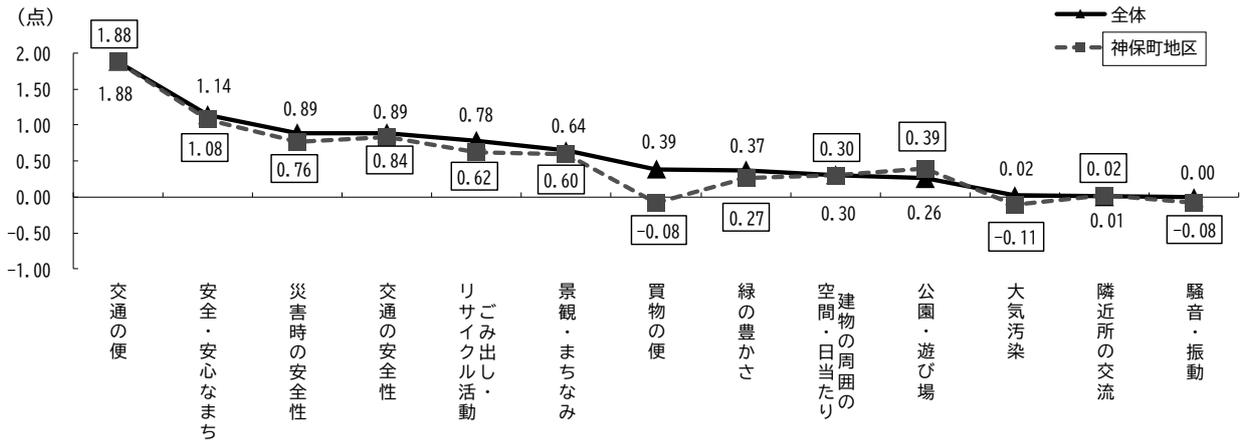
図2-1-17 周辺の生活環境評価 加重平均 (富士見地区)



神保町地区の評価点と区全体の平均を比較すると、全体より評価が高い項目は2項目となっている。一方で、全体よりも低い項目は“買物の便”(-0.47点差)、“ごみ出し・リサイクル活動”(-0.16点差)、“災害時の安全性”(-0.13点差)、“大気汚染”(-0.13点差)、“緑の豊かさ”(-0.1点差)、“騒音・振動”(-0.08点差)、“安全・安心なまち”(-0.06点差)、“交通の安全性”(-0.05点差)、“景観・まちなみ”(-0.04点差)の9項目となっている。

(図2-1-18)

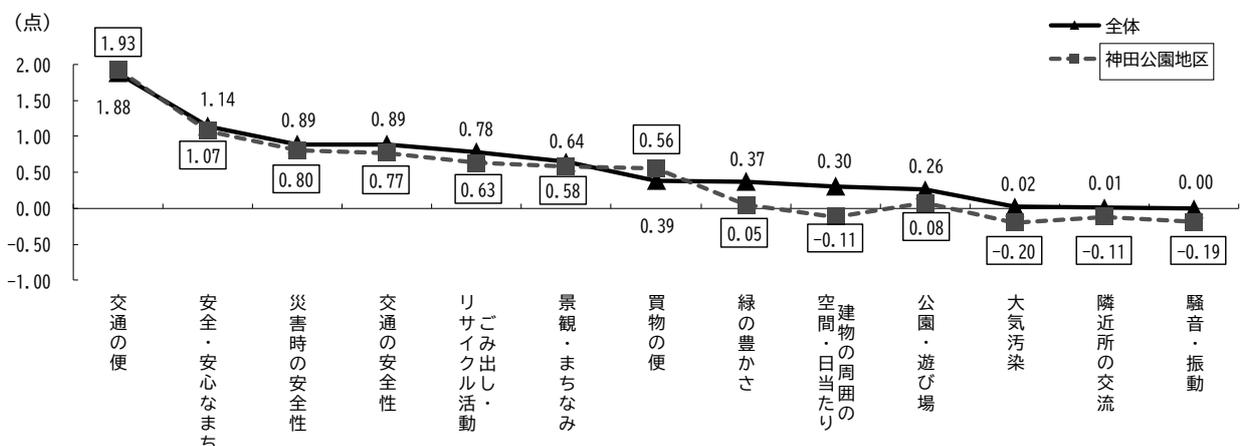
図2-1-18 周辺の生活環境評価 加重平均 (神保町地区)



神田公園地区の評価点と区全体の平均を比較すると、全体より評価が高い項目は2項目となっている。一方で、全体よりも低い項目は“建物の周囲の空間・日当たり”(-0.41点差)、“緑の豊かさ”(-0.32点差)、“大気汚染”(-0.22点差)、“騒音・振動”(-0.19点差)、“公園・遊び場”(-0.18点差)、“ごみ出し・リサイクル活動”(-0.15点差)、“隣近所の交流”(-0.12点差)、“交通の安全性”(-0.12点差)、“災害時の安全性”(-0.09点差)、“安全・安心なまち”(-0.07点差)、“景観・まちなみ”(-0.06点差)の11項目となっている。

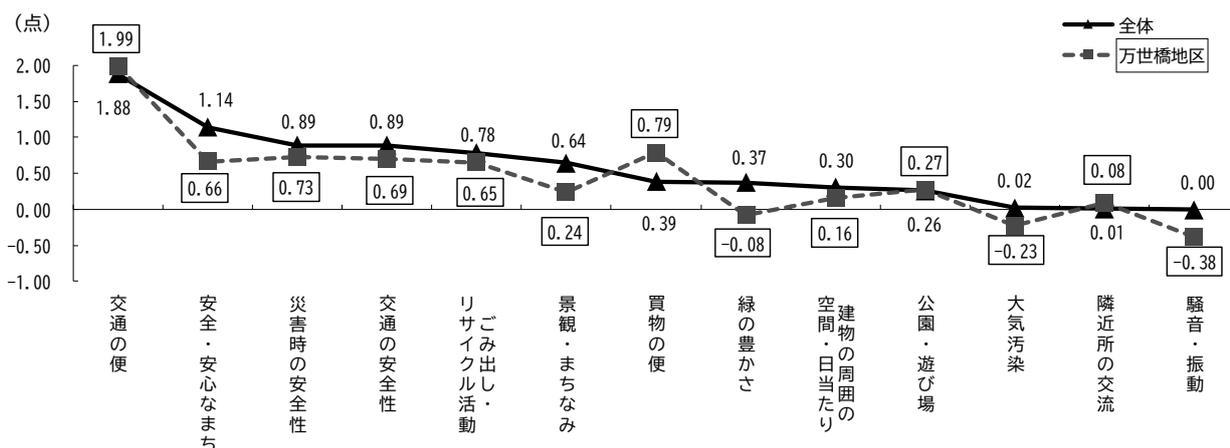
(図2-1-19)

図2-1-19 周辺の生活環境評価 加重平均 (神田公園地区)



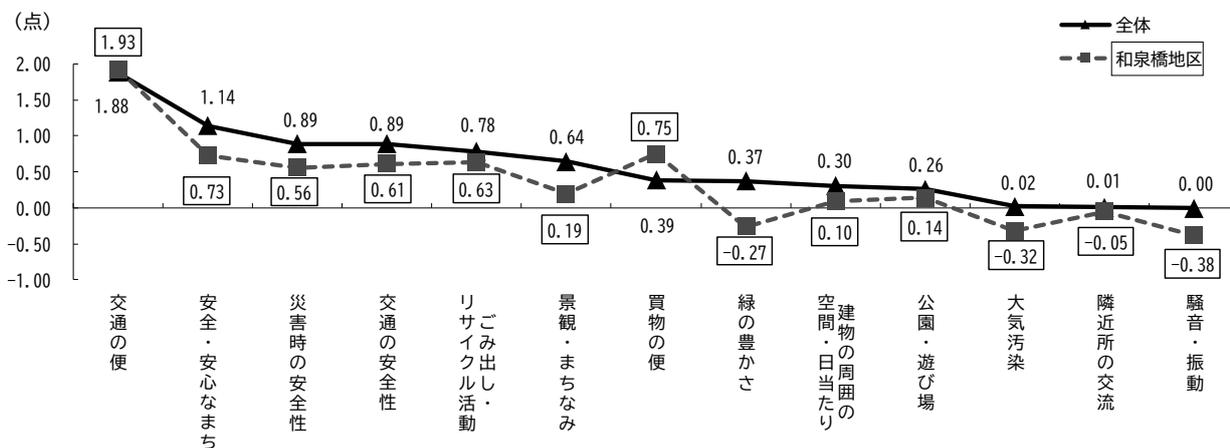
万世橋地区の評価点と区全体の平均を比較すると、全体より評価が高い項目は4項目となっており、特に“買物の便”(0.4点差)が高くなっている。一方で、全体よりも低い項目は“安全・安心なまち”(-0.48点差)、“緑の豊かさ”(-0.45点差)、“景観・まちなみ”(-0.4点差)、“騒音・振動”(-0.38点差)、“大気汚染”(-0.25点差)、“交通の安全性”(-0.2点差)、“災害時の安全性”(-0.16点差)、“建物の周囲の空間・日当たり”(-0.14点差)、“ごみ出し・リサイクル活動”(-0.13点差)の9項目となっている。(図2-1-20)

図2-1-20 周辺の生活環境評価 加重平均 (万世橋地区)



和泉橋地区の評価点と区全体の平均を比較すると、全体より評価が高い項目は2項目となっており、“買物の便”(0.36点差)と“交通の便”(0.05点差)が高くなっている。一方で、全体よりも低い項目は“緑の豊かさ”(-0.64点差)、“景観・まちなみ”(-0.45点差)、“安全・安心なまち”(-0.41点差)、“騒音・振動”(-0.38点差)、“大気汚染”(-0.34点差)、“災害時の安全性”(-0.33点差)、“交通の安全性”(-0.28点差)、“建物の周囲の空間・日当たり”(-0.2点差)、“ごみ出し・リサイクル活動”(-0.15点差)、“公園・遊び場”(-0.12点差)、“隣近所の交流”(-0.06点差)の11項目となっている。(図2-1-21)

図2-1-21 周辺の生活環境評価 加重平均 (和泉橋地区)



(2) 周辺の居住環境の満足度

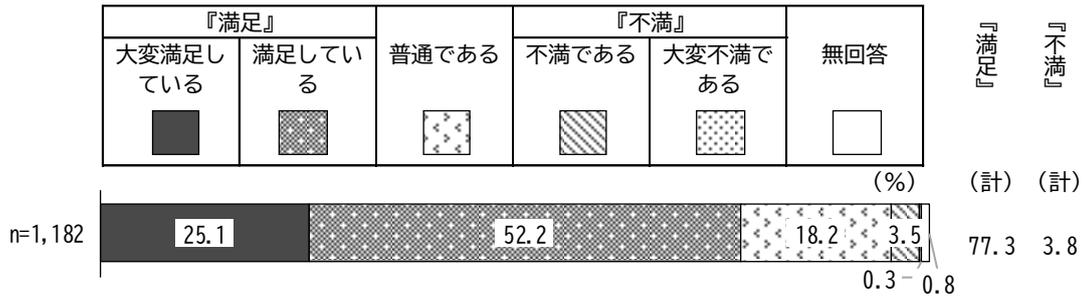
I 調査の概要

◇「満足している」が5割強

II 調査結果の要約

問4 あなたのお住まいやその居住環境について、当てはまるものを選んでください。
(○は1つ)

図2-2-1 周辺の居住環境の満足度



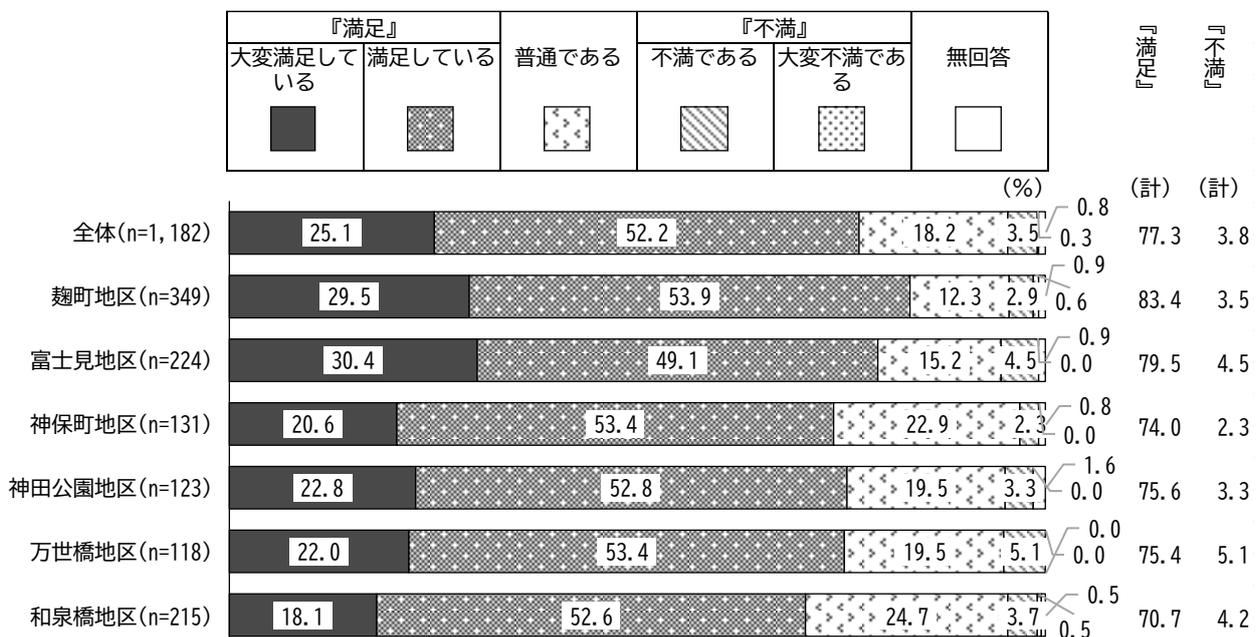
III 調査結果の分析

周辺の居住環境の満足度について聞いたところ、「満足している」(52.2%)が5割強と最も高く、これに「大変満足している」(25.1%)を合わせた『満足』(77.3%)が7割台半ばを超えとなっている。一方で、「不満である」(3.5%)と「大変不満である」(0.3%)を合わせた『不満』(3.8%)が1割未満となっている。(図2-2-1)

地区別にみると、「大変満足している」は富士見地区(30.4%)が約3割と最も高くなっている。(図2-2-2)

IV 調査結果の数表

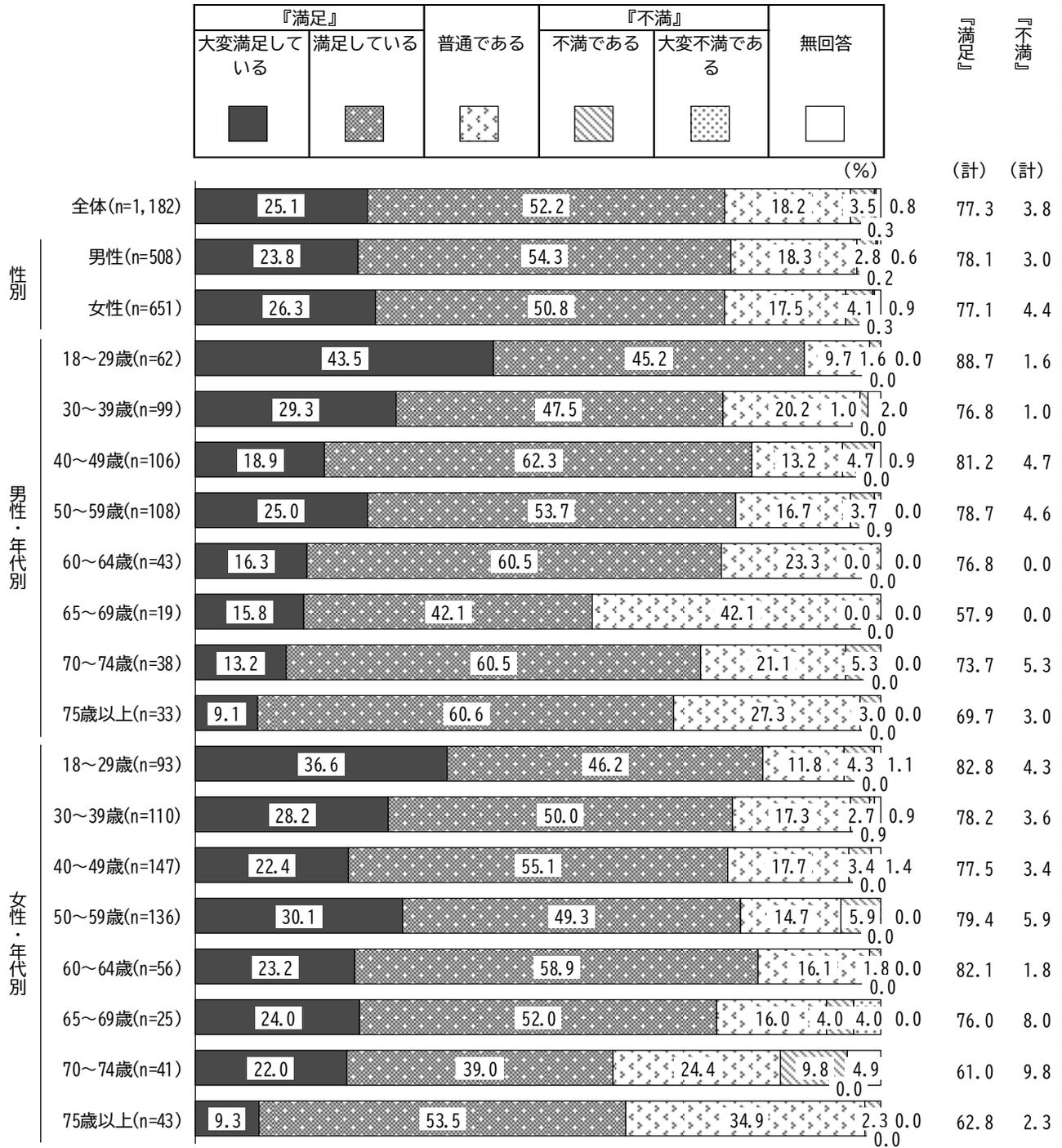
図2-2-2 周辺の居住環境の満足度(地区別)



V 調査票

性・年代別にみると、「大変満足している」と「満足している」を合わせた『満足』は男性18～29歳(88.7%)で9割近くと最も高くなっている。(図2-2-3)

図2-2-3 周辺の居住環境の満足度(性・年代別)



I

調査の概要

II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

IV

調査結果の数表

V

調査票

(2-1) 「周辺の生活環境評価」と「周辺の居住環境の満足度」

の相関分析

「(1) 周辺の生活環境評価」の各項目と「(2) 周辺の居住環境の満足度」から相関係数(r)を算出し、周辺の生活環境評価と居住環境の満足度の関係を分析した。

●相関係数(r)

相関係数(r)とは、2つのデータの関係の強さを数値(係数)で示したもので、-1から+1の間の数値となる。相関係数(r)の絶対値が1に近づくほど関係が強くなり、関係が低いと0に近くなる。

相関係数 (r)	考え方
$0 \leq r \leq 0.2$	ほとんど相関がない
$0.2 < r \leq 0.4$	弱い相関がある
$0.4 < r \leq 0.7$	中程度の相関がある
$0.7 < r \leq 1.0$	強い相関がある

●満足度と相関係数(r)

「周辺の生活環境評価」の各項目について、満足度と相関係数(r)を一覧にすると以下のようになった。

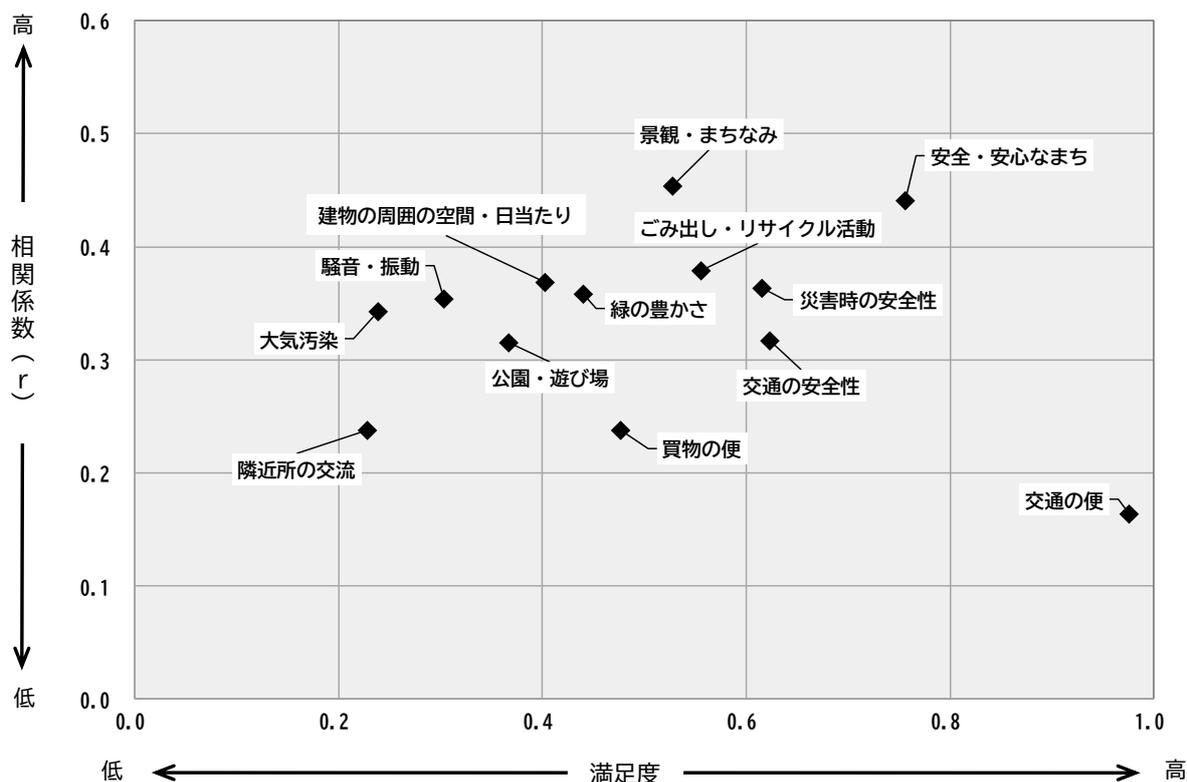
		満足度	相関係数(r)
1	交通の便	0.98	0.16
2	買物の便	0.48	0.24
3	公園・遊び場	0.37	0.32
4	建物の周囲の空間・日当たり	0.40	0.37
5	騒音・振動	0.30	0.35
6	大気汚染	0.24	0.34
7	緑の豊かさ	0.44	0.36
8	交通の安全性	0.62	0.32
9	災害時の安全性	0.62	0.36
10	安全・安心なまち	0.76	0.44
11	隣近所の交流	0.23	0.24
12	景観・まちなみ	0.53	0.45
13	ごみ出し・リサイクル活動	0.56	0.38

注) 満足度は、各項目の「良い」・「やや良い」の割合の合計となる。

「周辺の生活環境評価」の各項目について、「周辺の居住環境の満足度」との相関係数(r)、満足度を基に散布図に示した。

“景観・まちなみ”(0.45)、“安全・安心なまち”(0.44)の2項目は相関係数(r)が0.4を超えており、居住環境の満足度と中程度の相関がみられた。(図2-2-4)

図2-2-4 「周辺の生活環境評価」と「周辺の居住環境の満足度」の相関分析



3. 施策の満足度・重要度

(1) 施策の満足度・重要度

◇満足度が最も高いのは“防災対策”、最も低いのは“住宅対策”

◇重要度が最も高いのは“防災対策”、最も低いのは“男女平等、人権尊重の確立”

満足度（重要度）が高い ⇒ 「満足（重要）」と「やや満足（まあ重要）」の合計が高い

満足度（重要度）が低い ⇒ 「不満（重要でない）」と「やや不満（あまり重要でない）」の合計が高い

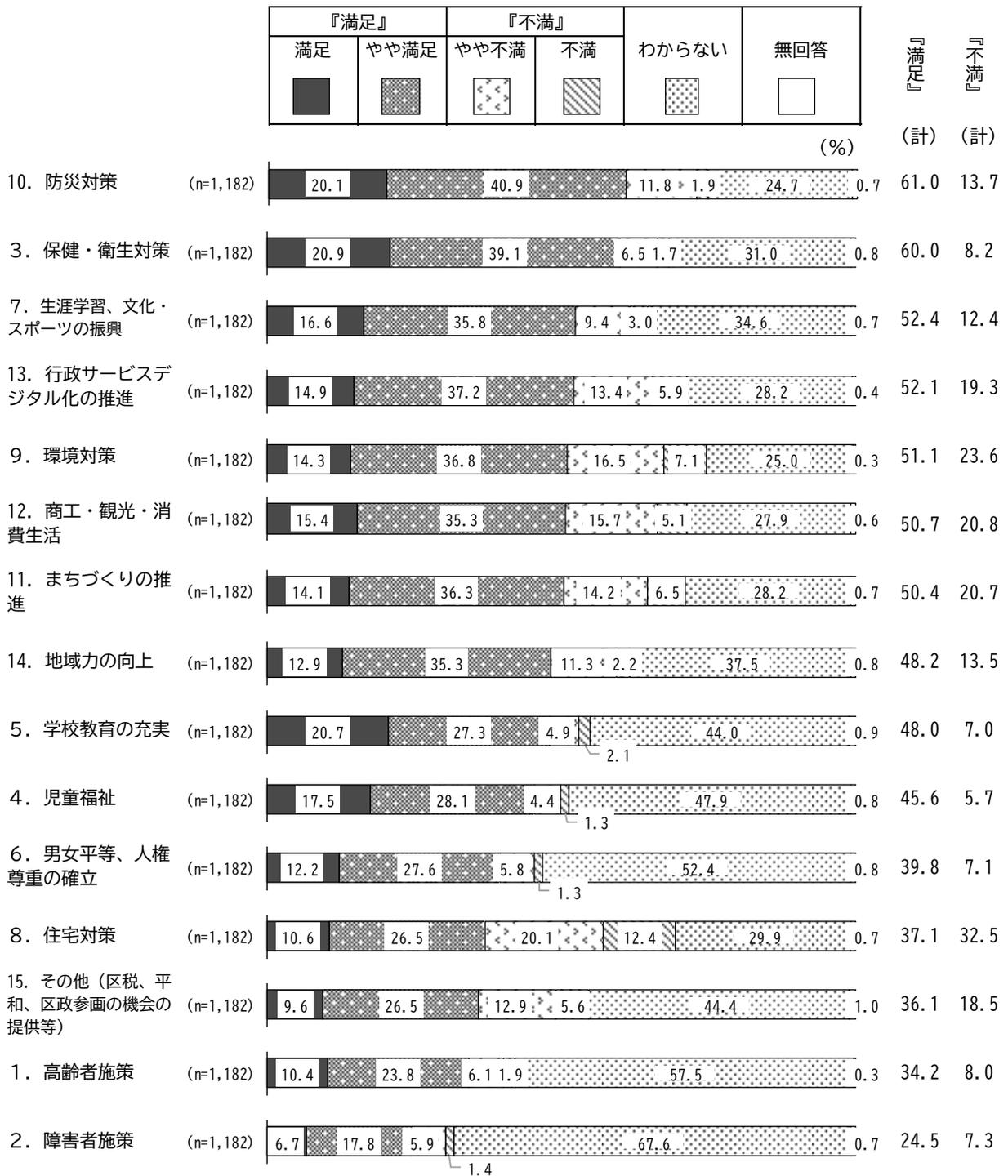
問5 あなたは、区政のそれぞれの分野についてどれくらい満足していますか。また、どれくらい重要(大切)だと思えますか。項目ごとに5段階で評価し、該当する番号に○を付けてください。(15分野すべてにご回答ください。)

表3-1-1 施策の満足度・重要度

(%)

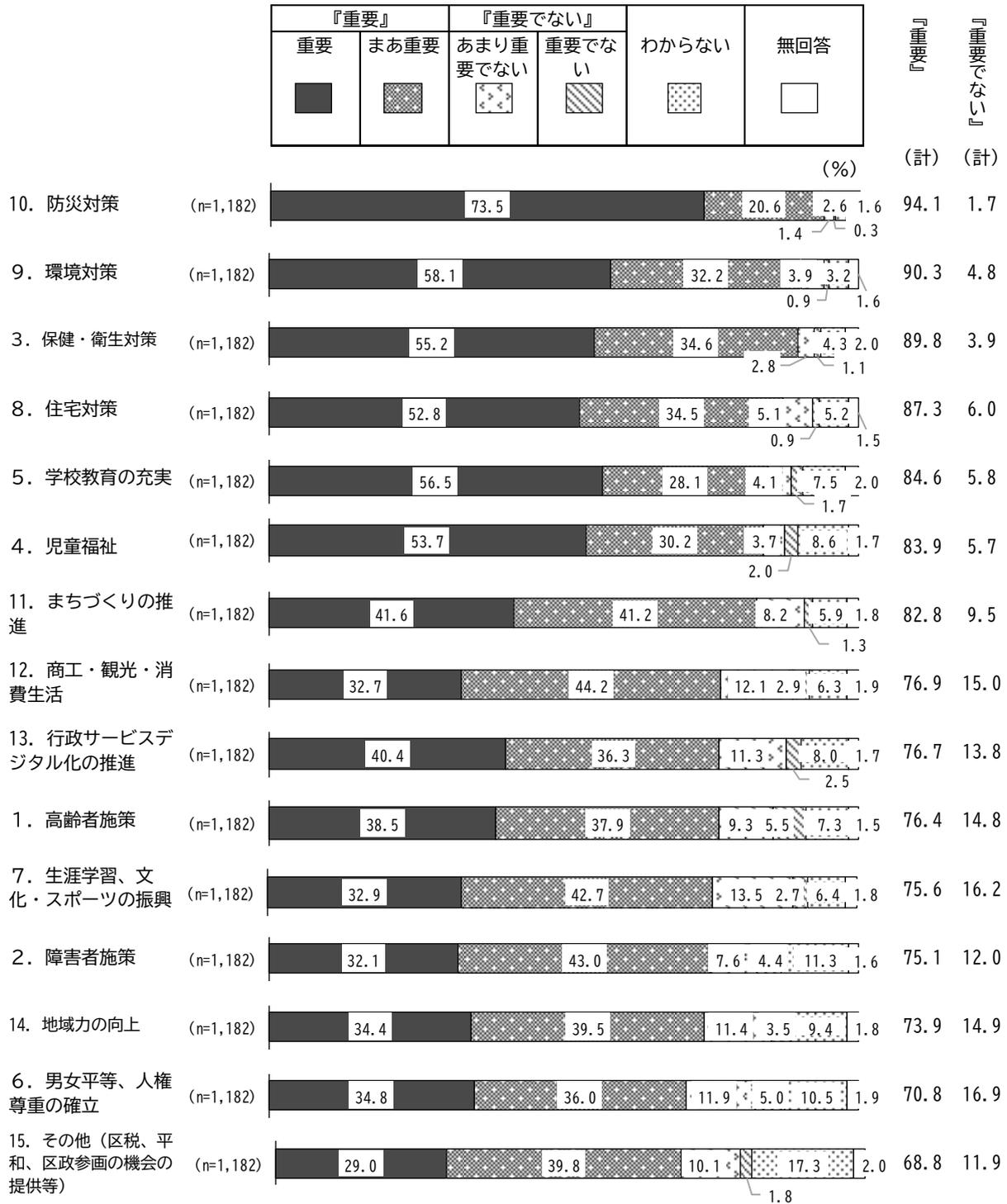
	満足度						重要度					
	1 満足	2 やや満足	3 やや不満	4 不満	5 わからない	無回答	1 重要	2 まあ重要	3 あまり重要でない	4 重要でない	5 わからない	無回答
n=1,182												
1. 高齢者施策	10.40	23.80	6.10	1.90	57.50	0.30	38.50	37.90	9.30	5.50	7.30	1.50
2. 障害者施策	6.70	17.80	5.90	1.40	67.60	0.70	32.10	43.00	7.60	4.40	11.30	1.60
3. 保健・衛生対策	20.90	39.10	6.50	1.70	31.00	0.80	55.20	34.60	2.80	1.10	4.30	2.00
4. 児童福祉	17.50	28.10	4.40	1.30	47.90	0.80	53.70	30.20	3.70	2.00	8.60	1.70
5. 学校教育の充実	20.70	27.30	4.90	2.10	44.00	0.90	56.50	28.10	4.10	1.70	7.50	2.00
6. 男女平等、人権尊重の確立	12.20	27.60	5.80	1.30	52.40	0.80	34.80	36.00	11.90	5.00	10.50	1.90
7. 生涯学習、文化・スポーツの振興	16.60	35.80	9.40	3.00	34.60	0.70	32.90	42.70	13.50	2.70	6.40	1.80
8. 住宅対策	10.60	26.50	20.10	12.40	29.90	0.70	52.80	34.50	5.10	0.90	5.20	1.50
9. 環境対策	14.30	36.80	16.50	7.10	25.00	0.30	58.10	32.20	3.90	0.90	3.20	1.60
10. 防災対策	20.10	40.90	11.80	1.90	24.70	0.70	73.50	20.60	1.40	0.30	2.60	1.60
11. まちづくりの推進	14.10	36.30	14.20	6.50	28.20	0.70	41.60	41.20	8.20	1.30	5.90	1.80
12. 商工・観光・消費生活	15.40	35.30	15.70	5.10	27.90	0.60	32.70	44.20	12.10	2.90	6.30	1.90
13. 行政サービスデジタル化の推進	14.90	37.20	13.40	5.90	28.20	0.40	40.40	36.30	11.30	2.50	8.00	1.70
14. 地域力の向上	12.90	35.30	11.30	2.20	37.50	0.80	34.40	39.50	11.40	3.50	9.40	1.80
15. その他（区税、平和、区政参画の 機会の提供等	9.60	26.50	12.90	5.60	44.40	1.00	29.00	39.80	10.10	1.80	17.30	2.00

図3-1-2 施策の満足度



施策の満足度について聞いたところ、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』は“防災対策”（61.0%）が6割強と最も高く、次いで“保健・衛生対策”（60.0%）が6割と高くなっている。一方で、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』は“住宅対策”（32.5%）が3割強と最も高くなっている。（図3-1-2）

図3-1-3 施策の重要度



「重要」と「まあ重要」を合わせた『重要』は“防災対策”（94.1%）が9割台半ば近くと最も高くなっている。一方で、「あまり重要でない」と「重要でない」を合わせた『重要でない』は“男女平等、人権尊重の確立”（16.9%）と“生涯学習、文化・スポーツの振興”（16.2%）が1割台半ばを超えと高くなっている。（図3-1-3）

●加重平均値

満足度・重要度を比率でみるのとは別に、比較をより明確にするため、加重平均による数量化を行った。下記の計算式のように、5段階の各評価にそれぞれ点数を与え、評価点を算出した。「わからない」については0点として扱った。

$$\text{満足度評価点} = \frac{\text{「満足」の回答者数} \times 2 \text{点} + \text{「やや満足」の回答者数} \times 1 \text{点} + \text{「やや不満」の回答者数} \times -1 \text{点} + \text{「不満」の回答者数} \times -2 \text{点}}{\text{回答者数}}$$

$$\text{重要度評価点} = \frac{\text{「重要」の回答者数} \times 2 \text{点} + \text{「やや重要」の回答者数} \times 1 \text{点} + \text{「あまり重要でない」の回答者数} \times -1 \text{点} + \text{「重要でない」の回答者数} \times -2 \text{点}}{\text{回答者数}}$$

注) 回答者数は、無回答を除く。

この算出方法では、満足度評価点はプラス2点からマイナス2点の間に分布し、中点の0点を境に、プラスの値が大きいほど満足度が高くなり、マイナスの値が大きいほど不満度が高くなる。

また、重要度評価点はプラス2点からマイナス2点の間に分布し、中点の0点を境に、プラスの値が大きいほど重要度が高くなり、マイナスの値が大きいほど重要度が低くなる。地区別に満足度をみると、麴町地区では、“保健・衛生対策”(0.90)が高くなっている。富士見地区では、“保健・衛生対策”(0.75)が高くなっている。神保町地区では、“防災対策”(0.55)が高くなっている。神田公園地区では、“保健・衛生対策”(0.74)が高くなっている。万世橋地区では、“防災対策”(0.74)が高くなっている。和泉橋地区では、“保健・衛生対策”(0.58)が高くなっている。(表3-1-4)

地区別に重要度をみると、全ての地区で“防災対策”が最も高く、地区別では万世橋地区(1.78)、麴町地区(1.71)、神田公園地区(1.70)、富士見地区(1.69)、神保町地区(1.64)、和泉橋地区(1.62)の順となっている。

また、万世橋地区(1.54)、麴町地区(1.51)、富士見地区(1.49)、神保町地区(1.39)では“環境対策”が2番目に高く、神田公園地区では“住宅対策”(1.47)、和泉橋地区では“保健・衛生対策”(1.41)がそれぞれ2番目に高くなっている。(表3-1-4)

表3-1-4 施策の満足度評価点・重要度評価点(地区別)

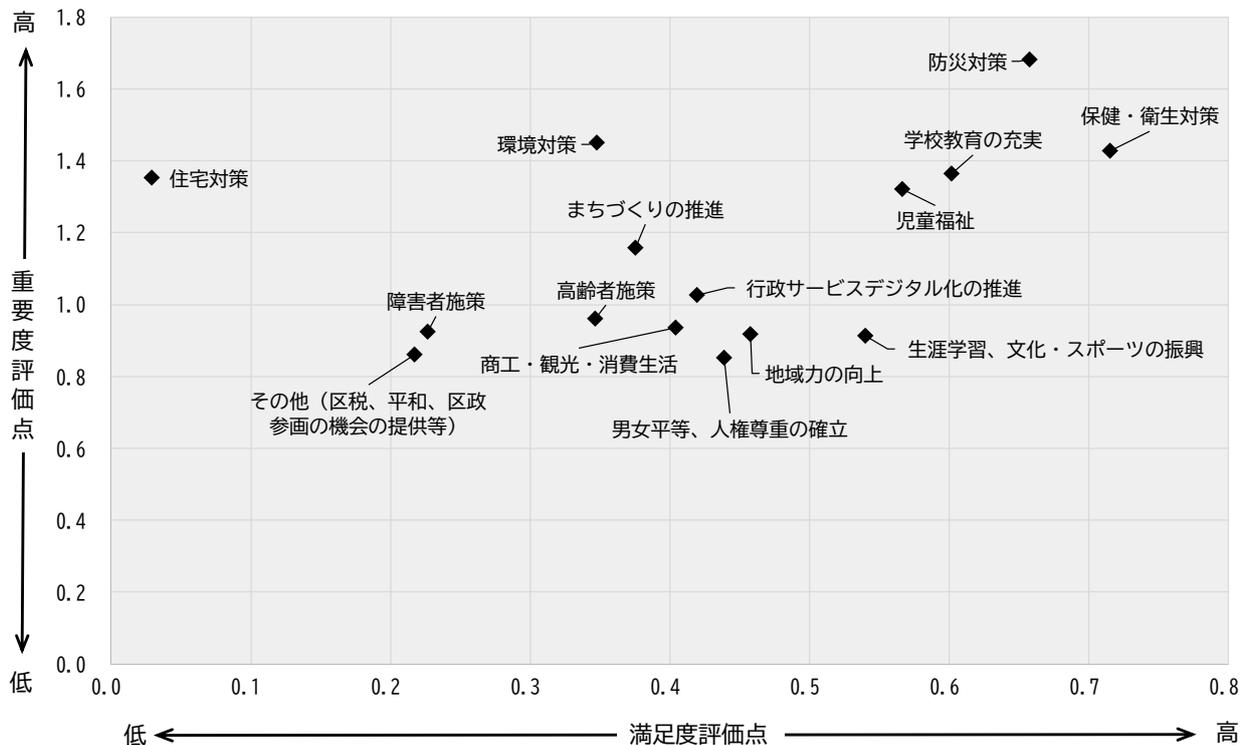
(点)

	満足度							重要度						
	全体	麴町地区	富士見地区	神保町地区	神田公園地区	万世橋地区	和泉橋地区	全体	麴町地区	富士見地区	神保町地区	神田公園地区	万世橋地区	和泉橋地区
1. 高齢者施策	0.35	0.43	0.37	0.22	0.39	0.36	0.21	0.96	1.12	1.03	0.89	0.81	0.92	0.77
2. 障害者施策	0.23	0.28	0.31	0.21	0.18	0.18	0.13	0.92	1.01	1.05	0.85	0.79	1.01	0.73
3. 保健・衛生対策	0.72	0.90	0.75	0.51	0.74	0.57	0.58	1.43	1.49	1.42	1.37	1.34	1.47	1.41
4. 児童福祉	0.57	0.67	0.63	0.43	0.59	0.45	0.49	1.32	1.39	1.34	1.18	1.23	1.28	1.37
5. 学校教育の充実	0.60	0.73	0.72	0.49	0.60	0.45	0.45	1.36	1.40	1.42	1.24	1.32	1.28	1.38
6. 男女平等、人権尊重の確立	0.44	0.56	0.37	0.39	0.48	0.31	0.39	0.85	0.98	0.82	0.80	0.74	0.84	0.78
7. 生涯学習、文化・スポーツの振興	0.54	0.57	0.53	0.50	0.66	0.53	0.47	0.91	0.93	0.96	0.78	0.87	0.94	0.93
8. 住宅対策	0.03	0.09	0.03	0.10	-0.02	-0.16	-0.03	1.35	1.37	1.28	1.31	1.47	1.42	1.37
9. 環境対策	0.35	0.60	0.42	0.20	0.33	0.08	0.10	1.45	1.51	1.49	1.39	1.32	1.54	1.39
10. 防災対策	0.66	0.82	0.59	0.55	0.70	0.74	0.44	1.68	1.71	1.69	1.64	1.70	1.78	1.62
11. まちづくりの推進	0.38	0.44	0.42	0.40	0.45	0.25	0.25	1.16	1.19	1.24	1.04	1.12	1.24	1.09
12. 商工・観光・消費生活	0.40	0.34	0.48	0.40	0.56	0.50	0.28	0.93	0.86	0.99	0.83	0.90	1.09	1.02
13. 行政サービスデジタル化の推進	0.42	0.42	0.52	0.33	0.38	0.40	0.46	1.03	1.04	0.95	0.99	1.08	1.17	1.04
14. 地域力の向上	0.46	0.53	0.46	0.36	0.53	0.41	0.40	0.92	0.90	0.97	0.90	0.80	0.99	0.95
15. その他(区税、平和、区政参画の機会提供等)	0.22	0.28	0.26	0.20	0.23	0.12	0.15	0.86	0.82	0.82	0.84	0.93	0.97	0.87

次の図は、加重平均値による満足度評価と重要度評価を相関させた散布図である。横軸が満足度評価点、縦軸が重要度評価点になっている。

右に位置するほど満足度が高く、上に位置するほど重要度が高いと言える。満足度評価点が低く、重要度評価点が高い領域（左上方）にある項目が、住民ニーズの高いものと考えられる。（図3-1-5）

図3-1-5 施策の満足度評価点・重要度評価点の相関



I 調査の概要

II 調査結果の要約

III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

V 調査票

4. 区の施策への要望

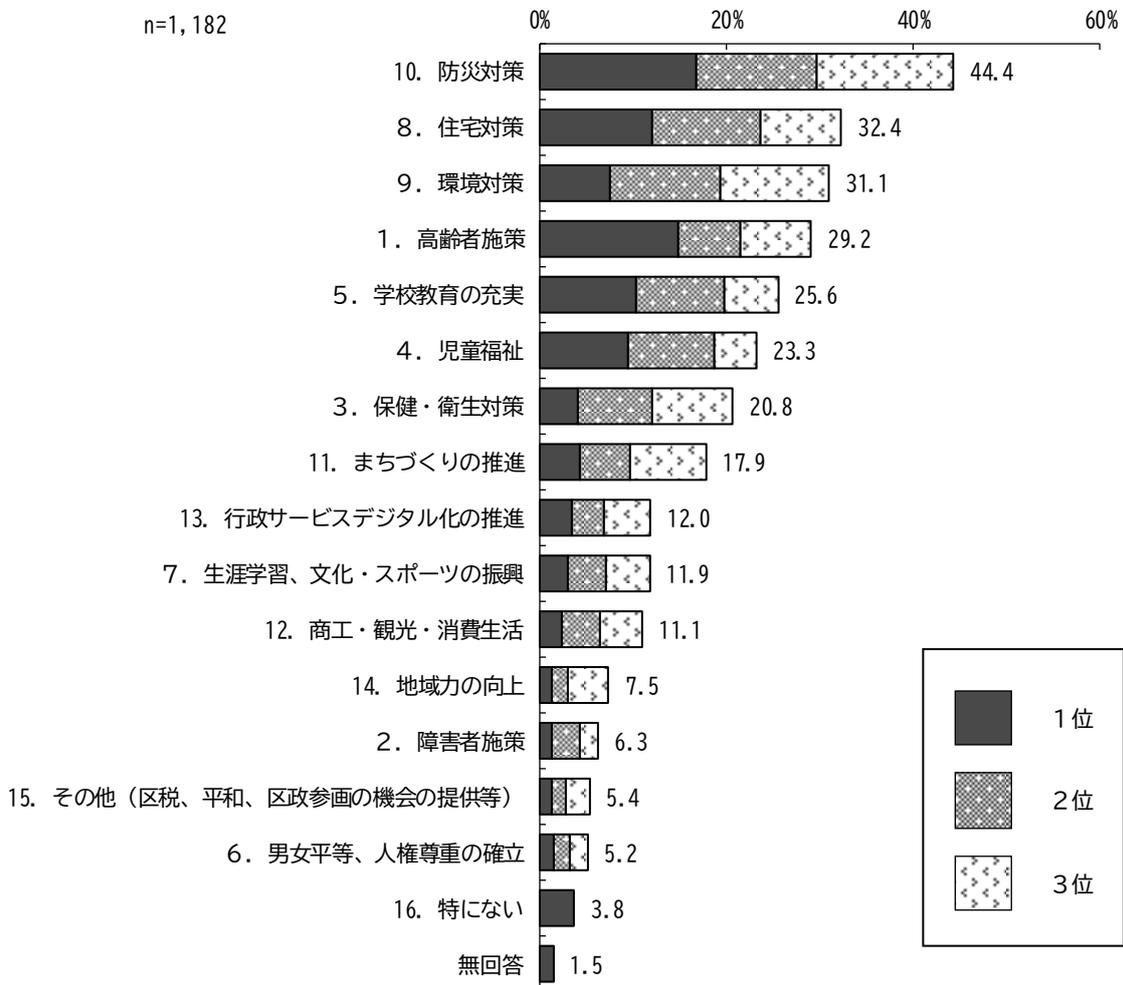
(1) 力を入れてほしい施策

◇「防災対策」が4割台半ば近く

問6 これからの区政全体について、あなたは、どの分野に力を入れてもらいたいと思いますか。下記1～16の中から優先順位の高い順に3つ選んで番号を記入してください。

問6-1 問6で選んだ分野の中の「具体的な要望」で優先度の高い項目を3つ選んで○をつけてください。

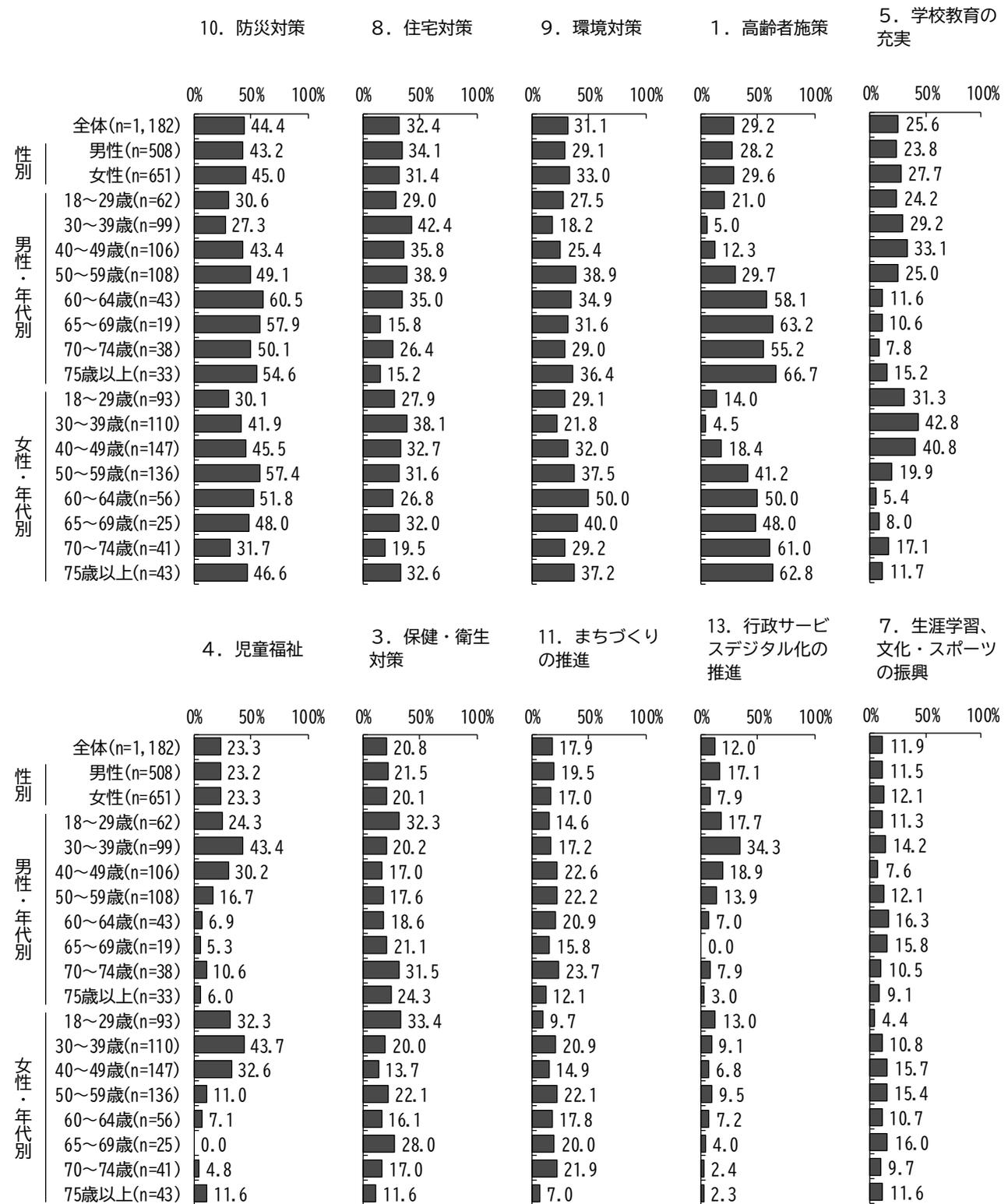
図4-1-1 力を入れてほしい施策



力を入れてほしい施策について聞いたところ、「防災対策」(44.4%)が4割台半ば近くと最も高く、次いで「住宅対策」(32.4%)と「環境対策」(31.1%)が3割強、「高齢者施策」(29.2%)が3割弱となっている。(図4-1-1)

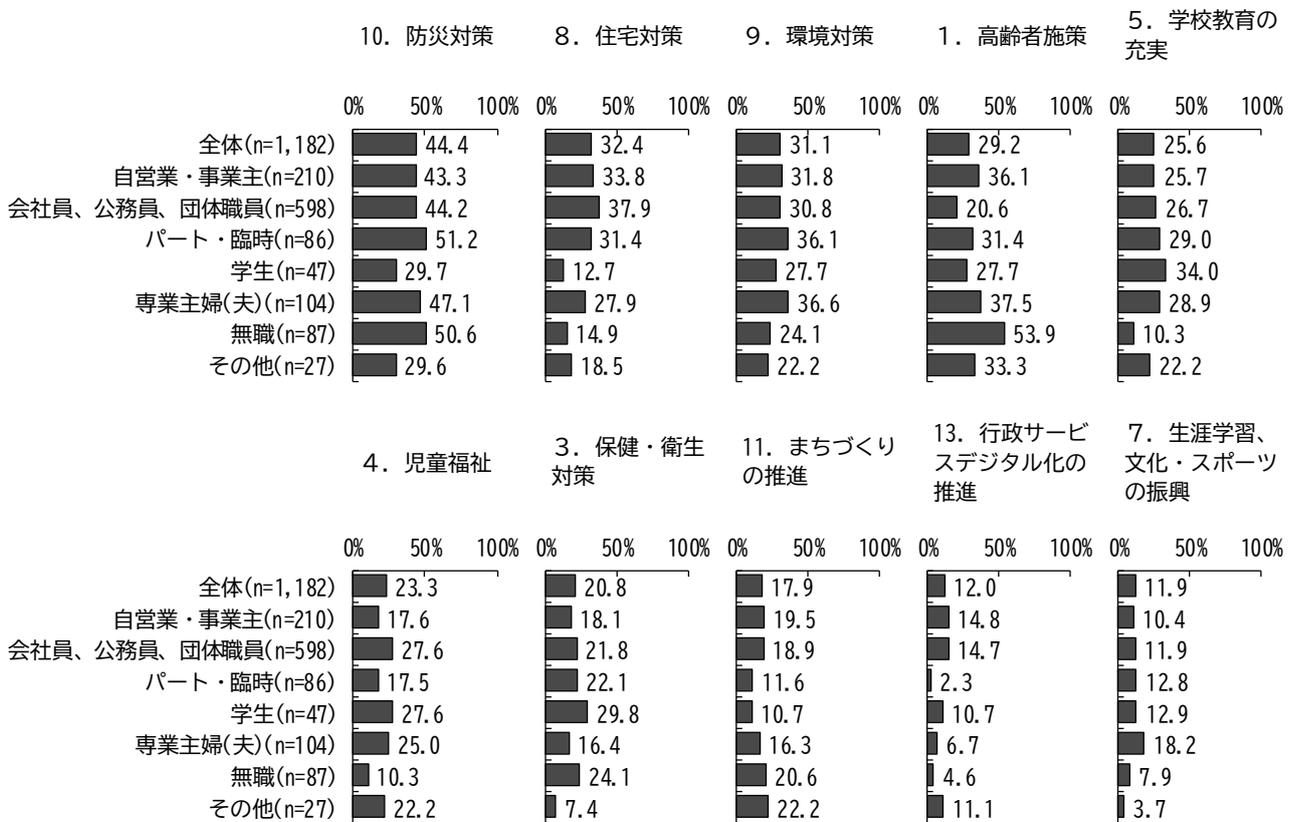
性・年代別にみると、「高齢者施策」は男性75歳以上(66.7%)が6割台半ばを超えと最も高く、次いで男性65～69歳(63.2%)が6割台半ば近くと高くなっている。また、「学校教育の充実」は女性30～39歳(42.8%)が4割強と最も高くなっている。(図4-1-2)

図4-1-2 力を入れてほしい施策(性・年代別) - 上位10分野 -



職業別にみると、「高齢者施策」は無職(53.9%)が5割台半ば近くと最も高くなっている。(図4-1-3)

図4-1-3 力を入れてほしい施策（職業別）－上位10分野－



世帯構成別にみると、「学校教育の充実」は子どもがいる世帯(45.9%)が4割台半ばと最も高くなっている。(図4-1-4)

図4-1-4 力を入れてほしい施策（世帯構成別）－上位10分野－

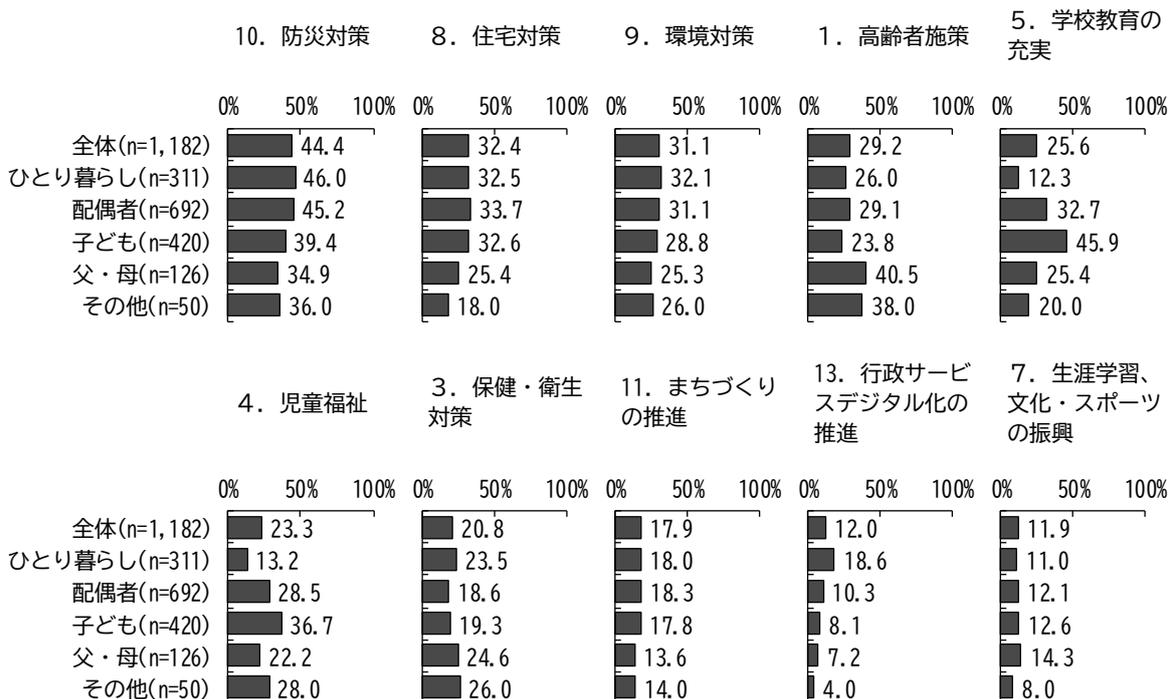
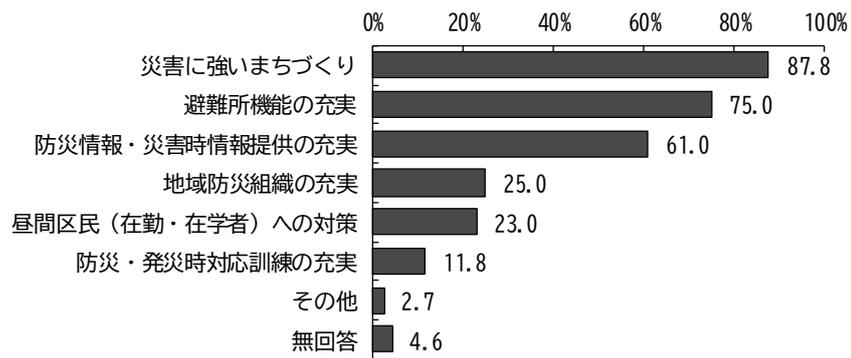
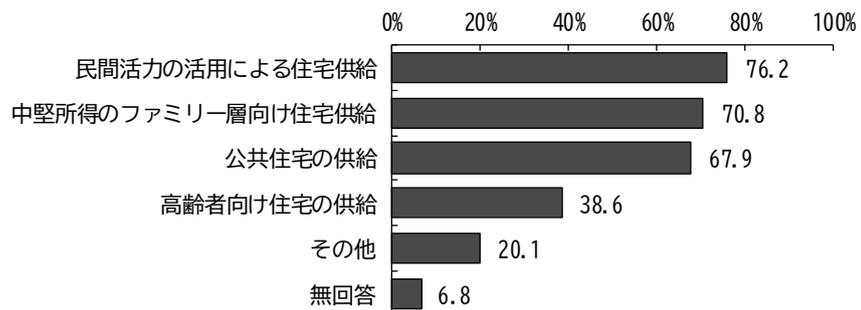


図4-1-5 力を入れてほしい施策—分野別要望—（問6-1）

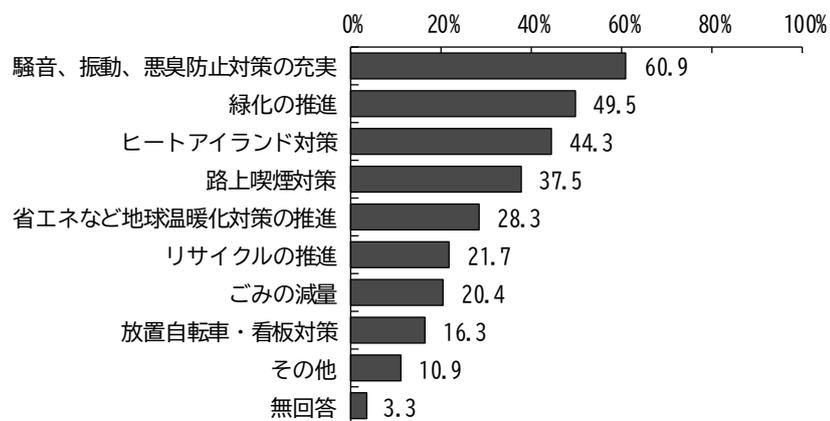
【1位】10. 防災対策
n=525



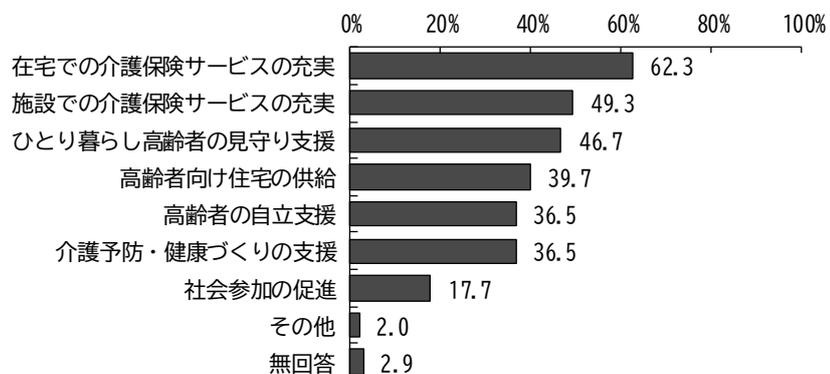
【2位】8. 住宅対策
n=383



【3位】9. 環境対策
n=368



【4位】1. 高齢者施策
n=345



I
調査の概要

II
調査結果の要約

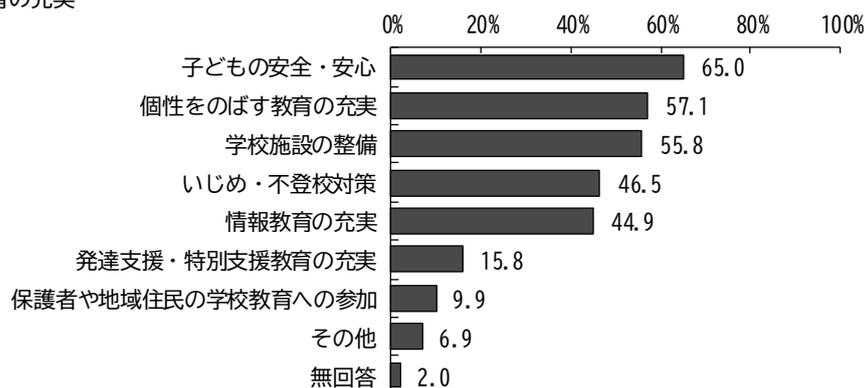
III
調査結果の分析

IV
調査結果の数表

V
調査票

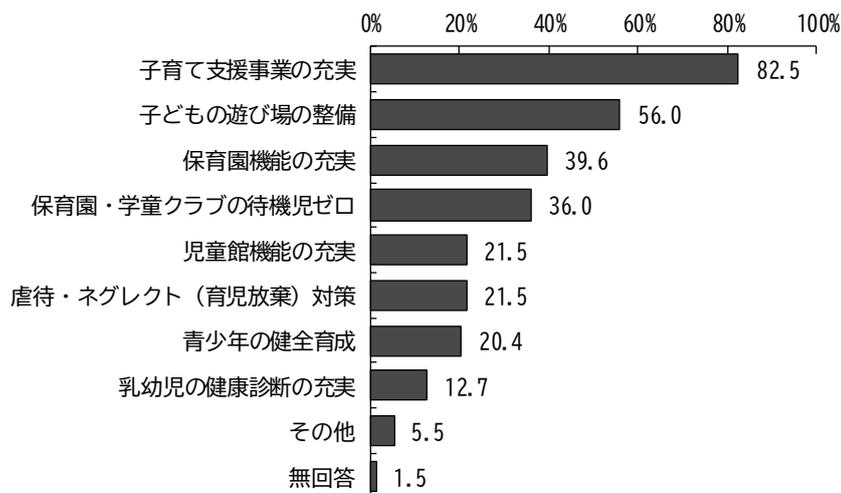
【5位】5. 学校教育の充実

n=303



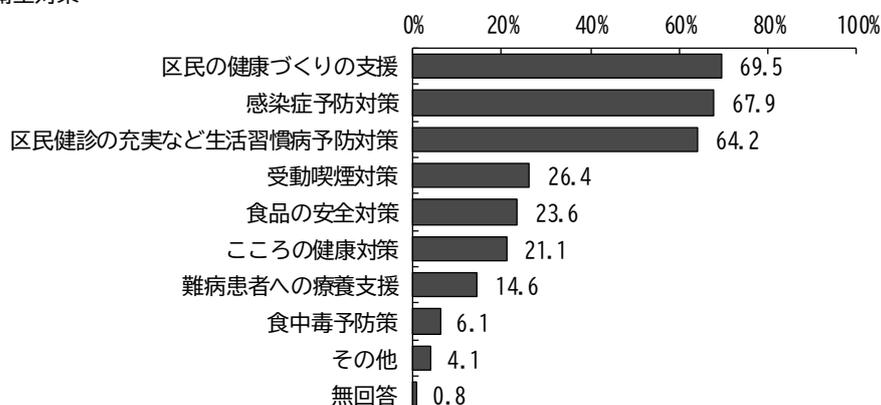
【6位】4. 児童福祉

n=275



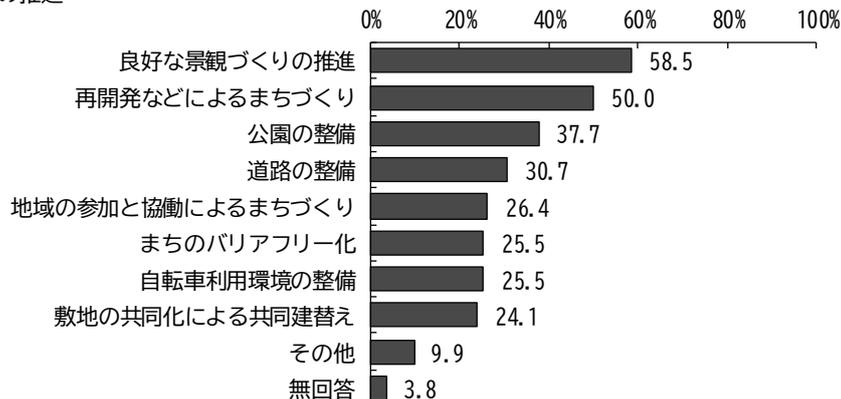
【7位】3. 保険・衛生対策

n=246



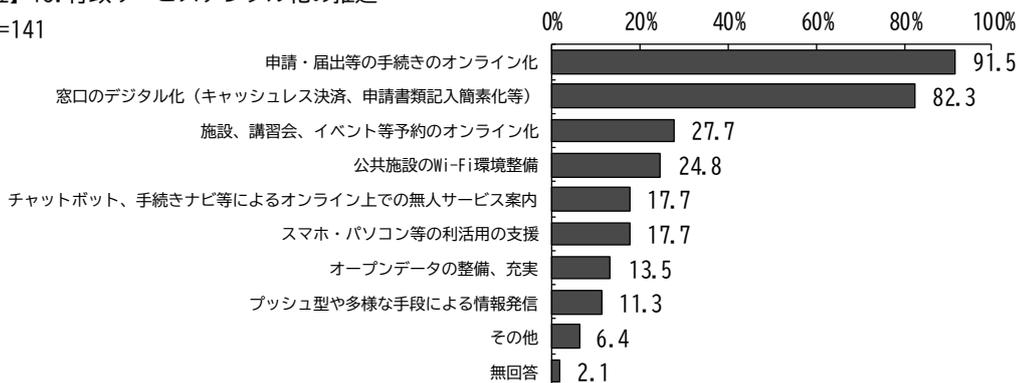
【8位】11. まちづくりの推進

n=212



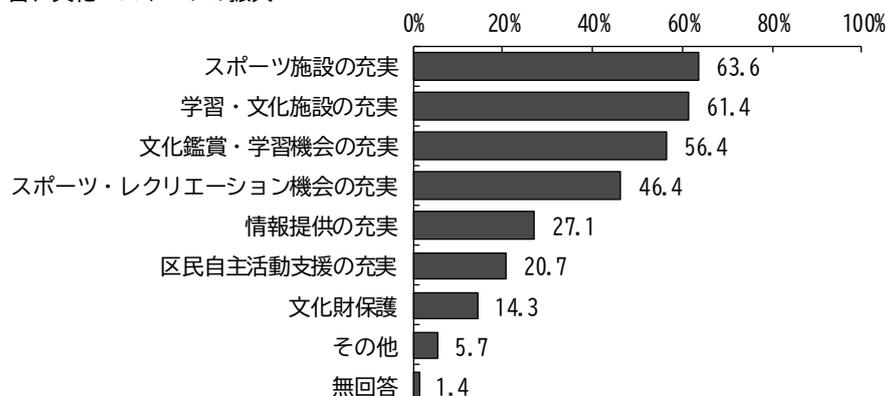
【9位】13. 行政サービスデジタル化の推進

n=141



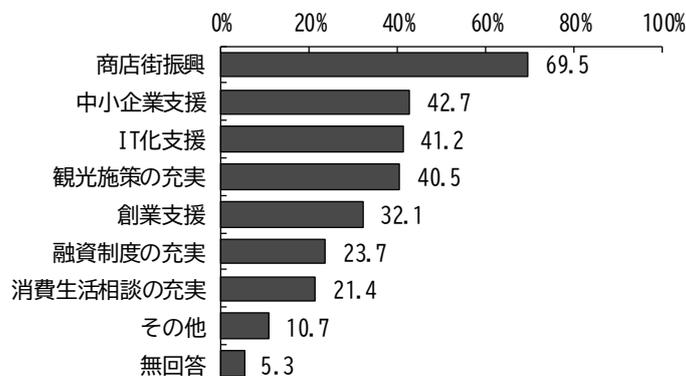
【10位】7. 生涯学習、文化・スポーツの振興

n=140



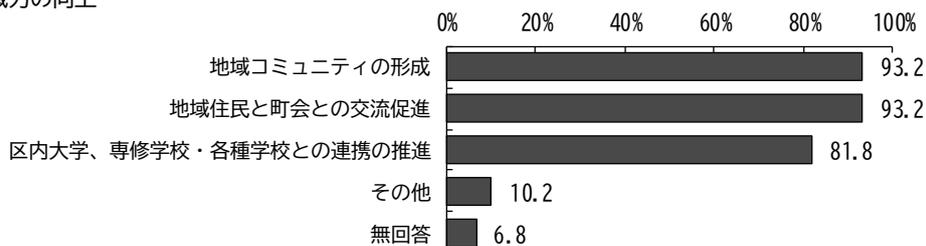
【11位】12. 商工・観光・消費生活

n=131



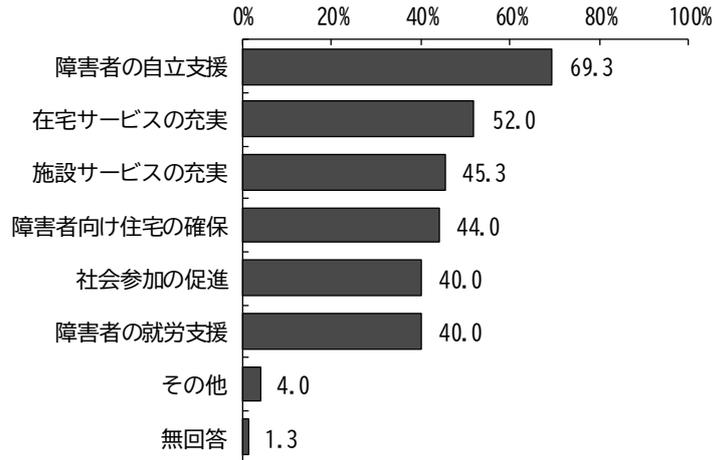
【12位】14. 地域力の向上

n=88



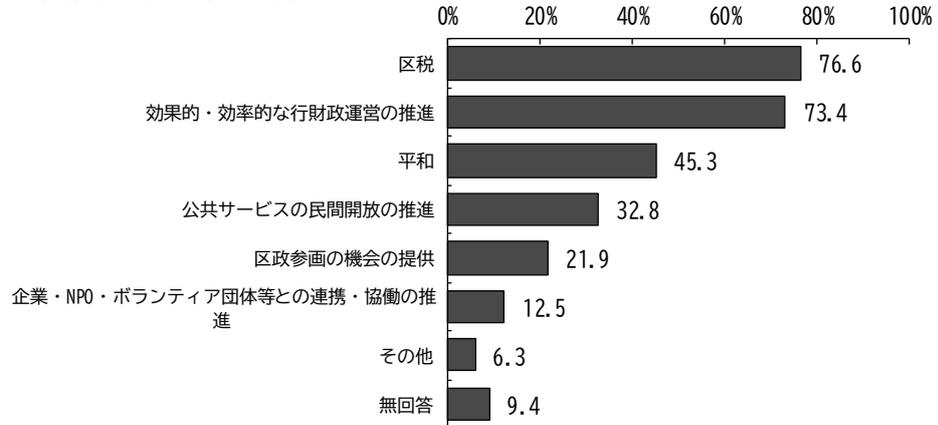
【13位】 2. 障害者施策

n=75



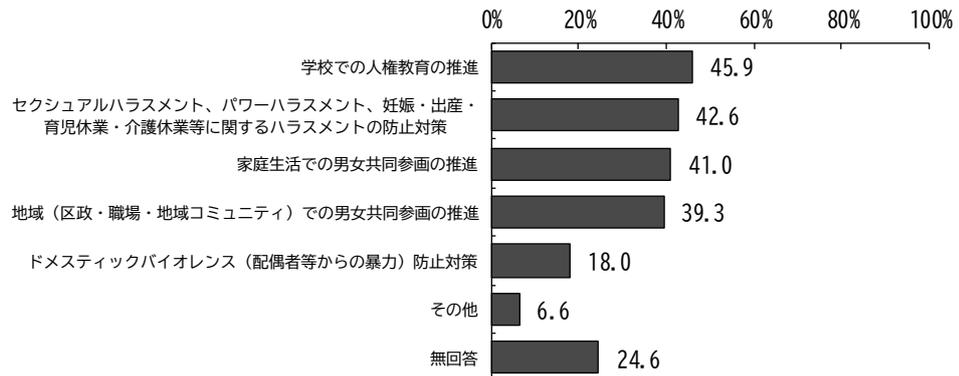
【14位】 15. その他(区税、平和、区政参画の機会の提供等)

n=64



【15位】 6. 男女平等、人権尊重の確立

n=61



I 調査の概要

II 調査結果の要約

III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

V 調査票

「その他」を具体的に記述した方の人数と意見の概要は以下の通り

1. 高齢者施策：7名

- ・自宅での看取り（単身者）
- ・高齢者救急
- ・介護費用の補助
- ・身寄りのない高齢者への身元保証・死後事務支援
- ・入居時の保証人に公的機関でなしてほしい
- ・杖をついた方、途中で休めるベンチがなく壁ぎわに立っているのを見る。バリアフリー以外にも高齢者が歩き易い環境作り。

2. 障害者施策：3名

- ・軽度障害者の教育支援
- ・精神障害に対する支援
- ・差別解消・啓発

3. 保健・衛生対策：10名

- ・ねずみ、ゴキブリ対策…夜道でよく見かけます。
- ・乳がん検査を20才以上から実施してほしい。40代～は遅過ぎる。性病の無料検査の頻度と検査項目を増やしてほしい。月1回のみで、さらに追加検査の結果確認も月1回のみで時間も指定（しかも9：30-10：00とタイト）は厳しい。到底気軽に受けられない。また他の検査項目（文京区実施の4項目など）も増やしてほしい。またネット予約（emailではなく、匿名性が担保されるgoogleフォームなど）をできるようにしてほしい。
- ・子どもや高齢者以外のインフルエンザワクチン接種等の助成
- ・区内飲食店等従事者様の健診含衛生管理の徹底←昼間人口数多であり免疫等疾患のあられる国民確率が他区より高いと思われる為
- ・妊娠出産支援
- ・医療費軽減しすぎない
- ・区営の喫煙所の増設

4. 児童福祉：15名

- ・公立幼稚園・小学校・中学校の充実
- ・区立保育園、幼稚園の機能充実
- ・保育園や学童クラブと同等以上に、それに従事する方々の待遇改善
- ・学童クラブの時間延長、給食導入（長期休み時）
- ・病児保育の充実
- ・学校教育の充実
- ・不登校児への支援。内申点ゼロで将来の道も閉ざされる状況を改善してほしい
- ・子育ての手当
- ・出産助成金など出産率を上げる政策を組んだほうが良い
- ・ひとり親世帯の補助
- ・保護者が、自身で子育てが出来るようになる為の研修など

I
調査の概要

II
調査結果の要約

III
調査結果の分析

IV
調査結果の数表

V
調査票

- ・子どもを地域住民で見守る体制作り

5. 学校教育の充実：21名

- ・学区の柔軟性
- ・基礎的学力の向上
- ・心の成長に繋がる教育の充実
- ・知的好奇心を育む教育
- ・同一年度同一学年をやめる、一斉授業の廃止など
- ・教員数の増加
- ・英語教育の充実
- ・実践に役立つ英語教育
- ・言葉のわからない外国児童や問題のある児童に特別手厚く人員を割くのではなく、問題なく授業が受けられる生徒たちへのしっかりとした教育と環境づくりにも力を入れてほしい。
- ・デジタル化すぎは目を痛めたり心も痛むと思うので対策をしてほしい
- ・タブレットが重い。永田町2丁目から麴町小までが遠く、大変そうです。
- ・中学、高校の制服購入費や設備費など授業料以外の必要費の補助
- ・働く親の子育て支援
- ・給食の飲み物を、水筒の中身または牛乳に選択できるようにしてほしい。

6. 男女平等、人権尊重の確立：4名

- ・男女同権の推進
- ・職場・企業における男女平等
- ・LGBTQへの平等推進と言いながら、スポーツ施設の利用や更衣室などでまだまだ差別や区別がある点。性別にとらわれない個室更衣室などの設置をして欲しい。
- ・同性カップルのパートナーシップ

7. 生涯学習、文化・スポーツの振興：8名

- ・空き施設の区民への使用開放
- ・スポーツ施設（安価）の増設/移転。神田のは古過ぎる。社会人が使用しにくい。交通の便も悪い。学生がコート等を占有している。
- ・図書館の返却ポストを出張所などにおいてほしい。
- ・小学校一年から中1まで千代田区に住んでおり、番町小学校に通っていましたが。当時、図書室はとても充実していたのですが千代田小学校の地域開放の図書室が古い図書も多く量も少なく驚きました。子供のためにも地域のためにも地域の図書室の整備には力を入れて欲しいです。
- ・区在住のプロ演奏家の演奏を気軽に聞きたい。アマチュア団体の発表の場も増やしてほしい。
- ・神保町古書店街の保護
- ・高齢者の100歳まで自分で歩ける体力、筋力作りの自主参加型プログラム、施設の充実
- ・スポーツ医療の充実

8. 住宅対策：75名

- ・外国人に住宅を売り渡し過ぎないようにし、外国人の不動産取得に上限を設けて欲しい。千代田区に低所得者向きの公共住宅は不要。
- ・投資目的の購入の規制
- ・主に外国人や投資目的での住宅購入の規制。区だけでなく、都や国に働きかけて規制をしないと一般国民が買えない、住めない街になる。
- ・マンション価格上昇抑制、投資目的購入制限目的に非住居利用購入への課税強化
- ・投資家によるマンション価格高騰の抑制
- ・外国人による買い占め、転売などによる住宅価格の高騰対策
- ・実際には住まない、投機筋外国人の中古・分譲物件の買付禁止
- ・外国人の不動産購入の規制
- ・住居の転売対策
- ・外国人による不動産売買規制の更なる強化と高騰対策。このままでは日本人が住み続けられなくなる。
- ・家賃高騰に対する対策（特に外国人の購入に対する対策）
- ・マンション価格の高騰が賃貸家賃に影響を及ぼしている。マンション転売対策等いろいろな対策を実施して欲しい。
- ・住宅価格高騰、マンション価格高騰を抑えるための対策と外国人による住宅購入を制限する政策の充実を求めます
- ・分譲賃貸の抑制
- ・住宅価格抑制のための方策の充実
- ・住宅価格の抑制（適正化）
- ・家賃補助 更新料補助
- ・住宅ローン減税や購入者向け給付金
- ・高所得者も税金が重いので住宅支援は所得制限を設けないでほしい。区に長く住んでいる住民への優遇等を検討してほしい。
- ・家賃、ローンの支援
- ・住宅費用の補助
- ・千代田区内就労者かつ千代田区民への補助
- ・カップル向けの住宅供給
- ・安価な賃貸マンションの供給
- ・築年数が古いマンションの建て替え
- ・安価な単身世代向け住宅の供給
- ・個人所有宅のリフォーム・建て替え助成
- ・実需向け不動産の確保
- ・景観に配慮した住宅供給
- ・違法民泊の無い安心安全な住宅
- ・周りのマンションが、外国人の宿になっていて、治安が不安です。
- ・夜間の飲食営業の規制
- ・容積緩和

I
調査の概要

II
調査結果の要約

III
調査結果の分析

IV
調査結果の数表

V
調査票

- ・再開発を通して日本、東京を代表する魅力ある街づくり

9. 環境対策：39名

- ・ネズミ対策
- ・路上の鳩害、ネズミ対策
- ・ネズミへの対策
- ・ネズミ駆除、歩道ごみ集積場のカラス対策
- ・ハクビシンやネズミを見かけましたので、そういった動物の駆除
- ・蚊の発生源の抑制
- ・鳩のえさやりと糞公害の解消
- ・ポイ捨て
- ・ゴミの分別、リチウム電池処理法
- ・路上放置ごみ対策
- ・市ヶ谷駅地下通路の悪臭・壁、通路をきれいにしたい
- ・治安対策
- ・防犯対策
- ・路上喫煙対策に関するが、喫煙場所が判りづらい（案内板）。ポイ捨てはしていないようなので、場所がわかればそこで吸ってくれそうです。
- ・歩道の半分ほどを飲食店、マッサージ店の看板が占有している場所があり、そのような看板の禁止及び路上客引きの徹底した排除
- ・千代田区は海外の方が多く見受けられるので、外からの方々に対する対策
- ・逆走、信号無視の自転車が多いです。
- ・路上駐車 大型バス・タクシーなどの交差点近くでの乗り降り
- ・神田川騒音対策（スピードボート騒音がひどい）
- ・シェアサイクル拡充
- ・より多くの緑化公園の設置
- ・公園を増やす
- ・現存している緑の維持管理←特に歴史的緑
- ・マンション新築によるビル風、陽当り問題、高さ制限
- ・太陽光パネル反対
- ・太陽光発電（メガソーラーシステム）の低減
- ・安心して出歩ける環境

10. 防災対策：14名

- ・災害発生に対する「減災」対策の向上・充実
- ・防災情報・災害時情報提供について：具体的な対応案の周知
- ・防災必需品の各家庭への配布
- ・昼間区外にいても千代田区民として千代田区より防災サポートを受けたい
- ・古い家屋の管理
- ・救急車、消防車が迅速に通行できるような道の整備
- ・非住宅の木造建築物に対する耐震助成等の拡充

- ・水害（特に内水氾濫）対策
- ・電柱の地下埋設
- ・避難施設の設置or充実
- ・自衛隊との連携
- ・省庁及び医療連携充実
- ・災害時に自宅で過ごすための支援

11. まちづくりの推進：20名

- ・電信柱の地中化
- ・道路の広場化などの柔軟な活用
- ・電線の地中化と共同溝推進、歩行者最優先の道路整備（特に路地で、現在は歩行者が脇の狭い幅に追いやられている）
- ・道路の緑化によって夏でも気温が高くなりすぎないようにすること
- ・下水道などのインフラ老朽化の点検と補修
- ・建物の高さ規制の厳格化
- ・高さ制限等条件を緩和して建替えをやすくしてほしい
- ・落ち着いたある景観を保ちつつ、安全で安心できる街並みを整備尽力を切望します
- ・ビル高層化の抑制・緑化・公共駐車場整備
- ・既住民の住環境が再開発により悪化するような再開発の見直し及び中止
- ・住宅エリアは保存しつつ駅付近は商業施設の充実を図り町としての力、駅力を高めてほしい。
- ・過度な再開発の抑制
- ・古い建物の保全
- ・歴史に残った町づくり

12. 商工・観光・消費生活：14名

- ・スーパーが充実していない
- ・食費光熱費の抑制施策
- ・大型スーパーの新設
- ・消費生活の利便性向上
- ・物価高に対する支援
- ・秋葉原のメイドカフェ等やそこに来る客や外国人観光客のマナーが悪いので、その対策。秋葉原の観光バスの路上駐車対策。
- ・国ないし都と共同して江戸城を観光資源として作るべき

13. 行政サービスデジタル化の推進：9名

- ・オンラインシステムの整備
- ・千代田区報のデジタル化（ペーパーレス）
- ・千代田区役所と社会保険事務所や税務署などのワンストップサービスの実現
- ・他市町村との連携（戸籍の取り寄せをもっと便利に）
- ・行政プロセスそのものの改革（紙ベースのプロセスをインターネットにのせるのではなく、業務・組織・プロセスを見直し）

14. 地域力の向上：9名

- ・地域のアピール
- ・神田祭などの地域イベントの活性化
- ・地域コミュニティづくり、エリアマネジメント活動等への支援
- ・地域住民によるボランティア活動等の推進
- ・町会の有り方や役割を見直す
- ・マンション管理組合との連携
- ・地域住民と行政のつながり強化

15. その他（区税、平和、区政参画の機会の提供等）：4名

- ・防犯や安全対策
- ・安全性
- ・効率の悪い給付金の配布をやめて減税で対応してほしい。VISAのプリペイドカード配布は経費率が高すぎる

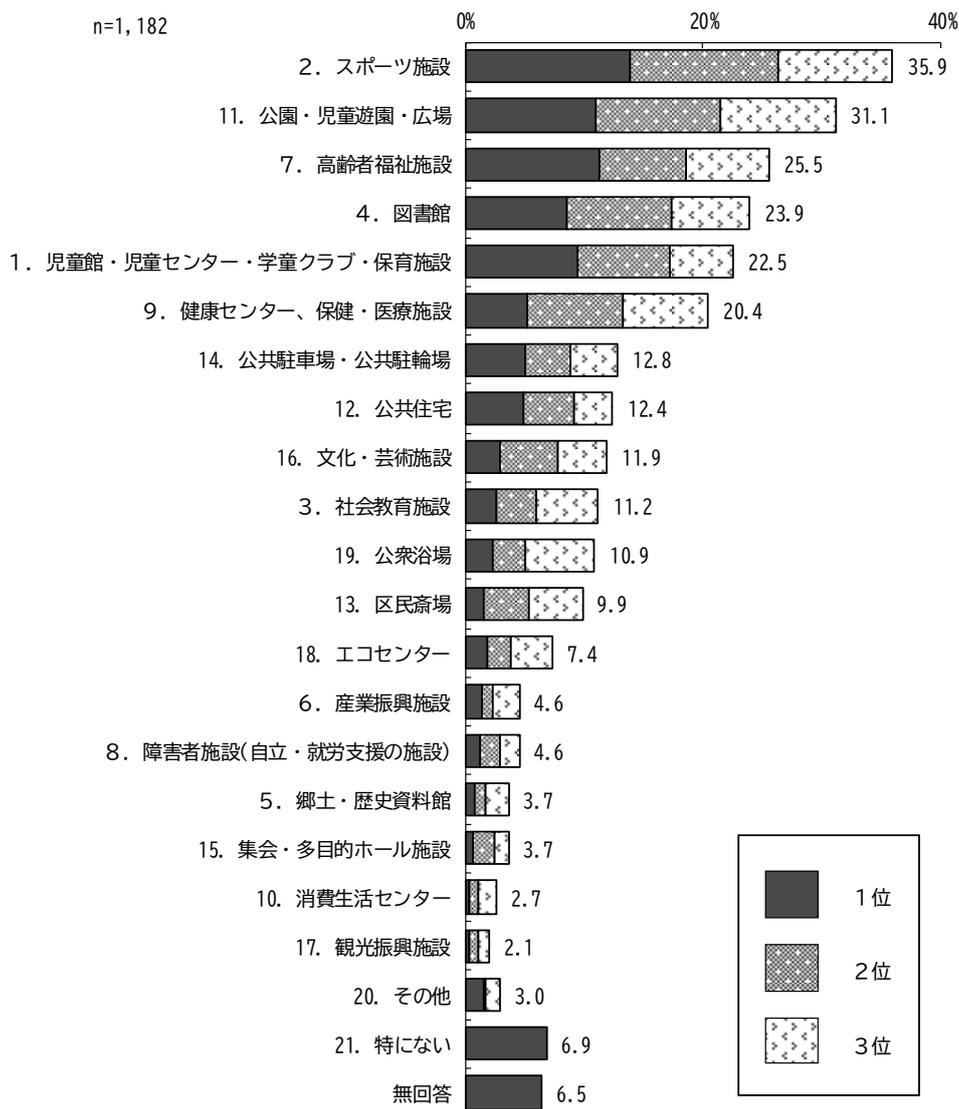
5. 区の施設への要望

(1) 整備・充実すべき施設

◇「スポーツ施設」が3割台半ば

問7 あなたは、区内にどのような施設を整備・充実すべきだと思いますか。下記1～21の中から優先順位の高い順に3つを選んで番号を記入してください。

図5-1-1 整備・充実すべき施設



整備・充実すべき施設について聞いたところ、「スポーツ施設」(35.9%)が3割台半ばと最も高く、次いで「公園・児童遊園・広場」(31.1%)が3割強、「高齢者福祉施設」(25.5%)が2割台半ば、「図書館」(23.9%)が2割台半ば近く、「児童館・児童センター・学童クラブ・保育施設」(22.5%)が2割強となっている。(図5-1-1)

令和6年度で2位だった「スポーツ施設」が令和7年度で1位、令和6年度で3位だった「高齢者福祉施設」が令和7年度で2位になっている。また、平成29年以降上位5つの施設は変わっていない。(表5-1-2)

表5-1-2 整備・充実すべき施設(経年比較)

(単位：%)

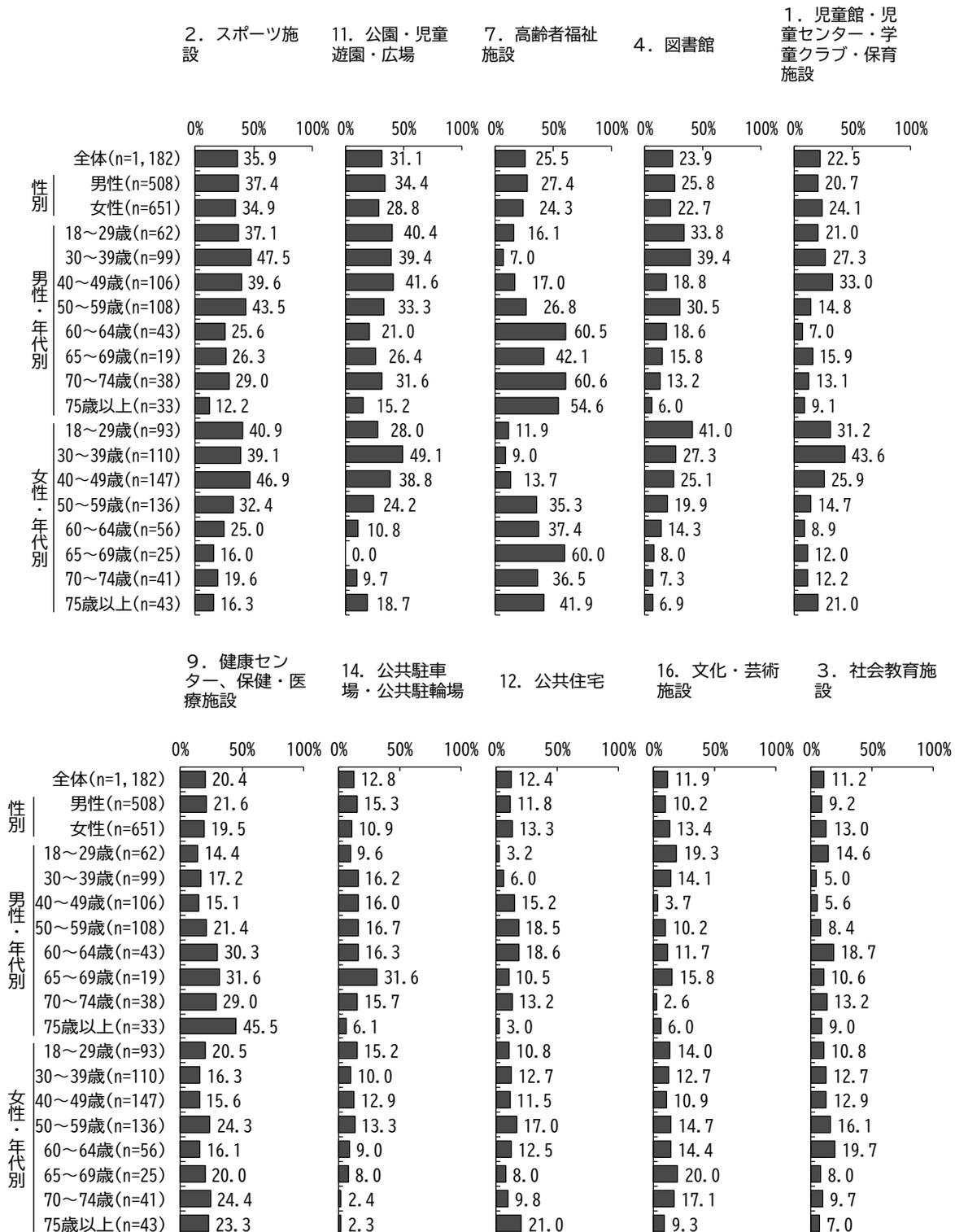
	1位	2位	3位	4位	5位
令和7年	スポーツ施設 (13.9)	高齢者福祉施設 (11.3)	公園・児童遊園・広場 (11.0)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (9.5)	図書館 (8.6)
令和6年	公園・児童遊園・広場 (15.4)	スポーツ施設 (13.2)	高齢者福祉施設 (13.1)	図書館 (9.0)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (8.6)
令和5年	公園・児童遊園・広場 (14.3)	高齢者福祉施設 (14.2)	スポーツ施設 (11.4)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (10.1)	図書館 (9.4)
令和4年	公園・児童遊園・広場 (13.3)	スポーツ施設 (13.2)	高齢者福祉施設 (12.4)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (11.6)	図書館 (7.9)
令和3年	公園・児童遊園・広場 (17.3)	高齢者福祉施設 (13.9)	スポーツ施設 (12.3)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (8.0)	図書館 (7.1)
令和2年	高齢者福祉施設 (15.0)	公園・児童遊園・広場 (13.7)	スポーツ施設 (13.3)	図書館 (10.2)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (9.9)
令和元年	高齢者福祉施設 (17.2)	スポーツ施設 (12.8)	公園・児童遊園・広場 (11.6)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (11.3)	図書館 (6.8)
平成30年	高齢者福祉施設 (18.0)	スポーツ施設 (13.0)	公園・児童遊園・広場 (12.2)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (10.9)	図書館 (8.7)
平成29年	高齢者福祉施設 (16.6)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (13.3)	スポーツ施設 (12.4)	公園・児童遊園・広場 (11.1)	図書館 (8.3)
平成28年	高齢者福祉施設 (17.9)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (12.6)	公園・児童遊園・広場 (11.3)	スポーツ施設 (9.7)	公共住宅 (7.1)
平成27年	高齢者福祉施設 (23.3)	スポーツ施設 (11.5)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (10.5)	公園・児童遊園・広場 (9.2)	図書館 (7.3)
平成26年	高齢者福祉施設 (20.2)	スポーツ施設 (11.3)	児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (10.8)	公園・児童遊園・広場 (10.5)	図書館 (7.4)
平成25年	スポーツ施設 (14.2)	高齢者福祉施設 (13.6)	公園・児童遊園 (10.1)	健康センター・保健施設・医療施設、公共住宅 (各7.9)	
平成24年	高齢者福祉施設 (13.8)	スポーツ施設 (11.5)	健康センター・保健施設・医療施設、公園・児童遊園 (各9.6)		児童館・児童センター・ 学童クラブ・保育施設 (9.5)
平成23年	スポーツ施設 (23.7)	図書館 (16.0)	公園・児童遊園 (8.6)	高齢者福祉施設 (7.6)	区営住宅 (4.6)
平成22年	スポーツ施設 (22.5)	図書館 (17.2)	高齢者福祉施設 (8.3)	公園・児童遊園 (6.6)	健康センター (4.3)
平成21年	スポーツ施設 (23.2)	図書館 (16.3)	高齢者福祉施設 (8.1)	公園・児童遊園 (7.7)	区営駐車場 (4.6)
平成20年	スポーツ施設 (22.6)	図書館 (17.3)	高齢者福祉施設 (9.1)	公園・児童遊園 (8.0)	健康センター、区営駐車場 (各4.9)
平成19年	スポーツ施設 (22.7)	図書館 (16.0)	公園・児童遊園 (8.5)	高齢者福祉施設 (8.0)	区営駐車場 (6.6)
平成18年	スポーツ施設 (27.0)	図書館 (16.3)	公園・児童遊園 (8.1)	区営駐車場 (7.8)	高齢者福祉施設 (7.2)
平成17年	スポーツ施設 (26.1)	図書館 (15.8)	健康センター (6.9)	区営駐車場 (6.9)	公園・児童遊園 (6.4)
平成16年	スポーツ施設 (21.5)	図書館 (15.7)	高齢者福祉施設 (8.7)	健康センター (7.0)	公園・児童遊園 (7.0)
平成15年	スポーツ施設 (20.8)	図書館 (13.9)	高齢者福祉施設 (11.5)	公園・児童遊園 (8.6)	区営駐車場 (6.9)
平成14年	スポーツ施設 (19.8)	図書館 (13.2)	高齢者福祉施設 (10.6)	区営駐車場 (8.4)	健康センター (5.9)
平成13年	スポーツ施設 (24.8)	図書館 (13.4)	高齢者福祉施設 (12.8)	区営駐車場 (12.4)	健康センター (11.1)
平成12年	スポーツ施設 (30.7)	図書館 (18.2)	文化会館 (13.3)	区営駐車場 (13.0)	高齢者福祉施設 (12.5)
平成11年	スポーツ施設 (26.1)	図書館 (16.3)	高齢者福祉施設 (14.7)	区営駐車場 (13.7)	健康センター (12.3)
平成10年	スポーツ施設 (31.2)	図書館 (16.0)	文化会館 (13.1)	健康センター (12.8)	区営駐車場 (11.8)

注) 平成13年以前の調査では「近くにあればよいと思う施設を最大2つまで」答えたものの割合を、平成14年～平成23年の調査では「もっとも近くにあればよい(第1位)」と答えた施設の割合を、平成24年からは「整備・充実すべき(第1位)」と答えた施設の割合をまとめたものである。

性・年代別にみると、「スポーツ施設」は男性30～39歳(47.5%)が4割台半ばを超えと最も高く、次いで女性40～49歳(46.9%)が4割台半ばを超えと高くなっている。「公園・児童遊園・広場」は女性30～39歳(49.1%)が5割弱と高く、「高齢者福祉施設」は男性70～74歳(60.6%)が約6割、「図書館」は女性18～29歳(41.0%)が4割強、「児童館・児童センター・学童クラブ・保育施設」は女性30～39歳(43.6%)が4割台半ば近くとなっている。

(図5-1-3)

図5-1-3 整備・充実すべき施設(性・年代別) - 上位10施設 -



I 調査の概要

II 調査結果の要約

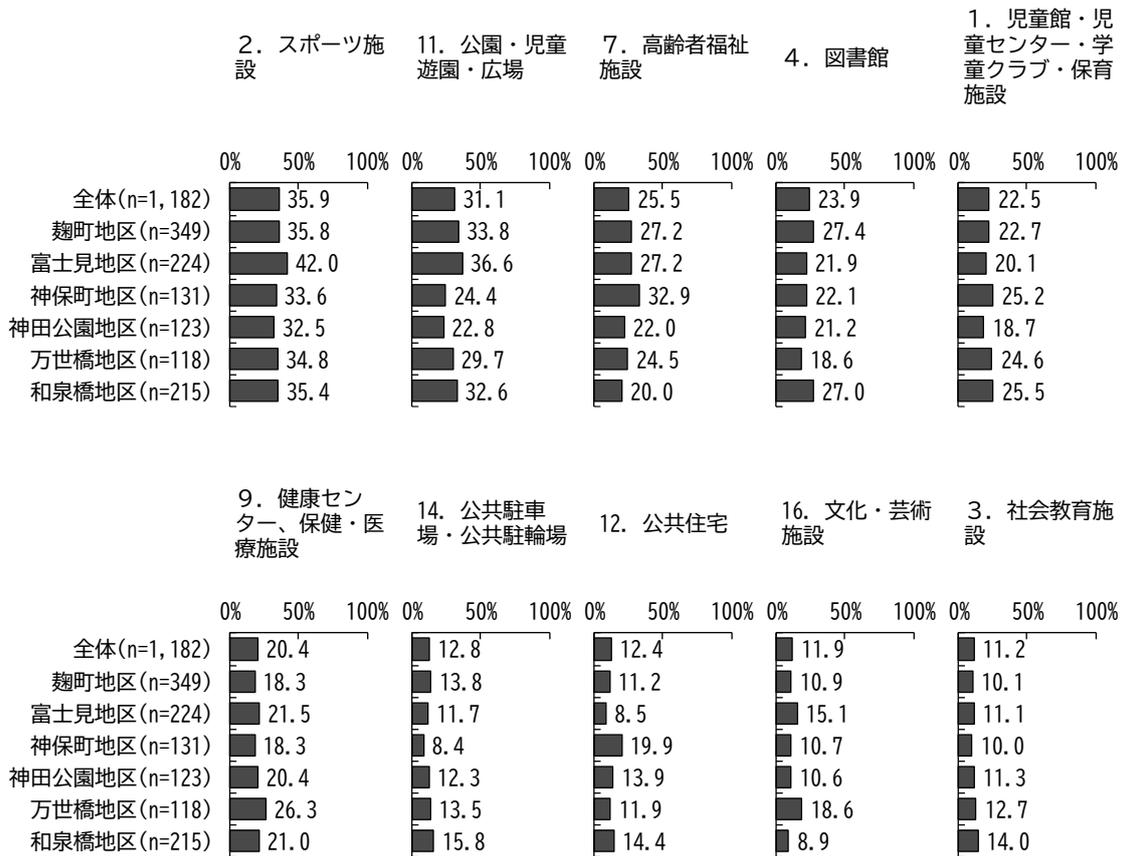
III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

V 調査票

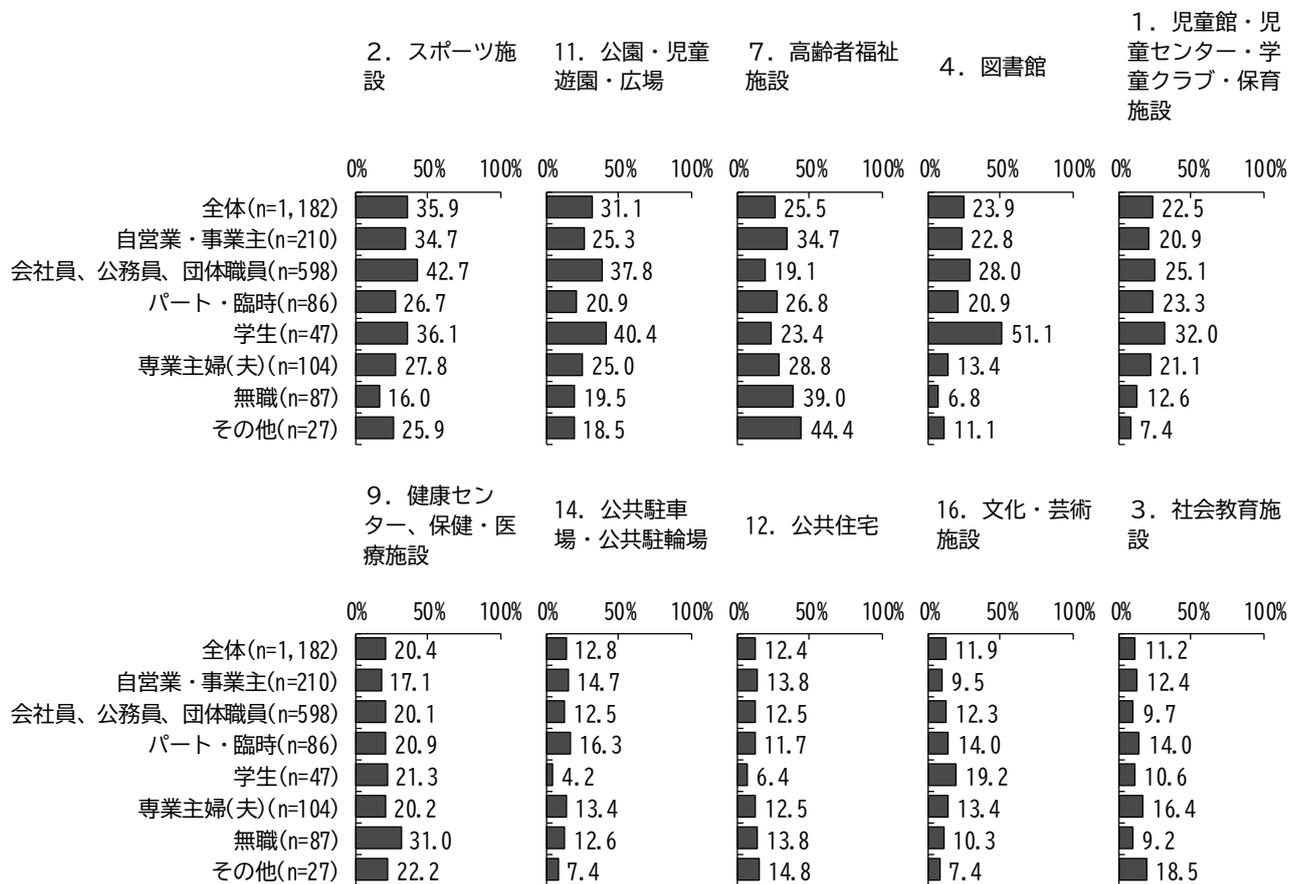
地区別にみると、「スポーツ施設」は富士見地区(42.0%)が4割強と最も高くなっている。また、「公園・児童遊園・広場」も富士見地区(36.6%)で3割台半ば超え、「高齢者福祉施設」は神保町地区(32.9%)で3割強、「図書館」は麴町地区(27.4%)で2割台半ば超え、「児童館・児童センター・学童クラブ・保育施設」は和泉橋地区(25.5%)で2割台半ばとなっている。(図5-1-4)

図5-1-4 整備・充実すべき施設（地区別）－上位10施設－



職業別にみると、「スポーツ施設」は会社員、公務員、団体職員(42.7%)が4割強と最も高くなっている。また、「公園・児童遊園・広場」は学生が約4割(40.4%)、「図書館」も学生(51.1%)が5割強と最も高くなっている。(図5-1-5)

図5-1-5 整備・充実すべき施設（職業別）－上位10施設－



I

調査の概要

II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

IV

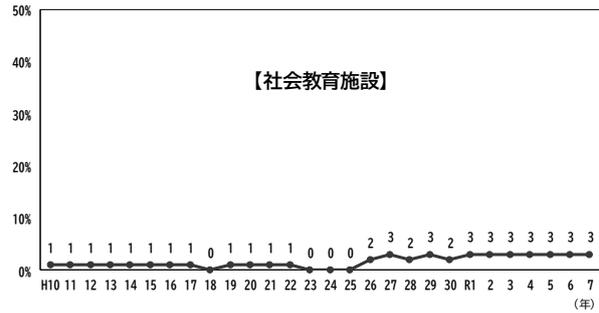
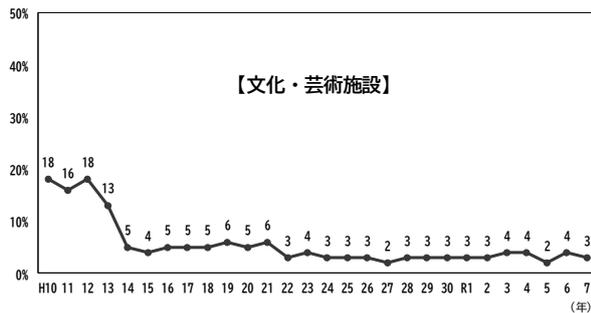
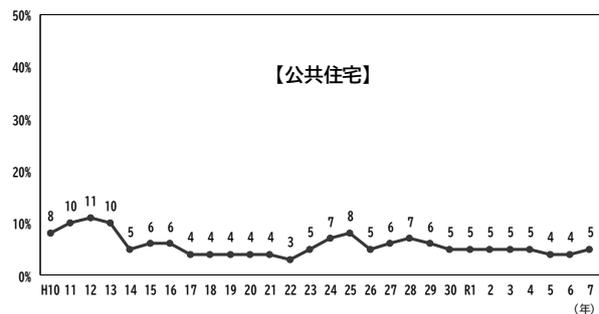
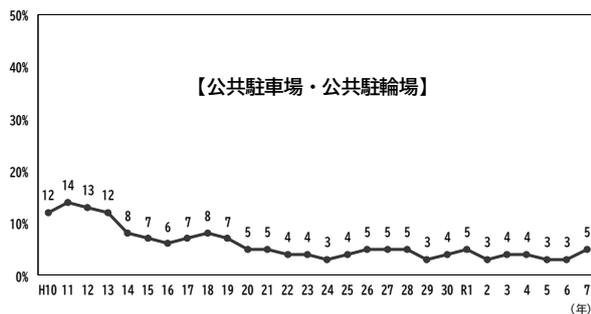
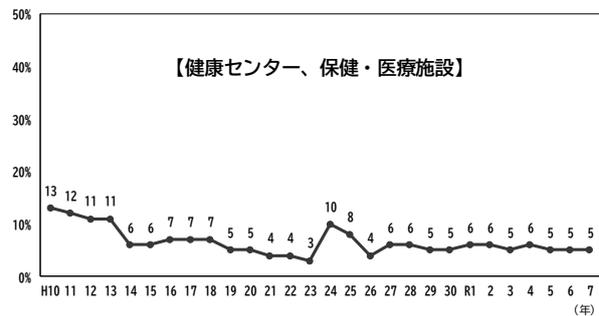
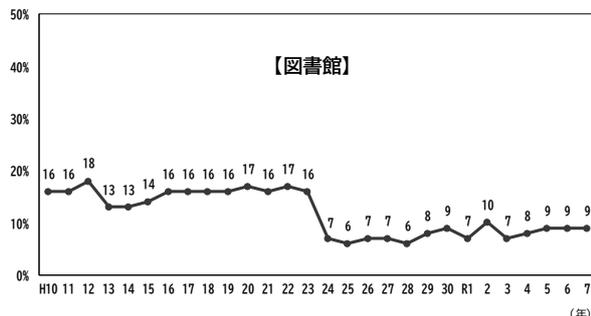
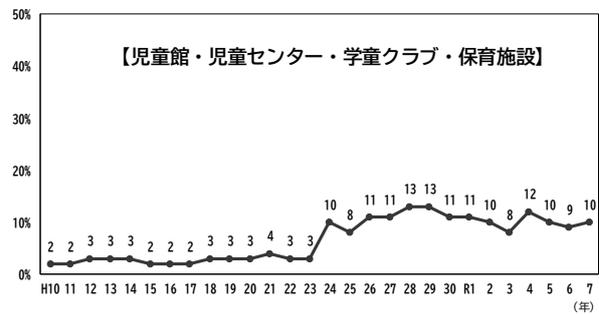
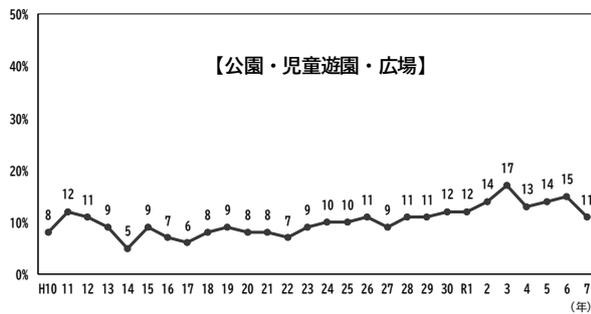
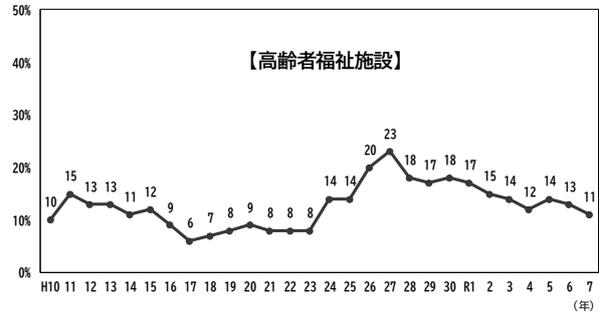
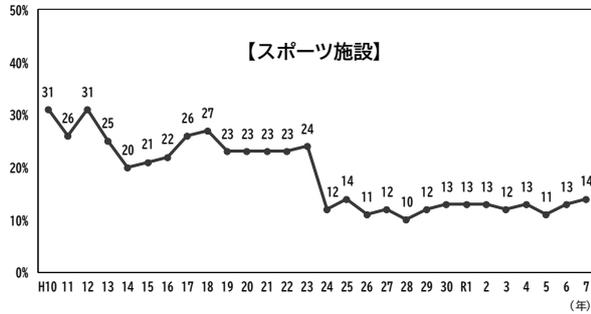
調査結果の数表

V

調査票

施設別に経年比較をみると、「公園・児童遊園・広場」は令和4年度以降、増加傾向がみられたが、令和7年度は減少している。「高齢者福祉施設」は平成27年をピークに減少傾向がみられる。(図5-1-6)

図5-1-6 整備・充実すべき施設(第1位) -施設別経年比較-



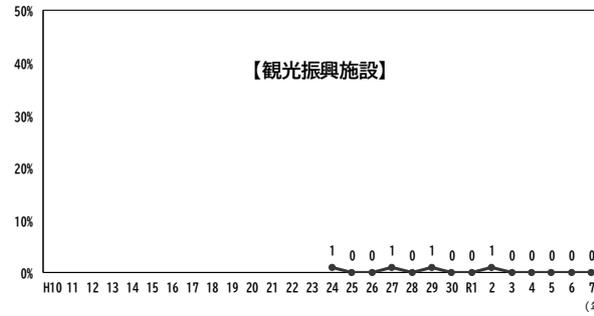
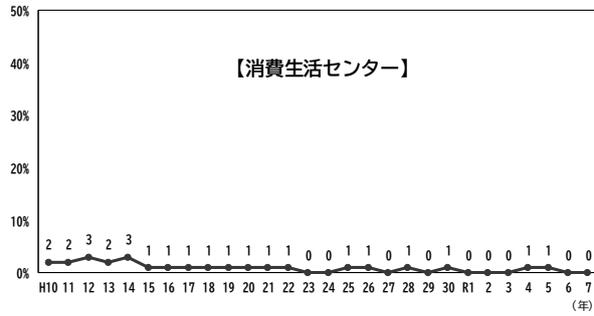
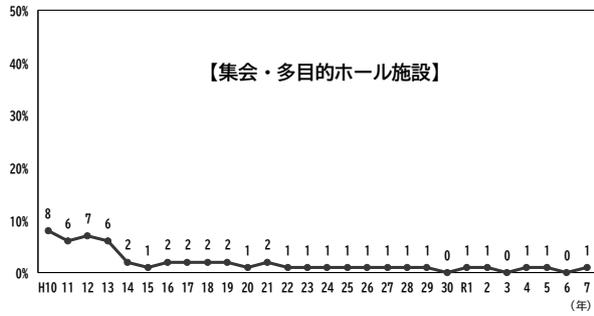
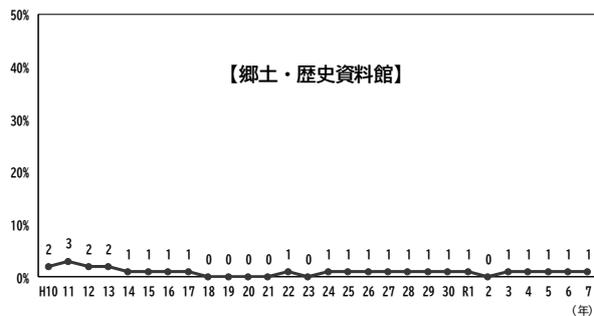
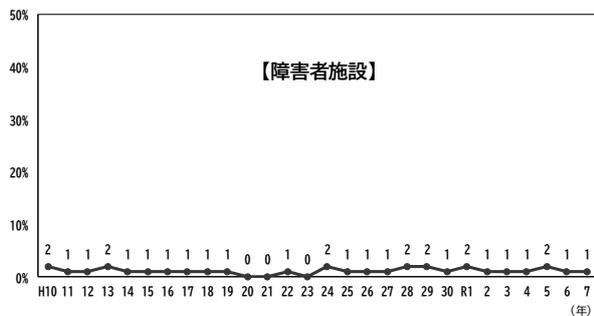
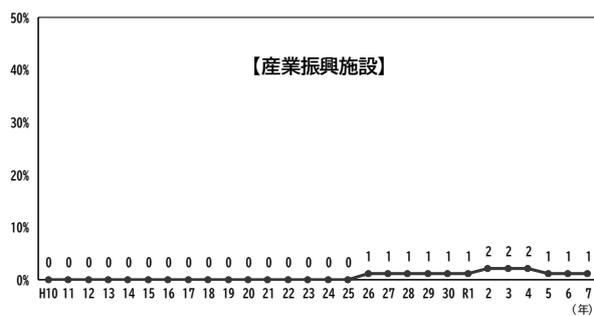
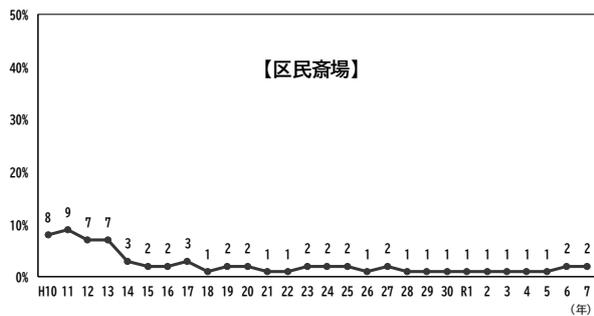
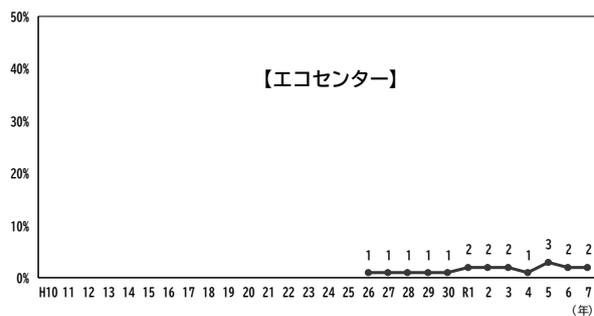
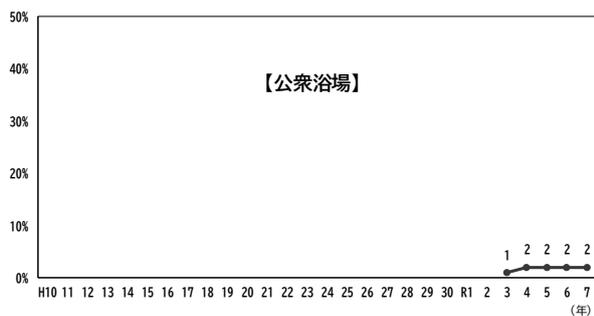
I 調査の概要

II 調査結果の要約

III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

V 調査票



注) 比率は四捨五入している。「0」は[0.4%以下]であることを示す。選択肢の文言は年度により異なる場合がある。

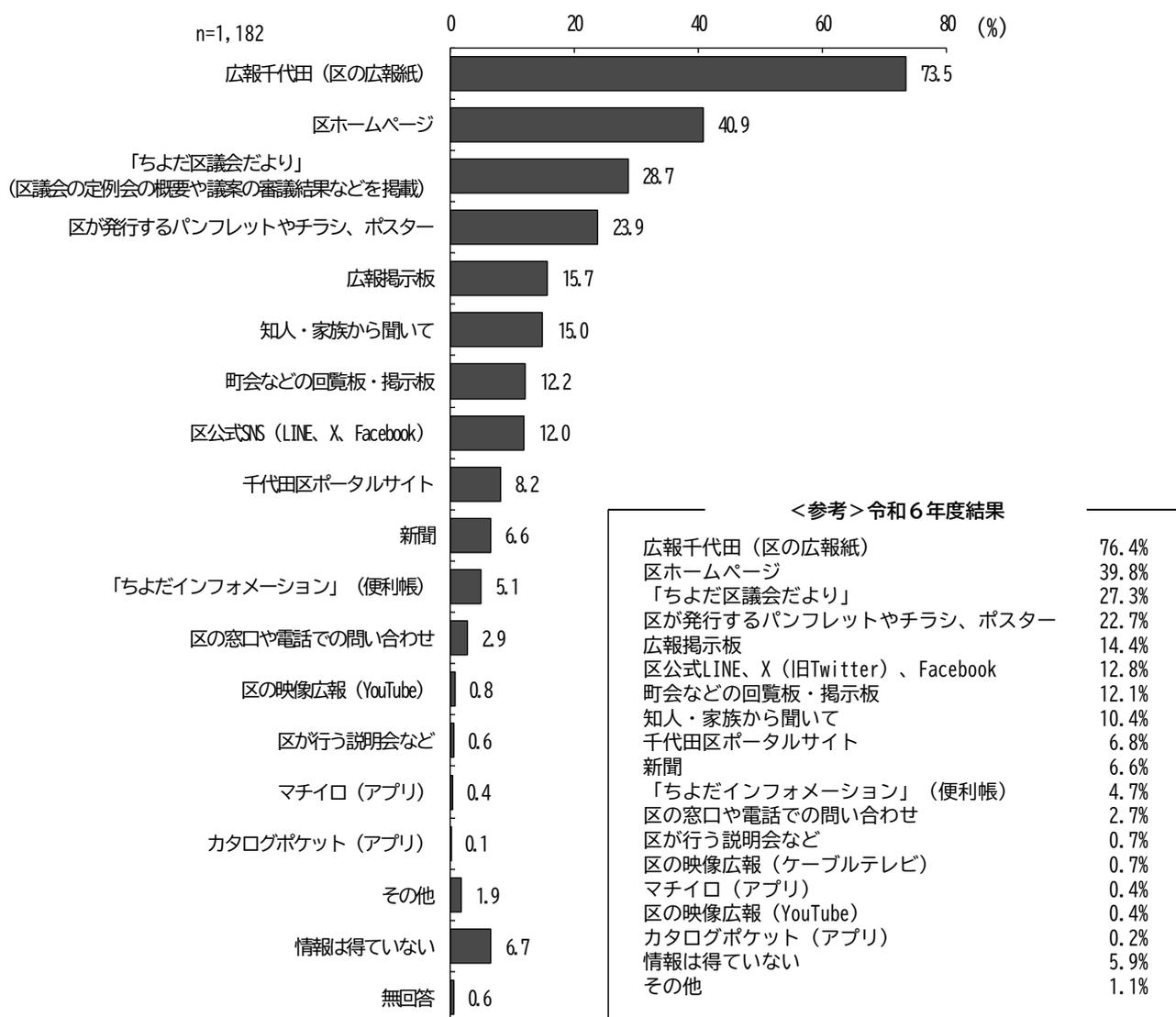
6. 広報活動

(1) 区政情報の取得媒体

◇「広報千代田」が7割台半ば近く

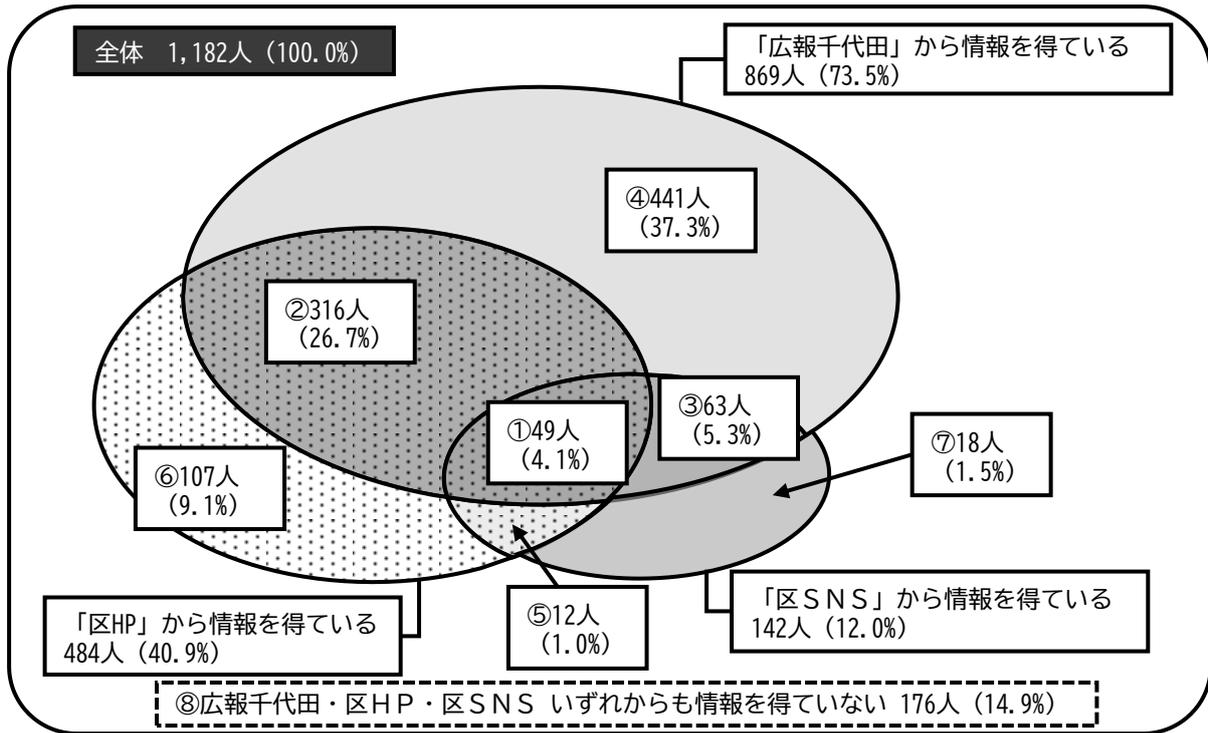
問8 あなたは、区に関する情報をどこから得ていますか。次の中から当てはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

図6-1-1 区政情報の取得媒体



区政情報の取得媒体について聞いたところ、「広報千代田 (区広報紙)」(73.5%)が7割台半ば近くと最も高く、次いで「区ホームページ」(40.9%)が約4割、「ちよだ区議会だより」(区議会の定例会の概要や議案の審議結果などを掲載)(28.7%)が3割近く、「区が発行するパンフレットやチラシ、ポスター」(23.9%)が2割台半ば近くと高くなっている。(図6-1-1)

図6-1-2 広報千代田・区HP・区SNSからの情報取得状況の分布イメージ



I 調査の概要
II 調査結果の要約
III 調査結果の分析
IV 調査結果の数表
V 調査票

図6-1-3 広報千代田・区HP・区SNSからの情報取得状況の分布表（図6-1-2 凡例）

	広報千代田	区HP	区SNS	人数	割合
■ 広報千代田から情報を得ている (他からも情報取得を含む)	情報を得ている	-	-	869人	73.5%
■ 区HPから情報を得ている (他からも情報取得を含む)	-	情報を得ている	-	484人	40.9%
■ 区SNSから情報を得ている (他からも情報取得を含む)	-	-	情報を得ている	142人	12.0%
① 広報千代田・区HP・区SNSいずれからも情報を得ている	情報を得ている	情報を得ている	情報を得ている	49人	4.1%
② 広報千代田・区HPから情報を得ている	情報を得ている	情報を得ている	情報を得ていない	316人	26.7%
③ 広報千代田・区SNSから情報を得ている	情報を得ている	情報を得ていない	情報を得ている	63人	5.3%
④ 広報千代田のみから情報を得ている	情報を得ている	情報を得ていない	情報を得ていない	441人	37.3%
⑤ 区HP・区SNSから情報を得ている	情報を得ていない	情報を得ている	情報を得ている	12人	1.0%
⑥ 区HPのみから情報を得ている	情報を得ていない	情報を得ている	情報を得ていない	107人	9.1%
⑦ 区SNSのみから情報を得ている	情報を得ていない	情報を得ていない	情報を得ている	18人	1.5%
⑧ 広報千代田・区HP・区SNSいずれからも情報を得ていない	情報を得ていない	情報を得ていない	情報を得ていない	176人	14.9%
合計				1,182人	100.0%

問8で選択肢「広報千代田（区の広報紙）」、「区ホームページ」、「区公式SNS（LINE、X、Facebook）」の3つの広報メディアからの情報取得の有無によって分類し、ベン図（図6-1-2）と表（図6-1-3）に示した。

I
調査の概要

なお、ベン図で表現する際の略称として「広報千代田（区の広報紙）」を“広報千代田”、「区ホームページ」を“区HP”、「区公式SNS（LINE、X、Facebook）」を“区SNS”と記載している。

3つの広報メディアすべてから区政情報を取得している方は4.1%(49人)で、「広報千代田」のみを利用している方は37.3%(441人)と最も多くなっている。「広報千代田」と「区ホームページ」の2つを利用している方は26.7%(316人)となっている。一方で、3つの広報メディアいずれからも情報を取得していない方は14.9%(176人)となっている。

（図6-1-2、図6-1-3）

II
調査結果の要約

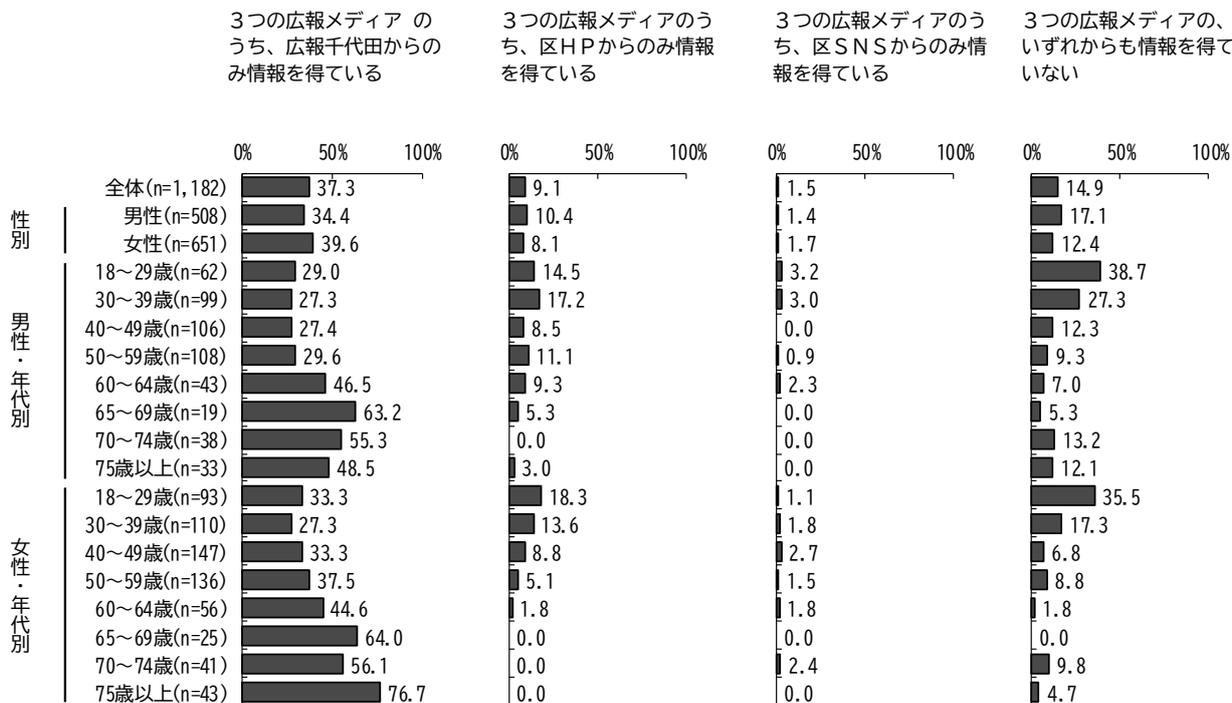
III
調査結果の分析

IV
調査結果の数表

V
調査票

性・年代別にみると、「3つの広報メディアのうち、広報千代田からのみ情報を得ている」は女性75歳以上(76.7%)が7割台半ばを超えと高くなっている。また、「3つの広報メディアのうち、区のホームページからのみ情報を得ている」は女性18~29歳(18.3%)が2割近くと高くなっている。一方で、「3つの広報メディアの、いずれからも情報を得ていない」は男性18~29歳(38.7%)が4割近くと高くなっている。(図6-1-4)

図6-1-4 広報千代田・区HP・区SNSからの情報取得状況(性・年代別)



I 調査の概要

II 調査結果の要約

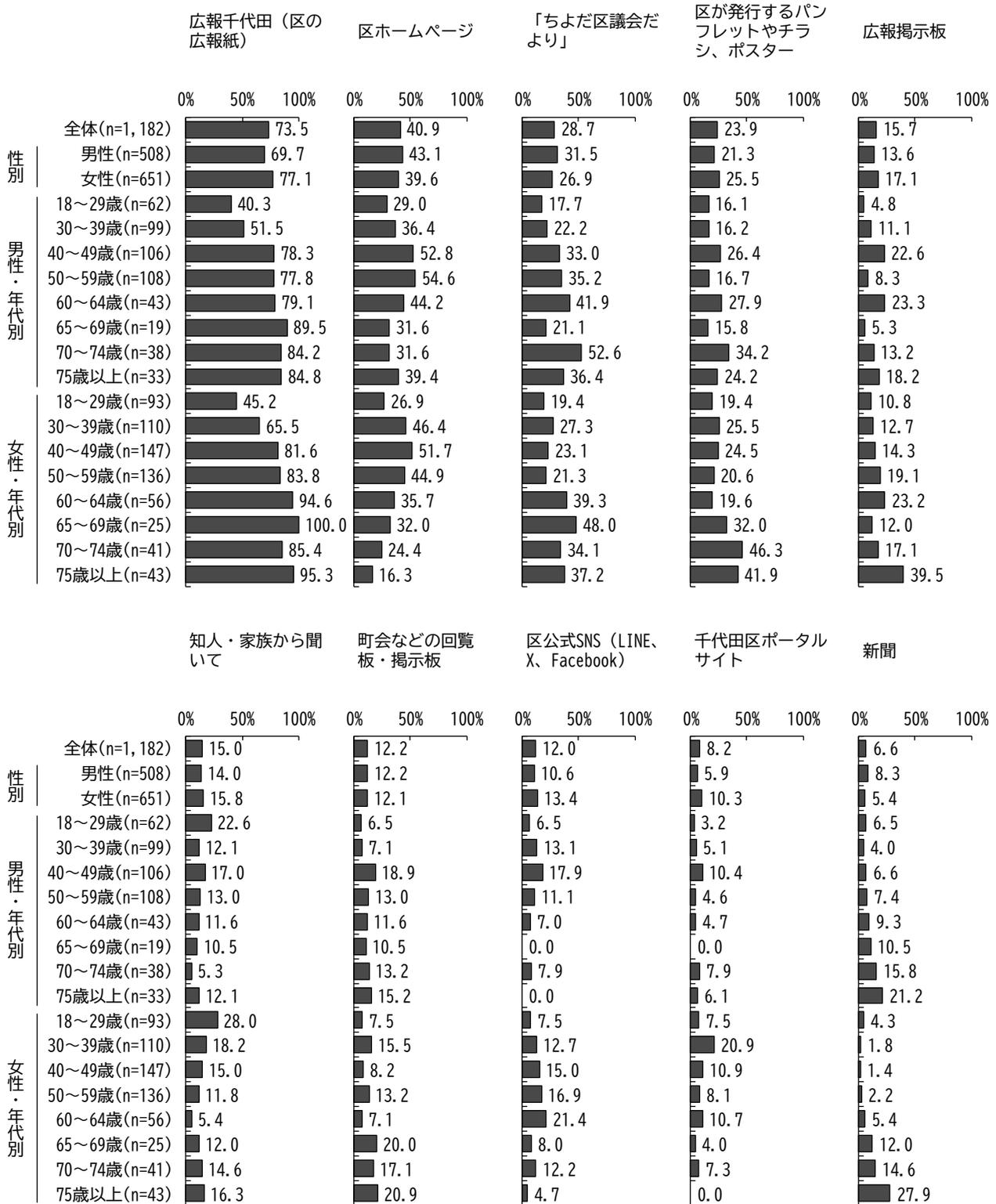
III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

V 調査票

性・年代別にみると、「広報千代田（区の広報紙）」は女性65～69歳(100.0%)は全員が答えておりと最も高くなっている。「区ホームページ」は男性50～59歳(54.6%) 5割台半ば近く、「ちよだ区議会だより（区議会の定例会の概要や議案の審議結果などを掲載）」は男性70～74歳(52.6%)が5割強と最も高くなっている。（図6-1-5）

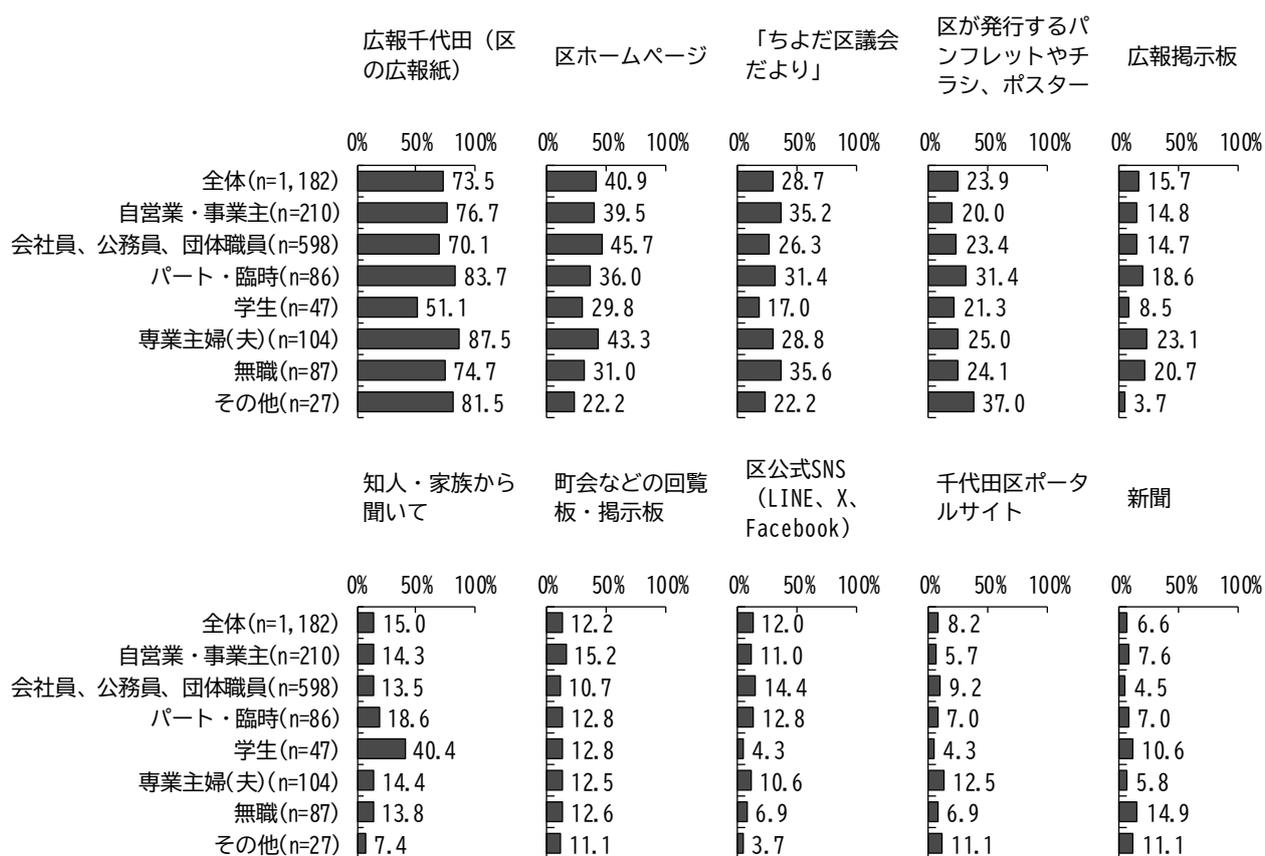
図6-1-5 区政情報の取得媒体（性・年代別）－上位10回答－



職業別にみると、「広報千代田（区の広報紙）」は専業主婦(夫)(87.5%)が8割台半ばを超えと最も高く、パート・臨時（派遣、非常勤等を含む）(83.7%)が8割台半ば近くと高くなっている。また、「区ホームページ」は会社員、公務員、団体職員(45.7%)が4割台半ば、「ちよだ区議会だより」は無職（35.6%）が3割台半ばと最も高くなっている。「知人・家族から聞いて」は学生(40.4%)が約4割、「区公式LINE、X（旧Twitter）、Facebook」は会社員、公務員、団体職員(14.4%)が1割台半ば近くと最も高くなっている。

(図6-1-6)

図6-1-6 区政情報の取得媒体（職業別）－上位10回答－

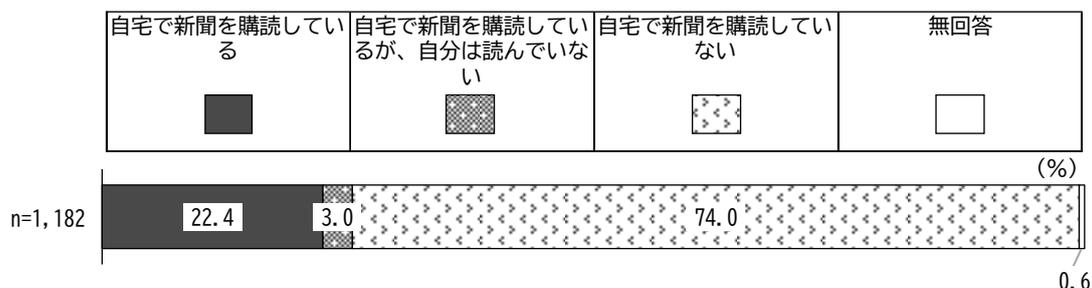


(2) 新聞購読の有無

◇「自宅で新聞を購読していない」が7割台半ば近く

問9 あなたは、自宅で新聞を購読していますか（電子版を除く）。（○は1つ）

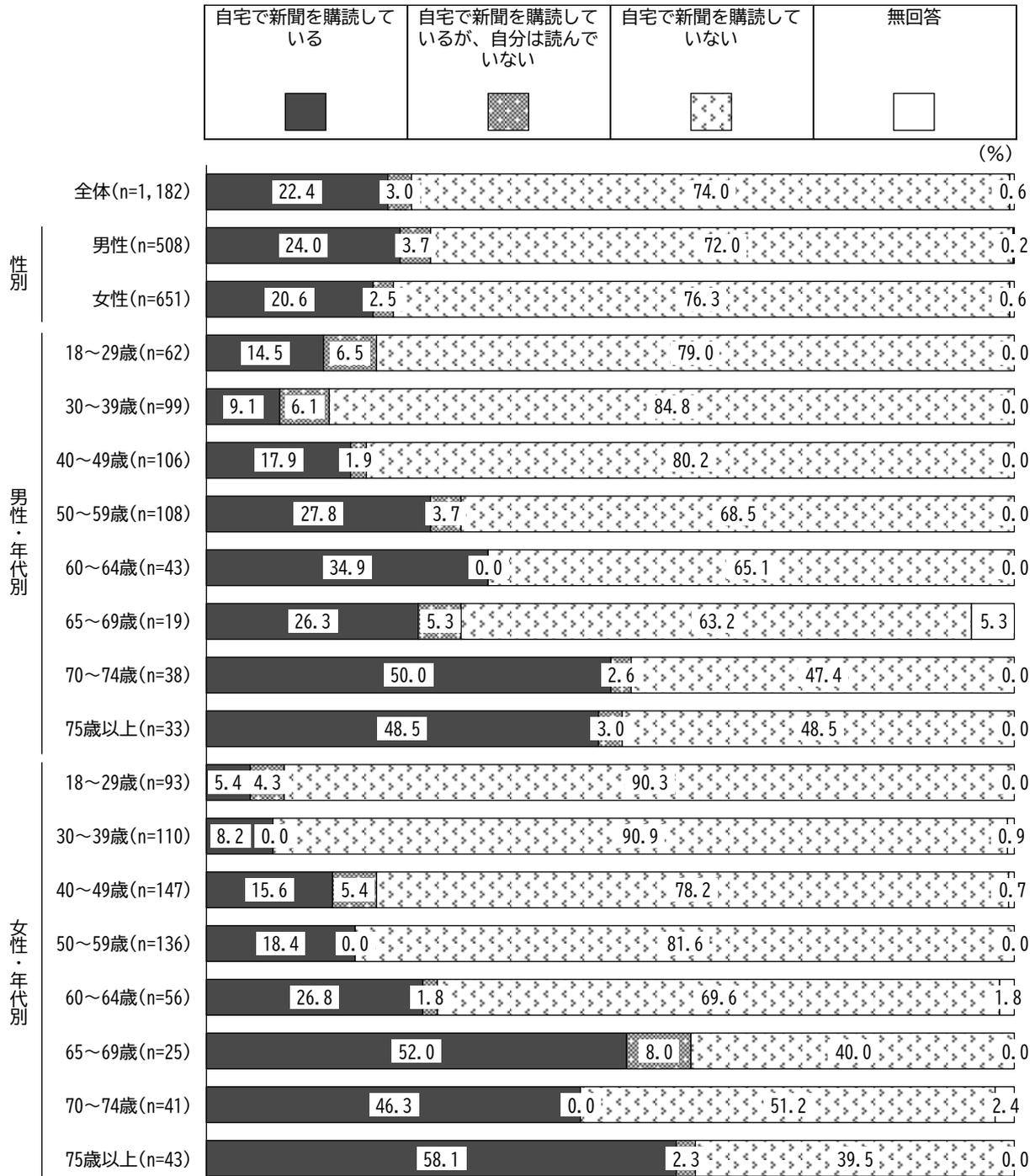
図6-2-1 新聞購読の有無



新聞購読の有無について聞いたところ、「自宅で新聞を購読していない」(74.0%)が7割台半ば近くと最も高く、次いで「自宅で新聞を購読している」(22.4%)が2割強と高くなっている。(図6-2-1)

性・年代別にみると、「自宅で新聞を購読している」は女性75歳以上(58.1%)が6割近くと最も高く、次いで女性65～69歳(52.0%)が5割強、男性70～74歳(50.0%)が5割、男性75歳以上(48.5%)が5割近くと高くなっている。(図6-2-2)

図6-2-2 新聞購読の有無(性・年代別)

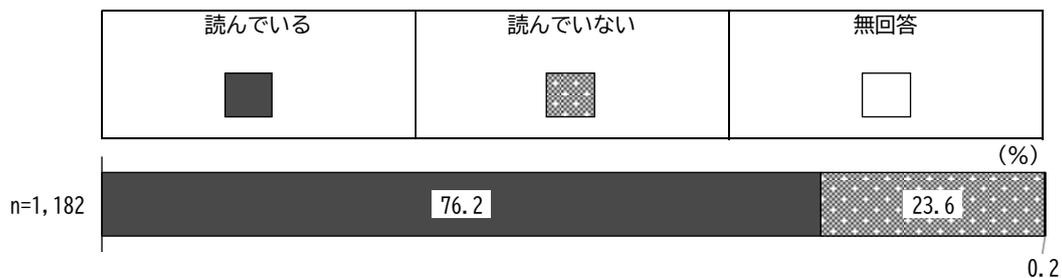


(3) 広報千代田の閲読の有無

◇「読んでいる」が7割台半ば超え

問10 あなたは、「広報千代田」を読んでいますか。(○は1つ)

図6-3-1 広報千代田の閲読の有無



広報千代田の閲読の有無について聞いたところ、「読んでいる」(76.2%)が7割台半ば超えと高くなっている。一方で、「読んでいない」(23.6%)が2割台半ば近くとなっている。(図6-3-1)

I 調査の概要

II 調査結果の要約

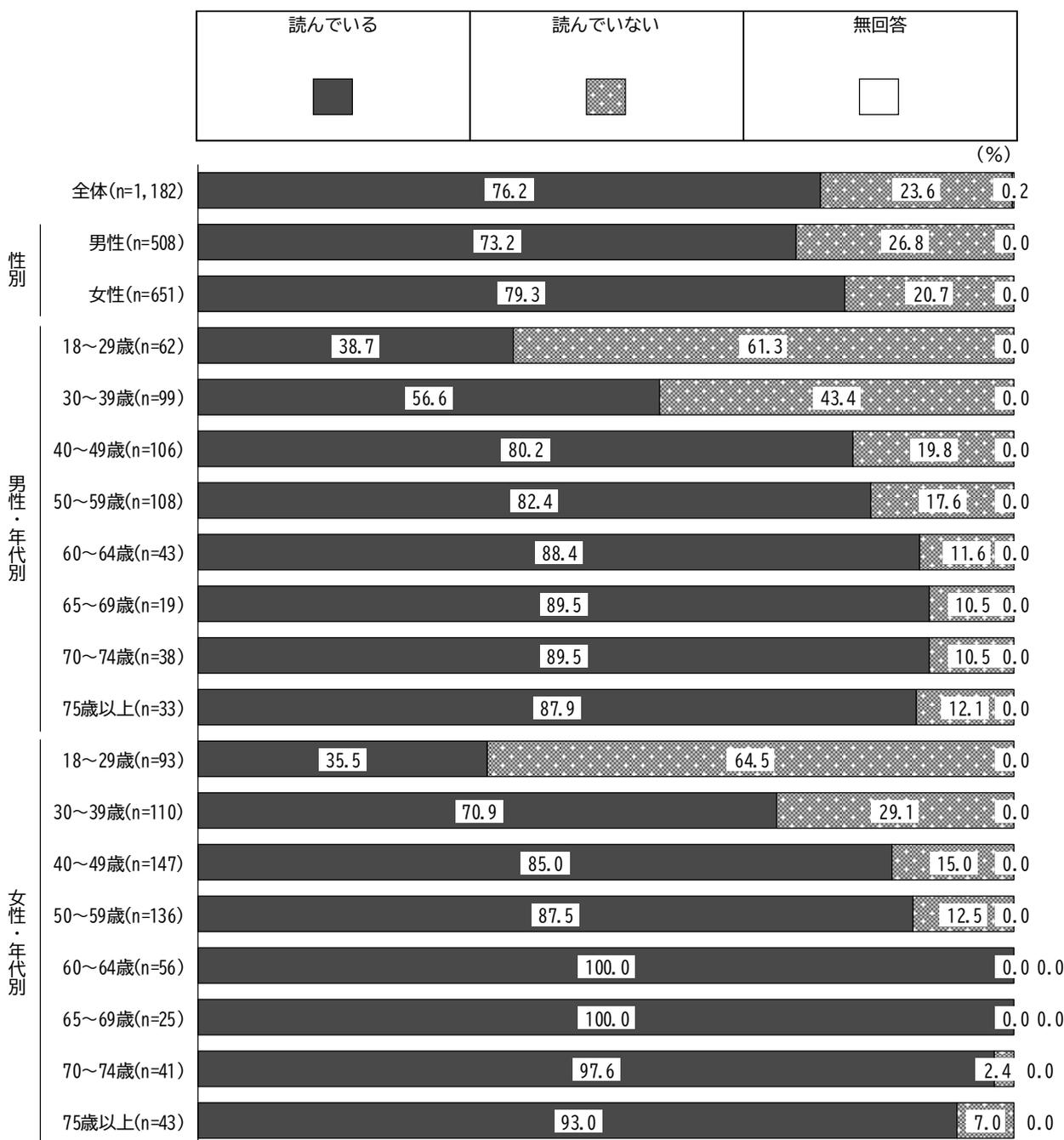
III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

V 調査票

性・年代別にみると、「読んでいる」は女性60～64歳(100.0%)と女性65～69歳(100.0%)が10割と最も高く、次いで女性70～74歳(97.6%)が9割台半ばを超えと高くなっている。一方で、「読んでいない」は女性18～29歳(64.5%)が6割台半ば近くと最も高く、次いで男性18～29歳(61.3%)が6割強と高くなっている。(図6-3-2)

図6-3-2 広報千代田の閲読の有無(性・年代別)



〈参考〉令和6年度結果(「読んでいる」と回答した人の割合)

男性 18～29歳	30.4%	女性 18～29歳	59.0%
男性 30～39歳	72.4%	女性 30～39歳	74.1%
男性 40～49歳	82.0%	女性 40～49歳	86.8%
男性 50～59歳	86.4%	女性 50～59歳	90.3%
男性 60～64歳	97.4%	女性 60～64歳	78.1%
男性 65～69歳	85.3%	女性 65～69歳	92.0%
男性 70～74歳	90.9%	女性 70～74歳	89.3%
男性 75歳以上	87.1%	女性 75歳以上	94.6%

(3-1) 広報千代田の閲読媒体

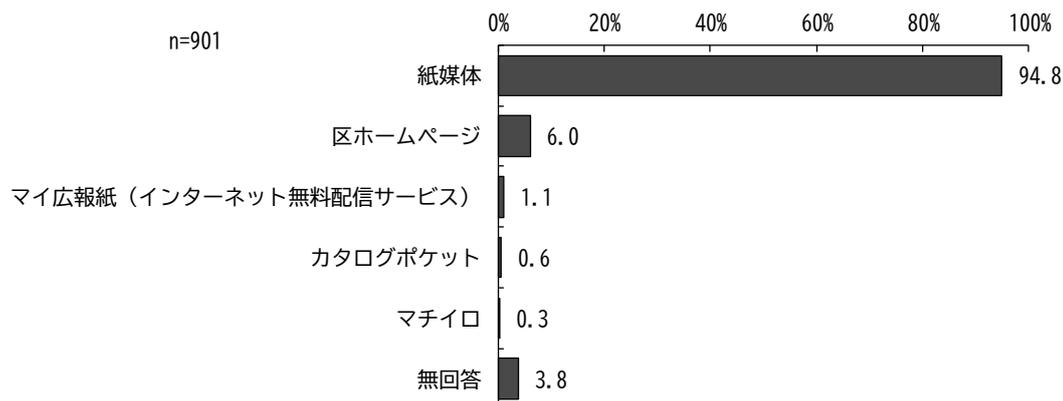
I

調査の概要

◇「紙媒体」が9割台半ば近く

問10-1 (問10で「1. 読んでいる」と回答の方)
あなたは、「広報千代田」をどのツールで読んでいますか。(〇はいくつでも)

図6-3-3 広報千代田の閲読媒体



II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

広報千代田をどのツールで読んでいるか聞いたところ、「紙媒体」(94.8%)が9割台半ば近くと最も高く、次いで「区ホームページ」(6.0%)が1割未満であった。(図6-3-3)

IV

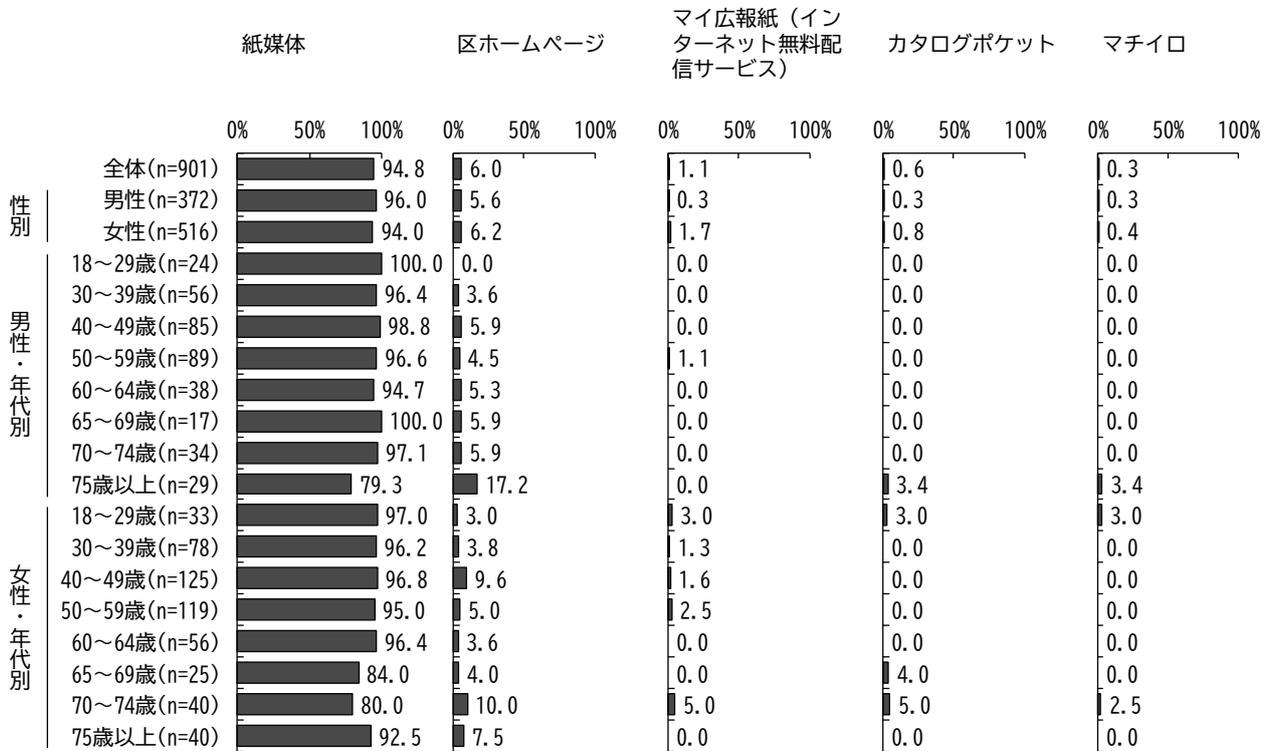
調査結果の数表

V

調査票

性・年代別にみると、「紙媒体」は男性18～29歳、男性65歳～69歳(100.0%)が10割と最も高く、次いで男性40～49歳(98.8%)で10割近くと高くなっている。区ホームページは男性75歳以上(17.2%)で1割半ば超えと最も高くなっている。(図6-3-4)

図6-3-4 広報千代田の閲読媒体（性・年代別）



I 調査の概要

II 調査結果の要約

III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

V 調査票

(3-2) 広報千代田の閲読内容

I

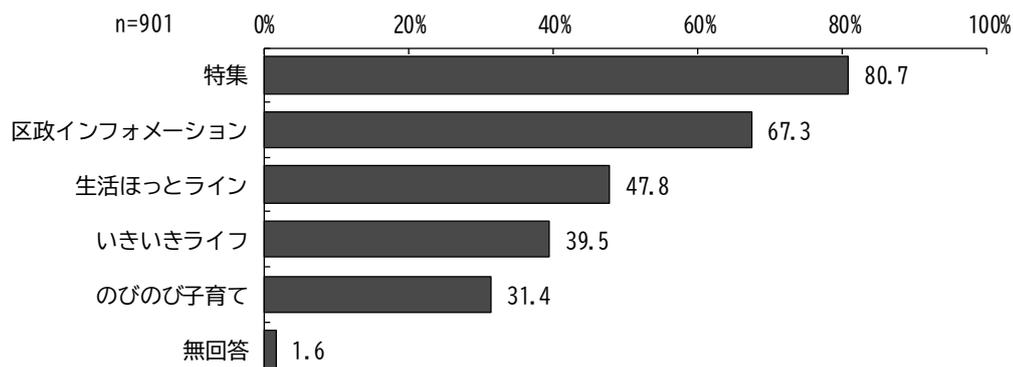
調査の概要

◇「特集」が約8割

問10-2 (問10で「1. 読んでいる」と回答の方)

あなたは、「広報千代田」でどのコーナーを読んでいますか。(〇はいくつでも)

図6-3-5 広報千代田の閲読内容



II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

広報千代田の閲読内容について聞いたところ、「特集」(80.7%)が約8割と最も高く、次いで「区政インフォメーション」(67.3%)が6割台半ば超え、「生活ほっとライン」(47.8%)が4割台半ば超え、「いきいきライフ」(39.5%)が4割弱、「のびのび子育て」(31.4%)が3割強となっている。(図6-3-5)

IV

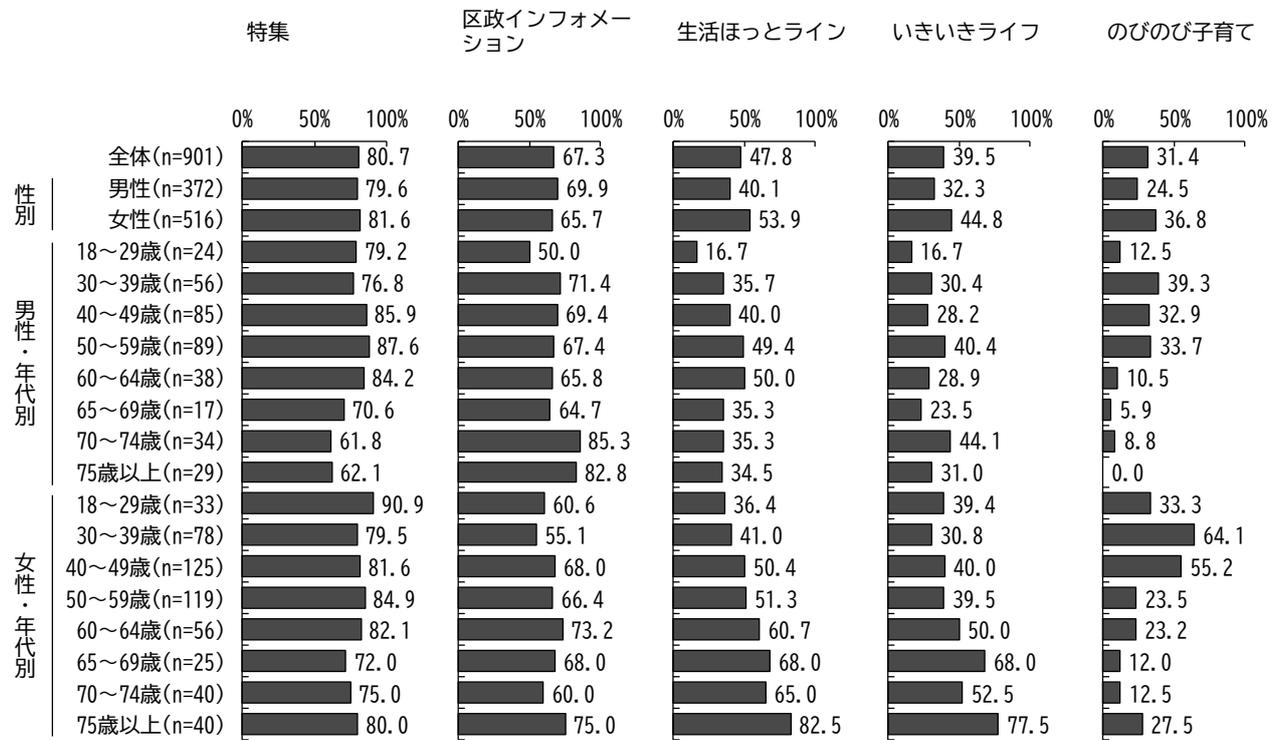
調査結果の数表

V

調査票

性・年代別にみると、「特集」は女性18～29歳(90.9%)が約9割と最も高くなっている。「区政インフォメーション」は男性70～74歳(85.3%)が8割半ば、「生活ほっとライン」は女性75歳以上(82.5%)が8割強、「いきいきライフ」は女性75歳以上(77.5%)が7割台半ばを超えと最も高くなっている。(図6-3-6)

図6-3-6 広報千代田の閲読内容(性・年代別)

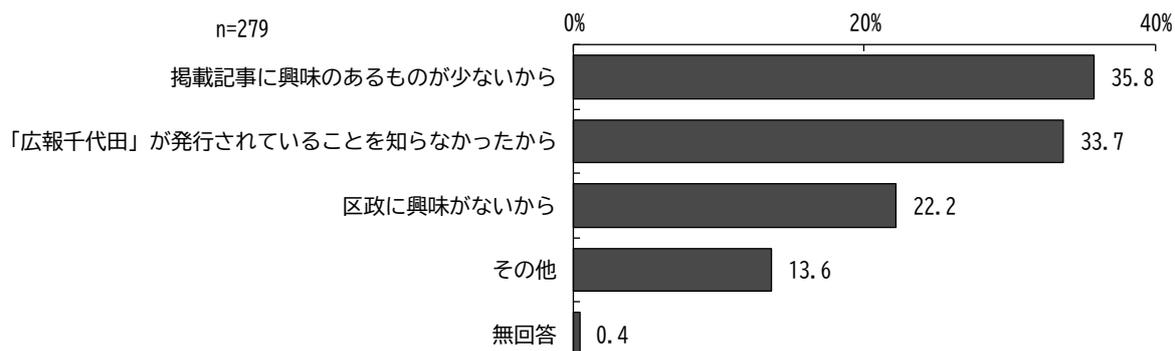


(3-3) 広報千代田を読んでいない理由

◇「掲載記事に興味のあるものが少ないから」が3割台半ば

問10-3 (問10で「2. 読んでいない」と回答の方)
あなたが、「広報千代田」を読んでいない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図6-3-7 広報千代田を読んでいない理由



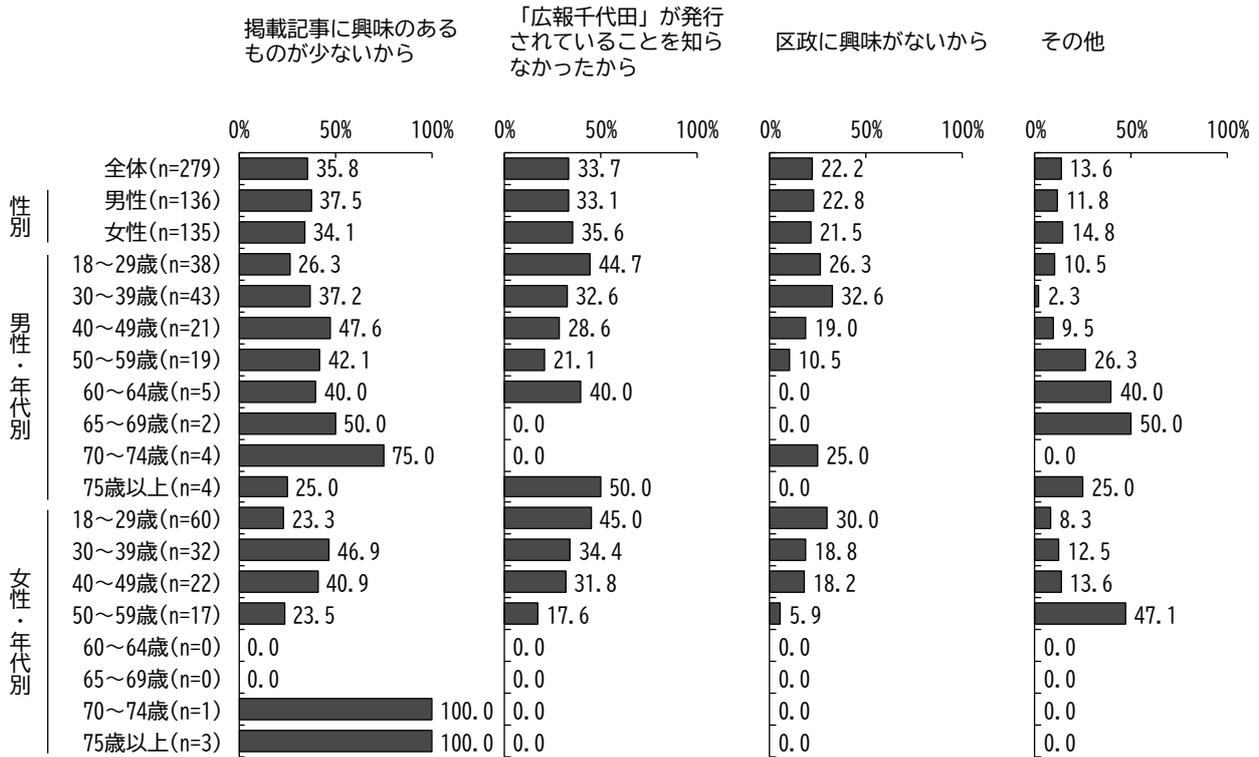
広報千代田を読んでいない理由について聞いたところ、「掲載記事に興味のあるものが少ないから」(35.8%)が3割台半ばと最も高く、次いで「広報千代田が発行されていることを知らなかったから」(33.7%)が3割台半ば近くと高くなっている。

「その他」(13.6%)の具体的な理由として、「いそがしい、読みにくい」「かみはすてる」、「どこにある?」、「区政の広告に興味がないから」、「I can't read Japanese. It's hard to use translator an the time.」等の意見が見られた。(図6-3-7)

性・年代別にみると、「掲載記事に興味のあるものが少ないから」は女性70～74歳(100.0%)、女性75歳以上(100.0%)が10割と最も高くなっている。「広報千代田が発行されていることを知らなかったから」は男性75歳以上(50.0%)が5割と高くなっている。また、「区政に興味がないから」は男性30～39歳(32.6%)が3割強と高くなっている。

(図6-3-8)

図6-3-8 広報千代田を読んでいない理由(性・年代別)



I 調査の概要

II 調査結果の要約

III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

V 調査票

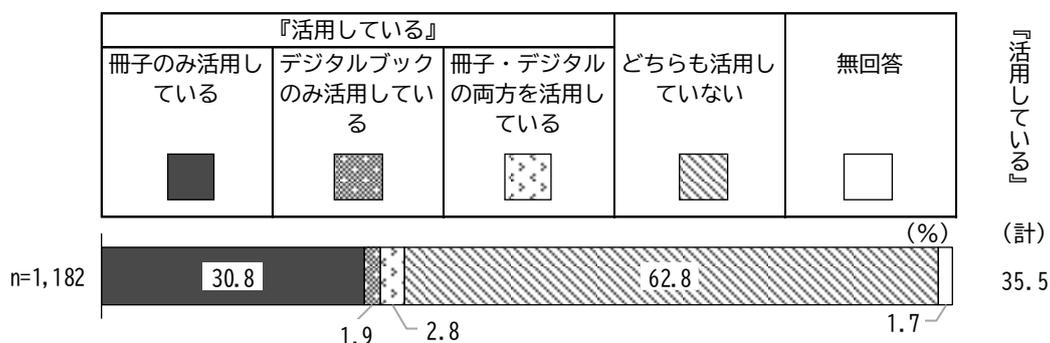
7. 区政情報の把握

(1) ちよだインフォメーション（便利帳）の活用状況

◇「どちらも活用していない」が6割強

問11 区では、区政に関する様々な行政情報などの区民の日常生活に役立つ情報を掲載している「ちよだインフォメーション（便利帳）」を作成しています。
「ちよだインフォメーション（便利帳）」のあなたの活用状況を教えてください。
(○は1つ)

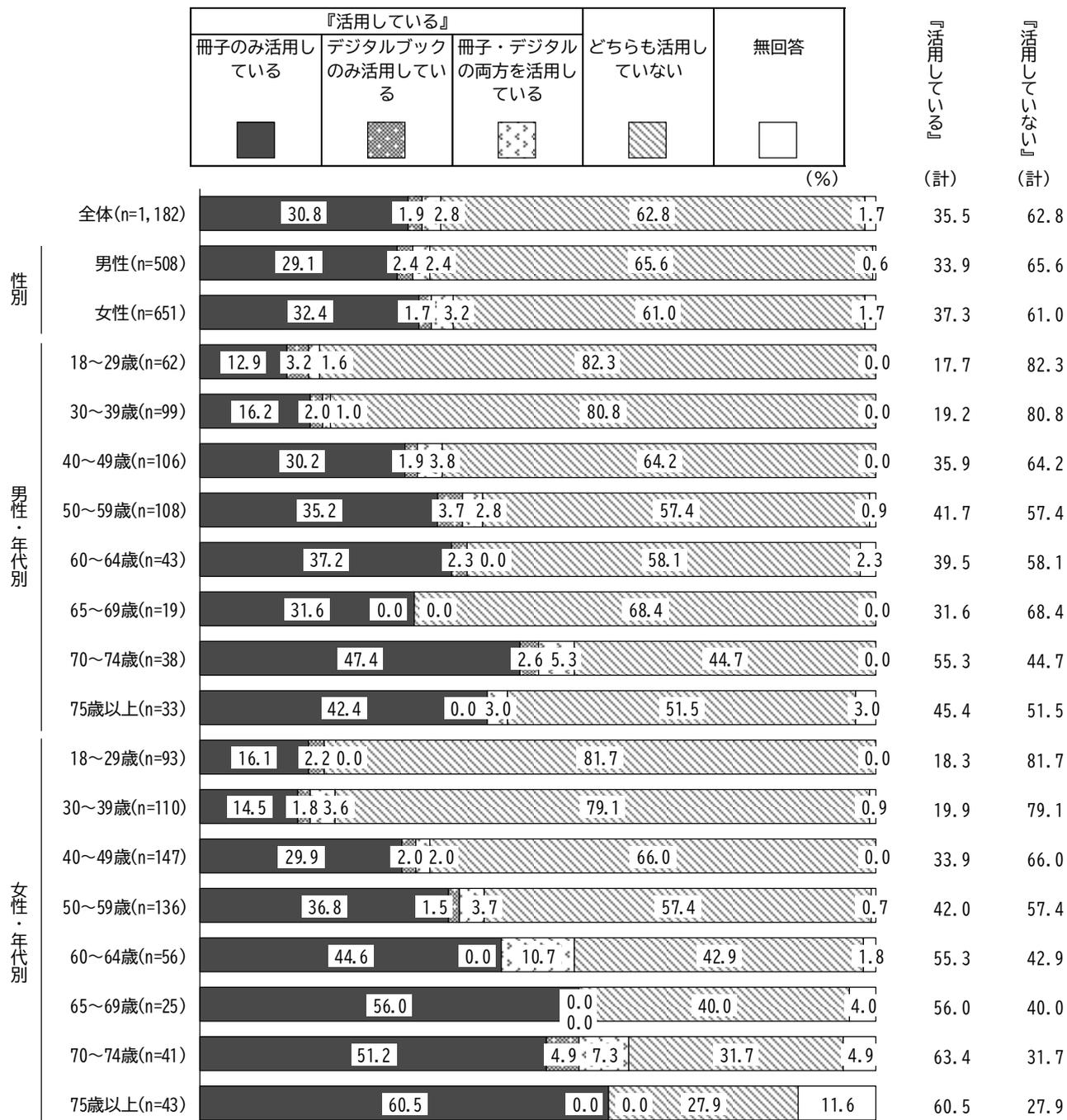
図7-1-1 ちよだインフォメーション（便利帳）の活用状況



ちよだインフォメーション（便利帳）の活用状況について聞いたところ、冊子もデジタルブックも「どちらも活用していない」（62.8%）が6割強と高くなっている。冊子とデジタルブックでは、「冊子のみ活用している」（30.8%）は約3割、「デジタルブックのみ活用している」（1.9%）は1割未満と冊子の割合の方が高くなっている。（図7-1-1）

性・年代別にみると、「どちらも活用していない」は男性18～29歳(82.3%)が8割強と最も高く、女性18～29歳(81.7%)が8割強と高くなっている。「冊子のみ活用している」は、女性75歳以上(60.5%)が約6割と最も高く、女性65～69歳(56.0%)が5割台半ばを超えと高くなっている。(図7-1-2)

図7-1-2 ちよだインフォメーション（便利帳）の活用状況（性・年代別）



I 調査の概要

II 調査結果の要約

III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

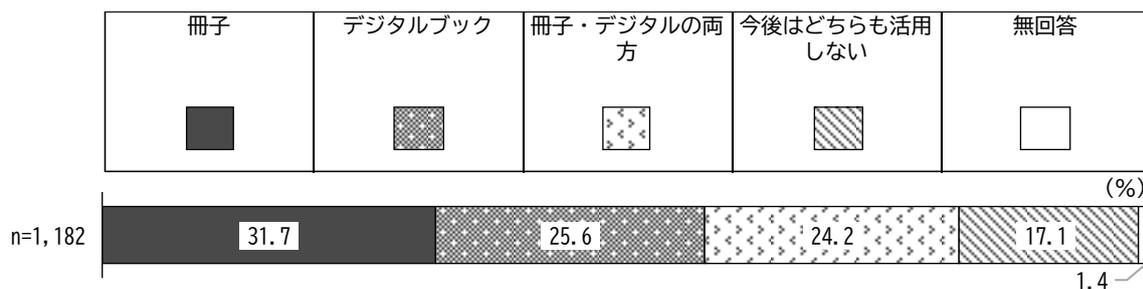
V 調査票

(2) ちよだインフォメーション（便利帳）の活用媒体

◇「冊子」が3割強

問12 今後、「ちよだインフォメーション（便利帳）」を冊子とデジタルブックのどちらで活用していきたいですか。（○は1つ）

図7-2-1 ちよだインフォメーション（便利帳）の今後の活用媒体

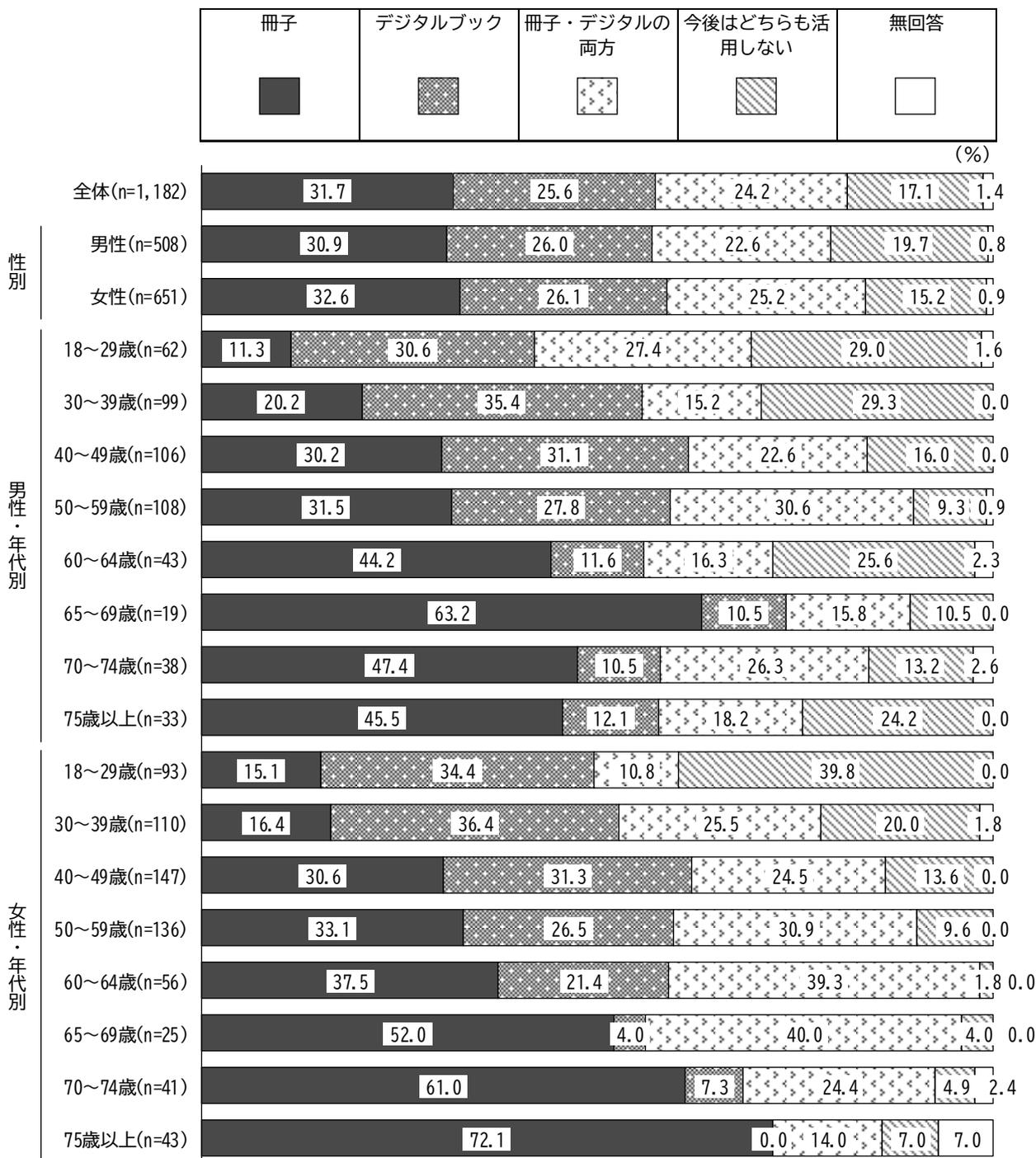


今後、ちよだインフォメーション（便利帳）を冊子とデジタルブックのどちらで活用していきたいか聞いたところ、「冊子」（31.7%）が3割強、「デジタルブック」（25.6%）が2割台半ば、「冊子・デジタルの両方」（24.2%）が2割台半ば近くの順に高くなっている。

（図7-2-1）

性・年代別にみると、「冊子」は、女性75歳以上(72.1%)が7割強と最も高く、「冊子・デジタルの両方」は女性65～69歳(40.0%)が4割と最も高くなっている。「今後はどちらも活用しない」は、女性18～29歳(39.8%)が4割弱と最も高くなっている。(図7-2-2)

図7-2-2 ちよだインフォメーション（便利帳）の今後の活用媒体（性・年代別）



I 調査の概要

II 調査結果の要約

III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

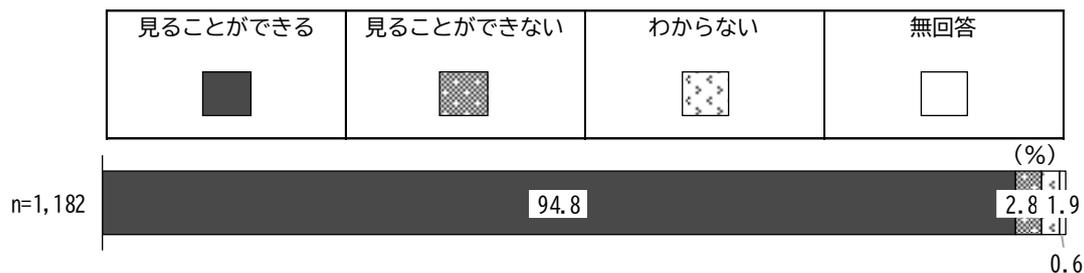
V 調査票

(3) YouTubeの視聴環境の有無

◇「見ることができる」が9割台半ば近く

問13 あなたは、現在お持ちのパソコン、スマートフォン、タブレット等でYouTubeを見られる環境にありますか。(○は1つ)

図7-3-1 YouTubeの視聴環境の有無



現在お持ちのパソコン、スマートフォン、タブレット等でYouTubeを見られる環境にあるか聞いたところ、「見ることができる」(94.8%)が9割台半ば近くと最も高くなっている。(図7-3-1)

I 調査の概要

II 調査結果の要約

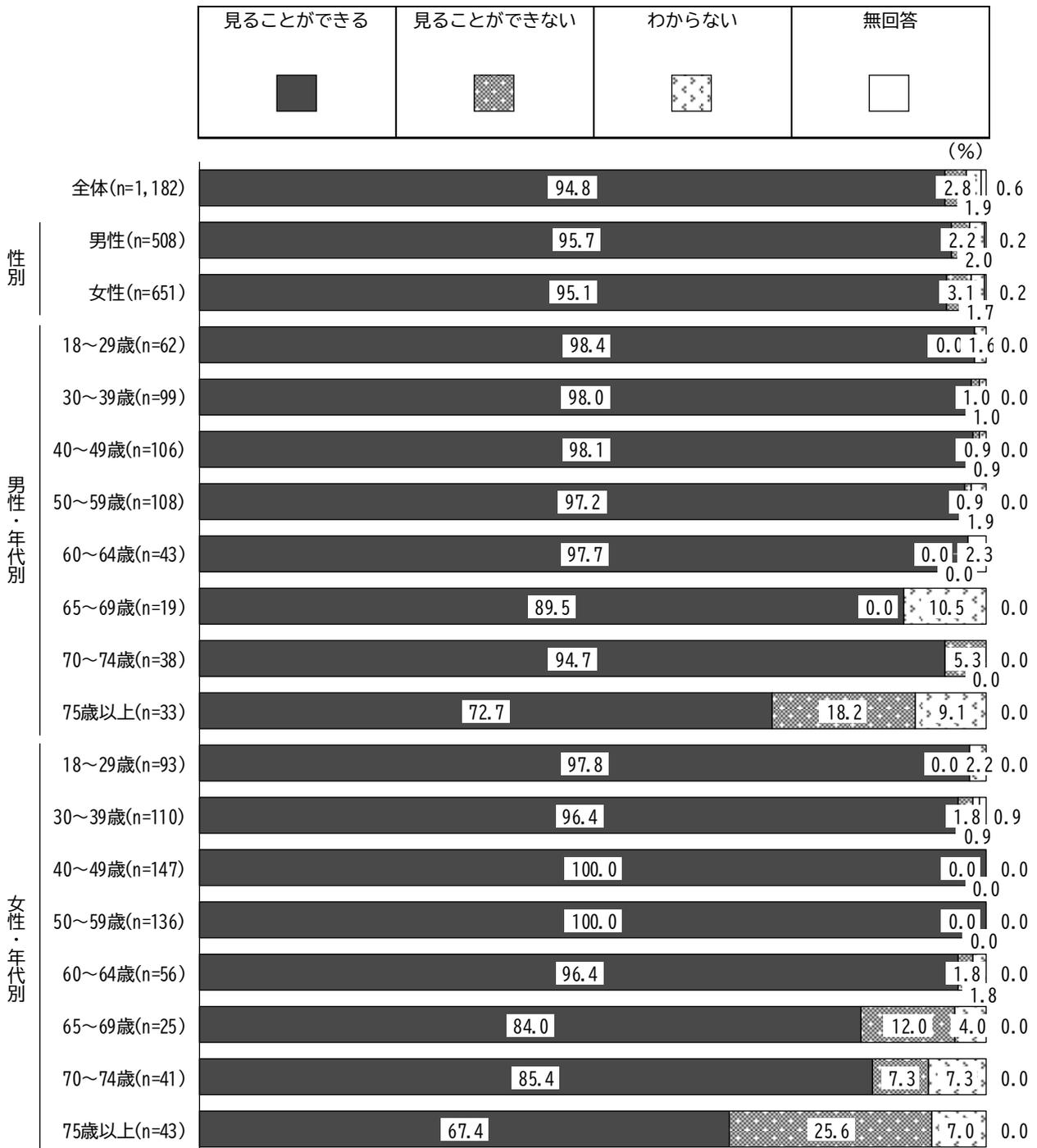
III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

V 調査票

性・年代別にみると、「見ることができない」は女性75歳以上(25.6%)が2割台半ばと最も高く、次いで男性75歳以上(18.2%)が2割近くと高くなっている。(図7-3-2)

図7-3-2 YouTubeの視聴環境の有無(性・年代別)



I 調査の概要

II 調査結果の要約

III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

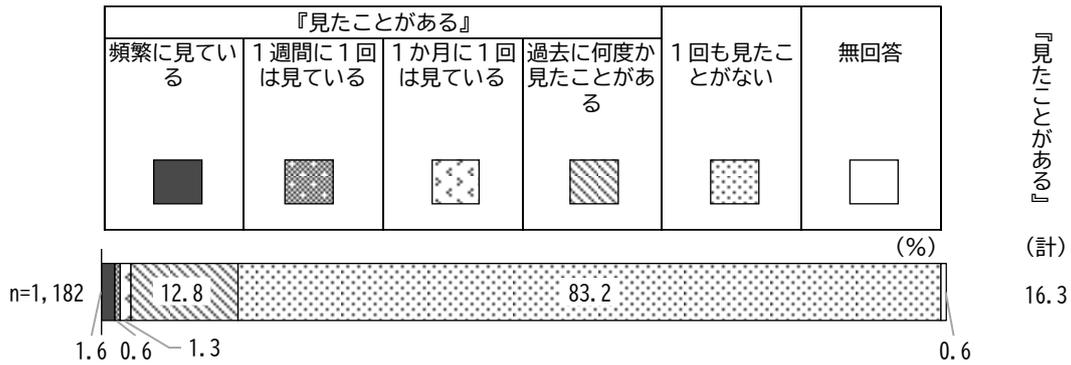
V 調査票

(4) 区公式YouTubeチャンネルの視聴経験

◇「1回も見たことがない」が8割台半ば近く

問14 あなたは、これまで、区公式YouTubeチャンネルを見たことがありますか。(○は1つ)

図7-4-1 区公式YouTubeチャンネルの視聴経験



「1回も見たことがない」(83.2%)が8割台半ば近くと高くなっている。一方で、「頻繁に見ている」(1.6%)、「1週間に1回は見ている」(0.6%)、「1か月に1回は見ている」(1.3%)、「過去に何度か見たことがある」(12.8%)を合わせた『見たことがある』(16.3%)は1割台半ばを超えとなっている。(図7-4-1)

I 調査の概要

II 調査結果の要約

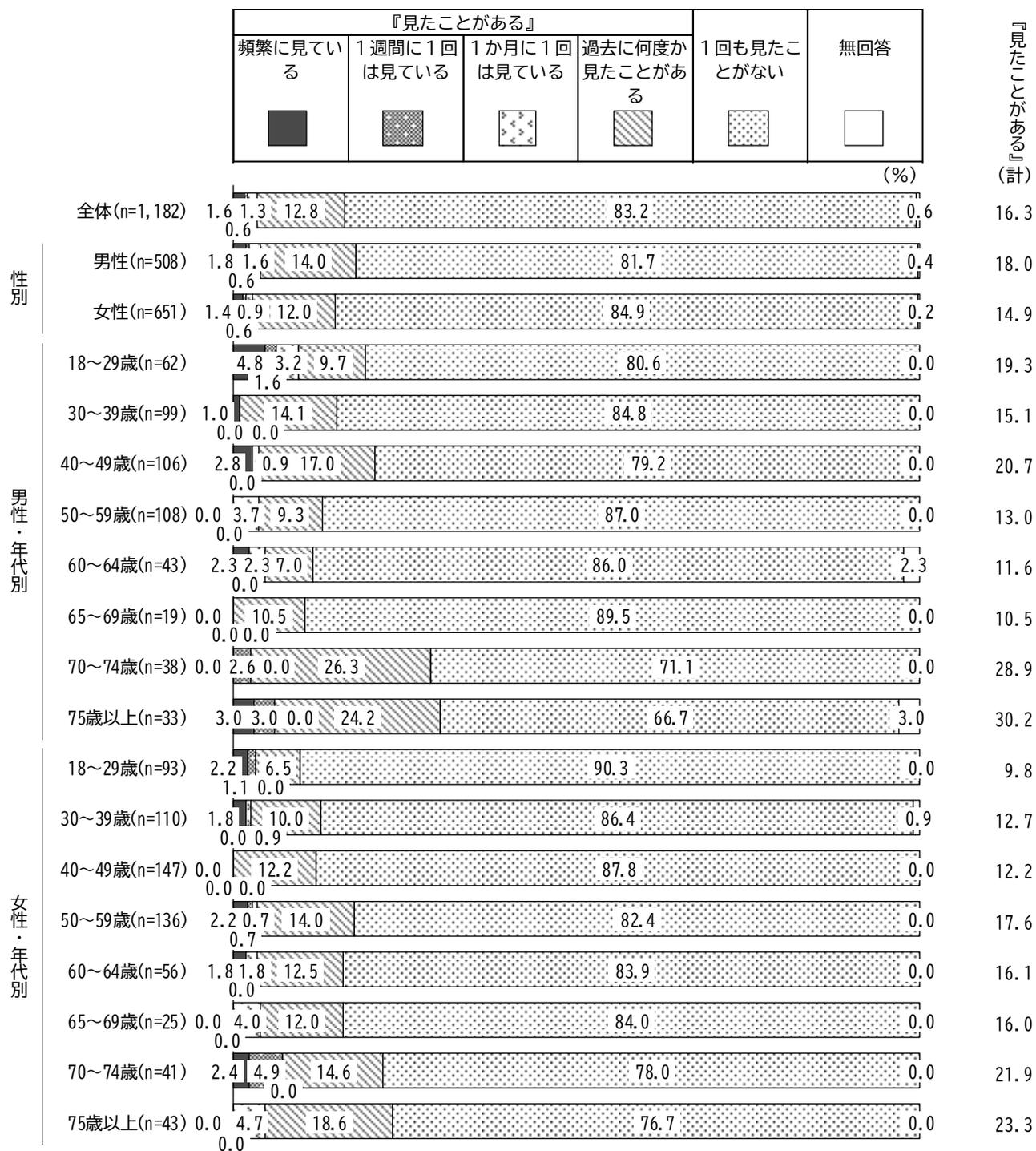
III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

V 調査票

性・年代別にみると、『見たことがある』は男性75歳以上(30.2%)が約3割と最も高くなっている。(図7-4-2)

図7-4-2 区公式YouTubeチャンネルの視聴経験(性・年代別)



I

調査の概要

II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

IV

調査結果の数表

V

調査票

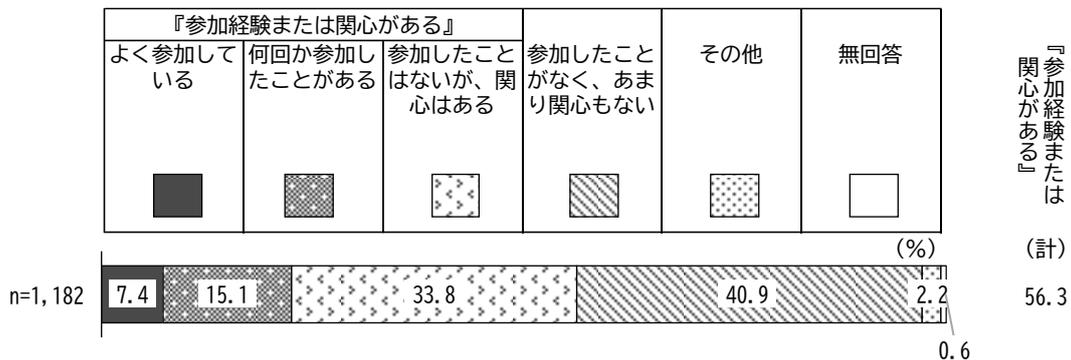
8. 町会・ボランティア

(1) 地域の活動（町会やボランティア活動など）への参加状況

◇「参加したことがなく、あまり関心もない」が約4割

問15 あなたは、地域の活動（町会やボランティア活動など）に参加したことがありますか。（○は1つ）

図8-1-1 地域の活動への参加状況



地域の活動（町会やボランティア活動など）への参加状況について聞いたところ、「よく参加している」（7.4%）、「何回か参加したことがある」（15.1%）、「参加したことはないが、関心はある」（33.8%）を合わせた『参加経験または関心がある』（56.3%）は5割台半ばを超えとなっている。一方で、「参加したことがなく、あまり関心もない」（40.9%）が約4割と最も高くなっている。（図8-1-1）

I

調査の概要

II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

IV

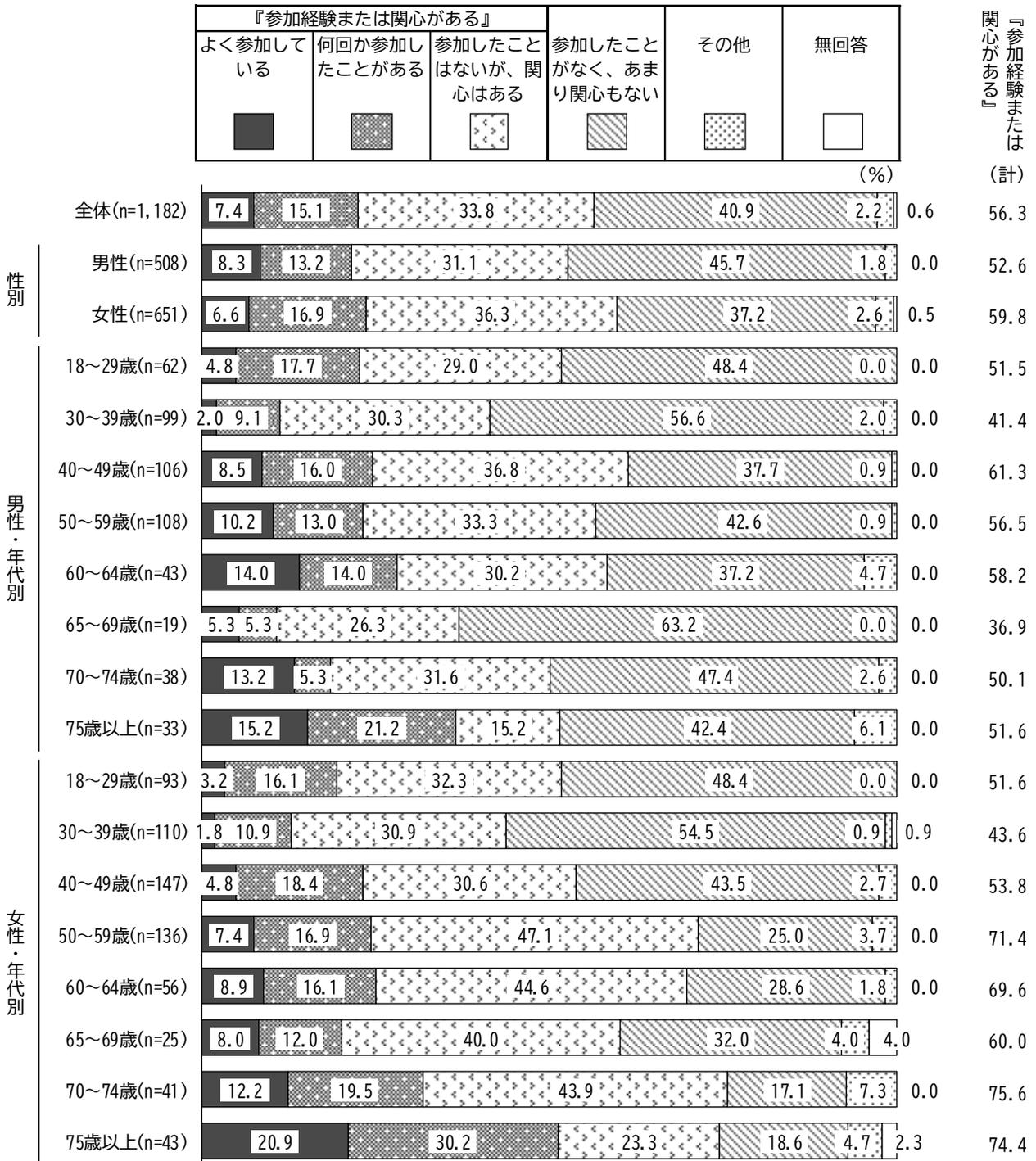
調査結果の数表

V

調査票

性・年代別にみると、『参加経験または関心がある』は女性70～74歳(75.6%)が7割台半ばと最も高くなっている。(図8-1-2)

図8-1-2 地域の活動への参加状況(性・年代別)



I

調査の概要

II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

IV

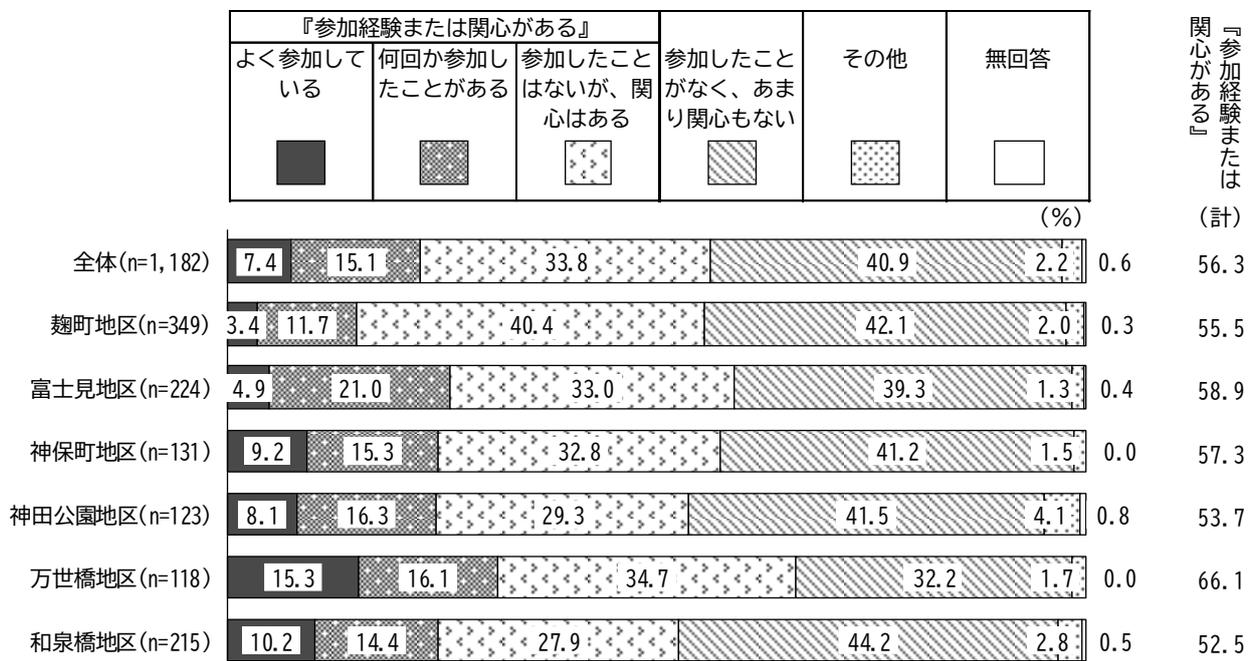
調査結果の数表

V

調査票

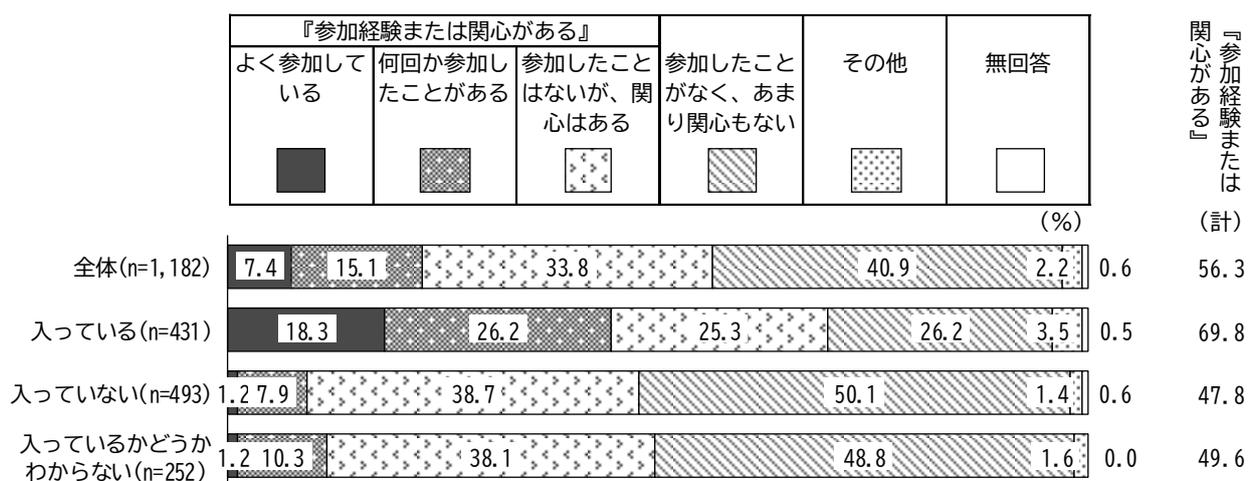
地区別にみると、『参加経験または関心がある』は万世橋地区(66.1%)が6割台半ば超えと最も高くなっている。(図8-1-3)

図8-1-3 地域の活動(町会やボランティア活動など)への参加状況(地区別)



町会加入状況別にみると、『参加経験または関心がある』は入っている(69.8%)が7割弱と最も高くなっている。(図8-1-4)

図8-1-4 地域の活動(町会やボランティア活動など)への参加状況(町会加入状況別)

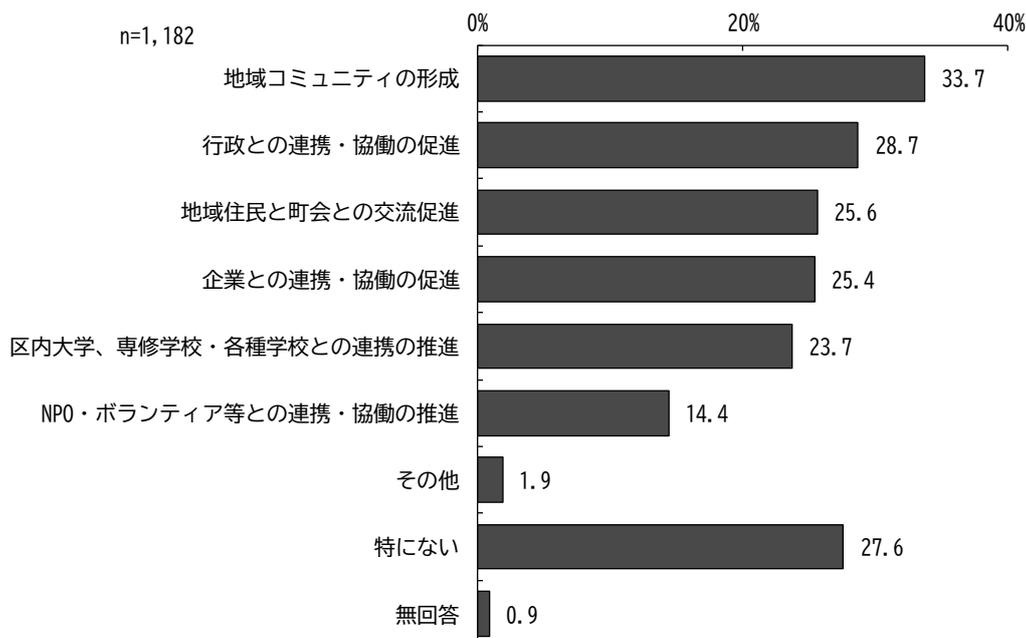


(2) 町会・ボランティア活動で力を入れて欲しい分野

◇「地域コミュニティの形成」が3割台半ば近く

問16 町会・ボランティア活動に関して、あなたが「力を入れて欲しい分野」は何ですか。(〇はいくつでも)

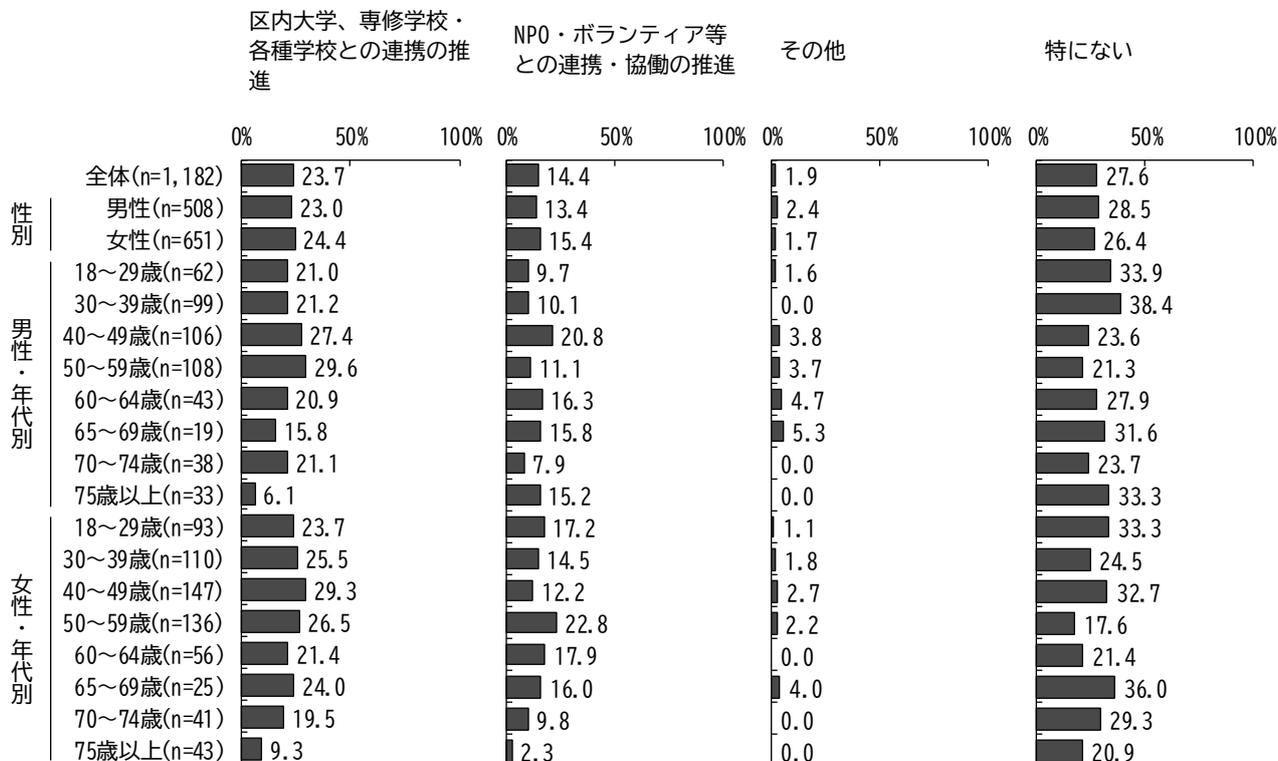
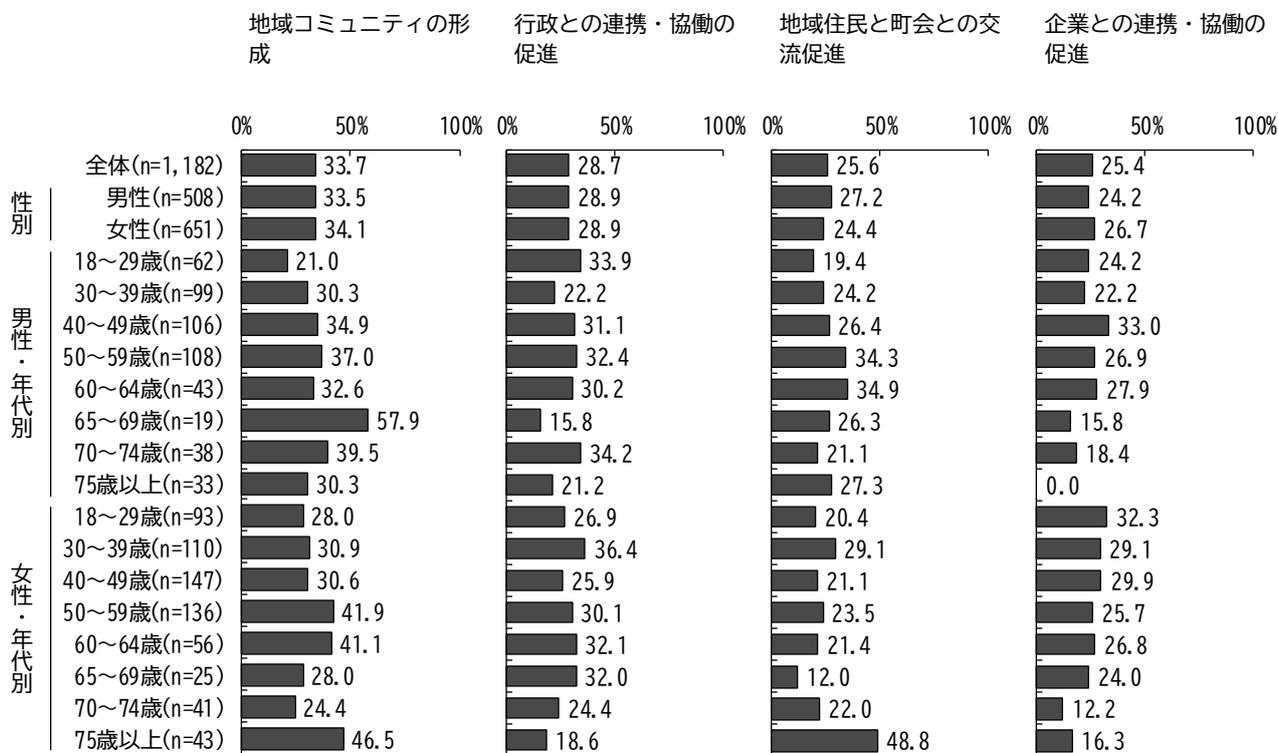
図8-2-1 町会・ボランティア活動で力を入れて欲しい分野



町会・ボランティア活動で力を入れてほしい分野について聞いたところ、「地域コミュニティの形成」(33.7%)が3割台半ば近くと最も高く、次いで「行政との連携・協働の促進」(28.7%)が3割近くとなっている。(図8-2-1)

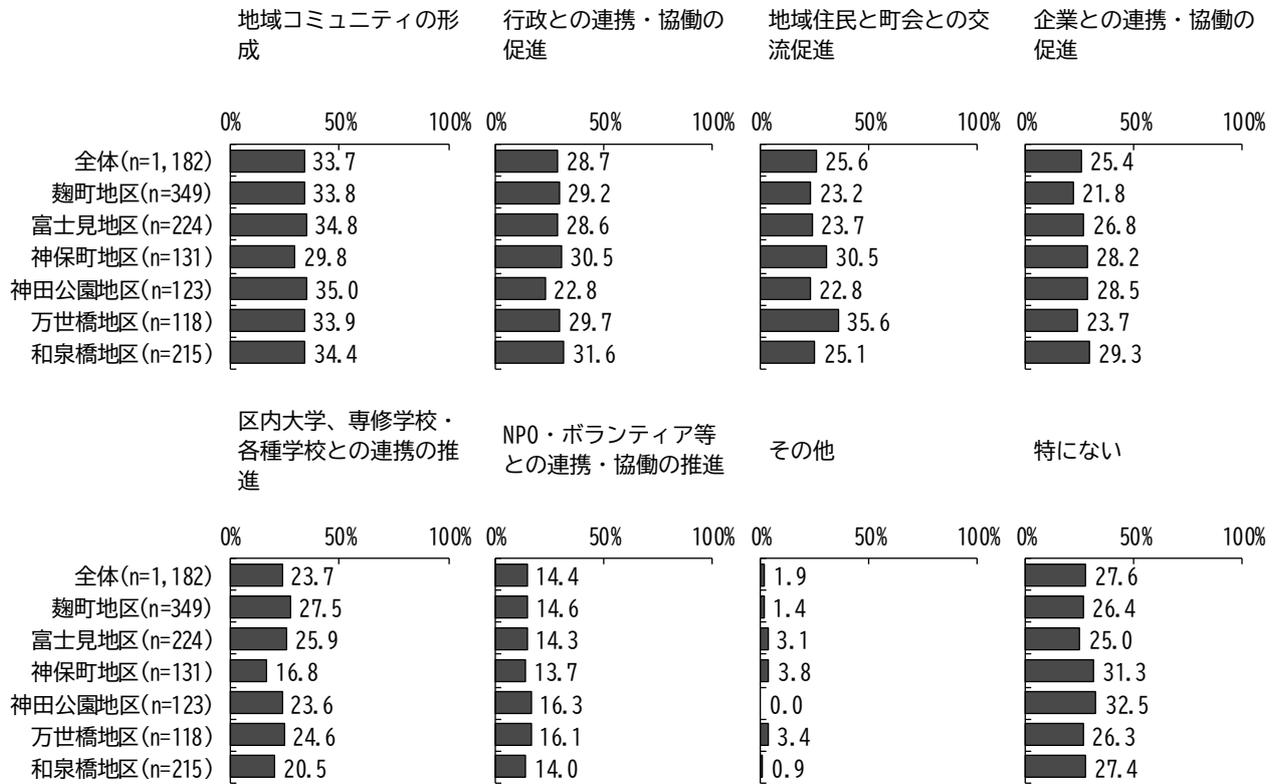
性・年代別にみると、「地域コミュニティの形成」は男性65～69歳(57.9%)が5割台半ばを超えと最も高くなっている。(図8-2-2)

図8-2-2 町会・ボランティア活動で力を入れて欲しい分野(性・年代別)



地区別にみると、「区内大学、専修学校・各種学校との連携の推進」は麴町地区(27.5%)が2割台半ばを超えと最も高くなっている。(図8-2-3)

図8-2-3 町会・ボランティア活動で力を入れて欲しい分野(地区別)



I

調査の概要

II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

IV

調査結果の数表

V

調査票

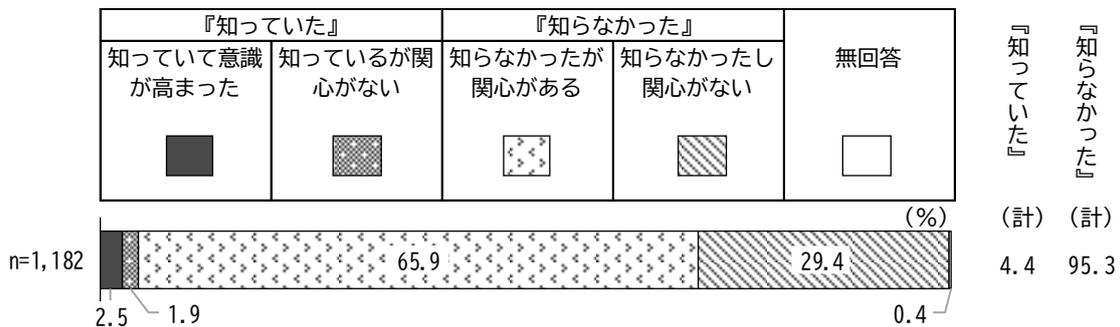
9. 自殺対策

(1) 千代田区自殺対策計画の認知度

◇「知らなかったが関心がある」が6割台半ば

問17 区では、誰も自殺に追い込まれることのない社会を目指すため、平成31年3月に千代田区自殺対策計画を策定、令和7年3月に改訂しましたが、ご存知ですか。
(○は1つ)

図9-1-1 千代田区自殺対策計画の認知度



千代田区自殺対策計画の認知度について聞いたところ、「知らなかったが関心がある」(65.9%)が6割台半ばと最も高く、次いで「知らなかったし関心がない」(29.4%)が3割弱となっている。(図9-1-1)

I

調査の概要

II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

IV

調査結果の数表

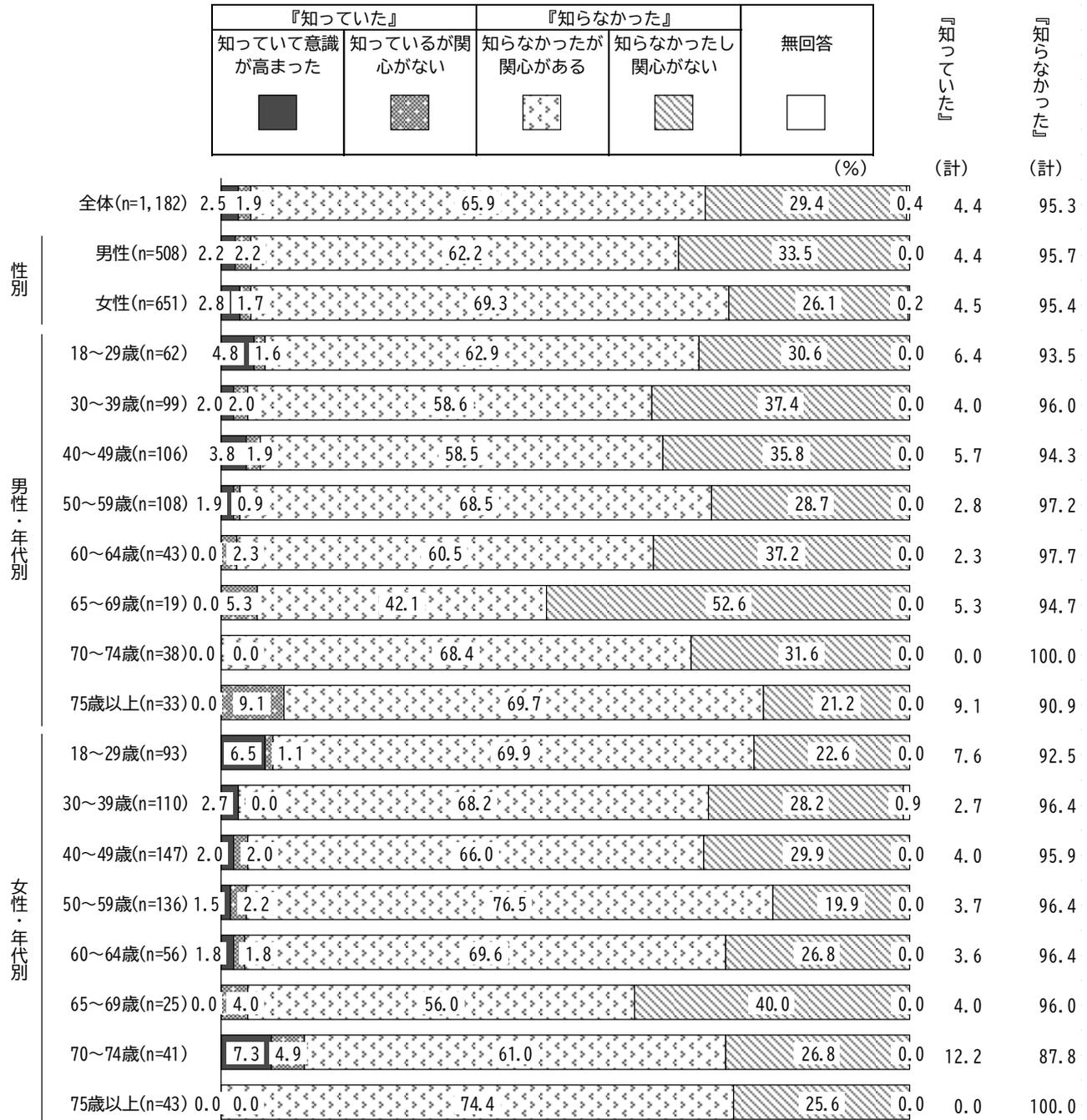
V

調査票

性・年代別にみると「知らなかったが関心がある」は女性50～59歳(76.5%)が7割台半ばを超えと最も高くなっている。「知らなかったし関心がない」は男性65～69歳以上(52.6%)が5割強と最も高く、次いで女性65～69歳(40.0%)が4割と高くなっている。

(図9-1-2)

図9-1-2 千代田区自殺対策計画の認知度(性・年代別)



I

調査の概要

II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

IV

調査結果の数表

V

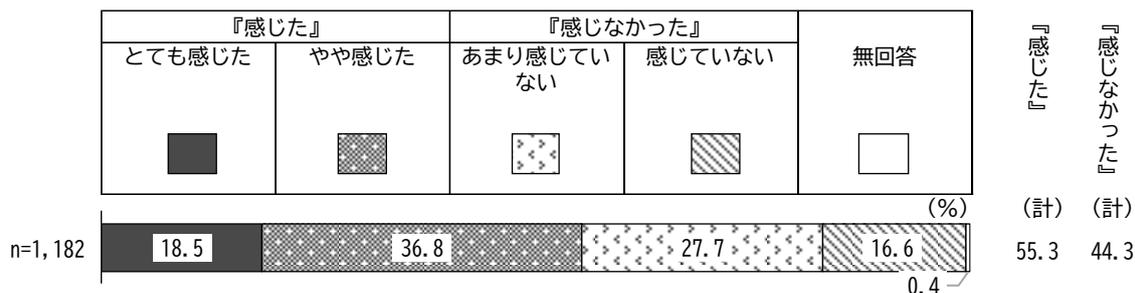
調査票

(2) ストレス等の有無

◇「やや感じた」が3割台半ば超え

問18 あなたは、最近1ヶ月間に日常生活で不満、悩み、苦勞、ストレスを感じましたか。(〇は1つ)

図9-2-1 ストレス等の有無



最近1ヶ月間に日常生活で不満、悩み、苦勞、ストレスを感じたかを聞いたところ、「やや感じた」(36.8%)が3割台半ば超えと最も高く、次いで「あまり感じていない」(27.7%)が2割台半ば超えとなっている。「とても感じた」(18.5%)と「やや感じた」(36.8%)を合計した『感じた』(55.3%)が5割台半ばとなっている。一方で、「あまり感じていない」(27.7%)と「感じていない」(16.6%)を合わせた『感じなかった』(44.3%)が4割台半ば近くとなっている。(図9-2-1)

I 調査の概要

II 調査結果の要約

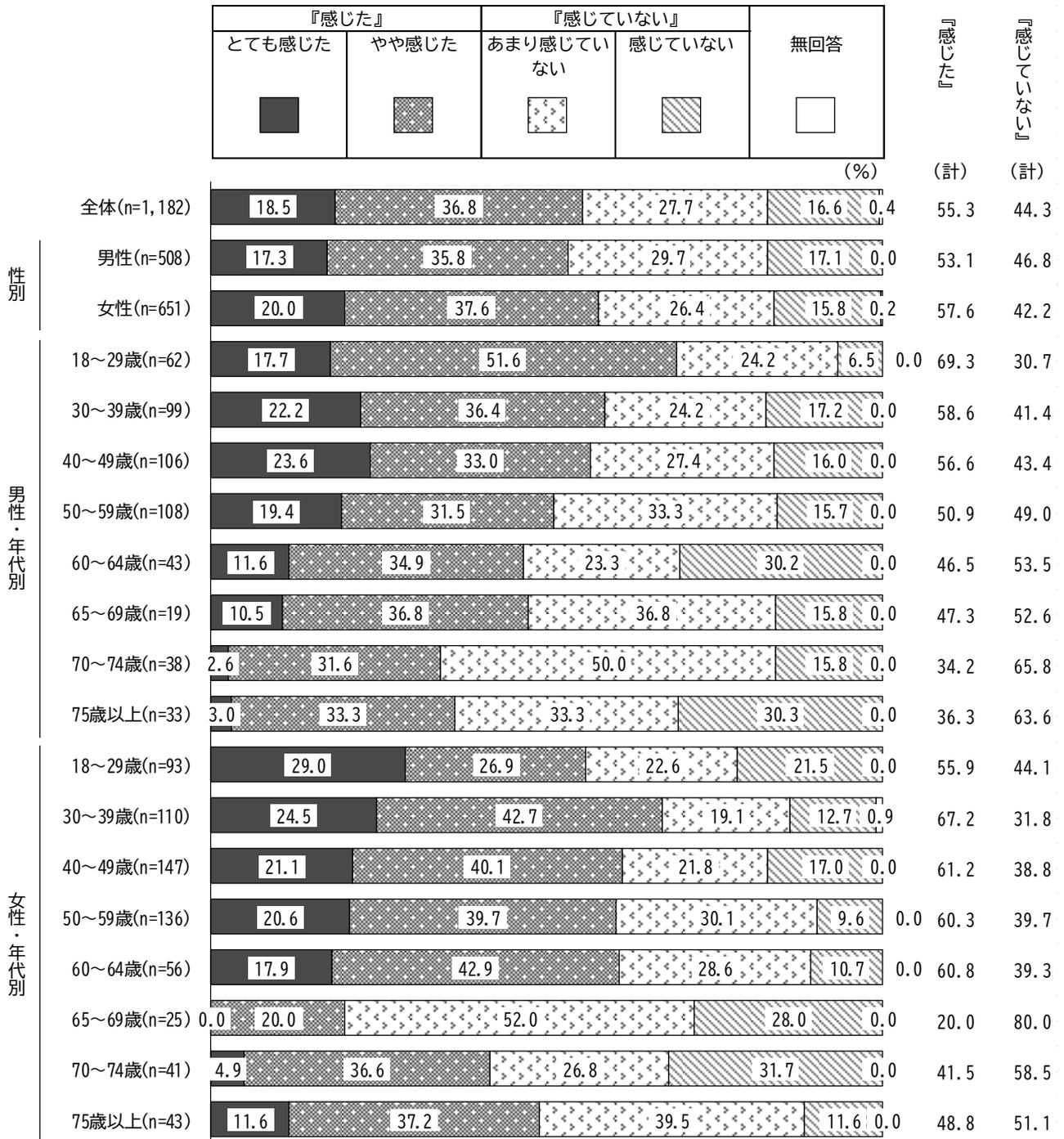
III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

V 調査票

性・年代別にみると、『感じていない』は女性65～69歳(80.0%)が8割と最も高くなっている。(図9-2-2)

図9-2-2 ストレス等の有無(性・年代別)



I

調査の概要

II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

IV

調査結果の数表

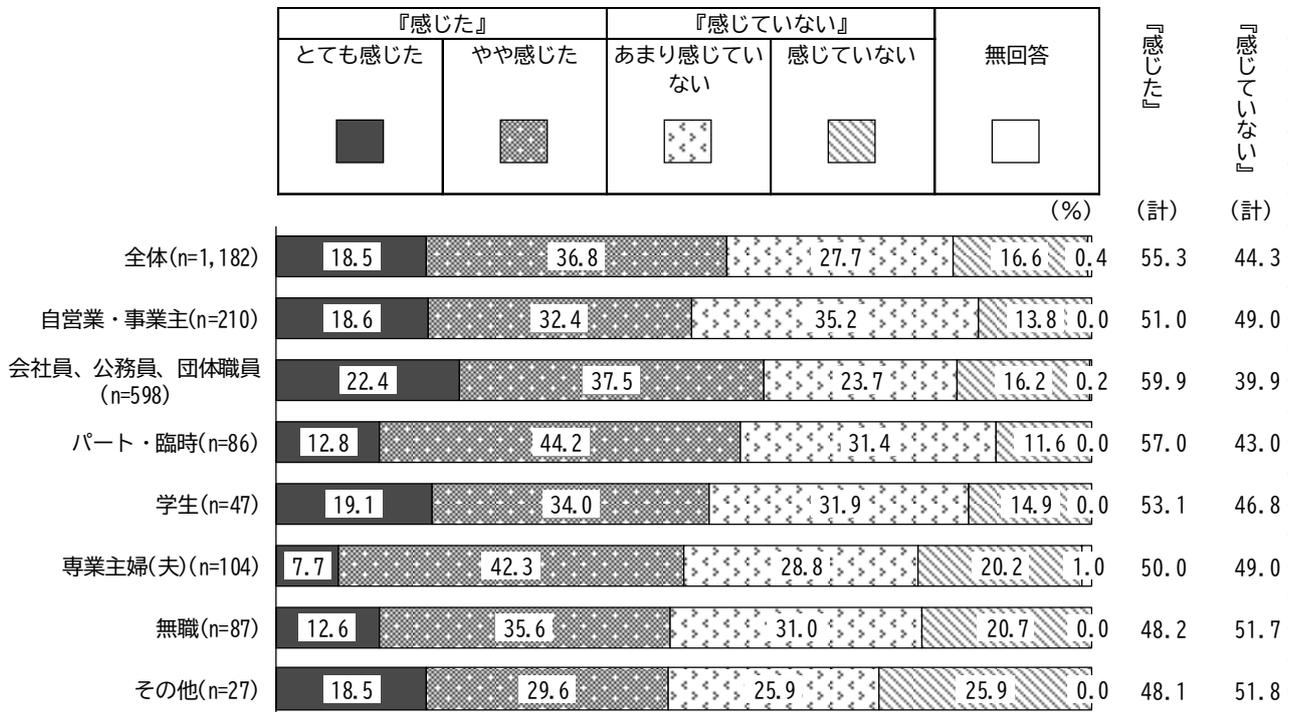
V

調査票

職業別にみると、『感じていない』はその他(51.8%)が5割強と最も高くなっている。

(図9-2-3)

図9-2-3 ストレス等の有無（職業別）



I 調査の概要

II 調査結果の要約

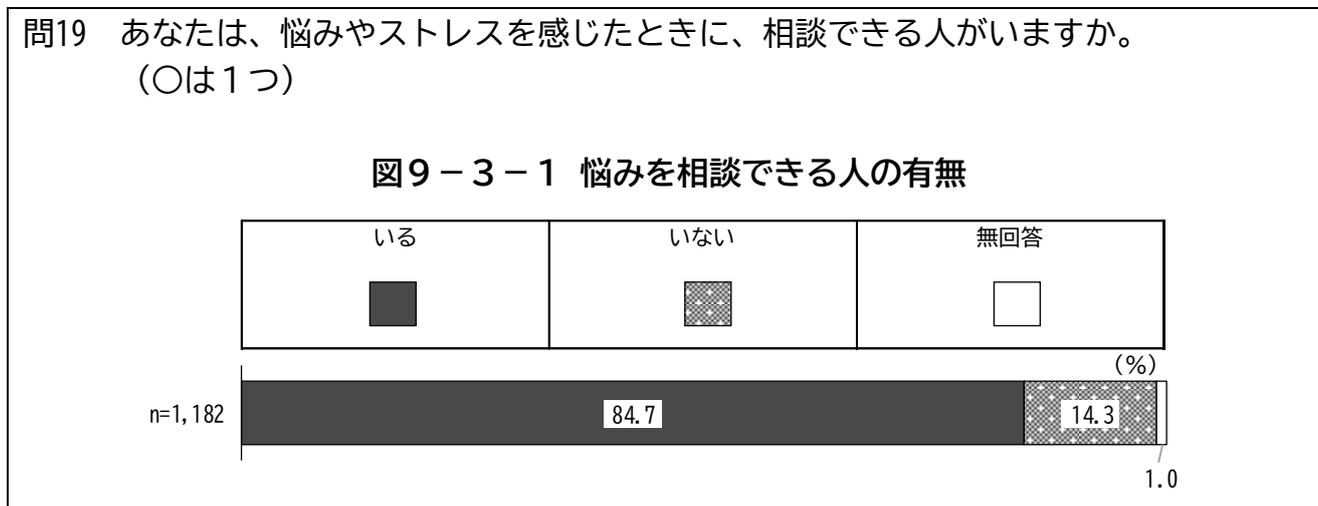
III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

V 調査票

(3) 悩みを相談できる人の有無

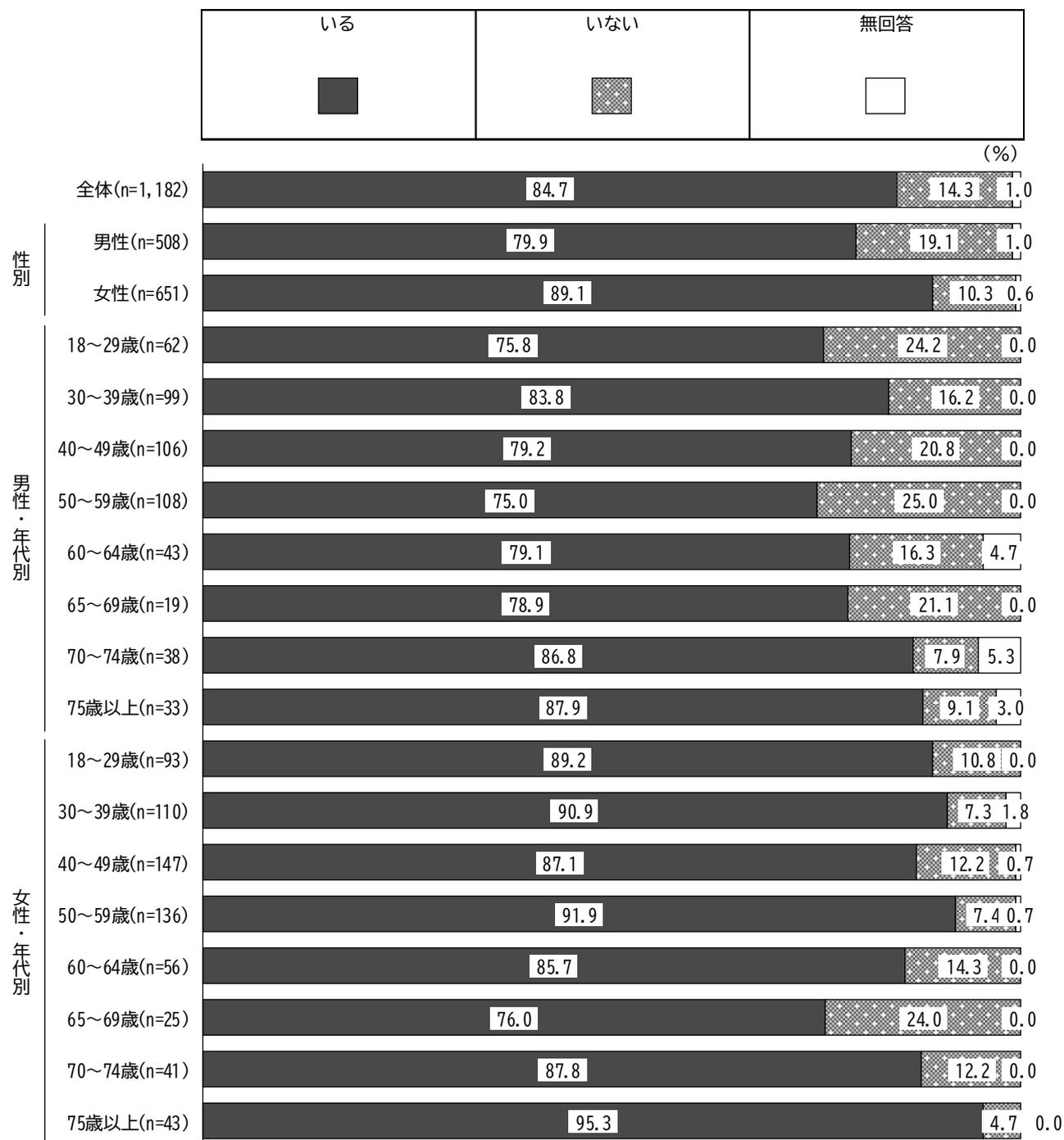
◇「いる」が8割台半ば近く



悩みを相談できる人の有無について聞いたところ、「いる」(84.7%)が8割台半ば近くと高く、「いない」(14.3%)が1割台半ば近くと低くなっている。(図9-3-1)

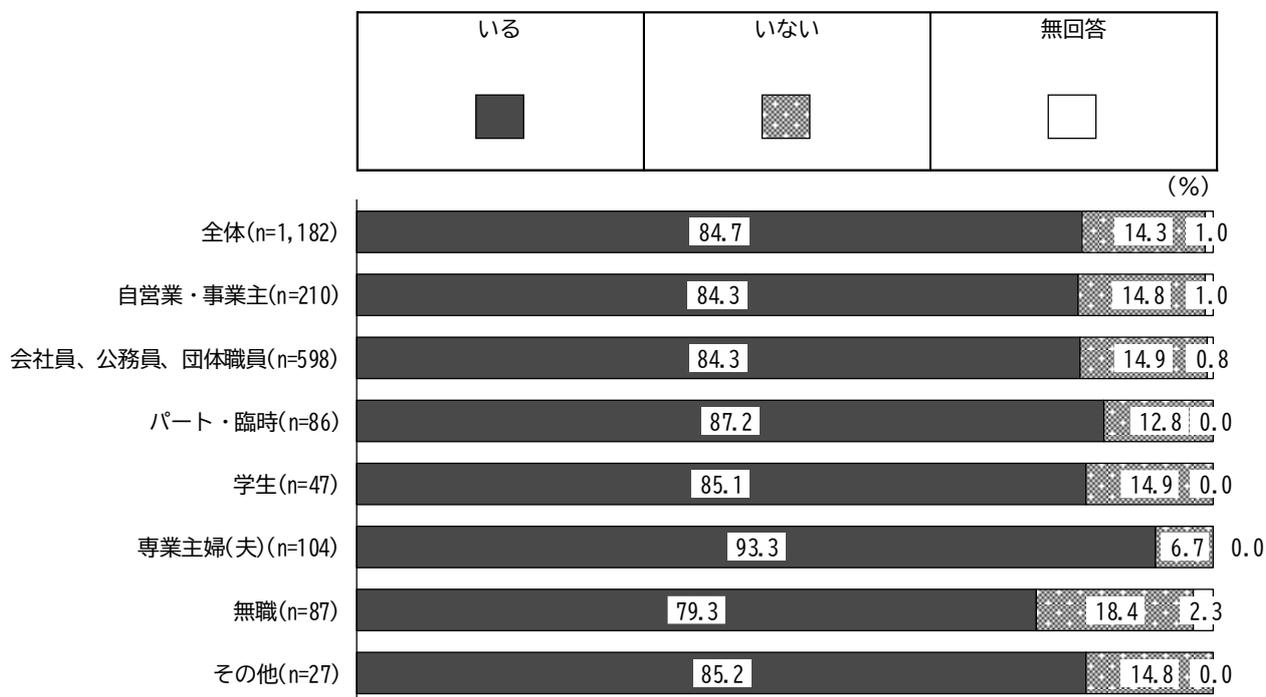
性・年代別にみると、「いる」は女性75歳以上(95.3%)が9割台半ばと最も高くなっている。(図9-3-2)

図9-3-2 悩みを相談できる人の有無(性・年代別)



職業別にみると、「いる」は専業主婦(夫)(93.3%)が9割台半ば近く、「いない」は無職(18.4%)が2割近くとわずかに他よりも高くなっている。(図9-3-3)

図9-3-3 悩みを相談できる人の有無(職業別)



I

調査の概要

II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

IV

調査結果の数表

V

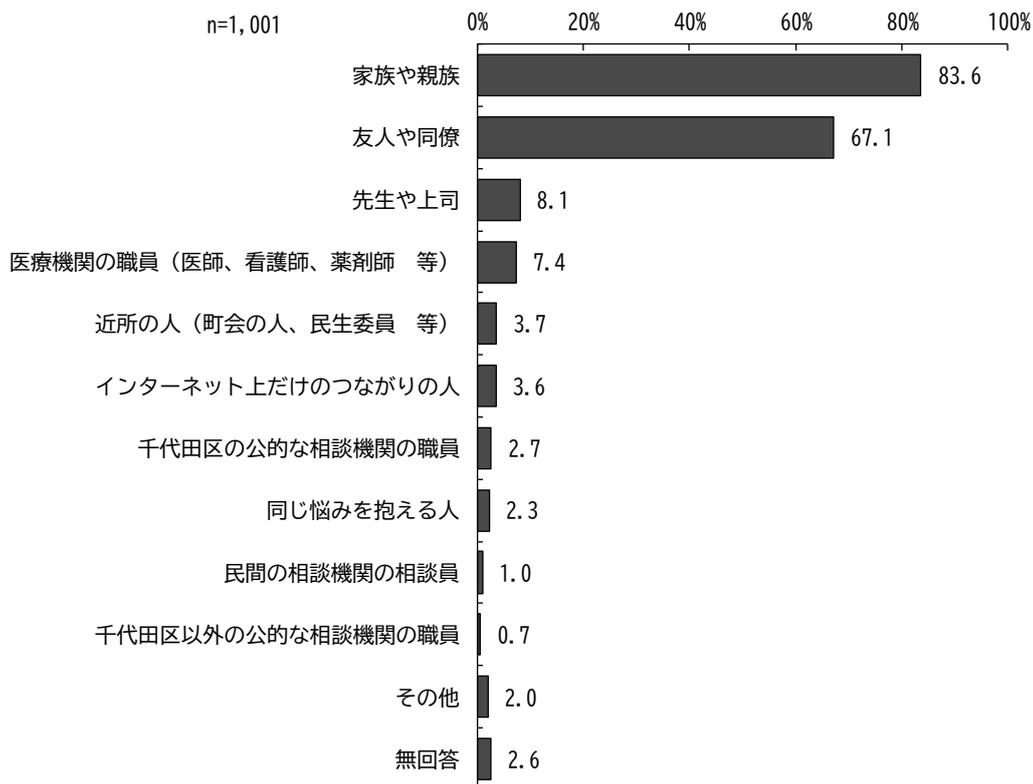
調査票

(3-1) 悩みを相談する相手

◇「家族や親族」が8割台半ば近く

問19-1 (問19で「1.いる」と回答の方)
 悩みはどのような方に相談しますか。(〇はいくつでも)

図9-3-4 悩みを相談する相手

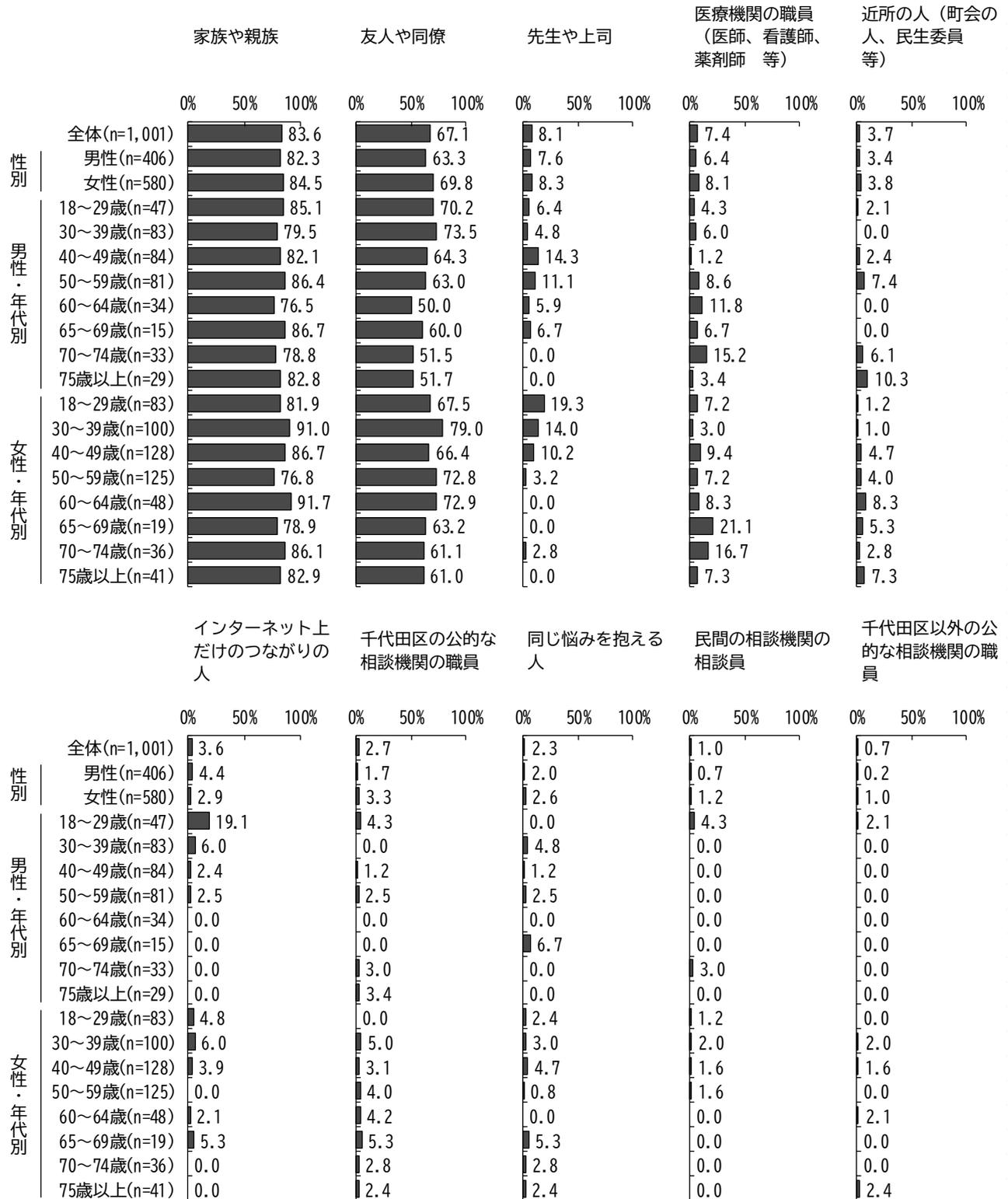


悩みを相談する相手について聞いたところ、「家族や親族」(83.6%)が8割台半ば近くと高く、次いで「友人や同僚」(67.1%)が6割台半ばを超えと高くなっている。

(図9-3-4)

性・年代別にみると、「家族や親族」女性60～64歳(91.7%)が9割強と最も高くなっている。また、「友人や同僚」は女性30～39歳(79.0%)が8割弱、「先生や上司」は女性18～29歳(19.3%)が2割弱と最も高くなっている。(図9-3-5)

図9-3-5 悩みを相談する相手(性・年代別) -上位10分野-



I 調査の概要

II 調査結果の要約

III 調査結果の分析

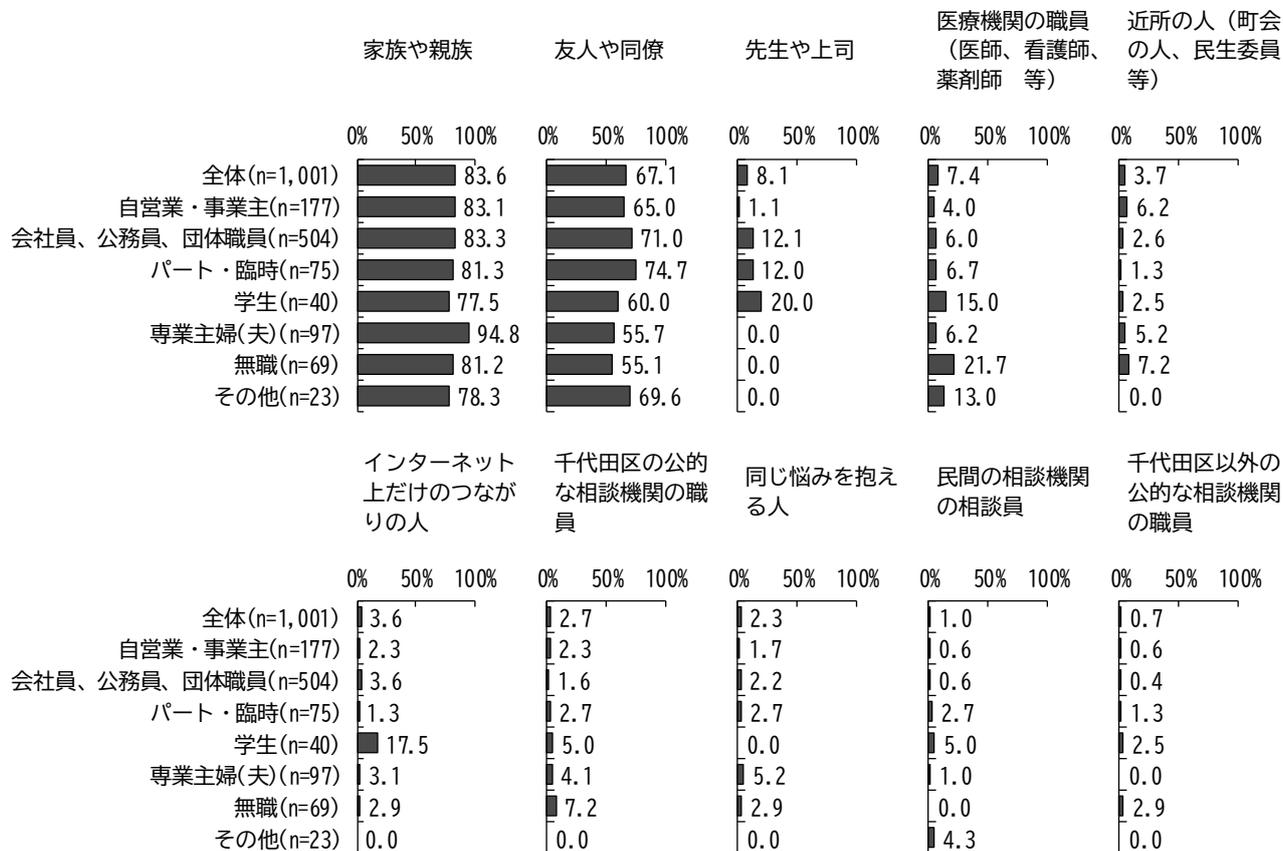
IV 調査結果の数表

V 調査票

職業別にみると、「家族や親族」は専業主婦(夫)(94.8%)が9割半ば近くと最も高くなっている。また、「医療機関の職員」は無職(21.7%)が2割強と最も高くなっている。

(図9-3-6)

図9-3-6 悩みを相談する相手(職業別) - 上位10分野 -



I 調査の概要

II 調査結果の要約

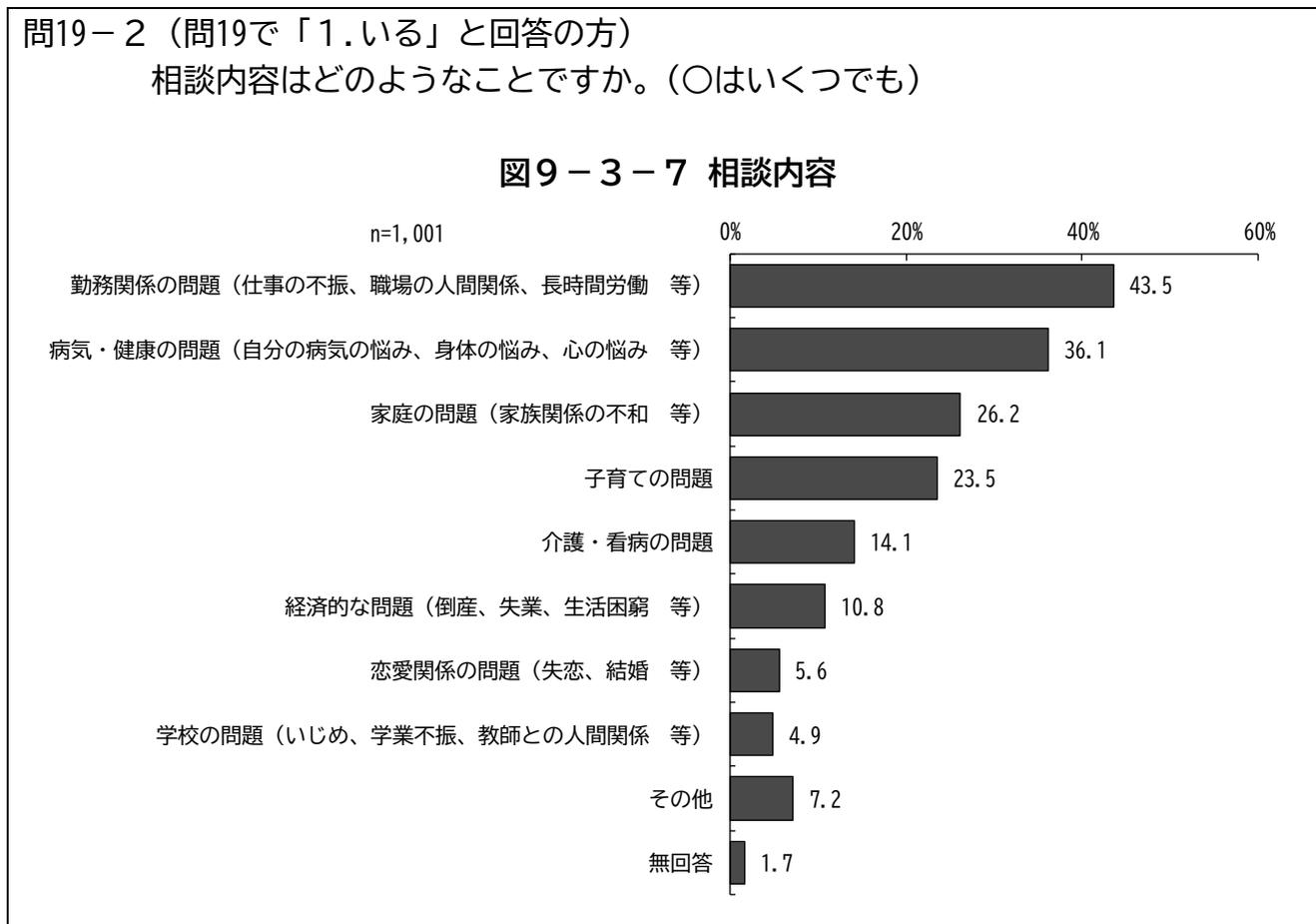
III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

V 調査票

(3-2) 相談内容

◇「勤務関係の問題」が4割台半ば近く

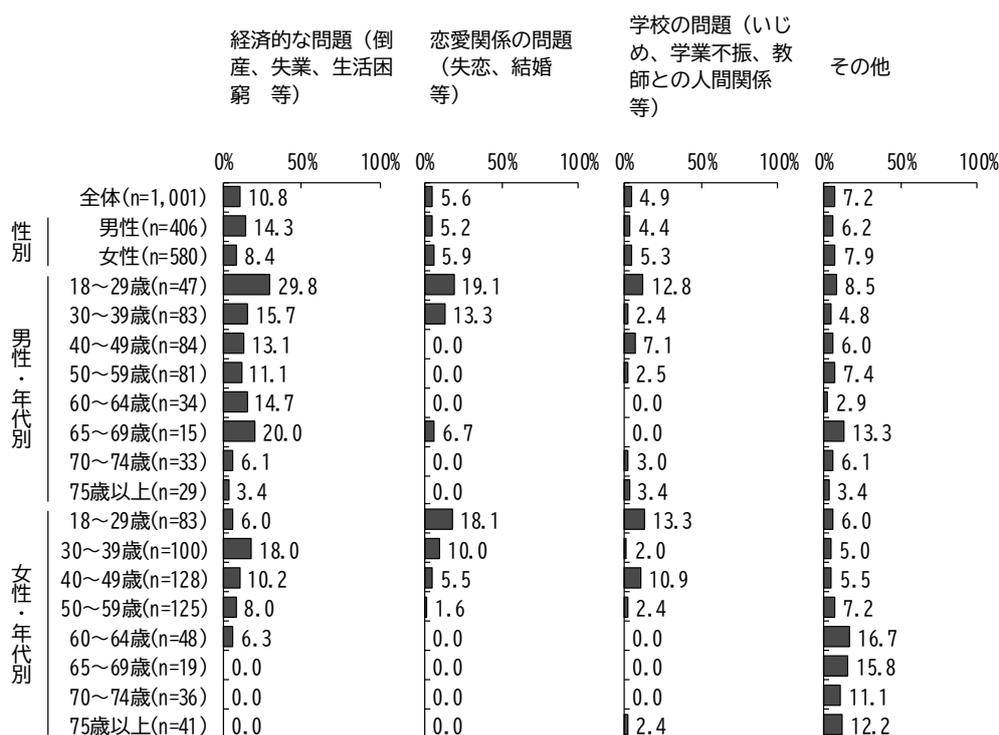
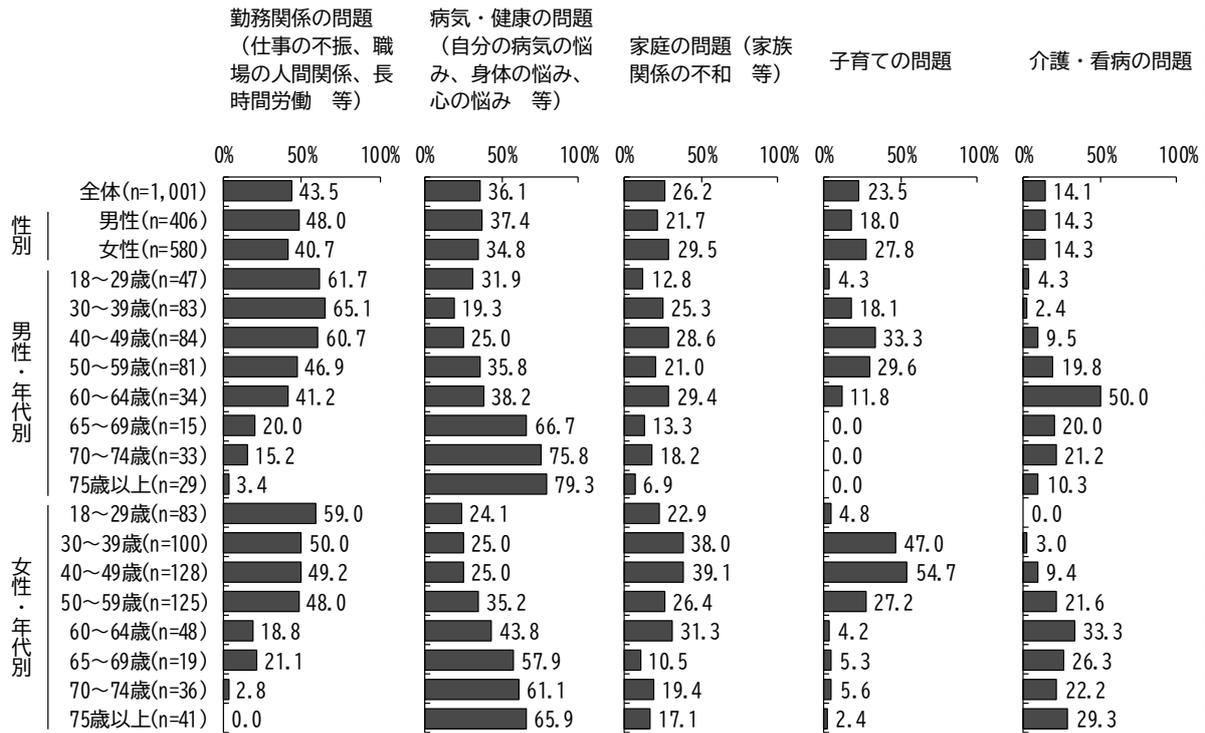


相談内容について聞いたところ、「勤務関係の問題 (仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働 等)」(43.5%)が4割台半ば近くと最も高く、次いで「病気・健康の問題 (自分の病気の悩み、身体の悩み、心の悩み 等)」(36.1%)が3割台半ば超え、「家庭の問題 (家族関係の不和 等)」(26.2%)が2割台半ば超え「子育ての問題」(23.5%)が2割台半ば近くとなっている。(図9-3-7)

その他に具体的な相談内容を記載した人(「特にない」や「言いたくありません」等を除く)は45名おり、主な意見として「自分自身について」、「仕事と家事の両立、疲れ」、「相続」、「借金」、「病気のこと」、「老後の不安」、「将来について」、「近隣住民」、「住宅のトラブル」、「夜間の騒音」、「政治の事」などが挙げられている。

性・年代別にみると、「勤務関係の問題（仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働等）」は、男性30～39歳(65.1%)が6割台半ばと最も高くなっている。「病気・健康の問題（自分の病気の悩み、身体の悩み、心の悩み等）」は、男性75歳以上(79.3%)が8割弱と最も高くなっている。また、「子育ての問題」は女性40～49歳(54.7%)が5割台半ば近く、「介護・看病の問題」は男性60～64歳(50.0%)が5割、「恋愛関係の問題（失恋、結婚等）」は男性18～29歳(19.1%)が2割弱と最も高くなっている。（図9-3-8）

図9-3-8 相談内容（性・年代別）



職業別にみると、「勤務関係の問題（仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働等）」は、会社員、公務員、団体職員(61.5%)が6割強と最も高くなっている。「病気・健康の問題（自分の病気の悩み、身体の悩み、心の悩み等）」は、無職(78.3%)が8割近くと最も高くなっている。(図9-3-9)

図9-3-9 相談内容（職業別）



I

調査の概要

II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

IV

調査結果の数表

V

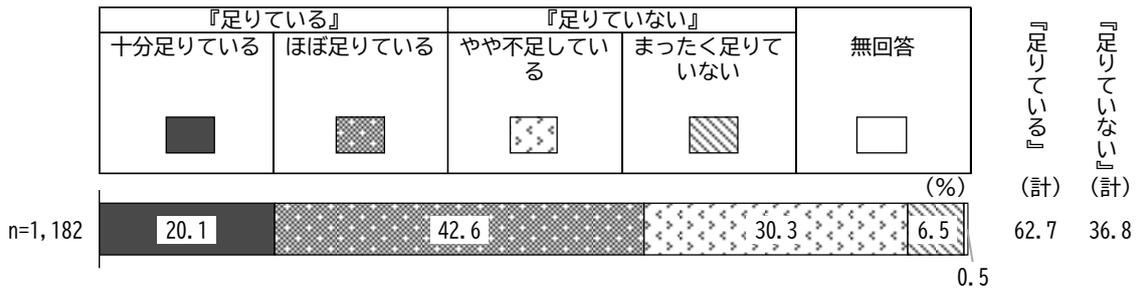
調査票

(4) 睡眠時間

◇「ほぼ足りている」が4割強

問20 あなたは、普段の睡眠時間は足りていますか。(○は1つ)

図9-4-1 睡眠時間



睡眠時間について聞いたところ、「ほぼ足りている」(42.6%)が4割強と最も高く、「十分足りている」(20.1%)と合わせた『足りている』(62.7%)は6割強となっている。一方で、「やや不足している」(30.3%)と「まったく足りていない」(6.5%)を合わせた『足りていない』(36.8%)は3割台半ばを超えとなっている。(図9-4-1)

I 調査の概要

II 調査結果の要約

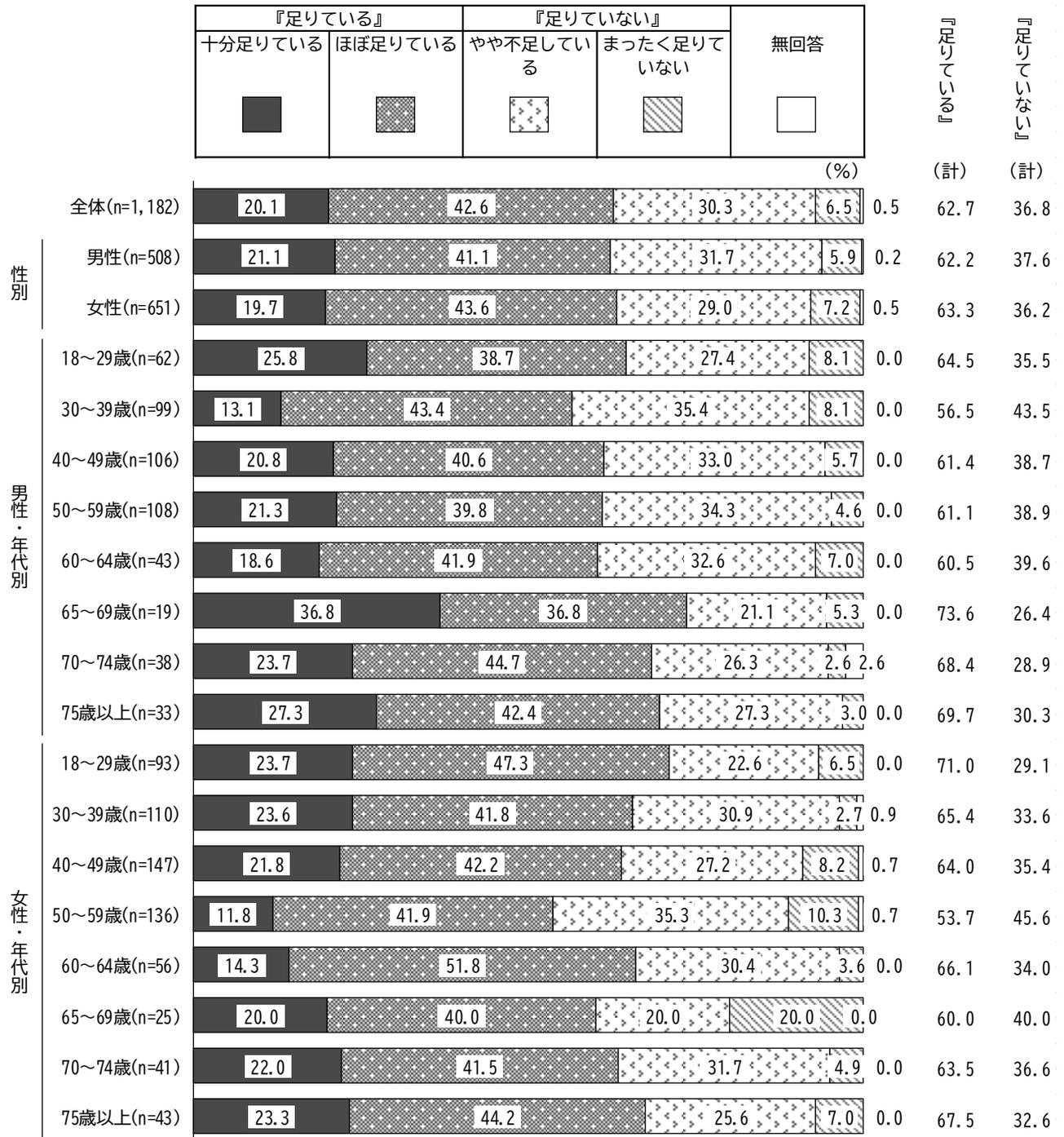
III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

V 調査票

性・年代別にみると、『足りている』は男性65～69歳以上(73.6%)が7割台半ば近くと最も高く、女性18～29歳(71.0%)が7割強と高くなっている。(図9-4-2)

図9-4-2 睡眠時間（性・年代別）



I

調査の概要

II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

IV

調査結果の数表

V

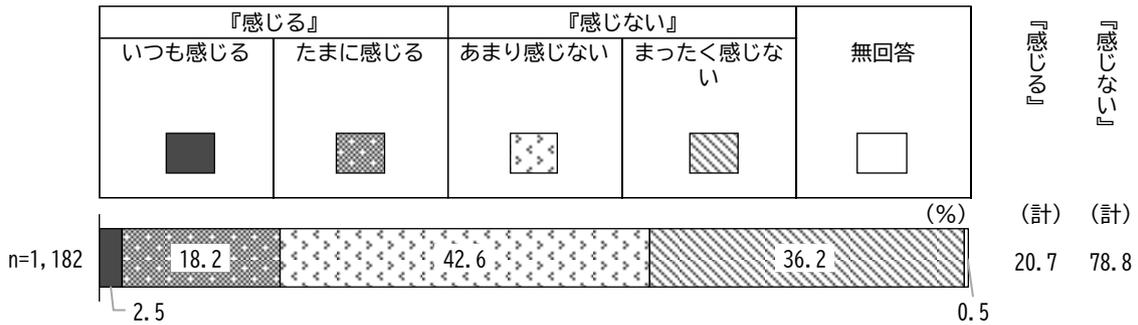
調査票

(5) 自分の居場所がないと感じることの有無

◇「あまり感じない」が4割強

問21 あなたは、普段の生活の中で「自分の居場所がない」と感じることはありますか。
(○は1つ)

図9-5-1 自分の居場所がないと感じることの有無



自分の居場所がないと感じることの有無について聞いたところ、「あまり感じない」(42.6%)が4割強と最も高く、「まったく感じない」(36.2%)と合わせた『感じない』(78.8%)が8割近くとなっている。一方で、「いつも感じる」(2.5%)と「たまに感じる」(18.2%)を合わせた『感じる』(20.7%)が約2割となっている。(図9-5-1)

I 調査の概要

II 調査結果の要約

III 調査結果の分析

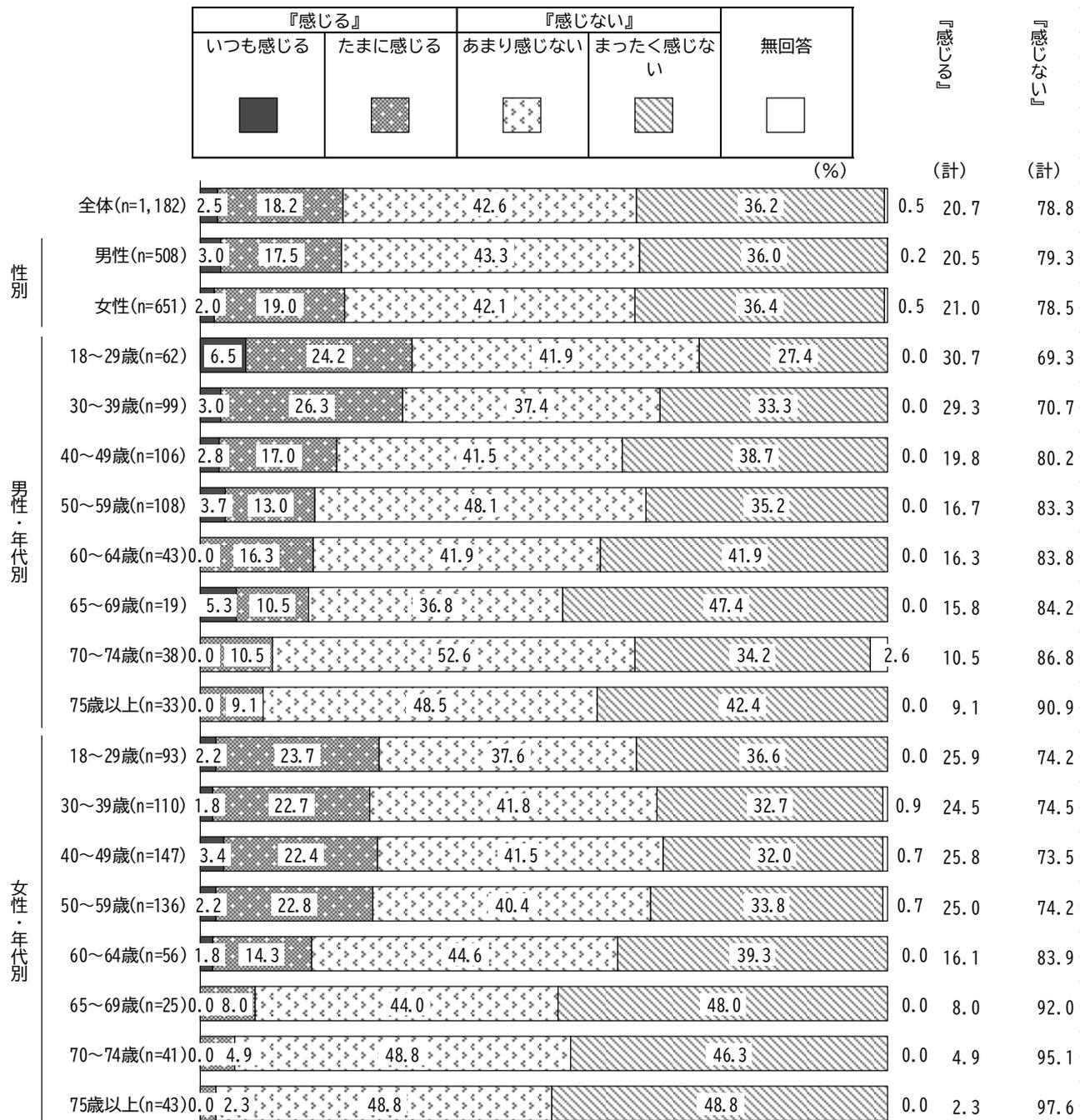
IV 調査結果の数表

V 調査票

性・年代別にみると、『感じる』は男性18歳～29歳(30.7%)が約3割と最も高くなっている。『感じない』は女性75歳以上(97.6%)が9割台半ば越えと最も高くなっている。

(図9-5-2)

図9-5-2 自分の居場所がないと感じることの有無(性・年代別)



I 調査の概要

II 調査結果の要約

III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

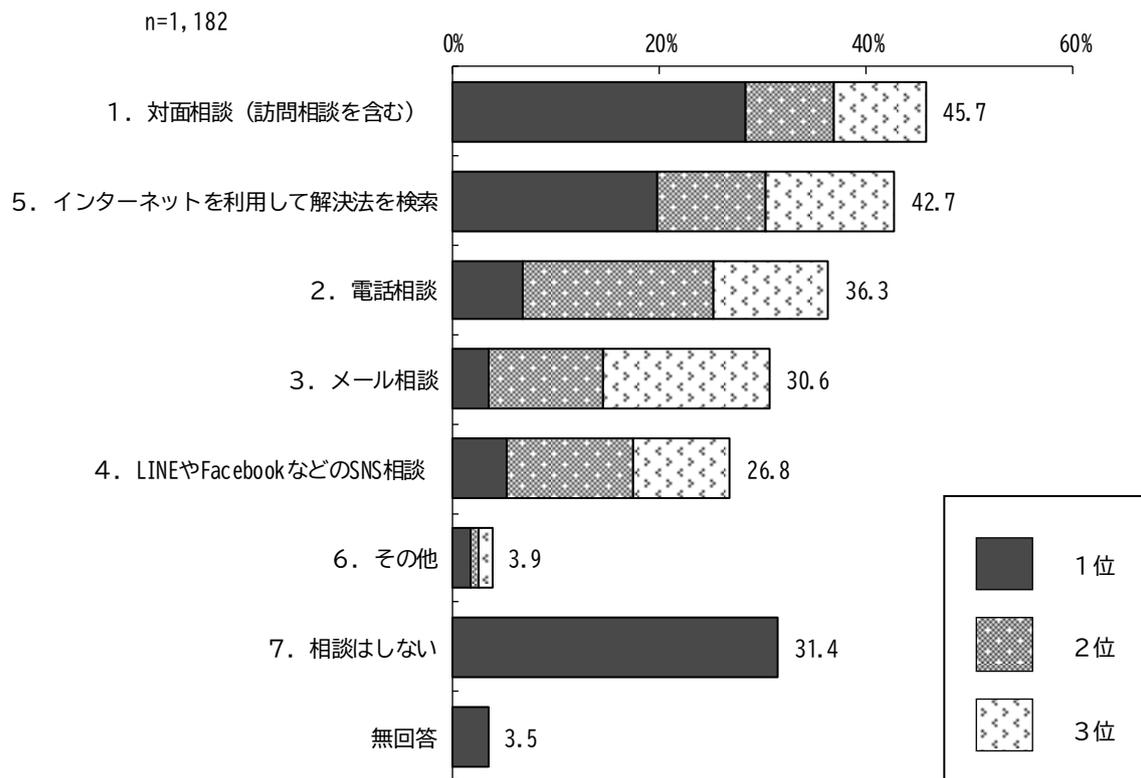
V 調査票

(6) 悩みを相談する手段

◇「対面相談（訪問相談を含む）」が4割台半ば

問22 あなたは、悩みやストレスを感じた時に、どのような方法を利用して相談したいと思いますか。優先順位の高い順に3つを選んで番号を記入してください。

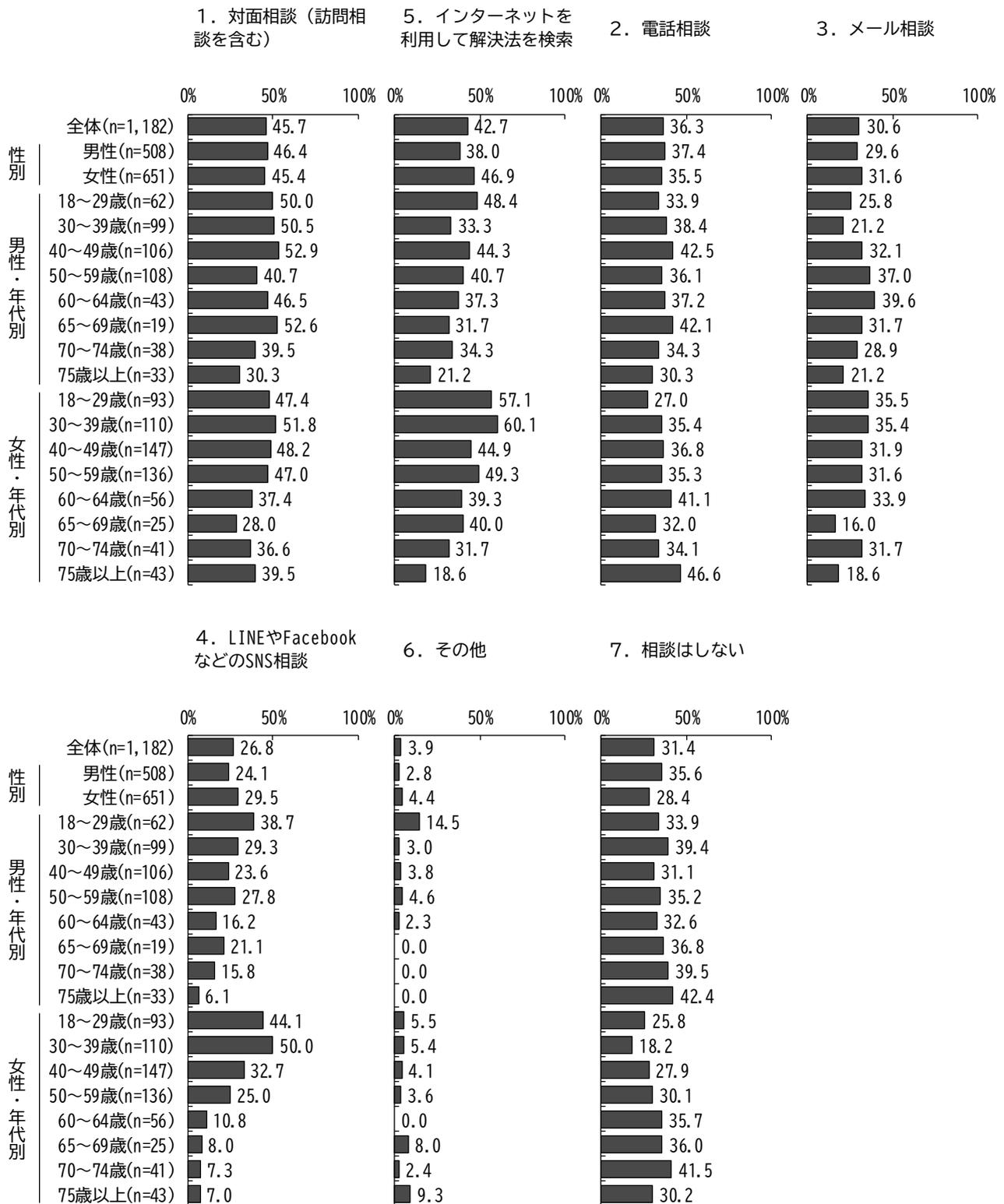
図9-6-1 悩みを相談する手段



悩みを相談する手段について聞いたところ、「対面相談（訪問相談を含む）」（45.7%）が4割台半ばと最も高く、次いで「インターネットを利用して解決法を検索」（42.7%）が4割強と高くなっている。（図9-6-1）

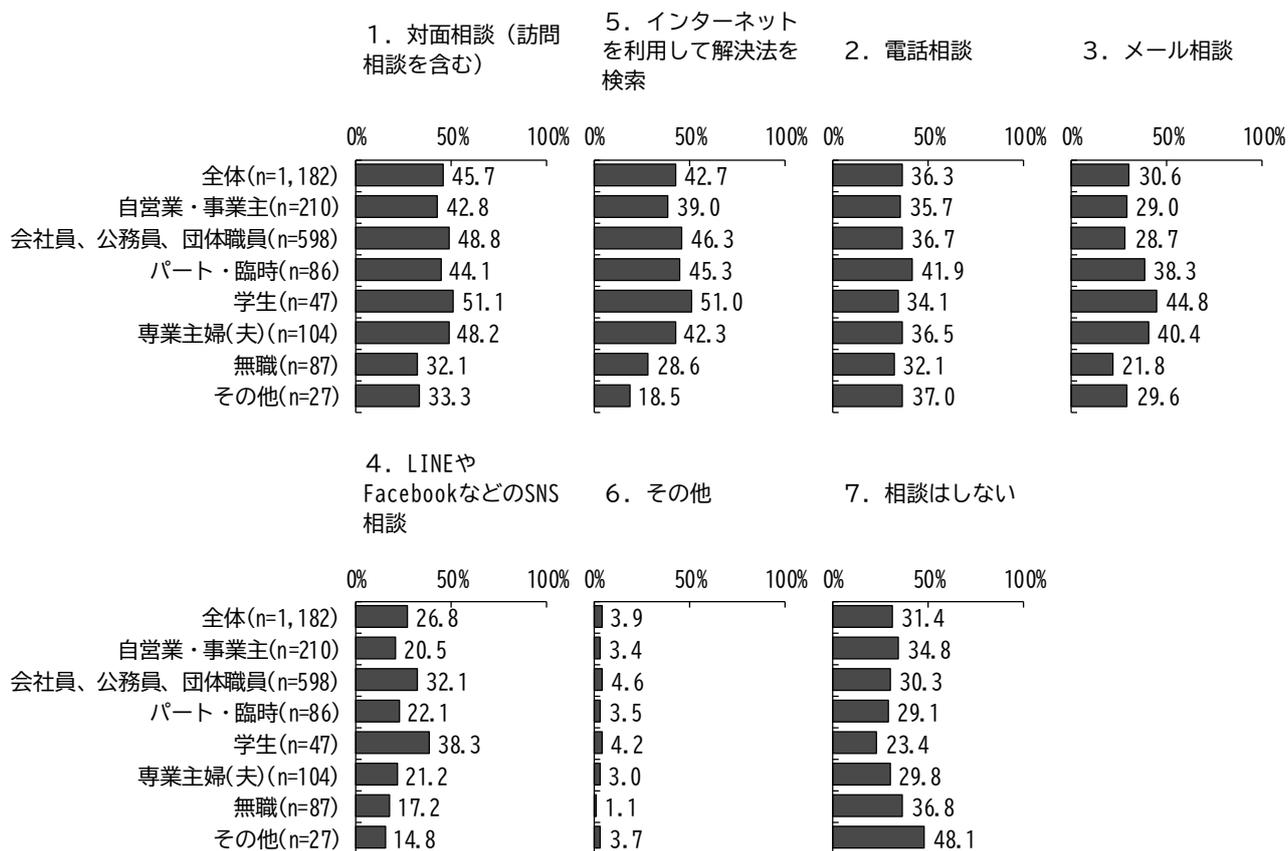
性・年代別にみると、「電話相談」は女性75歳以上(46.6%)が4割台半ばを超えと最も高くなっている。「LINEやFacebookなどのSNS相談」は女性30～39歳(50.0%)が5割と最も高く、次いで女性18～29歳(44.1%)が4割台半ば近くと高くなっている。(図9-6-2)

図9-6-2 悩みを相談する手段(性・年代別)



職業別にみると、「対面相談（訪問相談を含む）」は学生(51.1%)が5割強と最も高く、次いで会社員、公務員、団体職員(48.8%)が5割近くとなっている。「電話相談」はパート・臨時職員(41.9%)が4割強と最も高くなっている。「LINEやFacebookなどのSNS相談」は学生(38.3%)が4割近くと最も高くなっている。また、「相談はしない」は無職(36.8%)が3割台半ばを超えと高くなっている。(図9-6-3)

図9-6-3 悩みを相談する手段（職業別）

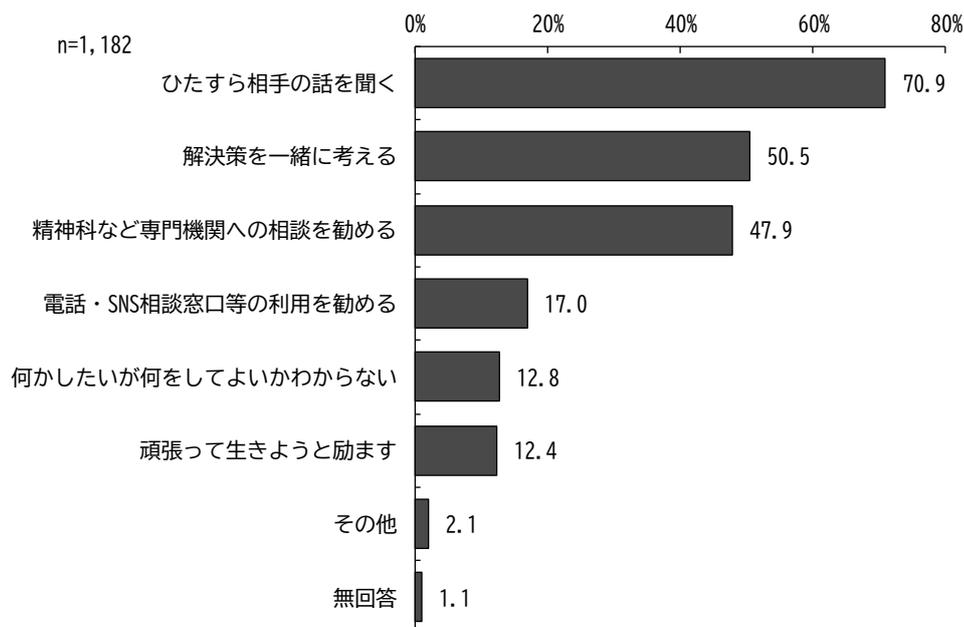


(7) 「死にたい」と打ち明けられた時の対応

◇「ひたすら相手の話を聞く」が約7割

問23 あなたは、もし身近な人から「死にたい」と打ち明けられたとき、どのように対応しますか。(〇はいくつでも)

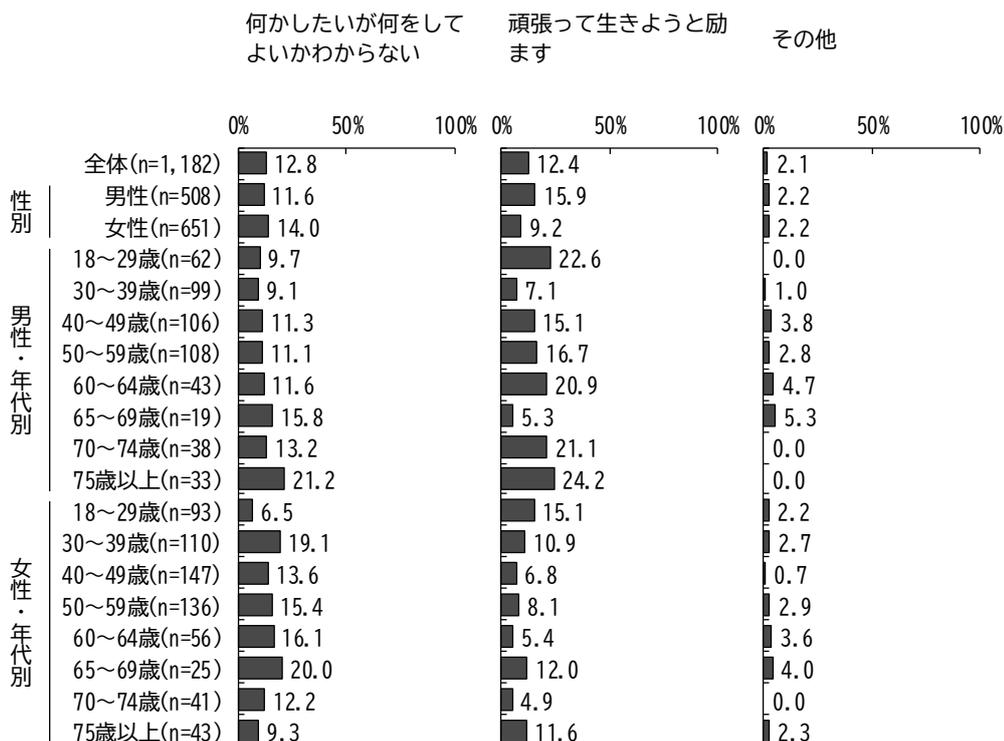
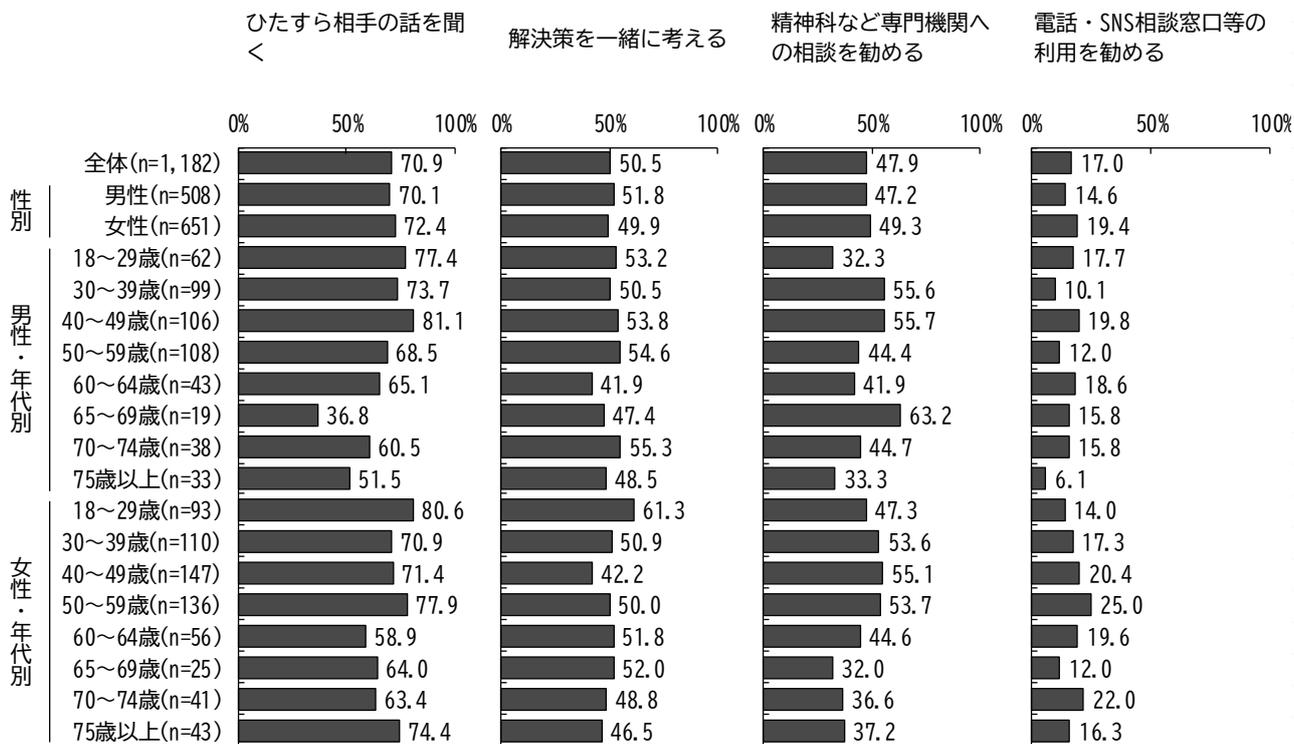
図9-7-1 「死にたい」と打ち明けられた時の対応



「死にたい」と打ち明けられた時の対応について聞いたところ、「ひたすら相手の話を聞く」(70.9%)が約7割と最も高く、次いで「解決策を一緒に考える」(50.5%)が約5割、「精神科など専門機関への相談を勧める」(47.9%)が4割台半ばを超えと高くなっている。(図9-7-1)

性・年代別にみると、「ひたすら相手の話を聞く」は男性40～49歳(81.1%)が8割強と最も高くなっている。「解決策を一緒に考える」は女性18～29歳(61.3%)が6割強、「精神科など専門機関への相談を勧める」は男性65～69歳(63.2%)が6割台半ば近くと最も高くなっている。(図9-7-2)

図9-7-2 「死にたい」と打ち明けられた時の対応(性・年代別)

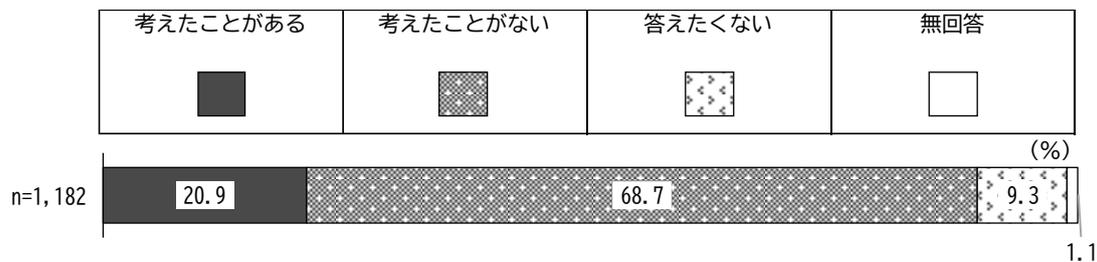


(8) 自殺を考えたことの有無

◇「考えたことがない」が7割近く

問24 あなたは、これまでに、「自殺」をしたいと考えたことはありますか。(○は1つ)

図9-8-1 自殺を考えたことの有無

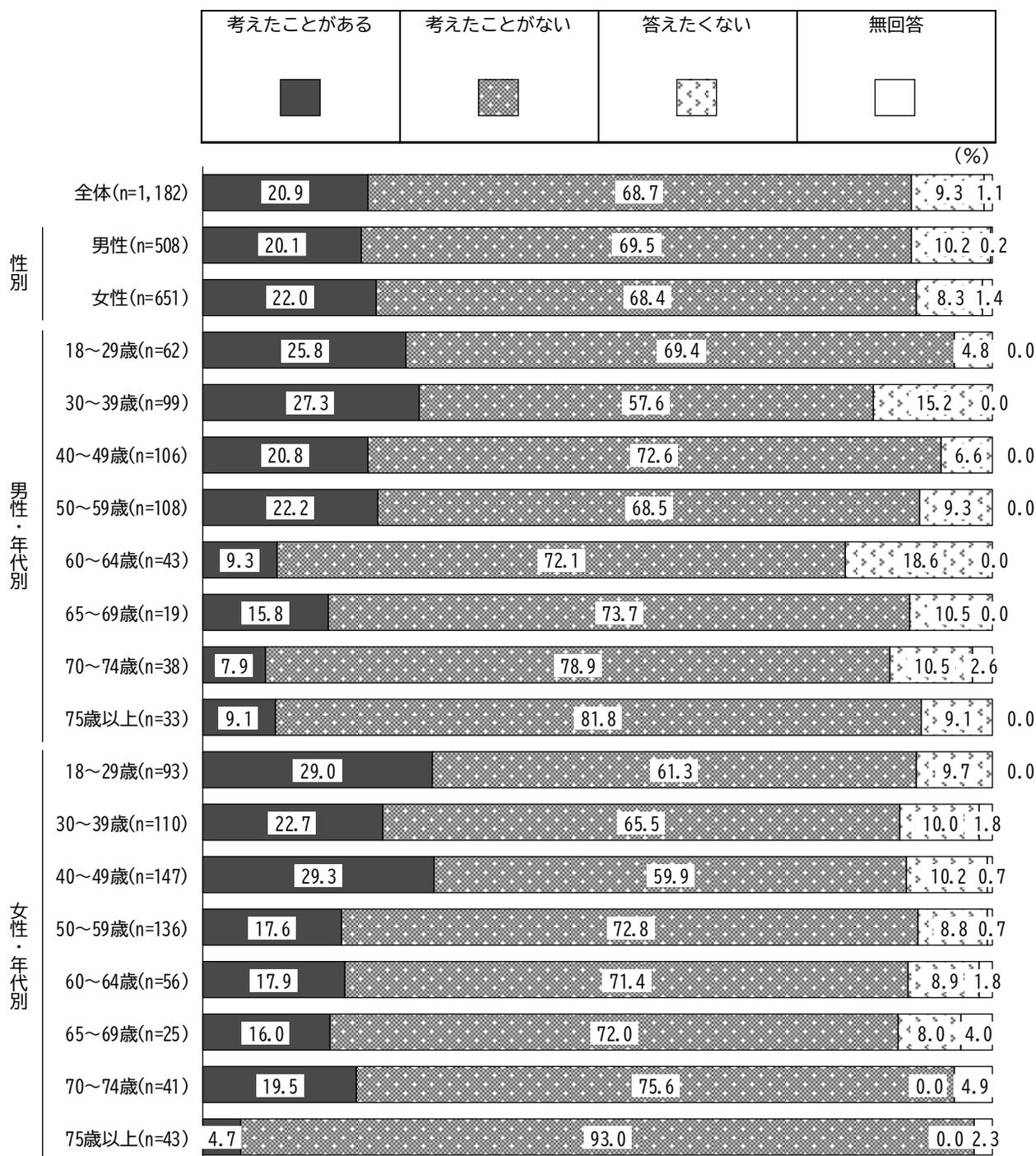


自殺を考えたことの有無について聞いたところ、「考えたことがない」(68.7%)が7割近くと最も高く、次いで「考えたことがある」(20.9%)が約2割と高くなっている。

(図9-8-1)

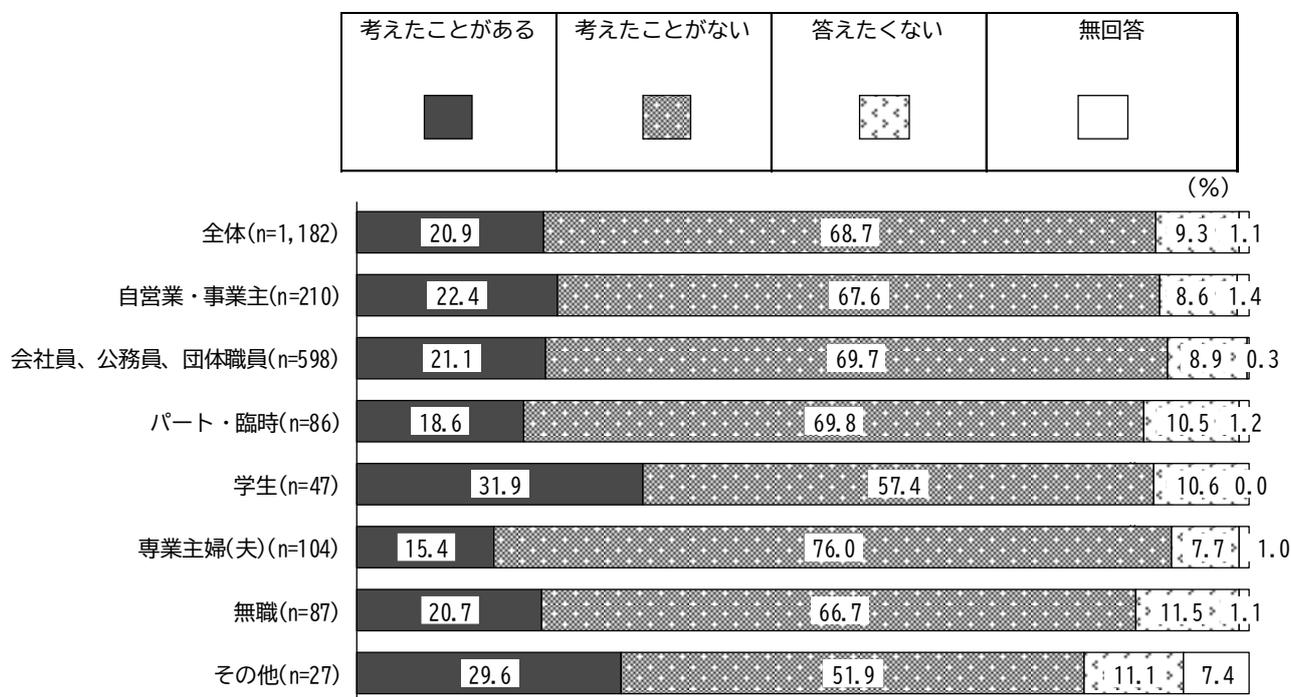
性・年代別にみると、「考えたことがない」は女性75歳以上(93.0%)が9割台半ば近くと最も高くなっている。(図9-8-2)

図9-8-2 自殺を考えたことの有無(性・年代別)



職業別にみると、「考えたことがある」は学生(31.9%)で3割強と最も高くなっている。
(図9-8-3)

図9-8-3 自殺を考えたことの有無(職業別)



I

調査の概要

II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

IV

調査結果の数表

V

調査票

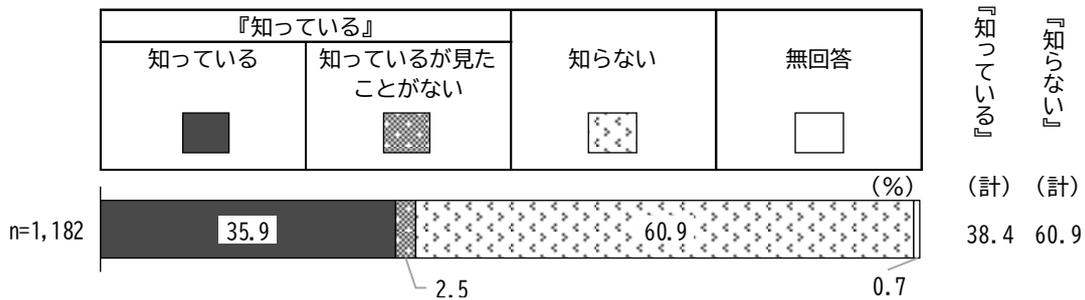
10. まちの記憶保存プレートについて

(1) まちの記憶保存プレートの認知度

◇「知らない」が約6割

問25 「まちの記憶保存プレート」を知っていますか。(○は1つ)

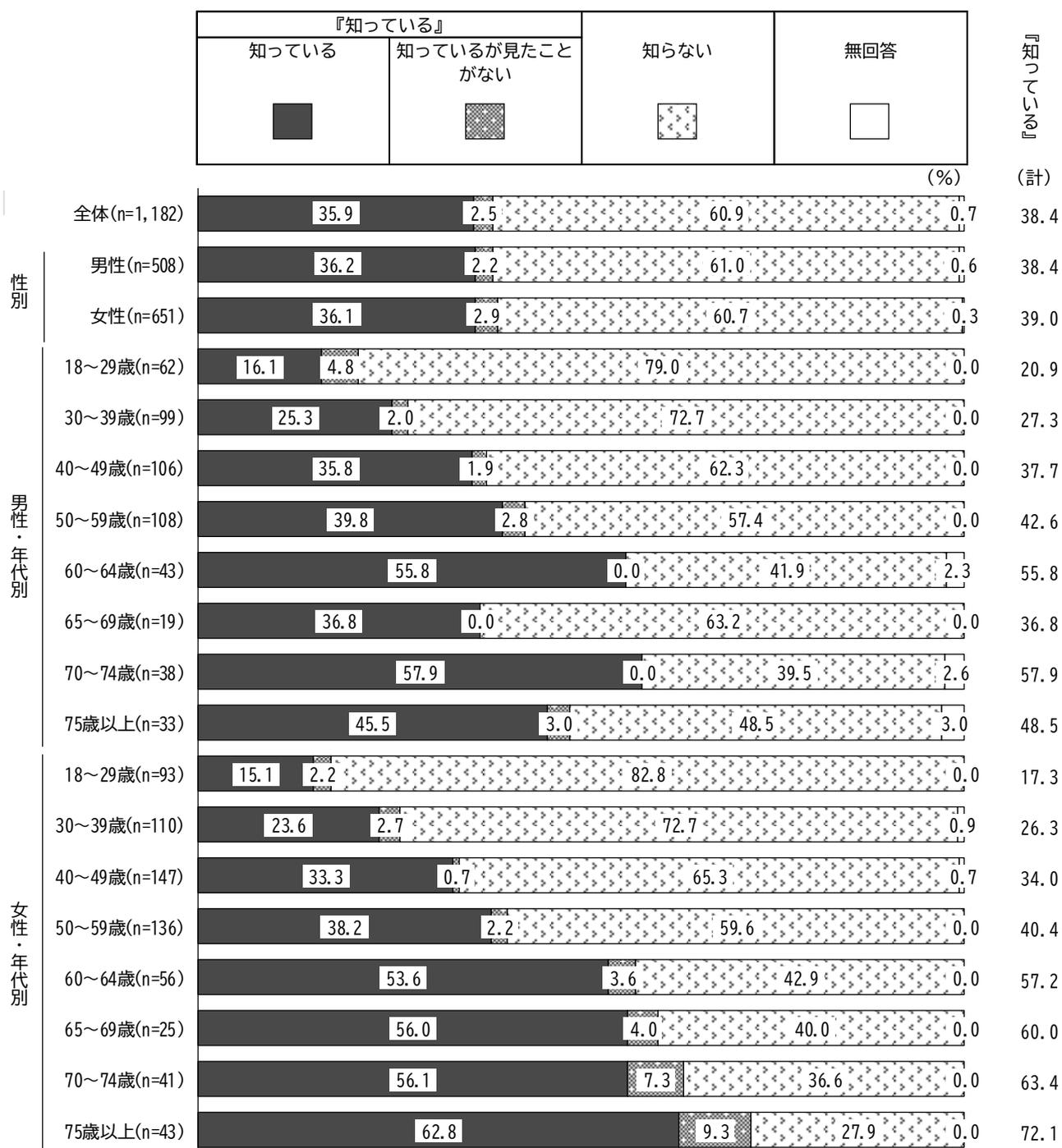
図10-1-1 まちの記憶保存プレートの認知度



まちの記憶保存プレートを知っているか聞いたところ、「知らない」(60.9%)が約6割と最も高く、「知っている」(35.9%)は3割台半ばとなっている。(図10-1-1)

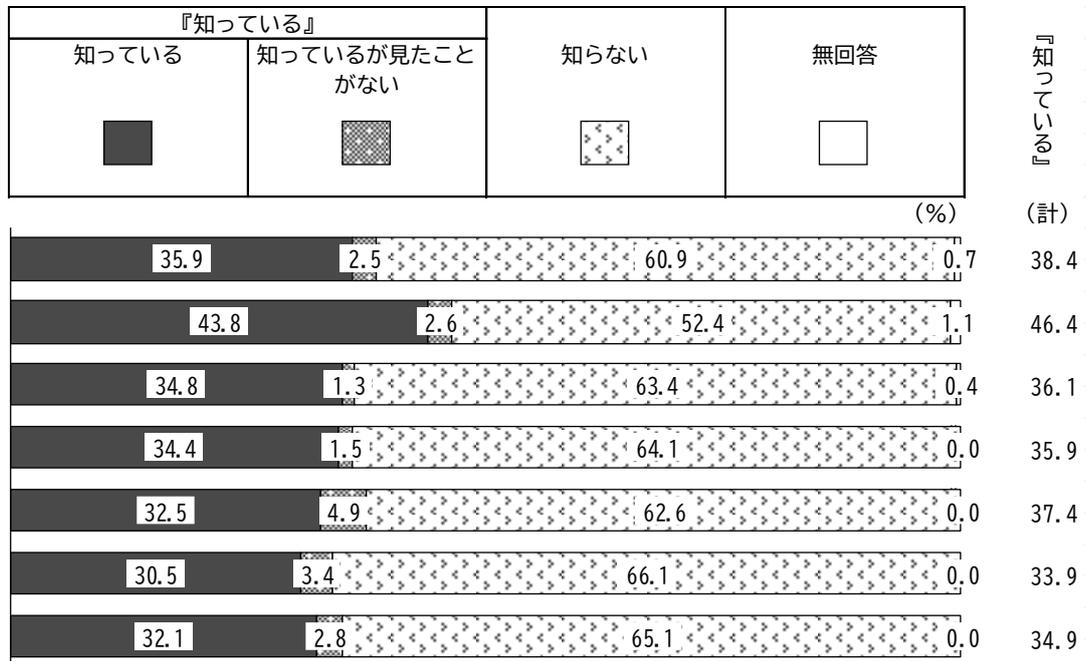
性・年代別にみると、「知っている」と「知っているが見たことがない」を合わせた『知っている』は女性 75 歳以上(72.1%)が7割強と最も高く、次いで女性 70～74 歳(63.4%)が6割台半ば近くと高くなっている。(図 10-1-2)

図10-1-2 まちの記憶保存プレートの認知度 (性・年代別)



地区別にみると、「知っている」と「知っているが見たことがない」を合わせた『知っている』は、麴町地区(46.4%)が4割台半ばを超えと最も高くなっている。(図10-1-3)

図10-1-3 まちの記憶保存プレートの認知度(地区別)



I 調査の概要

II 調査結果の要約

III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

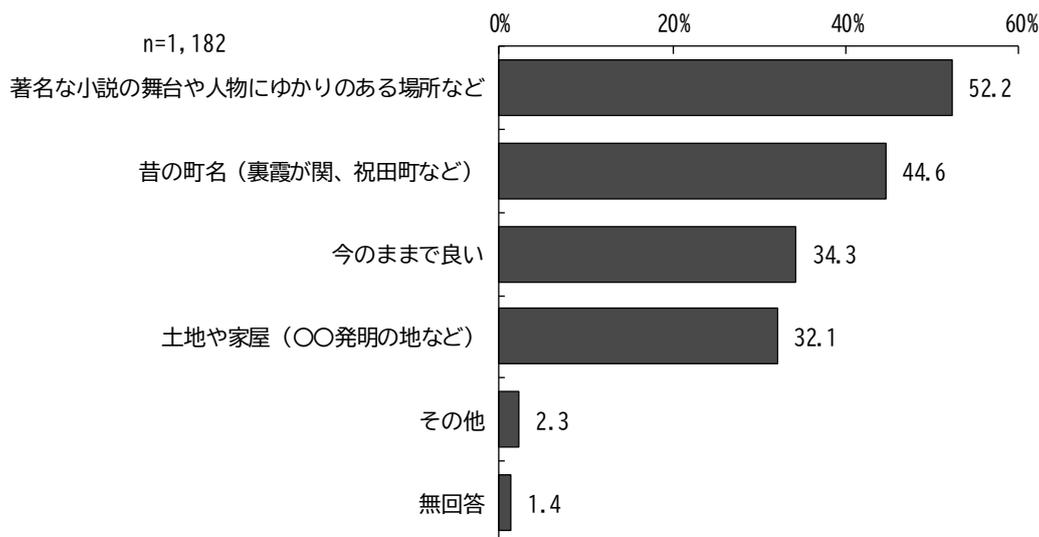
V 調査票

(2) まちの記憶保存プレート設置対象拡大案

◇「著名な小説の舞台や人物にゆかりのある場所など」が5割強

問26 「まちの記憶保存プレート」は、千代田区とかかわりのある歴史的な出来事や人物を対象として、現在、区内29か所に設置されています。今後、設置対象を拡大する場合、どのようなものがよいと思いますか。(〇はいくつでも)

図10-2-1 まちの記憶保存プレート設置対象拡大案



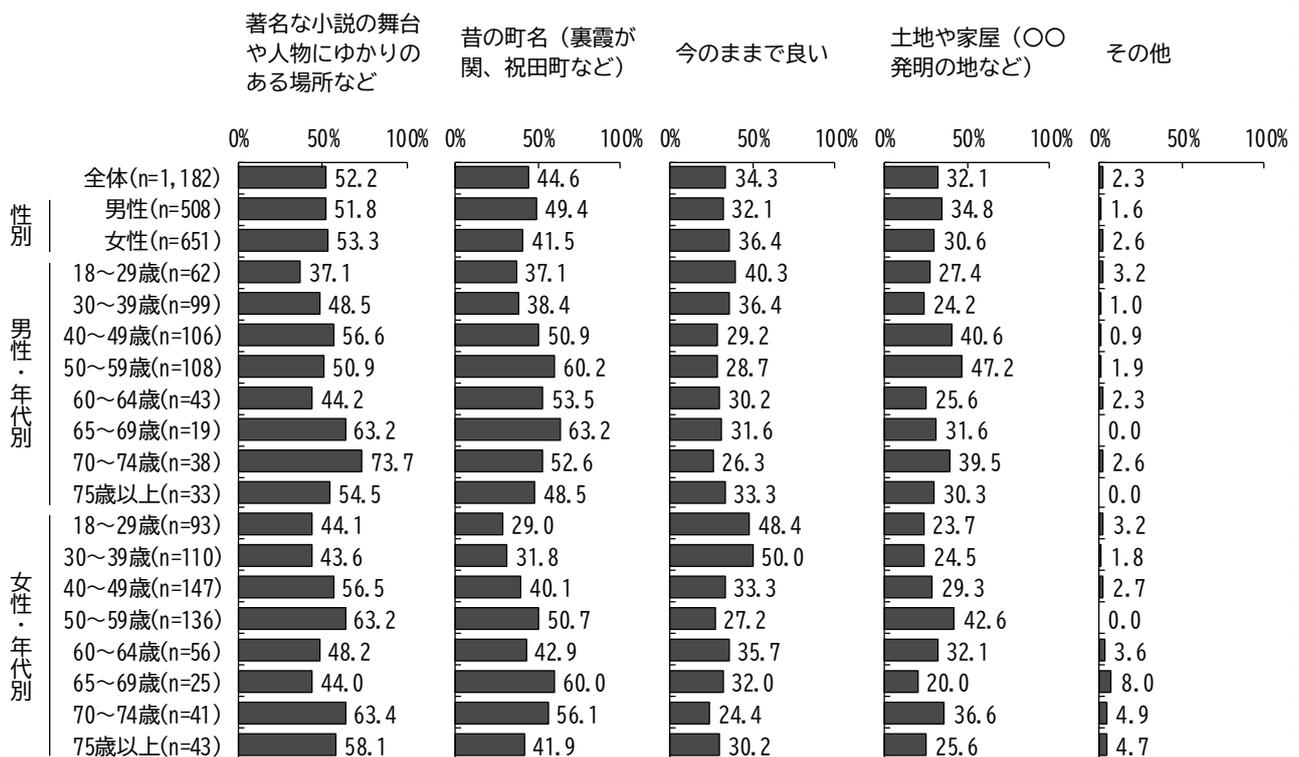
今後、まちの記憶保存プレートの設置対象を拡大する場合、どのようなものがよいか聞いたところ、「著名な小説の舞台や人物にゆかりのある場所など」(52.2%)が5割強、「昔の町名 (裏霞が関、祝田町など)」(44.6%)が4割台半ば近くと高くなっている。

(図10-2-1)

性・年代別にみると、「著名な小説の舞台や人物にゆかりのある場所など」は男性70～74歳(73.7%)が7割台半ば近くと最も高く、次いで女性70～74歳(63.4%)が6割台半ば近くと高くなっている。「昔の町名(裏霞が関、祝田町など)」は男性65～69歳(63.2%)が6割台半ば近くと最も高く、次いで男性50～59歳(60.2%)が約6割と高くなっている。

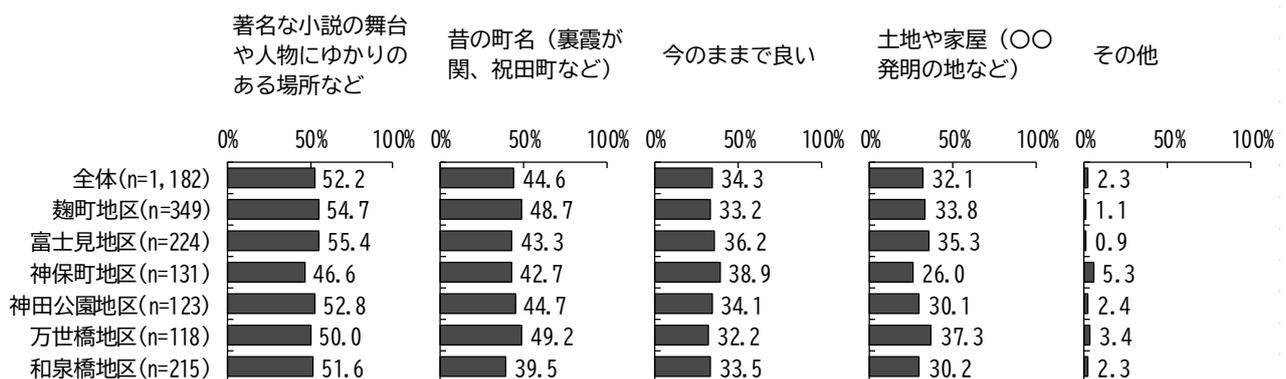
(図10-2-2)

図10-2-2 まちの記憶保存プレート設置対象拡大案(性・年代別)



地区別にみると、「今までのままで良い」は神保町地区(38.9%)で4割近くと最も高くなっている。「土地や家屋(〇〇発明の地など)」は万世橋地区(37.3%)で3割台半ば超えと最も高くなっている。(図10-2-3)

図10-2-3 まちの記憶保存プレート設置対象拡大案(地区別)



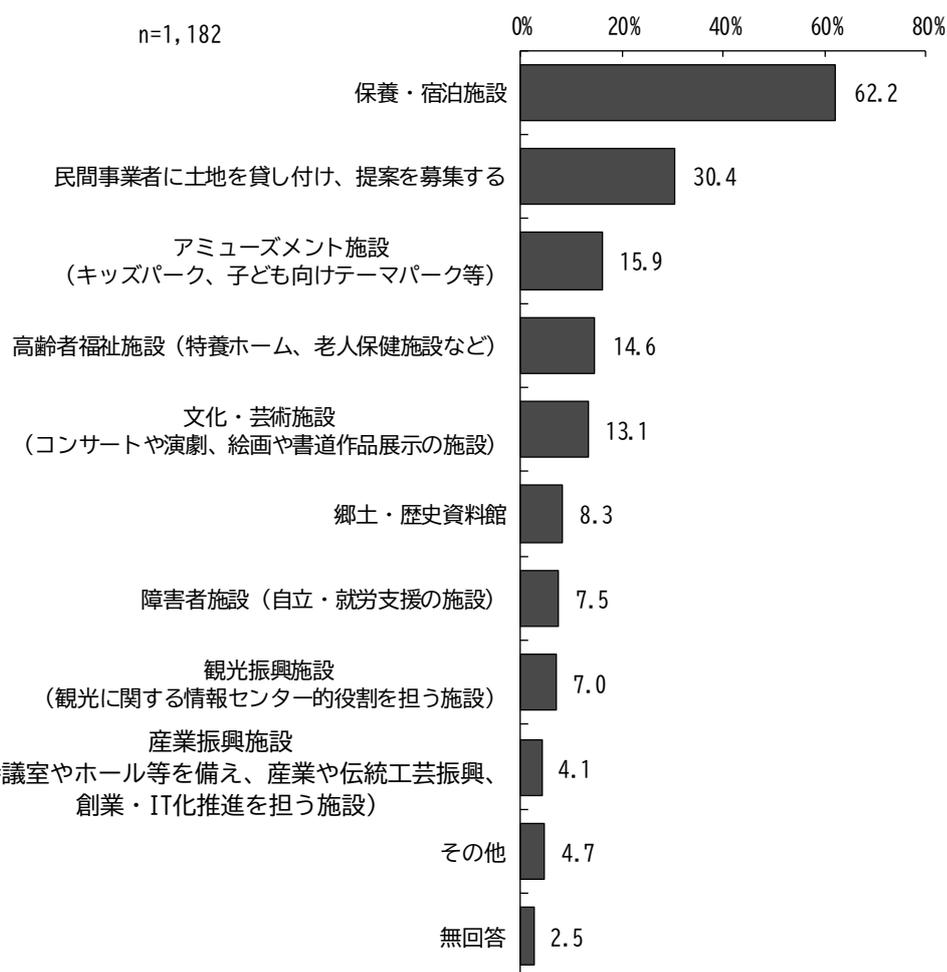
11. 箱根地区における施設ニーズの把握

(1) 箱根強羅の保養施設跡地の活用案

◇「保養・宿泊施設」が6割強

問27 箱根強羅の保養施設跡地をどのように活用すべきだと思いますか。(以前運営していた箱根強羅の保養施設について、建物解体を予定しています) (〇はいくつでも)

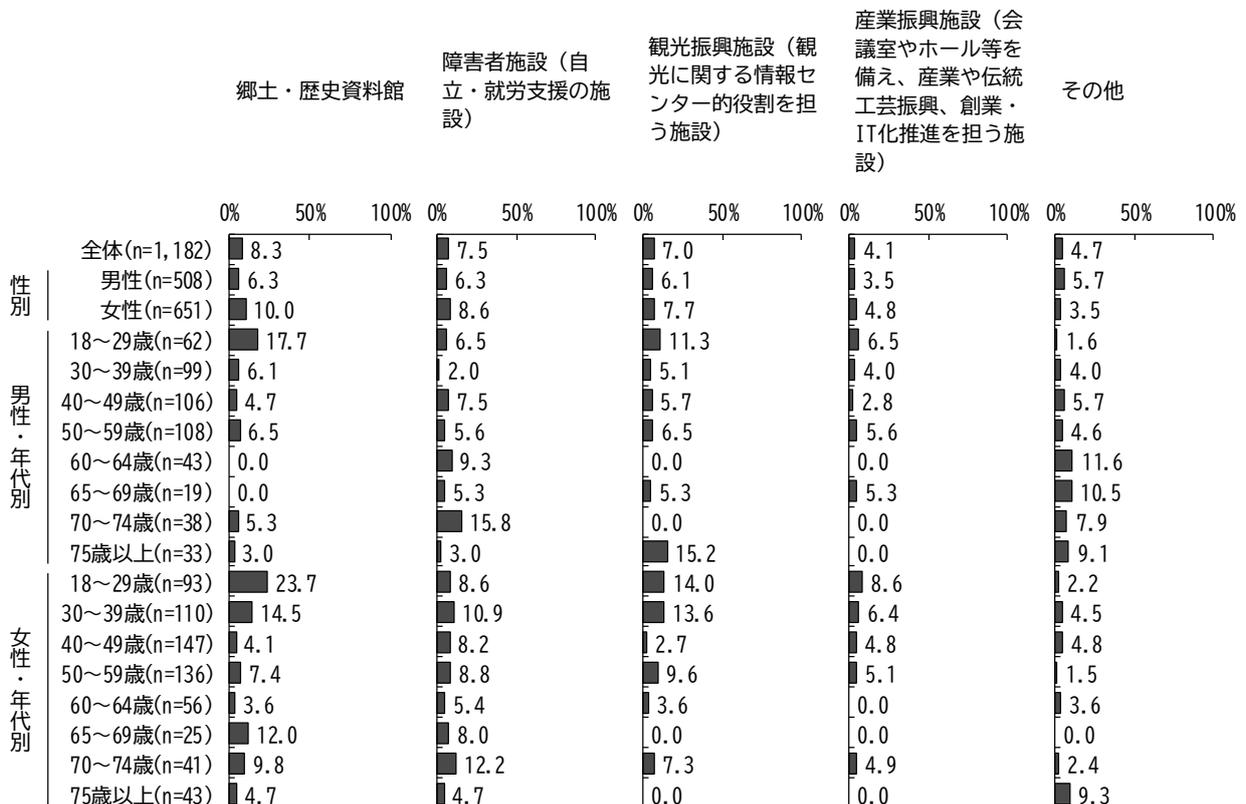
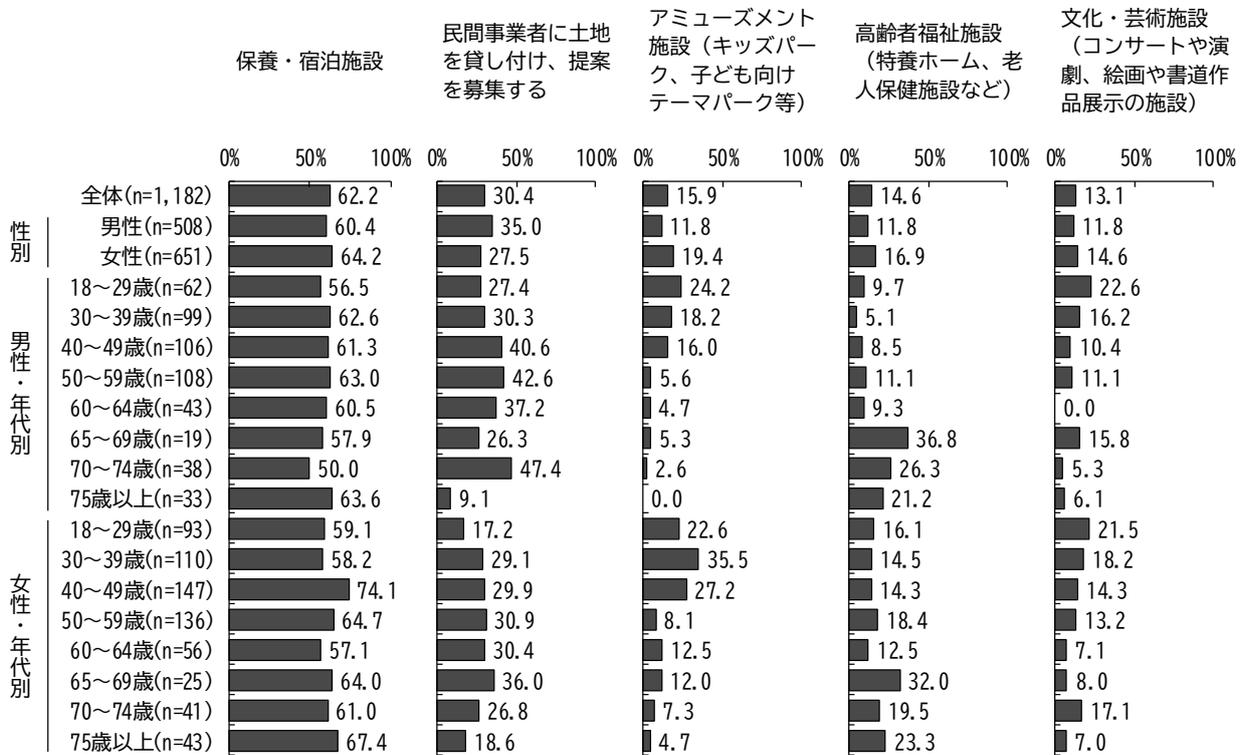
図11-1-1 箱根強羅の保養施設跡地の活用案



箱根強羅の保養施設跡地の活用案について聞いたところ、「保養・宿泊施設」(62.2%)が6割強と最も高く、次いで「民間事業者に土地を貸し付け、提案を募集する」(30.4%)が約3割となっている。(図11-1-1)

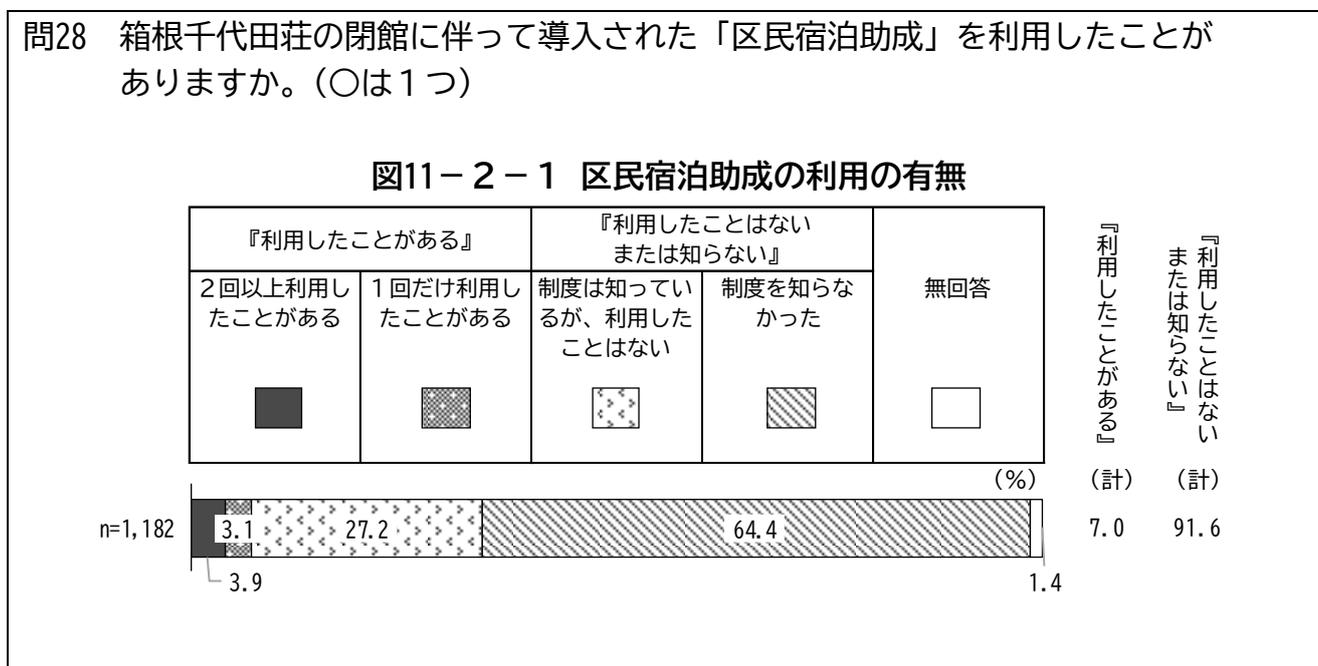
性・年代別にみると、「保養・宿泊施設」は女性40～49歳(74.1%)が7割台半ば近くと最も高く、次いで女性75歳以上(67.4%)が6割台半ばを超えと高くなっている。「民間事業者に土地を貸し付け、提案を募集する」は男性70～74歳(47.4%)が4割台半ばを超えと最も高く、次いで男性50～59歳(42.6%)が4割強と高くなっている。(図11-1-2)

図11-1-2 箱根強羅の保養施設跡地の活用案（性・年代別）



(2) 区民宿泊助成の利用の有無

◇「制度を知らなかった」が6割台半ば近く

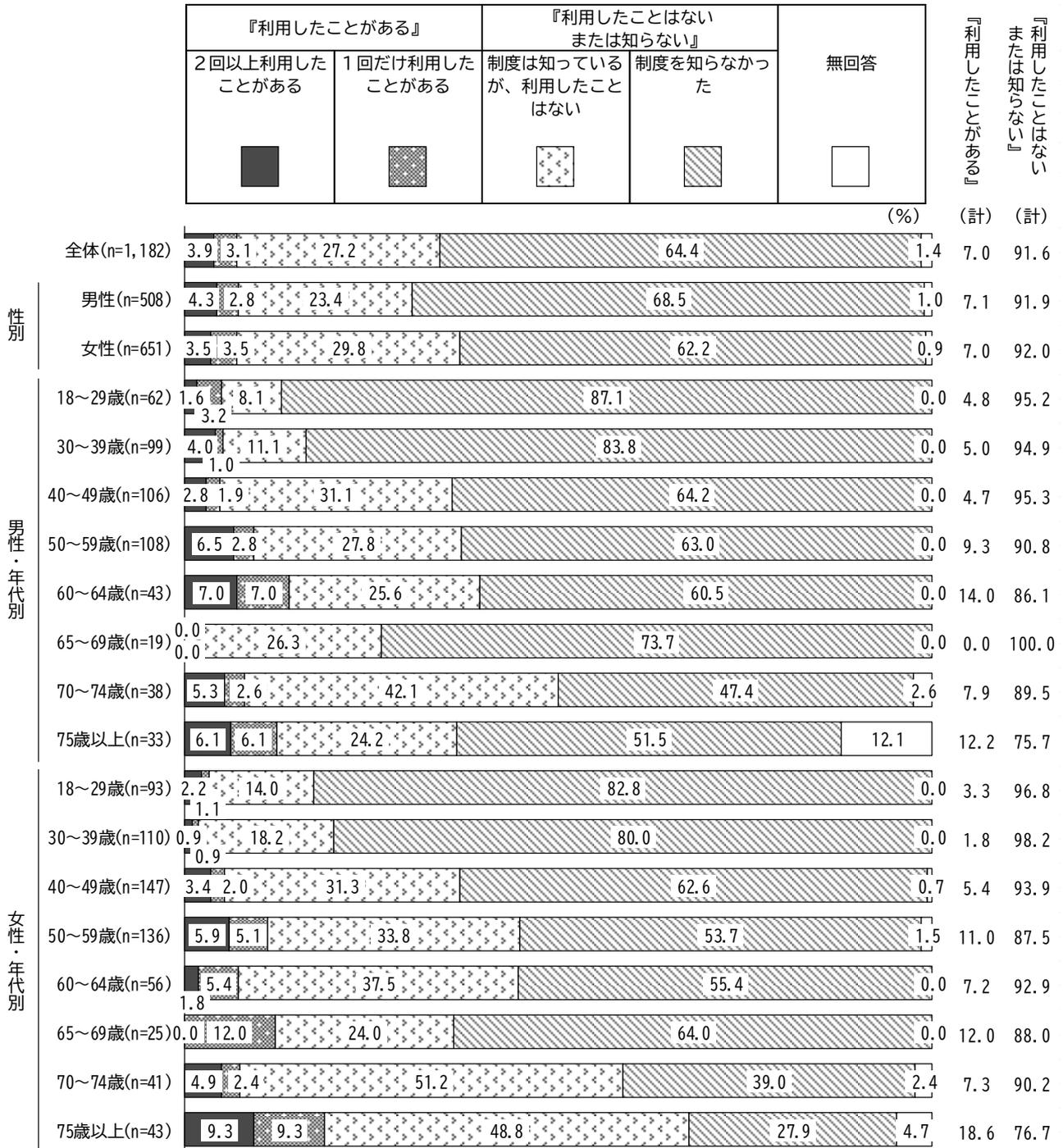


箱根千代田荘の閉館に伴って導入された区民宿泊助成の利用の有無について聞いたところ、「制度を知らなかった」(64.4%)が6割台半ば近くと最も高く、次いで「制度は知っているが、利用したことはない」(27.2%)が2割台半ばを超えと高くなっている。

(図11-2-1)

性・年代別にみると、「制度を知らなかった」は男性18～29歳(87.1%)が8割台半ば超えと最も高く、次いで男性30～39歳(83.8%)が8割台半ば近くと高くなっている。「制度は知っているが、利用したことはない」は女性70～74歳(51.2%)が5割強と最も高く、次いで女性75歳以上(48.8%)が5割近くと高くなっている。(図11-2-2)

図11-2-2 区民宿泊助成の利用の有無(性・年代別)

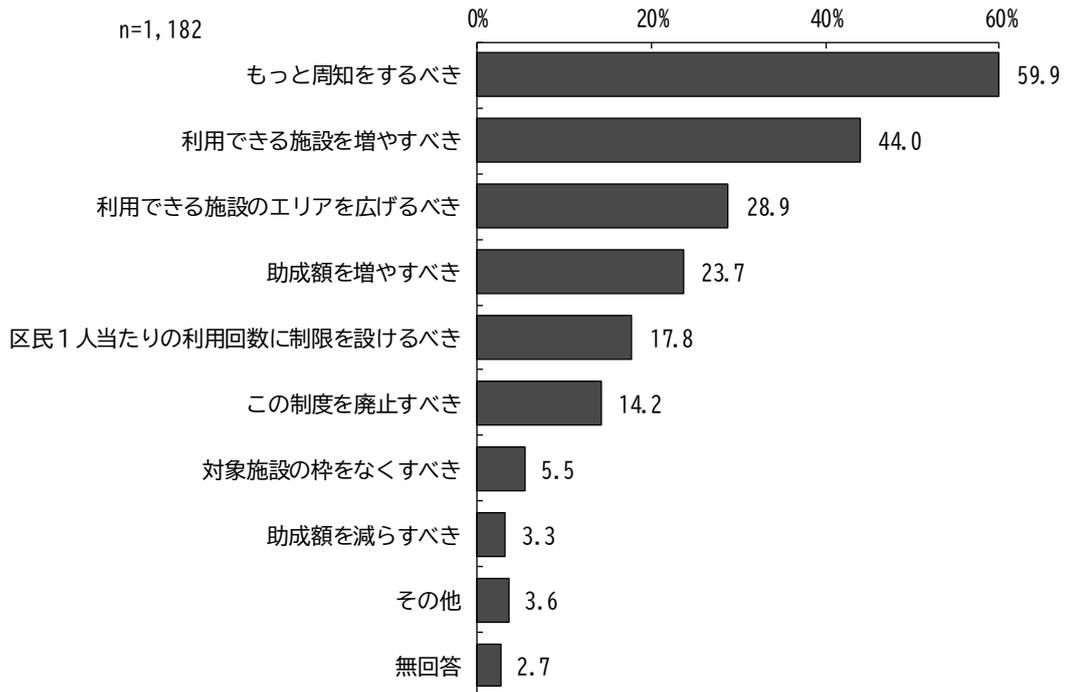


(3) 「区民宿泊助成」についての要望

◇「もっと周知をするべき」が6割弱

問29 区民宿泊助成について、次のうち優先度が高いと思うものを3つ選んでください。
(○は3つまで)

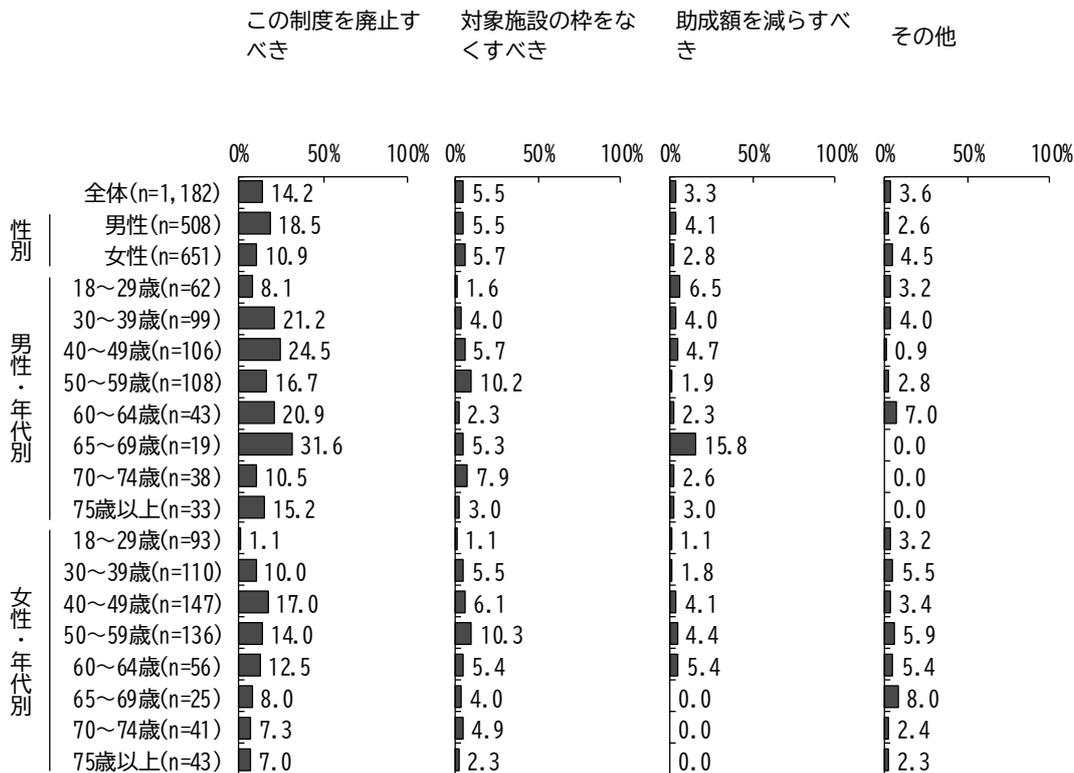
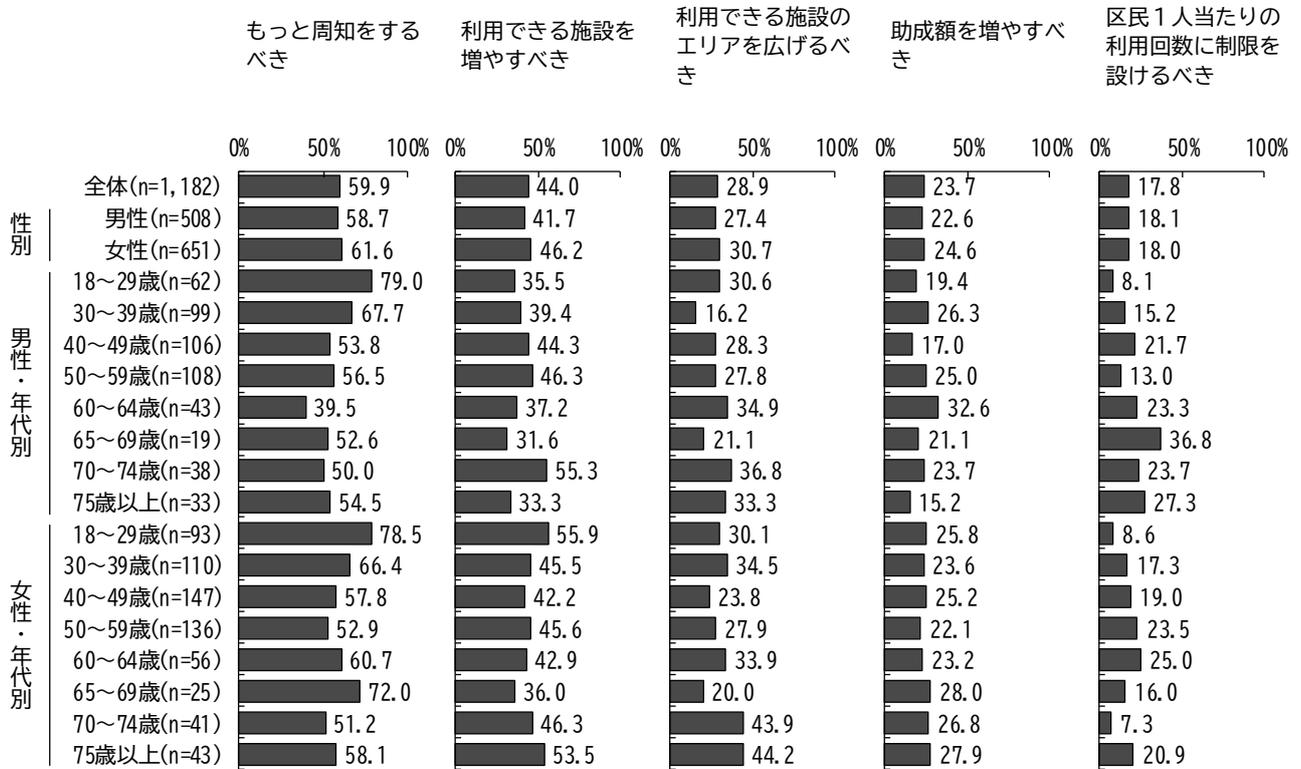
図11-3-1 区民宿泊助成についての要望



区民宿泊助成についての要望を聞いたところ、「もっと周知をするべき」(59.9%)が6割弱と最も高く、次いで「利用できる施設を増やすべき」(44.0%)が4割台半ば近くと高くなっている。また「利用できる施設のエリアを広げるべき」(28.9%)が3割近く、「助成額を増やすべき」(23.7%)が2割台半ば近くとなっている。(図11-3-1)

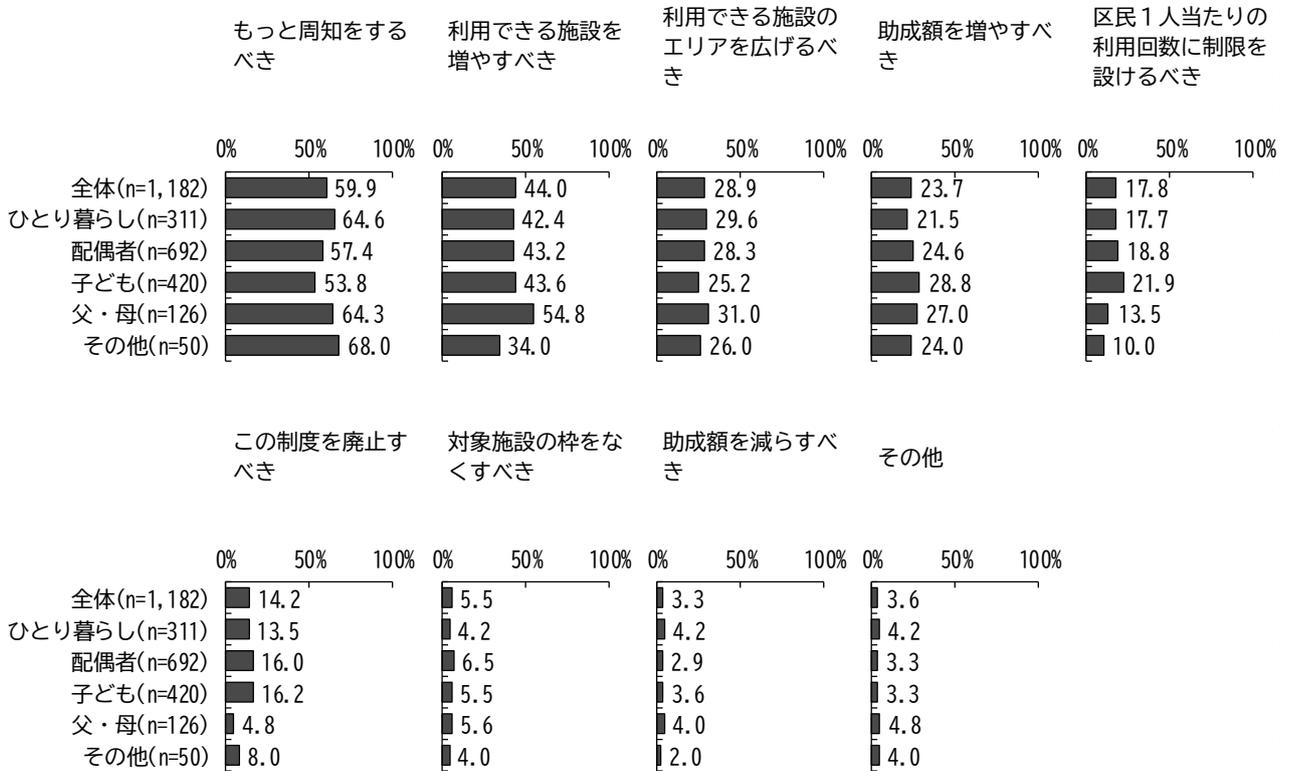
性・年代別にみると、「もっと周知をするべき」は男性18～29歳(79.0%)が8割弱と最も高くなっている。また、「利用できる施設を増やすべき」は女性18～29歳(55.9%)が5割台半ばと最も高くなっている。(図11-3-2)

図11-3-2 区民宿泊助成についての要望(性・年代別)



世帯構成別にみると、「もっと周知をするべき」はその他の世帯(68.0%)が7割近くと最も高くなっている。また、「利用できる施設を増やすべき」は父・母がいる世帯(54.8%)が5割台半ば近くと最も高くなっている。(図11-3-3)

図11-3-3 区民宿泊助成についての要望（世帯構成別）



I 調査の概要

II 調査結果の要約

III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

V 調査票

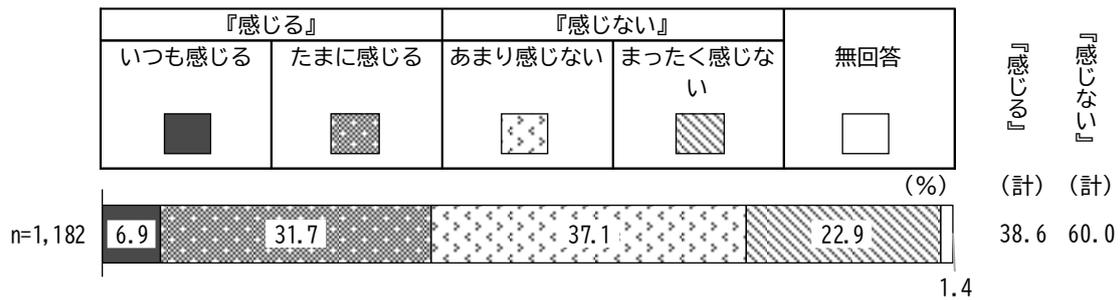
12. 区民のジェンダー平等及び人権、多文化共生に対する意識の把握

(1) 性別による不平等を感じることもあるか

◇「あまり感じない」が3割台半ば超え

問30 あなたは、日常生活において、「性別によって不平等がある」と感じることはありますか。(○は1つ)

図12-1-1 性別による不平等を感じることもあるか



性別による不平等を感じることもあるかについて聞いたところ、「あまり感じない」(37.1%)が3割台半ば超えと最も高く、「まったく感じない」(22.9%)と合わせた『感じない』(60.0%)が6割となっている。一方で、「いつも感じる」(6.9%)と「たまに感じる」(31.7%)を合わせた『感じる』(38.6%)が4割近くとなっている。(図12-1-1)

I

調査の概要

II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

IV

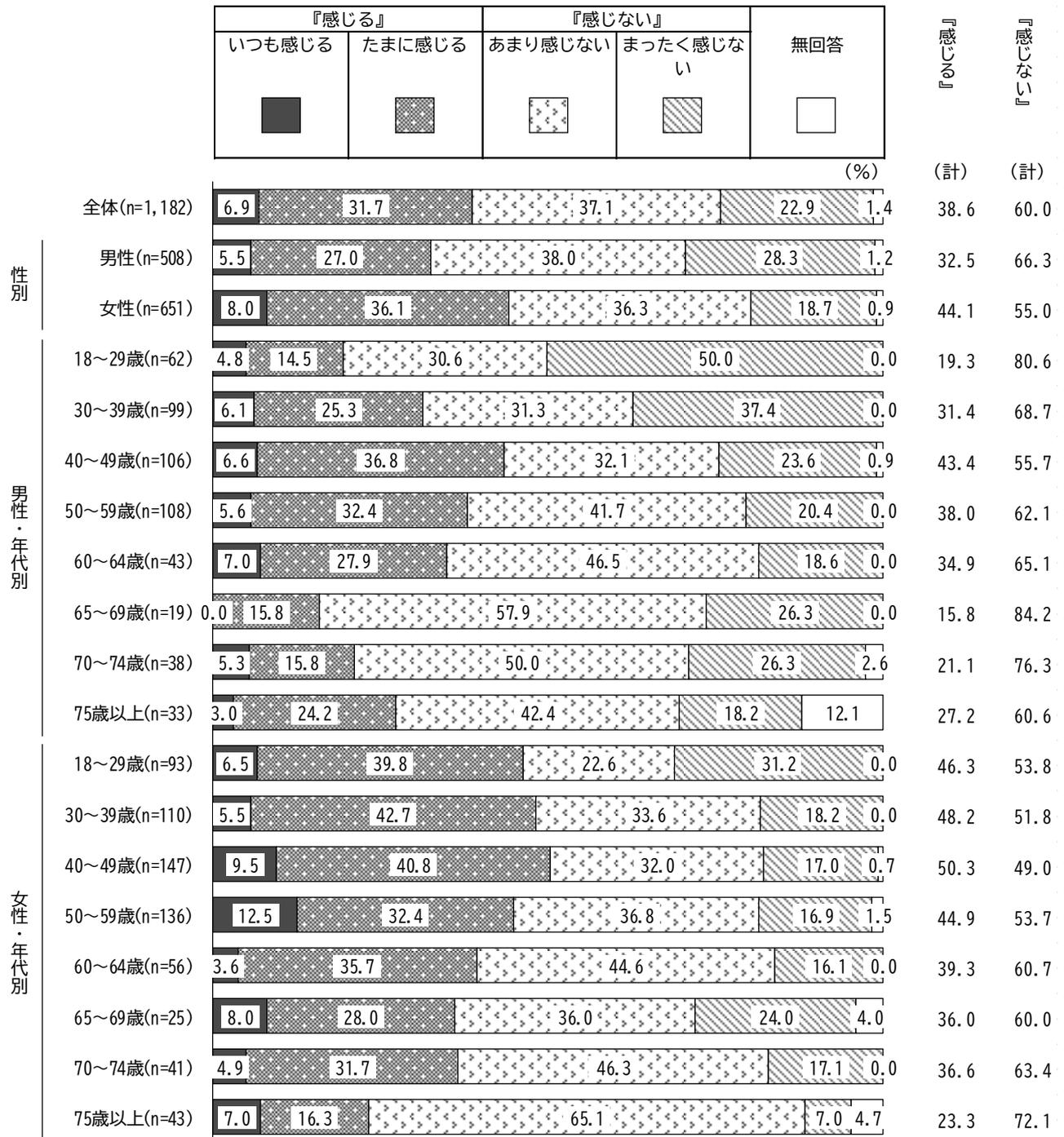
調査結果の数表

V

調査票

性・年代別にみると、『感じる』は女性40～49歳(50.3%)が約5割と最も高くなっていてる。一方で、『感じない』は男性65～69歳(84.2%)が8割台半ば近くと最も高くなっていてる。(図12-1-2)

図12-1-2 性別による不平等を感じることもあるか(性・年代別)



I 調査の概要

II 調査結果の要約

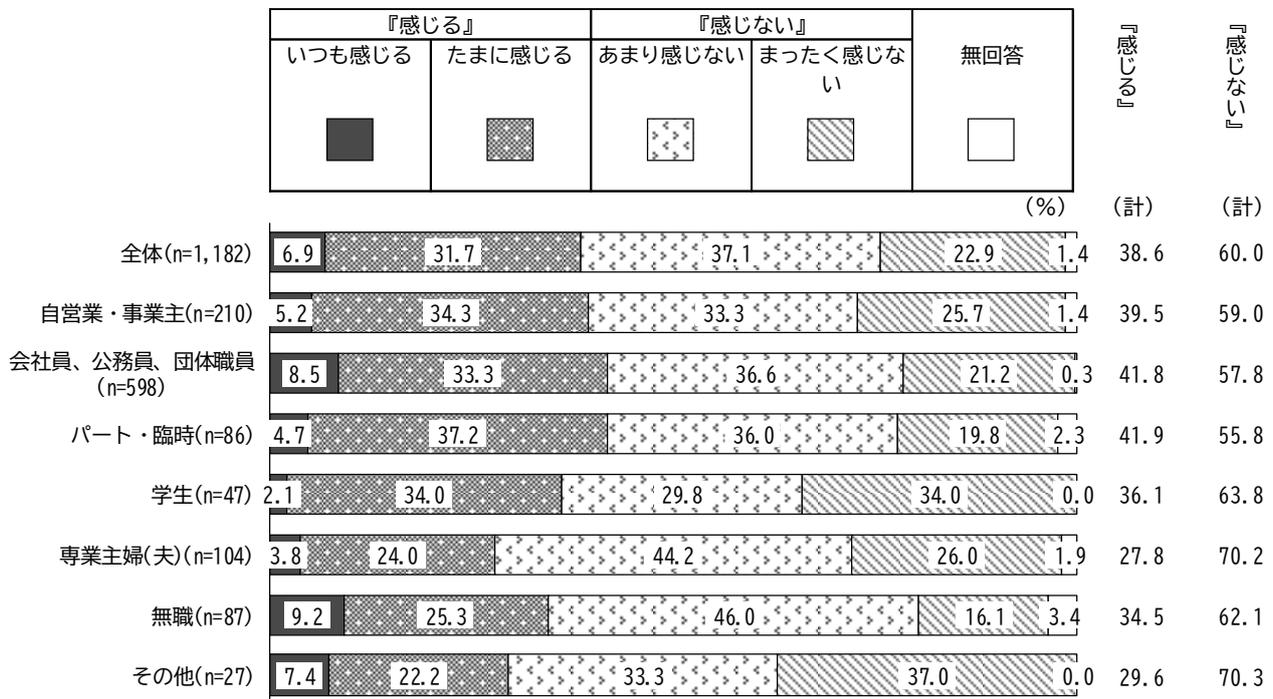
III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

V 調査票

職業別にみると、『感じる』はパート・臨時(41.9%)が4割強と最も高く、次に会社員、公務員、団体職員(41.8%)が4割強と高くなっている。(図12-1-3)

図12-1-3 性別による不平等を感じることもあるか(職業別)



I 調査の概要

II 調査結果の要約

III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

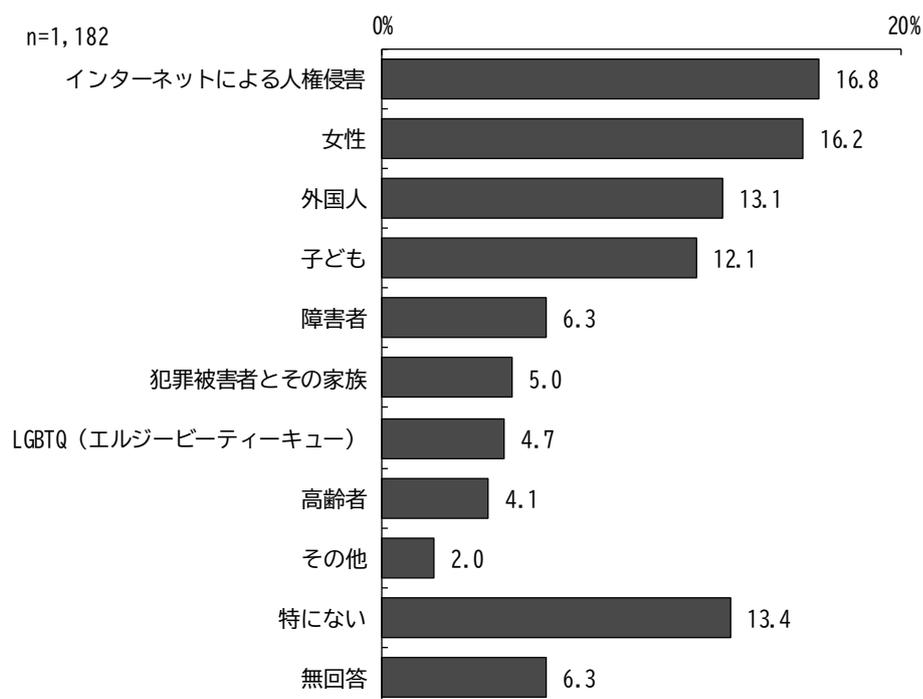
V 調査票

(2) 最も関心のある人権問題

◇「インターネットによる人権侵害」が1割台半ば超え

問31 人権問題で最も関心のあるものは次のうちのどれですか。(○は1つ)

図12-2-1 最も関心のある人権問題

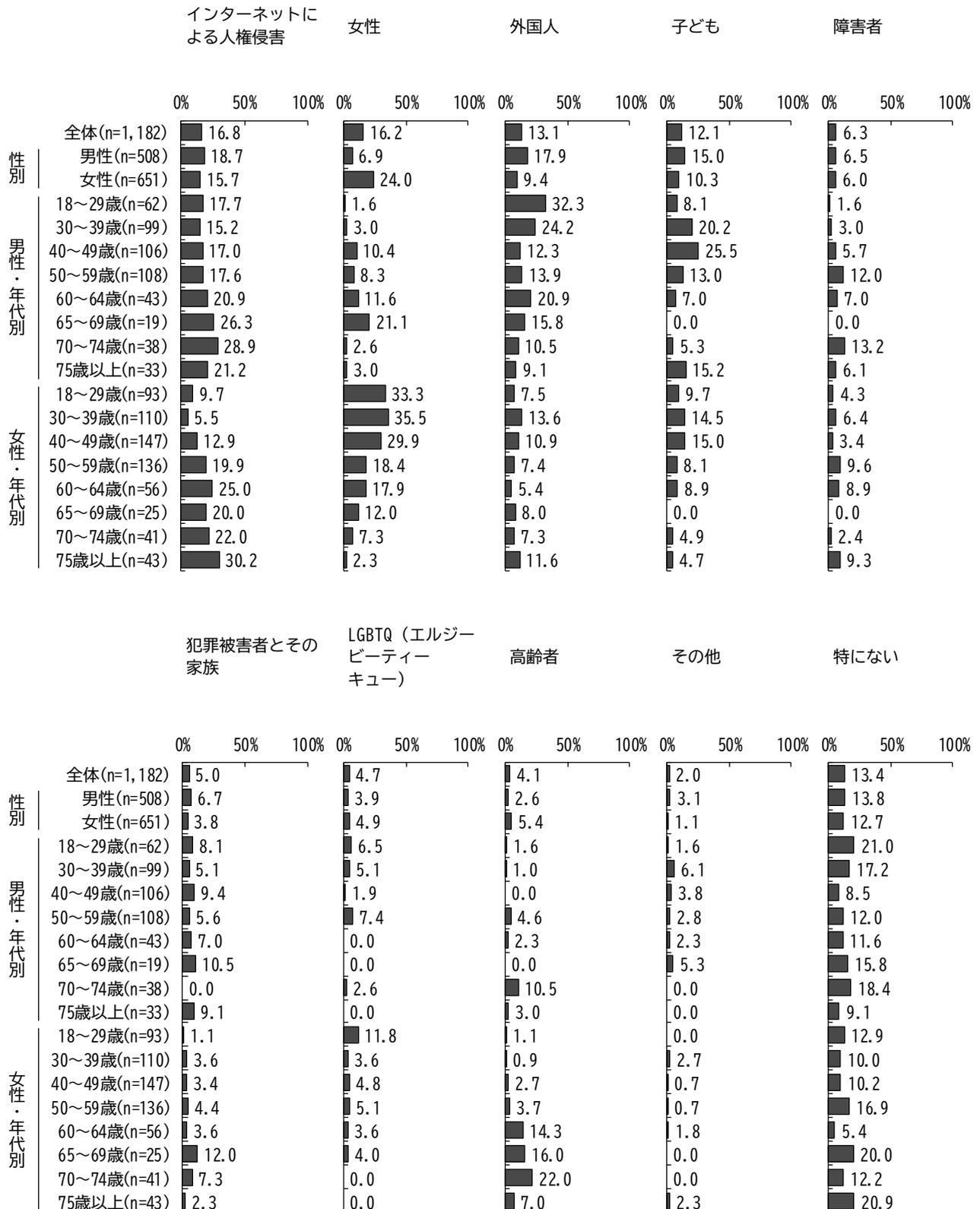


最も関心のある人権問題について聞いたところ、「インターネットによる人権侵害」(16.8%)が1割台半ば超えと最も高く、次いで「女性」(16.2%)が1割台半ば超え、「特にない」(13.4%)が1割台半ば近く、「外国人」(13.1%)が1割台半ば近くとなっている。

(図12-2-1)

性・年代別にみると、「インターネットによる人権侵害」は女性75歳以上(30.2%)が約3割と最も高くなっている。「女性」は女性30～39歳(35.5%)が3割台半ば、「子ども」は男性40～49歳(25.5%)が2割台半ばと最も高くなっている。(図12-2-2)

図12-2-2 最も関心のある人権問題 (性・年代別)

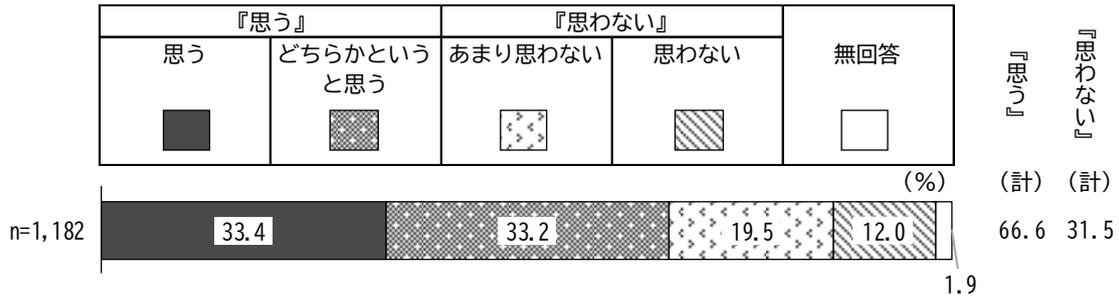


(3) 同性のパートナーの権利について

◇「思う」が3割台半ば近く

問32 同性パートナーにも異性のパートナーと同等の権利が認められるべきだと思いますか。(○は1つ)

図12-3-1 同性のパートナーの権利について



同性パートナーにも異性のパートナーと同等の権利が認められるべきだと思うか聞いたところ、「思う」(33.4%)と「どちらかというと思う」(33.2%)を合わせた『思う』(66.6%)は6割台半ばを超えと高くなっている。一方で、「あまり思わない」(19.5%)、「思わない」(12.0%)を合わせた『思わない』(31.5%)が3割強となっている。(図12-3-1)

I

調査の概要

II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

IV

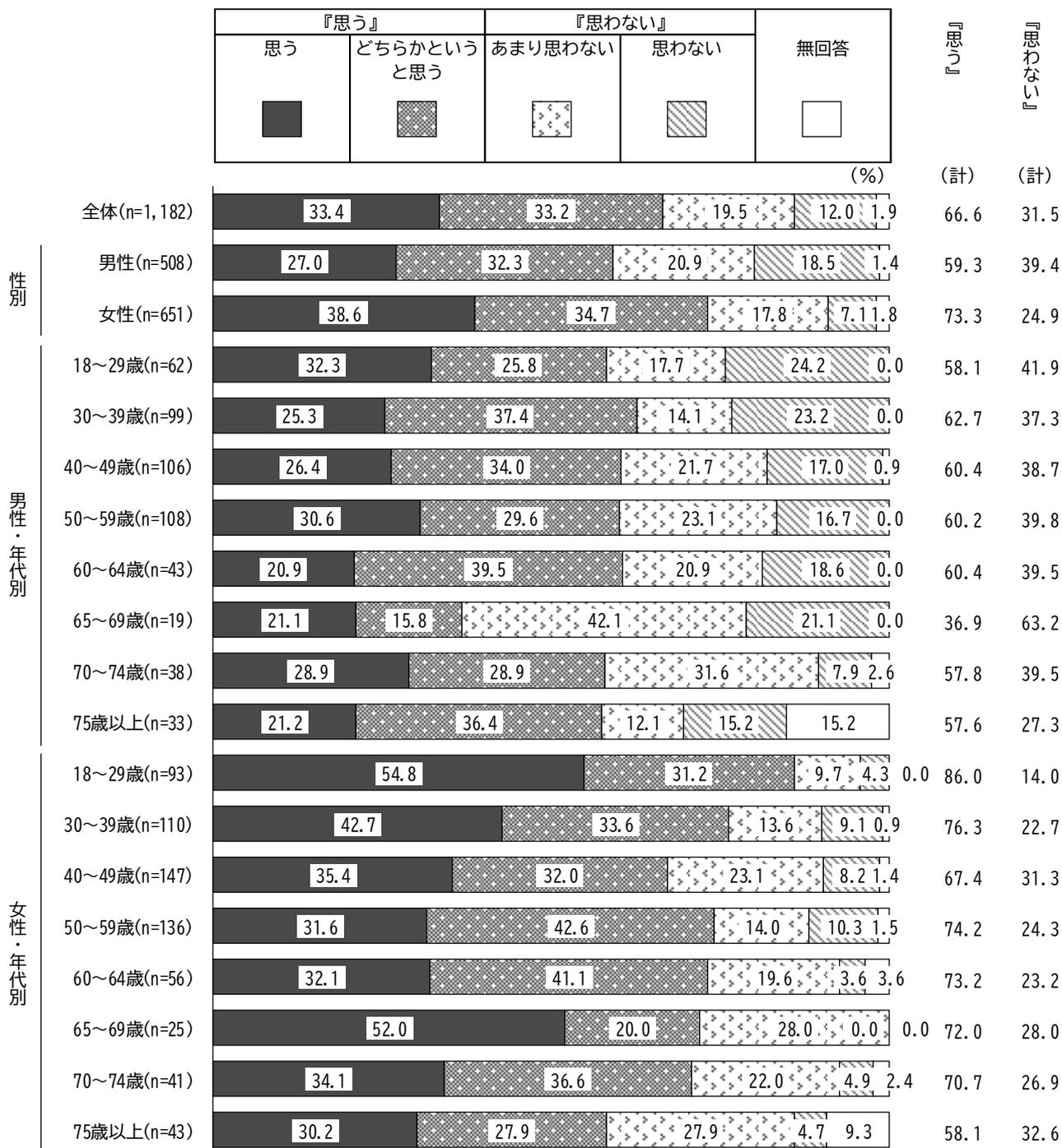
調査結果の数表

V

調査票

性・年代別にみると、『思う』女性18～29歳(86.0%)が8割半ば超えと最も高くなっている。一方で、『思わない』は男性65～69歳(63.2%)が6割台半ば近くと最も高くなっている。(図12-3-2)

図12-3-2 同性のパートナーの権利について (性・年代別)

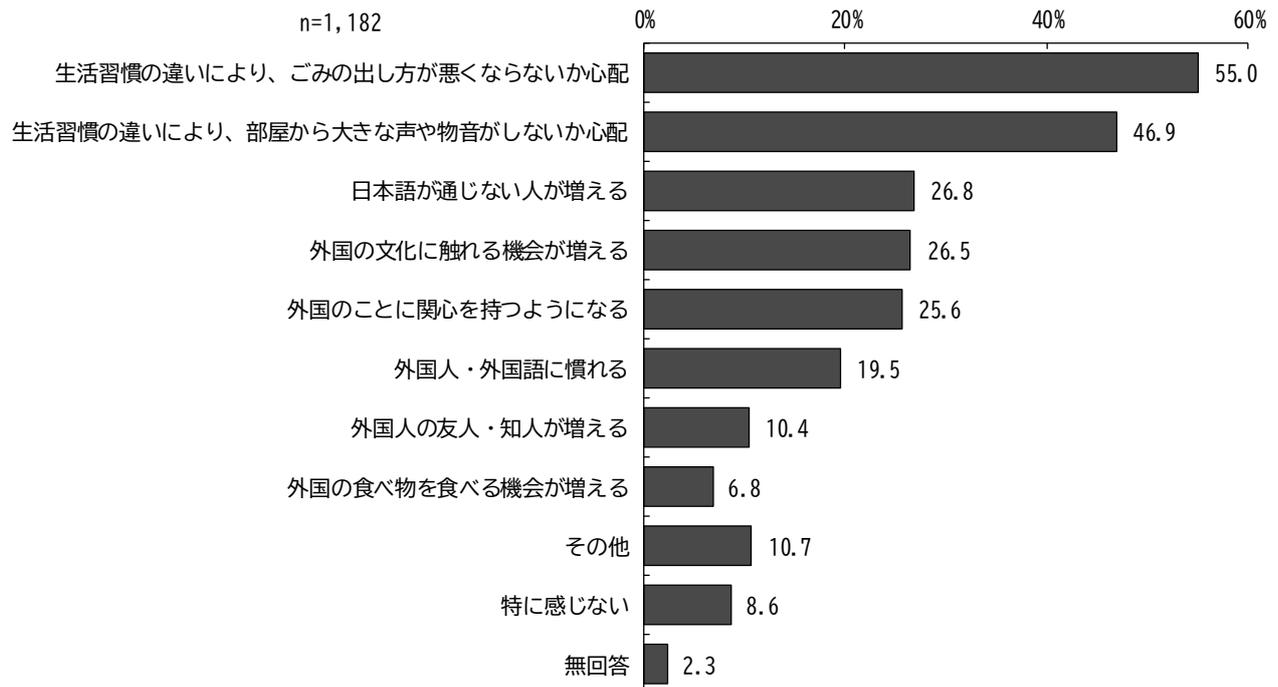


(4) 近所に住む外国人について

◇「生活習慣の違いにより、ごみの出し方が悪くならないか心配」が5割台半ば

問33 近所に様々な国籍の外国人が住むことについて、どのようなことを感じますか。
(○は3つまで)

図12-4-1 近所に住む外国人について



近所に様々な国籍の外国人が住むことについて、どのようなことを感じるか聞いたところ、「生活習慣の違いにより、ごみの出し方が悪くならないか心配」(55.0%)が5割台半ばと高く、次いで「生活習慣の違いにより、部屋から大きな声や物音がしないか心配」(46.9%)が4割台半ばを超えと高くなっている。(図12-4-1)

I

調査の概要

II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

IV

調査結果の数表

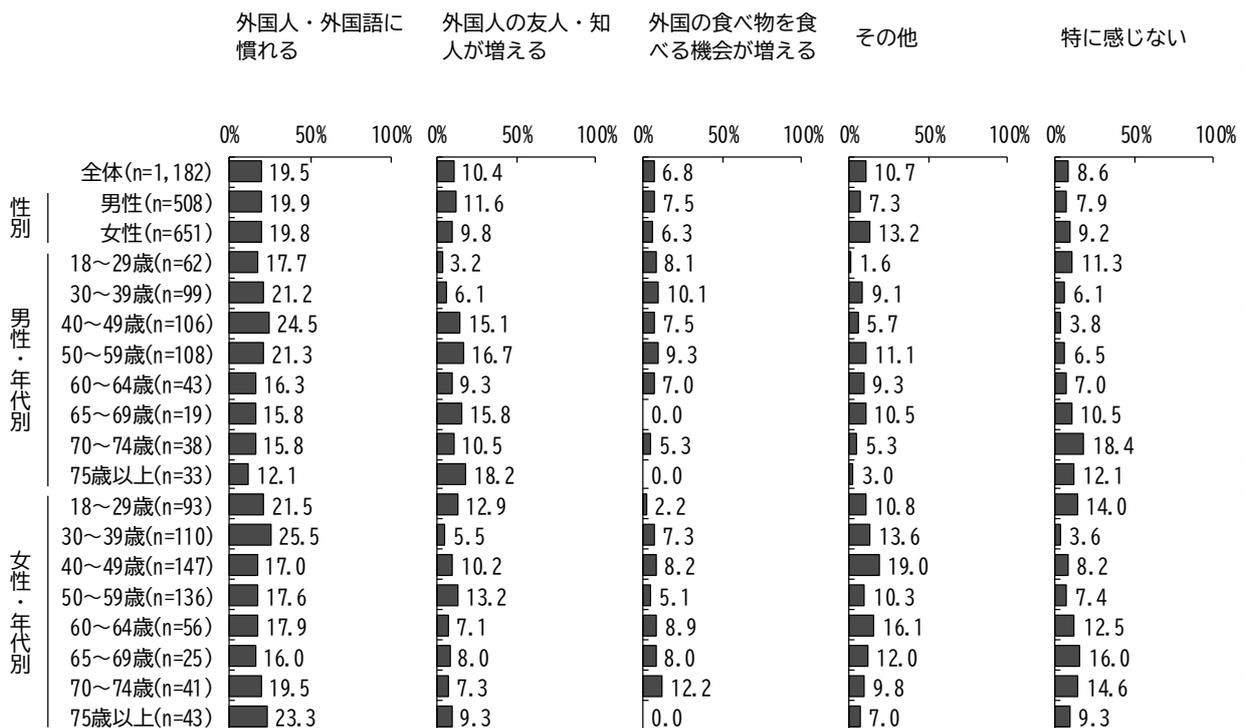
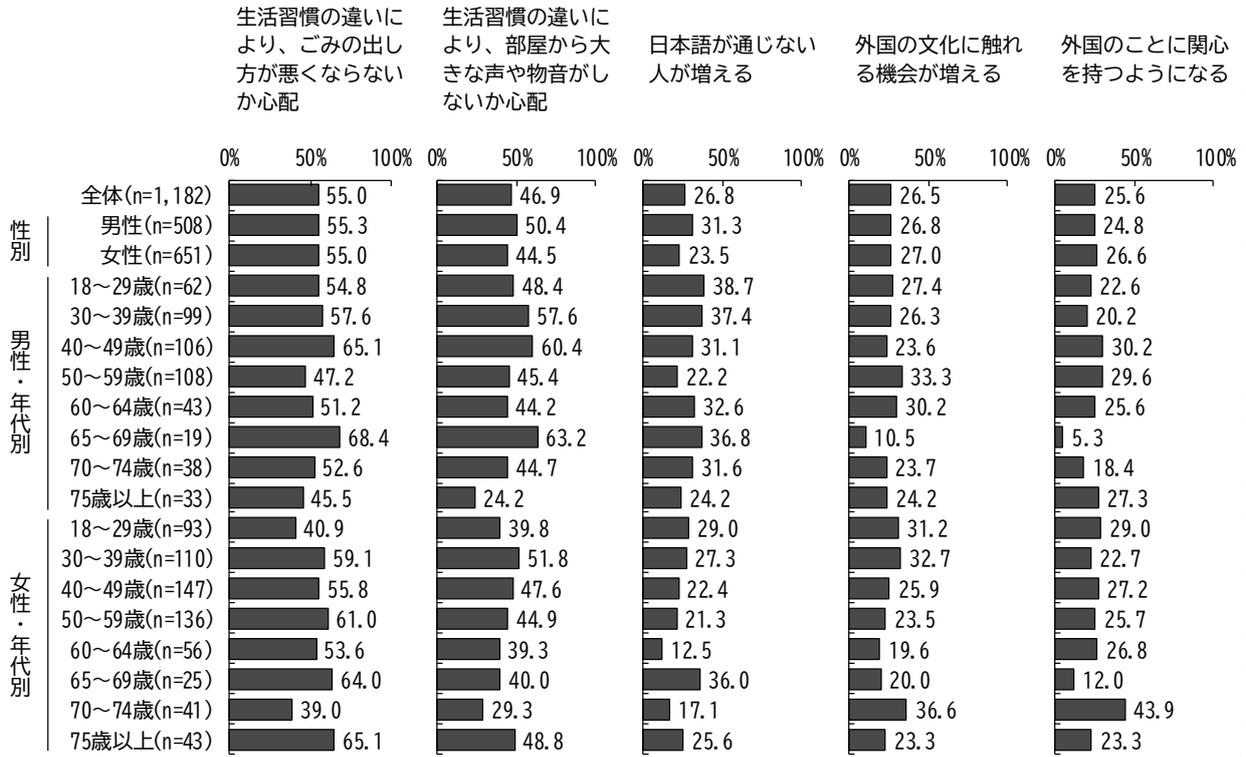
V

調査票

性・年代別にみると、「生活習慣の違いにより、ごみの出し方が悪くならないか心配」は男性65～69歳(68.4%)が7割近くと最も高く、次いで男性40～49歳(65.1%)と女性75歳以上(65.1%)が6割台半ばと高くなっている。「生活習慣の違いにより、部屋から大きな声や物音がしないか心配」は男性65～69歳(63.2%)が6割台半ば近くと最も高くなっている。

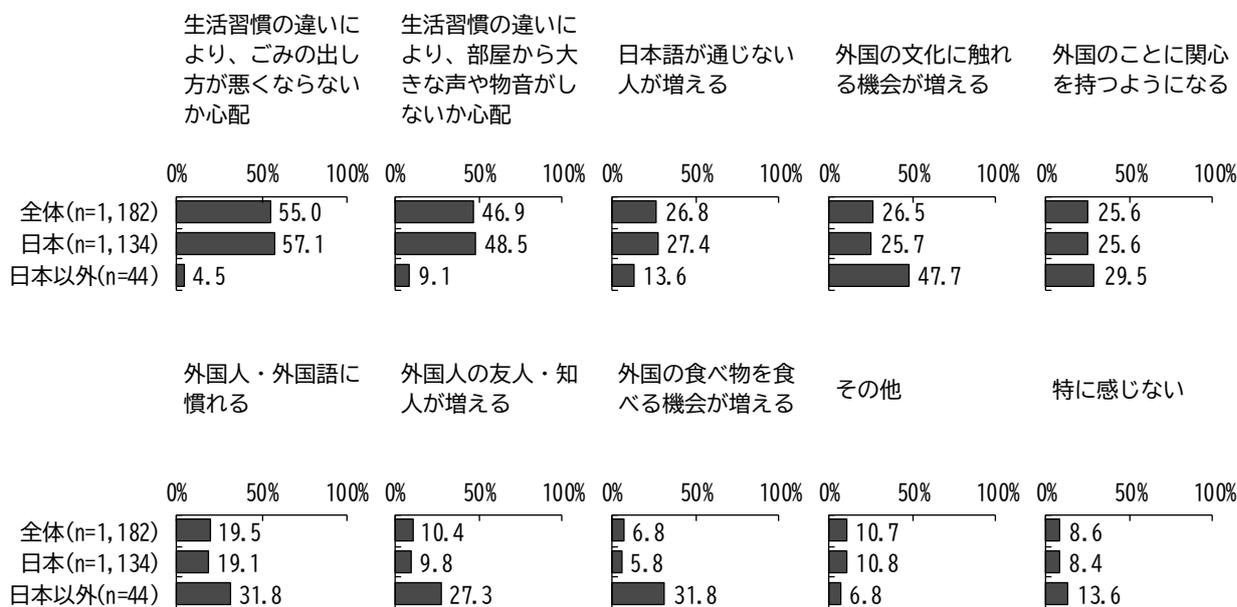
(図12-4-2)

図12-4-2 近所に住む外国人について (性・年代別)



国籍別にみると、「生活習慣の違いにより、ごみの出し方が悪くならないか心配」は日本(57.1%)が5割半ばを超えとなっている。「外国人・外国語に慣れる」は日本以外(31.8%)が3割強、「外国の食べ物を食べる機会が増える」は日本以外(31.8%)が3割強となっている。(図12-4-3)

図12-4-3 近所に住む外国人について (国籍別)

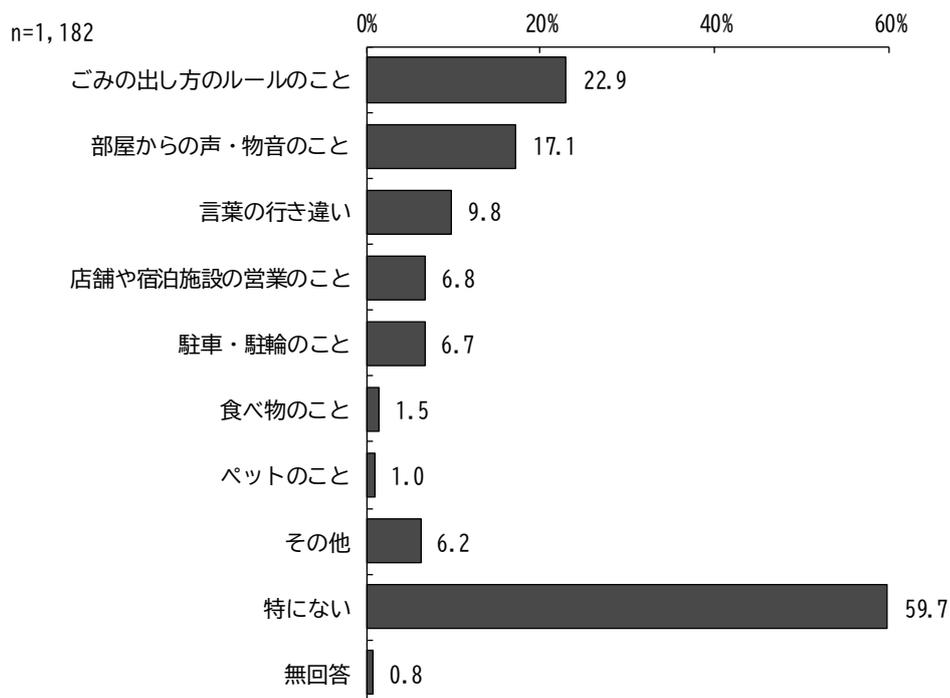


(5) 外国人とのご近所トラブル経験について

◇「特にない」が6割弱

問34 あなたは、今までに、外国人と関連して、近所で次のようなトラブルの経験がありますか。(〇は3つまで)

図12-5-1 外国人とのご近所トラブル経験について

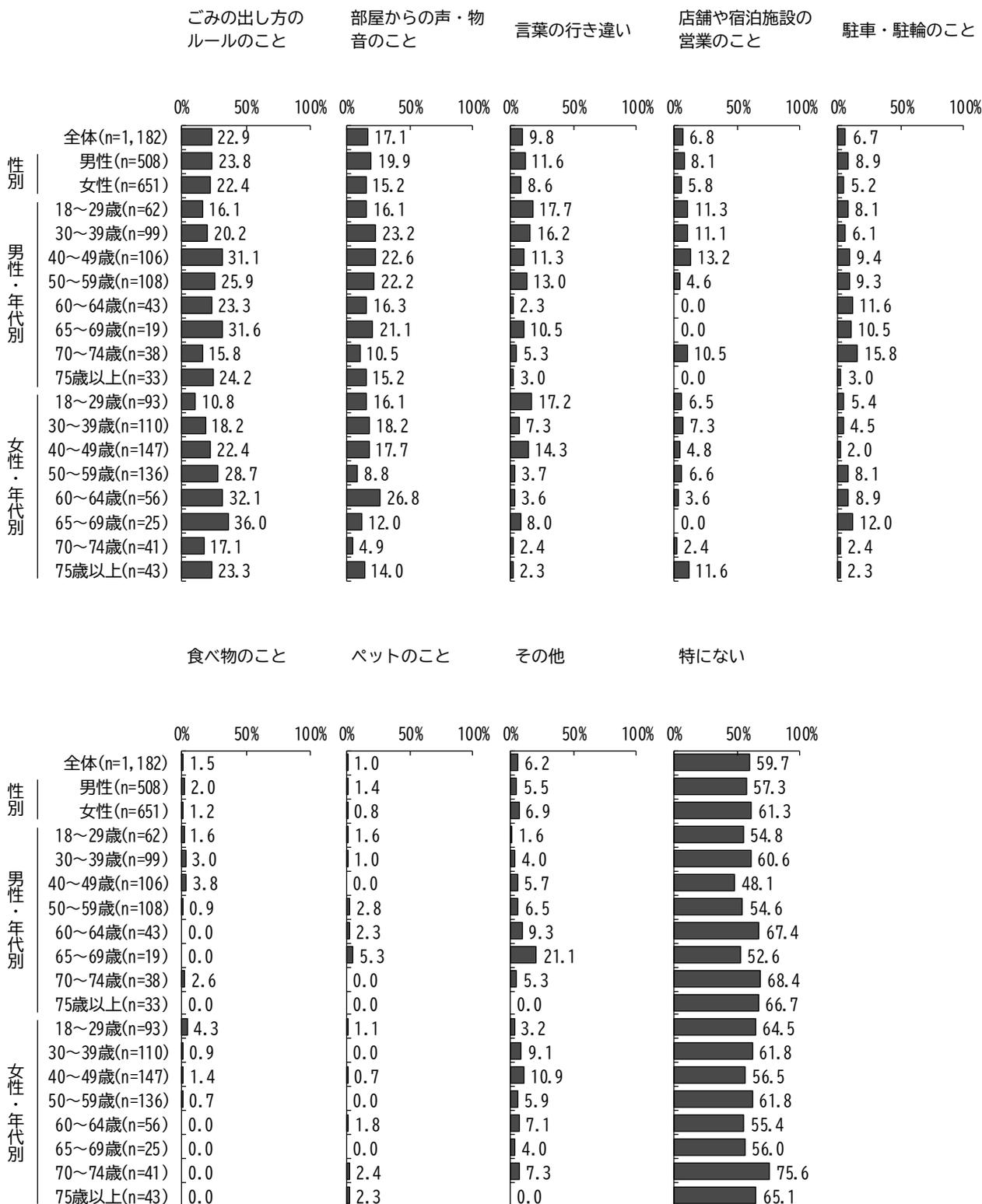


外国人とのご近所トラブル経験について聞いたところ、「特にない」(59.7%)が6割弱と最も高く、次いで「ごみの出し方のルールのこと」(22.9%)が2割強と高くなっている。

(図12-5-1)

性・年代別にみると、「ごみの出し方のルールのこと」は女性65～69歳(36.0%)が3割台半ばを超えと最も高く、次いで女性60～64歳(32.1%)が3割強と高くなっている。「部屋からの声・物音のこと」は女性60～64歳(26.8%)が2割台半ばを超えと最も高く、次いで男性30～39歳(23.2%)が2割台半ば近くと高くなっている。(図12-5-2)

図12-5-2 外国人とのご近所トラブル経験について (性・年代別)



I

調査の概要

II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

IV

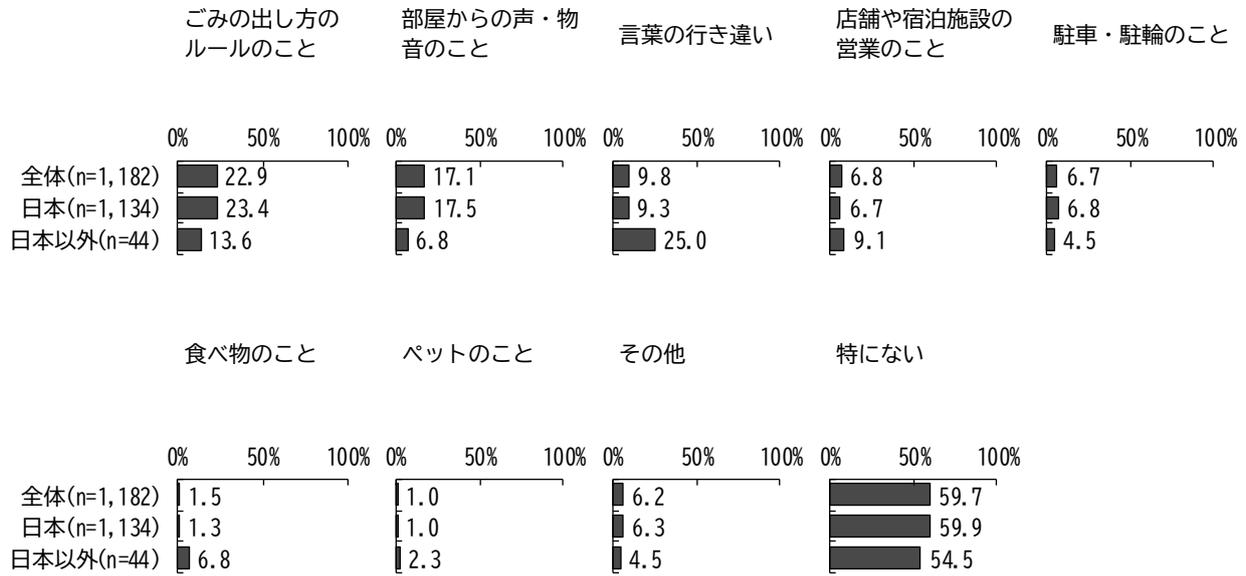
調査結果の数表

V

調査票

国籍別にみると、「ごみの出し方のルールのこと」は日本(23.4%)が2割台半ば近く、「言葉の行き違い」は日本以外(25.0%)が2割台半ばとなっている。(図12-5-3)

図12-5-3 外国人とのご近所トラブル経験について(国籍別)



I 調査の概要

II 調査結果の要約

III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

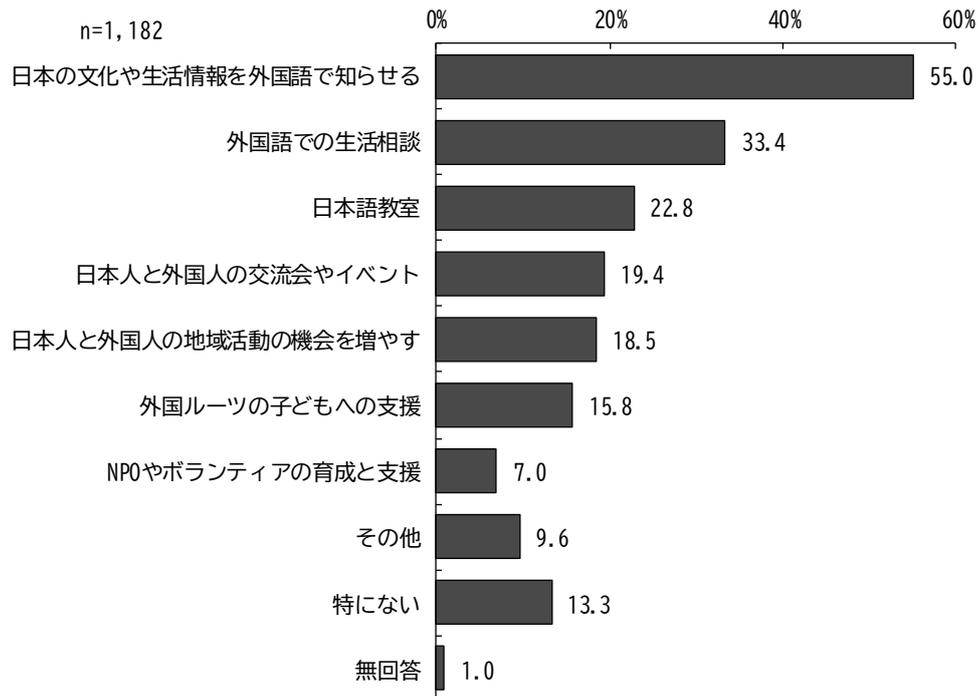
V 調査票

(6) 外国人や外国文化に関する区の対応について

◇「日本の文化や生活情報を外国語で知らせる」が5割台半ば

問35 今後、外国人や外国文化に関する区の対応として、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇は3つまで)

図12-6-1 外国人や外国文化に関する区の対応について



外国人や外国文化に関する区の対応としてどのようなことに力を入れるべきか聞いたところ、「日本の文化や生活情報を外国語で知らせる」(55.0%)が5割台半ばと最も高く、次いで「外国語での生活相談」(33.4%)が3割台半ば近く、「日本語教室」(22.8%)が2割強と高くなっている。(図12-6-1)

I

調査の概要

II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

IV

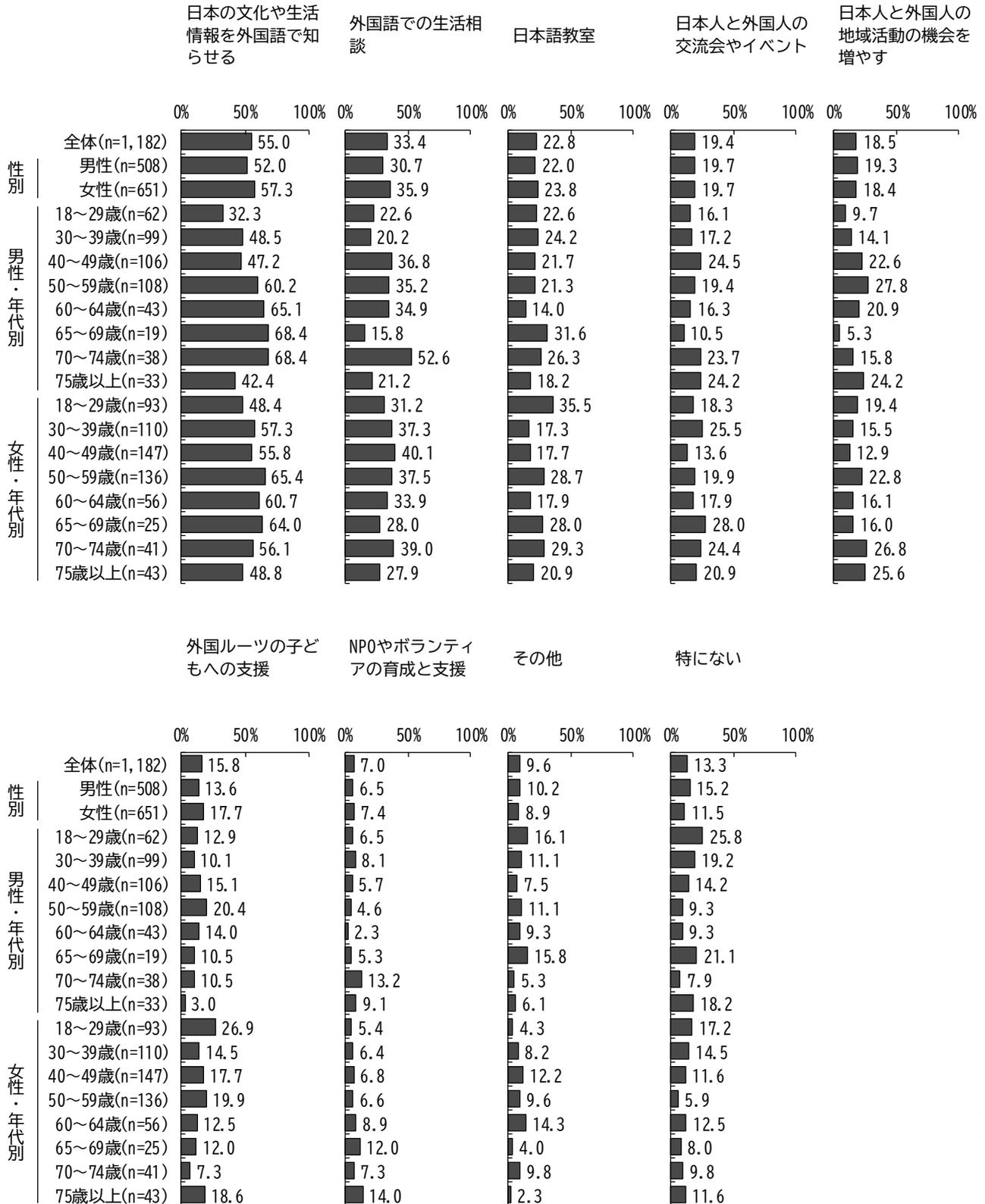
調査結果の数表

V

調査票

性・年代別にみると、「日本の文化や生活情報を外国語で知らせる」は男性65～69歳(68.4%)と男性70～74歳(68.4%)が7割近くと最も高くなっている。「外国語での生活相談」は男性70～74歳(52.6%)が5割強と最も高くなっている。(図12-6-2)

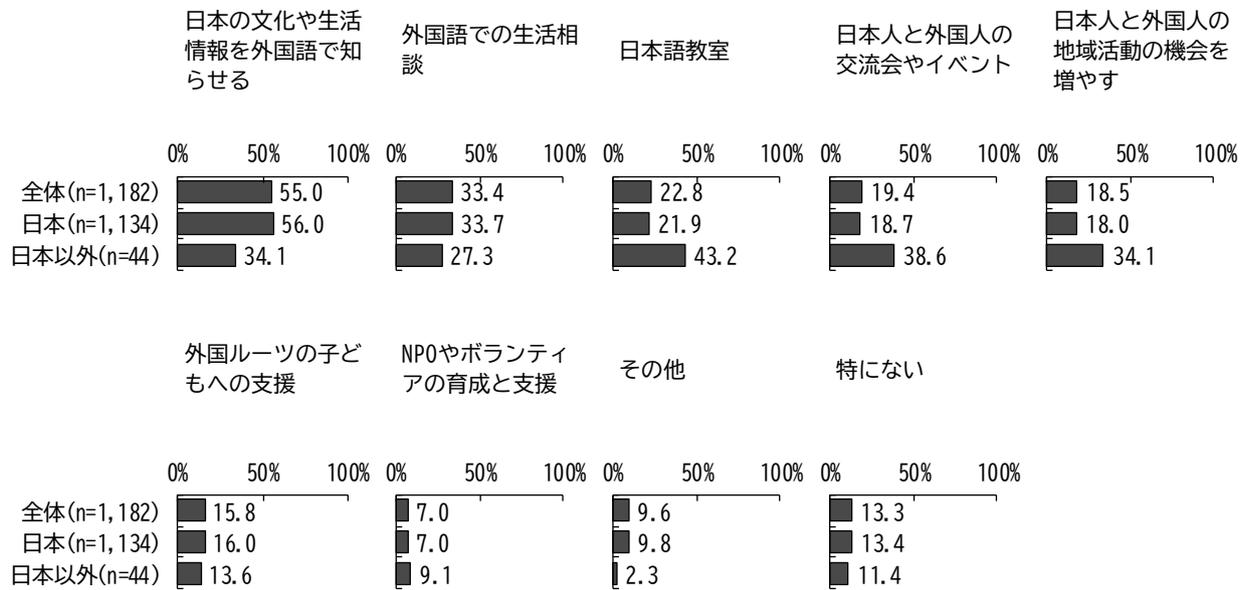
図12-6-2 外国人や外国文化に関する区の対応について(性・年代別)



国籍別にみると、「日本の文化や生活情報を外国語で知らせる」は日本(56.0%)が5割台半ばを超えとなっている。また、「日本語教室」は日本以外(43.2%)が4割台半ば近く、「日本人と外国人の交流会やイベント」は日本以外(38.6%)が4割近くとなっている。

(図12-6-3)

図12-6-3 外国人や外国文化に関する区の対応について（国籍別）



I

調査の概要

II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

IV

調査結果の数表

V

調査票

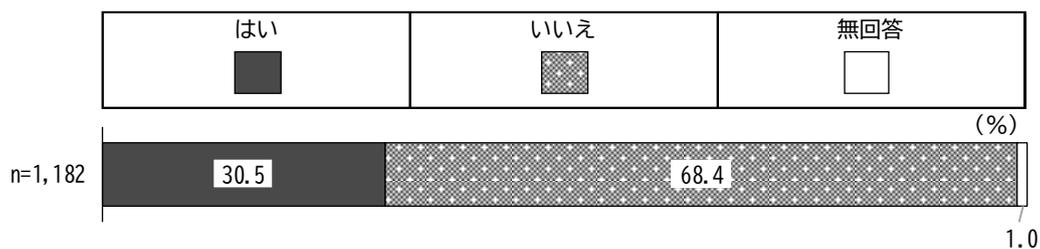
13. 日比谷図書文化館の利用状況

(1) 日比谷図書文化館の利用の有無

◇「いいえ」が7割近く

問36 日比谷図書文化館を利用したことがありますか。(○は1つ)

図13-1-1 日比谷図書文化館の利用の有無

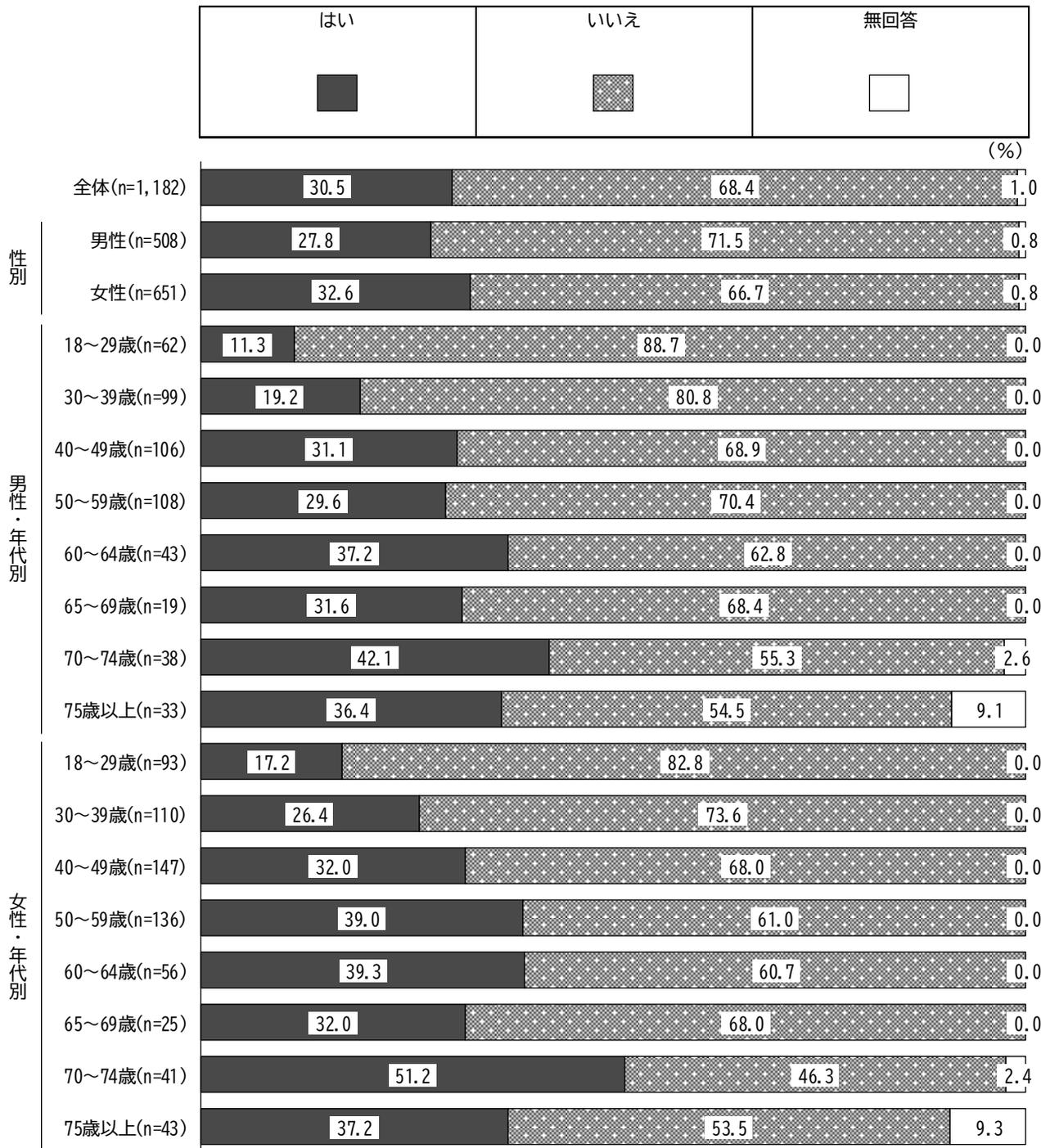


日比谷図書文化館の利用の有無を聞いたところ、「はい」(30.5%)が約3割、「いいえ」(68.4%)が7割近くであった。(図13-1-1)

性・年代別にみると、「はい」は女性70～74歳(51.2%)が5割強と最も高く、次いで男性70～74歳(42.1%)が4割強と高くなっている。一方で、「いいえ」は男性18～29歳(88.7%)が9割近くと最も高く、次いで女性18～29歳(82.8%)が8割強と高くなっている。

(図13-1-2)

図13-1-2 日比谷図書文化館の利用の有無(性・年代別)



I

調査の概要

II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

IV

調査結果の数表

V

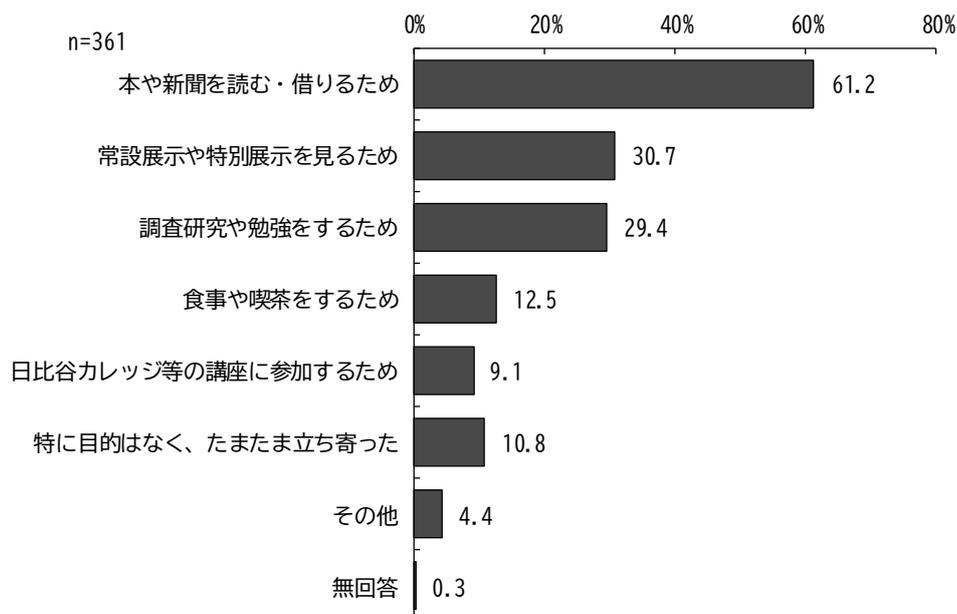
調査票

(2) 利用の目的

◇「本や新聞を読む・借りるため」が6割強

問36-1 (問36で「1.はい」と回答の方)
利用した目的は何ですか。(〇はいくつでも)

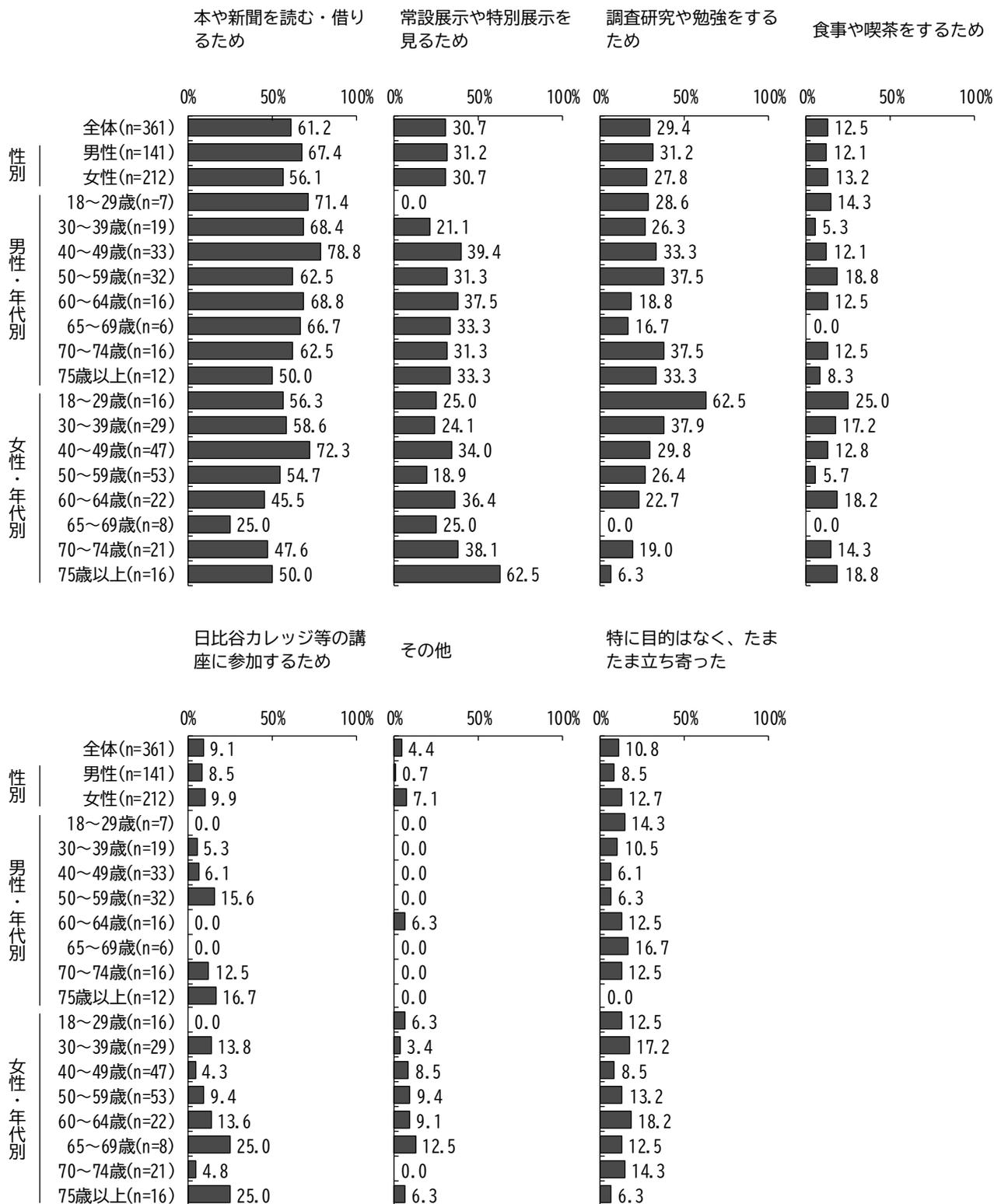
図13-2-1 日比谷図書文化館の利用目的



日比谷図書文化館の利用目的を聞いたところ、「本や新聞を読む・借りるため」(61.2%)が6割強と最も高く、次いで「常設展示や特別展示を見るため」(30.7%)が約3割、「調査研究や勉強をするため」(29.4%)が3割弱と高くなっている。(図13-2-1)

性・年代別にみると、「本や新聞を読む・借りるため」は男性40～49歳(78.8%)が8割近くと最も高くいる。また、「常設展示や特別展示を見るため」は女性75歳以上(62.5%)が6割強、「調査研究や勉強をするため」は女性18～29歳(62.5%)が6割強と最も高くなっている。(図13-2-2)

図13-2-2 日比谷図書文化館の利用目的(性・年代別)



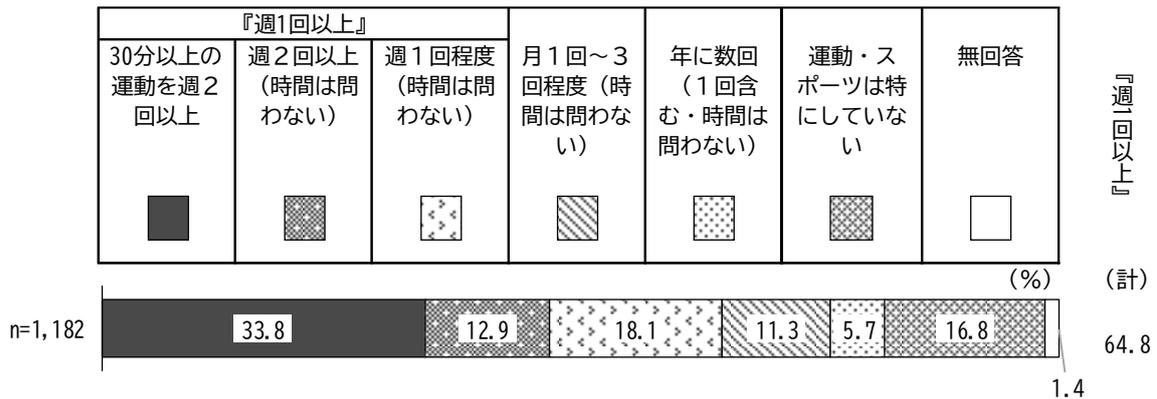
14. スポーツ実施率やスポーツへの興味・関心

(1) 運動・スポーツを行う頻度

◇「30分以上の運動を週2回以上」が3割台半ば近く

問37 あなたは、この1年間で散歩やウォーキングを含めてどの程度、運動・スポーツを行いましたか。(〇は1つ)

図14-1-1 運動・スポーツを行う頻度



この1年間の運動・スポーツを行う頻度について聞いたところ、「30分以上の運動を週2回以上」(33.8%)が3割台半ば近くと最も高く、「週2回以上(時間は問わない)」(12.9%)、「週1回程度(時間は問わない)」(18.1%)を合わせた『週1回以上』(64.8%)が6割台半ば近くとなっている。(図14-1-1)

I

調査の概要

II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

IV

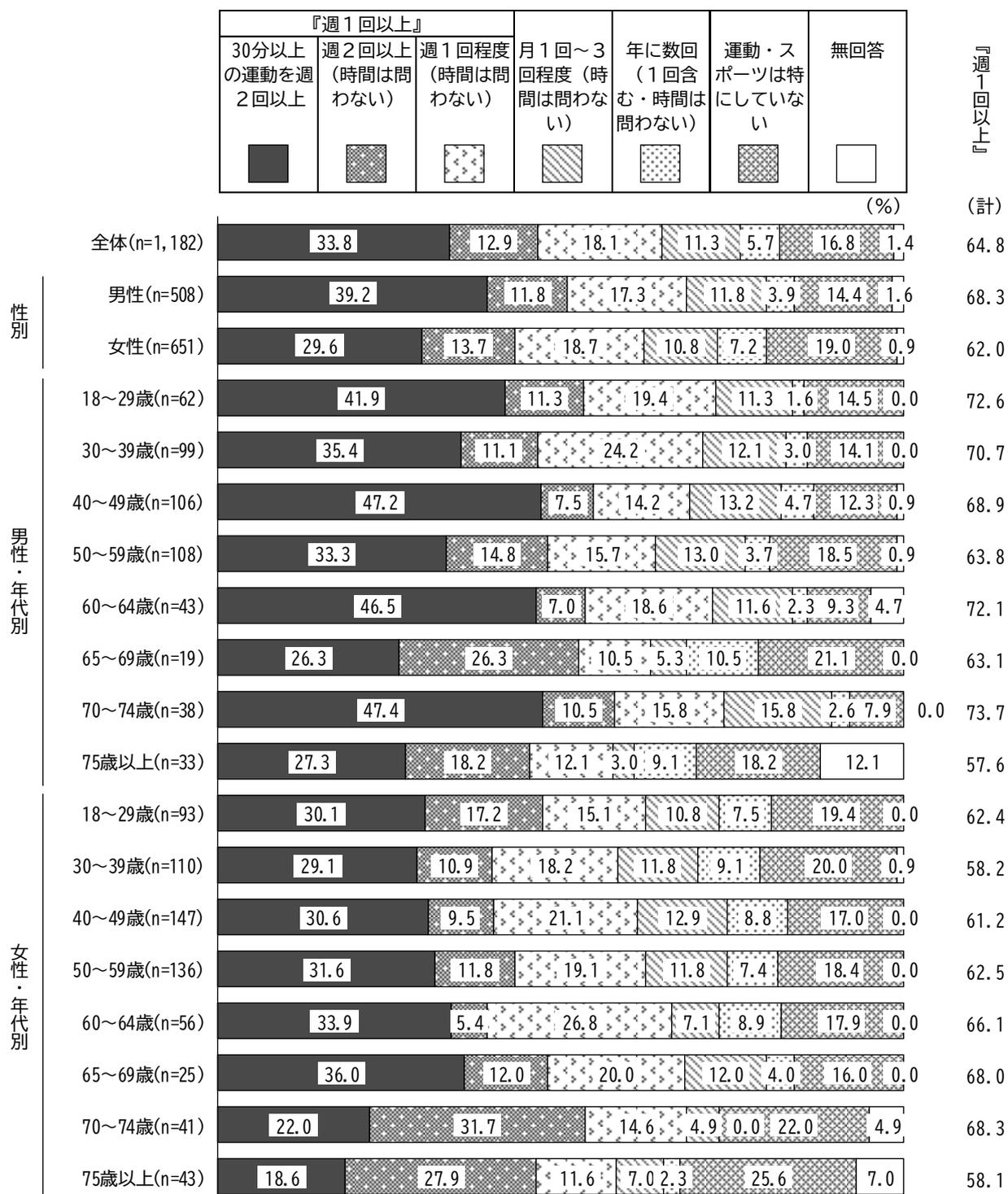
調査結果の数表

V

調査票

性・年代別にみると、『週1回以上』は男性70～74歳(73.7%)が7割台半ば近くと最も高くなっている。(図14-1-2)

図14-1-2 運動・スポーツを行う頻度(性・年代別)



I

調査の概要

II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

IV

調査結果の数表

V

調査票

(1-1) この1年間に運動・スポーツを行った場所

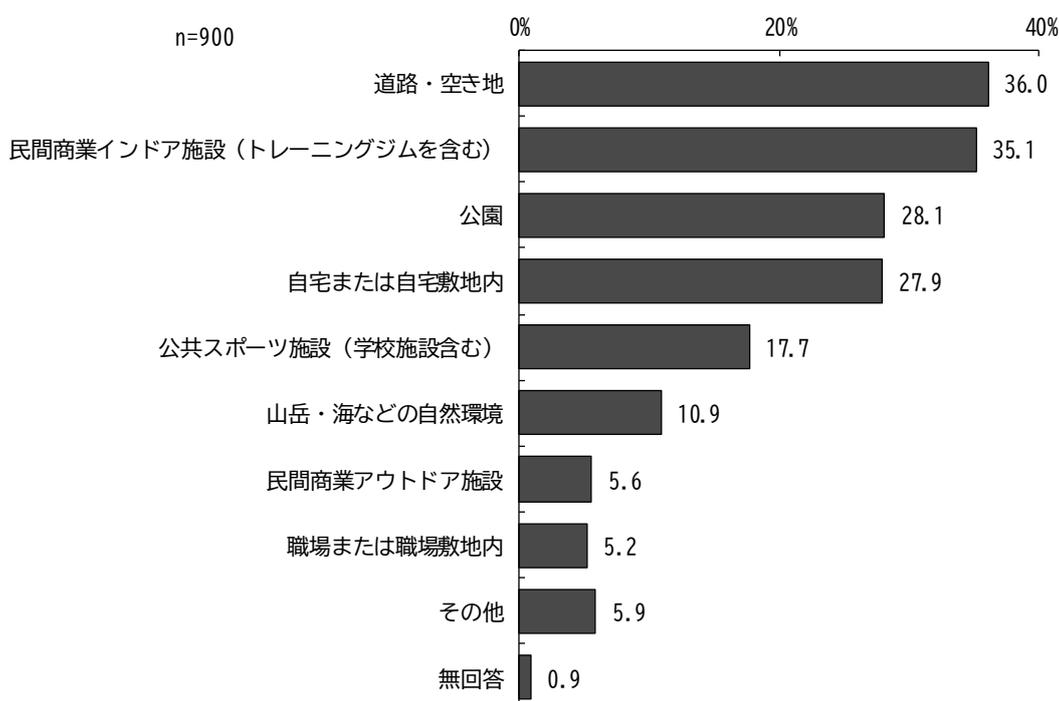
I

調査の概要

◇「道路・空き地」が3割台半ば超え

問37-1 (問37で「1. 30分以上の運動を週2回以上」「2. 週2回以上(時間は問わない)」「3. 週1回程度(時間は問わない)」「4. 月1回~3回程度(時間は問わない)」と回答の方)
あなたが、この1年間に運動・スポーツを主に実施した場所はどこですか。
(〇は3つまで)

図14-1-3 この1年間に運動・スポーツを行った場所



II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

IV

調査結果の数表

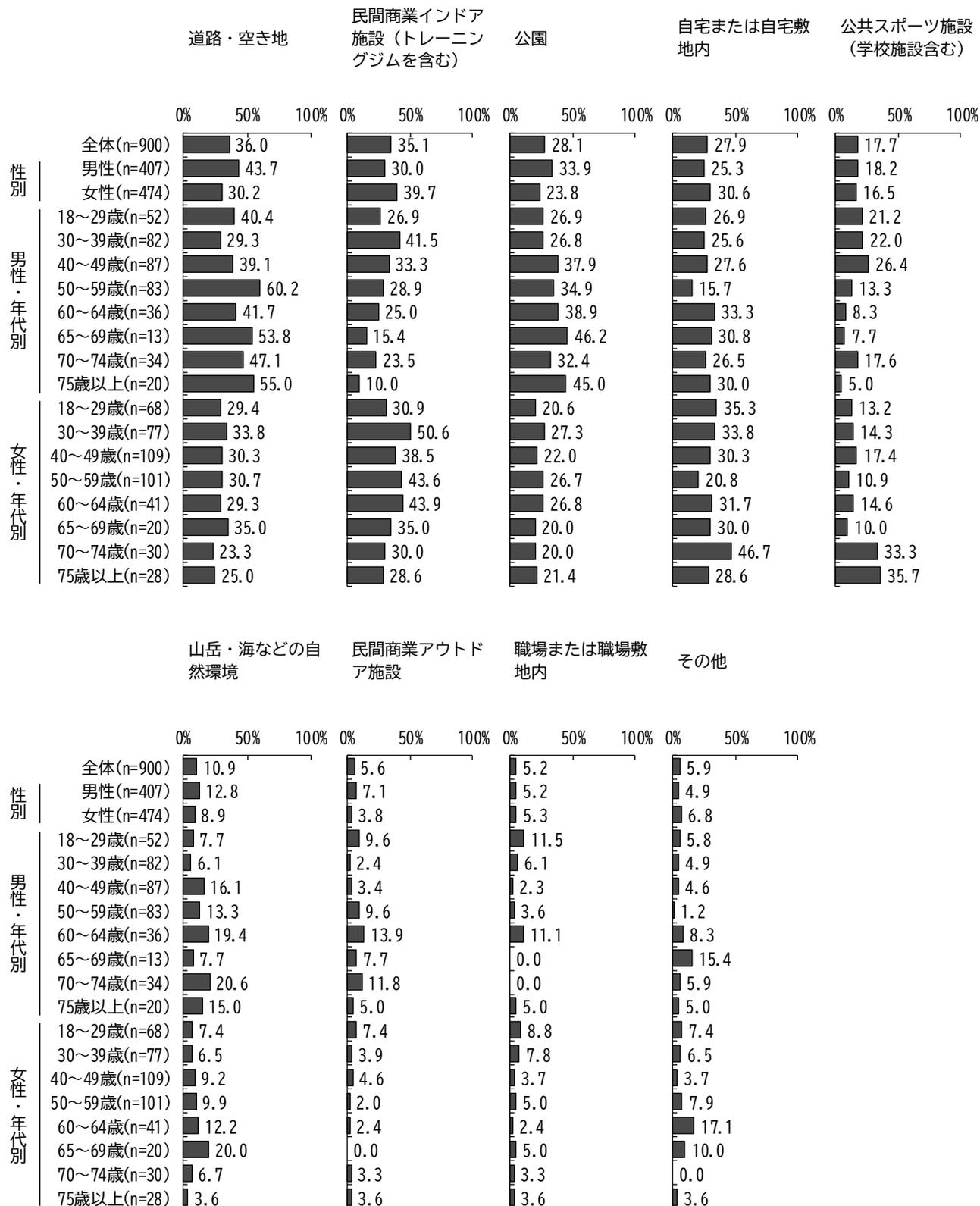
V

調査票

この1年間に運動・スポーツを行った場所について聞いたところ、「道路・空き地」(36.0%)が3割台半ば超えと最も高く、次いで「民間商業インドア施設(トレーニングジムを含む)」(35.1%)が3割台半ば、「公園」(28.1%)が3割近く、「自宅または自宅敷地内」(27.9%)が2割台半ば超え、「公共スポーツ施設(学校施設含む)」(17.7%)が1割台半ば超えと高くなっている。(図14-1-3)

性・年代別にみると、「民間商業インドア施設（トレーニングジムを含む）」は女性30～39歳(50.6%)が約5割と最も高くなっている。また、「公園」は男性65～69歳(46.2%)が4割台半ばを超えと最も高くなっている。(図14-1-4)

図14-1-4 この1年間に運動・スポーツを行った場所（性・年代別）



I 調査の概要

II 調査結果の要約

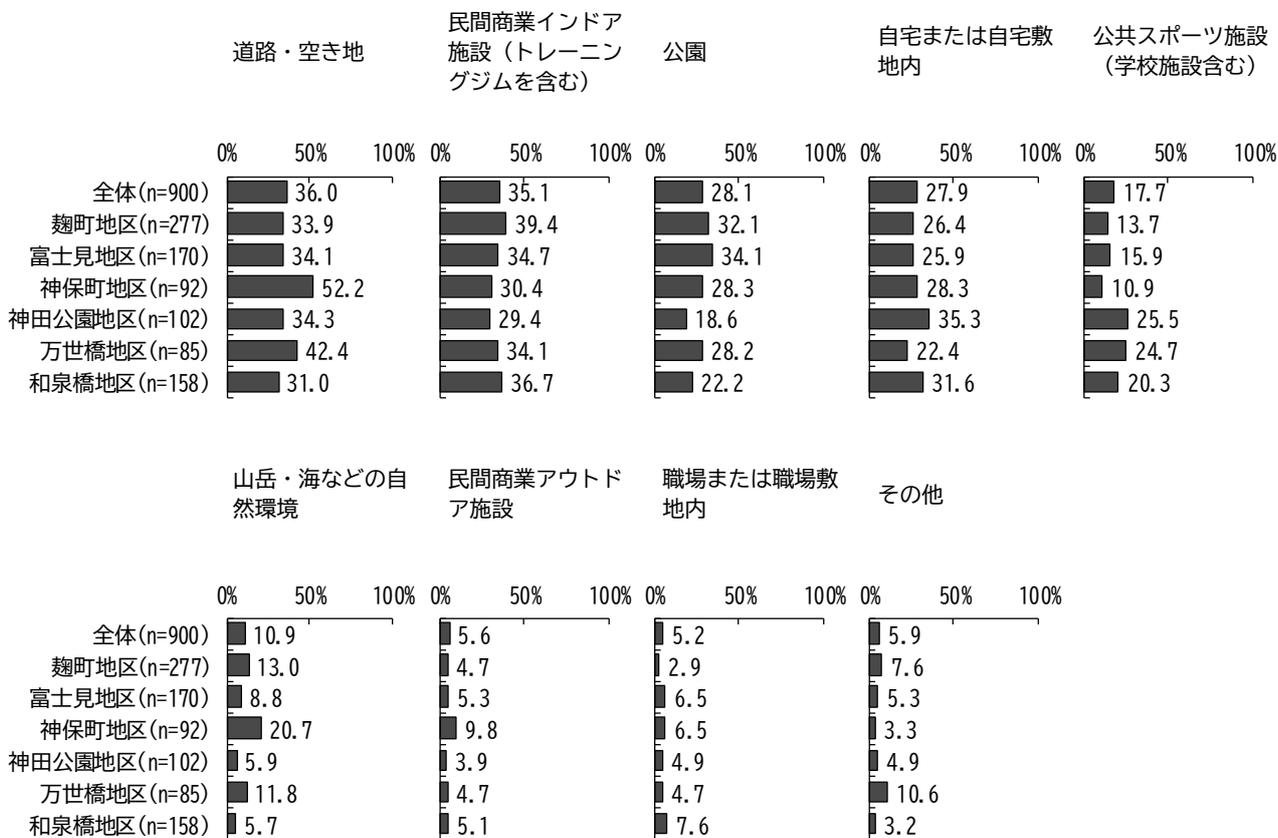
III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

V 調査票

地区別にみると、「道路・空地」は神保町地区(52.2%)が5割強と最も高くなっている。
(図14-1-5)

図14-1-5 この1年間に運動・スポーツを行った場所(地区別)



I 調査の概要

II 調査結果の要約

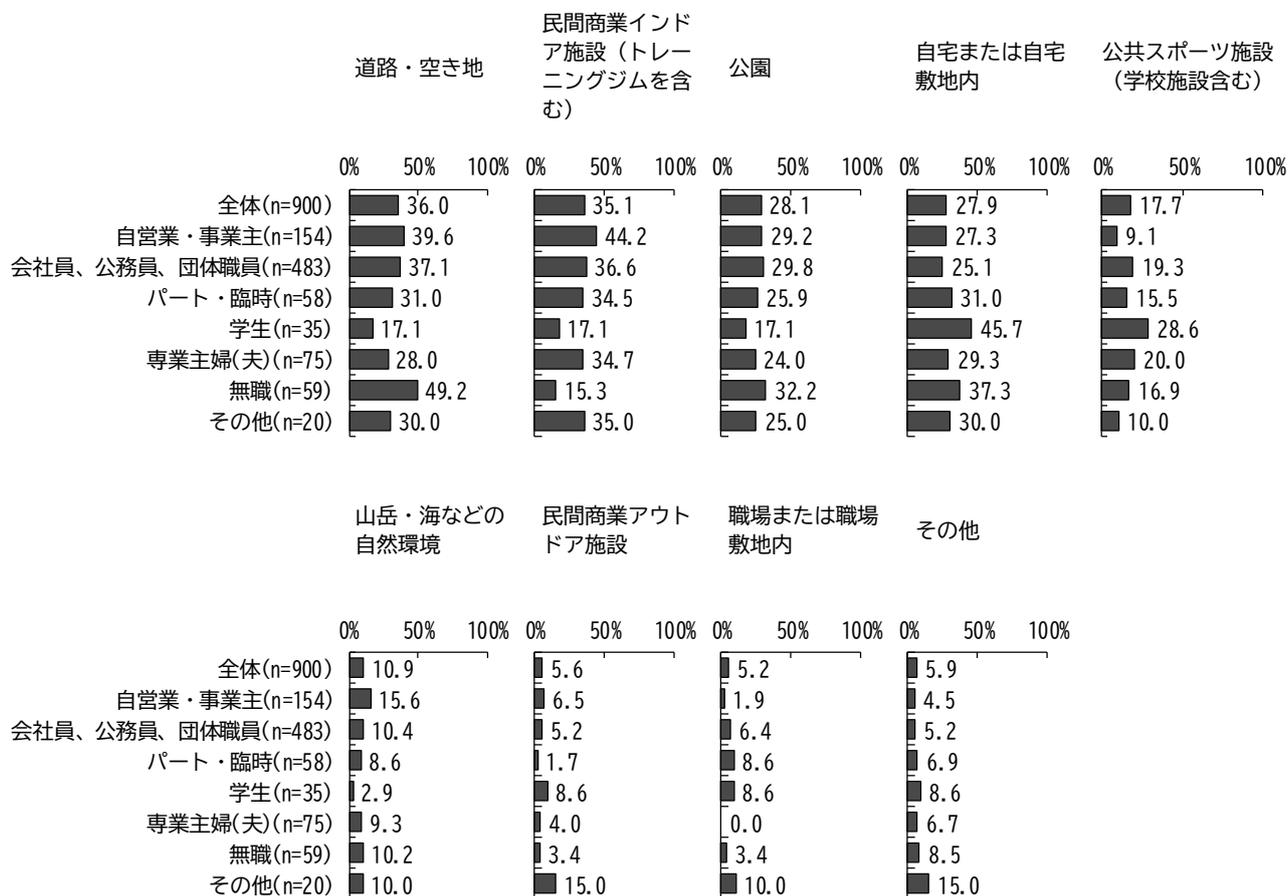
III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

V 調査票

職業別にみると、「道路・空き地」は無職(49.2%)が5割弱と最も高くなっている。また、民間商業インドア施設（トレーニングジムを含む）は自営業・事業主(44.2%)が4割台半ば近くと最も高くなっている。（図14-1-6）

図14-1-6 この1年間に運動・スポーツを行った場所（職業別）



(1-2) この1年間に運動・スポーツをほとんど行わなかった理由

I

調査の概要

◇「忙しくて時間がない」が約5割

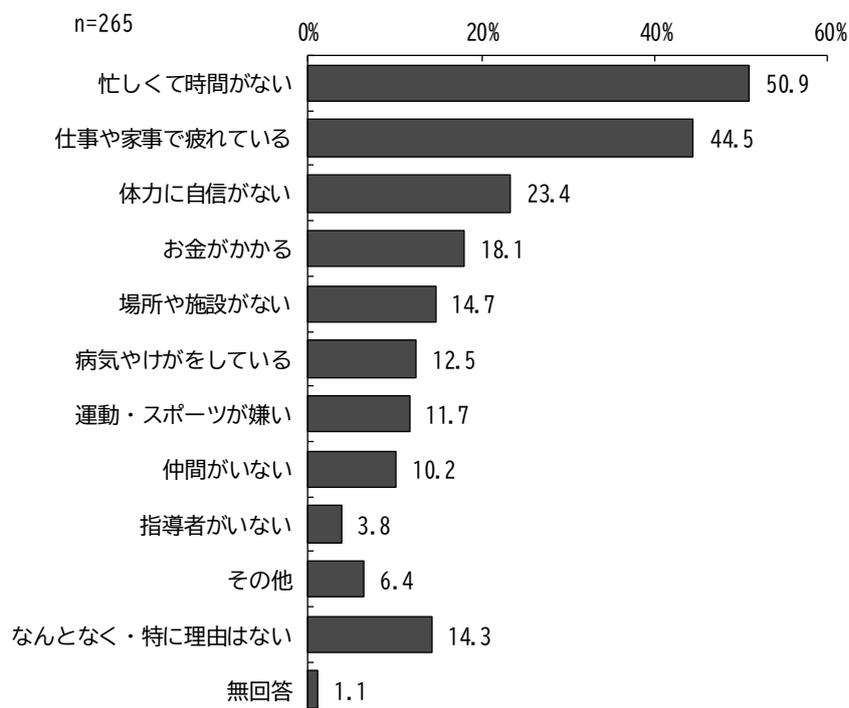
問37-2 (問37で「5.年に数回(1回含む・時間は問わない)」「6.運動・スポーツは特にしていない」と回答の方)

あなたが、この1年間に運動・スポーツをほとんど行わなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)

II

調査結果の要約

図14-1-7 この1年間に運動・スポーツをほとんど行わなかった理由



III

調査結果の分析

IV

調査結果の数表

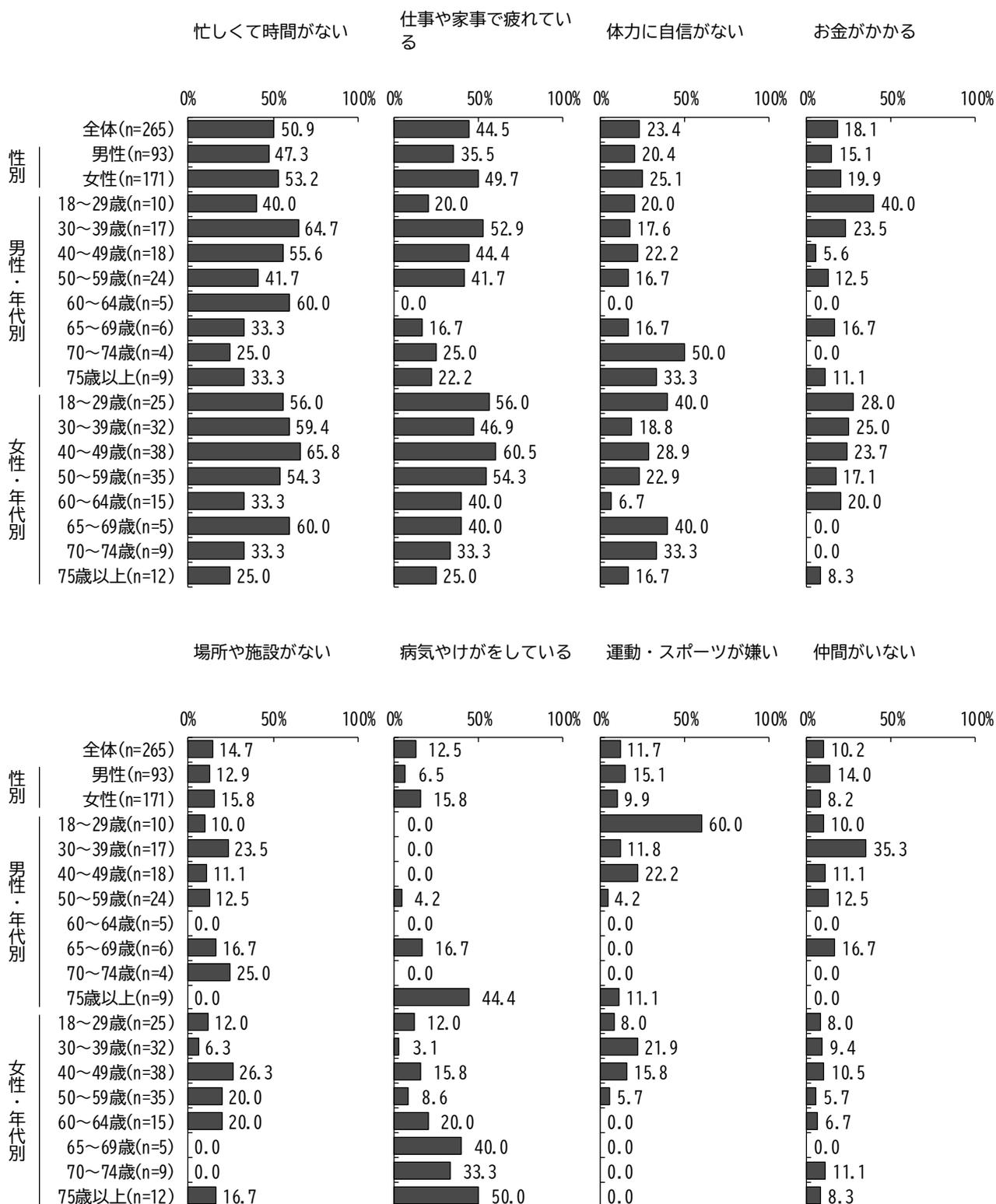
この1年間に運動・スポーツをほとんど行わなかった理由について聞いたところ、「忙しくて時間がない」(50.9%)が約5割と最も高く、次いで「仕事や家事で疲れている」(44.5%)が4割台半ば近くと高くなっている。(図14-1-7)

V

調査票

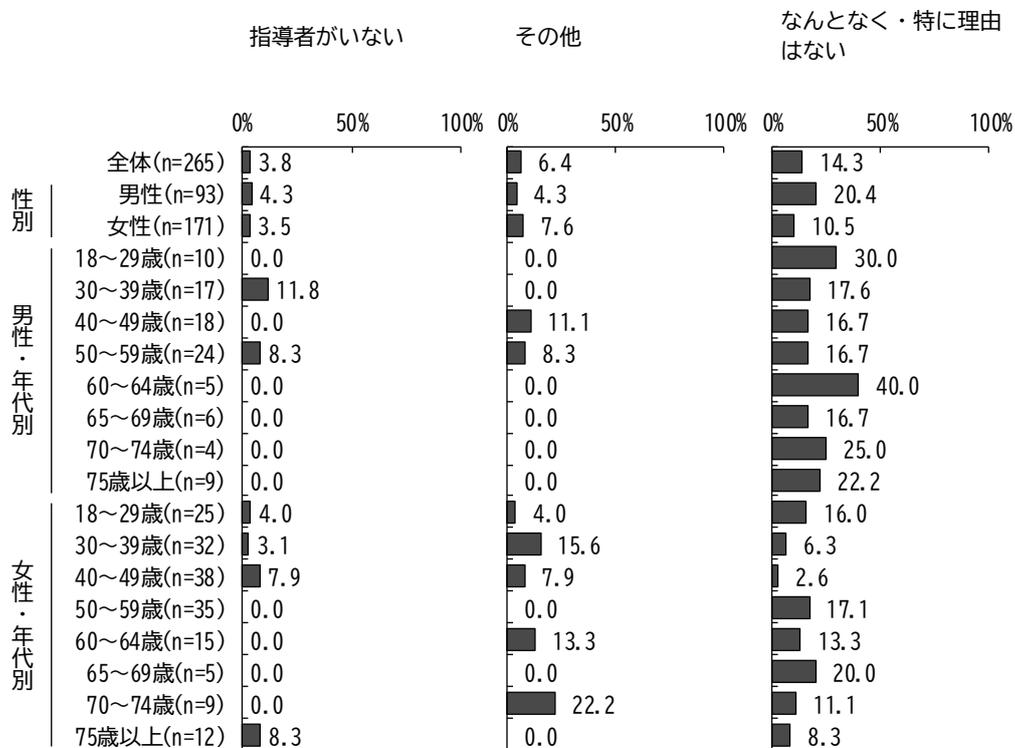
性・年代別にみると、「忙しくて時間がない」は女性40～49歳(65.8%)が6割台半ばと最も高く、「仕事や家事で疲れている」も女性40～49歳(60.5%)が約6割と最も高くなっている。また、「運動・スポーツが嫌い」は男性18～29歳(60.0%)が6割と最も高くなっている。(図14-1-8-1)

図14-1-8-1 この1年間に運動・スポーツをほとんど行わなかった理由(性・年代別)(1)



「なんとなく・特に理由はない」は男性60～64歳(40.0%)が4割と最も高くなっている。(図14-1-8-2)

図14-1-8-2 この1年間に運動・スポーツをほとんど行わなかった理由(性・年代別) (2)



I 調査の概要

II 調査結果の要約

III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

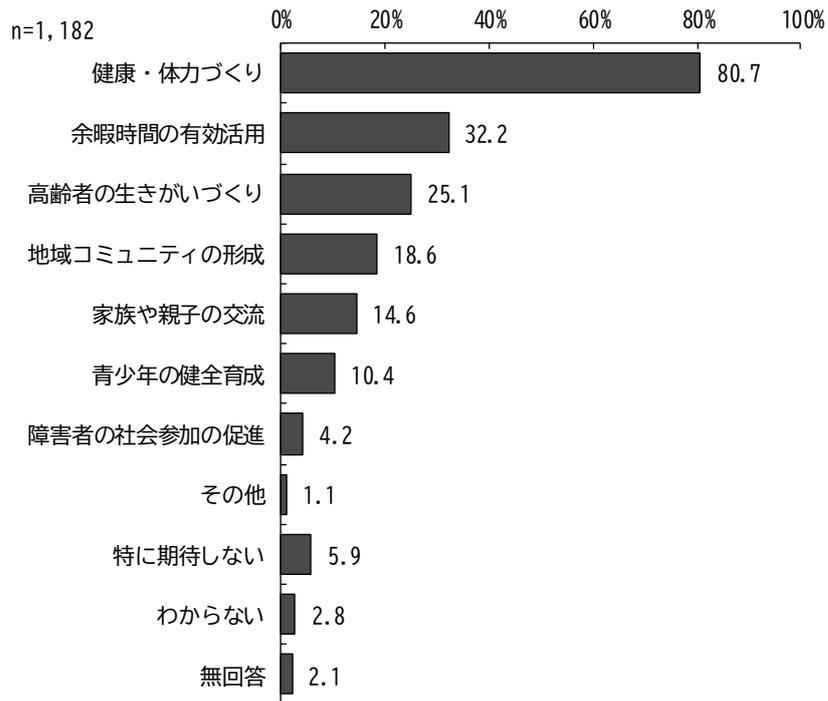
V 調査票

(2) 地域での運動やスポーツ活動に期待する効果

◇「健康・体力づくり」が約8割

問38 あなたは、地域での運動やスポーツ活動に対し、どのような効果を期待しますか。
(○は3つまで)

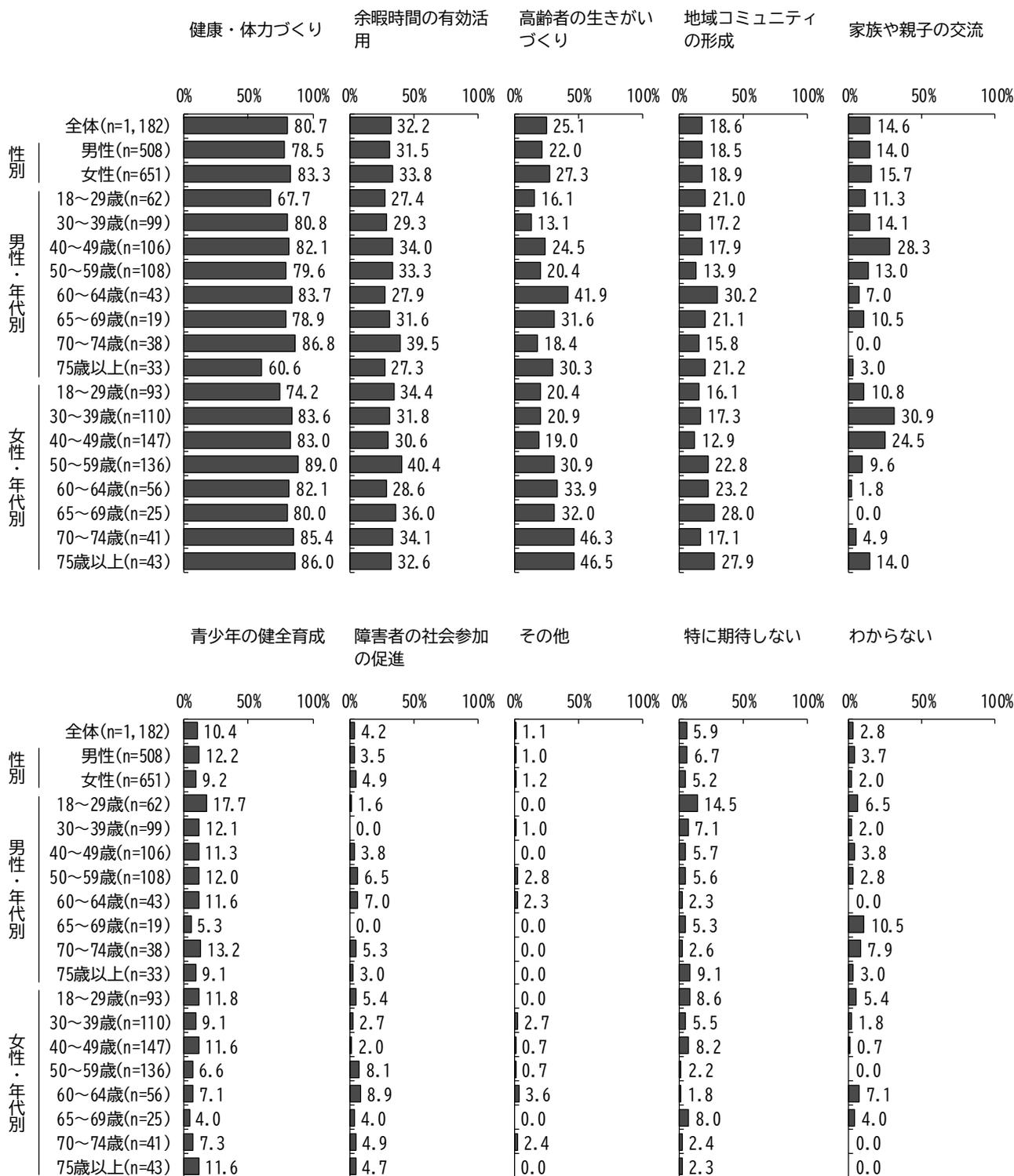
図14-2-1 地域での運動やスポーツ活動に期待する効果



地域での運動やスポーツ活動に対し、どのような効果を期待するか聞いたところ、「健康・体力づくり」(80.7%)が約8割と最も高く、次いで「余暇時間の有効活用」(32.2%)が3割強、「高齢者の生きがいづくり」(25.1%)が2割台半ばと高くなっている。(図14-2-1)

性・年代別にみると、「高齢者の生きがいづくり」は女性75歳以上(46.5%)で4割台半ばを超えと最も高くなっている。「地域コミュニティの形成」は男性60～64歳(30.2%)が約3割と最も高くなっている。(図14-2-2)

図14-2-2 地域での運動やスポーツ活動に期待する効果(性・年代別)

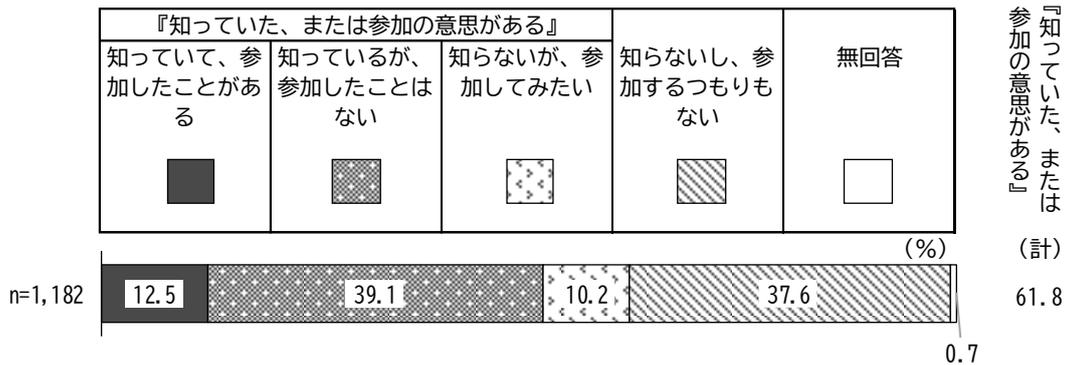


(3) 千代田区民体育大会の認知度

◇「知っているが、参加したことはない」が4割弱

問39 あなたは、千代田区民体育大会を知っていますか。(○は1つ)

図14-3-1 千代田区民体育大会の認知度

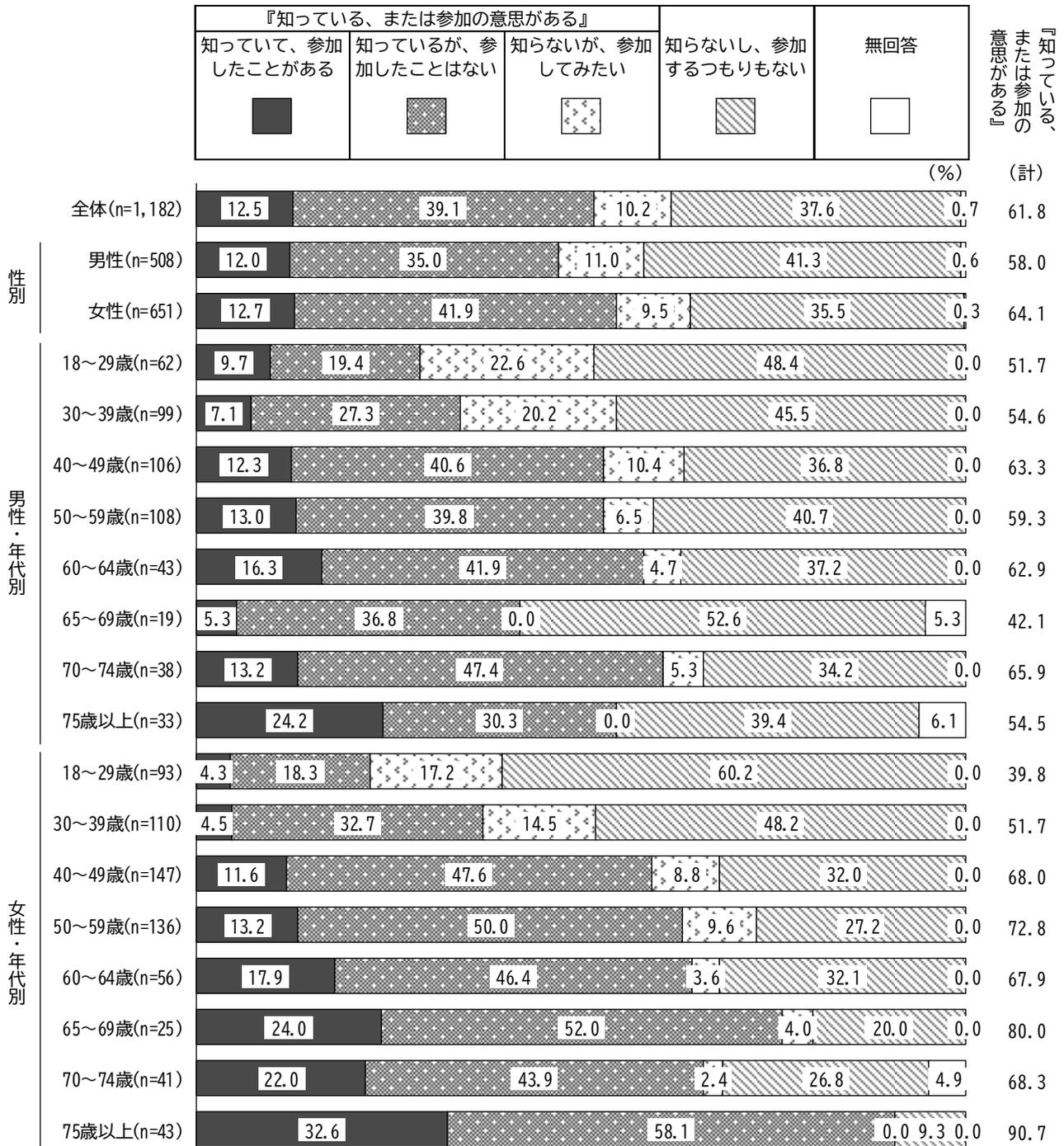


千代田区民体育大会の認知度について聞いたところ、「知っているが、参加したことはない」(39.1%)が4割弱と最も高く、これに「知っていて、参加したことがある」(12.5%)、「知らないが、参加してみたい」(10.2%)を合わせた『知っていた、または参加の意思がある』(61.8%)は6割強となっている。一方で、「知らないし、参加するつもりもない」(37.6%)が3割台半ばを超えとなっている。(図14-3-1)

性・年代別にみると、『知っている、または参加の意思がある』は女性75歳以上(90.7%)が約9割と最も高く、次いで女性65～69歳(80.0%)が8割と高くなっている。

(図14-3-2)

図14-3-2 千代田区民体育大会の認知度(性・年代別)



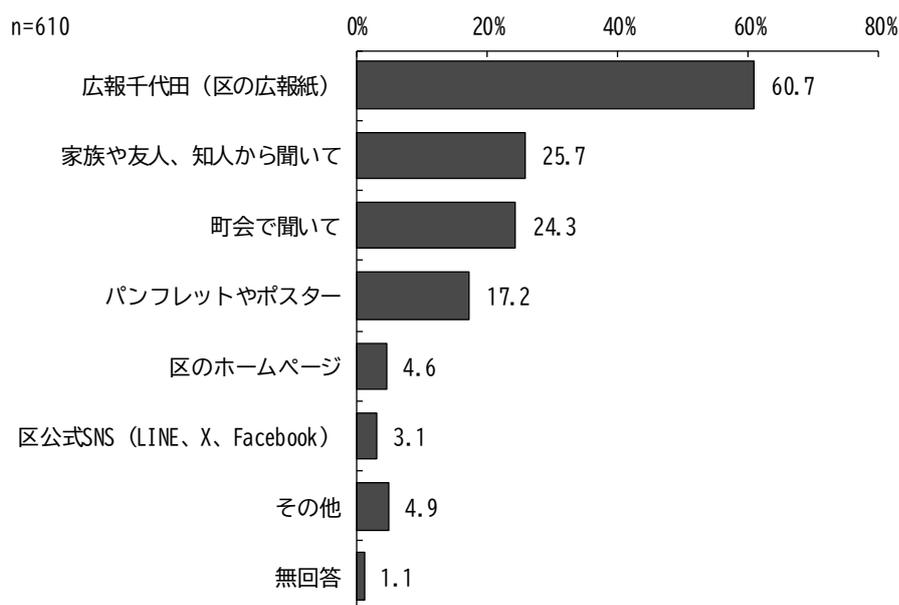
(3-1) 千代田区民体育大会を知ったきっかけ

◇「広報千代田（区の広報紙）」が約6割

問39-1 （問39で「1. 知っていて、参加したことがある」「2. 知っているが、参加したことはない」と回答の方）

あなたは、千代田区民体育大会を何で知りましたか。（○はいくつでも）

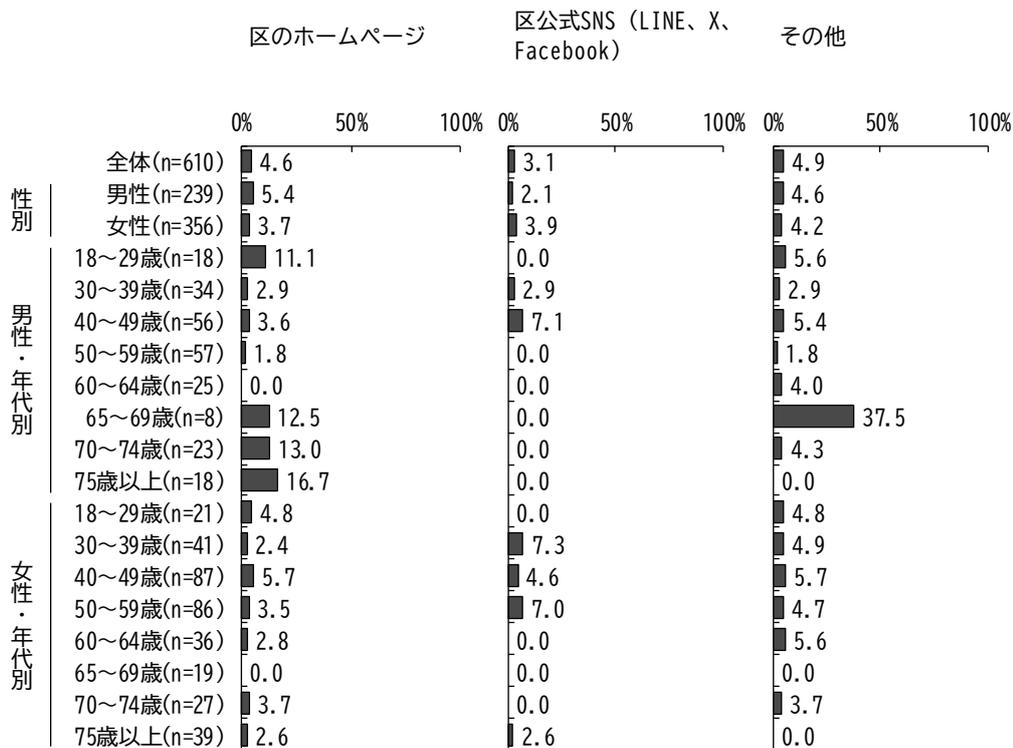
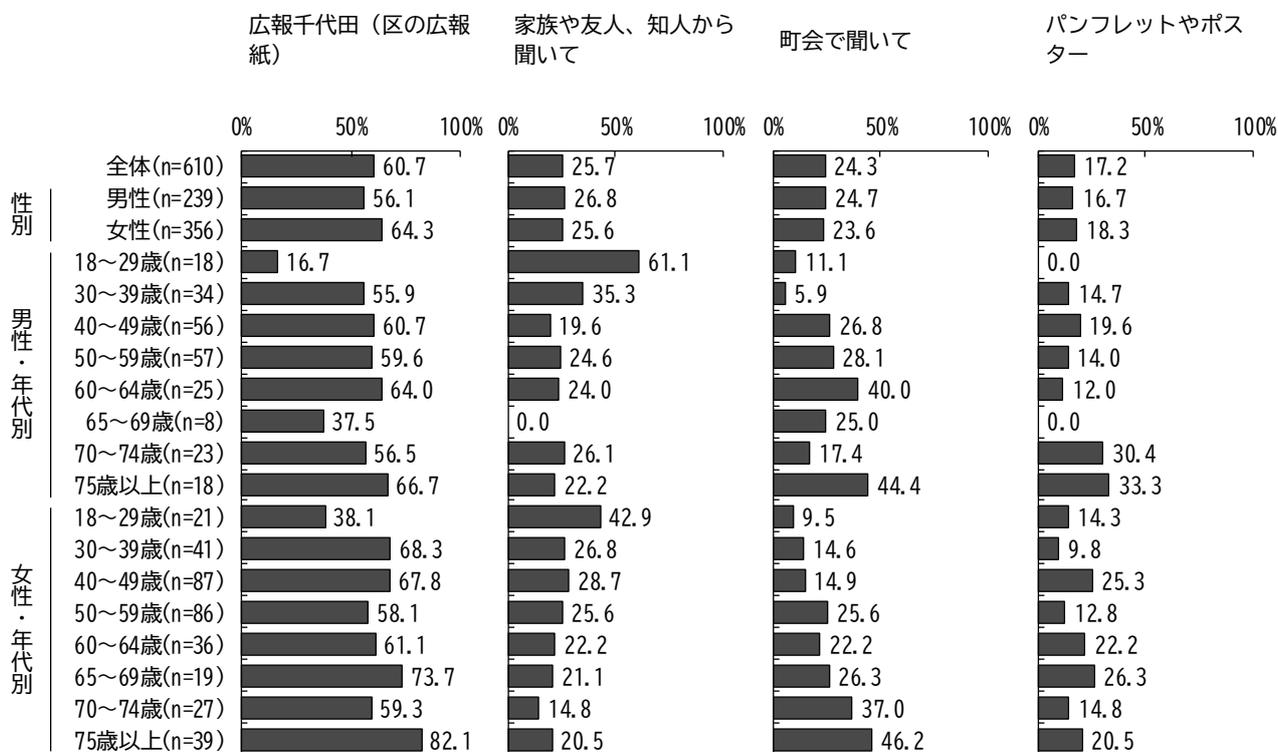
図14-3-3 千代田区民体育大会を知ったきっかけ



千代田区民体育大会を知ったきっかけについて聞いたところ、「広報千代田（区の広報紙）」（60.7%）が約6割と最も高く、次いで「家族や友人、知人から聞いて」（25.7%）が2割台半ば、「町会で聞いて」（24.3%）が2割台半ば近くと高くなっている。（図14-3-3）

性・年代別にみると、「広報千代田（区の広報紙）」は女性75歳以上(82.1%)が8割強と最も高くなっている。「家族や友人、知人から聞いて」は男性18～29歳(61.1%)が6割強と最も高くなっている。(図14-3-4)

図14-3-4 千代田区民体育大会を知ったきっかけ（性・年代別）



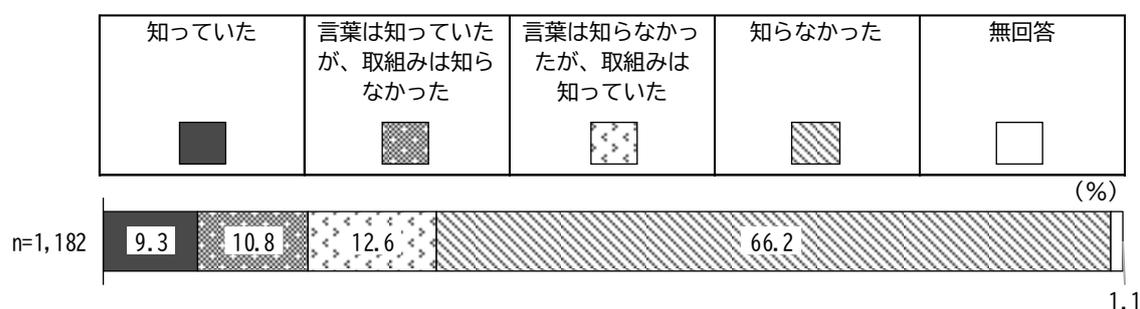
15. 気候変動適応

(1) 「適応策」という言葉やその取組みについての認知度

◇ 「知らなかった」が6割台半ば超え

問40 地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出を抑制する取組みを「緩和策」、地球温暖化により生じる影響に対処し、被害をできる限り小さくする取組みを「適応策」といいます。あなたは、この「適応策」という言葉やその取組みを知っていましたか。(〇は1つ)

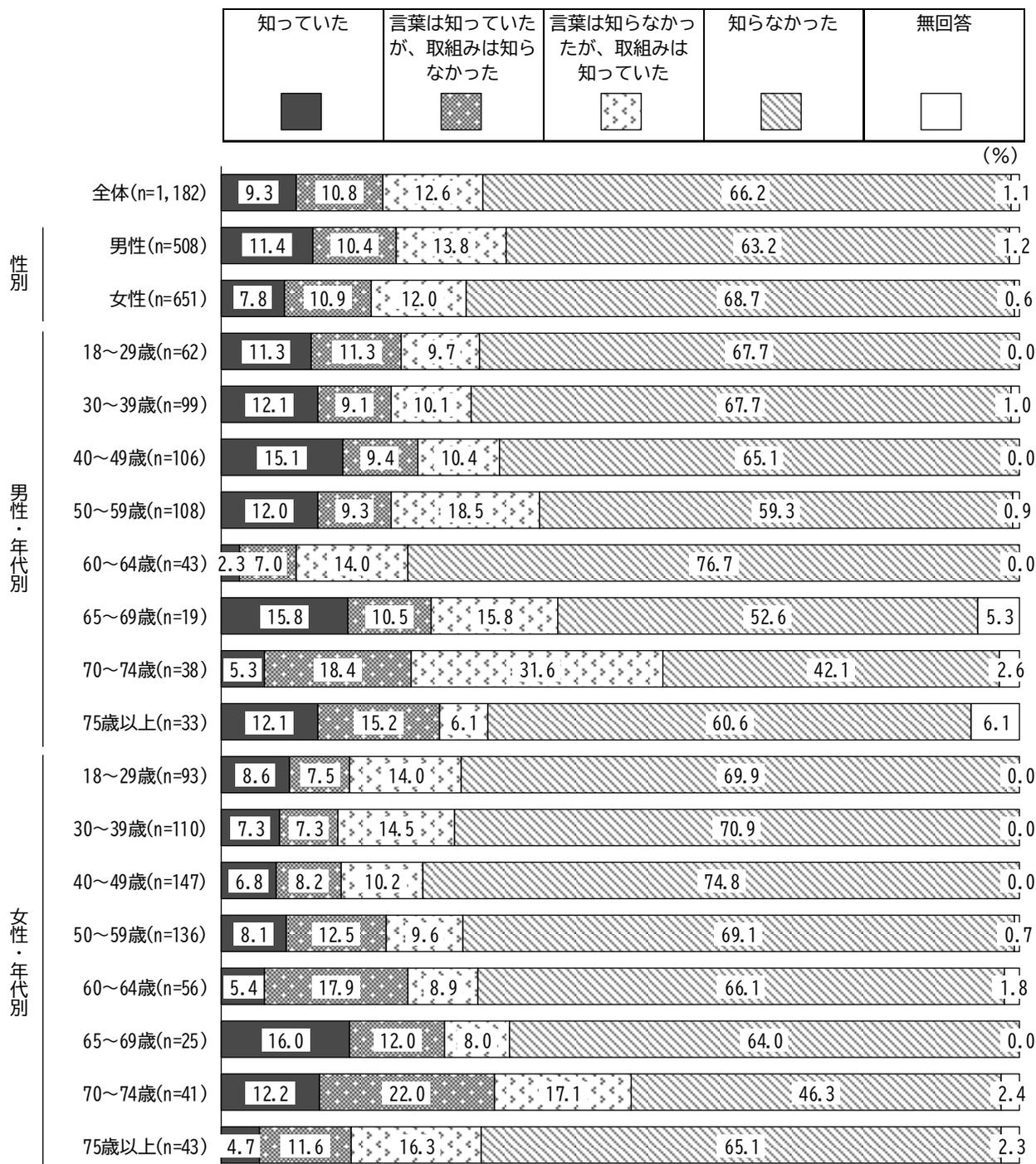
図15-1-1 適応策の認知度



適応策という言葉や取組みについて聞いたところ、「知らなかった」(66.2%)が6割台半ば超えと最も高く、「知っていた」(9.3%)が1割未満と最も低く、「言葉は知らなかったが、取組みは知っていた」(12.6%)が1割強、「言葉は知っていたが、取組みは知らなかった」(10.8%)が約1割となっている。(図15-1-1)

性・年代別にみると、「知らなかった」は男性60～64歳(76.7%)が7割台半ばを超えと最も高くなっている。(図15-1-2)

図15-1-2 適応策の認知度(性・年代別)

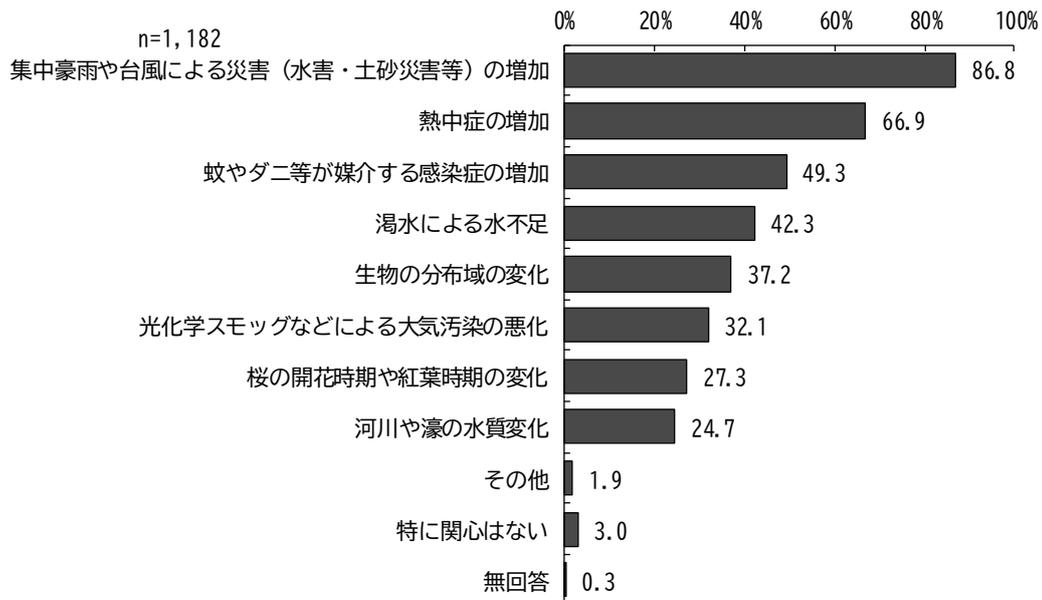


(2) 気候変動の影響への関心

◇「集中豪雨や台風による災害の増加」が8割台半ば超え

問41 気候変動の影響について、あなたはどのようなことに関心がありますか。
(○はいくつでも)

図15-2-1 気候変動の影響への関心

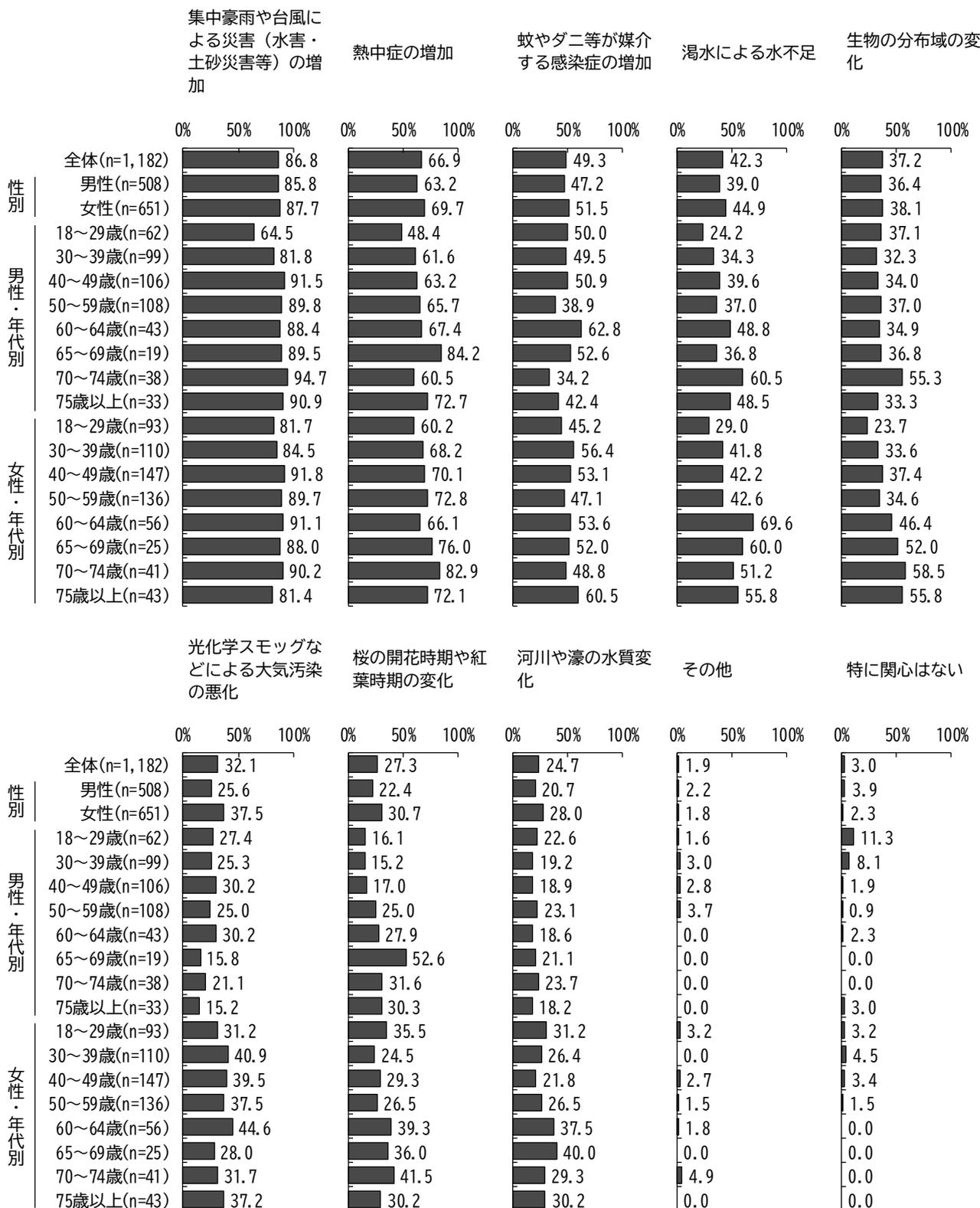


気候変動の影響について、どのようなことに関心があるか聞いたところ、「集中豪雨や台風による災害（水害・土砂災害等）の増加」（86.8%）が8割台半ば超えと最も高く、次いで「熱中症の増加」（66.9%）が6割台半ば超え、「蚊やダニ等が媒介する感染症の増加」（49.3%）が5割弱、「渇水による水不足」（42.3%）が4割強と高くなっている。

(図15-2-1)

性・年代別にみると、「集中豪雨や台風による災害（水害・土砂災害等）の増加」は男性70～74歳(94.7%)が9割台半ば近くと最も高くなっている。次いで女性40～49歳(91.8%)が9割強と高くなっている。「熱中症の増加」は男性65～69歳(84.2%)が8割台半ば近くと最も高く、次いで女性70～74歳(82.9%)が8割強と高くなっている。(図15-2-2)

図15-2-2 気候変動の影響への関心（性・年代別）

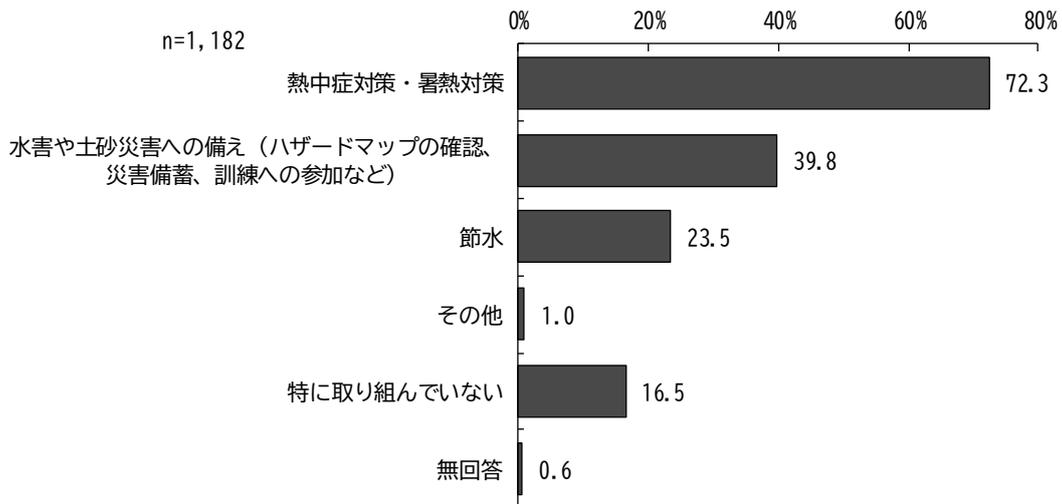


(3) 気候変更への適応策にあたる行動の取組み

◇「熱中症対策・暑熱対策」が7割強

問42 あなたは、気候変動への「適応策」にあたる行動で取り組んでいるものはありますか。(〇はいくつでも)

図15-3-1 気候変更への適応策にあたる行動の取組み



気候変動の適応策にあたる行動で取り組んでいるものを聞いたところ、「熱中症対策・暑熱対策」(72.3%)が7割強と最も高くなっている。次いで「水害や土砂災害への備え(ハザードマップの確認、災害備蓄、訓練への参加など)」が(39.8%)と4割弱であった。

(図15-3-1)

I

調査の概要

II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

IV

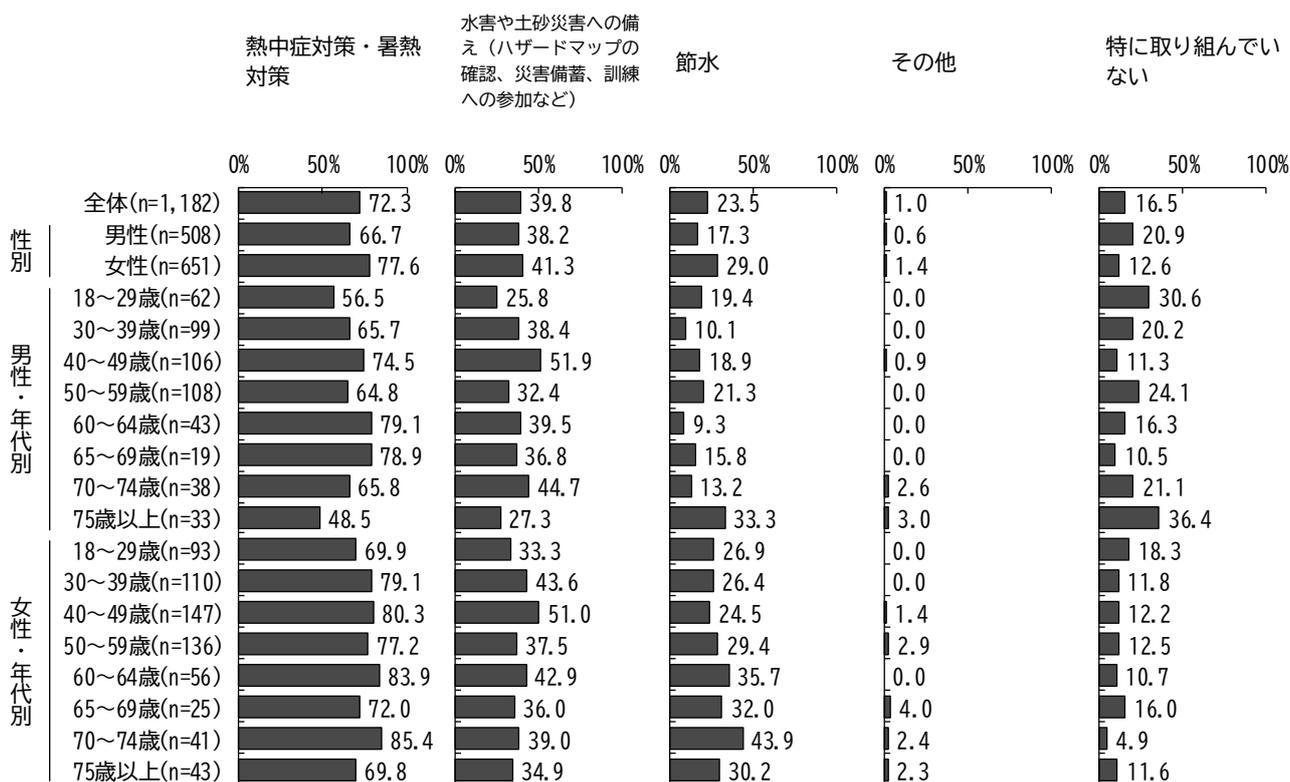
調査結果の数表

V

調査票

性・年代別にみると、「熱中症対策・暑熱対策」は女性70～74歳(85.4%)が8割台半ばと最も高くなっている。「水害や土砂災害への備え(ハザードマップの確認、災害備蓄、訓練への参加など)」は男性40～49歳(51.9%)と女性40～49歳(51.0%)が5割強と高くなっている。(図15-3-2)

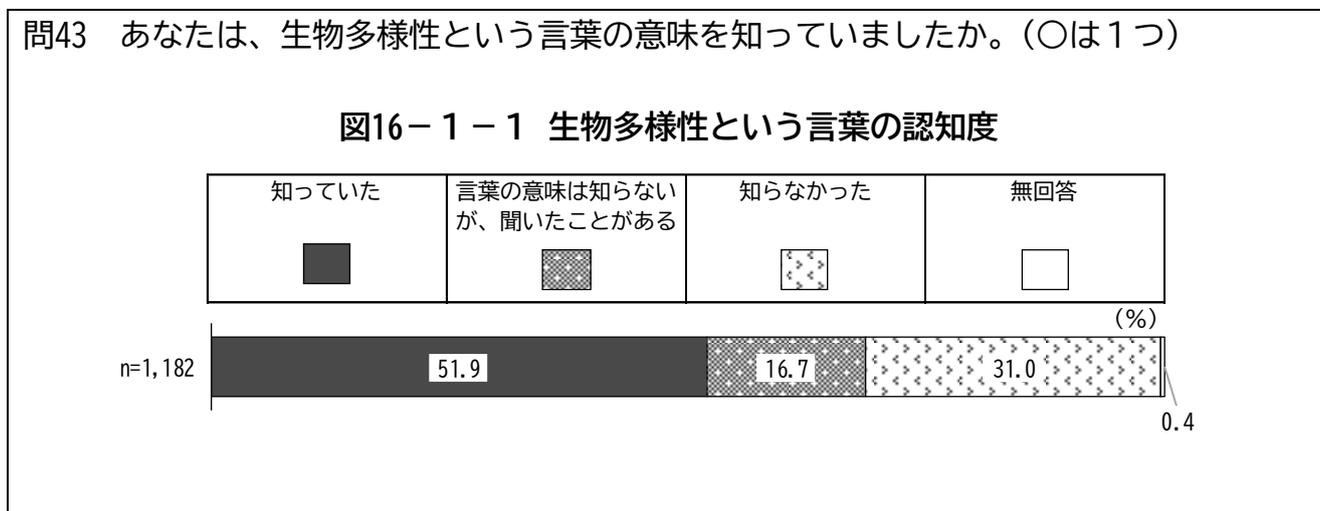
図15-3-2 気候変更への「適応策」にあたる行動の取組み(性・年代別)



16. 生物多様性

(1) 生物多様性という言葉の認知度

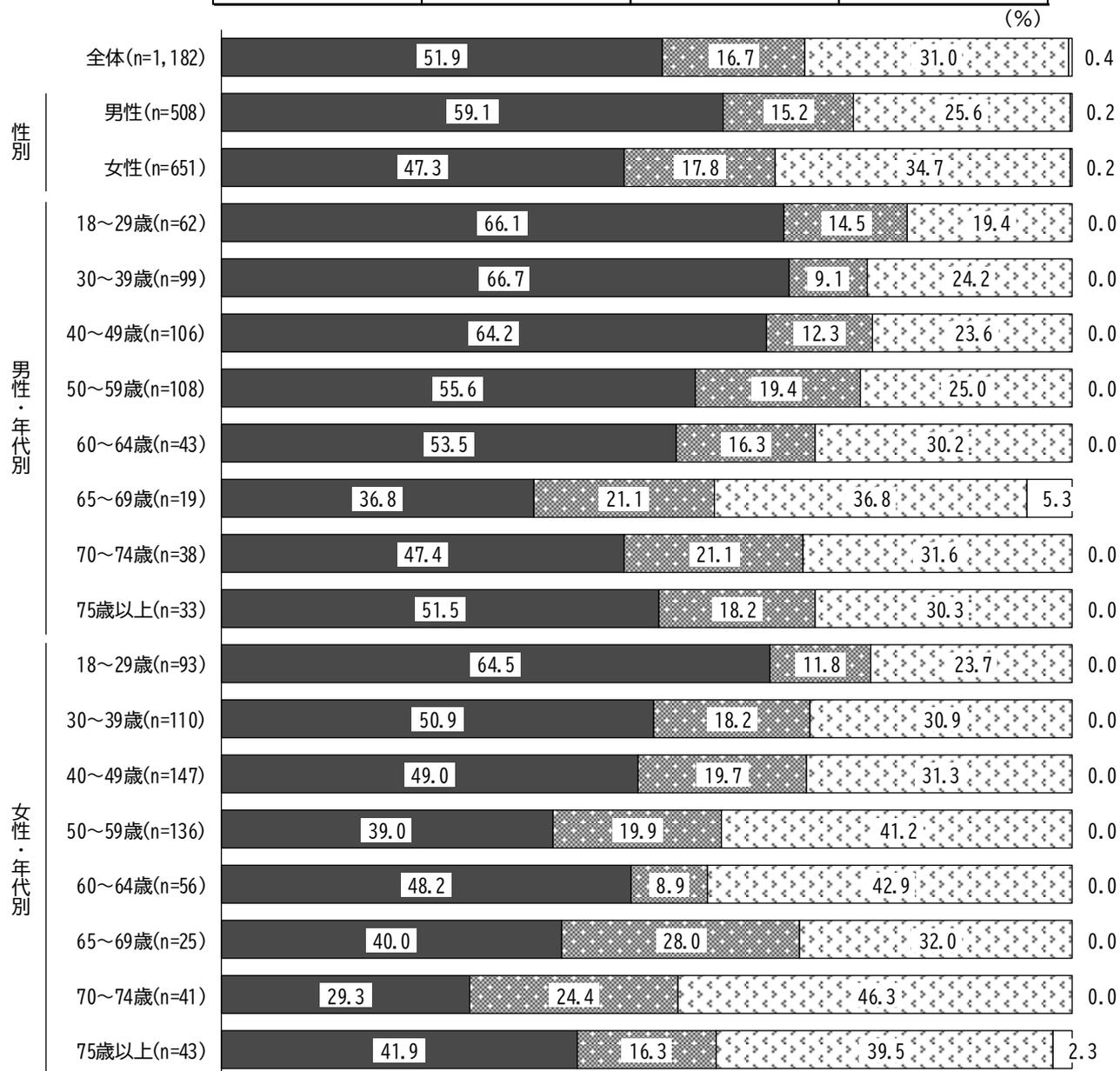
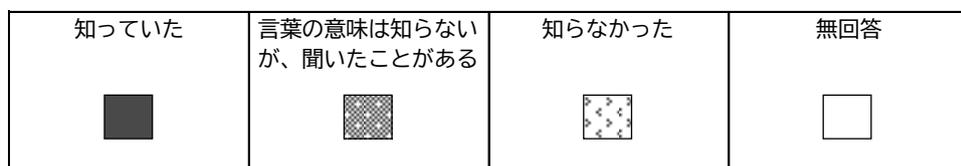
◇「知っていた」が5割強



生物多様性という言葉の意味を聞いたところ、「知っていた」(51.9%)が5割強と最も高く、「知らなかった」(31.0%)が3割強、「言葉の意味は知らないが、聞いたことがある」(16.7%)が1割台半ばを超えてあった。(図16-1-1)

性・年代別にみると、「知っていた」は男性30～39歳(66.7%)が6割台半ばを超えと最も高くなっている。(図16-1-2)

図16-1-2 生物多様性という言葉の認知度(性・年代別)

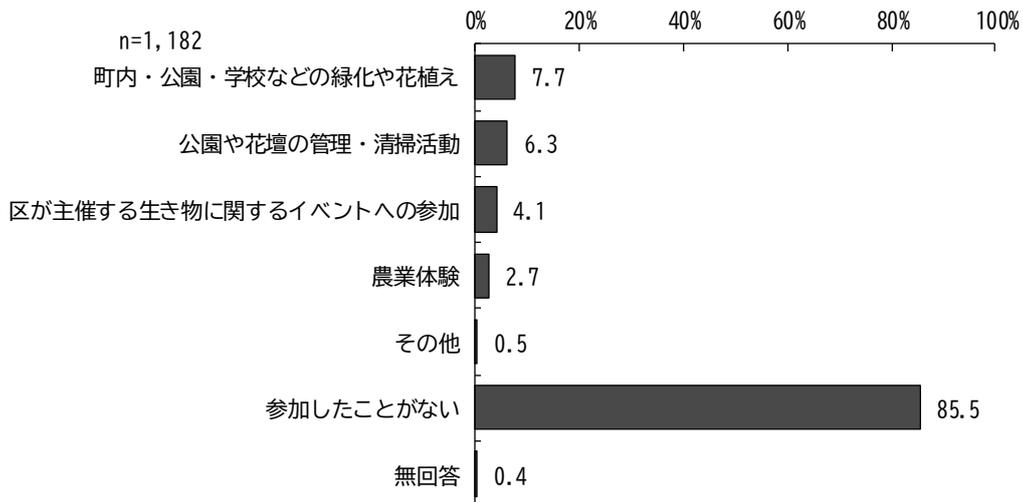


(2) 生物多様性の保全活動等への参加経験

◇「参加したことがない」が8割台半ば

問44 あなたは、区内の緑地の維持管理活動や生物多様性の保全活動に参加したことがありますか。(〇はいくつでも)

図16-2-1 生物多様性の保全活動等への参加経験



生物多様性の保全活動等への参加経験について聞いたところ、「参加したことがない」(85.5%)が8割台半ばで最も高く、参加した中では「町内・公園・学校などの緑化や花植え」(7.7%)が1割未満と最も高かった。(図16-2-1)

I
調査の概要

II
調査結果の要約

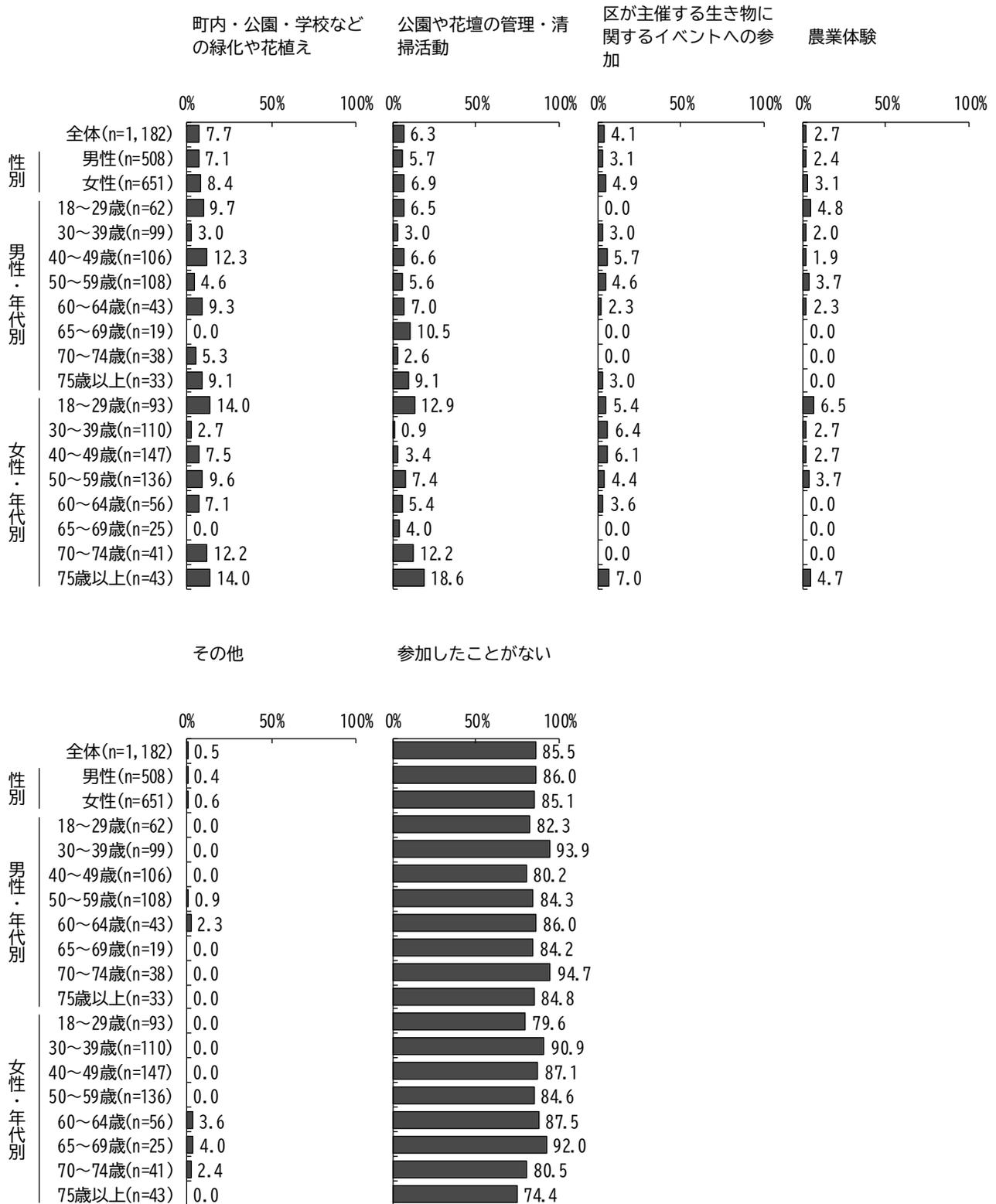
III
調査結果の分析

IV
調査結果の数表

V
調査票

性・年代別にみると、「町内・公園・学校などの緑化や花植え」は女性18～29歳(14.0%)と女性75歳以上(14.0%)が1割台半ば近くと最も高くなっている。「参加したことがない」は男性70～74歳(94.7%)が9割台半ば近くと最も高く、次いで男性30～39歳(93.9%)が9割台半ば近くと高くなっている。(図16-2-2)

図16-2-2 生物多様性の保全活動等への参加経験(性・年代別)

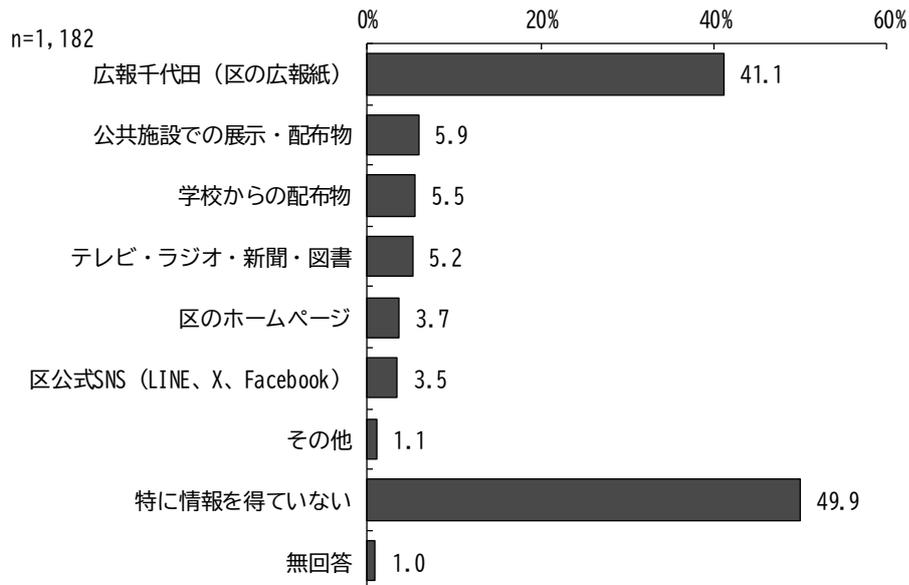


(3) 区内の生物多様性に関する情報の取得媒体

◇「特に情報を得ていない」が5割弱

問45 あなたは、区内の生物多様性に関する情報（生きもの、環境イベント、取組み、活動など）は主に何で知りますか。（○はいくつでも）

図16-3-1 区内の生物多様性に関する情報の取得媒体



区内の生物多様性に関する情報（生きもの、環境イベント、取組み、活動など）は主に何で知ったのか聞いたところ、「特に関情報を得ていない」（49.9%）が5割弱と最も高く、具体的な情報源の中では、「広報千代田（区の情報紙）」（41.1%）が4割強と最も高くなっている。（図16-3-1）

I

調査の概要

II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

IV

調査結果の数表

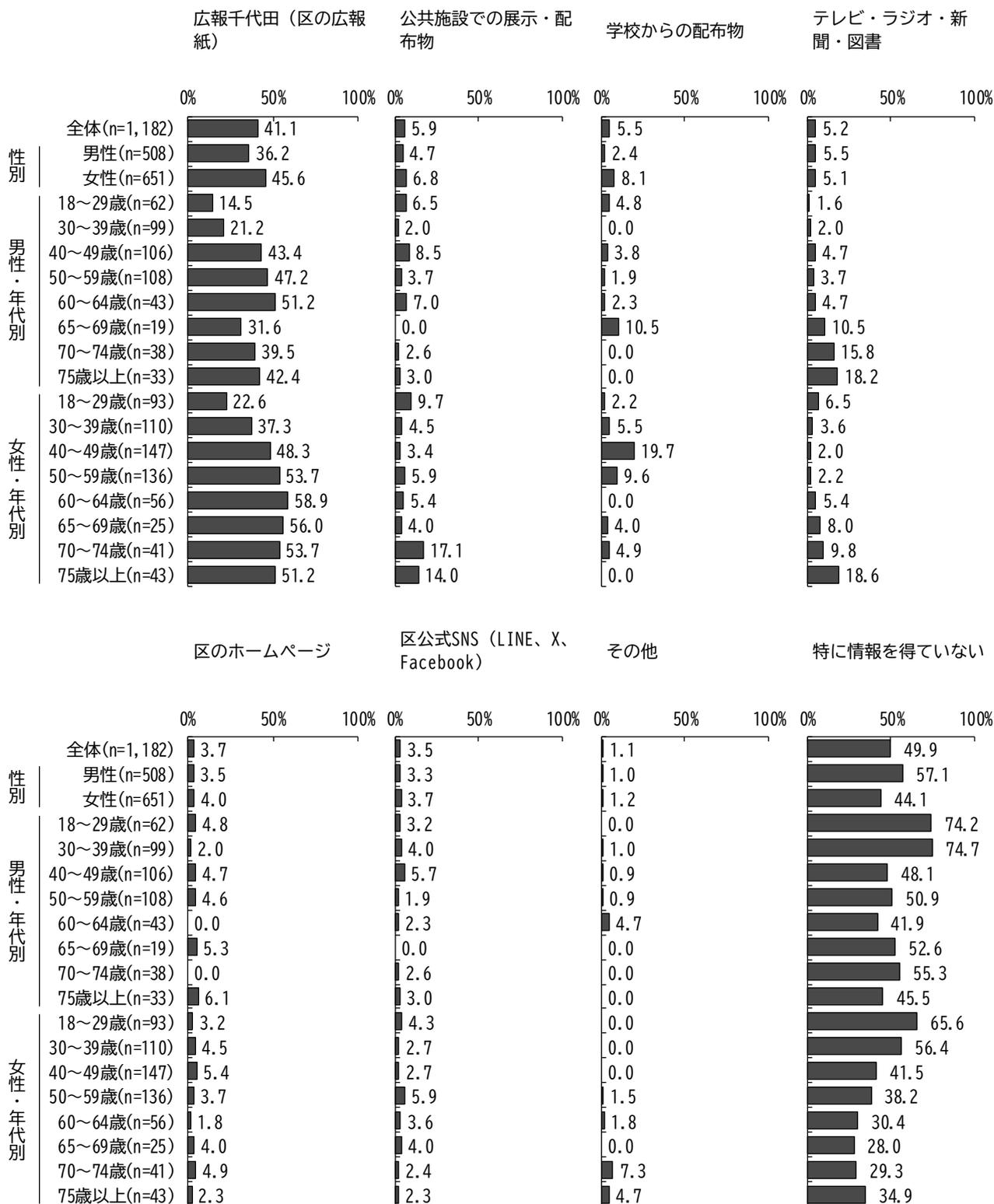
V

調査票

性・年代別にみると、「広報千代田（区の広報紙）」は、女性60～64歳(58.9%)が6割近くと最も高く、次いで女性65～69歳(56.0%)が5割台半ばを超えと高くなっている。「特に情報を得ていない」は男性30～39歳(74.7%)が7割台半ば近くと最も高くなっている。

(図16-3-2)

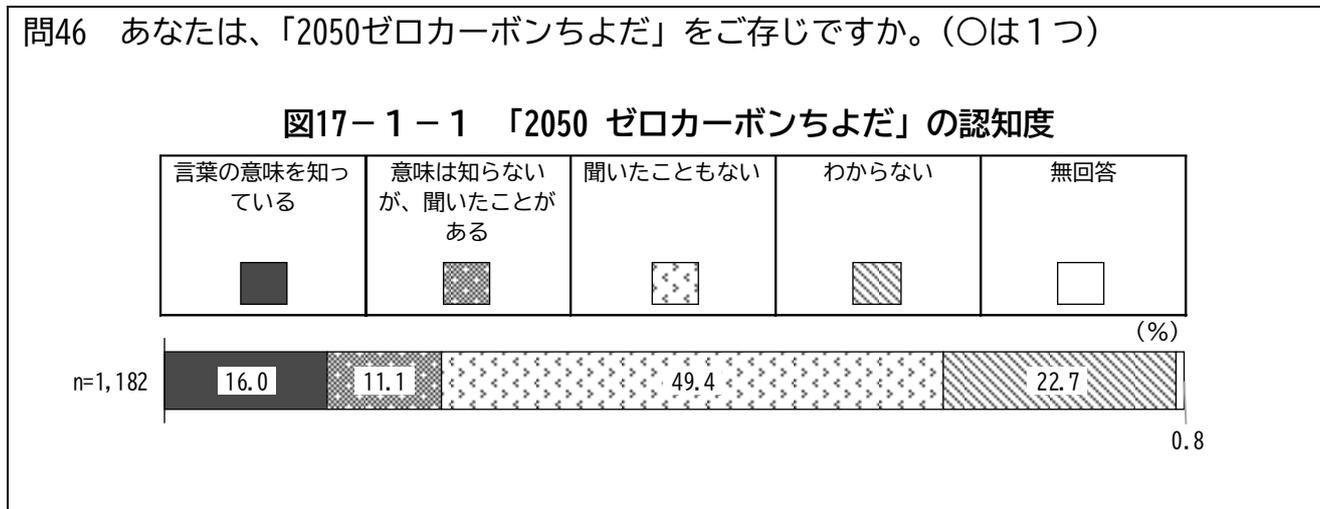
図16-3-2 区内の生物多様性に関する情報の取得媒体（性・年代別）



17. 2050 ゼロカーボンちよだに向けた取組み

(1) 「2050 ゼロカーボンちよだ」の認知度

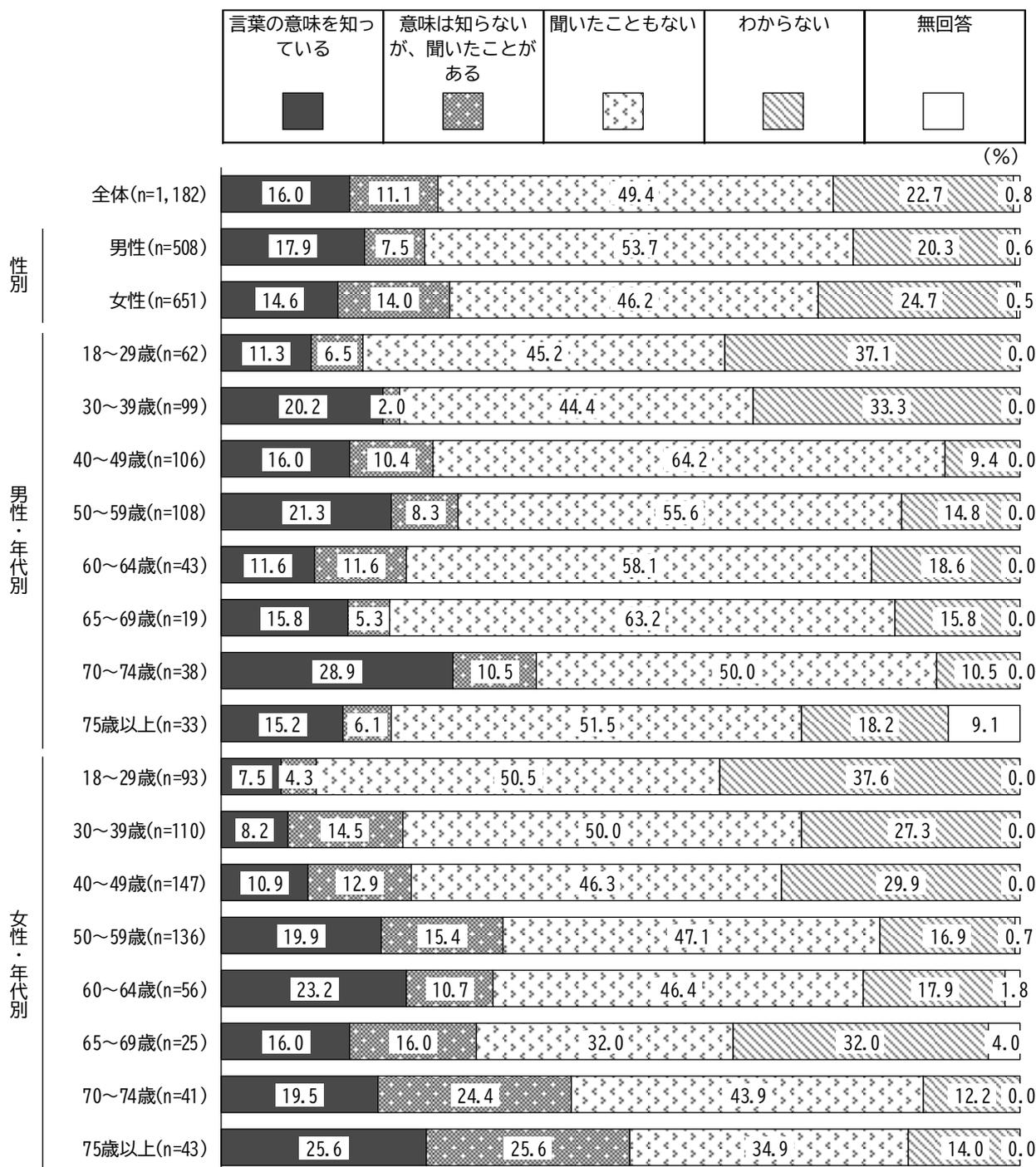
◇ 「聞いたこともない」が5割弱



「2050 ゼロカーボンちよだ」の認知度について聞いたところ、「聞いたこともない」(49.4%)が5割弱と最も高く、次いで「わからない」(22.7%)が2割強と高くなっている。
(図17-1-1)

性・年代別にみると、「言葉の意味を知っている」は男性70～74歳(28.9%)で3割近くと最も高くなっている。(図17-1-2)

図17-1-2 「2050 ゼロカーボンちよだ」の認知度(性・年代別)

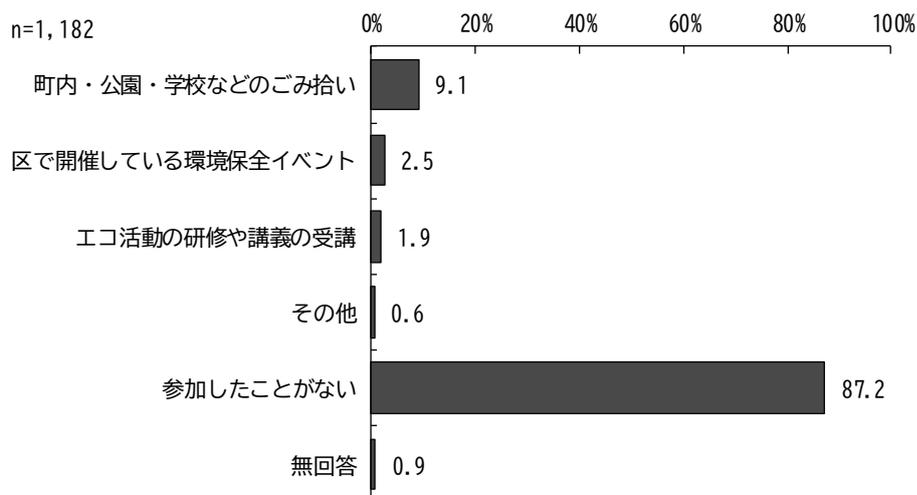


(2) 環境保全イベントや活動への参加経験

◇「参加したことがない」が8割台半ば超え

問47 区では、脱炭素社会の実現を促進するための取組みを推進しています。
あなたは、どのような環境保全イベントや活動に参加したことがありますか。
(〇はいくつでも)

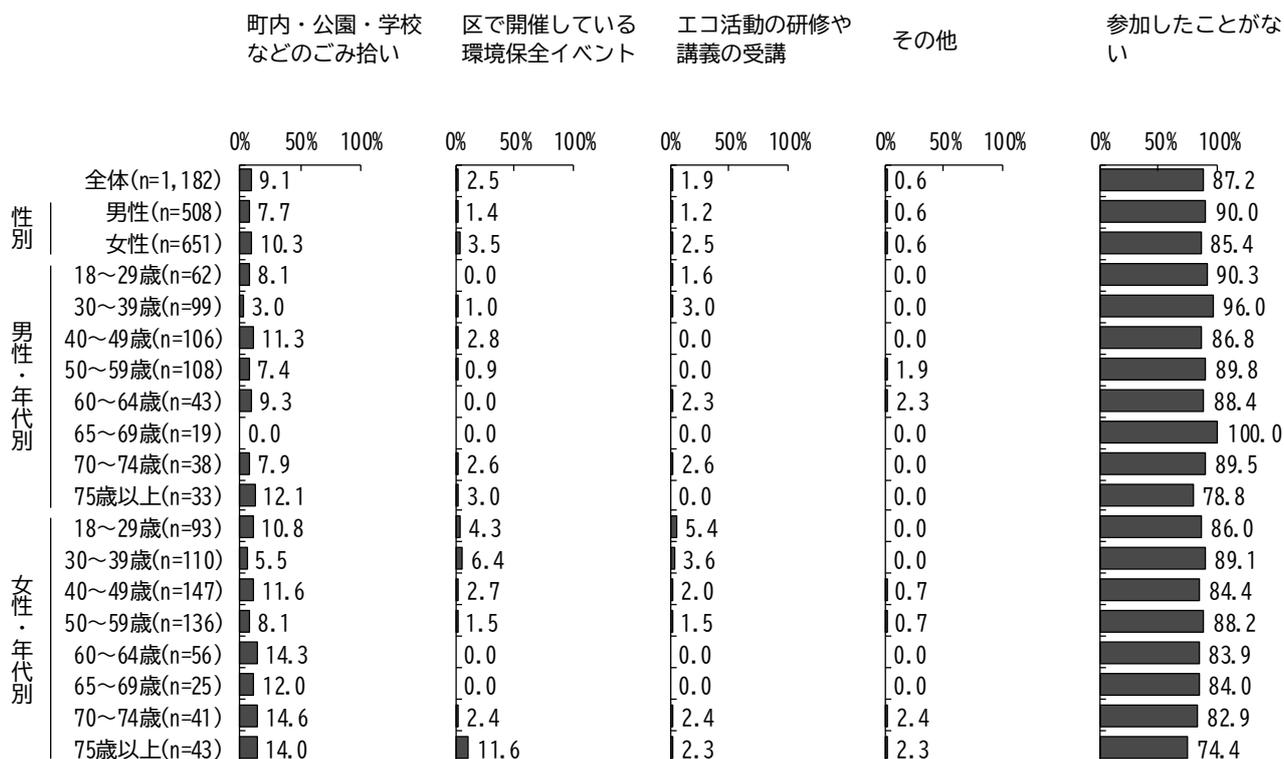
図17-2-1 環境保全イベントや活動への参加経験



環境保全イベントや活動への参加経験について聞いたところ、「参加したことがない」(87.2%)が8割台半ば超えと最も高く、具体的なイベントや活動の中では「町内・公園・学校などのごみ拾い」(9.1%)が1割弱と高くなっている。(図17-2-1)

性・年代別にみると、「町内・公園・学校などのごみ拾い」は女性70～74歳(14.6%)が1割台半ば近くと最も高くなっている。「区で開催している環境保全イベント」は女性75歳以上(11.6%)が1割強と最も高くなっている。一方で、「参加したことがない」は男性65～69歳(100.0%)が10割と最も高くなっている。(図17-2-2)

図17-2-2 環境保全イベントや活動への参加経験(性・年代別)

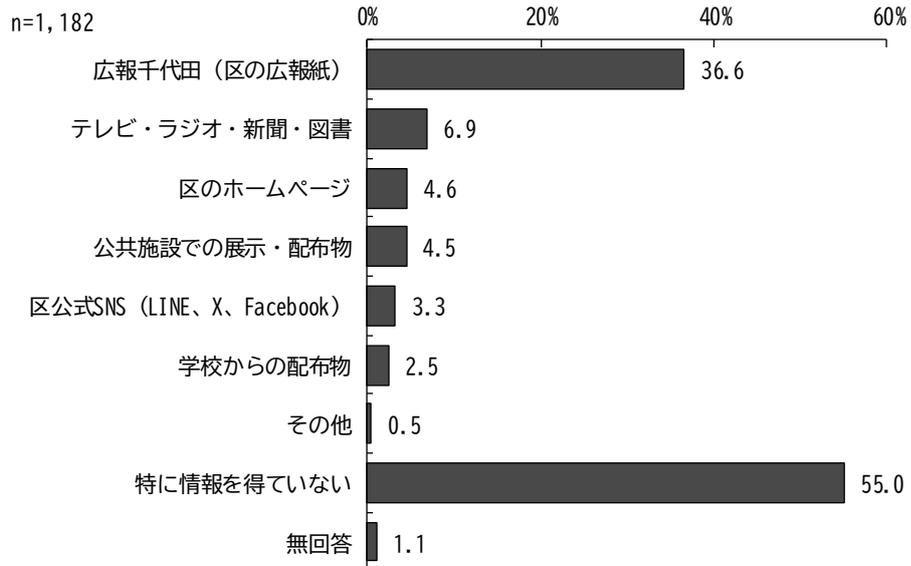


(3) 区内の温暖化対策や脱炭素に関する情報の取得媒体

◇「特に情報を得ていない」が5割台半ば

問48 あなたは、区内の温暖化対策や脱炭素に関する情報を主に何で知りますか。
(○はいくつでも)

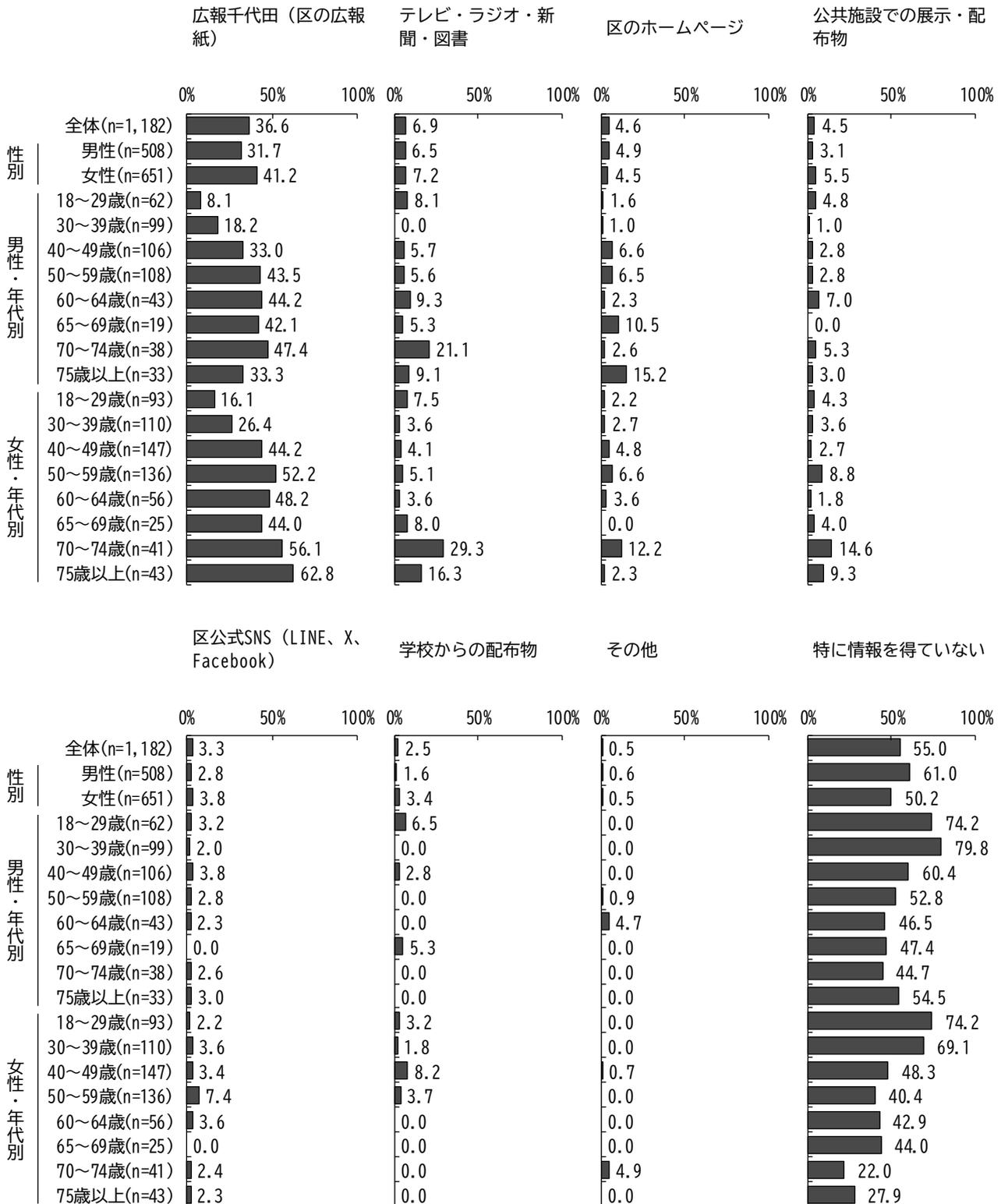
図17-3-1 区内の温暖化対策や脱炭素に関する情報の取得媒体



区内の温暖化対策や脱炭素に関する情報を主に何で知ったか聞いたところ、「特に情報を得ていない」(55.0%)が5割台半ばと最も高く、次いで「広報千代田 (区の広報紙)」(36.6%)が3割台半ばを超えと高くなっている。(図17-3-1)

性・年代別にみると、「広報千代田（区の広報紙）」は女性75歳以上(62.8%)が6割強と最も高くなっている。「テレビ・ラジオ・新聞・図書」は女性70～74歳(29.3%)が3割弱と最も高くなっている。一方で、「特に情報を得ていない」は男性30～39歳(79.8%)が8割弱と最も高くなっている。(図17-3-2)

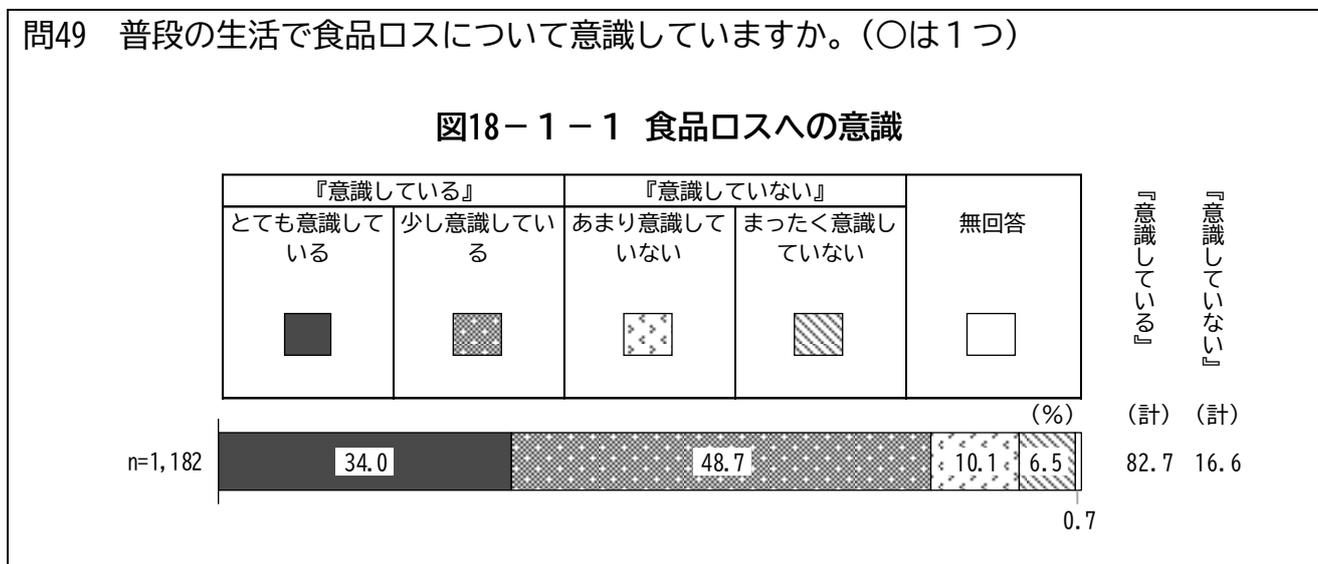
図17-3-2 区内の温暖化対策や脱炭素に関する情報の取得媒体（性・年代別）



18. 食品ロス削減

(1) 食品ロスへの意識

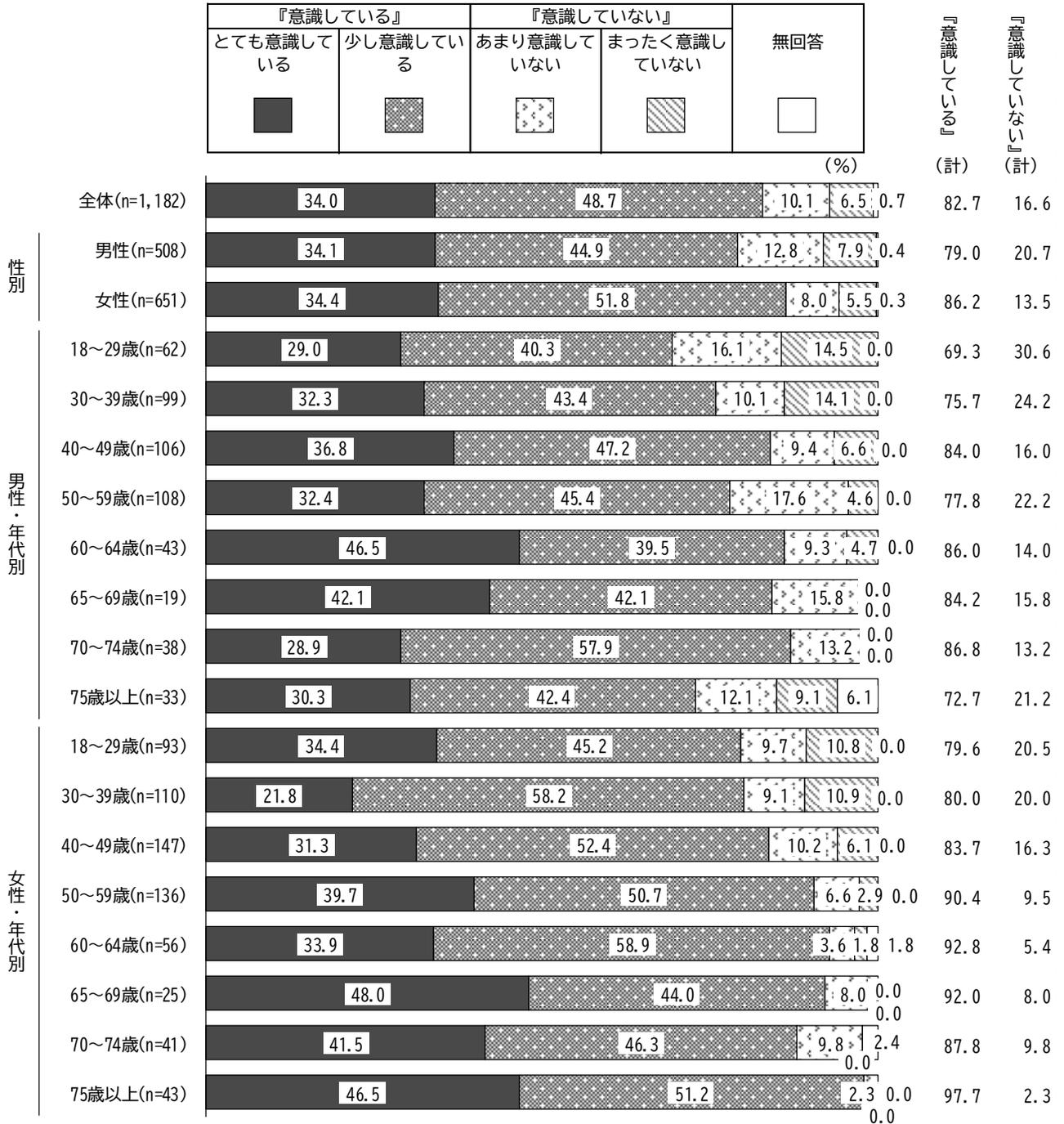
◇「少し意識している」が5割近く



普段の生活で食品ロスについて意識しているか聞いたところ、「少し意識している」(48.7%)が5割近くと最も高く、次いで「とても意識している」(34.0%)が3割台半ば近くと高くなっている。(図18-1-1)

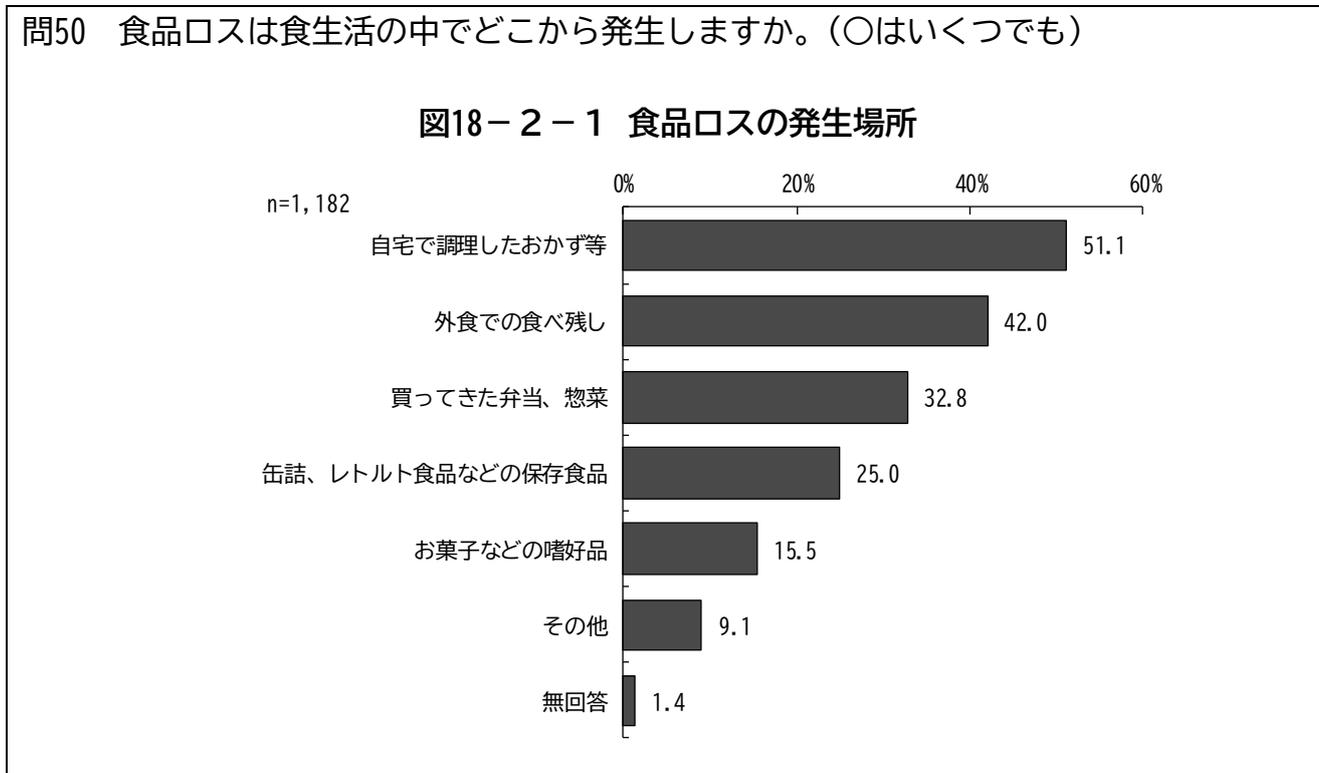
性・年代別にみると、食品ロスを「とても意識している」と「少し意識している」を合わせた『意識している』は女性75歳以上(97.7%)が9割台半ばを超えと最も高くなっている。(図18-1-2)

図18-1-2 食品ロスへの意識 (性・年代別)



(2) 食品ロスの発生場所

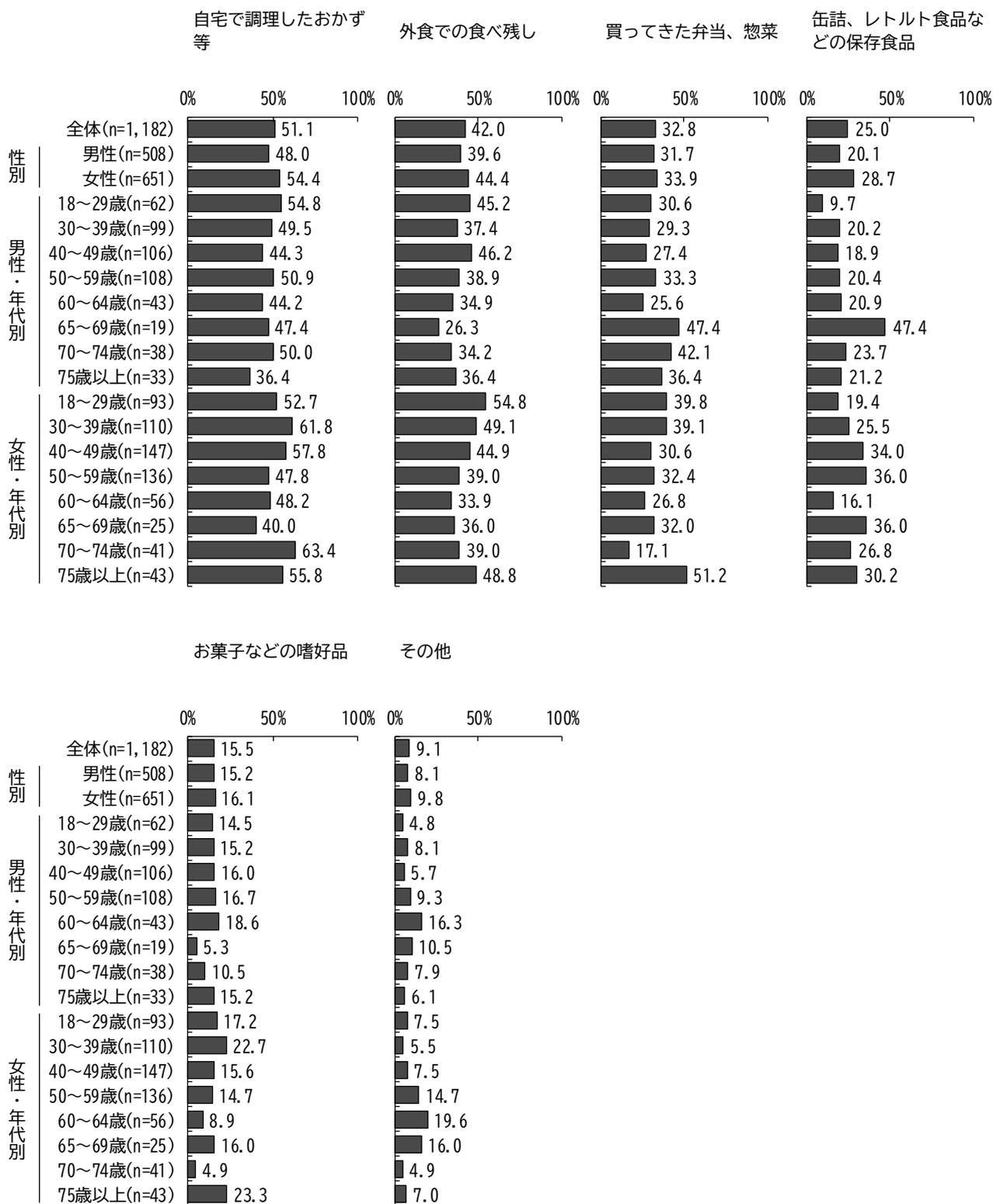
◇「自宅で調理したおかず等」が5割強



食品ロスの発生場所について聞いたところ、「自宅で調理したおかず等」(51.1%)が5割強と最も高く、次いで「外食での食べ残し」(42.0%)が4割強、「買ってきた弁当、惣菜」(32.8%)が3割強となっている。(図18-2-1)

性・年代別にみると、「自宅で調理したおかず等」は女性70～74歳(63.4%)が6割台半ば近くと最も高く、「外食での食べ残し」は女性18～29歳(54.8%)が5割台半ば近くと最も高くなっている。(図18-2-2)

図18-2-2 食品ロスの発生場所（性・年代別）

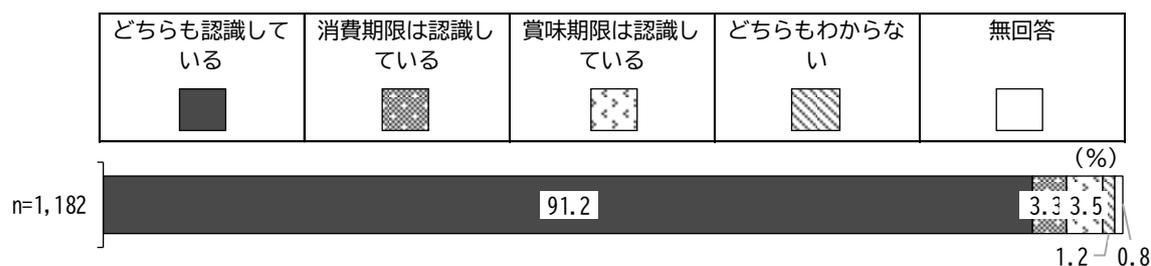


(3) 消費期限と賞味期限の違いの認識

◇「どちらも認識している」が9割強

問51 消費期限は安全に食べられる期限で、賞味期限はおいしさなどの品質が保たれる期限です。この違いを認識していましたか。(○は1つ)

図18-3-1 消費期限と賞味期限の違いの認識

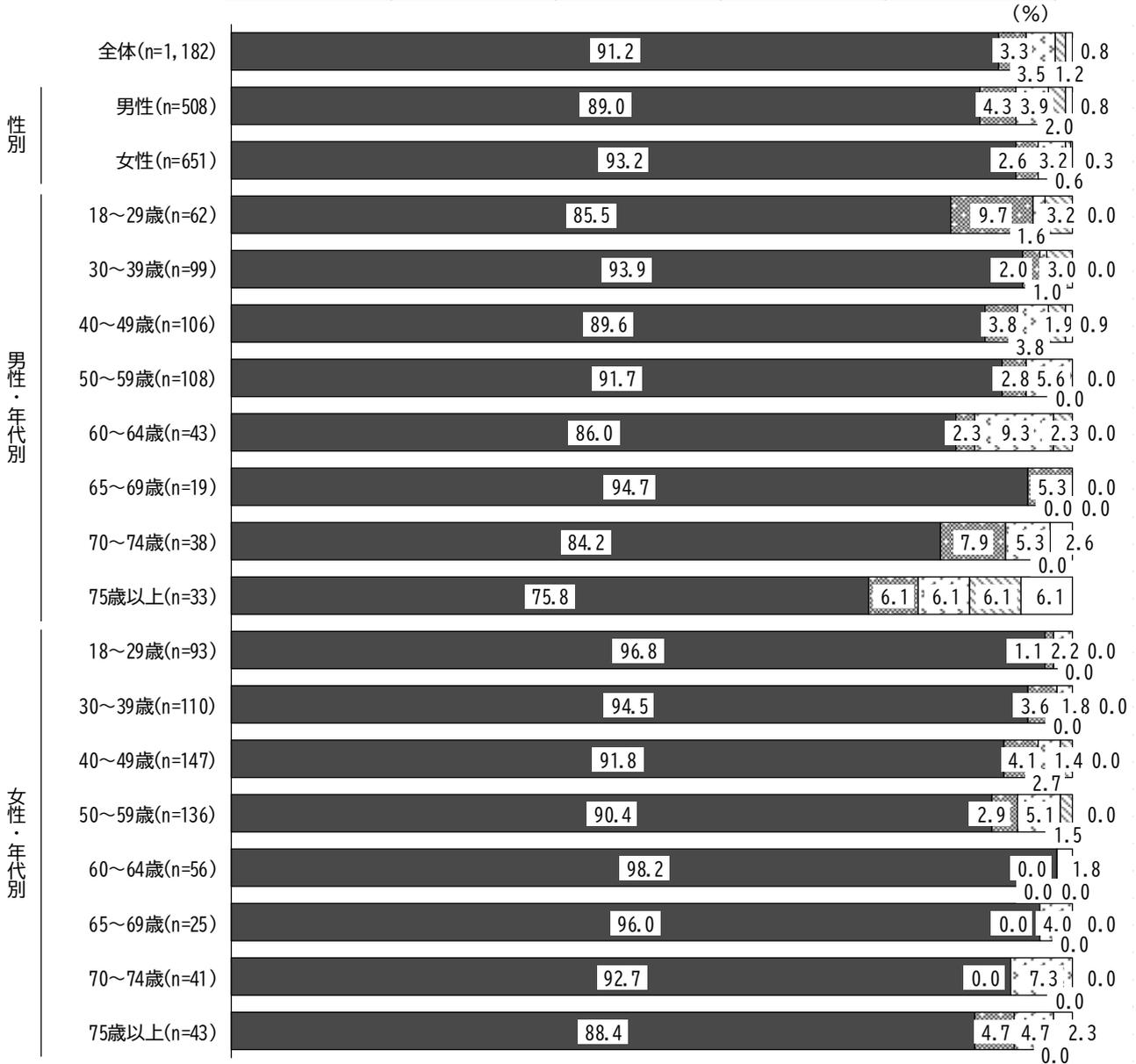
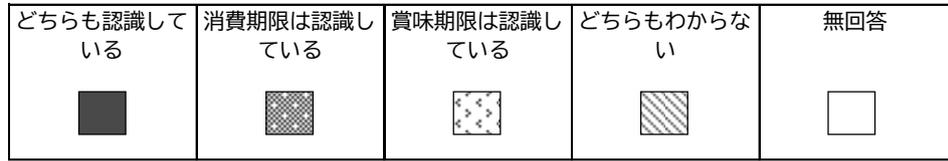


消費期限と賞味期限の違いの認識について聞いたところ、「どちらも認識している」(91.2%)が9割強と高く、「消費期限は認識している」(3.3%)、「賞味期限は認識している」(3.5%)、「どちらもわからない」(1.2%)は1割未満となっている。(図18-3-1)

性・年代別にみると、「どちらも認識している」は女性60～64歳(98.2%)が10割近くと最も高くおり、次いで女性18～29歳(96.8%)が9割台半ばを超えと高くなっている。

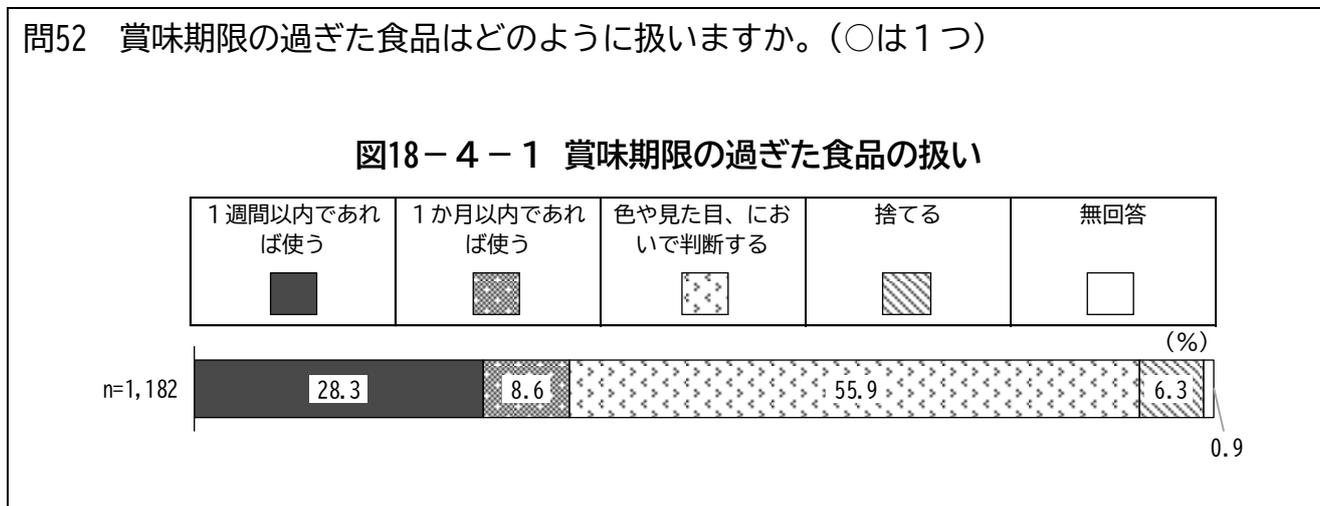
(図18-3-2)

図18-3-2 消費期限と賞味期限の違いの認識 (性・年代別)



(4) 賞味期限の過ぎた食品の扱い

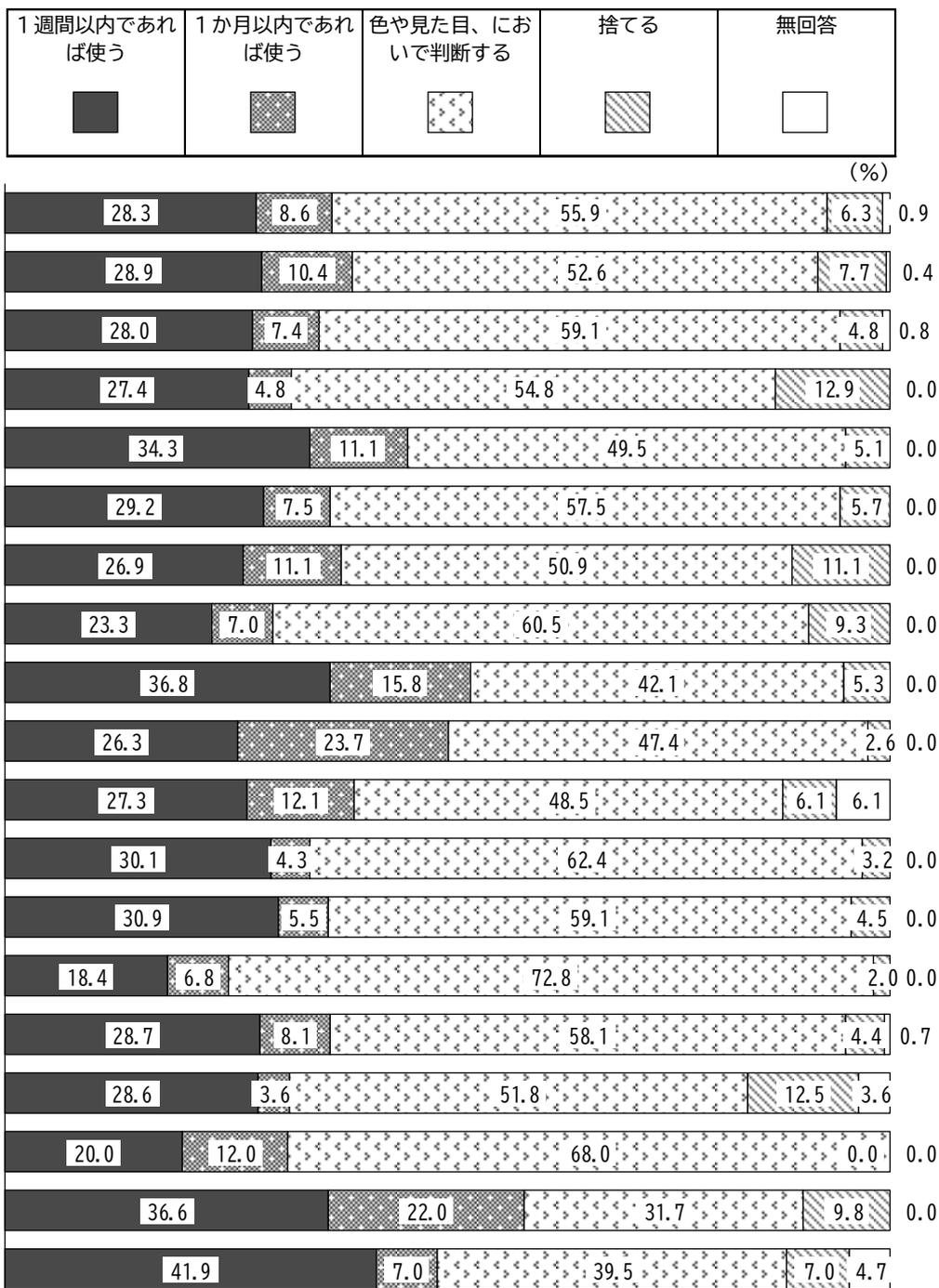
◇「色や見た目、において判断する」が5割台半ば



賞味期限切れの食品の扱いについて聞いたところ、「色や見た目、において判断する」(55.9%)が5割台半ばと最も高く、次いで「1週間以内であれば使う」(28.3%)が3割近くと高くなっている。(図18-4-1)

性・年代別にみると、「1週間以内であれば使う」は女性75歳以上(41.9%)が4割強と最も高くなっている。また、「色や見た目、において判断する」は女性40～49歳(72.8%)が7割強と最も高くなっている。(図18-4-2)

図18-4-2 賞味期限の過ぎた食品の扱い (性・年代別)

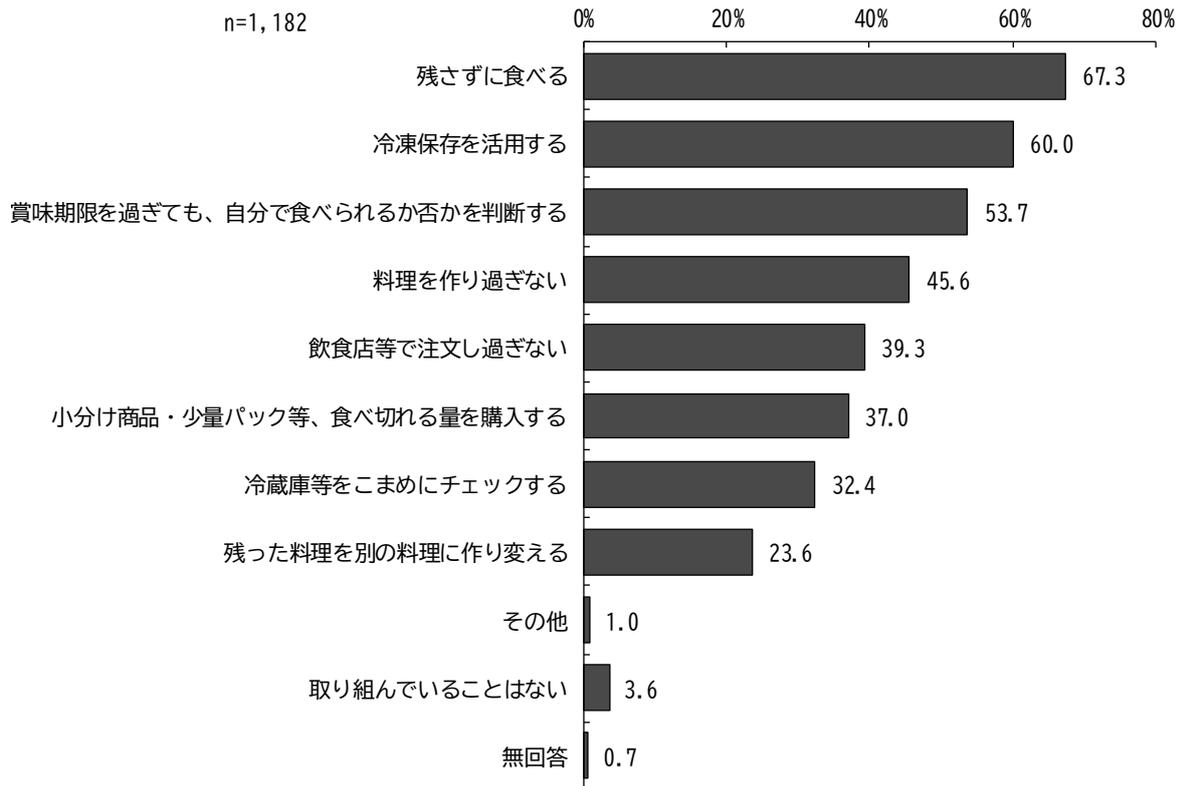


(5) 食品ロスを出さないために実践している取組み

◇「残さずに食べる」が6割台半ば超え

問53 普段の生活の中で、食品ロスを出さない取組みを実践していますか。
(○はいくつでも)

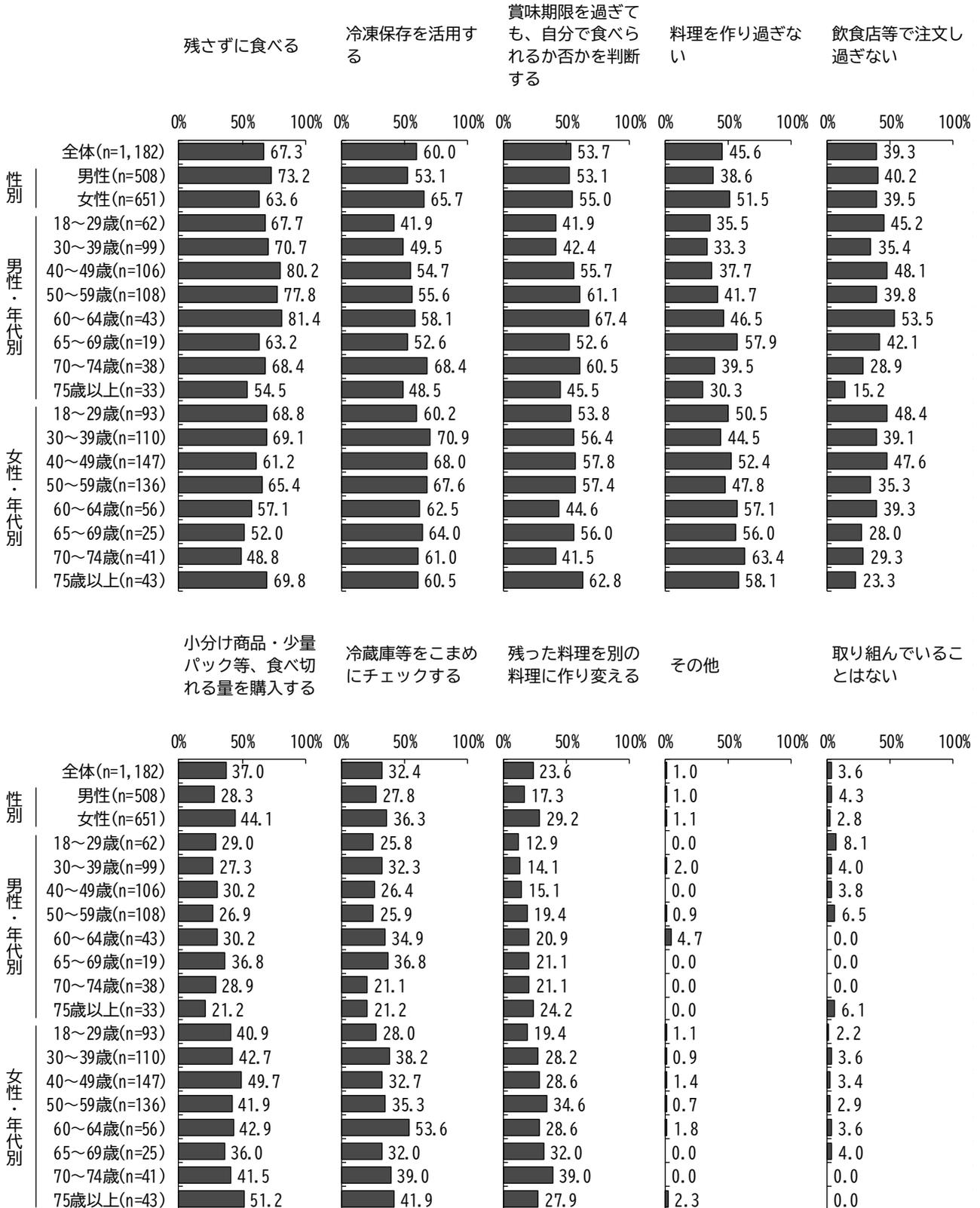
図18-5-1 食品ロスを出さないために実践している取組み



普段の生活の中で、食品ロスを出さないために実践している取組みについて聞いたところ、「残さずに食べる」(67.3%)が6割台半ば超えと最も高く、「冷凍保存を活用する」(60.0%)が6割、「賞味期限を過ぎても、自分で食べられるか否かを判断する」(53.7%)が5割台半ば近くとなっている。(図18-5-1)

性・年代別にみると、「残さずに食べる」は男性60～64歳(81.4%)が8割強と最も高くなっている。「冷凍保存を活用する」は女性30～39歳(70.9%)が約7割と最も高くなっている。(図18-5-2)

図18-5-2 食品ロスを出さないために実践している取組み(性・年代別)

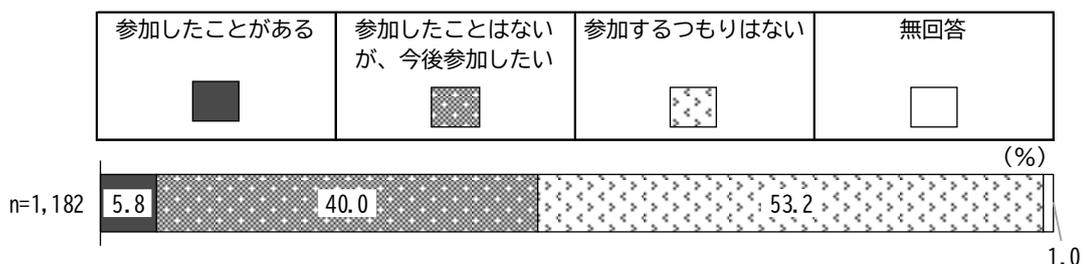


(6) フードドライブの利用状況

◇「参加するつもりはない」が5割台半ば近く

問54 フードドライブとは、各家庭で使い切れない未使用食品を寄贈する活動をいいますが、この活動に参加したことはありますか。(○は1つ)

図18-6-1 フードドライブの利用状況

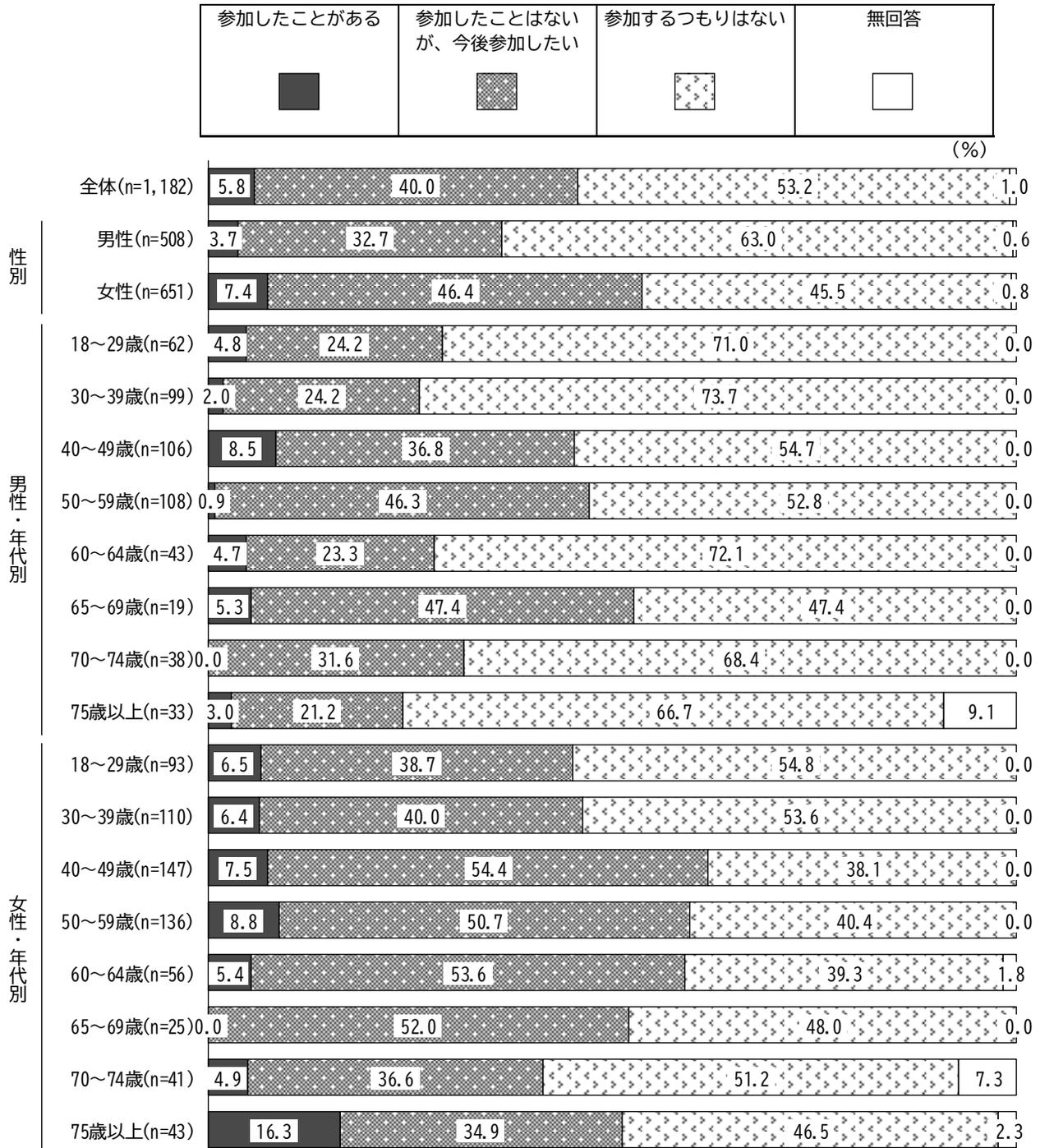


フードドライブへの利用状況について聞いたところ、「参加するつもりはない」(53.2%)が5割台半ば近くと最も高く、次いで「参加したことはないが、今後参加したい」(40.0%)が4割と高くなっている。(図18-6-1)

性・年代別にみると、「参加したことがある」は女性75歳以上(16.3%)が1割台半ばを超えと最も高くなっている。他の年代はいずれも1割未満である。「参加したことはないが、今後参加したい」は女性40～49歳(54.4%)が5割台半ば近くと最も高くなっている。

(図18-6-2)

図18-6-2 フードドライブの利用状況(性・年代別)

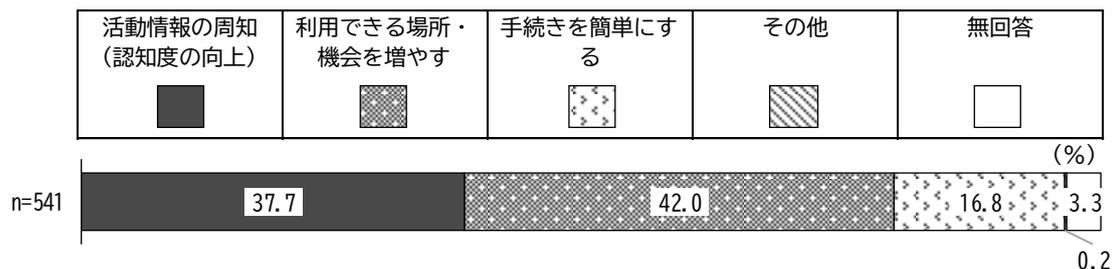


(6-1) フードドライブを今後利用するために必要だと思う工夫

◇「利用できる場所・機会を増やす」が4割強

問54-1 (問54で「1.参加したことがある」
「2.参加したことはないが、今後参加したい」と回答の方)
今後利用するには、どのような工夫が必要だと思いますか。(○は1つ)

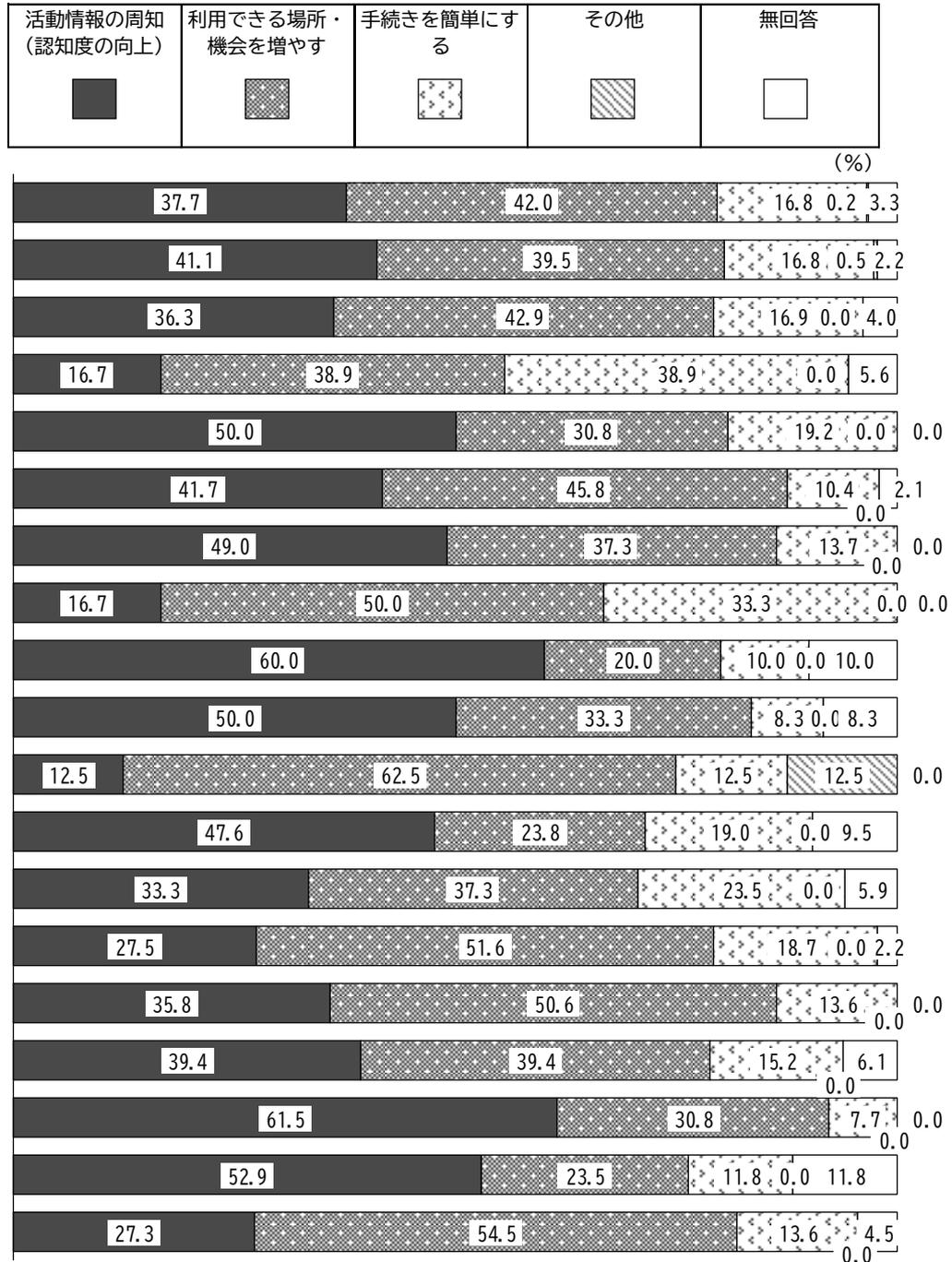
図18-6-3 フードドライブを利用するために必要な工夫



フードドライブを今後利用するにはどのような工夫が必要か聞いたところ、「利用できる場所・機会を増やす」(42.0%)が4割強と最も高く、次いで「活動情報の周知(認知度の向上)」(37.7%)が3割台半ばを超えと高くなっている。(図18-6-3)

性・年代別にみると、「活動情報の周知（認知度の向上）」は女性65～69歳(61.5%)が6割強と最も高くなっている。また、「利用できる場所・機会を増やす」は男性75歳以上(62.5%)が6割強と最も高くなっている。(図18-6-4)

図18-6-4 フードドライブを利用するために必要な工夫（性・年代別）



性別

男性・年代別

女性・年代別

I 調査の概要

II 調査結果の要約

III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

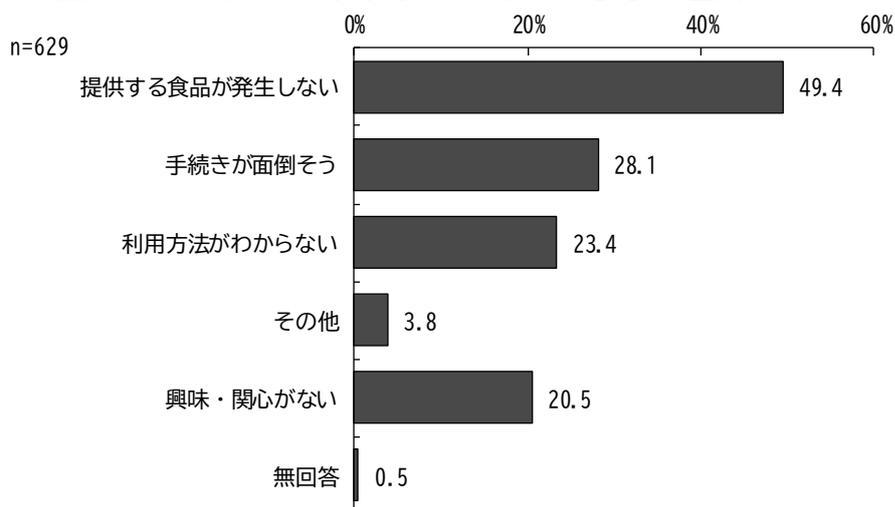
V 調査票

(6-2) フードドライブを利用しない理由

◇「提供する食品が発生しない」が5割弱

問54-2 (問54で「3. 参加するつもりはない」と回答の方)
利用するつもりはない理由をお聞かせください。(〇はいくつでも)

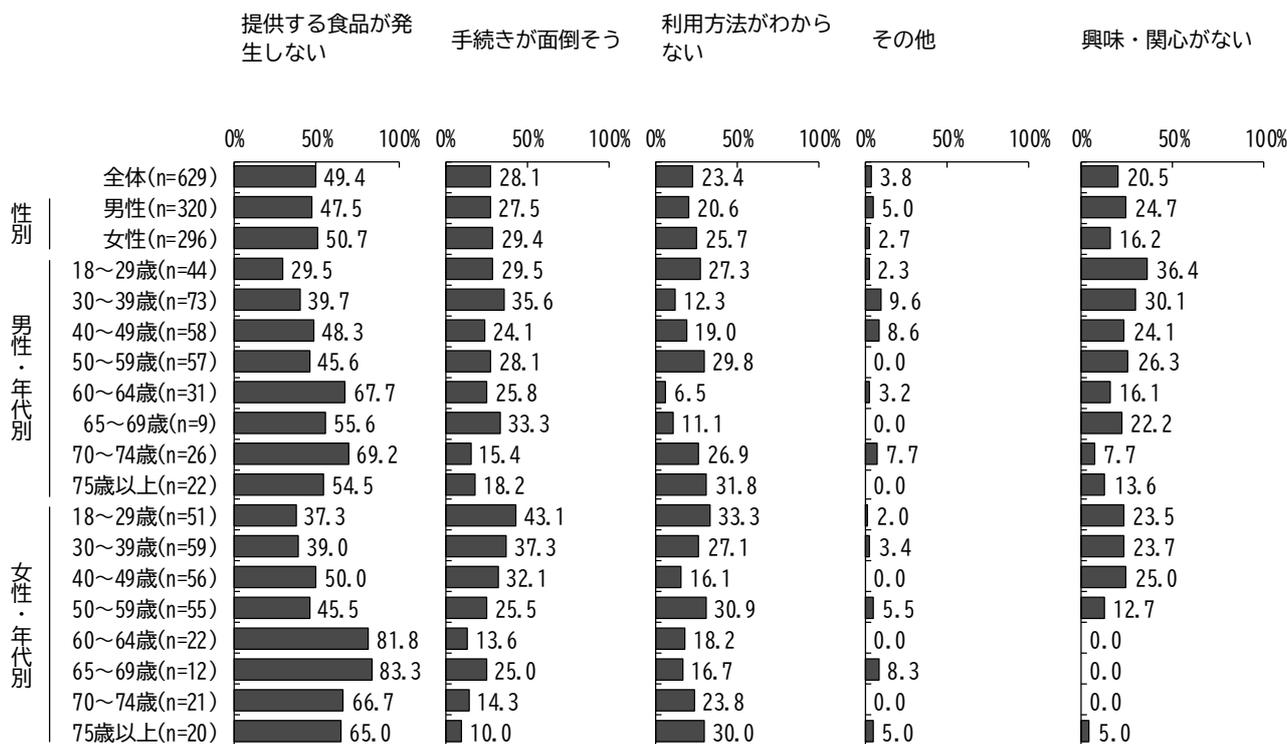
図18-6-5 フードドライブを利用しない理由



フードドライブを利用しない理由について聞いたところ、「提供する食品が発生しない」(49.4%)が5割弱と最も高く、次いで「手続きが面倒そう」(28.1%)が3割近く、「利用方法がわからない」(23.4%)が2割台半ば近くとなっている。一方で、「興味・関心がない」(20.5%)が約2割となっている。(図18-6-5)

性・年代別にみると、「提供する食品が発生しない」は女性65～69歳(83.3%)が8割台半ば近くと最も高くなっている。「手続きが面倒そう」は女性18～29歳(43.1%)が4割台半ば近くと最も高く、「利用方法がわからない」は女性18～29歳(33.3%)が3割台半ば近くと最も高くなっている。(図18-6-6)

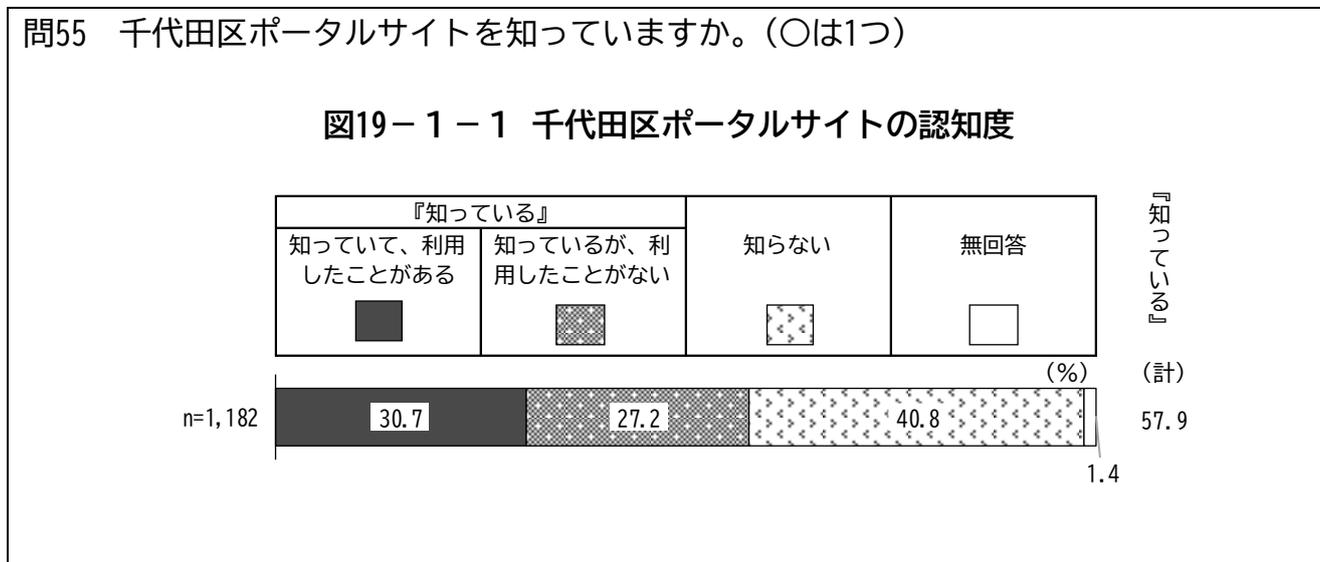
図18-6-6 フードドライブを利用しない理由(性・年代別)



19. ポータルサイトの利用状況

(1) 千代田区ポータルサイトの認知度

◇「知らない」が約4割

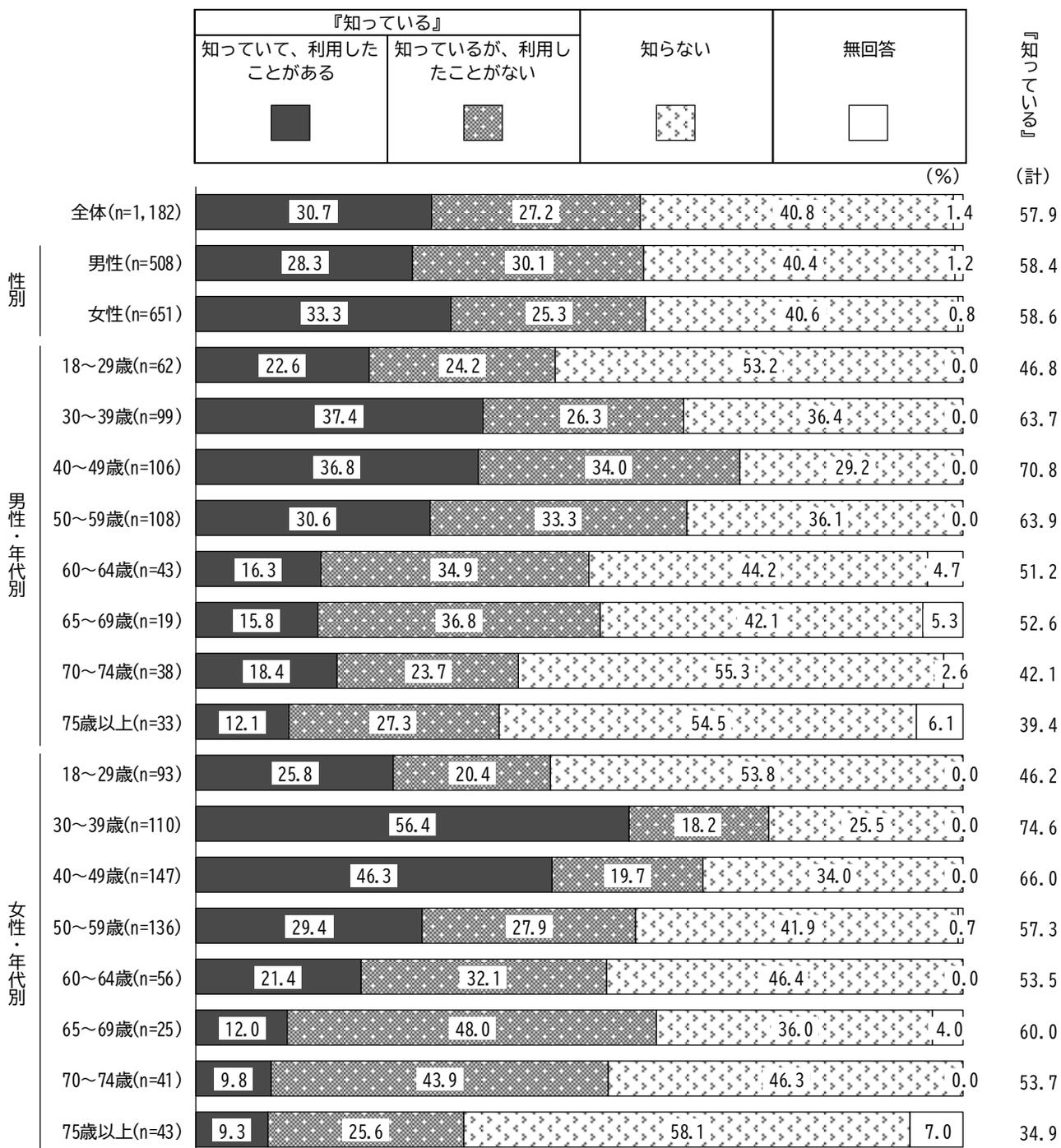


千代田区ポータルサイトの認知度について聞いたところ、「知っている、利用したことがある」(30.7%)と「知っているが利用したことがない」(27.2%)を合わせた『知っている』(57.9%)が5割台半ばを超えとなっている。「知らない」(40.8%)は約4割となっている。

(図19-1-1)

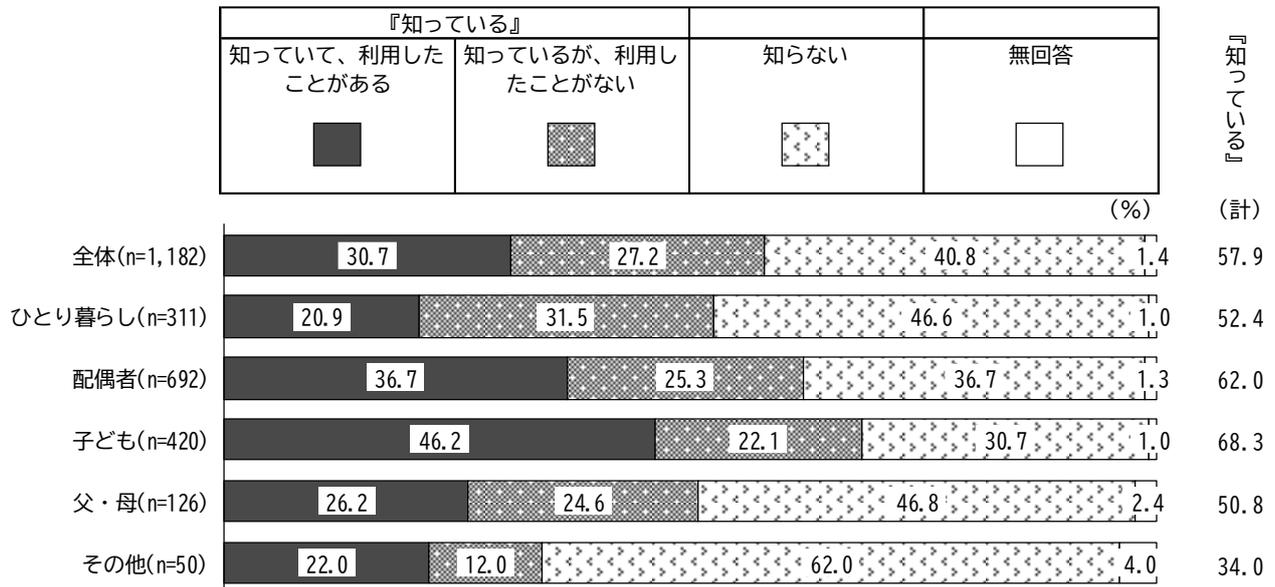
性・年代別にみると、「知っていて、利用したことがある」と「知っているが、利用したことがない」を合わせた『知っている』は、女性30～39歳(74.6%)が7割台半ば近くと最も高くなっている。また、「知らない」は女性75歳以上(58.1%)が6割近くと最も高くなっている。(図19-1-2)

図19-1-2 千代田区ポータルサイトの認知度(性・年代別)



世帯構成別にみると、『知っている』は子どもがいる世帯(68.3%)が7割近くと最も高くなっている。(図19-1-3)

図19-1-3 千代田区ポータルサイトの認知度(世帯構成別)



I

調査の概要

II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

IV

調査結果の数表

V

調査票

(1-1) 千代田区ポータルサイトを利用したことがない理由

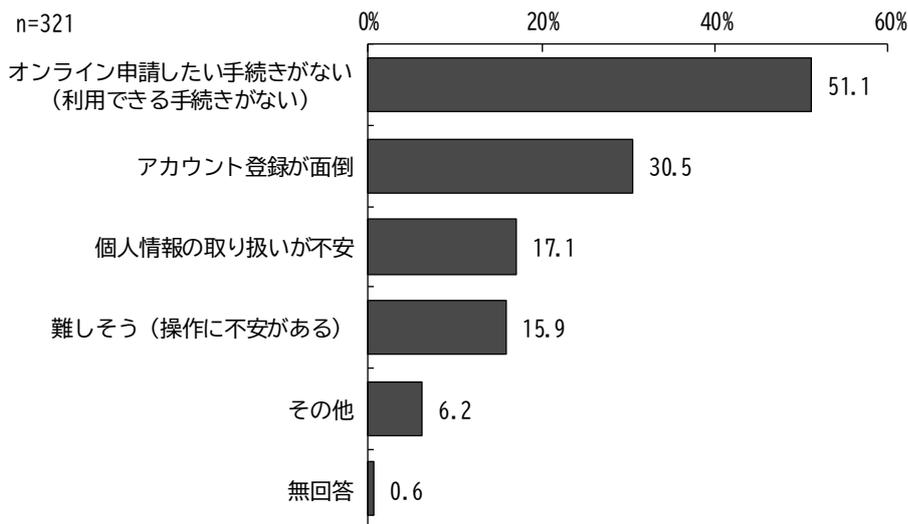
I

調査の概要

◇「オンライン申請したい手続きがない」が5割強

問55-1 (問55で「2.知っているが、利用したことがない」と回答の方)
理由を教えてください。(〇はいくつでも)

図19-1-4 千代田区ポータルサイトを利用したことがない理由



II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

千代田区ポータルサイトを利用したことがない理由について聞いたところ、「オンライン申請したい手続きがない (利用できる手続きがない)」(51.1%)が5割強と最も高く、次いで「アカウント登録が面倒」(30.5%)が約3割と高くなっている。(図19-1-4)

IV

調査結果の数表

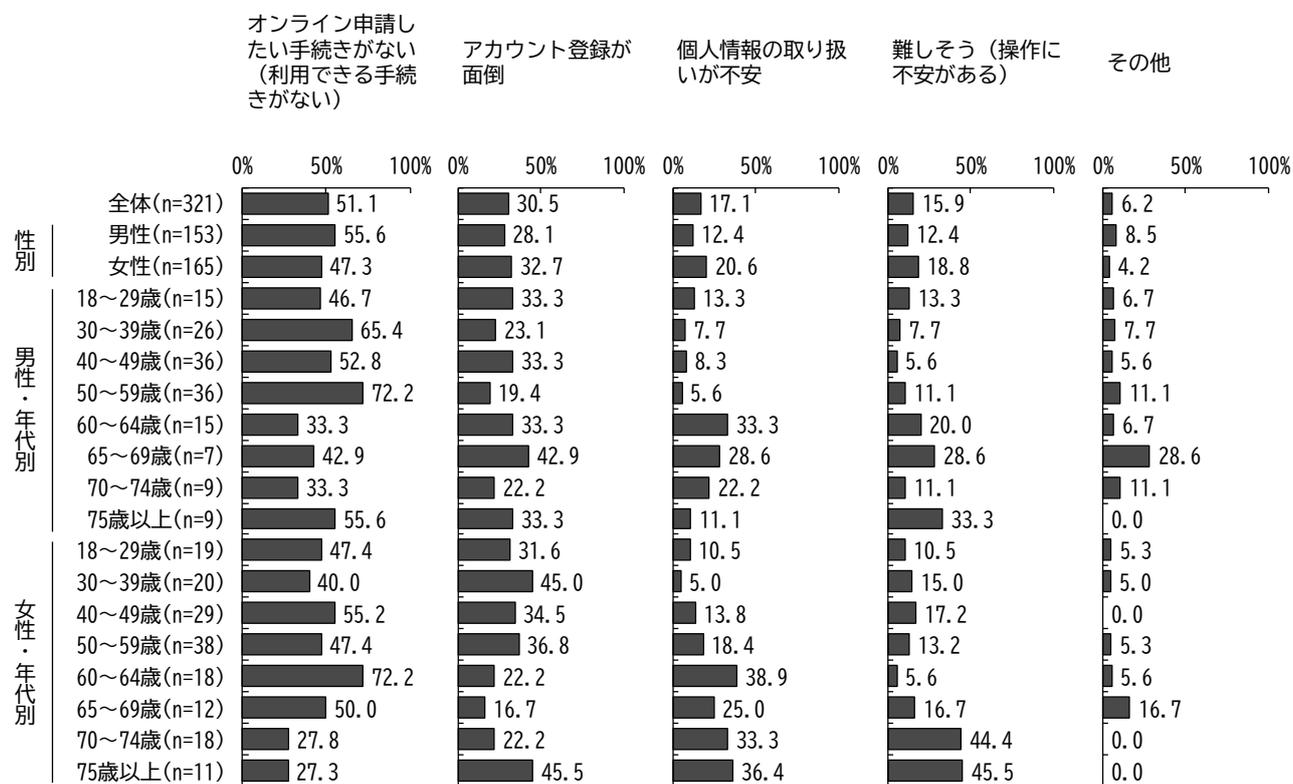
V

調査票

性・年代別にみると、「オンライン申請したい手続きがない(利用できる手続きがない)」は男性50～59歳(72.2%)と女性60～64歳(72.2%)が7割強と最も高くなっている。「アカウント登録が面倒」は女性75歳以上(45.5%)が4割台半ばと最も高くなっている。

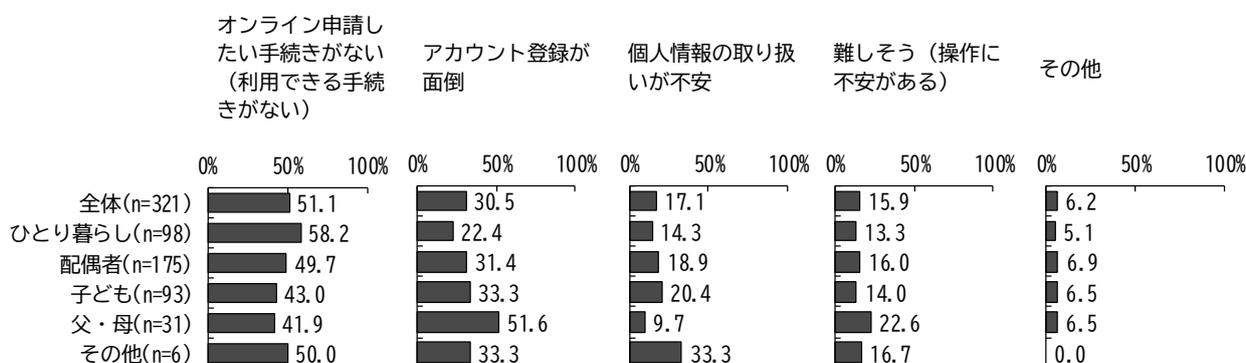
(図19-1-5)

図19-1-5 千代田区ポータルサイトを利用したことがない理由(性・年代別)



世帯構成別にみると、「オンライン申請したい手続きがない(利用できる手続きがない)」はひとり暮らし(58.2%)が6割近くと最も高くなっている。(図19-1-6)

図19-1-6 千代田区ポータルサイトを利用したことがない理由(世帯構成別)



I

調査の概要

II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

IV

調査結果の数表

V

調査票

(1-2) 登録すると区から必要な情報がポータル上で届くことの認知度

I

調査の概要

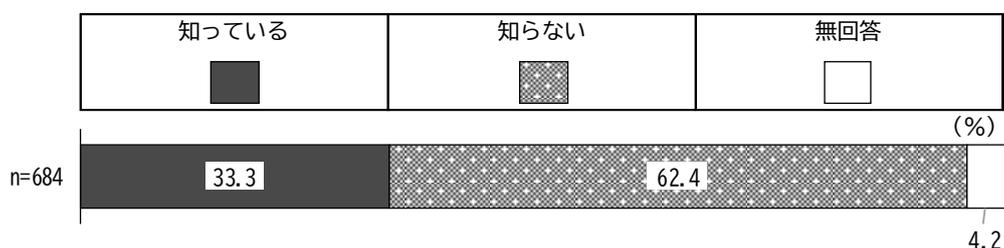
◇「知らない」が6割強

問55-2 (問55で「1. 知っていて、利用したことがある」
「2. 知っているが、利用したことがない」と回答の方)
千代田区ポータルサイトでは、オンライン申請ができるだけでなく、登録したアカウント情報や興味のある分野に基づいて区から必要な情報がポータル上で届くことを知っていますか。(○は1つ)

II

調査結果の要約

図19-1-7 登録すると区から必要な情報がポータル上で届くことの認知度



III

調査結果の分析

登録すると区から必要な情報がポータル上で届くことの認知度について聞いたところ、「知らない」(62.4%)が6割強と高く、一方で「知っている」(33.3%)が3割台半ば近くとなっている。(図19-1-7)

IV

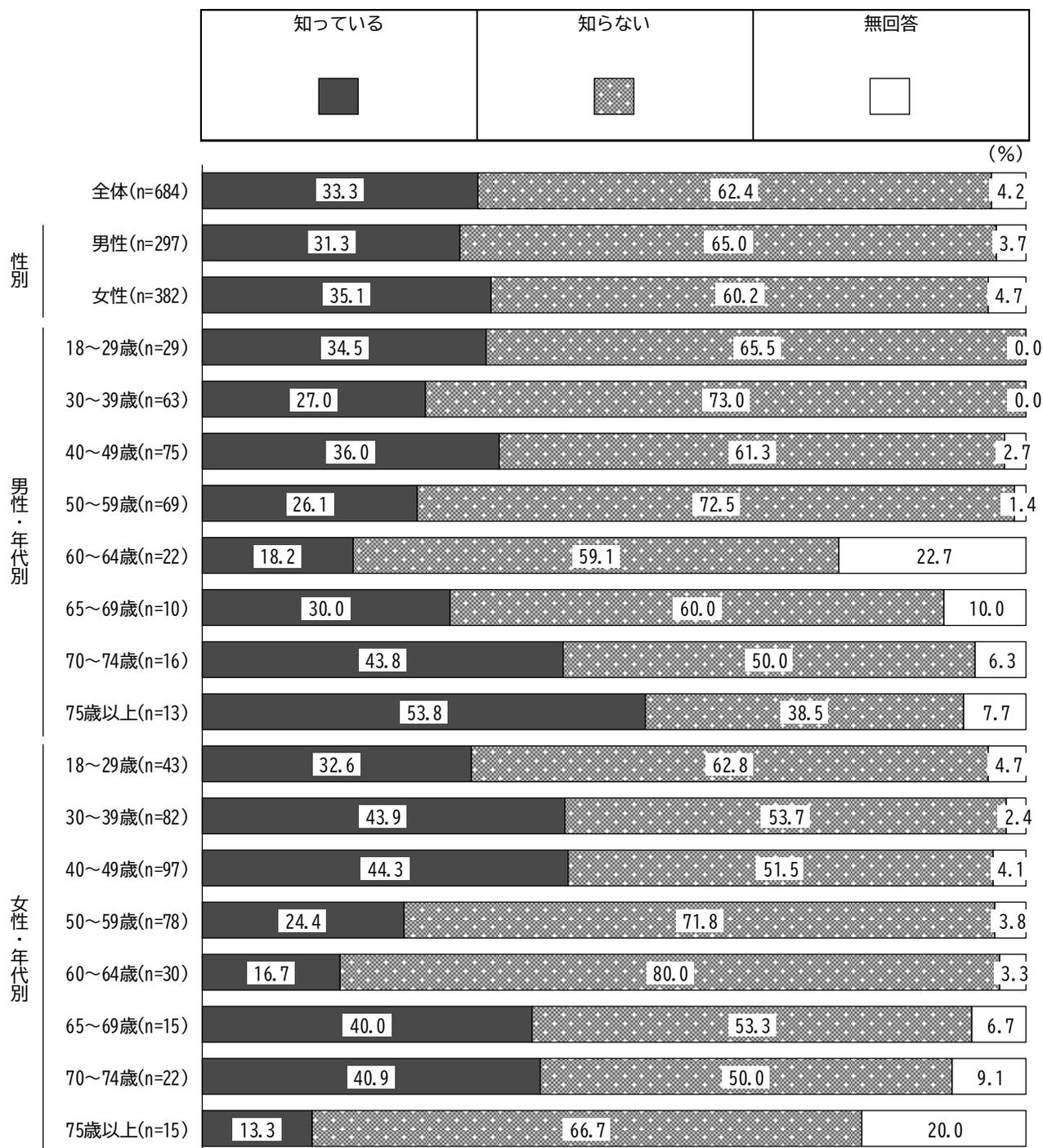
調査結果の数表

V

調査票

性・年代別にみると、「知っている」は男性75歳以上(53.8%)が5割台半ば近くと最も高くなっている。一方で、「知らない」は女性60～64歳(80.0%)が8割と最も高くなっている。(図19-1-8)

図19-1-8 登録すると区から必要な情報がポータル上で届くことの認知度(性・年代別)



(1-3) 千代田区ポータルサイトに欲しい機能

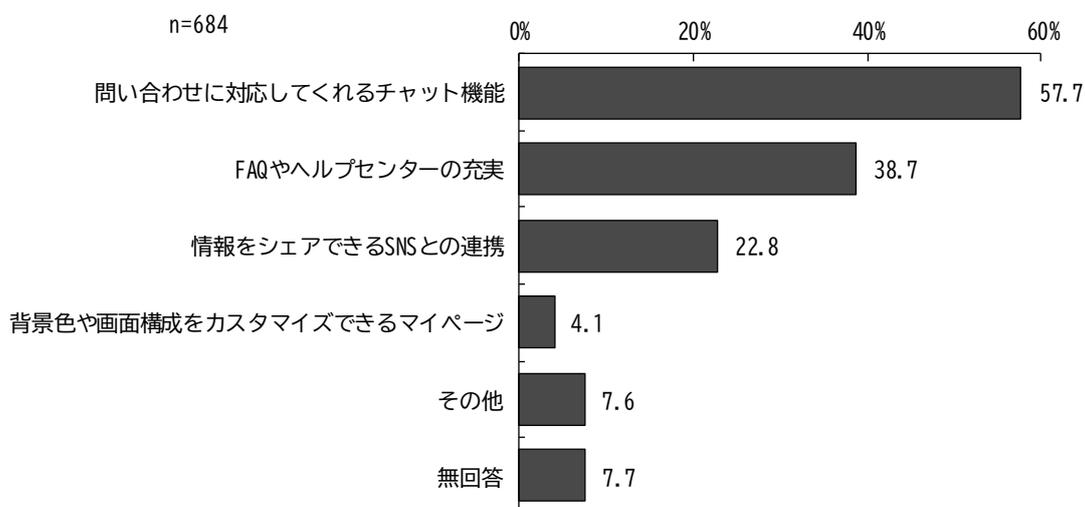
I

調査の概要

◇「問い合わせに対応してくれるチャット機能」が5割台半ば超え

問55-3 (問55で「1.知っていて、利用したことがある」
「2.知っているが、利用したことがない」と回答の方)
千代田区ポータルサイトにあったら良いと思う機能を教えてください。
(〇はいくつでも)

図19-1-9 千代田区ポータルサイトに欲しい機能



II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

IV

調査結果の数表

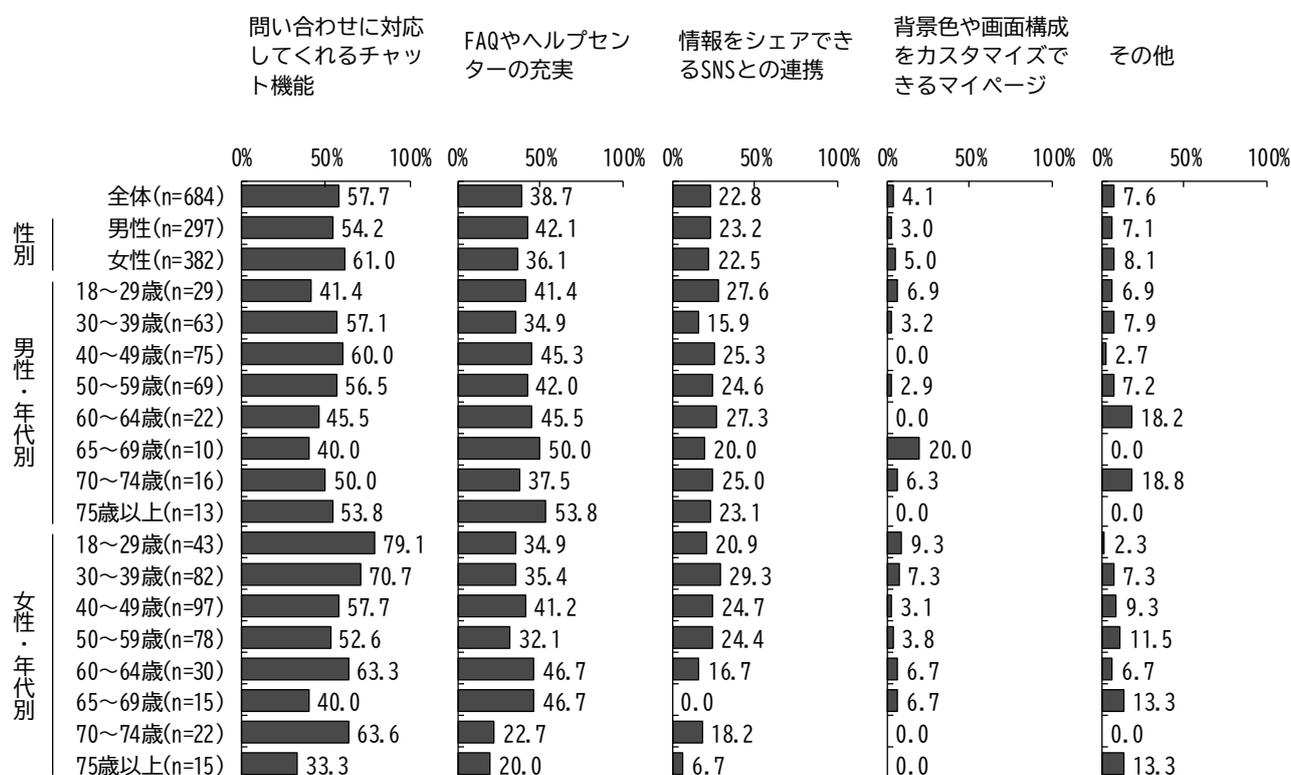
V

調査票

千代田区ポータルサイトにあったら良いと思う機能について聞いたところ、「問い合わせに対応してくれるチャット機能」(57.7%)が5割台半ば超えと最も高く、次いで「FAQやヘルプセンターの充実」(38.7%)が4割近くと高くなっている。(図19-1-9)

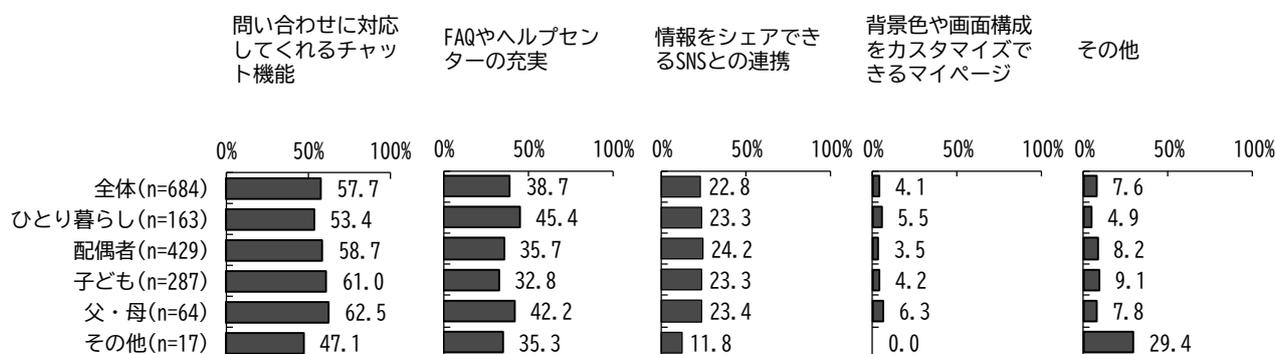
性・年代別にみると、「問い合わせに対応してくれるチャット機能」は女性18～29歳(79.1%)が8割弱と高くなっている。「FAQやヘルプセンターの充実」は男性75歳以上(53.8%)で5割台半ば近くと高くなっている。(図19-1-10)

図19-1-10 千代田区ポータルサイトに欲しい機能（性・年代別）



世帯構成別にみると、「問い合わせに対応してくれるチャット機能」は父・母(62.5%)が6割強と最も高くなっている。「FAQやヘルプセンターの充実」はひとり暮らし(45.4%)が4割台半ばと最も高くなっている。(図19-1-11)

図19-1-11 千代田区ポータルサイトに欲しい機能（世帯構成別）



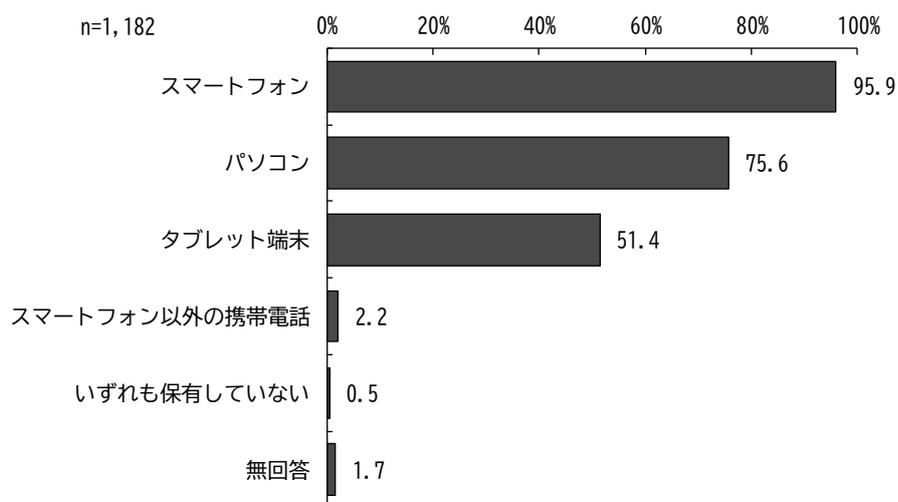
20. デジタル機器の活用状況

(1) 保有しているデジタル機器

◇「スマートフォン」が9割台半ば

問56 あなたは、どのデジタル機器を保有していますか。(○はいくつでも)

図20-1-1 保有しているデジタル機器

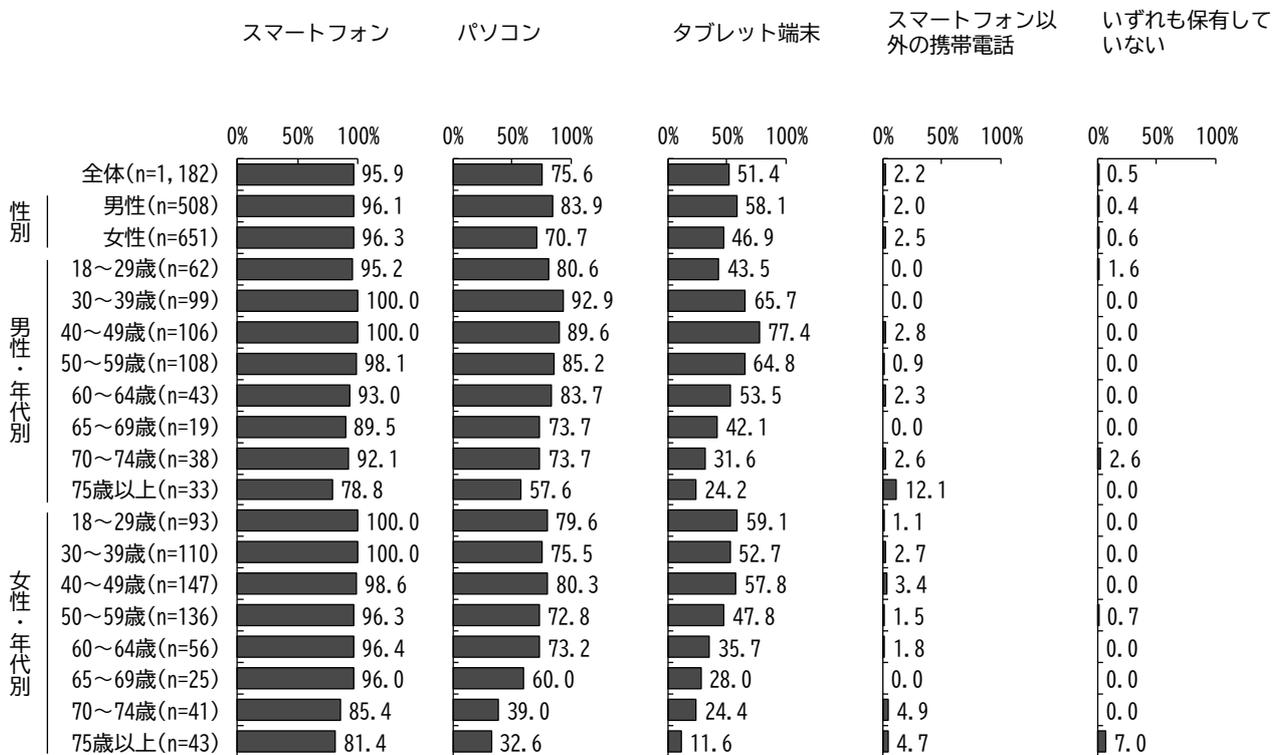


保有しているデジタル機器について聞いたところ、「スマートフォン」(95.9%)が9割台半ばと最も高く、次いで「パソコン」(75.6%)が7割台半ばと高くなっている。

(図20-1-1)

性・年代別にみると、「スマートフォン」は男性30～39歳(100.0%)、40～49歳(100.0%)、女性18～29歳(100.0%)、30～39歳(100.0%)が10割と最も高くなっている。「パソコン」は男性30～39歳(92.9%)で9割強と高くなっている。(図20-1-2)

図20-1-2 保有しているデジタル機器（性・年代別）



I 調査の概要

II 調査結果の要約

III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

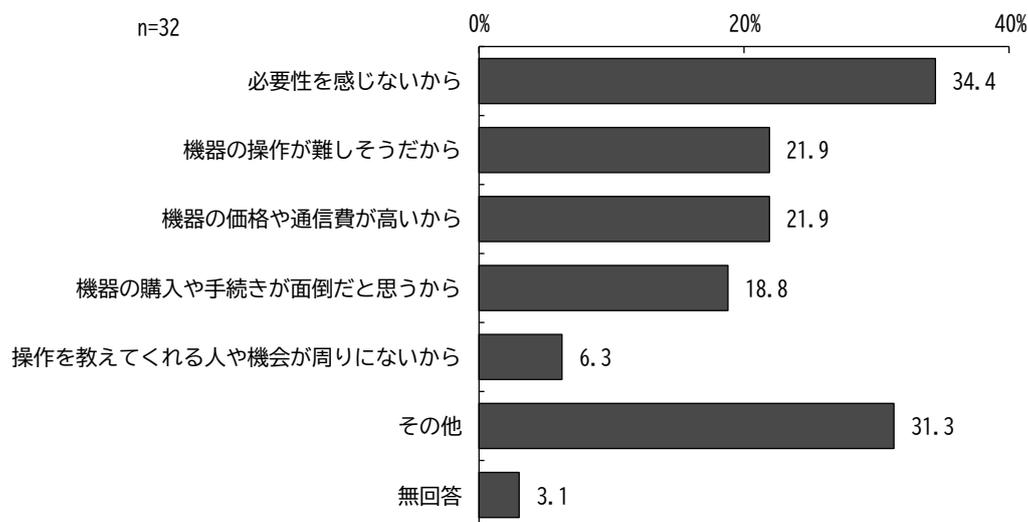
V 調査票

(2) スマートフォンなどのデジタル機器を保有していない理由

◇「必要性を感じないから」が3割台半ば近く

問56-1 (問56で「4. スマートフォン以外の携帯電話」「5. いずれも保有していない」と回答の方)
あなたが、スマートフォンなどのデジタル機器を保有していない理由はどれですか。(〇はいくつでも)

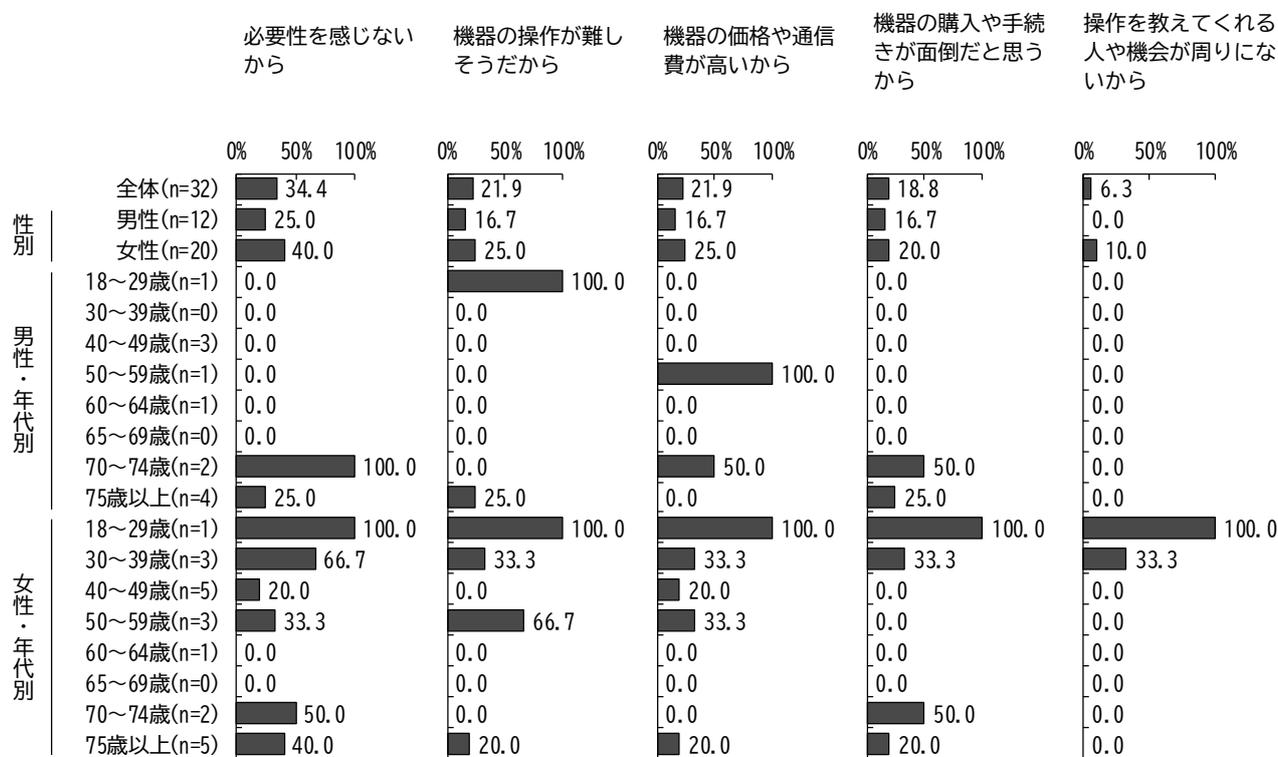
図20-2-1 スマートフォンなどのデジタル機器を保有していない理由



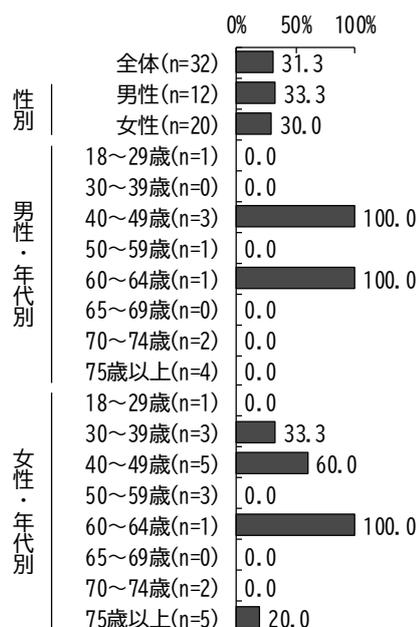
スマートフォンなどのデジタル機器を保有していない理由を聞いたところ、「必要性を感じないから」(34.4%)が3割台半ば近くと最も高く、次いで「その他」(31.3%)が3割強、「機器の操作が難しそうだから」(21.9%)と「機器の価格や通信費が高いから」(21.9%)は2割強と同じ割合であった。(図20-2-1)

性・年代別にみると、調査数（n）が少数であるため0.0%や100.0%などの割合が目立った。（図20-2-2）

図20-2-2 スマートフォンなどのデジタル機器を保有していない理由（性・年代別）



その他



I

調査の概要

II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

IV

調査結果の数表

V

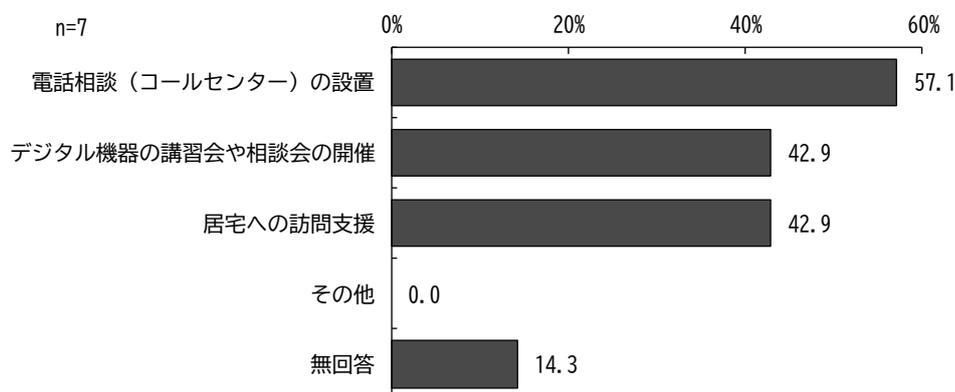
調査票

(3) デジタル機器保有について望まれる支援

◇「電話相談（コールセンター）の設置」が5割台半ば超え

問56-2 （問56-1で「2. 機器の操作が難しそうだから」
「3. 操作を教えてくれる人や機会が周りにないから」と回答の方）
どのような支援があるとデジタル機器を保有することを検討しますか。
（〇はいくつでも）

図20-3-1 デジタル機器保有について望まれる支援



デジタル機器保有について望まれる支援を聞いたところ、「電話相談（コールセンター）の設置」（57.1%）が5割台半ば超えと最も高く、次いで「デジタル機器の講習会や相談会の開催」（42.9%）と「居宅への訪問支援」（42.9%）が4割強と同じ割合で高くなっている。（図20-3-1）

I
調査の概要

II
調査結果の要約

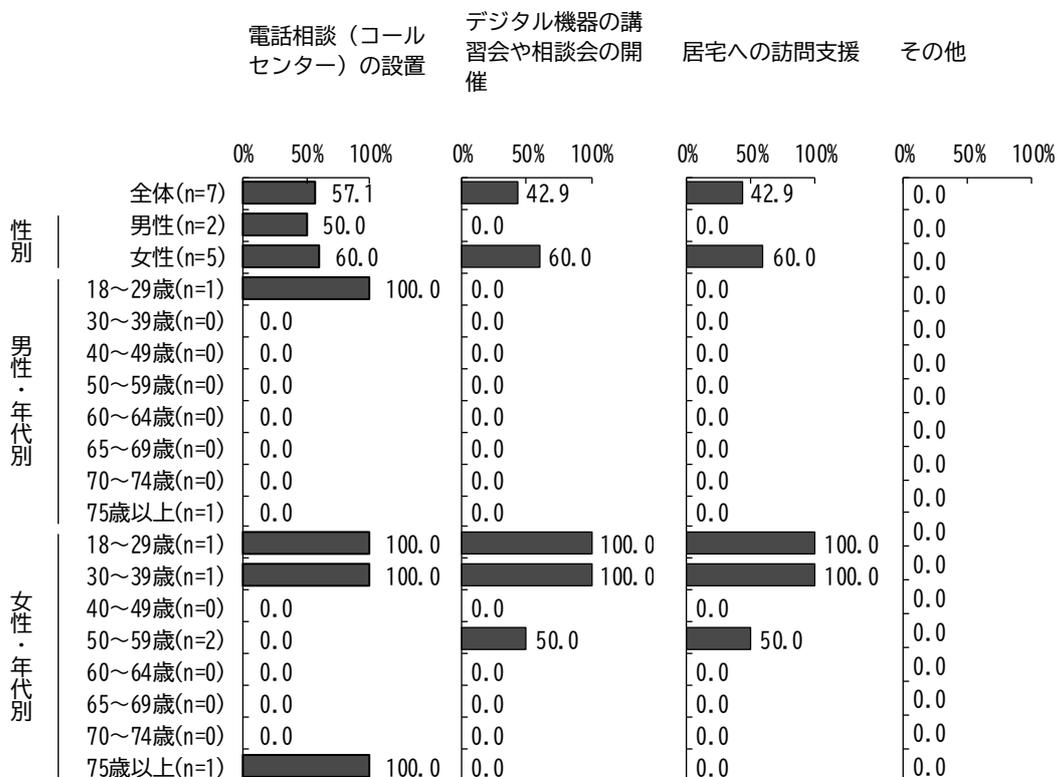
III
調査結果の分析

IV
調査結果の数表

V
調査票

性・年代別にみると、調査数（n）が少数であるため0.0%や100.0%などの割合が目立った。（図20-3-2）

図20-3-2 デジタル機器保有について望まれる支援（性・年代別）



I

調査の概要

II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

IV

調査結果の数表

V

調査票

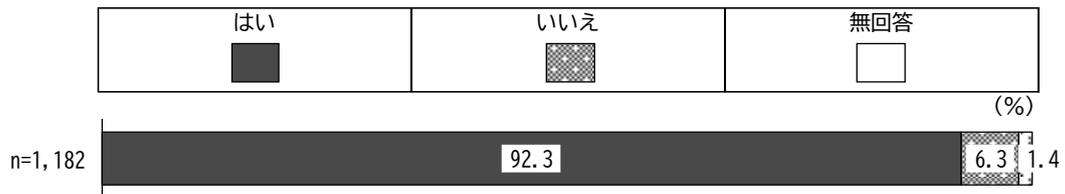
21. キャッシュレス決済の活用状況の把握

(1) キャッシュレス決済利用の有無

◇「はい」が9割強

問57 キャッシュレス決済を利用していますか。(○は1つ)

図21-1-1 キャッシュレス決済利用の有無

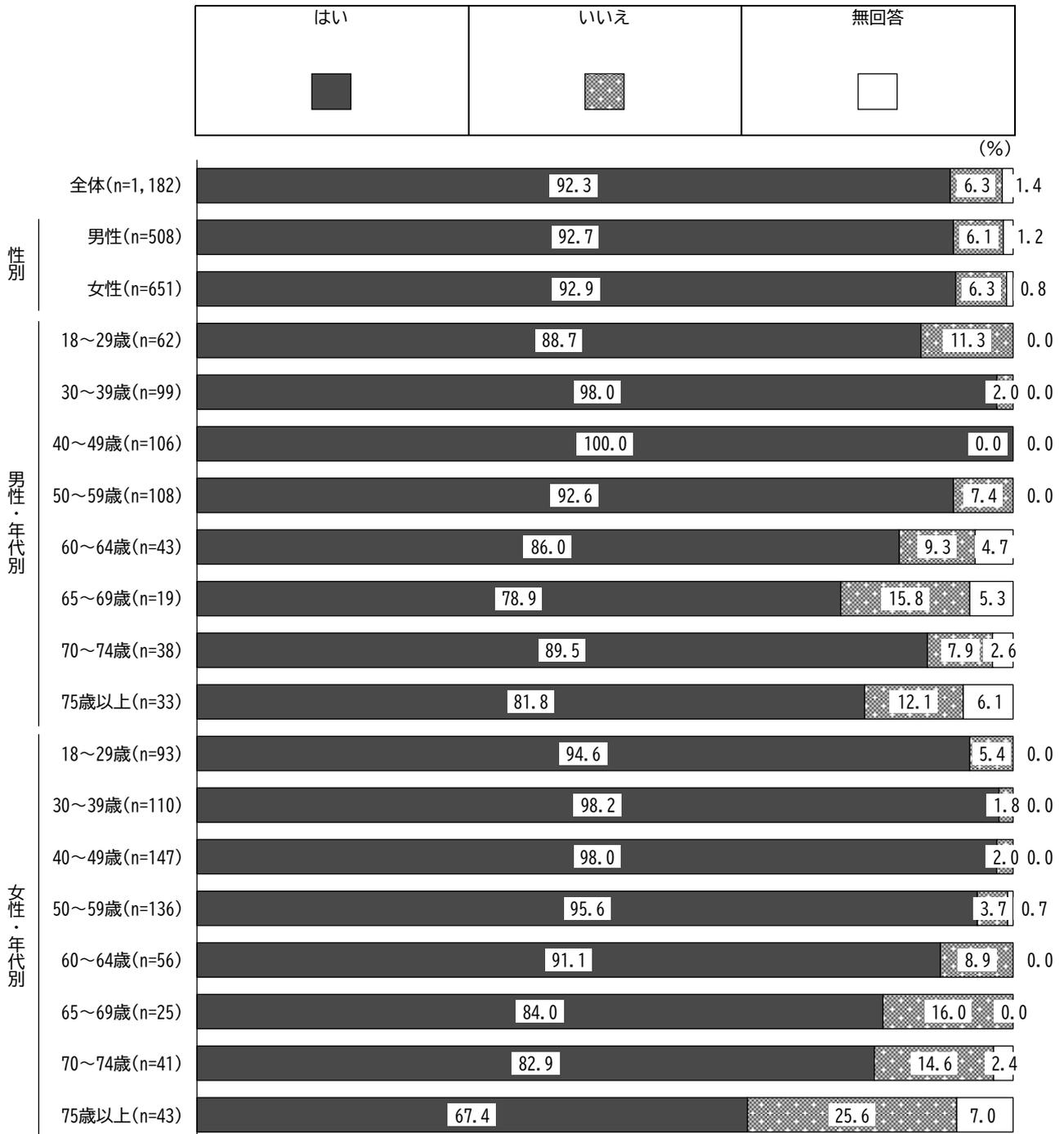


キャッシュレス決済利用の有無について聞いたところ、「はい」(92.3%)が9割強、「いいえ」(6.3%)が1割未満であった。(図21-1-1)

性・年代別にみると、「はい」は男性40～49歳(100.0%)が10割と高くなっている。

(図21-1-2)

図21-1-2 キャッシュレス決済利用の有無(性・年代別)



I

調査の概要

II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

IV

調査結果の数表

V

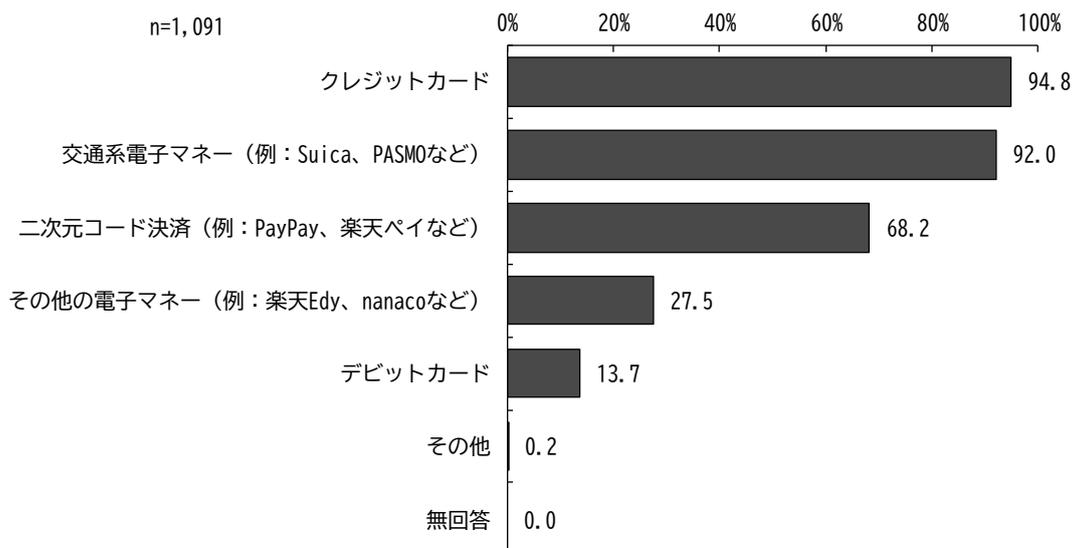
調査票

(2) 利用しているキャッシュレス決済の種類

◇「クレジットカード」が9割台半ば近く

問57-1 (問57で「1.はい」と回答の方)
利用しているキャッシュレス決済の種類を教えてください。(〇はいくつでも)

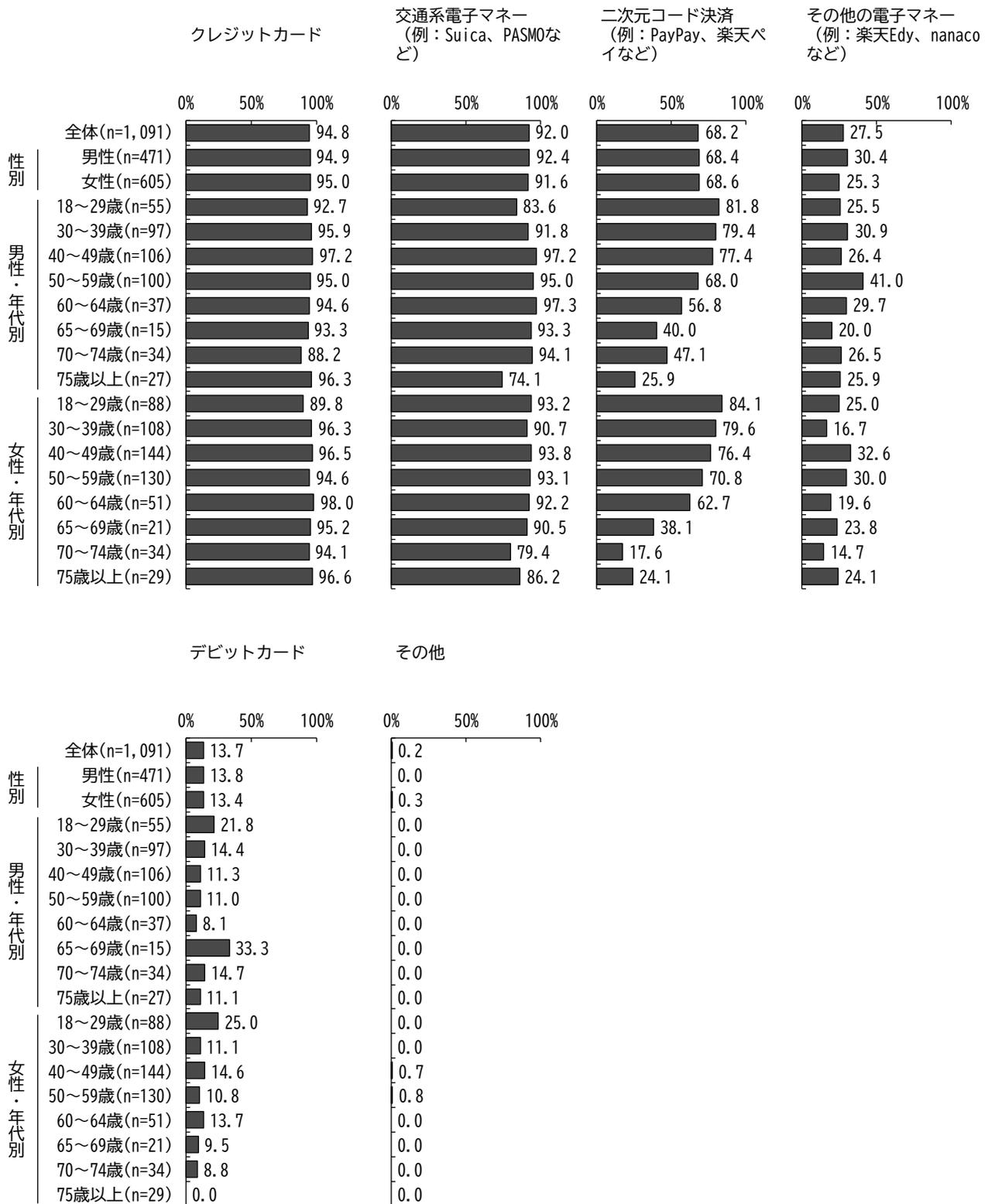
図21-2-1 利用しているキャッシュレス決済の種類



利用しているキャッシュレス決済の種類を聞いたところ、「クレジットカード」(94.8%)が9割台半ば近くと最も高くなっている。次いで「交通系電子マネー(例: Suica, PASMOなど)」(92.0%)が9割強と高くなっており、「二次元コード決済(例: PayPay, 楽天ペイなど)」(68.2%)が7割近くとなっている。(図21-2-1)

性・年代別にみると、「クレジットカード」は女性60～64歳(98.0%)が10割近くと最も高くなっている。「交通系電子マネー(例:Suica、PASMOなど)」は男性60～64歳(97.3%)が9割台半ばを超えと最も高くなっている。(図21-2-2)

図21-2-2 利用しているキャッシュレス決済の種類(性・年代別)



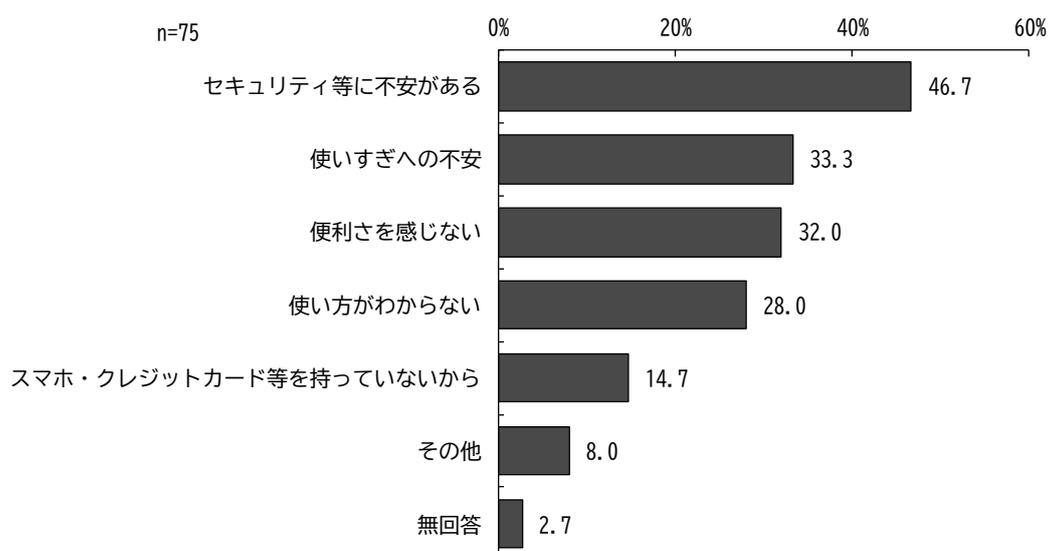
(3) キャッシュレス決済を利用していない理由

◇「セキュリティ等に不安がある」が4割台半ば超え

問57-2 (問57で「2.いいえ」と回答の方)

キャッシュレス決済を利用していない理由を教えてください。
(〇はいくつでも)

図21-3-1 キャッシュレス決済を利用していない理由



キャッシュレス決済を利用していない理由を聞いたところ、「セキュリティ等に不安がある」(46.7%)が4割台半ば超えと最も高く、次いで「使いすぎへの不安」(33.3%)が3割台半ば近く、「便利さを感じない」(32.0%)が3割強となっている。(図21-3-1)

I 調査の概要

II 調査結果の要約

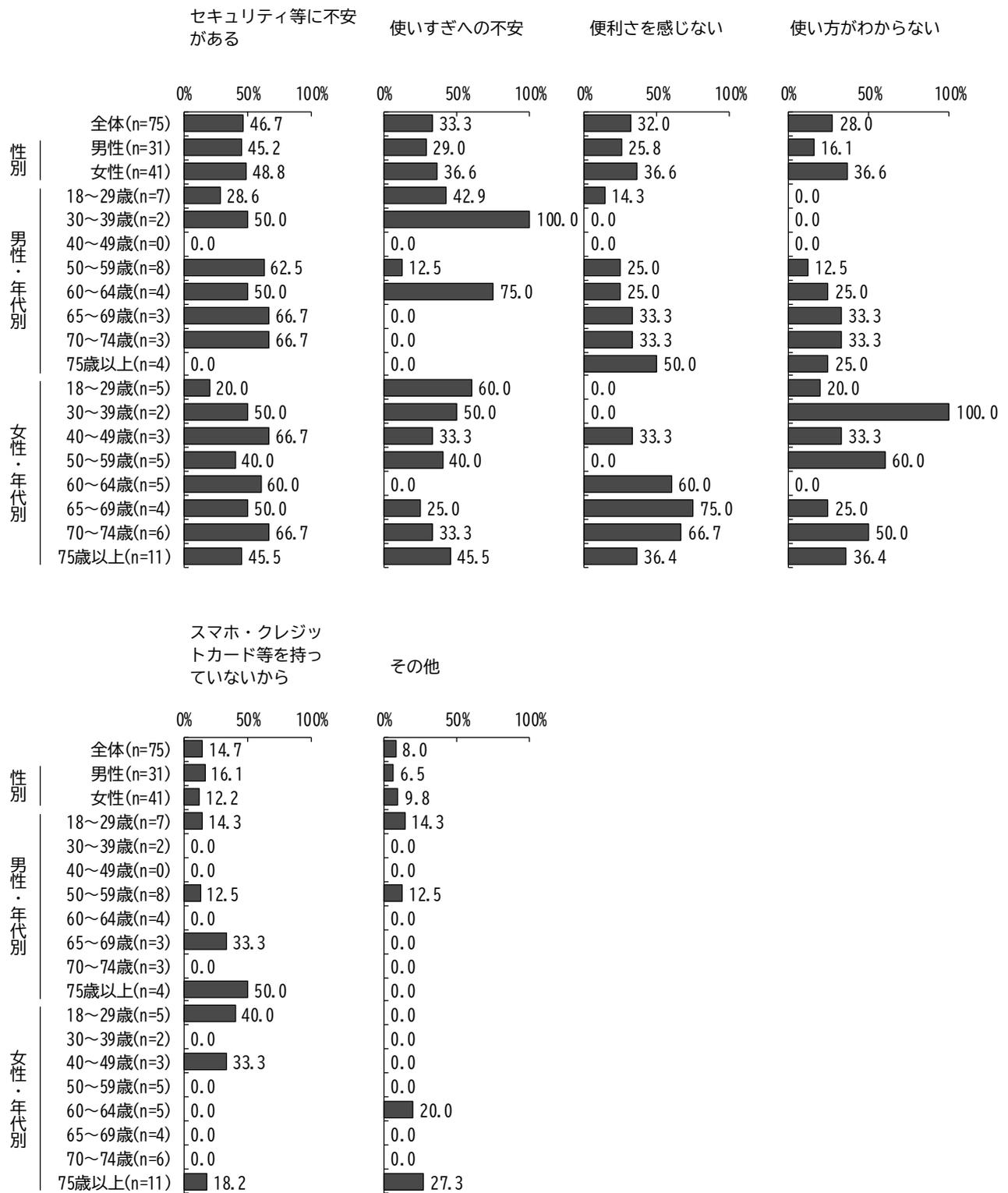
III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

V 調査票

性・年代別にみると、調査数（n）が少数であるため0.0%や100.0%などの割合が目立った。（図21-3-2）

図21-3-2 キャッシュレス決済を利用していない理由（性・年代別）



I

調査の概要

II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

IV

調査結果の数表

V

調査票

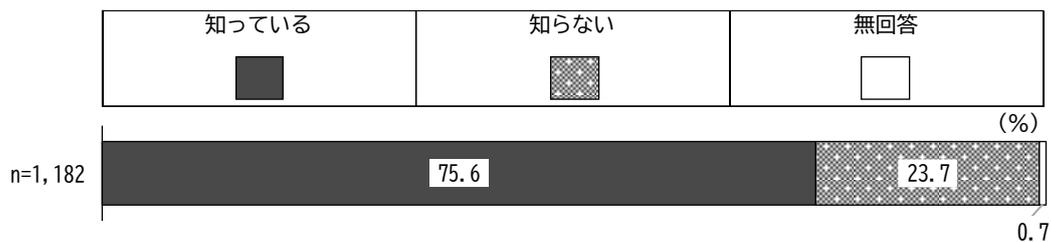
22. 区民の防災対策

(1) 地域の避難所の認知度

◇「知っている」が7割台半ば

問58 地域の避難所がどこにあるのかわかりますか（○は1つ）

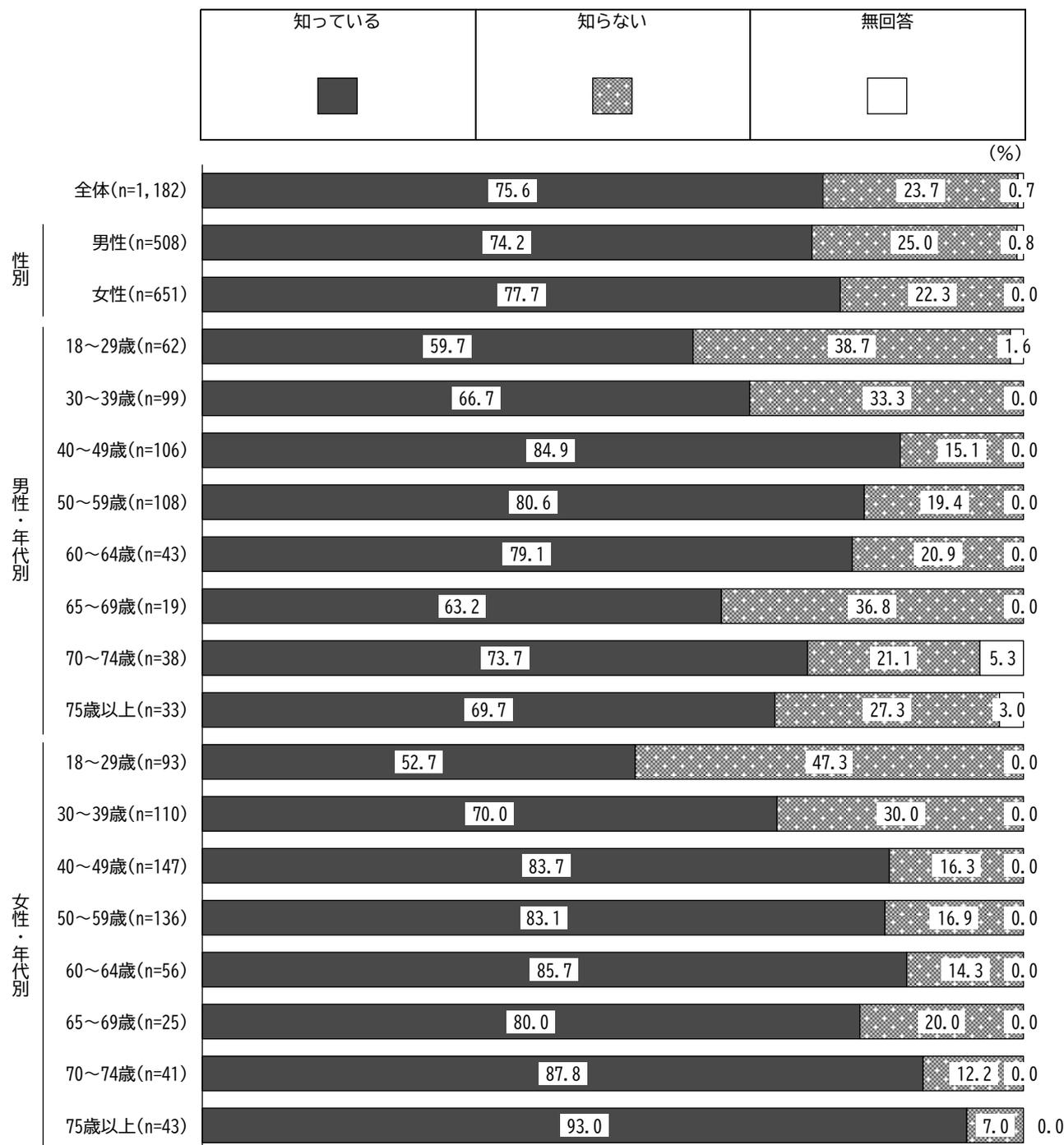
図22-1-1 地域の避難所の認知度



地域の避難所の認知度について聞いたところ、「知っている」(75.6%)が7割台半ばと高くなっている。一方、「知らない」(23.7%)が2割台半ば近くとなっている。(図22-1-1)

性・年代別にみると、「知っている」は女性75歳以上(93.0%)が9割台半ば近くと最も高く、次いで女性70～74歳(87.8%)が8割台半ばを超えと高くなっている。一方で、「知らない」は女性18～29歳(47.3%)が4割台半ばを超えと最も高く、次いで男性18～29歳(38.7%)が4割近く、男性65～69歳(36.8%)が3割台半ばを超え、男性30～39歳(33.3%)が3割台半ば近くと高くなっている。(図22-1-2)

図22-1-2 地域の避難所の認知度(性・年代別)

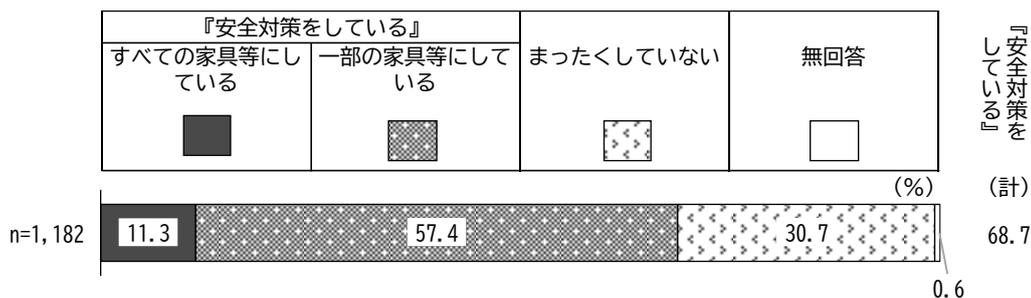


(2) 家具等の安全対策の実施状況

◇「一部の家具等にしている」が5割台半ば超え

問59 震災時に転倒の恐れのある家具等について、安全対策を実施していますか。
(〇は1つ)

図22-2-1 家具等の安全対策の実施状況



家具等の安全対策の実施状況について聞いたところ、「一部の家具等にしている」(57.4%)が5割台半ば超えと最も高く、「すべての家具等にしている」(11.3%)と合わせた『安全対策をしている』(68.7%)が7割近くとなっている。一方で、「まったくしていない」(30.7%)が約3割となっている。(図22-2-1)

I 調査の概要

II 調査結果の要約

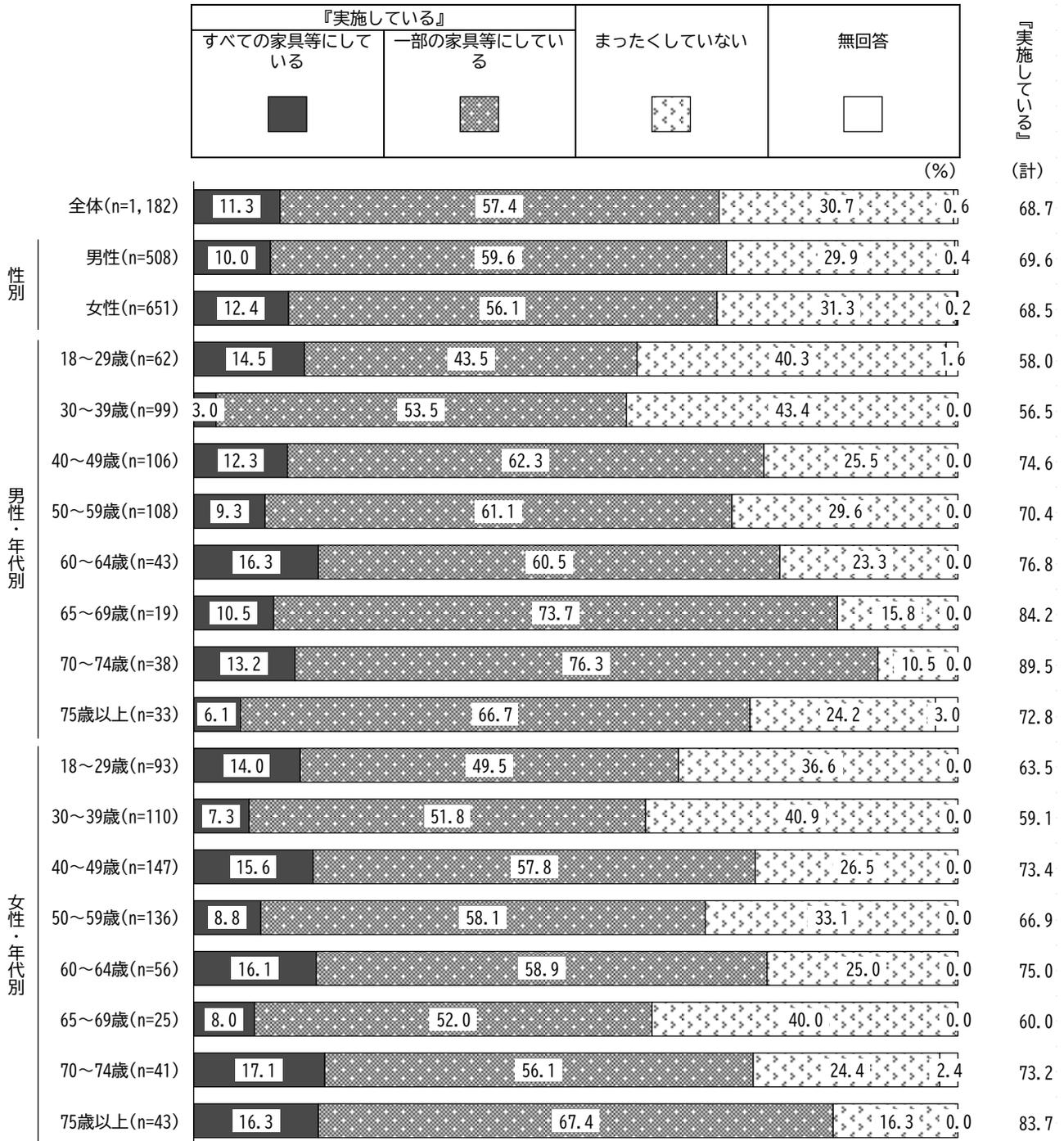
III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

V 調査票

性・年代別にみると、「一部の家具等にしている」は男性70～74歳(76.3%)が7割台半ばを超えと最も高く、「すべての家具等にしている」の男性70～74歳(13.2%)と合わせた『実施している』は男性70～74歳(89.5%)が9割弱と最も高くなっている。(図22-2-2)

図22-2-2 家具等の安全対策の実施状況(性・年代別)



I 調査の概要

II 調査結果の要約

III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

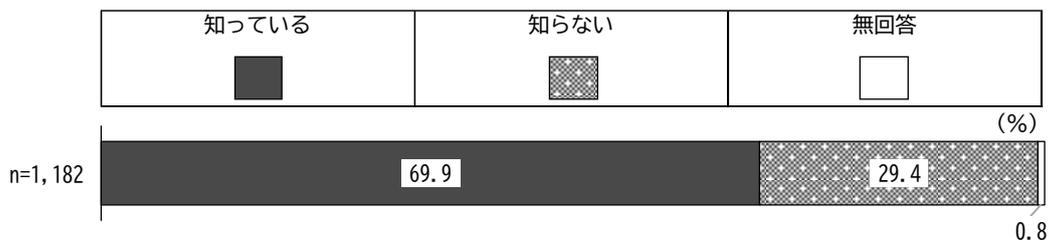
V 調査票

(3) 自宅周辺の災害リスクの認知度

◇「知っている」が7割弱

問60 あなたのお宅の周辺の、洪水などの災害リスクについてご存知ですか。(○は1つ)

図22-3-1 自宅周辺の災害リスクの認知度



自宅周辺の災害リスクの認知度について聞いたところ、「知っている」(69.9%)が7割弱と高く、一方で、「知らない」(29.4%)が3割弱となっている。(図22-3-1)

I 調査の概要

II 調査結果の要約

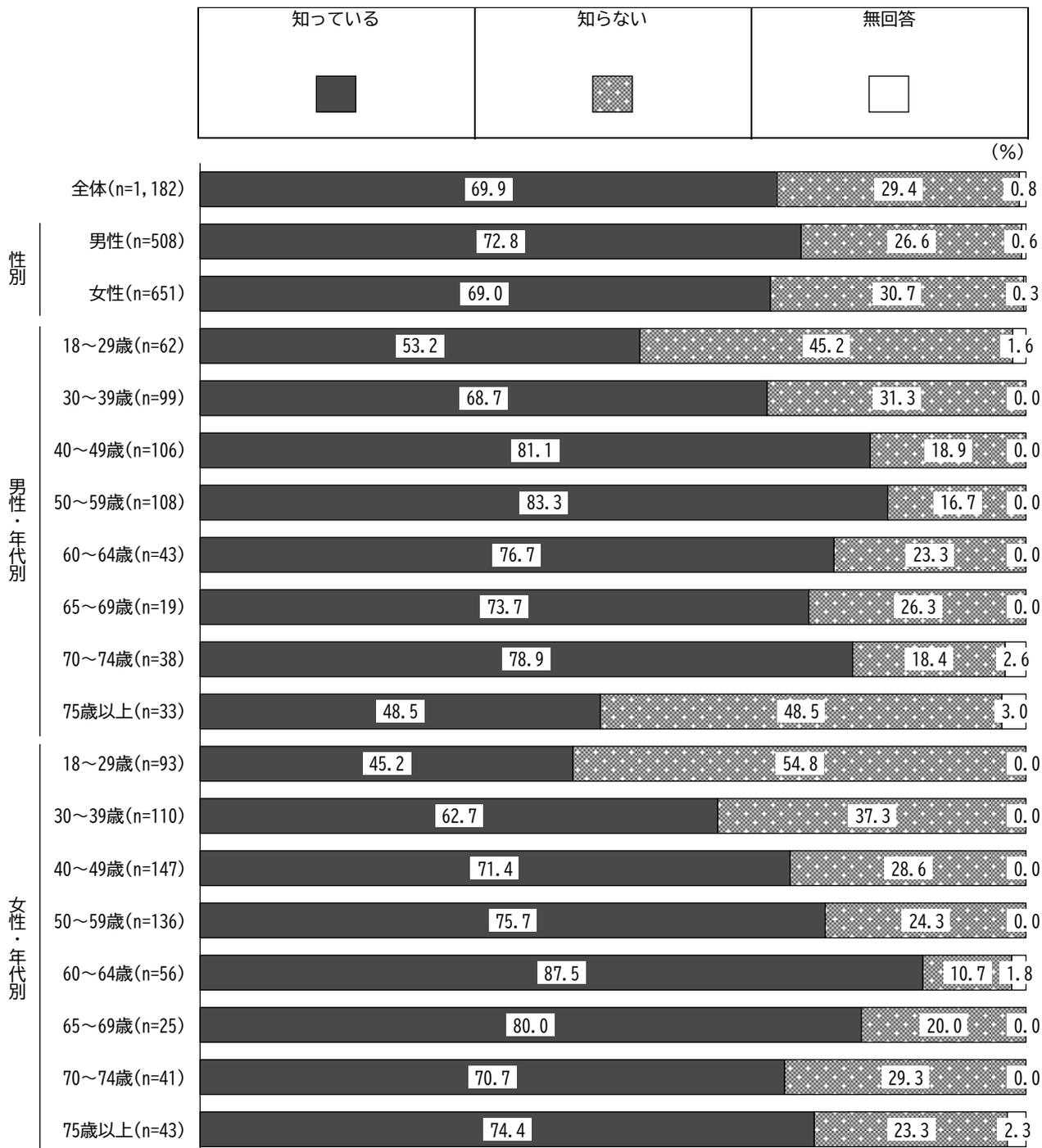
III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

V 調査票

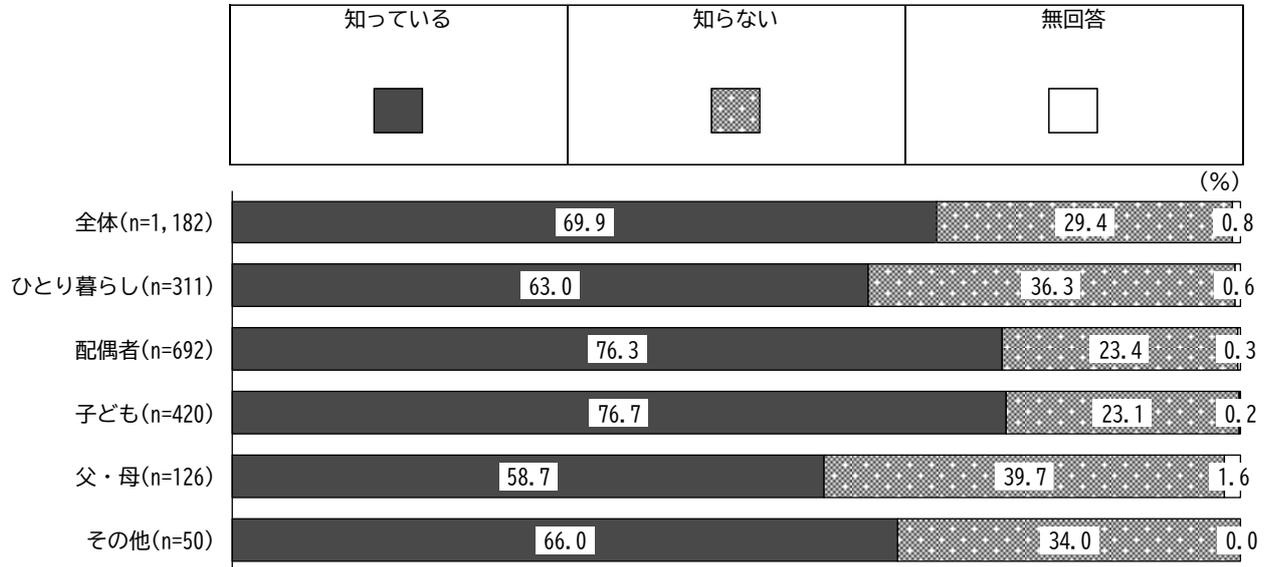
性・年代別にみると、「知っている」は女性60～64歳(87.5%)が8割台半ばを超えと最も高くなっている。一方で、「知らない」は女性18～29歳(54.8%)が5割台半ば近くと最も高くなっている。(図22-3-2)

図22-3-2 自宅周辺の災害リスクの認知度(性・年代別)



世帯構成別にみると、「知っている」は子どもがいる世帯(76.7%)が7割台半ばを超えと最も高く、一方で、「知らない」は父・母がいる世帯(39.7%)が4割弱と最も高くなっている。(図22-3-3)

図22-3-3 自宅周辺の災害リスクの認知度(世帯構成別)



I 調査の概要

II 調査結果の要約

III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

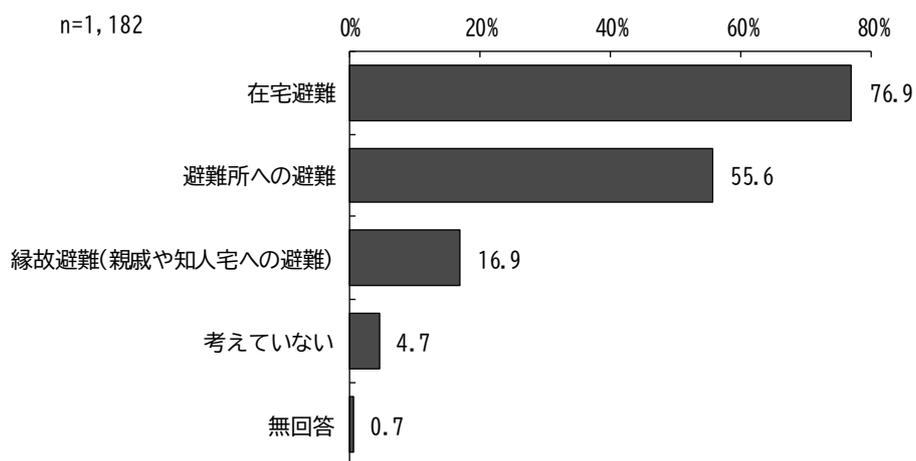
V 調査票

(4) 災害時の避難方法

◇「在宅避難」が7割台半ば超え

問61 あなたは、災害が起きた時どのような避難方法を考えていますか。(○はいくつでも)

図22-4-1 災害時の避難方法

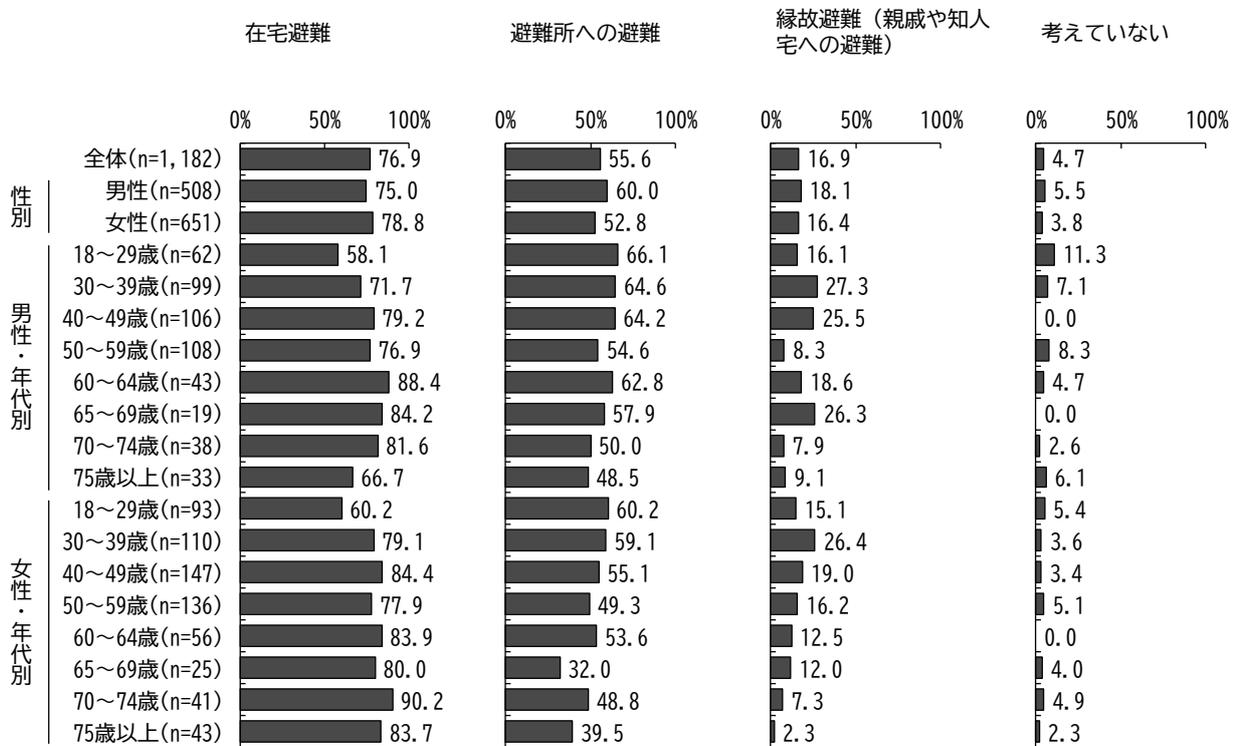


災害時の避難方法について聞いたところ、「在宅避難」(76.9%)が7割台半ば超えと最も高く、次いで「避難所への避難」(55.6%)が5割台半ばと高くなっている。

(図22-4-1)

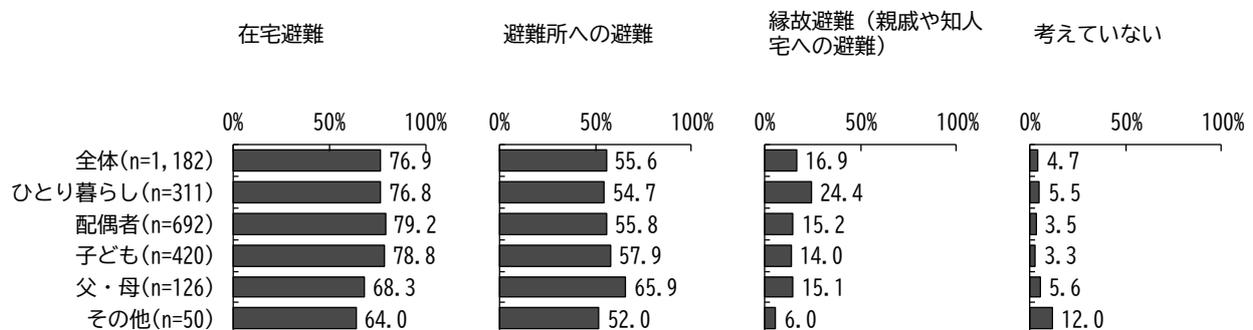
性・年代別にみると、「在宅避難」は女性70～74歳(90.2%)が約9割と最も高くなっている。「避難所への避難」は男性18～29歳(66.1%)が6割台半ばを超えと最も高くなっている。
(図22-4-2)

図22-4-2 災害時の避難方法（性・年代別）



世帯構成別にみると、「避難所への避難」は父・母がいる世帯(65.9%)が6割台半ばと最も高くなっている。(図22-4-3)

図22-4-3 災害時の避難方法（世帯構成別）

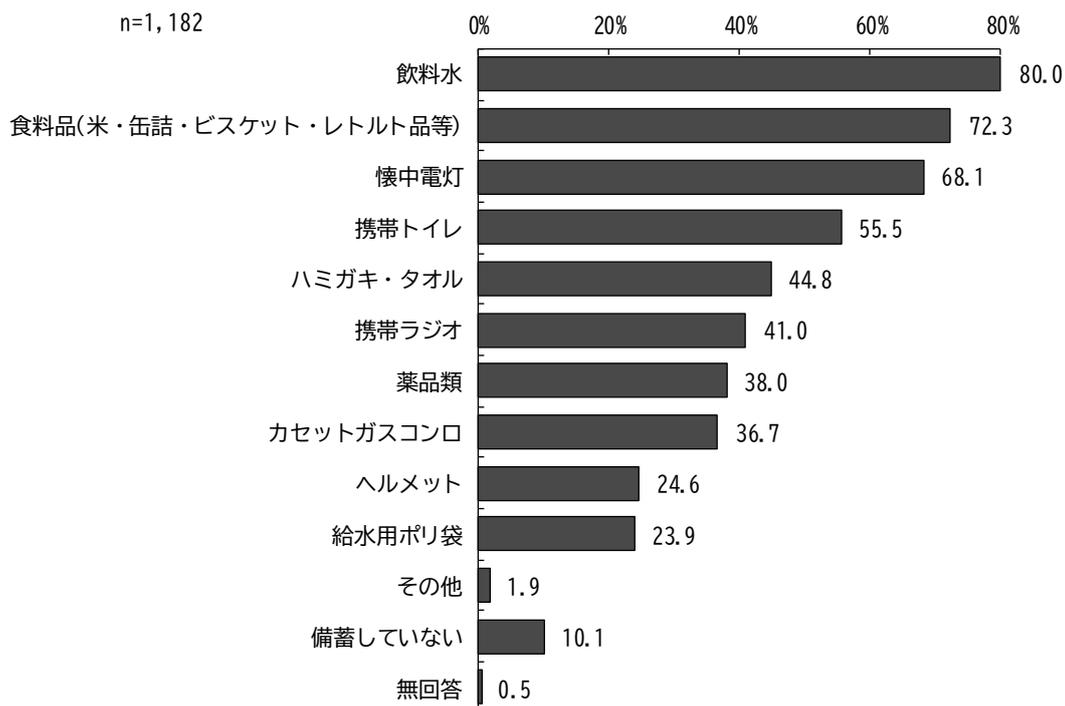


(5) 災害に備えた備蓄状況

◇「飲料水」が8割

問62 あなたのお宅では、地震等の災害に備えてどのようなものを備蓄していますか。
(〇はいくつでも)

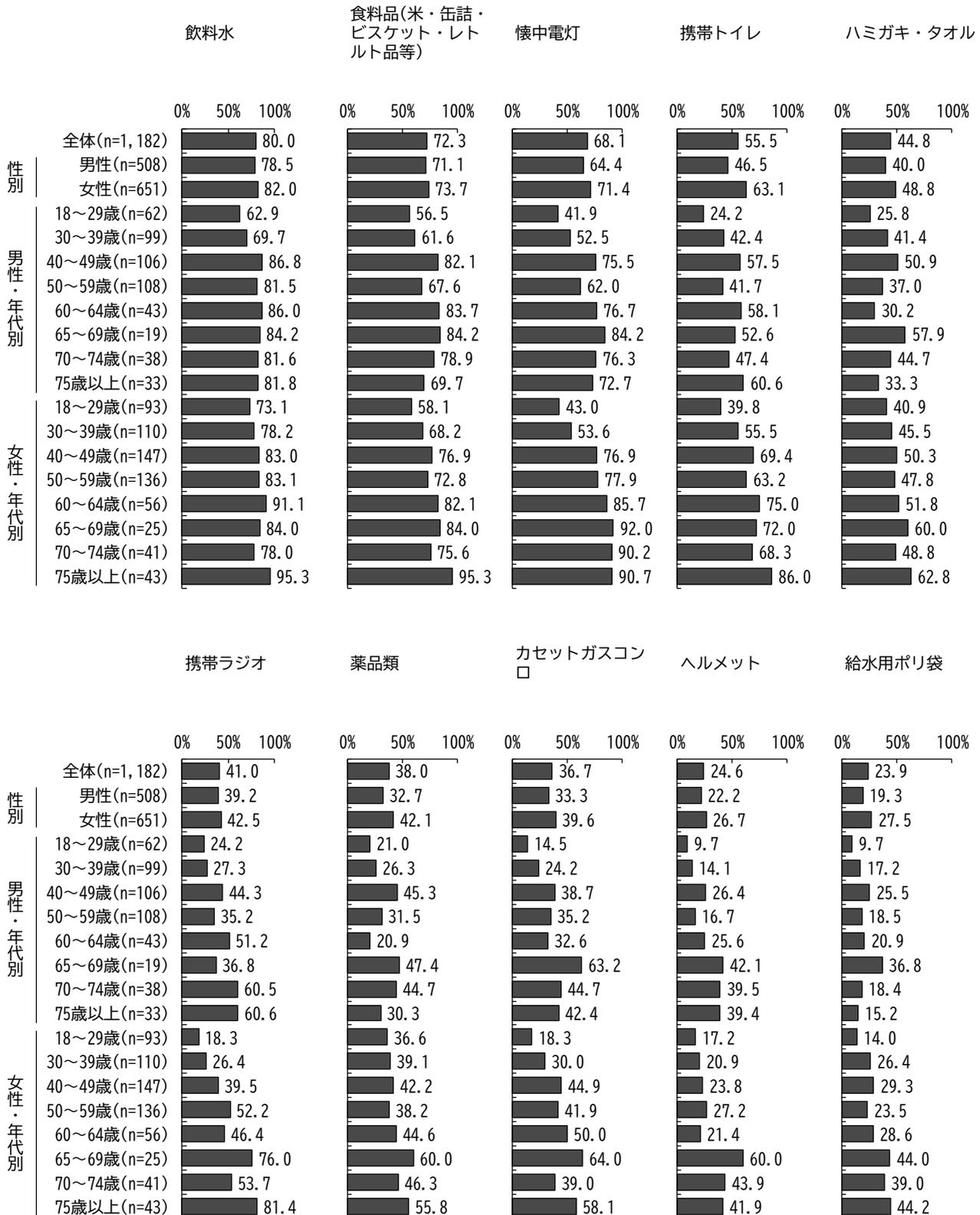
図22-5-1 災害に備えた備蓄状況



災害に備えた備蓄状況について聞いたところ、「飲料水」(80.0%)が8割と最も高く、次いで「食料品(米・缶詰・ビスケット・レトルト品等)」(72.3%)が7割強、「懐中電灯」(68.1%)が7割近く、「携帯トイレ」(55.5%)が5割台半ば、「ハミガキ・タオル」(44.8%)が4割台半ば近く、「携帯ラジオ」(41.0%)が4割強、「薬品類」(38.0%)が4割近く、「カセットガスコンロ」(36.7%)が3割台半ば超え、「ヘルメット」(24.6%)が2割台半ば近く、「給水用ポリ袋」(23.9%)が2割台半ば近くと高くなっている。(図22-5-1)

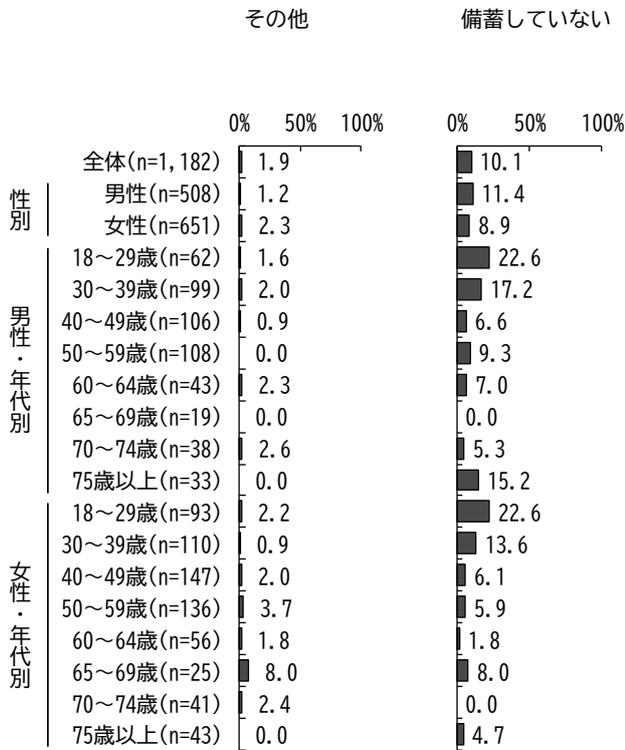
性・年代別にみると、「飲料水」「食料品（米・缶詰・ビスケット・レトルト品等）」ともに女性75歳以上(95.3%)が9割台半ばと最も高くなっている。「懐中電灯」は女性65～69歳(92.0%)が9割強と最も高く、「携帯トイレ」は女性75歳以上(86.0%)が8割台半ば超えと最も高くなっている。(図22-5-2-1)

図22-5-2-1 災害に備えた備蓄状況（性・年代別）（1）



「備蓄していない」は男性18～29歳(22.6%)、女性18～29歳(22.6%)が2割強と最も高くなっている。(図22-5-2-2)

図22-5-2-2 災害に備えた備蓄状況(性・年代別)(2)



I 調査の概要

II 調査結果の要約

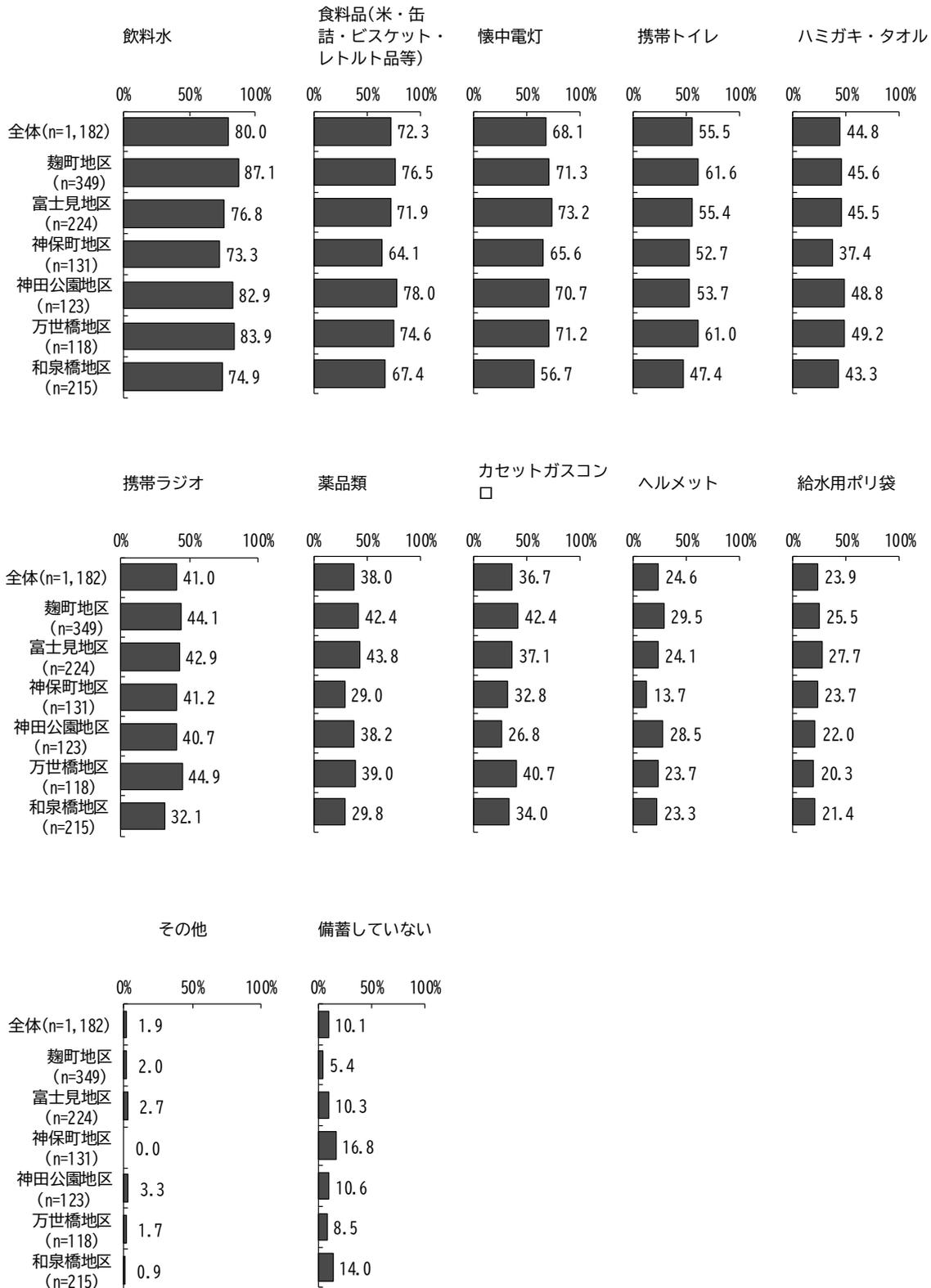
III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

V 調査票

地区別にみると、「飲料水」は麴町地区(87.1%)が8割台半ばを超えと最も高くなっている。また、「食料品(米・缶詰・ビスケット・レトルト品等)」は神田公園地区(78.0%)が8割近く、「携帯トイレ」は麴町地区(61.6%)が6割強と最も高くなっている。「携帯ラジオ」は万世橋地区(44.9%)が4割台半ば近くと最も高くなっている。(図22-5-3)

図22-5-3 災害に備えた備蓄状況(地区別)

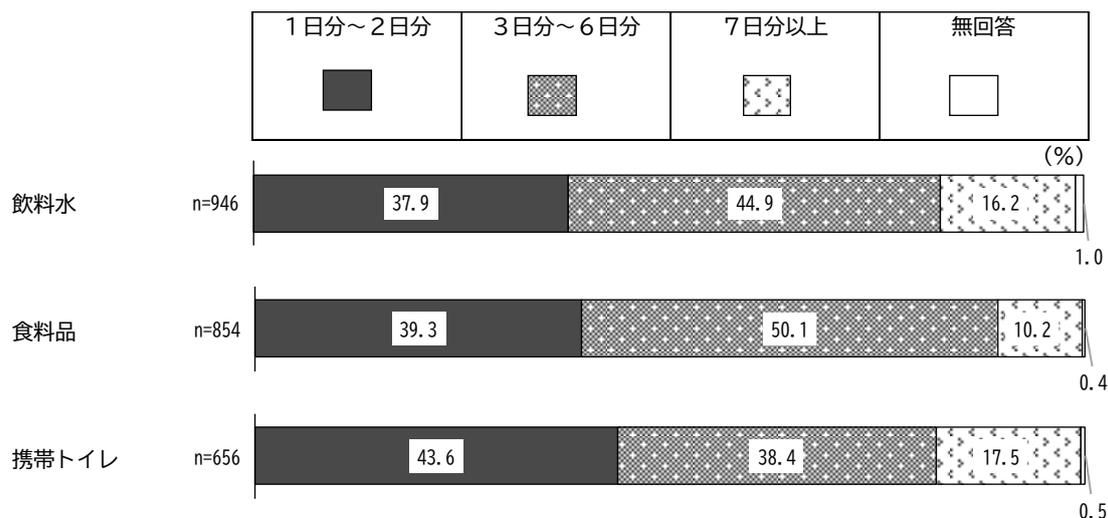


(5-1) 備蓄量

◇携帯トイレは「1日分～2日分」の割合が最も高い

問62-1～3 (問62で「1.飲料水」「2.食料品」「3.携帯トイレ」と回答の方)
 あなたのお宅では、災害に備えて何日分の飲料水・食料品・携帯トイレを
 備蓄していますか。(○は1つ)

図22-5-4 備蓄量



“飲料水”について聞いたところ、「3日分～6日分」(44.9%)が4割台半ば近くと最も高く、次いで「1日分～2日分」(37.9%)が3割台半ばを超えと高くなっている。

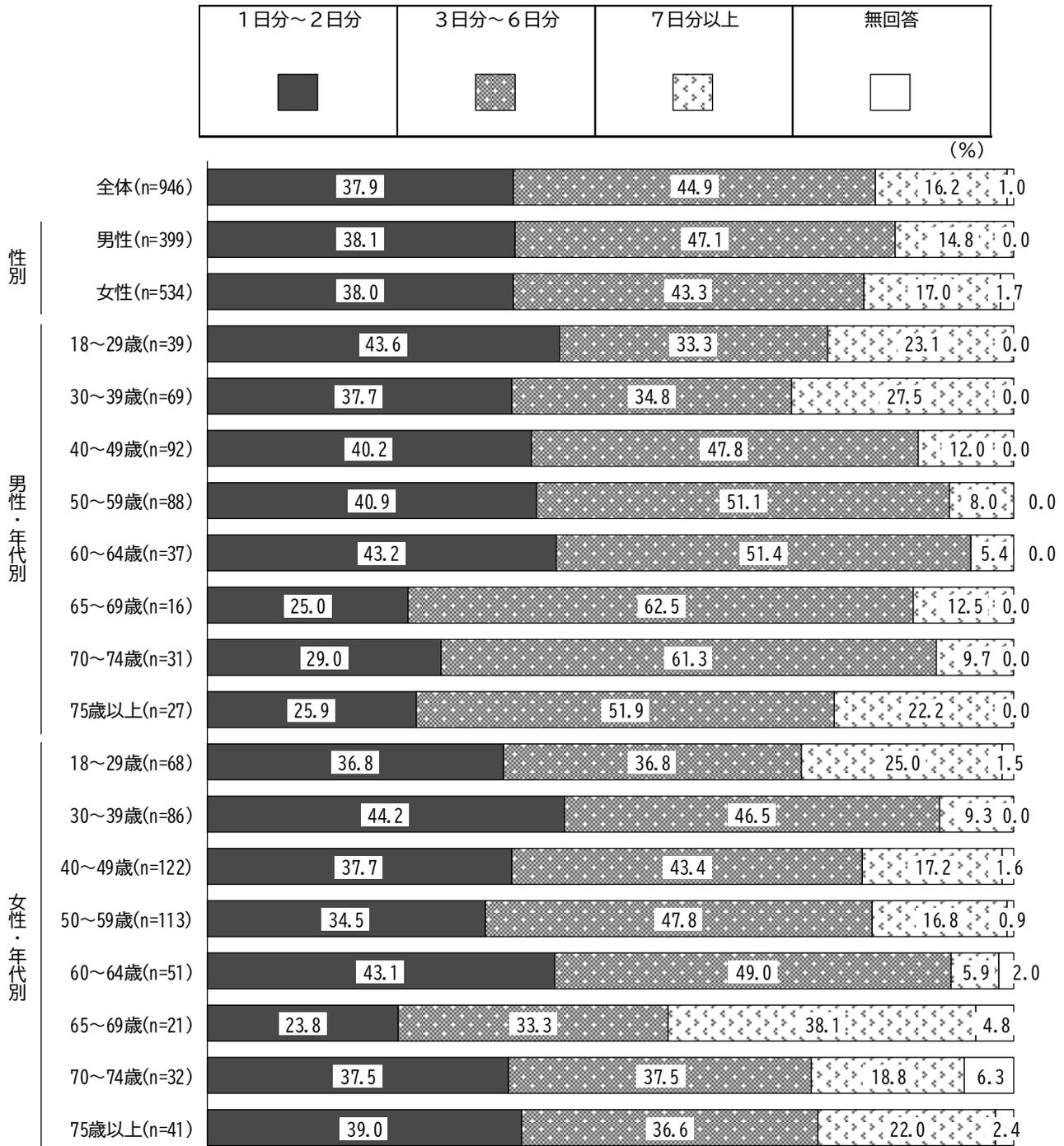
“食料品”について聞いたところ、「3日分～6日分」(50.1%)が約5割と最も高く、次いで「1日分～2日分」(39.3%)が4割弱と高くなっている。

“携帯トイレ”について聞いたところ、「1日分～2日分」(43.6%)が4割台半ば近くと最も高く、次いで「3日分～6日分」(38.4%)が4割近くと高くなっている。

(図22-5-4)

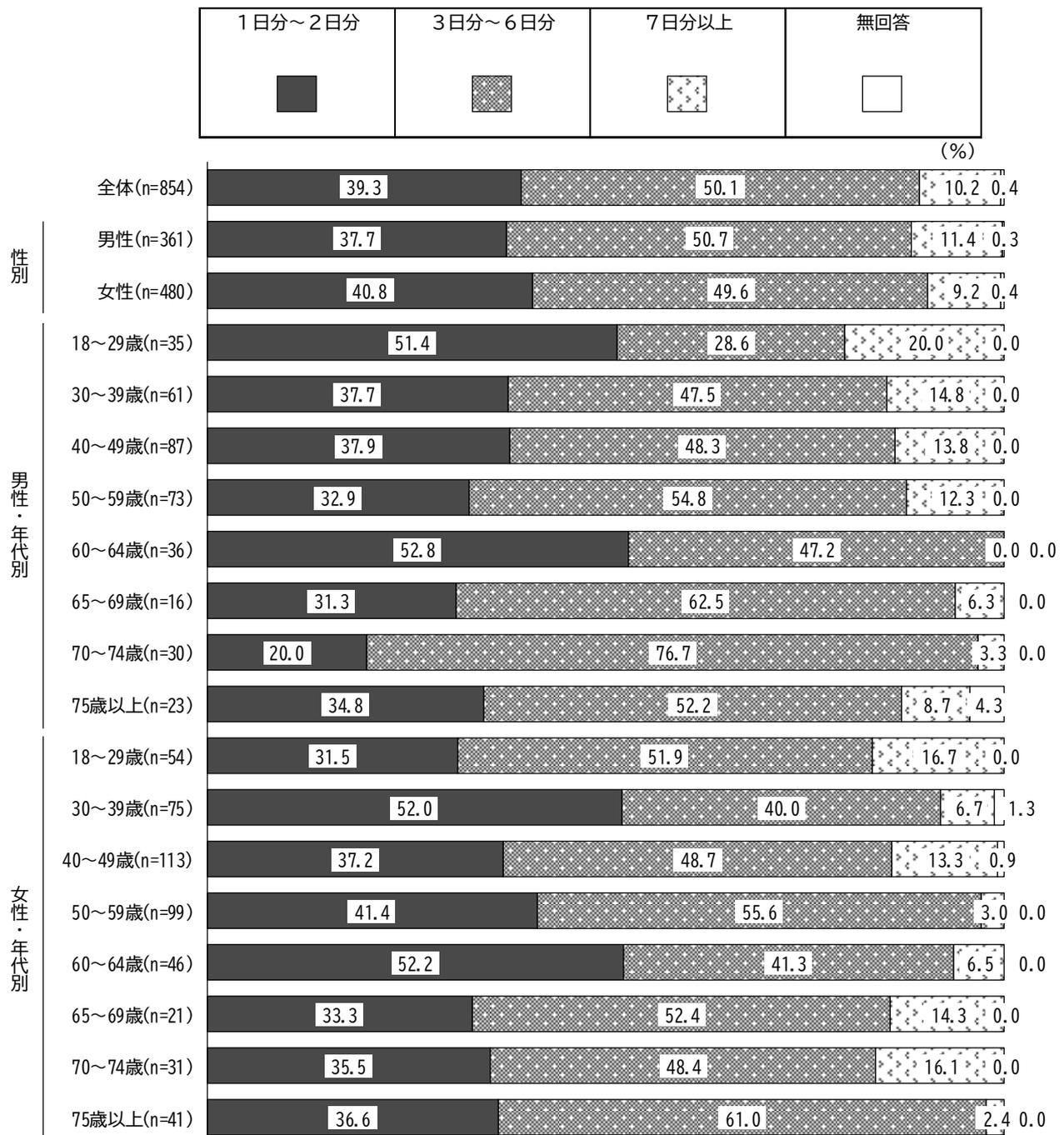
性・年代別に“飲料水”の備蓄量をみると、「1日分～2日分」は女性30～39歳(44.2%)が4割台半ば近くと最も高くなっている。「3日分～6日分」は男性65～69歳(62.5%)が6割強と最も高く、男性70～74歳(61.3%)が6割強と高くなっている。「7日分以上」は女性65～69歳(38.1%)が4割近くと最も高くなっている。(図22-5-5)

図22-5-5 飲料水の備蓄量 (性・年代別)



性・年代別に“食料品”の備蓄量をみると、「1日分～2日分」は男性60～64歳(52.8%)が5割強と最も高くなっている。「3日分～6日分」は男性70～74歳(76.7%)が7割台半ばを超えと最も高くなっている。「7日分以上」は男性18～29歳(20.0%)が2割と最も高くなっている。(図22-5-6)

図22-5-6 食料品の備蓄量 (性・年代別)



I 調査の概要

II 調査結果の要約

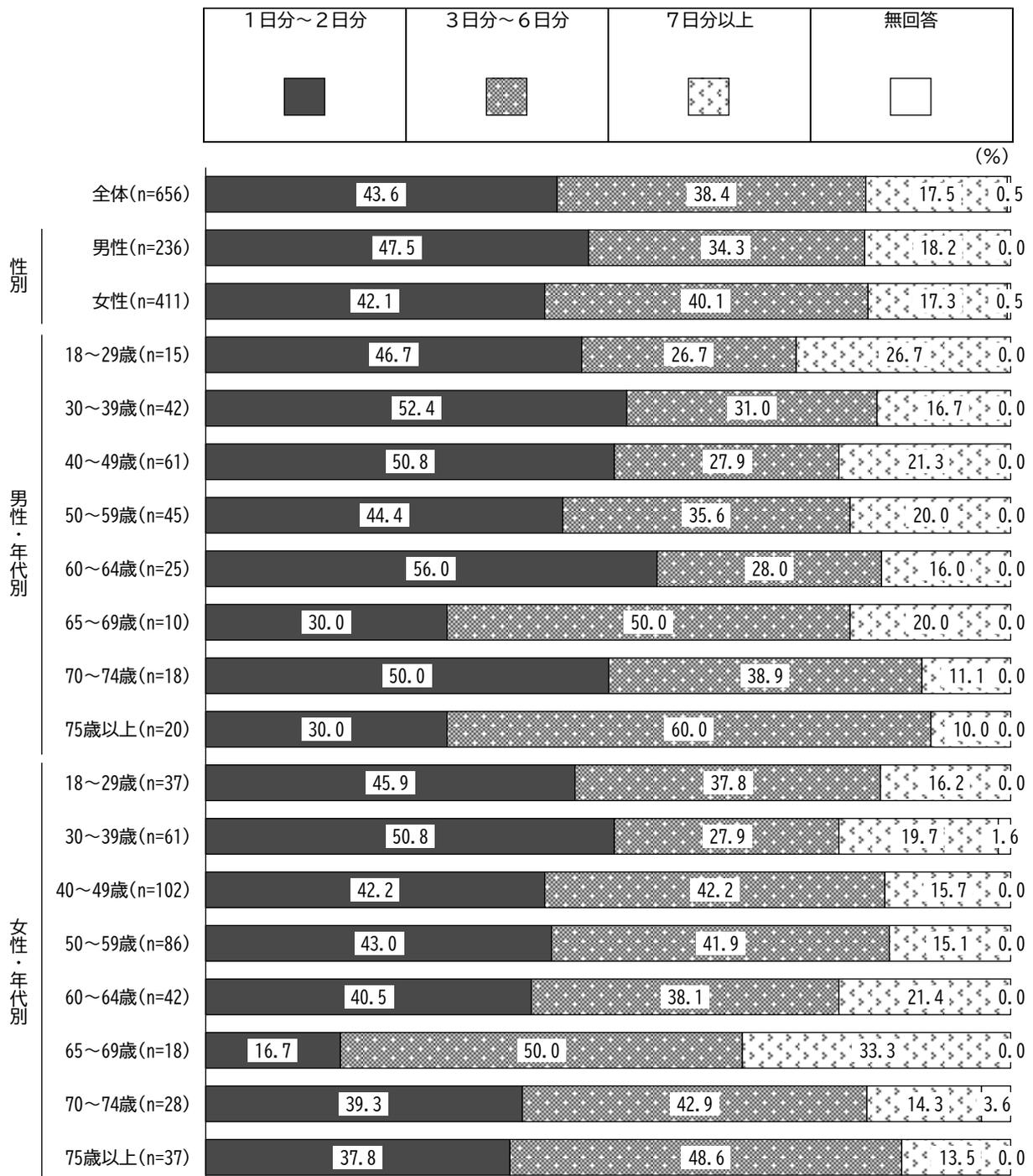
III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

V 調査票

性・年代別に“携帯トイレ”の備蓄量をみると、「1日分～2日分」は男性60～64歳(56.0%)が5割台半ばを超えと最も高くなっている。「3日分～6日分」は男性75歳以上(60.0%)が6割と最も高くなっている。「7日分以上」は女性65～69歳(33.3%)が3割台半ば近くとなっている。(図22-5-7)

図22-5-7 携帯トイレの備蓄量(性・年代別)

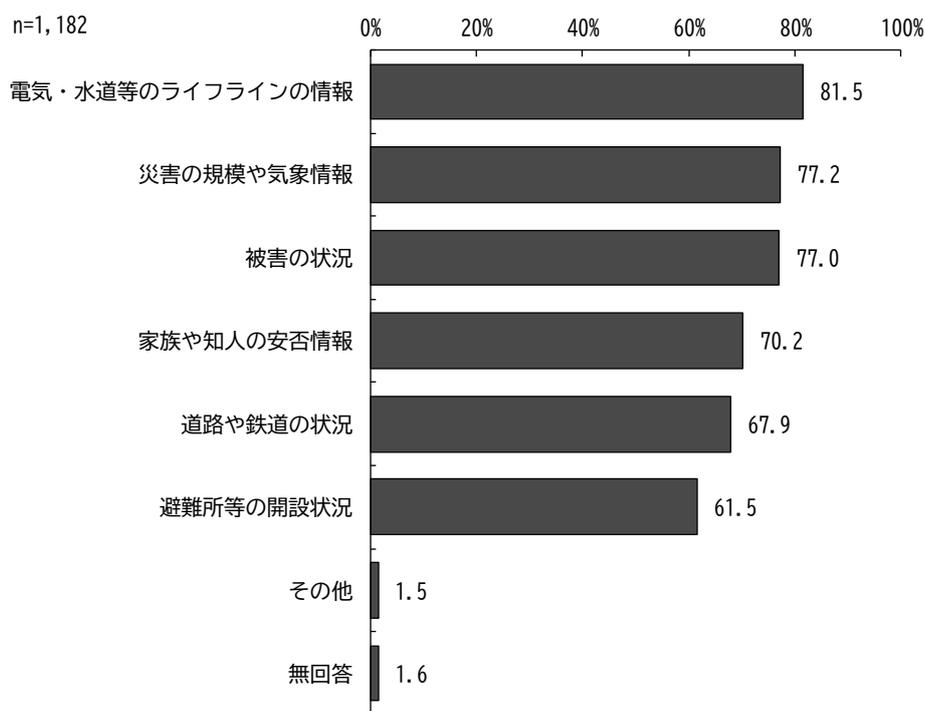


(6) 災害発生時に知りたい情報

◇「電気・水道等のライフラインの情報」が8割強

問63 災害が発生したときに、特に知りたい情報は何ですか。(〇はいくつでも)

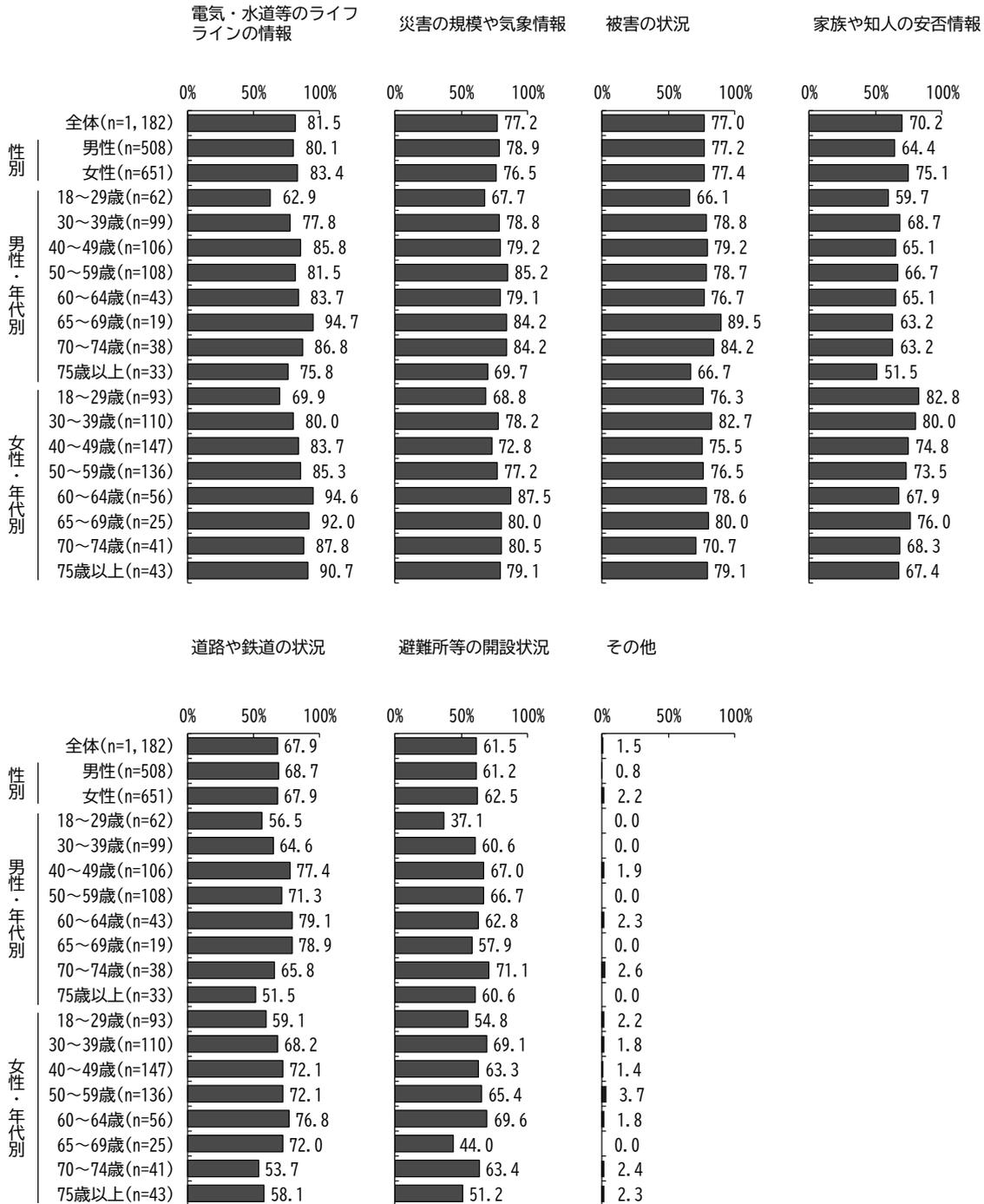
図22-6-1 災害発生時に知りたい情報



災害発生時に知りたい情報について聞いたところ、「電気・水道等のライフラインの情報」(81.5%)が8割強と最も高く、次いで「災害の規模や気象情報」(77.2%)が7割台半ばを超え、「被害の状況」(77.0%)が7割台半ばを超え、「家族や知人の安否情報」(70.2%)が約7割、「道路や鉄道の状況」(67.9%)が6割台半ばを超え、「避難所等の開設状況」(61.5%)が6割強と高くなっている。(図22-6-1)

性・年代別にみると、「電気・水道等のライフラインの情報」は男性65～69歳(94.7%)が9割台半ば近くと最も高くなっている。「災害の規模や気象情報」は女性60～64歳(87.5%)が8割台半ば超え、「被害の状況」は男性65～69歳(89.5%)が9割弱と最も高くなっている。「家族や知人の安否情報」は女性18～29歳(82.8%)で8割強、「道路や鉄道の状況」は男性60～64歳(79.1%)が8割弱と最も高くなっている。(図22-6-2)

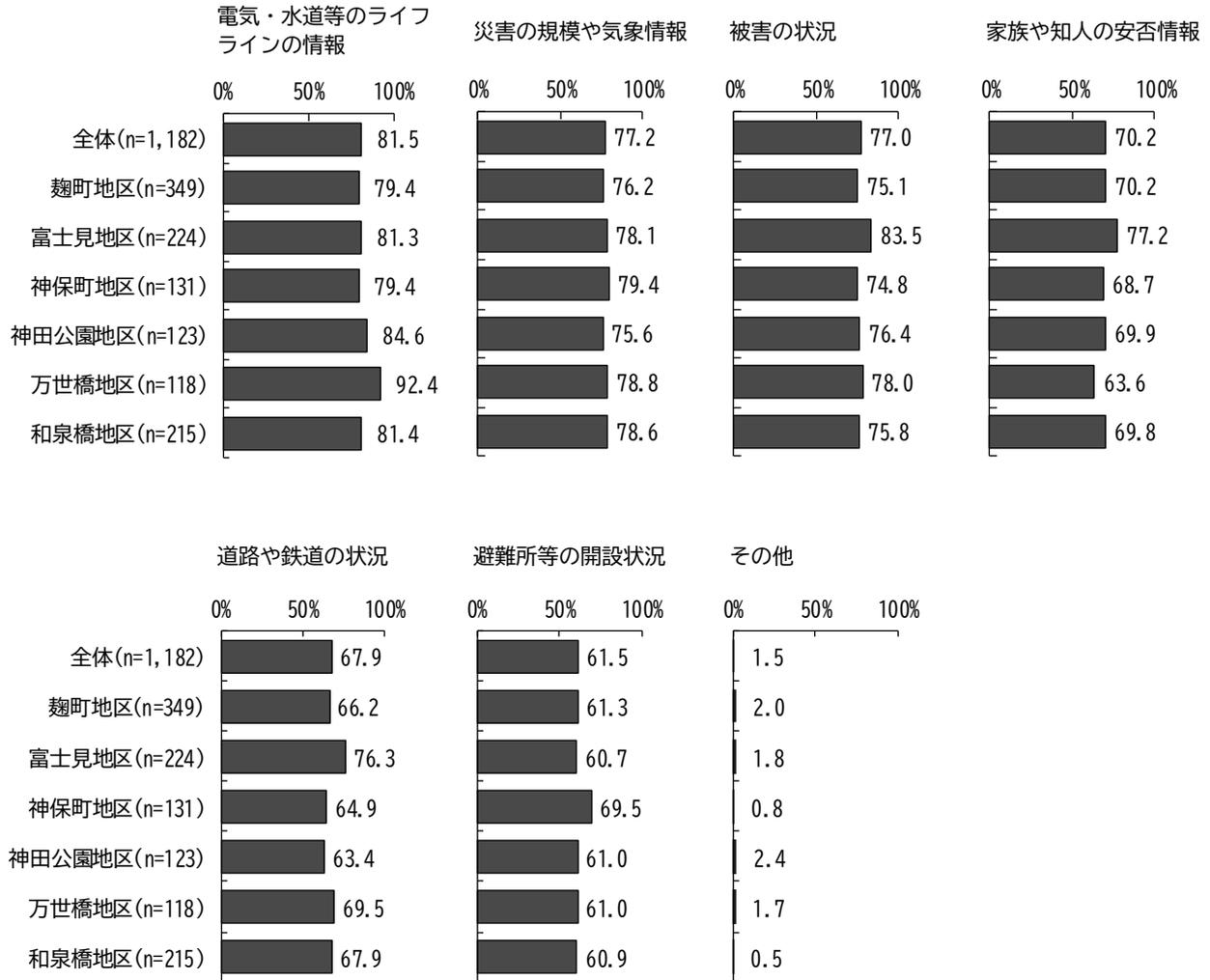
図22-6-2 災害発生時に知りたい情報（性・年代別）



地区別にみると、「電気・水道等のライフラインの情報」は万世橋地区(92.4%)で9割強と最も高くなっている。「被害の状況」は富士見地区(83.5%)が8割台半ば近く、「道路や鉄道の状況」も富士見地区(76.3%)が7割台半ば超えと最も高くなっている。

(図22-6-3)

図22-6-3 災害発生時に知りたい情報（地区別）



I

調査の概要

II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

IV

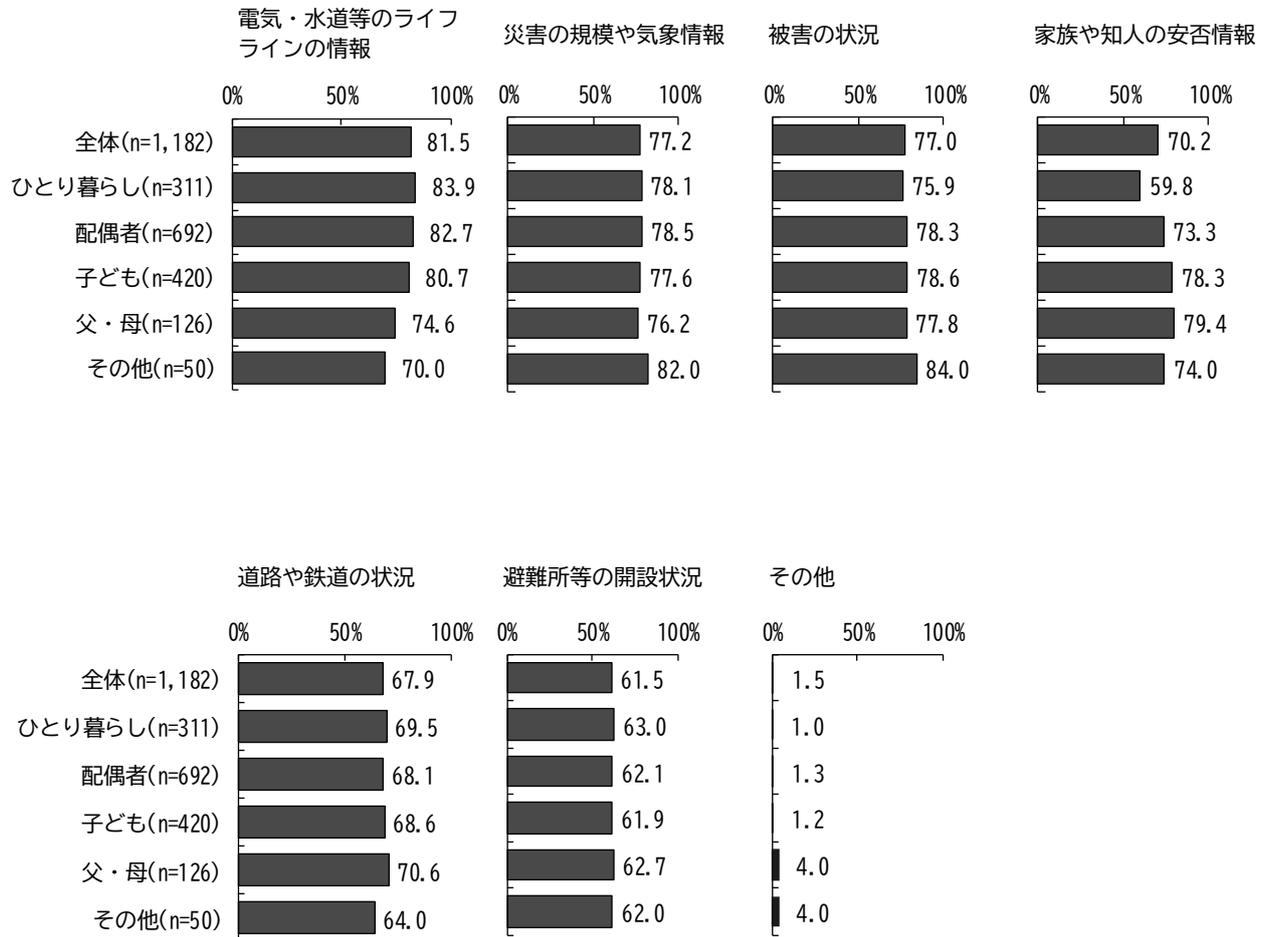
調査結果の数表

V

調査票

世帯構成別にみると、「電気・水道等のライフラインの情報」はひとり暮らし(83.9%)が8割台半ば近くと最も高くなっている。また、「家族や知人の安否情報」は父・母のいる世帯(79.4%)が8割弱と最も高くなっている。(図22-6-4)

図22-6-4 災害発生時に知りたい情報（世帯構成別）



I 調査の概要

II 調査結果の要約

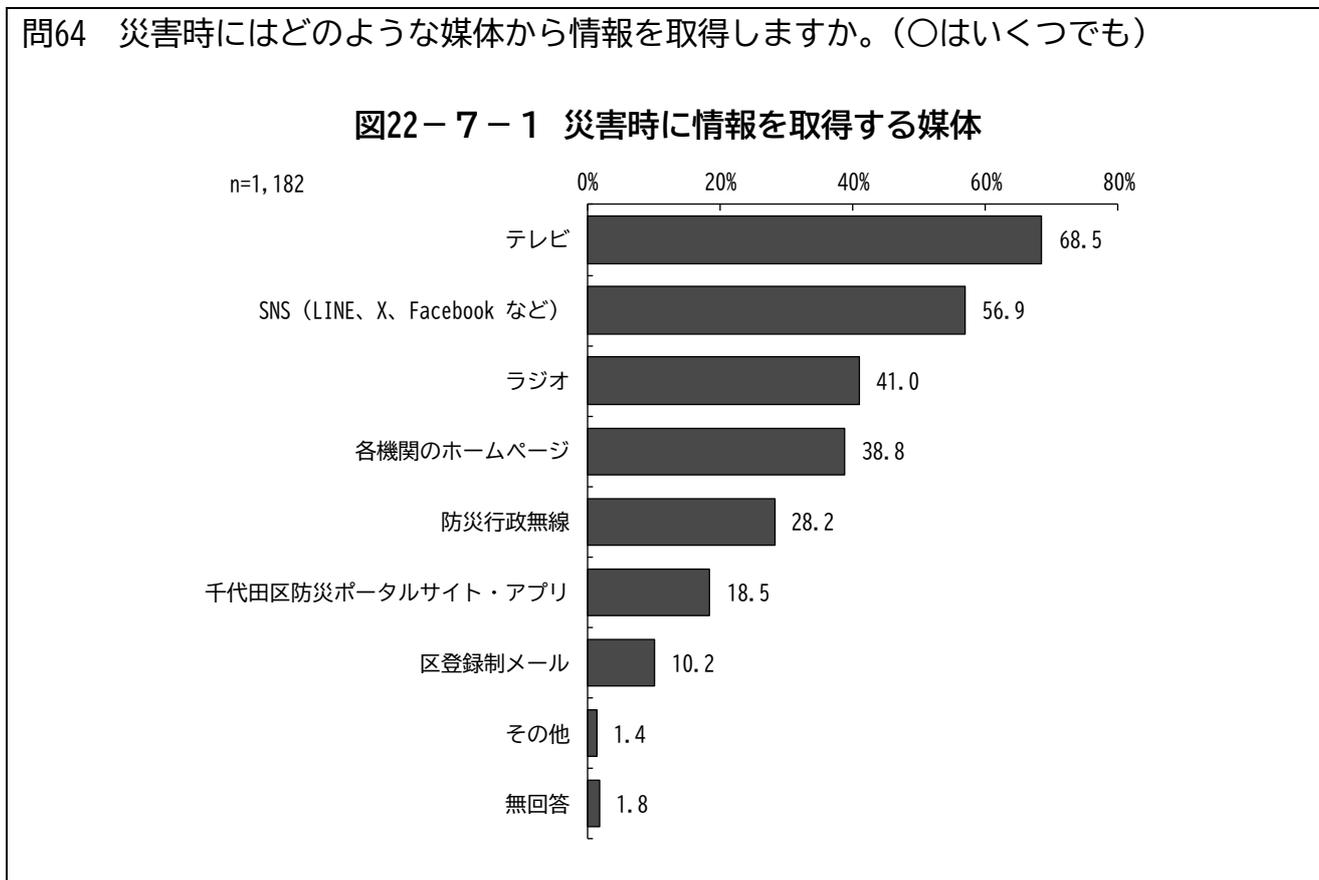
III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

V 調査票

(7) 災害時に情報を取得する媒体

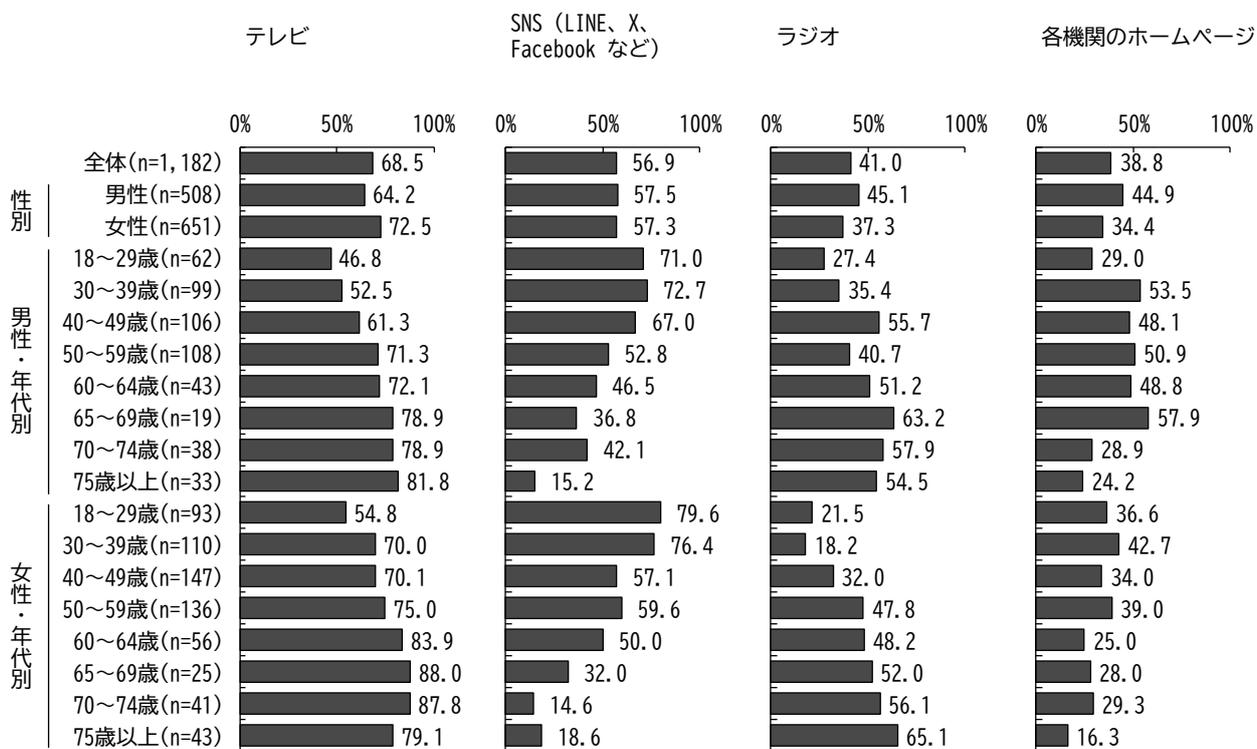
◇「テレビ」が7割近く



災害時に情報を取得する媒体について聞いたところ、「テレビ」(68.5%)が7割近くと最も高く、次いで「SNS (LINE、X、Facebook など)」(56.9%)が5割台半ばを超え、「ラジオ」(41.0%)が4割強、「各機関のホームページ」(38.8%)が4割近く、「防災行政無線」(28.2%)が3割近くと高くなっている。(図22-7-1)

性・年代別にみると、「テレビ」は女性65～69歳(88.0%)が9割近くと最も高く、「SNS (LINE、X、Facebook など)」は女性18～29歳(79.6%)が8割弱と最も高くなっている。「ラジオ」は女性75歳以上(65.1%)が6割台半ばと最も高く、「各機関のホームページ」は男性65～69歳(57.9%)が5割台半ば超えと最も高くなっている。(図22-7-2-1)

図22-7-2-1 災害時に情報を取得する媒体 (性・年代別) (1)



I 調査の概要

II 調査結果の要約

III 調査結果の分析

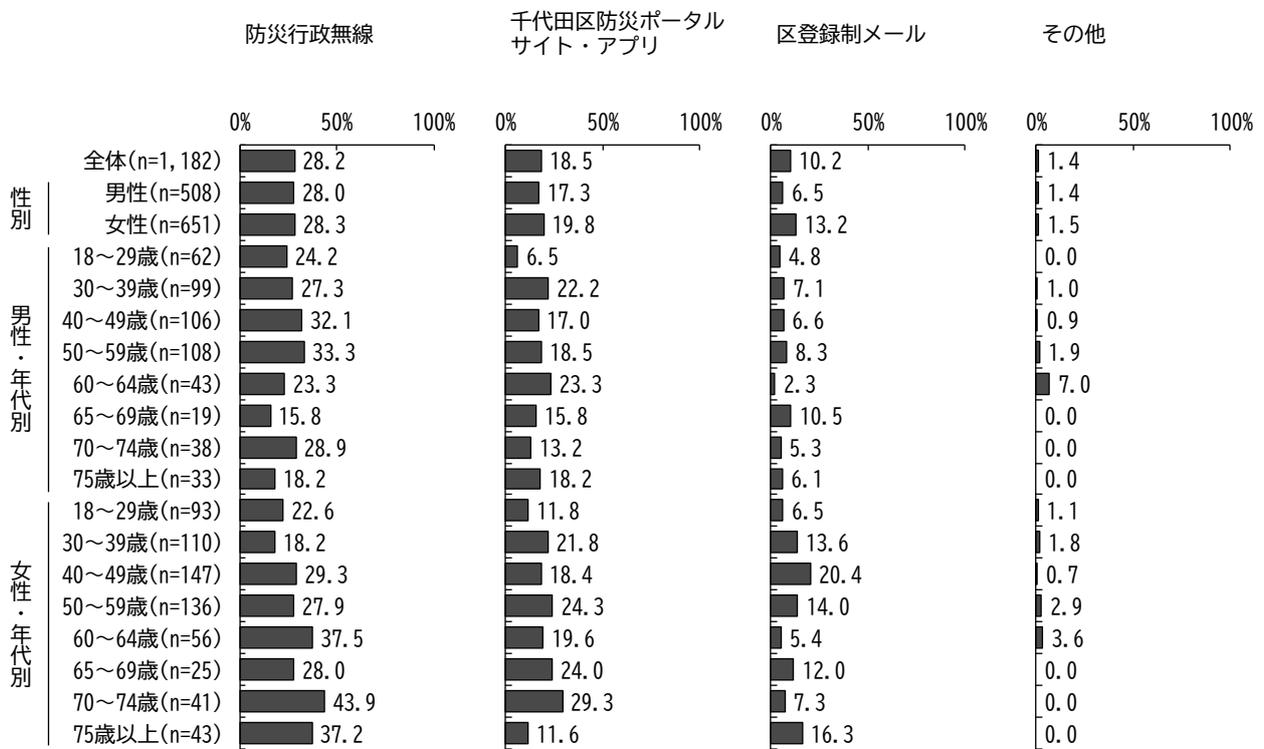
IV 調査結果の数表

V 調査票

「防災行政無線」は女性70～74歳(43.9%)が4割台半ば近くと最も高くなっている。

(図22-7-2-2)

図22-7-2-2 災害時に情報を取得する媒体（性・年代別）（2）



I

調査の概要

II

調査結果の要約

III

調査結果の分析

IV

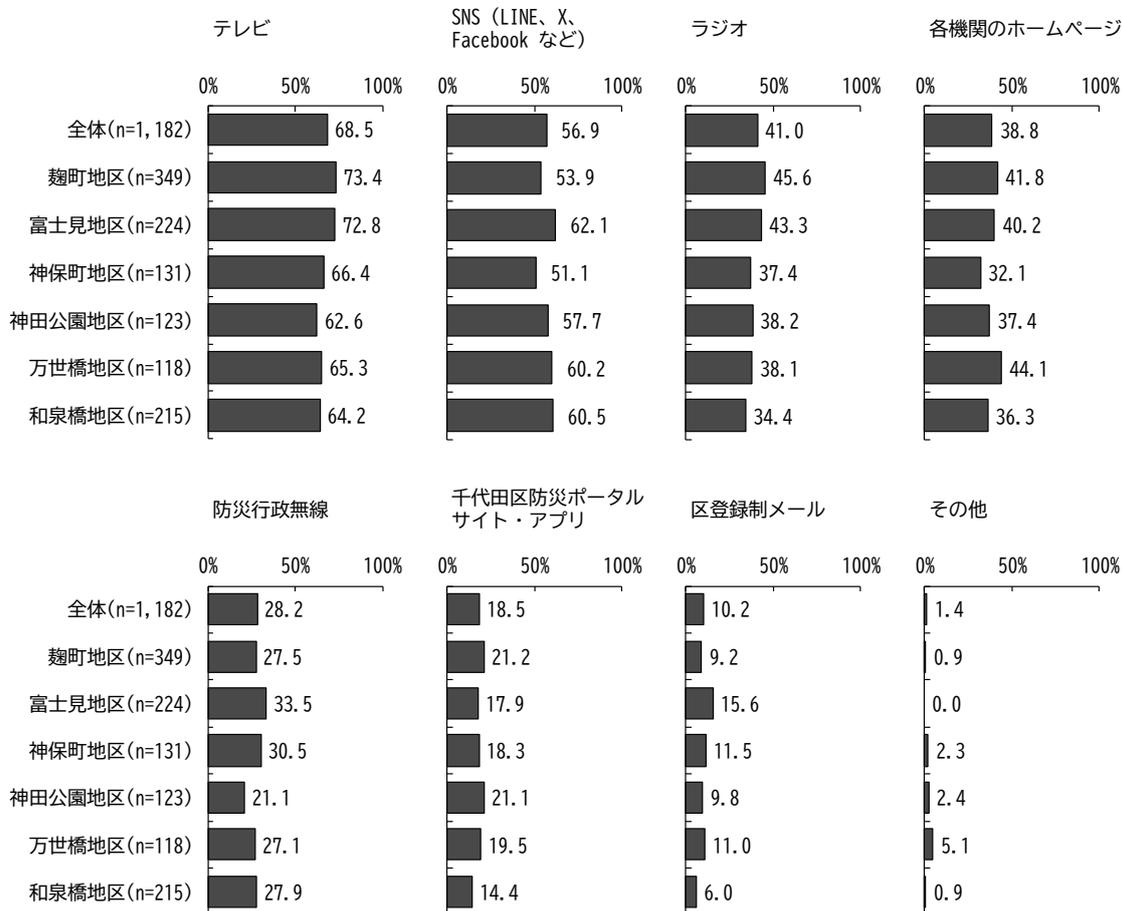
調査結果の数表

V

調査票

地区別にみると、「テレビ」は麴町地区(73.4%)が7割台半ば近くと最も高くなっている。また、「SNS (LINE、X、Facebook など)」は富士見地区(62.1%)が6割強と最も高くなっている。(図22-7-3)

図22-7-3 災害時に情報を取得する媒体 (地区別)



I 調査の概要

II 調査結果の要約

III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

V 調査票

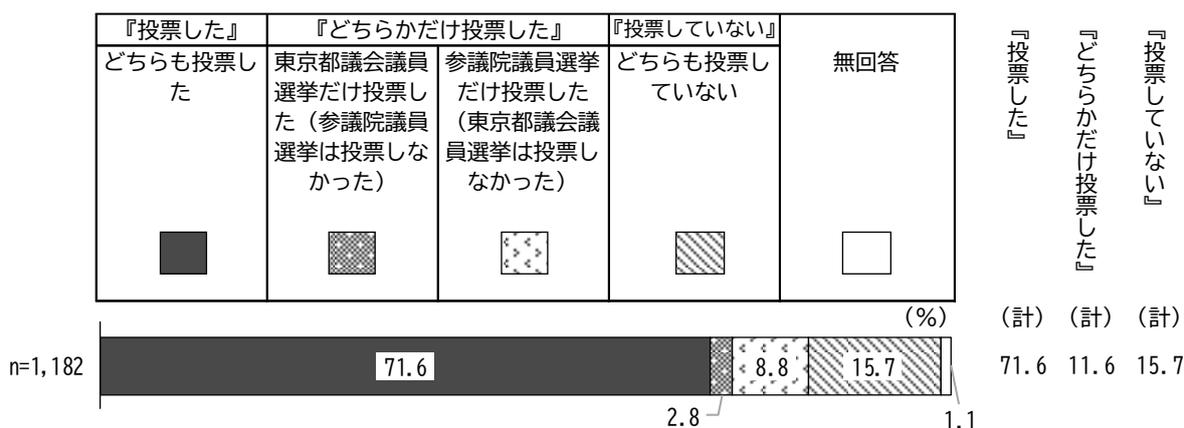
23. 選挙の投票に行く理由・行かない理由

(1) 都議選および参院選の投票の有無

◇「どちらも投票した」が7割強

問65 令和7年6月22日に東京都議会議員選挙、令和7年7月20日に参議院議員選挙がありました。投票しましたか。(○は1つ)

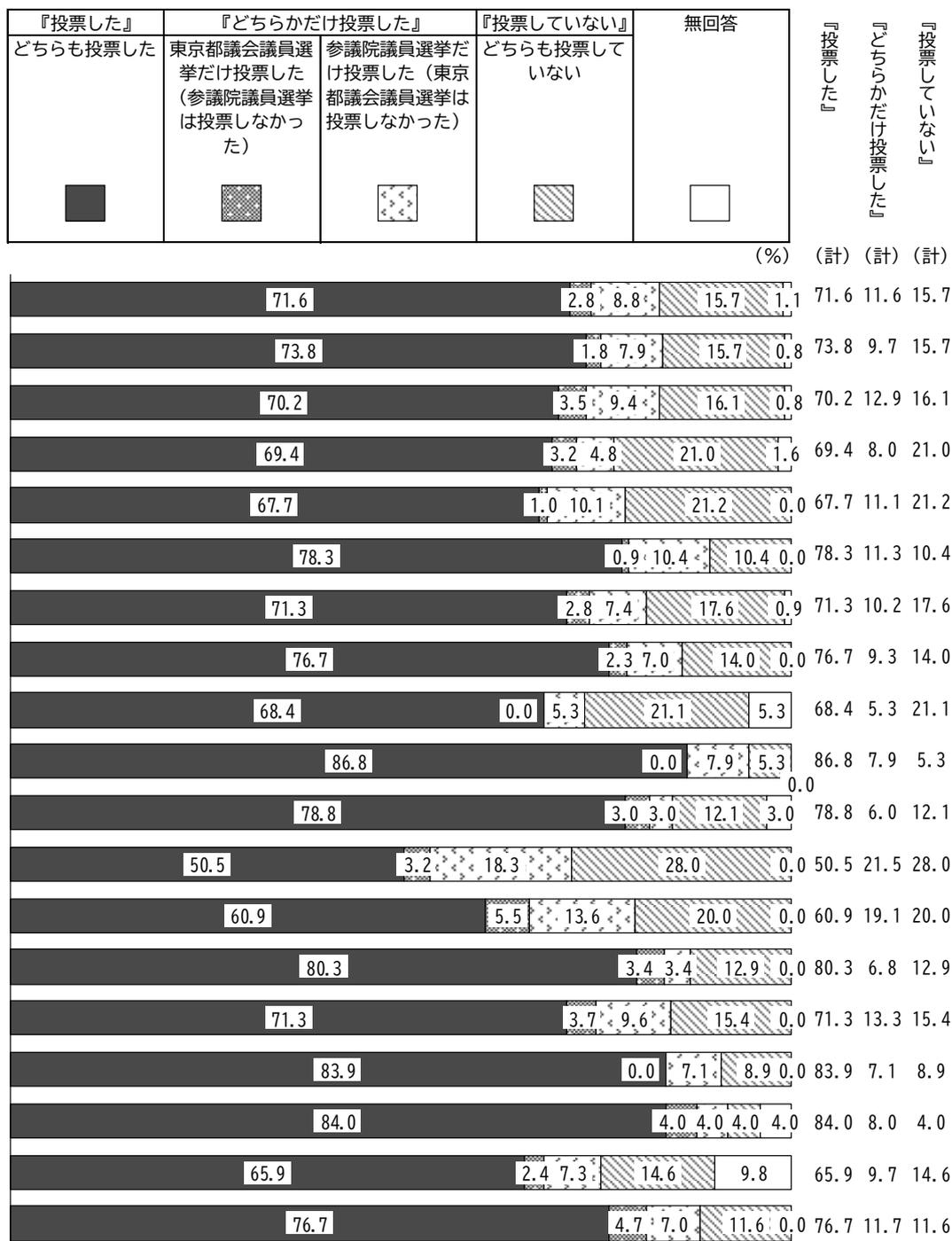
図23-1-1 都議選および参院選の投票の有無



都議選および参院選の投票の有無について聞いたところ、「どちらも投票した」(71.6%)が7割強と最も高く、「都議選だけ投票した」または「参院選だけ投票した」を合わせた『どちらかだけ投票した』(11.6%)が1割強となっている。一方で、「どちらも投票していない」(15.7%)が1割台半ばとなっている。(図23-1-1)

性・年代別にみると、「どちらも投票した」は男性70～74歳(86.8%)が8割台半ば超えと最も高く、「都議選だけ投票した」または「参院選だけ投票した」を合わせた『どちらかだけ投票した』は女性18～29歳(21.5%)が2割強、「どちらも投票していない」は女性18～29歳(28.0%)が3割近くと最も高くなっている。(図23-1-2)

図23-1-2 都議選および参院選の投票の有無(性・年代別)



I 調査の概要

II 調査結果の要約

III 調査結果の分析

IV 調査結果の数表

V 調査票

性別

男性・年代別

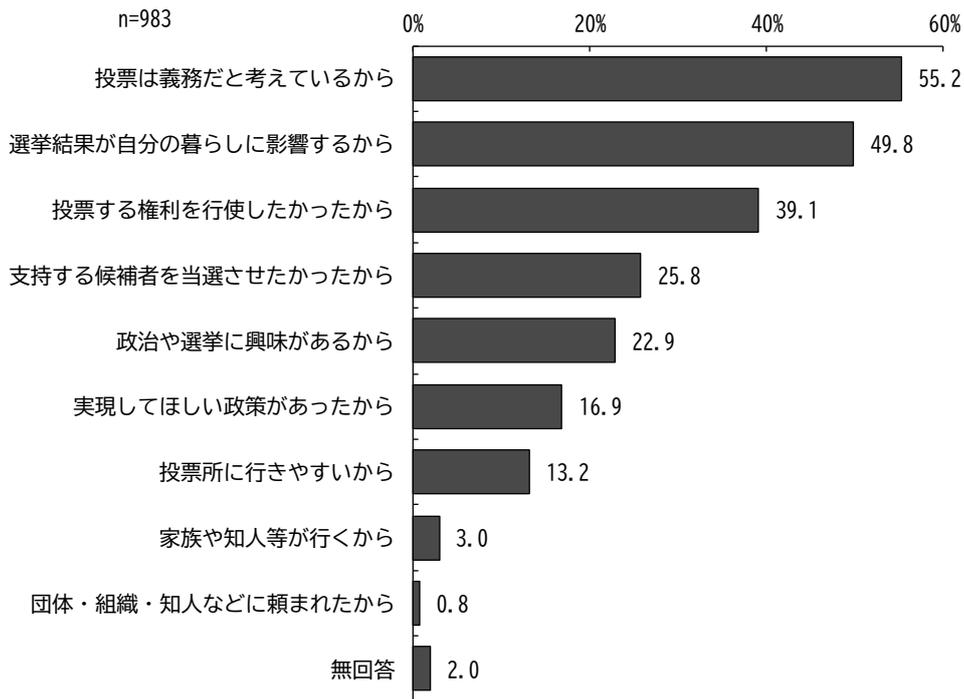
女性・年代別

(1-1) 都議選および参院選に投票した理由

◇「投票は義務だと考えているから」が5割台半ば

問65-1 (問65で「1. どちらも投票した」「2. 東京都議会議員選挙だけ投票した」「3. 参議院議員選挙だけ投票した」と回答の方)
投票した理由で該当するものをご選択ください。(○は3つまで)

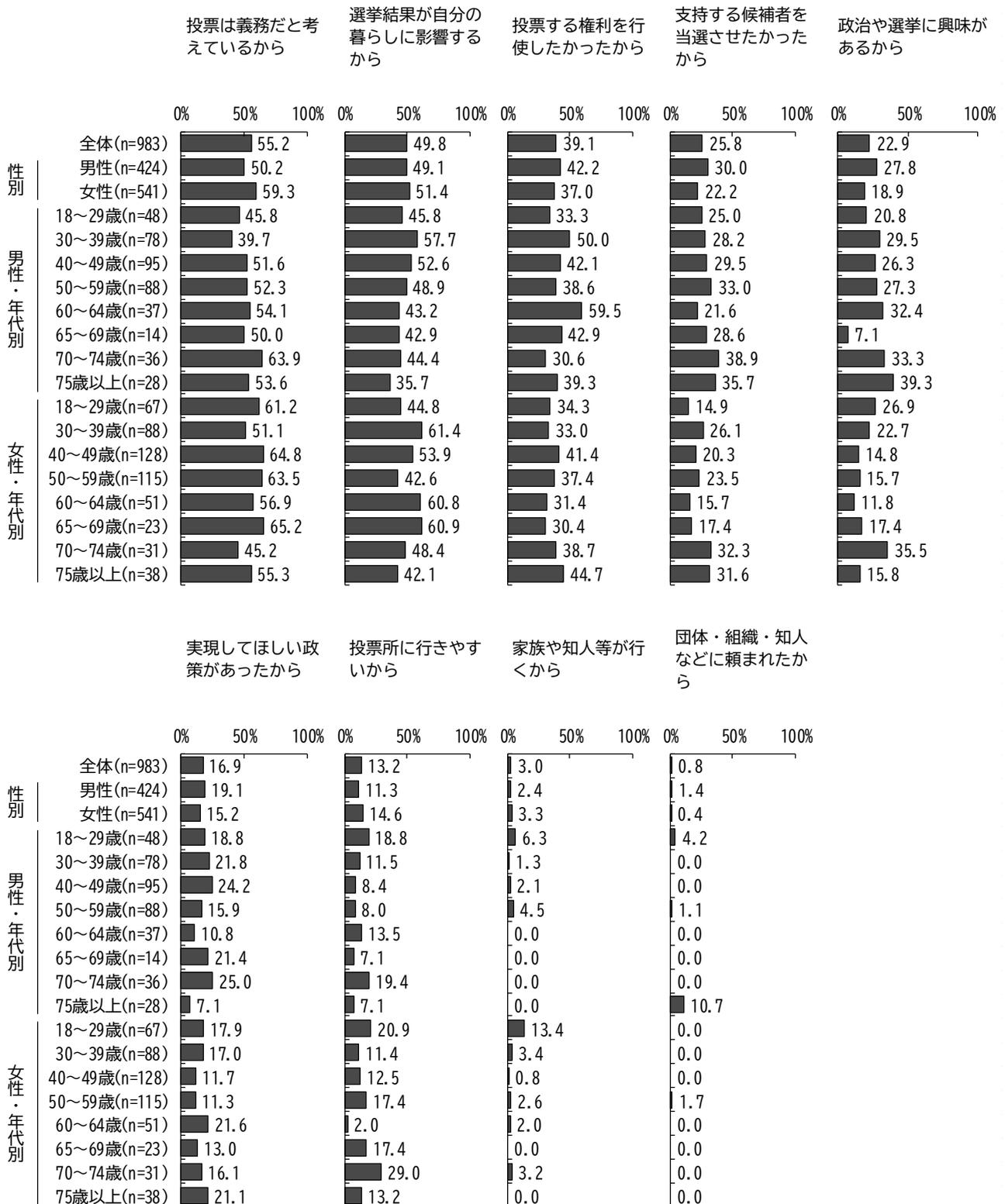
図23-1-3 都議選および参院選に投票した理由



都議選および参院選のどちらか、あるいはどちらも投票した人に投票した理由を聞いたところ、「投票は義務だと考えているから」(55.2%)が5割台半ばと最も高く、次いで「選挙結果が自分の暮らしに影響するから」(49.8%)が5割弱、「投票する権利を行使したかったから」(39.1%)が4割弱となっている。(図23-1-3)

性・年代別にみると、「投票は義務だと考えているから」は女性65～69歳(65.2%)が6割台半ばと最も高く、次いで女性40～49歳(64.8%)が6割台半ば近くと高くなっている。「選挙結果が自分の暮らしに影響するから」は女性30～39歳(61.4%)が6割強と最も高くなっている。(図23-1-4)

図23-1-4 都議選および参院選に投票した理由(性・年代別)

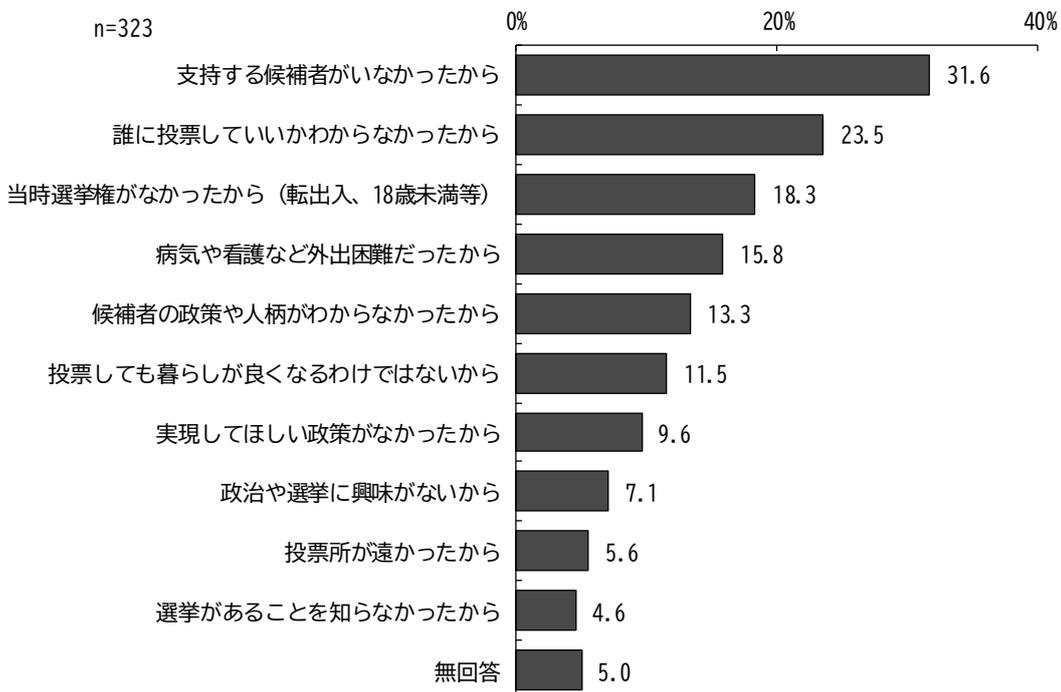


(1-2) 都議選および参院選に投票しなかった理由

◇「支持する候補者がいなかったから」が3割強

問65-2 (問65で「2.東京都議会議員選挙だけ投票した(参議院議員選挙は投票しなかった)」「3.参議院議員選挙だけ投票した(東京都議会議員選挙は投票しなかった)」「4.どちらも投票していない」と回答の方)
投票しなかった理由で該当するものをご選択ください。(○は3つまで)

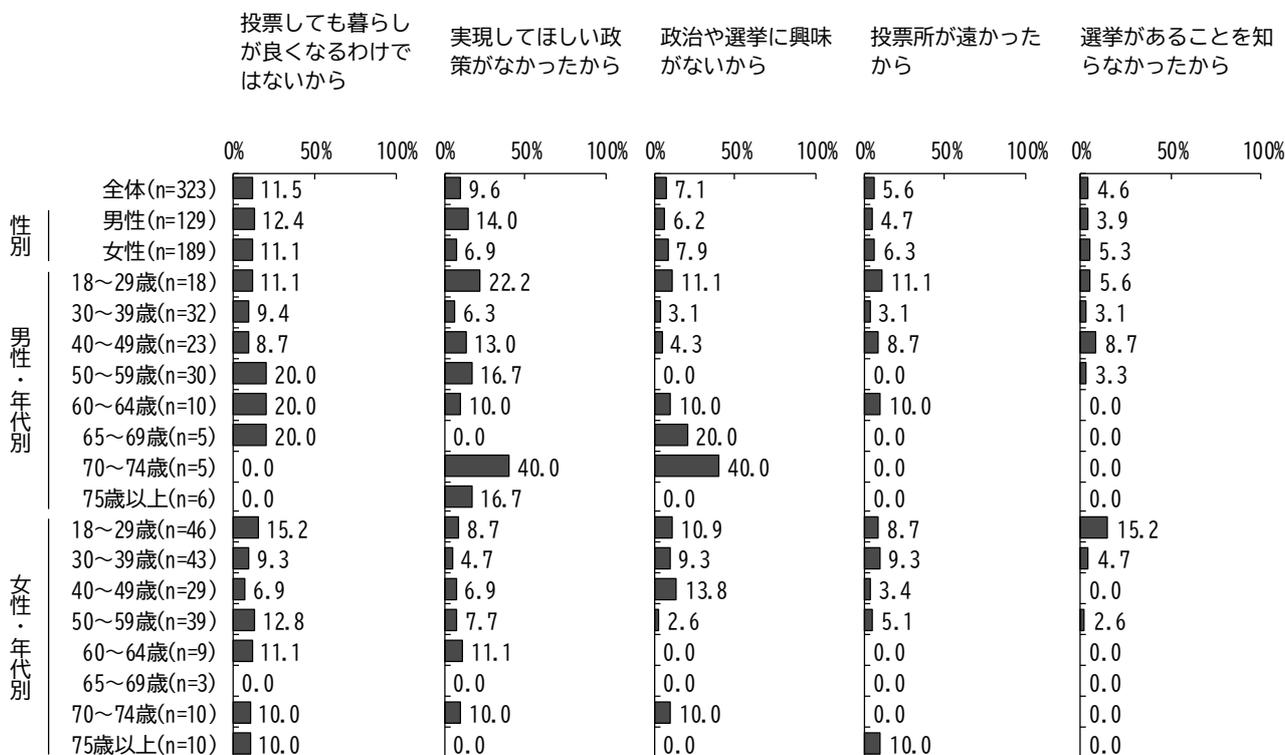
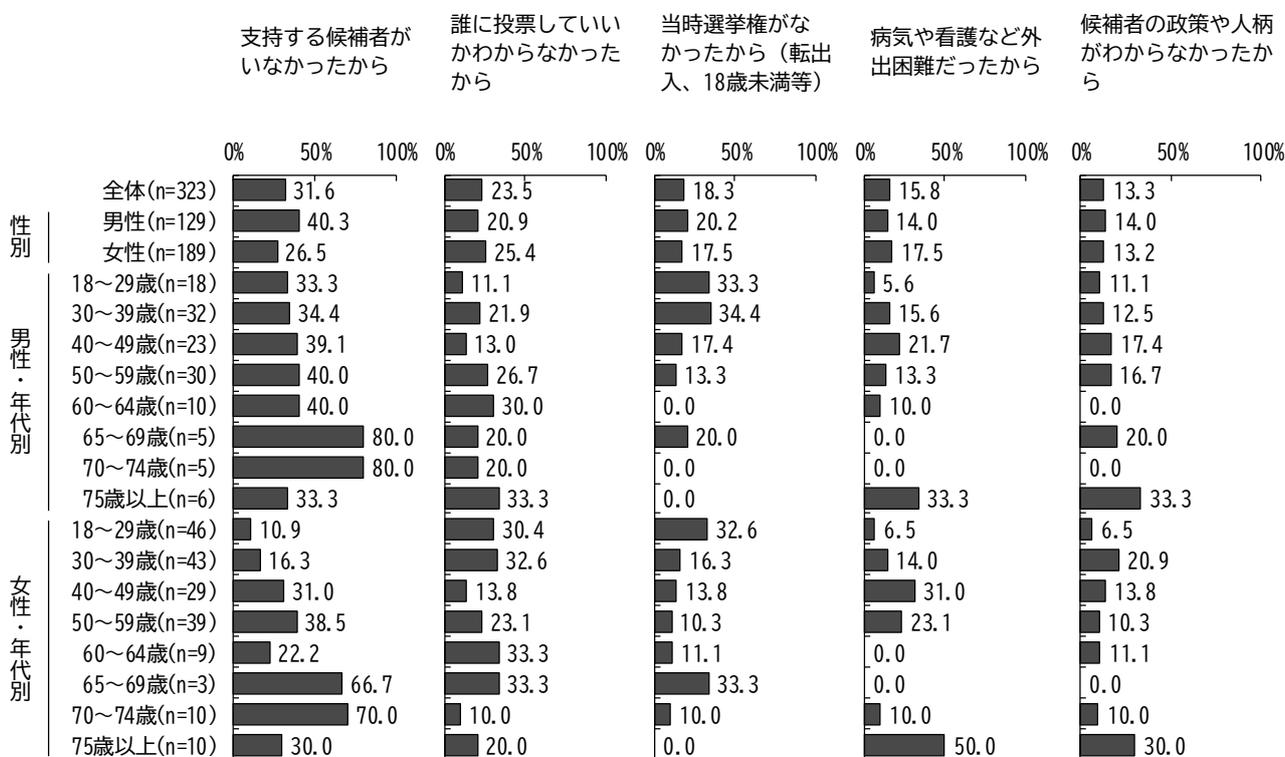
図23-1-5 都議選および参院選に投票しなかった理由



都議選および参院選のどちらか、あるいはどちらも投票しなかった人に、投票しなかった理由を聞いたところ、「支持する候補者がいなかったから」(31.6%)が3割強と最も高く、次いで「誰に投票していいかわからなかったから」(23.5%)が2割台半ば近くと高くなっている。(図23-1-5)

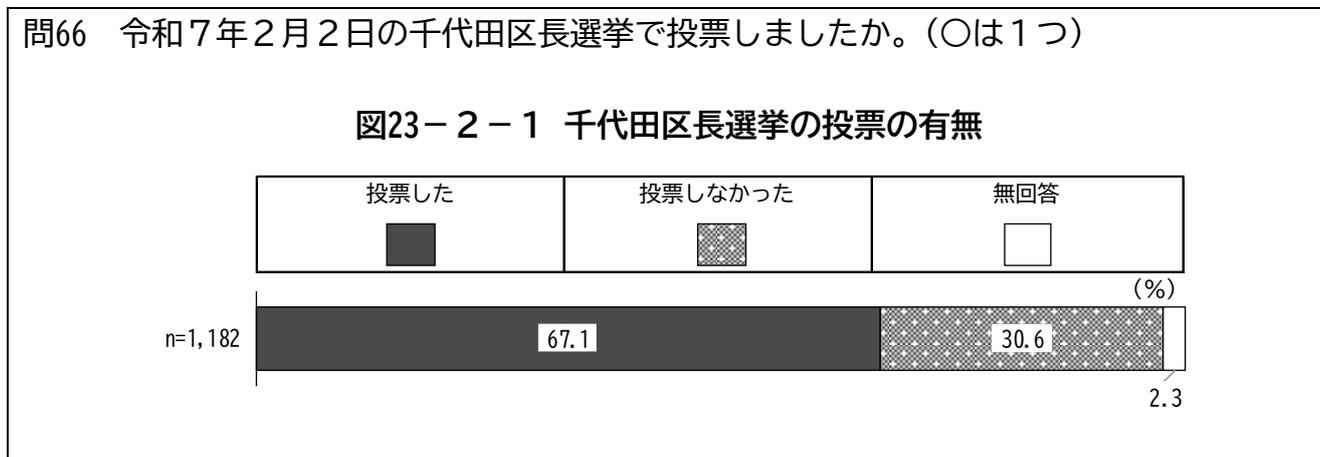
性・年代別にみると、「支持する候補者がいなかったから」は男性65～69歳(80.0%)と男性70～74歳(80.0%)が8割と最も高くなっている。(図23-1-6)

図23-1-6 都議選および参院選に投票しなかった理由(性・年代別)



(2) 千代田区長選挙の投票の有無

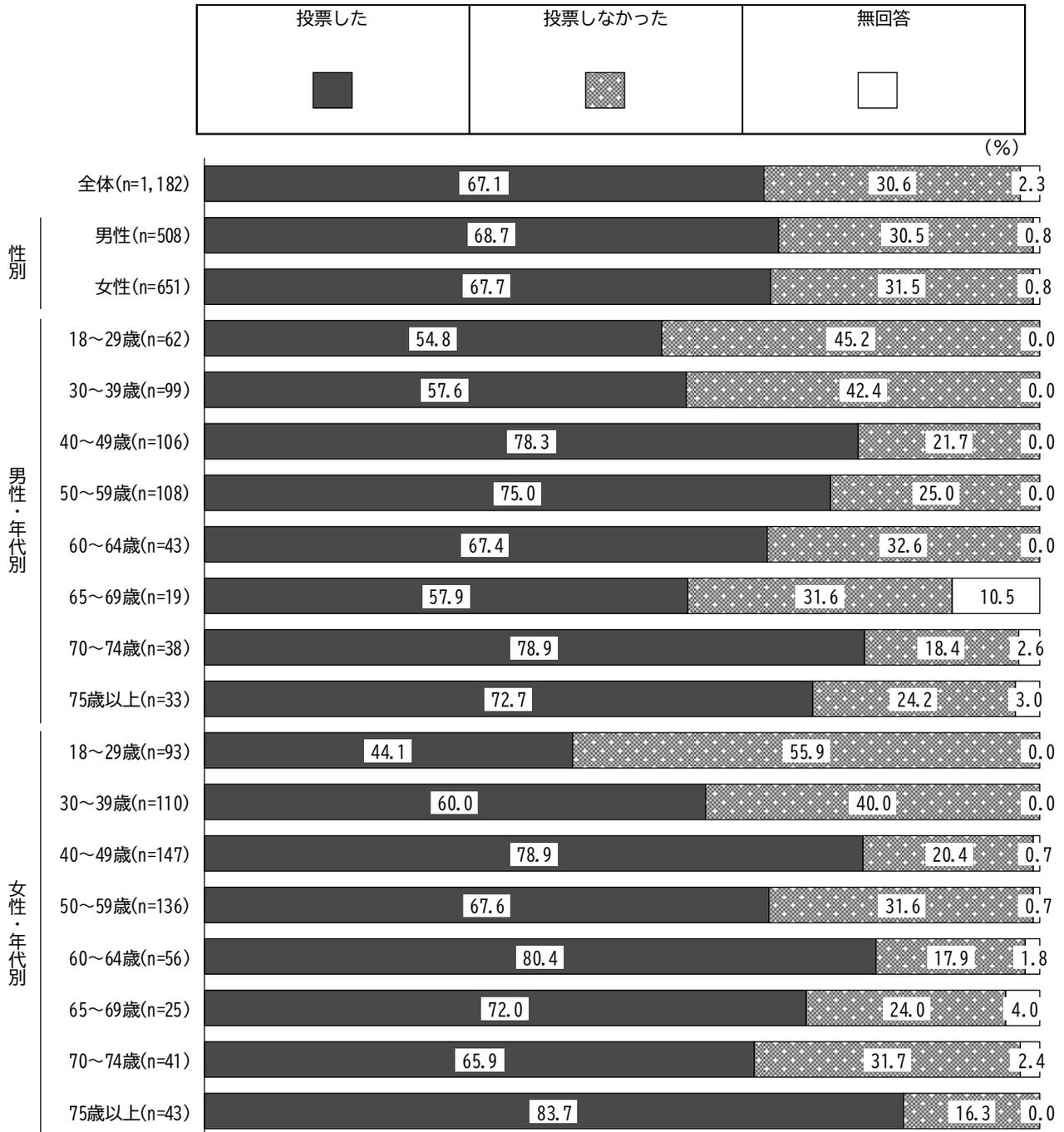
◇「投票した」が6割台半ば超え



令和7年2月2日の千代田区長選挙の投票の有無を聞いたところ、「投票した」(67.1%)が6割台半ば超え、一方で、「投票しなかった」(30.6%)が約3割であった。(図23-2-1)

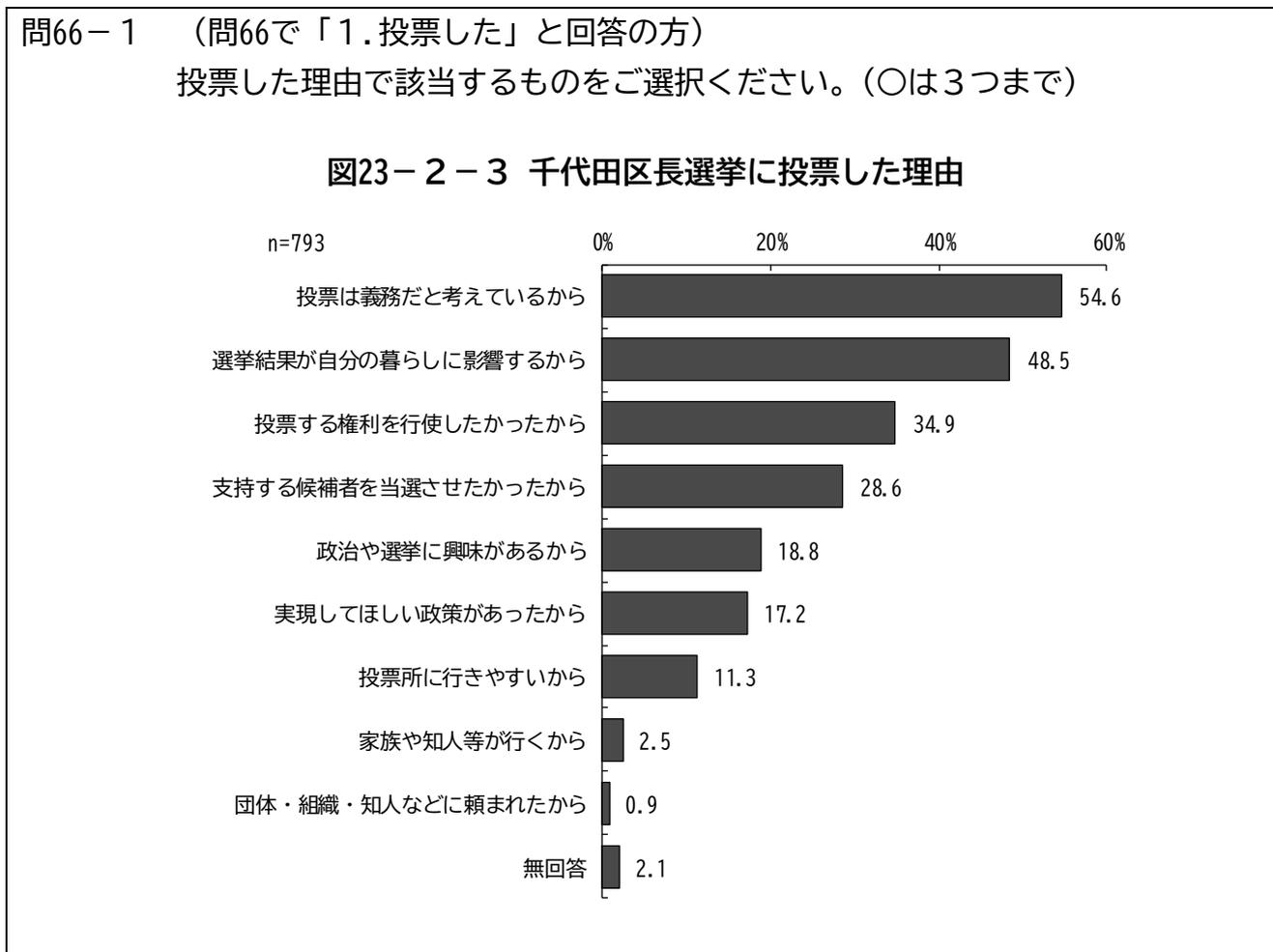
性・年代別にみると、「投票した」は女性75歳以上(83.7%)が8割台半ば近くと最も高くなっている。「投票しなかった」は女性18～29歳(55.9%)が5割台半ばと最も高くなっている。(図23-2-2)

図23-2-2 千代田区長選挙の投票の有無(性・年代別)



(2-1) 千代田区長選挙に投票した理由

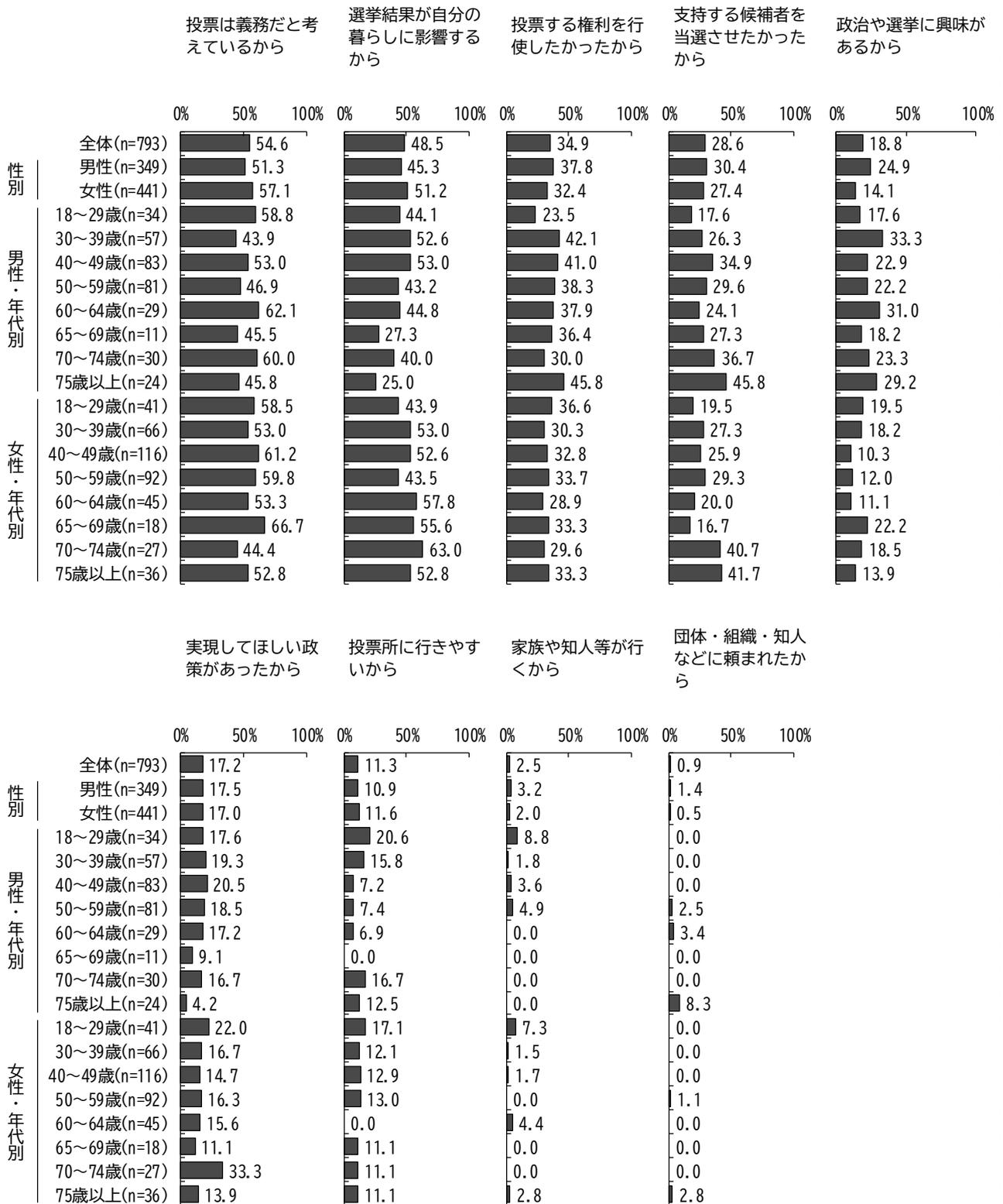
◇「投票は義務だと考えているから」が5割台半ば近く



令和7年2月2日の千代田区長選挙に投票した理由について聞いたところ、「投票は義務だと考えているから」(54.6%)が5割台半ば近くと最も高く、次いで「選挙結果が自分の暮らしに影響するから」(48.5%)が5割近く、「投票する権利を行使したかったから」(34.9%)が3割台半ば近くと高くなっている。(図23-2-3)

性・年代別にみると、「投票は義務だと考えているから」は女性65～69歳(66.7%)が6割台半ばを超えと最も高くなっている。「選挙結果が自分の暮らしに影響するから」は女性70～74歳(63.0%)が6割台半ば近くと最も高くなっている。(図23-2-4)

図23-2-4 千代田区長選挙に投票した理由(性・年代別)

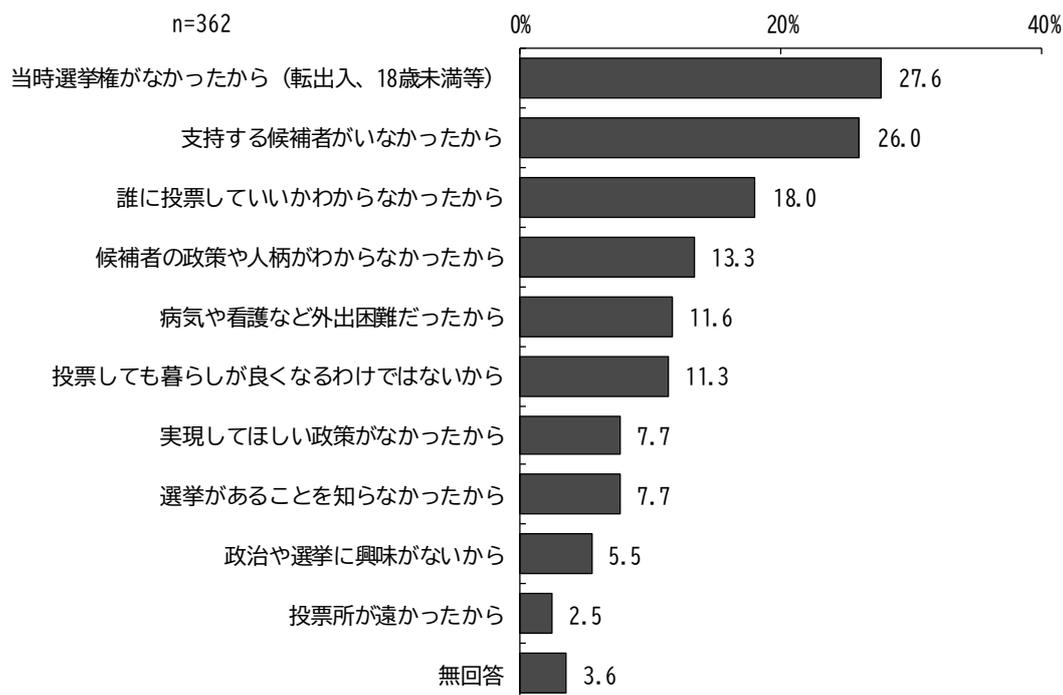


(2-2) 千代田区長選挙に投票しなかった理由

◇「当時選挙権がなかったから」が2割台半ば超え

問66-2 (問66で「2. 投票しなかった」と回答の方)
投票しなかった理由で該当するものをご選択ください。(〇は3つまで)

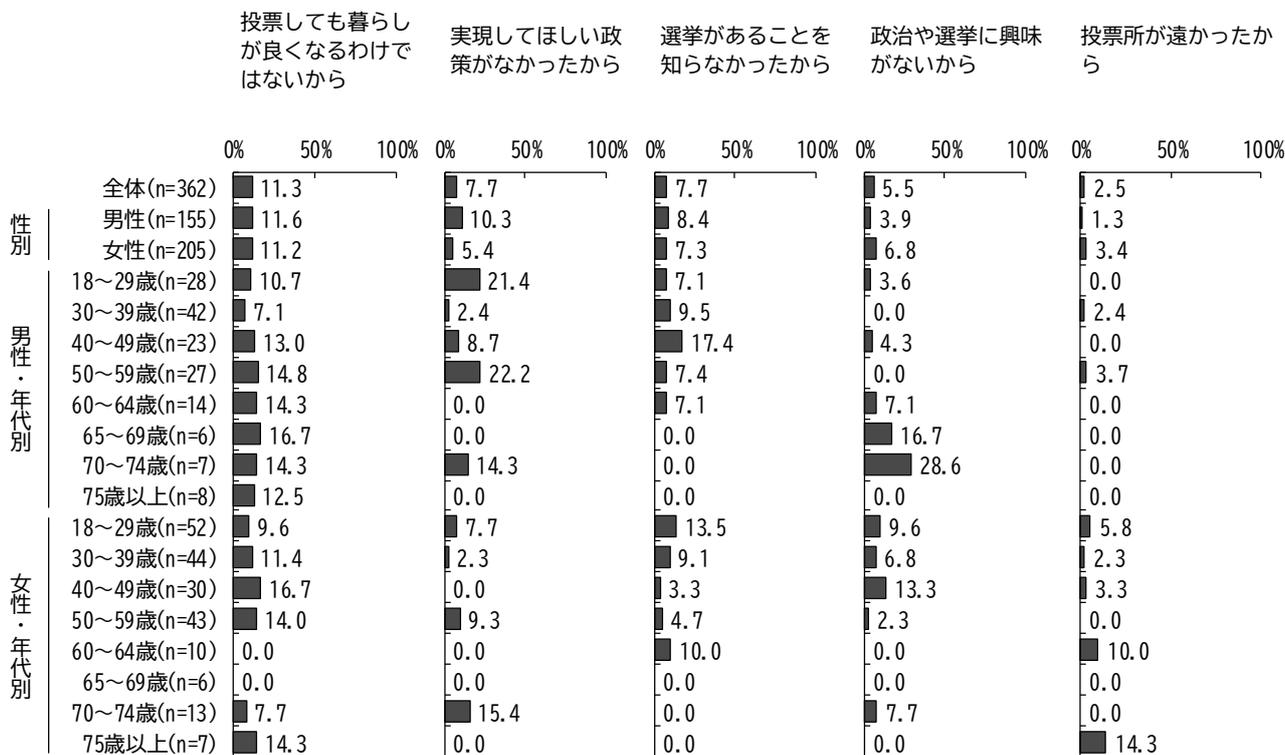
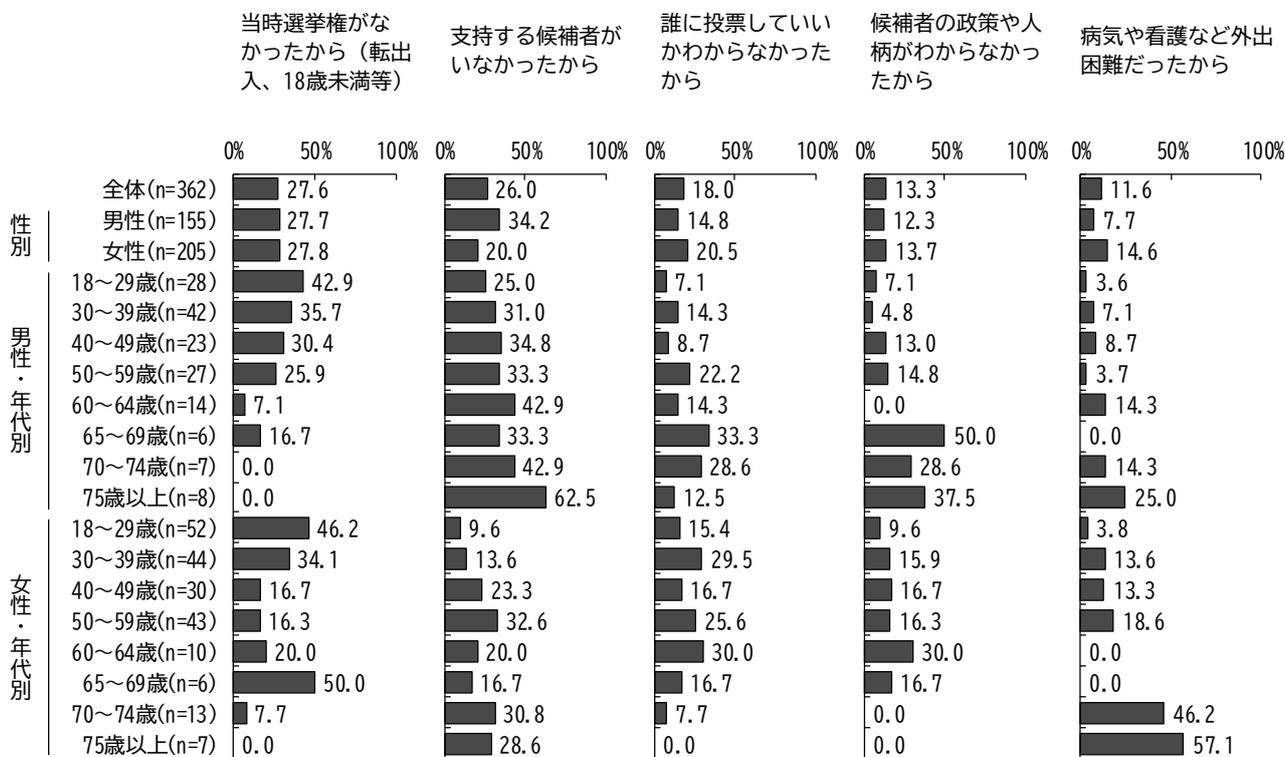
図23-2-5 千代田区長選挙に投票しなかった理由



令和7年2月2日の千代田区長選挙で投票しなかった理由について聞いたところ、「当時選挙権がなかったから (転出入、18歳未満等)」(27.6%)が2割台半ば超えと最も高く、次いで「支持する候補者がいなかったから」(26.0%)が2割台半ば超え、「誰に投票していいかわからなかったから」(18.0%)が2割近くとなっている。(図23-2-5)

性・年代別にみると、「支持する候補者がいなかったから」は男性75歳以上(62.5%)が6割強と最も高くなっている。「病気や看護など外出困難だったから」は女性75歳以上(57.1%)が5割台半ばを超えと最も高くなっている。(図23-2-6)

図23-2-6 千代田区長選挙に投票しなかった理由(性・年代別)

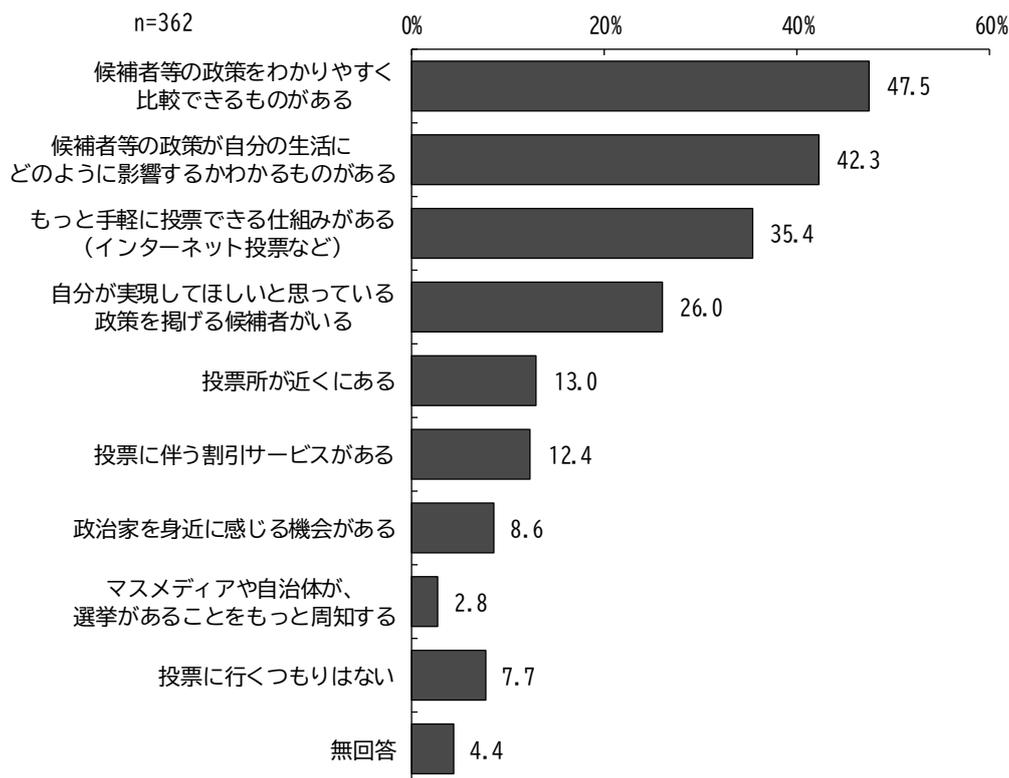


(2-3) 投票に行きたくなる方法について

◇「候補者等の政策をわかりやすく比較できるものがある」が4割台半ば超え

問66-3 (問66で「2. 投票しなかった」と回答の方)
 どのようなものがあると投票に行きたいと思いますか。(〇は3つまで)

図23-2-7 投票に行きたくなる方法



令和7年2月2日の千代田区長選挙で投票しなかった人に、どのようなものがあると投票に行きたいと思うか聞いたところ、「候補者等の政策をわかりやすく比較できるものがある」(47.5%)が4割台半ば超えと最も高く、次いで「候補者等の政策が自分の生活にどのように影響するかわかるものがある」(42.3%)が4割強、「もっと手軽に投票できる仕組みがある(インターネット投票など)」(35.4%)が3割台半ばと高くなっている。

(図23-2-7)

性・年代別にみると、「候補者等の政策をわかりやすく比較できるものがある」は女性65～69歳(83.3%)が8割台半ば近くと最も高くなっている。「候補者等の政策が自分の生活にどのように影響するかわかるものがある」は男性65～69歳(66.7%)が6割台半ば超えと最も高くなっている。(図23-2-8)

図23-2-8 投票に行きたくなる方法(性・年代別)

